

基礎教育科目(外国の言語と文化を含む)

東邦スタンダードⅠA	1
東邦スタンダードⅠB	3
東邦スタンダードⅡA	5
東邦スタンダードⅡB	7
東邦スタンダードⅢA	9
東邦スタンダードⅢB	11
東邦スタンダードⅣA・B	13
〔人間探究〕	
哲学A	15
哲学B	17
文化芸術論A	19
文化芸術論B	21
コミュニケーション論	23
〔社会的視点〕	
日本国憲法と生活A	25
日本国憲法と生活B	27
国際理解と交流A	29
国際理解と交流B	31
社会福祉概論〔老人・児童福祉を含む〕A	33
社会福祉概論〔老人・児童福祉を含む〕B	35
〔自然理解〕	
ひとを読み解く科学A	37
ひとを読み解く科学B	39
現代の心理学〔発達心理を含む〕A	41
現代の心理学〔発達心理を含む〕B	43
コンピュータ演習A	45
コンピュータ演習B	47
ウィーンの社会と文化A	49
ウィーンの社会と文化B	51
スポーツ文化論	53
スポーツ演習a	55
スポーツ演習b	57
ドイツ語1	59
ドイツ語2	61
ドイツ語3	63
ドイツ語4	65
ドイツ語圏異文化コミュニケーション1	67
ドイツ語圏異文化コミュニケーション2	69
ドイツ語圏異文化コミュニケーション3	71
ドイツ語圏異文化コミュニケーション4	73
ドイツ語(演奏家コース)1・3〔3は異文化コミュニケーションを含む〕	75
ドイツ語(演奏家コース)2・4〔4は異文化コミュニケーションを含む〕	77
ドイツ語(演奏家コース)5・7	79
ドイツ語(演奏家コース)6・8	81

英語1	83
英語2	85
英語3	87
英語4	89
英語圏異文化コミュニケーション1	91
英語圏異文化コミュニケーション2	93
英語圏異文化コミュニケーション3	95
英語圏異文化コミュニケーション4	97
イタリア語1	99
イタリア語2	101
イタリア語3	103
イタリア語4	105
イタリア語圏異文化コミュニケーション1	107
イタリア語圏異文化コミュニケーション2	109
イタリア語圏異文化コミュニケーション3	111
イタリア語圏異文化コミュニケーション4	113
音楽専門教育科目・共通専門教育科目	
和声学1-a	115
和声学1-b	117
和声学1-c	119
和声学2-a	121
和声学2-b	123
和声学2-c	125
和声学3-a	127
和声学3-b	129
和声学3-c	131
和声学4-a	133
和声学4-b	135
和声学4-c	137
対位法A	139
対位法B	141
和声学(演奏家コース)1・3	143
和声学(演奏家コース)2・4	145
対位法(演奏家コース)A	147
対位法(演奏家コース)B	149
楽式論A〔作曲法・編曲法を含む〕-a	151
楽式論A〔作曲法・編曲法を含む〕-b	153
楽式論B〔作曲法・編曲法を含む〕-a	155
楽式論B〔作曲法・編曲法を含む〕-b	157
ポピュラーミュージックA〔作曲法・編曲法を含む〕	159
ポピュラーミュージックB〔作曲法・編曲法を含む〕	161
指揮法	163
音楽文化論A	165
音楽文化論B	167
民族音楽学A	169
民族音楽学B	171
日本音楽史概説A	173
日本音楽史概説B	175

音楽の基礎理論A-a	177
音楽の基礎理論A-b	179
音楽の基礎理論B-a	181
音楽の基礎理論B-b	183
音楽の基礎理論(演奏家コース)A	185
音楽の基礎理論(演奏家コース)B	187
音楽史A	189
音楽史B	191
音楽療法概論 a	193
音楽療法概論 b	195
音楽療法的音楽論	197
音楽心理学A	199
音楽心理学B	201
作品研究[鍵盤]A	203
作品研究[鍵盤]B	205
作品研究[管弦楽]A	207
作品研究[管弦楽]B	209
作品研究[オペラ]A	211
作品研究[オペラ]B	213
作品研究[歌曲]A	215
作品研究[歌曲]B	217
作品研究[様式学](演奏家コース) I・II A・B	219
音楽専門教育科目 《学科》	
合唱 I A	220
合唱 I B	222
合唱 II A	224
合唱 II B	226
合唱 III A	228
合唱 III B	230
合唱 IV A	232
合唱 IV B	234
室内楽 I ~IV A・B-a [弦]	236
室内楽 I ~IV A・B-b [フルート]	240
室内楽 I ~IV A・B-c [クラリネット]	244
室内楽 I ~IV A・B-d [木管]	248
室内楽 I ~IV A・B-e [サクソフォン]	252
室内楽 I ~IV A・B-f [トランペット]	256
室内楽 I ~IV A・B-g [ホルン]	260
室内楽 I ~IV A・B-h [トロンボーン]	264
室内楽 I ~IV A・B-i [ユーフォニアム・テューバ]	268
室内楽 I ~IV A・B-j [打楽器]	272
合奏A[和楽器を含む]	276
合奏B[和楽器を含む]	278
オペラ研究 I・II A	280
オペラ研究 I・II B	282
朗読法A(ドイツ語)	284
朗読法B(イタリア語)	286
朗読法(イタリア語)(演奏家コース) I A	288

朗読法(イタリア語)(演奏家コース) I B	290
朗読法(ドイツ語)(演奏家コース) II A	292
朗読法(ドイツ語)(演奏家コース) II B	294
ピアノアンサンブルA	296
ピアノアンサンブルB	298
チェンバロ研究 I A	300
チェンバロ研究 I B	302
チェンバロ研究 II A	304
チェンバロ研究 II B	306
オーケストラ I ~IV A	308
オーケストラ I ~IV B	310
ウインドオーケストラ I ~IV A	312
ウインドオーケストラ I ~IV B	314
総合作曲演習 III A	316
総合作曲演習 III B	318
ソフトウェア演習 I A・B	320
ソフトウェア演習 II A・B	321
ソフトウェア演習 III A・B	322
子供のためのピアノ指導法A	323
子供のためのピアノ指導法B	325
教材伴奏法 I A	327
教材伴奏法 I B	329
教材伴奏法 II A	331
教材伴奏法 II B	333
ピアノ伴奏法 I A	335
ピアノ伴奏法 I B	337
ピアノ伴奏法 II A	339
ピアノ伴奏法 II B	341
音楽療法の理論と技法A	343
音楽療法の理論と技法B	345
音楽療法各論〔児童〕	347
音楽療法各論〔精神科〕	349
音楽療法各論〔高齢者〕	351
ソルフェージュ1-a	353
ソルフェージュ1-b	355
ソルフェージュ1-c	357
ソルフェージュ2-a	359
ソルフェージュ2-b	361
ソルフェージュ2-c	363
ソルフェージュ3-a	365
ソルフェージュ3-b	367
ソルフェージュ3-c	369
ソルフェージュ4-a	371
ソルフェージュ4-b	373
ソルフェージュ4-c	375
キーボードハーモニーA	377
キーボードハーモニーB	379
学内演奏	381

学内作品発表(作曲コース)	382
学内実習発表(音楽療法コース)	383
音楽専門教育科目 《実技》		
声乐1・2	385
声乐3・4	386
声乐5・6	387
声乐7・8	388
ピアノ1・2	389
ピアノ3・4	390
ピアノ5・6	391
ピアノ7・8	392
管弦打楽器1・2〔弦楽器〕	393
管弦打楽器3・4〔弦楽器〕	394
管弦打楽器5・6〔弦楽器〕	395
管弦打楽器7・8〔弦楽器〕	396
管弦打楽器1・2〔木管楽器〕	397
管弦打楽器3・4〔木管楽器〕	398
管弦打楽器5・6〔木管楽器〕	399
管弦打楽器7・8〔木管楽器〕	400
管弦打楽器1・2〔金管楽器〕	401
管弦打楽器3・4〔金管楽器〕	402
管弦打楽器5・6〔金管楽器〕	403
管弦打楽器7・8〔金管楽器〕	404
管弦打楽器1・2〔打楽器〕	405
管弦打楽器3・4〔打楽器〕	406
管弦打楽器5・6〔打楽器〕	407
管弦打楽器7・8〔打楽器〕	408
作曲1・2	409
作曲3・4	410
作曲5・6	411
作曲7・8	412

メディアデザイン演習1・2	413
メディアデザイン演習3・4	414
メディアデザイン演習5・6〔実習を含む〕	415
メディアデザイン演習7・8〔実習を含む〕	416
音楽療法1・2-1	417
音楽療法1・2-2	418
音楽療法3・4-1	419
音楽療法3・4-2	420
音楽療法5・6〔実習を含む〕	421
音楽療法7・8〔実習を含む〕	422
副科ピアノⅠA/B	423
副科ピアノⅡA/B	424
副科ピアノⅢA/B	425
副科ピアノⅣA/B	426
副科声楽ⅠA/B	427
副科声楽ⅡA/B	428
副科管弦打楽器ⅠA/B〔弦楽器〕	429
副科管弦打楽器ⅡA/B〔弦楽器〕	430
副科管弦打楽器ⅢA/B〔弦楽器〕	431
副科管弦打楽器ⅣA/B〔弦楽器〕	432
副科管弦打楽器Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・ⅣA/B〔木管楽器〕	433
副科管弦打楽器Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・ⅣA/B〔金管楽器〕	434
音楽療法に関する科目	
障害学A	435
障害学B	437
臨床心理学ⅠA	439
臨床心理学ⅠB	441
臨床心理学Ⅱ	443
人間と医療ⅠA	445
人間と医療ⅠB	447
人間と医療ⅡA	449
人間と医療ⅡB	451
総合教育科目	
ウィーンアカデミー	453
ヒューマンコミュニケーション1~4	454
インターンシップⅠ	455
インターンシップⅡ	457
地域創造A	459
地域創造B	460
文化教養科目	
コンピュータミュージック演習ⅠA	461
コンピュータミュージック演習ⅠB	463
コンピュータミュージック演習ⅡA	465
コンピュータミュージック演習ⅡB	467
外国人留学生に関する科目	
日本事情ⅠA	469
日本事情ⅠB	471
日本事情ⅡA	473

日本事情ⅡB	475
日本事情ⅢA	477
日本事情ⅢB	479
日本事情ⅣA	481
日本事情ⅣB	483
日本語1	485
日本語2	487
日本語3	489
日本語4	491
日本語5	493
日本語6	495
日本語7	497
日本語8	499
教職に関する専門科目	
教職入門	501
教育学概説	503
教育心理学	505
教育方法	507
教育相談・進路指導	509
音楽科教材研究A	511
音楽科教材研究B	513
教育行政	515
音楽科教育法A	517
音楽科教育法B	519
道徳教育の研究	521
特別活動の研究	523
生徒指導の研究	525
教育総合科目(教職特設コース)Ⅰ・ⅡA	527
教育総合科目(教職特設コース)Ⅰ・ⅡB	529
教職実践演習(中・高)	531
教育実習指導	533
教育実習	535
インターンシップ(教職特設コース)Ⅰ・Ⅱ(前)	536
インターンシップ(教職特設コース)Ⅰ・Ⅱ(後)	538
楽器の特性と機能(教職特設コース)	540
教職特講(教職特設コース)Ⅰ・Ⅱ	542

科目名(クラス)	東邦スタンダード I A-a・b	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	浦川 玲子 武藤 直美	履修対象・条件	全専攻必修				

【授業の「概要」と「目的」】

学生生活の過ごし方やスタディスキルを中心に展開する。学生生活、大学での学びの楽しさを知り、知的探求の面白さに気付くこと、自分の立ち位置を認識し、先生や友人を始めとする、周囲の人々と円滑なコミュニケーションがとれるようになることを目指す。

【授業の「方法」と「形式」】

講義、個人及びグループでのワーク、グループ討議と発表

【履修時の「留意点」と「心得」】

遅刻・欠席をしないこと。学生が主体的、能動的に取り組むことにより、共に作り上げていく授業です。一人一人が積極的に授業に貢献しようと心がけること。

教科書	授業時にテキストを配布する	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

ポートフォリオ、平常点(授業への積極的な取り組み)を総合して評価する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	学生生活における危機管理 ・非常時に対する備え ・防災心得	・学生生活において必要な危機管理の意識を持つことができる。 ・非常時における避難方法を理解できる。	学生サポートハンドブックの関連項目に目を通す。
第2回	オリエンテーション ・東邦スタンダードとは ・前期目標設定(ポートフォリオ、目標設定シート記入)	・東邦スタンダードの授業の目的と学習法を理解する ・前期目標を設定し、計画的な学生生活の過ごし方を考える	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める
第3回	年金講座 ・国民年金について	日本国内に住む20歳以上60歳未満の全ての人が国民年金に加入し、保険料を納めることを理解する。「学生納付特例制度」等について理解する	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	防犯講話 ・学生生活における防犯上の諸注意 ・大麻(薬物)の危険性と犯罪について(川越警察署生活安全課の講師による講演)	・学生生活を安全に送るための防犯上の心構えを得る ・大麻(薬物)の危険性について理解する	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める
第5回	消費生活講座 ・ネットトラブル、架空請求等の悪徳商法の被害を防ぐために(埼玉県消費生活支援センター・消費生活コンサルタントによる講演)	・さまざまな悪徳商法の実例を知り、その被害にあわないための心構えを得る	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める
第6回	川越市文化講座 ・川越市にまつわる歴史と、今に伝わる文化について(川越市役所観光課の講師による講演)	・東邦音楽大学が立地する川越市の歴史と文化について知る ・川越市における、地域ごとの特徴について知識を深める	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める
第7回	高校生から大学生へ ・大学生の学び方 ・聴く態度 ・グループ討議入門	・高校生と大学生の学び方の違いを認識する ・グループ討議の進め方を知る	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。日々の学生生活での実践に務める
第8回	大学生としてのマナー ・学生生活の基本 ・コミュニケーション力	・学生生活を送る上でのマナーを知る ・コミュニケーション力の大切さを知る	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。日々の学生生活での実践に務める
第9回	授業の受け方 ・受講態度について ・ノートテイクの基本 ・新聞の読み方 ・情報収集の仕方	・基本的な受講態度を再確認する ・ノートの取り方を知る ・新聞の種類、特徴を知る ・新聞を読み、気になる記事を共有する	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。日々の学生生活での実践に務める。新聞に目を通す習慣を身に付ける
第10回	情報検索 ・図書館の活用方法 ・資料検索の方法 ・ネット検索の仕方	・図書館の活用方法を知る ・様々な資料検索方法を知る ・インターネット検索方法と利用上のルールについて知る	検索方法を習得し、日々の勉強に役立てるように務める
第11回	レポートの書き方 ・レポート提出の流れ ・レポートを書	・レポート提出の流れや要求条件を知る ・レポートの書式や論文構成について理解する	情報検索を活用してリサーチを行い、論文構成を考えてレポートを仕上げる
第12回	音楽人としての歩み(担任、副担任のキャリアパスの紹介(A/B合同授業))	・担任、副担任のキャリアパスや体験談を聴く ・音楽に関わる多様な仕事についてイメージを深める	予習:担任、副担任への質問を考慮しておく 復習:印象に残ったこと、気づいたことをまとめる
第13回	音楽的職業ナビ ・オーケストラの仕事(オーケストラ団員経験を持つ講師によるパネルディスカッション)	・オーケストラ団員の仕事についての体験談を聴く ・音楽に関わる多様な仕事についてイメージを深める	予習:講師への質問を考慮しておく 復習:パネルディスカッションで印象に残ったこと、気づいたことをまとめる
第14回	コミュニケーションの基本 ・コミュニケーションの重要性 ・アサーション ・質問力	・コミュニケーションの重要性を感じ取る。 ・アサーションについて知る ・質問力を高める	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。日々の学生生活での実践に務める
第15回	振り返り(テスト) ・ポートフォリオ作成 ・夏休みの計画	・期初の目標の振り返り、半期の成長の可視化(ポートフォリオ作成) ・夏休みの計画をたてる	予習:半期の学生生活、レッスンや授業を振り返り、活動の記録や気づいたことをまとめる

科目名(クラス)	東邦スタンダードIB-a・b	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	浦川 玲子 武藤 直美	履修対象・条件	全専攻必修				

【授業の「概要」と「目的」】

学生生活の過ごし方やスタディスキルを中心に展開します。学生生活、大学での学びの楽しさを知り、知的探求の面白さに気付くこと、自分の立ち位置を認識し、先生や友人を始めとする、周囲の人々と円滑なコミュニケーションがとれるようになることを目指します

【授業の「方法」と「形式」】

講義、個人及びグループでのワーク、グループ討議と発表

【履修時の「留意点」と「心得」】

遅刻・欠席をしないこと。学生が主体的、能動的に取り組むことにより、共に作り上げていく授業です。一人一人が積極的に授業に貢献しようと心がけること。

教科書	授業時にテキストを配布する	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

(380文字以内)

ポートフォリオ、平常点(授業への積極的な取り組み)を総合して評価する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	振り返りと目標設定 ・夏休みの振り返り ・後期目標設定(ポートフォリオ記入)	前期及び夏休みの振り返りを行う ・後期目標設定(ポートフォリオ記入)を行う	夏休みを振り返り、活動の記録や気づいたことをまとめる
第2回	OB/OG講演会 ・本学卒業生による講演会	・本学卒業生の社会での活躍について聴く ・将来社会人として活動していくために、学生時代に出来ることや必要なことを考える	予習: 講師への質問を考えておく 復習: 講演会で印象に残ったこと、気づいたことをまとめる
第3回	年金講座 ・国民年金について	日本国内に住む20歳以上60歳未満の全ての人が国民年金に加入し、保険料を納めることを理解する。「学生納付特例制度」等について理解する	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	大学生のための租税講座 ・暮らしの中の税とその種類について ・納税の義務、国民経済と財政について	税の基本的な知識を得、社会の中で税が担う役割や仕組みについて理解する。少子・高齢化社会において、税の意義や役割を認識、理解する。	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める
第5回	タイムマネジメント ・計画・進捗管理 ・PDCAサイクル	・有意義な時間の過ごし方について考える ・計画、進捗管理、PDCAサイクルについて知る	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。日々の学生生活での実践に務める
第6回	グループディスカッション① ・グループディスカッションの進め方	・グループディスカッションとは何かを学ぶ ・グループディスカッションの話し方、聴き方を学ぶ	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。日々の学生生活での実践に務める
第7回	グループディスカッション② ・ディスカッションワーク	・「話し方」「聴き方」に注意して、グループディスカッションを実践する	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。日々の学生生活での実践に務める
第8回	伝える書き方① ・文章表現の基本	・話し言葉と書き言葉の区別、句読点の打ち方や文体の統一を確認する ・言語能力と言語センスを高めるよう心掛ける	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。日々の学生生活での実践に務める
第9回	伝える書き方② ・文章表現(作文ワーク)	・誤りやすい漢字、表記・表現に気を付ける ・作文ワークを通して、正しい文章表現を理解する	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。日々の学生生活での実践に務める
第10回	質問力を身に着けよう ・良い質問とは(インタビューワーク)	・正しい敬語の使い方を理解する ・良い質問のしかたについて、インタビューワークを通して知る	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。日々の学生生活での実践に務める
第11回	留学経験者の体験談を聴く ・留学を経験した本学卒業生の体験談を聴く	・留学に至るまでの道筋、留学経験がどのように生かされているかを知り、将来のひとつの選択肢として考えることができる	予習: 講師への質問を考えておく 復習: 印象に残ったこと、気づいたことをまとめる
第12回	プレゼンテーション基礎 ・プレゼンテーションの基礎知識 ・プレゼンテーションワーク ・グループワーク	・プレゼンテーションの流れを知る ・印象の良い伝え方を理解する ・伝える目的・条件・内容を整理し、プレゼンテーションを準備する ・聴き手に伝わる「伝え方」とは何かを考える	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。日々の学生生活での実践に務める
第13回	学年末発表(準備) ・一年間の学びの振り返り ・各自の成果発表	・これまでの学びを振り返る ・わかりやすく伝えるシナリオを考える	発表原稿を仕上げ、プレゼンテーションの練習を十分に行う
第14回	学年末発表(発表) ・一年間の学びの振り返り ・各自の成果発表	・これまでの学びを振り返る ・わかりやすく伝えるシナリオを考える	自分の発表についての反省やクラスメイトの発表を聞いて、印章に残ったことを記録しておく
第15回	振り返り(テスト) ・ポートフォリオ作成	期初の目標の振り返り、半期の成長の可視化(ポートフォリオ作成)	予習: 半期の学生生活、レッスンや授業を振り返り、活動の記録や気づいたことをまとめる ・レポート課題を仕上げる

科目名(クラス)	東邦スタンダードⅡA a・b	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	平田紀子 岩間丈正 中島裕紀	履修対象・条件	全専攻必修				

【授業の「概要」と「目的」】

1年次に学んだ東邦スタンダードⅠの内容を基礎にして、音楽大学で学ぶということについて真剣に考えながら、コミュニケーションスキルの向上を目指す。また、7回の外部講師によるキャリアデザインの内容を含み、多角的なワークを行いながら、将来への取り組みについて、具体的なイメージ作りを学んでいく。東邦音楽大学の学生として、誇りを持ち、各自の専門分野のスキルアップはもちろんのこと、社会の一員である自覚を持ちながら、毎日の学生生活を充実させるための基礎を学ぶ授業である。

【授業の「方法」と「形式」】

授業は、講義形式で、ワークを併いながら行う。

【履修時の「留意点」と「心得」】

授業は、毎回テーマに沿って進められ、それらは必ず役に立つものであるため、欠席遅刻をしないことは当然のことであるが、毎回の授業で何かひとつは学び取ろうという積極的な姿勢で取り組むことが肝要である。何事も、取り組む気持ち次第で自分に生かすことができるのだという気持ちを忘れずに、しっかりと取り組むこと。

教科書	授業時に大学作成のテキストを配布。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業開始時、及び最終回に記入するポートフォリオ30%、 Semester終了時に課すレポート40%、毎回の授業への取り組み30%の基準に従い、総合的に評価をする。

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第1回	学生生活における危機管理 ・非常時に対する備え ・防災心得	・学生生活において必要な危機管理の意識を持つことができる。 ・非常時における避難方法を理解できる。	学生サポートハンドブックの関連事項に目を通す。
第2回	東邦スタンダードとは ・前期目標設定(ポートフォリオ、目標設定シート記入)	授業の目的を理解し、これから学習する計画についてイメージをすることができる。	この授業の目的を確認する。
第3回	選挙について 川越市講師による講演	選挙権を持つ意味、選挙の意義、政治への関心を持つことなどを講義から具体的にイメージできる。	講義前は、政治や選挙に関する新聞記事を読んで、政治への関心を高め、講義後は、具体的に整理をする。

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第4回	伝える力1 ・話し方チェック PREP法 YES・BUT法	円滑なコミュニケーションを図る話し方、相手に伝わりやすい話し方について理解することができる。	授業で学んだ内容を日常生活の中で実際に応用して実践する。
第5回	キャリアとは ※第5回～第11回は、外部講師・ベネッセによるキャリアデザイン講義	キャリアデザインの基本的な考え方を理解し、働く意義を考慮することができる。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第6回	社会を知る①	現代社会の仕組みについて理解することができる。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第7回	社会を知る②	現代社会の仕組みについて理解することができる。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第8回	働く環境を理解する ・理想の働き方を考える	働き方の種類、労働関連法規、大企業と中小企業の違いについて理解することができる。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第9回	社会で求められる力① ・国語編	就職活動に必要な一般教養の学び方を演習を通して理解し、その力を高めることができる。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第10回	社会で求められる力② ・数的処理編	就職活動に必要な一般教養の学び方を演習を通して理解し、その力を高めることができる。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第11回	社会で求められる力③ ・一般社会編	就職活動に必要な一般教養の学び方を演習を通して理解し、その力を高めることができる。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第12回	伝える力2 ・雑談力を高める	コミュニケーションをより円滑にするための「雑談」というスキルを実践ワークを通じて高めることができる。	学習の内容を日常生活に生かし実践する。
第13回	OB・OG講演会	本学卒業生の講演会を聴くことにより、自分の将来のビジョンのイメージに役立たせることができる。	講演会の内容を復習し、自分の将来像との共通点、相違点、疑問点などをまとめてみる。
第14回	グループ討議と発表 ・コミュニケーション力を高める	グループ討議の方法を学び、グループ内のコミュニケーションをとりながら考えを集約することができる。	ひとつのテーマに沿って意見を交わし、討議する機会を作り学習した内容を更に実践に生かす。
第15回	まとめ ・ポートフォリオ作成	前期を振り返り、適切な文章で表現することができる。	本授業のみならず、各自のレッスンや授業への取り組みについて、具体的に振り返る。

科目名(クラス)	東邦スタンダードⅡB a・b	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	平田紀子 岩間丈正 中島裕紀	履修対象・条件	全専攻必修				

【授業の「概要」と「目的」】

東邦スタンダードⅡAに引き続き、音楽大学で学ぶということについて真剣に考えながら、コミュニケーションスキルの向上を目指す。また、8回の外部講師によるキャリアデザインの内容を含み、多角的なワークを行いながら、将来への取り組みについて、具体的なイメージ作りを学んでいく。東邦音楽大学の学生として、誇りを持ち、各自の専門分野のスキルアップはもちろんのこと、社会の一員である自覚を持ちながら、毎日の学生生活を充実させるための基礎を学ぶ授業である。

【授業の「方法」と「形式」】

授業は、講義形式で、ワークを伴いながら行う。

【履修時の「留意点」と「心得」】

授業は、毎回テーマに沿って進められ、それらは必ず役に立つものであるため、欠席遅刻をしないことは当然のことであるが、毎回の授業で何かひとつは学び取ろうという積極的な姿勢で取り組むことが肝要である。何事も、取り組む気持ち次第で自分に生かすことができるのだという気持ちを忘れずに、しっかりと取り組むこと。

教科書	授業時に大学作成のテキストを配布。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業開始時、及び最終回に記入するポートフォリオ30%、 Semester終了時に課すレポート40%、毎回の授業への取り組み30%の基準に従い、総合的に評価をする。

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第1回	後期目標設定 ・前期の振り返りと後期の目標を設定する。	前期の学習状況を振り返り、後期の学習をよりよいものにするための目標設定ができる	自らの行動記録を記し、後期の計画を明確にする。
第2回	OB・OG講演会	本学卒業生の講演会を聴くことにより、自分の将来のビジョンのイメージに役立たせることができる。	講演会の内容を復習し、自分の将来像との共通点、相違点、疑問点などをまとめてみる。
第3回	世の中の仕事を知る① ※第3回～第10回は、外部講師・ベネッセによるキャリアデザイン講義	社会への理解ができる。業種・職種の理解ができる。	講義内容を復習しテキストを整理する。

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第4回	世の中の仕事を知る②	視野を広げて仕事を考えることができる。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第5回	自分を知る①	自分を客観視することができる。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第6回	自分を知る②	自分の長所・短所を考えることができる。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第7回	将来について考える	自分の強みを生かす視点で、将来について考えることができる。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第8回	夢を叶えるための目標設定 ・ライフプランシートの作成	ライフプランシートを作成することにより、現在の学生生活の充実度を考えることができる。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第9回	ライフプラン実行に向けて ・PDCAサイクル	目標達成への考え方を捉え、自分と社会を照らし合わせて考えることができる。PDCAサイクルの考え方を習得することができる。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第10回	まとめ ・キャリアについてのまとめ	第3回から第9回までの授業で学習したことを振り返り、それらを用いた考え方をすることができる。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第11回	留学経験者の体験談を聴く ・留学を経験した本学卒業生の体験談を聴く	・留学に至るまでの道筋、留学経験がどのように生かされているかを知り、将来のひとつの選択肢として考えることができる。	体験談で聴いた内容を各自まとめて、自分の将来と照らし合わせる。
第12回	音楽と仕事 ・音楽を仕事にするには	音楽を仕事とするためにすべきことや必要なことを知り、学生生活をどのように送ったらよいか考えることができる。	音楽とどのように関わっていくか自分の将来像を図式化する。
第13回	ウィーン研修について ・研修の概要、ウィーンの文化と音楽	ウィーン研修の概要、ウィーンの世界史を学び、3年次のウィーン研修に対する必要な準備をイメージすることができる。	ウィーンの世界史や文化について学習したことを整理する。
第14回	3年生のウィーン研修発表会 ・発表会を聴く	3年生が実際に経験したこと聴き、自分の研修のイメージを具体化することができる。	ウィーン研修でどのようなことを学習したか、どのような留意点があるのかまとめる。
第15回	まとめ ・ポートフォリオ作成	後期を振り返り、適切な文章で表現することができる。	本授業のみならず、各自のレッスンや授業への取り組みについて、具体的に振り返る。

科目名(クラス)	東邦スタンダードⅢA-a・b	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	3
担当教員	春日洋子/澤敦 /山崎明美	履修対象・条件	全専攻必修(但し、演奏家コース、教職特設コースを除く)				

【授業の「概要」と「目的」】

大学での学びをより深化させ、自らの音楽の学びを社会の中で生かしていくための方法論を幅広く扱う。「社会人基礎力」獲得を目標に、物事の多角的な見方、考え方、問題解決の手法などを実践する。

【授業の「方法」と「形式」】

講義、個人及びグループでのワーク、グループ討議と発表

【履修時の「留意点」と「心得」】

多くの回が前後の講義との関連を持って展開される。遅刻・欠席をしないこと。学生が主体的、能動的に取り組むことにより、はじめて有益なものとなる授業内容である。一人一人が積極的に授業に貢献しようと心がけること。

教科書	授業中にテキストを配布する。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業開始時、及び最終回に記入するポートフォリオ30%、 Semester終了時に課すレポート40%、毎回の授業への取り組み30%の基準に従い、総合的に評価をする。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	学生生活における危機管理 ・非常時に対する備え ・防災心得	・学生生活において必要な危機管理の意識を持つことができる。 ・非常時における避難方法を理解できる。	学生サポートハンドブックの関連項目に目を通す。
第2回	東邦スタンダードとは ・前期目標設定(ポートフォリオ、目標設定シート記入)	・東邦スタンダードの授業の目的と学習法を理解できる。 ・前期目標を設定し、計画的な学生生活の過ごし方を考えることができる。	復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。
第3回	選挙について 川越市講師による講演	選挙権を持つ意味、選挙の意義、政治への関心を持つことなどを講義から具体的にイメージできる。	講義前は、政治や選挙に関する新聞記事を読んで、政治への関心を高め、講義後は、具体的に整理をする。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	ウィーンアカデミー研修に向けて ・引率経験のある教員による講義	・ウィーン研修についてのイメージを持つことができる。 ・ウィーン研修に向けて今出来ることを立案できる。	復習: 講義の内容を振り返り、まとめる。
第5回	社会とは? 仕事とは? ※第5～第11回は、外部講師・ベネッセi-キャリアによるキャリアデザイン講義を行う	・就職活動の流れを理解することができる。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第6回	仕事の情報を探そう ～情報収集について～	・仕事に関する情報ソースを知ることができる。 ・就職サイトの使い方、検索方法について理解できる。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第7回	社会で必要な力 ～コミュニケーション①～	・コミュニケーション術を、理論を通して理解できる。 ・価値観の違いを理解できる。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第8回	社会で必要な力 ～コミュニケーション②～	・相手の話を傾聴し、信頼を得ることができる。 ・アサーティブなコミュニケーションの方法を実践できる。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第9回	社会で必要な力 ～基礎学力①～	・基礎学力(国語・社会)を強化する方法を理解できる。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第10回	社会で必要な力 ～基礎学力②～	・基礎学力(数学)を強化する方法を理解できる。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第11回	自分を知る ～自己分析～	・自己分析シートを作成できる。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第12回	思考力・発想法 ・思考のコツを学ぶ ・さまざまな発想法を知る	・論理力、発想力、判断力などを用いて思考することができる	復習: 講義の内容を振り返り、まとめる。
第13回	音楽的職業ナビ ・オーケストラの仕事 (オーケストラ団員経験を持つ講師によるパネルディスカッション)	・オーケストラ団員の仕事についての体験談を聴くことを通じて、音楽に関わる多様な仕事についてイメージを持つことができる。	予習: 講師への質問を考えておく。 復習: パネルディスカッションで印象に残ったこと、気づいたことをまとめる。
第14回	キャリア支援センターの活用方法 ・キャリア支援センター長による講演	・キャリア支援センターを活用するための知識を得、実践することができる。 ・卒業後の自分をイメージすることができる。	復習: キャリア支援センターを活用する。
第15回	振り返り ・ポートフォリオ作成 ・夏休みの計画	・期初の目標を振り返り、ポートフォリオの作成を通して半期の成長を可視化することができる。 ・夏休みの計画を持つことができる。	予習: 半期の学生生活、レッスンや授業を振り返り、活動の記録や気づいたことをまとめる。

科目名(クラス)	東邦スタンダードⅢB-a・b	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	3
担当教員	春日洋子/澤敦 /山崎明美	履修対象・条件	全専攻必修(但し、演奏家コース、教職特設コースを除く)				

【授業の「概要」と「目的」】

大学での学びをより深化させ、自らの音楽の学びを社会の中で生かしていくための方法論を幅広く扱う。「社会人基礎力」獲得を目標に、物事の多角的な見方、考え方、問題解決の手法などを実践する。

【授業の「方法」と「形式」】

講義、個人及びグループでのワーク、グループ討議と発表

【履修時の「留意点」と「心得」】

多くの回が前後の講義との関連を持って展開される。遅刻・欠席をしないこと。学生が主体的、能動的に取り組むことにより、はじめて有益なものとなる授業内容である。一人一人が積極的に授業に貢献しようと心がけること。

教科書	授業中にテキストを配布する。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業開始時、及び最終回に記入するポートフォリオ30%、 Semester終了時に課すレポート40%、毎回の授業への取り組み30%の基準に従い、総合的に評価をする。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	振り返りと目標設定 ・夏休みの振り返り ・後期目標設定(ポートフォリオ記入)	・前期及び夏休みの振り返りを適切に行うことができる。 ・ポートフォリオの記入を通して後期目標設定を行うことができる。	夏休みを振り返り、活動の記録や気づいたことをまとめる。
第2回	OB/OG講演会 ・本学卒業生による講演会	・本学卒業生の社会での活躍について聴き、将来社会人として活動していくために、学生時代に成すべきことについて考えることができる。	予習: 講師への質問を考えておく。 復習: 講演会で印象に残ったこと、気づいたことをまとめる。
第3回	仕事について調べよう ～業界研究～ ※第3回～第10回は外部講師・ベネッセi-キャリアによるキャリアデザイン講義を行う	・仕事研究、業界研究の手法を身につけることができる。	講義内容を復習しテキストを整理する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	自己PRを作ろう	・自己分析、業界研究をもとに、自己PRを作成する。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第5回	魅力的な応募書類を作成しよう ～履歴書編～	・応募書類の基礎を理解する。 * 前回の自己分析、業界研究、自己PRをもとに履歴書を作成	講義内容を復習しテキストを整理する。
第6回	魅力的な応募書類を作成しよう ～エントリーシート編～	・エントリーシートの例を映写しながら、パターンを知る ・短い文章で相手に伝わる「伝わる文章の書き方」	講義内容を復習しテキストを整理する。
第7回	面接シミュレーション ～グループディスカッション対策編～	・グループディスカッションにおける企業側の評価視点を理解できる。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第8回	面接シミュレーション ～グループディスカッション応用編～	・グループディスカッションにおける企業側の評価視点を理解する。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第9回	面接シミュレーション ～面接対策編～	・面接の基本(評価視点、面接の種類など)について理解できる。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第10回	面接シミュレーション ～面接応用編～	・模擬面接体験を通じ、学生側の視点と面接官側の視点を理解できる。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第11回	留学経験者の体験談を聴く ・留学を経験した本学卒業生の体験談を聴く	・留学に至るまでの道筋、留学経験がどのように生かされているかを知り、将来のひとつの選択肢として考えることができる。	体験談で聴いた内容を各自がまとめ、自分の将来を考える。
第12回	情報リテラシー ・情報収集における留意点 ・SNS等の利用マナー、文献引用のルールについて	・インターネットにおける情報収集の問題点を理解できる。 ・SNS利用マナー、文献引用のルールを理解できる。	復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解・定着につとめる。
第13回	ウィーン研修の発表準備 ・2年生に対するウィーン研修の発表準備を行う	・ウィーン研修を振り返り、その内容について発表する準備を行う グループ討議、ファシリテーションの手法を実践する	復習: 次回に向けて発表の準備を終える。
第14回	ウィーン研修の発表 ・2年生に対してウィーン研修の発表を行う	・ウィーン研修を振り返り、その内容について発表する準備を行う。 ・プレゼンテーションの手法を実践することができる。	復習: 他のグループによる発表も含めて内容を振り返りまとめる。
第15回	振り返り ・ポートフォリオ作成	・期初の目標を振り返り、ポートフォリオの作成を通して半期の成長を可視化することができる。	予習: 半期の学生生活、レッスンや授業を振り返り、活動の記録や気づいたことをまとめる。 ・レポート課題を仕上げる。

科目名	東邦スタンダードIVa・b
-----	---------------

【授業計画の概要】

大学での学びをより深化させ、自らの音楽の学びを社会の中で生かしていくための方法論を幅広く扱う。「社会人基礎力」獲得を目標に、物事の多角的な見方、考え方、問題解決の手法などを実践する。
また、前期・後期ともに、自分の学んだ専門分野に関わるレポートをまとめ、それをクラス全員に向けて発表することで、東邦スタンダードでこれまでに学んできた「プレゼンテーション能力」を社会で活用できるまでに高めることを目指す。
全体としては、4年間の学びを振り返り、学んだことを卒業後の仕事の中で活かす方法を考え、その技術を身に着けることを目指す。

【授業計画の内容】

月	内容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオへの記入 ・前期末の「プレゼンテーション実習」のためのレポート作成 ・OB/OG講演会 ・音楽を教えることの意義を考える
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の存在意義について考える ・ポートフォリオ作成 ・「プレゼンテーション実習」のためのレポート作成、およびプレゼンテーションの実践 ・レポート作成、ポートフォリオ記入
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオ記入 ・「あがり」をどうコントロールするか、セルフ・コントロールの方法 ・ディベートの体験/論理的な議論のルールとコツを学ぶ
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・4年間の学びを振り返る ・ポートフォリオの作成 ・「プレゼンテーション実習」のためのレポート作成、およびプレゼンテーションの実践 ・レポート作成
2	
3	

【成績評価の方法】

ポートフォリオ、授業への積極的な取り組み、プレゼンテーションのレポート及び実践を総合して評価する。

科目名(クラス)	哲学A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1~4
担当教員	糸原 恒久	履修対象・条件	幸せな人生と求める若人				

【授業の「概要」と「目的」】

我々は何を目的として生きるのでしょうか。どうして世界に我々は存在するのでしょうか。どうして音楽をはじめとする芸術が必要なのでしょうか。無意識にただ生きる人生から目的を持った人生の構築へ。東西の歴史の中から哲学を踏まえた宗教の代表的なものを選び、これらに対する解答あるいはヒントを探りたいと思います。

【授業の「方法」と「形式」】

教科書を中心に教師が解説。

【履修時の「留意点」と「心得」】

とにかくしっかりと教師の言葉を聞き、自らの中に受け入れて欲しいと思います。専門用語も出てきますが、これを理解することによって、自らの心が豊かになります。

教科書	図解宗教史	著者等		出版社	成美堂出版
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

基本的には期末の試験になりますが、授業中への参加度も加味されます。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	授業の目的と各宗教の世界的分布を示します。	世界の三大宗教の勢力範囲を理解する。	教科書の事前読了。
第2回	同上	同上	同上
第3回	キリスト教の分布とその教えを学ぶ。	精神的な癒し、赦しとは何かを理解する。	同上

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	キリスト教の救いの構造を学ぶ。	宗教的説話の意味と目的を学ぶ。	教科書の事前読了。
第5回	同上	同上	同上
第6回	キリスト教の母体としてのユダヤ教の理論を学ぶ。	伝統的宗教の原形とは何であったのかを学ぶ。	同上
第7回	同上	同上	同上
第8回	同上	同上	同上
第9回	イスラム教の教えと民族に視点を置き、救いの基本を学ぶ。	世界を動かすイスラム教の考え方を理解する。	同上
第10回	イスラム教の世界への影響、他の宗教との比較に視点を合わせる。	キリスト教世界との対立に視点を合わせる。	同上
第11回	日本人の考え方、歴史、文化の基礎をなす仏教の考え方とは何かを学ぶ。	日本文化の基本としてのブッダの教えを理解する。	同上
第12回	インドの釈迦の生き方を学ぶ。	我々の生き方の一つのパターンを理解する。	同上
第13回	同上	同上	同上
第14回	東洋(中国)の思想と日本に与えた影響、仏教との対応を理解する。	東洋人の考え方の基本を理解する。	同上
第15回	同上	同上	同上

科目名(クラス)	哲学B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	糸原 恒久	履修対象・条件	幸せな人生と求める若人				

【授業の「概要」と「目的」】

世界の宗教、特に前期で学んだ信頼性のある、哲学をもった諸宗教(キリスト教、イスラム教、仏教など)を再度異なった視点から学んでみる。

【授業の「方法」と「形式」】

教科書を中心に教師が解説。

【履修時の「留意点」と「心得」】

初めて出会う用語、理念、ものの見方について、柔軟に心に向け理解する。

教科書	図解宗教史	著者等		出版社	成美堂出版
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

基本的には期末の試験になりますが、授業への態度も加味されます。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	世界の宗教を概観し、世界史に残したその跡をたどる。	世界史を人の心の進展の歴史として捉え理解する。	教科書の事前読了。
第2回	同上	同上	同上
第3回	キリスト教の精神と世界史への影響	同上	同上

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	キリスト教の精神と世界史への影響	世界史を人の心の進展の歴史として捉え理解する。	教科書の事前読了。
第5回	同上	同上	同上
第6回	イスラム教の精神と世界史への影響について学ぶ。	キリスト教世界との対立点と立場の違いを理解する。	同上
第7回	同上	同上	同上
第8回	コーランの精神とそれを信ずる人々の実態について学ぶ。	イスラム圏の人々、特に女性の地位について学ぶ。	世界情勢の理解を参考書等により試みる。
第9回	同上	同上	同上
第10回	世界三大宗教の将来への影響と、我々の対応について考える。	キリスト教、イスラム教の対立と融合について考える。	同上
第11回	キリスト教、イスラム教と日本の仏教の相違を確認し、日本人の目指す世界平和を考える。	日本の神、仏の概念の特色を比較する。	同上
第12回	同上	同上	同上
第13回	日本仏教、宗派の教えを学ぶ。	具体的な日本の寺院、年中行事に秘められた日本の心に気づいてもらう。	宗派の違いと教えの違いを学んでおく。
第14回	同上	同上	同上
第15回	音楽家としての生きる目標、生きる心の基準について解答を出そう。	自らの心に、世界の全宗教から学ぶべき要目をしっかり捉え、自らの生き方の糧とする。	自らの人生は何のためにあるのか、考えをまとめておく。

科目名(クラス)	文化芸術論A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1~4
担当教員	山下 暁子	履修対象・条件					

【授業の「概要」と「目的」】

・音楽は単独で存在するのではなく、様々なコンテキスト(文脈・脈絡)の中に位置づけられるものです。本科目では、西洋音楽を中心に西洋以外の音楽も取り上げ、具体的な事例を通して、音楽を「文化」としてとらえることを目的としています。
 ・「自分の言葉で表現する」ことは「真に考える」こととなります。前期は、「楽器」と「楽譜」という音楽にとって非常に大きな2つのテーマについて、自分なりに受け止め、言葉で書き表すことで、音楽というものをより広い視野でとらえ、学ぼうとする姿勢を身に付けます。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義形式 ・視聴覚機器等を使用し、なるべく実際の音楽に触れられるようにします。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・受講マナーを守り、欠席、遅刻、早退をしないこと。
 ・授業への積極的な取り組みが高く評価されます。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	参考文献をその都度指示します。	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

・定期試験[レポート課題](50%)、平常点(50%)から総合的に評価します。
 ・平常点は、毎回授業内に行う出席シートへの記述内容、予習や復習等の学習への取り組みから評価します。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	音楽をどうとらえるか	音楽をめぐる様々なコンテキストを理解する。	復習: 音楽をどうとらえることができるかについて、自分なりに考えて説明できるようにする。
第2回	楽器について考える① 楽器の分類(1)	自分たちが普段、楽器をどのよ うに分類しているか考える。	予習: 自分が楽器の何に興味があるのか、考えをまとめておく。 復習: 楽器の分類の問題点について、自分なりに考えて説明できるようにする。
第3回	楽器について考える② 楽器の分類(2)	ザックス=ホルンボステル式の楽器分類法やその他の分類法について理解する。	予習: 楽器の分類の問題点について、自分なりに考えて説明できるようにする。 復習: 授業で学んだ分類法について確認する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	楽器について考える③ 楽器の分類(3)	楽器を、自分独自の方法で分類する。	予習：授業で学んだ分類法について確認する。 復習：自分独自の分類法についてもう一度見直す。
第5回	楽器について考える④ 楽器が示すもの(1)	絵画における楽器の存在から読み取れることや、楽器が象徴するものについて理解する。	復習：楽器が示すものについて、自分なりに説明できるようにする。
第6回	楽器について考える⑤ 楽器が示すもの(2)	絵画における楽器の存在から読み取れることや、楽器が象徴するものについて理解する。	復習：楽器が示すものについて、自分なりに説明できるようにする。
第7回	楽器について考える⑥ ピアノの歴史(1)	楽器の改良や発展の歴史を、ピアノを例に理解する。	予習：ピアノについて知っていること、知りたいことについて考えをまとめておく。 復習：ピアノの歴史について、自分なりに説明できるようにする。
第8回	楽器について考える⑦ ピアノの歴史(2)	楽器の改良や発展の歴史を、ピアノを例に理解する。	予習：前回の内容を復習する。 復習：ピアノの歴史について、自分なりに説明できるようにする。
第9回	楽譜について考える① 五線譜	五線譜の成り立ちについて確認し、それがどのような種類の楽譜なのか理解する。	予習：楽譜について知っていること、知りたいことについて考えをまとめておく。 復習：五線譜について、自分なりに説明できるようにする。
第10回	楽譜について考える② エディションと演奏慣習	エディションによる違いや、演奏慣習のあり方について具体例と共に理解する。	復習：エディションと演奏慣習について、自分なりに説明できるようにする。
第11回	楽譜について考える③ 五線譜以外の楽譜(1)	西洋音楽における五線譜以外の楽譜について理解する。	復習：授業で学んだ楽譜を読むようにする。
第12回	楽譜について考える④ 五線譜以外の楽譜(2)	西洋以外の音楽における楽譜について理解する。	復習：授業で学んだ楽譜を読むようにする。
第13回	楽譜について考える⑤ 楽譜を用いない文化	楽譜を用いない文化での伝承のされ方と、その文化をめぐる楽譜の問題について理解する。	復習：楽譜を用いない文化について、自分なりに考えて説明できるようにする。
第14回	楽譜について考える⑥ 柴田南雄の骸骨図	骸骨図(構造模式図)について理解し、実際に書いてみる。	復習：授業で学んだ骸骨図をもう一度書いてみる。
第15回	まとめ	本科目の目的を、知識の定着と共に確認できる。	予習：これまでの内容を復習する。

科目名(クラス)	文化芸術論B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1~4
担当教員	山下 暁子	履修対象・条件					

【授業の「概要」と「目的」】

・音楽は単独で存在するのではなく、様々なコンテキスト(文脈・脈絡)の中に位置づけられるものです。本科目では、西洋音楽を中心に西洋以外の音楽も取り上げ、具体的な事例を通して、音楽を「文化」としてとらえることを目的としています。
 ・「自分の言葉で表現する」ことは「真に考える」こととなります。後期は主にオペラなどの総合芸術について、自分なりに受け止め、言葉で書き表すこと、発表として伝えることで、音楽というものをより広い視野でとらえ、学ぼうとする姿勢を身に付けます。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義形式 ・視聴覚機器等を使用し、なるべく実際の音楽に触れられるようにします。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・受講マナーを守り、欠席、遅刻、早退をしないこと。
 ・授業への積極的な取り組みが高く評価されます。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	参考文献をその都度指示します。	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

・定期試験[レポート課題①](30%)、ミニレポート課題②とそれに基づいた発表(30%)、平常点(40%)から総合的に評価します。
 ・平常点は、毎回授業内に行う出席カードの記述内容、予習や復習等の学習への取り組みから評価します。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	音楽をどうとらえるか	音楽をめぐる様々なコンテキストを理解する。	復習: 音楽をどうとらえることができるかについて、自分なりに考えて説明できるようにする。
第2回	編曲と引用①	編曲と引用の手法について、具体的な例を通して理解する。	復習: 授業で学んだ内容について、自分なりに説明できるようにする。
第3回	編曲と引用②	編曲と引用の手法について、具体的な例を通して理解する。	復習: 授業で学んだ内容について、自分なりに説明できるようにする。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	総合芸術における音楽① オペラ(1)	総合芸術における音楽について、音楽以外の要素と共に、オペラ作品を例に具体的に読み解く。	復習：授業で読み解いた内容について、具体的な語句や人物を挙げて自分なりに説明できるようにする。
第5回	総合芸術における音楽② オペラ(2)	総合芸術における音楽について、音楽以外の要素と共に、オペラ作品を例に具体的に読み解く。	復習：授業で読み解いた内容について、具体的な語句や人物を挙げて自分なりに説明できるようにする。
第6回	総合芸術における音楽③ オペラ(3)	総合芸術における音楽について、音楽以外の要素と共に、オペラ作品を例に具体的に読み解く。	復習：授業で読み解いた内容について、具体的な語句や人物を挙げて自分なりに説明できるようにする。
第7回	総合芸術における音楽④ オペラ(4)	総合芸術における音楽について、音楽以外の要素と共に、オペラ作品を例に具体的に読み解く。	復習：授業で読み解いた内容について、具体的な語句や人物を挙げて自分なりに説明できるようにする。
第8回	総合芸術における音楽⑤ オペラ(5)	総合芸術における音楽について、音楽以外の要素と共に、オペラ作品を例に具体的に読み解く。	復習：授業で読み解いた内容について、具体的な語句や人物を挙げて自分なりに説明できるようにする。
第9回	発表	オペラ作品の一場面の音楽的特徴や演出について、発表を行う。	予習：発表の準備をする。 復習：自分と他の学生の発表について振り返り、学んだことを確認する。
第10回	発表	オペラ作品の一場面の音楽的特徴や演出について、発表を行う。	予習：発表の準備をする。 復習：自分と他の学生の発表について振り返り、学んだことを確認する。
第11回	総合芸術における音楽⑥ 能	総合芸術における音楽について、音楽以外の要素と共に、能を例に具体的に読み解く。	復習：授業で読み解いた内容について、自分なりに説明できるようにする。
第12回	総合芸術における音楽⑦ バレエ(1)	総合芸術における音楽について、音楽以外の要素と共に、バレエ作品を例に具体的に読み解く。	復習：授業で読み解いた内容について、具体的な語句や人物を挙げて自分なりに説明できるようにする。
第13回	総合芸術における音楽⑧ バレエ(2)	総合芸術における音楽について、音楽以外の要素と共に、バレエ作品を例に具体的に読み解く。	復習：授業で読み解いた内容について、具体的な語句や人物を挙げて自分なりに説明できるようにする。
第14回	総合芸術における音楽⑨ バレエ(3)	総合芸術における音楽について、音楽以外の要素と共に、バレエ作品を例に具体的に読み解く。	復習：授業で読み解いた内容について、具体的な語句や人物を挙げて自分なりに説明できるようにする。
第15回	まとめ	本科目の目的を、知識の定着と共に確認できる。	予習：これまでの内容を復習する。

科目名(クラス)	コミュニケーション論	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1~4
担当教員	徳富 政樹	履修対象・条件	音楽療法専攻は必修				

【授業の「概要」と「目的」】

様々なコミュニケーション手段を心理学の側面から概観していくことにより、私たちの日常生活でのコミュニケーションを理論的に考察していきます。日々何気なく他者とコミュニケーションをとっている私たちですが、そこには自分たちでは気がつかない長所と短所が存在しています。他者に正確に意思を伝えるためにそれらを把握しておく必要があるでしょう。講義と実習、及び心理テストを通じてコミュニケーションについて考えてもらいます。

【授業の「方法」と「形式」】

基本的に講義形式ですが、適宜集団での討議・作業も取り入れます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

この授業では板書をたくさんするのできちんとノートをとる必要があります。ただ書き写すだけでなく自分なりの説明を加えてわかりやすいノートを作成するようにしてください。当たり前のことですが、遅刻、無断早退、私語は厳禁です。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	対人行動の心理学	著者等	土田昭司	出版社	北大路書房
参考文献	影響力 その効果と威力	著者等	今井芳昭	出版社	光文社新書

【成績評価の「方法」と「基準」】

レポート(70点)+授業への取り組み方(授業終了後の小レポートも含む)(30点)で成績評価を行います。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	コミュニケーションにおけるスキーマ	コミュニケーションが成立する要件について理解する	相手に自分が伝えたいことが伝わらなかった事例をいくつかリストアップしておくこと
第2回	自己概念とは	「私」とは一体何かについて考える	「私」をどのように表現したらいいかまとめてみる
第3回	自己開示とは	他者とのコミュニケーションにおける自己開示の概念について理解する	自己開示の特徴についてまとめてみる

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	自己呈示とは	他者とのコミュニケーションにおける自己呈示の概念について理解する	第2回から第4回までで「私」について考えるので、自分とはどのような人間なのかを最後に考えてみる
第5回	対人説得とは	他者を説得する際に有効なつかのパターンを理解する	自分の体験における説得事例をまとめてみる
第6回	非言語コミュニケーション	言語を用いないコミュニケーションについて考える	非言語コミュニケーションについての特徴をまとめてみる
第7回	異文化間コミュニケーション	自らが属する文化圏以外の人々とのコミュニケーションの際の齟齬について考える	第5回から第7回までの話を基に、他者と意思疎通がうまくできなかった体験からの教訓を導き出してみる
第8回	対人認知	他者に対する印象を形成するメカニズムについて考える	対人認知の誤りについてまとめてみる
第9回	対人認知・対人魅力	他者に魅力を感じる要因について考える	外見の魅力と内面の魅力の違いについてまとめてみる
第10回	親密な対人関係の崩壊	対人関係が崩壊する原因について考える	親密な対人関係が崩壊した時の行動や心理的反応についてまとめてみる
第11回	対人関係の親密化過程	出会いから別れまで、対人関係の変化について考える	第8回から第11回までの話を基に、これまで自分は他者をどのように判断・評価してきたか振り返ってみる
第12回	対人行動のルール	囚人のジレンマなどのゲーム理論について考える	ゲーム理論についてまとめてみる
第13回	攻撃行動	他者に対する攻撃行動の種類とメカニズムを考える	自分の身の回りで生じている攻撃行動について特徴をまとめてみる
第14回	援助行動	他者に助けを求める際の心理的過程について考える	第12回から第14回までの話を基に、これまでの自分の他者との接し方を振り返ってみる
第15回	グループワーク	個人でのアイデア出しと集団でのそれとの違いを考える	学んだことを振り返り、実践してみる。

科目名(クラス)	日本国憲法と生活A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1~4
担当教員	川端 敏朗	履修対象・条件	教職特設コースは必修。教職課程履修者はBとのいずれか必修				

【授業の「概要」と「目的」】

私たちの日常生活では、法的な決断をしなければならない数多くの場面に出会います。そこで法の果たす機能や法の必要性を考察し、法的なものの見方や考え方＝リーガル・マインドを身につけることができるようにしたいと考えます。この講義では、日本国憲法(国家の統治および組織に関する基本法)をはじめとする法やその制度が現実の社会でどのような働きをしているかについて、裁判例や具体的な事例などを通して理解することができるようにします。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義形式ですが、身近な例をあげ学生自ら考察、発言できるようにします。また、DVDなどを用い具体例も明示します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・履修にあたり、テキストの該当項目をよく確認して、受講中にはノートをしっかりとするように心がけてください。また、受講中には携帯電話の操作をしないようにしてください。

教科書	新版法学序説	著者等	斉藤静敬著	出版社	八千代出版
教科書		著者等		出版社	
参考文献	プライマリー法学	著者等	茂野隆晴編著	出版社	芦書房
参考文献	ポケット六法 平成28年版	著者等		出版社	有斐閣

【成績評価の「方法」と「基準」】

・定期試験およびレポート(60%)、受講中の熱意や積極性(40%)を踏まえ総合的に評価します。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	現代社会での法の果たす役割	私たちの生活のなかで法がどのような働きをしているかを掴み、具体的な例を考えてみる。	予習:教科書の該当項目を熟読し、具体的な例を思い描いてみる。 復習:現実に法が果たしている役割を整理しておく。
第2回	法と道徳、法の目的	法と道徳の相違点、類似した点や法と道徳との関係について考える。	予習:教科書の法と道徳に関する事項をよく読んでおく。 復習:法と道徳について整理しておく。
第3回	法の存在形式、法の分類	さまざまな法を理解したり、個別の法を明らかにするために、多様な基準により分類することができることを理解する。	予習:教科書の法の存在形式、法の分類に関する事項をよく読んでおく。 復習:講義で扱った法の存在形式、法の分類を整理しておく。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	法の適用と解釈, 法の効力—実質的効力と形式的効力	法の適用が, 法を具体的な事実にあてはめることであり, 法の解釈が法の意味内容を明らかにすることであることを理解する。また法の効力がどこまで及ぶかを理解する。	予習:教科書の第1編第6章, 第7章を読んでおく。 復習:法の適用と解釈, 法の効力を整理しておく。
第5回	日本国憲法の基本原理—日本国憲法の柱になることが何であり, どのような機能を果たしているかについて考える。	日本国憲法の基本原理が, どのようなことであり, 個別の規定は基本原理に基づくものであることについて理解する。	予習:教科書の第2編第1章を読んでおく。 復習:基本原理の内容について整理しておく。
第6回	基本的人権とは—人権保障のカatalog	基本的人権がすべての人に保障されていることを理解し, 日本国憲法の保障する広範な基本的人権を把握する。	予習:教科書の第2編第4章を読んでおく。 復習:基本的人権の概念を確認しておく。
第7回	基本的人権の一般原則, 基本的人権と公共の福祉	基本的人権の一般原則を掴み, 基本的人権も制約を受ける場合があることについて把握する。	予習:教科書の第2編第4章を読んでおく。 復習:基本的人権の一般原則, 公共の福祉について整理しておく。
第8回	基本的人権の種別—平等権, 自由権, 社会権, 参政権, 請求権, 義務	日本国憲法の保障する多様な基本的人権やぎむについて理解する。	予習:教科書の第2章第4編を読んでおく。 復習:基本的人権の内容を整理しておく。
第9回	国会, 内閣, 裁判所の働き	国会, 内閣, 裁判所の働きについて理解する。	予習:教科書の第2編第5章, 第6章, 第7章を読んでおく。 復習:国会, 内閣, 裁判所の働きについて整理しておく。
第10回	民法(財産法)—物権や債権	私たちの日常生活を規律する民法上の問題のなかで物の利用や移動について理解する。	予習:物の所有や売買について考えてみる。 復習:物権や債権について整理しておく。
第11回	民法(家族法)—親族や相続, 遺留分	民法上の親族の範囲, 法定相続人の範囲と相続分や遺留分について理解する。	予習:教科書の第4編を読んでおく。 復習:民法上の親族の範囲, 相続分や遺留分について整理しておく。
第12回	商法—会社法, 有価証券法	会社は株式会社と持分会社に大別されるが, それぞれの特徴をみる。また手形や小切手などの有価証券の仕組みを理解する。	予習:会社や手形, 小切手の利用について考えてみる。 復習:会社や手形, 小切手について整理しておく。
第13回	消費者保護のための法律—特定商取引法	消費者保護のための法律である特定商取引法の内容について理解する。	予習:消費者保護のための法律について考えてみる。 復習:特定商取引法概要について整理しておく。
第14回	消費者保護のための法律—消費者契約法	消費者保護のための法律である消費者契約法の内容について理解する。	予習:消費者契約にはどのようなものがあるかについて考えてみる。 復習:消費者契約法の概要について整理しておく。
第15回	この講義で扱った事項のまとめ(振り返り)	講義のなかで扱った内容について再度確認して理解する。	予習:この講義で扱った事項を教科書, ノートで確認しておく。 復習:講義で扱った事項を整理しておく。

科目名(クラス)	日本国憲法と生活B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1~4
担当教員	川端 敏朗	履修対象・条件	教職特設コースは必修。教職課程履修者はAとのいずれか必修				

【授業の「概要」と「目的」】

私たちの日常生活では、法的な決断をしなければならない数多くの場面に出会います。そこで法の果たす機能や法の必要性を考察し、法的なものの方・考え方＝リーガル・マインドを身につけることができるようにしたいと考えます。この講義では、日本国憲法(国家の統治および組織に関する基本法)をはじめとする法やその制度が実際の社会生活でどのような働きをしているかについて、裁判例や具体的な事例を通して理解することができるようにします。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義形式ですが、身近な例をあげ学生自ら考察、発言できるようにします。また、DVDなどを用い具体例も明示します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・履修にあたり、テキストの該当項目をよく確認して、受講中にはノートをしっかりとするように心がけてください。また、受講中には携帯電話の操作をしないようにしてください。

教科書	新版法学序説	著者等	斉藤静敬著	出版社	八千代出版
教科書		著者等		出版社	
参考文献	プライマリー法学	著者等	茂野隆晴編著	出版社	芦書房
参考文献	ポケット六法 平成28年版	著者等		出版社	有斐閣

【成績評価の「方法」と「基準」】

・定期試験およびレポート(60%)、受講中の熱意や積極性(40%)を踏まえ総合的に評価します。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	法の基本的な機能	私たちの生活のなかでの法の果たす機能や法の必要性を考察し、法の内容を明らかにする。	予習:教科書の該当項目をよく確認しておく。 復習:法の役割について整理しておく。
第2回	国家と法	国家の三要素－領域, 国民, 主権について理解する。	予習:教科書の国家と法の項目をよく確認しておく。 復習:講義で扱った国家と法に関する事項を整理しておく。
第3回	日本国憲法の全体像	日本国憲法のなかで明示されていることが、どのようなことであるかを把握する。	予習:教科書の日本国憲法の最初の項目を読んでおく。 復習:講義で扱った日本国憲法の全体像を整理しておく。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	基本的人権(人権確保のための制度など)	基本的人権の種類や内容について理解する。	予習:教科書の基本的人権の項目をよく確認しておく。 復習:人権の内容について整理しておく。
第5回	国会,内閣,裁判所の地位,権能	国会,内閣,裁判所の働きについて理解する。	予習:教科書の第2編第5章,第6章,第7章を読んでおく。 復習:国会,内閣,裁判所の地位,権能について整理しておく。
第6回	地方自治の仕組み,憲法改正	地方自治の本旨,仕組みや憲法改正の手続きを理解する。	予習:地方自治の仕組みや憲法改正について考えてみる。 復習:地方自治の仕組みや憲法改正について整理しておく。
第7回	裁判所の種類と審級,違憲法令審査権	裁判公開の原則,三審制や違憲法令審査権について理解する。	予習:裁判所の働きについて考えてみる。 復習:裁判所の働きについて整理しておく。
第8回	犯罪と刑罰(刑事法)	犯罪と刑罰に関する法である刑法をはじめとする刑事法について理解する。	予習:教科書の刑法や刑事訴訟法の内容について見ておく。 復習:犯罪と刑罰に関する事項について確認しておく。
第9回	裁判の手続き(民事裁判)	民事裁判の手続きや原告,被告,訴えの提起について理解する。	予習:教科書の民事裁判に関する事項を確認しておく。 復習:民事裁判の内容について整理しておく。
第10回	裁判の手続き(刑事裁判)	刑事裁判の手続きや検察官,被疑者,起訴などについて理解する。	予習:教科書の刑事裁判に関する事項をよく確認しておく。 復習:刑事裁判の手続きについて整理しておく。
第11回	裁判員制度	裁判員制度,参審制,陪審制について理解する。万人	予習:裁判員制度について考えてみる。 復習:裁判員制度の内容について整理しておく。
第12回	意思表示と契約	意思表示の過程や申込と承諾,契約の意義,種類について理解する。	予習:意思表示や契約について考えてみる。 復習:意思表示の過程や契約の意義,種類を整理しておく。
第13回	不法行為	故意,過失,権利侵害,因果関係などについて理解する。	予習:不法行為とは何かを考えてみる。 復習:不法行為の意義や問題点を整理しておく。
第14回	情報化社会と法—電子商取引	現代社会で多様される電子商取引について理解する。	予習:各種の電子商取引について考えてみる。 復習:電子商取引の意義,手続きや種類について整理しておく。
第15回	この講義で扱った事項のまとめ(振り返り)	講義のなかで扱った内容について再度確認して理解する。	予習:この講義で扱った事項を教科書,ノートで確認しておく。 復習:講義で扱った事項を整理しておく。

科目名(クラス)	国際理解と交流A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1~4
担当教員	川端 敏朗	履修対象・条件	全専攻				

【授業の「概要」と「目的」】

21世紀は、いのちの世紀、水の世紀などといわれています。世界の人口はいまや70億を超えています。このうちの12億人が安全な水を使用できない状況にあります。また、残念なことに水や食糧をめぐり、紛争や戦争が幾度となく繰り返されてきました。国際交流には流暢な外国語の使用のみならず、相手の考え方や文化、生活様式の違いも踏まえ、十分に理解し合えることが何よりも重要です。また、レイチェル＝カーソンの『沈黙の春』は農薬が引き起こす環境汚染を警告した書として有名ですが、オゾン層の破壊、酸性雨、海洋汚染、森林の減少、砂漠化という環境問題も私たち一人ひとりが解決しなければならない喫緊の課題です。講義では、多様な文化、民族、生活様式の相違や知的財産権、環境問題、人口問題、食糧問題などについて、資料や映像に触れながら検討します。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義形式ですが、身近な例をあげ学生自ら考察、発言できるものとします。また、DVDなどを用い具体例も明示します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・履修にあたり、テキストの該当項目をよく確認して、受講中にはノートをしっかりとるように心がけてください。また、受講中には携帯電話の操作をしないようにしてください。

教科書	今がわかる時代がわかる世界地図2016	著者等	正井泰夫監修	出版社	成美堂出版
教科書		著者等		出版社	
参考文献	なるほど地図帳2016	著者等	谷治他監修	出版社	昭文社
参考文献	沈黙の春	著者等	レイチェル	出版社	新潮社

【成績評価の「方法」と「基準」】

・定期試験およびレポート(60%)、受講中の熱意や積極性(40%)を踏まえ総合的に評価します。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	この講義で扱う事項の内容－国際理解と交流	国際理解と交流のためには、どのようなことが必要であり、どのようなことかについて考察し、理解する。	予習:教科書の最初の項目についてよく確認しておく。 復習:国際理解と交流のために重要な事項を整理しておく。
第2回	世界の古代文明のはじまりーどのような文明であったのか	世界の古代文明にはどのようなものがあり、どのような地域に発生していたかについて詳細に検討して、現在との接点を探る。	予習:世界の古代文明などの事項について見ておく。 復習:世界の古代文明のなかでの事項が現在に生かされる点を整理しておく。
第3回	日本人の暮らしとときたり	私たちの暮らしのなかで、知っておきたいときたりーさまざまな行事について季節とのかかわりについて理解する。	予習:日本人の暮らしに根付いているときたりを考えてみる。 復習:日本人の暮らしとときたりについて配布した資料をよく確認しておく。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	異文化交流の歴史ー私たちはどのように文化交流してきたのか	私たちの生活のなかでは、古くからさまざまな文化交流がされてきており、現代の日本にどのような形でいきているかについて把握する。	予習:教科書の異文化交流についてよく確認しておく。 復習:現代までのような文化交流があったかを整理しておく。
第5回	日本人の食文化とバランスー食糧自給率など	日本人が古くからどのような食べ物を食べてきたかということや、それが現代の食文化とどのように関連しているかについて理解する。	予習:教科書の食文化に関する項目についてよく確認しておく。 復習:配布資料も参考に日本人の食文化について整理しておく。
第6回	世界各地の食文化	世界のさまざまな地域では、古くからどのような食文化があり、現在に根づいているかについて理解する。	予習:教科書の世界各地の食文化に関する項目についてよく確認しておく。 復習:配布資料も参考に世界各地の食文化を整理しておく。
第7回	世界の裁判制度	世界各地の裁判制度について、裁判官のみで行うものと、国民(有権者)が参加する陪審制と参審制のメリットやデメリットについて理解する。	予習:教科書で世界の裁判制度にはどのようなものがあるかを確認しておく。 復習:世界の裁判制度について整理しておく。
第8回	世界の地域的経済統合	世界各地の地域的経済統合について、その長所と短所について理解する。	予習:教科書で地域的経済統合に関する項目をよく確認しておく。 復習:世界の地域的経済統合について整理しておく。
第9回	EU(ヨーロッパ連合)とユーロ	地域的経済統合の1つであるEUについて、その内容を把握する。また、域内通貨のユーロの利点と不利点について理解する。	予習:教科書でEUに関する項目をよく読んでおく。 復習:EUやユーロの内容、そのもんだ汚点について整理しておく。
第10回	世界各地の地域的な紛争と法的解決	世界各地にはどのような地域的紛争が起こっており、国際連合を含めた法的な解決手段について理解する。	予習:教科書で世界各地の地域的紛争にはどのようなものがあるかを確認しておく。 復習:世界の地域的紛争の解決方法について整理しておく。
第11回	自由貿易とTPP(環太平洋経済連携協定)	世界の自由貿易やTPPのもたらす長所と短所について理解する。	予習:教科書で世界のなかでの自由貿易の内容、TPPについて整理しておく。 復習:自由貿易およびTPPについて整理しておく。
第12回	アメリカ大統領選挙	世界の主な政治体制の内容や、アメリカ大統領選挙の実施方法について理解する。またわが国の内閣総理大臣の選出方法について理解する。	予習:教科書でアメリカ大統領選挙に関する事項を見ておく。 復習:アメリカ大統領選挙、日本の首相選出方法を整理しておく。
第13回	知的財産権(小冊子を配布します。)	知的財産権の概要について、その内容を把握する。また知的財産権には、どのような種類のものがあるかについて理解する。	予習:教科書の知的財産権に関する項目をよく確認しておく。 復習:小冊子で知的財産権の概要について確認しておく。
第14回	知的財産権ー著作権とはどのようなものか	著作物の種類や著作権者の権利や保護期間について理解する。	予習:配布資料の小冊子で著作権の概要について見ておく。 復習:著作権の種類や保護期間について整理しておく。
第15回	この講義で扱った事項のまとめ(振り返り)	この講義で扱った事項について、重要な問題を再検討する。	予習:この講義で扱った事項を教科書、ノートで確認しておく。 復習:国際理解と交流の講義で扱ったすべての事項を整理しておく。

科目名(クラス)	国際理解と交流B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1~4
担当教員	川端 敏朗	履修対象・条件	全専攻				

【授業の「概要」と「目的」】

21世紀は、いのちの世紀、水の世紀などといわれています。世界の人口はいまや70億を超えています。このうちの12億人が安全な水を使用できない状況にあります。また、残念なことに水や食料をめぐる、紛争や戦争が幾度となく繰り返されてきました。国際交流には流暢な外国語の使用のみならず、相手の考え方や文化、生活様式の違いも踏まえ、十分に理解し合えることが何よりも重要です。また、レイチェル＝カーソンの『沈黙の春』は農業が引き起こす環境汚染を警告した書として有名ですが、オゾン層の破壊、酸性雨、海洋汚染、森林の減少、砂漠化という環境問題も私たち一人ひとりが解決しなければならない喫緊の課題です。講義では、多様な民族、生活様式の相違や知的財産権、環境問題、人口問題、食料問題などについて、資料や映像に触れながら検討します。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義形式ですが、身近な例をあげ学生自ら考察、発言できるようにします。また、DVDなどを用い具体例も明示します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・履修にあたり、テキストの該当項目をよく確認して、受講中にはノートをしっかりとるように心がけてください。また、受講中には携帯電話の操作をしないようにしてください。

教科書	今がわかる時代がわかる世界地図2016	著者等	正井泰夫監修	出版社	成美堂出版
教科書		著者等		出版社	
参考文献	なるほど地図帳世界2015	著者等	谷治他監修	出版社	昭文社
参考文献	沈黙の春	著者等	レイチェル	出版社	新潮社

【成績評価の「方法」と「基準」】

定期試験およびレポート(60%)、受講中の熱意や積極性(40%)を踏まえ総合的に評価します。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	この講義で扱う事項の内容－国際理解のための文化交流、生活様式、環境問題など	国際理解と交流のために必要な文化、生活様式の違い、地球温暖化などについて考えてみる。	予習:教科書で国際理解と交流に必要な事項を考えてみる。 復習:国際理解と交流のために必要な事項をまとめておく。
第2回	知的財産権①(小冊子を配布します。)	知的財産権の内容についてその概要を把握する。またどのような種類のものがあるかについて理解する。	予習:知的財産権、特に著作権とはどのようなものであるかについて考えてみる。 復習:知的財産権、特に著作権の内容と種類を整理しておく。
第3回	知的財産権②(音楽著作権①)	音楽著作権について、その内容を把握し、留意すべき事柄について理解する。	予習:配布資料で著作権や音楽著作権について確認しておく。 復習:著作権や音楽著作権について整理しておく。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	知的財産権③(音楽著作権②)	音楽の著作物について確認し、著作物を利用する上での留意事項を理解する。	予習:音楽著作物の内容について確認しておく。 復習:音楽著作物での留意事項についてまとめておく。
第5回	私たちの生活と水資源	私たちの生活のなかで水がいかに重要な資源であるかを考え、わが国や外国の現状を考える。	予習:教科書で水資源に関する事項を確認しておく。 復習:講義で扱った水に関する事項について整理しておく。
第6回	水をめぐる法律問題	わが国や世界の水の利用などについて、どのような法律や条約があるかについて理解する。	予習:水の規制などの法律や条約について考えておく。 復習:講義で扱った水の問題点を整理しておく。
第7回	私たちの食糧と自給	わが国の食糧がどのようにして確保され、わが国の食糧自給率がどの程度であるかについて理解する。	予習:教科書の食糧と自給に関する事項を読んでおく。 復習:講義で扱った食糧問題やわが国の食糧自給率について整理しておく。
第8回	人口問題と食糧の確保	わが国の人口問題、高齢化社会、食糧の確保に関する問題について理解する。	予習:教科書の人口問題に関する事項を読んでおく。 復習:講義で扱った人口問題と食糧の確保に関する事項について整理しておく。
第9回	環境問題とは何か	環境問題にはどのようなものがあり、どのようにしてその問題の解決を図るべきかについて理解する。	予習:教科書の環境問題に関する事項を読んでおく。 復習:講義で扱った環境問題について整理しておく。
第10回	酸性雨, 大気汚染など	環境問題の1つである酸性雨について、どのようなものであり、どのような環境汚染を引き起こすかについて理解する。	予習:教科書の酸性雨に関する事項を確認しておく。 復習:講義で扱った酸性雨に関する事項について整理しておく。
第11回	森林の減少, 砂漠化など	世界各地の森林の減少によって引き起こされるさまざまな問題について理解する。	予習:教科書の森林の減少と砂漠化に関する事項を確認しておく。 復習:講義で扱った森林の現象と砂漠化について整理しておく。
第12回	環境問題と地球規模の温暖化	地球規模の温暖化によって引き起こされるさまざまな問題について理解する。	予習:教科書の地球規模の温暖化に関する事項を確認しておく。 復習:地球規模の温暖化の問題について整理しておく。
第13回	地球温暖化防止のための取り組み	地球温暖化防止のために各国や国連等がどのような取り組みをしているかについて理解する。	予習:教科書の地球温暖化に関する事項をよく読んでしておく。 復習:地球温暖化の問題について整理しておく。
第14回	地球温暖化防止のための条約など	地球温暖化防止のための条約や法律にはどのようなものがあるかについて理解する。	予習:教科書の地球温暖化防止のための条約を確認しておく。 復習:地球温暖化防止のための法律や条約について整理しておく。
第15回	この講義で扱った事項のまとめ(振り返り)	この講義で扱った事項について、重要な問題を再度検討する。	予習:この講義で扱った事項を教科書で確認しておく。 復習:講義で扱ったすべての内容について確認しておく。

科目名(クラス)	社会福祉概論 〔老人・児童福祉を含む〕A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	高畑 敦子	履修対象・条件	音楽療法専攻はBとのいずれか必修				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・社会福祉の基礎や、現状と課題を学びます。
- ・自身の生活と関連づけ、社会福祉が身近にあることを自覚し、学んだ知識を生活や仕事に生かせることを目的とします。
- ・音楽療法専攻生は、ABの両方を履修修得することが望ましいです。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・新聞、テレビ、インターネットなどで「社会福祉」に関連するニュースや番組を意識して見ておくようにしてください。
- ・ディスカッションがある場合は、積極的な発言を望みます。
- ・遅刻、途中退出は原則として認めません。

教科書	指定なし(毎回資料配布)	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・学期末定期試験【4択問題と筆記】70%
- ・授業内レポートおよび小テスト30%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	「社会福祉」について① ・概念、基本理念、定義 ・しくみ	・自分の考え方と照合しながら、社会福祉を理解していく。	復習: 配布資料の再読。
第2回	暮らしと社会福祉～現状と課題～	・現代の社会における社会福祉の状況と課題を身近なトピックを通して理解していく。	同上
第3回	社会福祉の法体系 ・法制度 ・実施のしくみ ・医療・保険との関連性	・社会福祉を実施する上で、ベースとなっている法的根拠を整理・理解する。	同上

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	小テスト(ノート持ち込み可)	・第1回～第3回までの授業内容を整理し、文章で説明できる。	予習: 配布された資料および、授業内で板書した内容を読んでおく。
第5回	地域の福祉① ・近年の福祉制度改革の経緯と特徴 ・地域福祉とコミュニティ ・概念	・地域の福祉について、概観を理解する。	復習: 配布資料の再読。
第6回	地域の福祉② ・実際の方法	・事例等を通して、地域福祉の具体的な様子を知る。	同上
第7回	女性と家族の福祉① ・現状、基本理念、制度	・女性と家族の福祉について基礎を理解する。	同上
第8回	女性と家族の福祉② ・実施体制、今後の課題	・女性と家族の福祉について現状と課題を、事例等を通して理解する。	同上
第9回	児童家庭の福祉① ・現状、基本理念、制度	・児童・家庭の福祉について基礎を理解する。	同上
第10回	児童家庭の福祉② ・実施体制、今後の課題	・児童・家庭の福祉について現状と課題を、事例等を通して理解する。	同上
第11回	小テスト(ノート持ち込み可)	・第5回～第10回までの授業内容を整理し、文章で説明できる。	予習: 配布された資料および、授業内で板書した内容を読んでおく。
第12回	生活困窮者の福祉① ・現状、基本理念、制度	・生活困窮者の福祉について基礎を理解する。	復習: 配布資料の再読。
第13回	生活困窮者の福祉② ・実施体制、今後の課題	・生活困窮者の福祉について現状と課題を、事例等を通して理解する。	同上
第14回	社会福祉の歴史	・第1回～13回までの授業(社会福祉の現状)をふまえた上で、歴史的変遷を学ぶ。	同上
第15回	まとめ	・「社会福祉とは何か」「現状」「法制度」「女性、家庭、子ども、生活困窮者の福祉」「歴史」の項目について復習する。	予習: 配布された資料および、授業内で板書した内容を読んでおく。

科目名(クラス)	社会福祉概論 〔老人・児童福祉を含む〕B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	高畑 敦子	履修対象・条件	音楽療法専攻はAとのいずれか必修				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・社会福祉の基礎や、現状と課題を学びます。
- ・自身の生活と関連づけ、社会福祉が身近にあることを自覚し、学んだ知識を生活や仕事に生かせることを目的とします。
- ・音楽療法専攻生は、ABの両方を履修修得することが望ましいです。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・新聞、テレビ、インターネットなどで「社会福祉」に関連するニュースや番組を意識して見ておくようにしてください。
- ・ディスカッションがある場合は、積極的な発言を望みます。
- ・遅刻、途中退席は原則として認めません。

教科書	指定なし(毎回資料配布)	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・学期末定期試験【4択問題と筆記】70%
- ・授業内レポートおよび小テスト30%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	障害者の福祉① ・障害者観、基本理念 ・現状	障害者の福祉について基礎を理解する。	復習: 配布資料の再読。
第2回	障害者の福祉② ・法体系と制度	障害者の福祉について法体系と制度について理解する。	同上
第3回	障害者の福祉③ ・実施体制、今後の課題	障害者の福祉について現状と課題を、事例等を通して理解する。	同上

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	高齢者の福祉① ・基本理念 ・現状	・高齢者の福祉について基礎を理解する。	復習:配布資料の再読。
第5回	高齢者の福祉② ・制度の経緯と現在	・高齢者の福祉制度について理解する。	同上
第6回	高齢者の福祉③ ・実施体制、今後の課題	・高齢者の福祉について現状と課題を、事例等を通して理解する。	同上
第7回	小テスト(ノート持ち込み可)	・第1回～第6回までの授業内容を整理し、文章で説明できる。	予習:配布された資料および、授業内で板書した内容を読んでおく。
第8回	社会福祉施設の体系と運営	・実際に関わる施設について整理・理解する。	復習:配布資料の再読。
第9回	社会福祉の担い手① ・マンパワー ・専門職、資格制度と倫理	・実際に対象者に関わる人々の仕事について理解する。	同上
第10回	社会福祉の担い手② ・ソーシャルワーク	・具体的な援助技法について学ぶ。	同上
第11回	社会福祉と医療と保険	・社会福祉制度に関連する医療や保険制度のしくみと関係性を理解する。	同上
第12回	小テスト(ノート持ち込み可)	・第8回～第11回までの授業内容を整理し、文章で説明できる。	同上
第13回	トピック検討 ・新聞、インターネット等から社会福祉に関するトピックを選択し、課題や解決策について検討する。	・生活に身近な事例を通して、社会福祉を考え、まとめる。	同上
第14回	トピック検討 ・新聞、インターネット等から社会福祉に関するトピックを選択し、課題や解決策について検討する。	・生活に身近な事例を通して、社会福祉を考え、まとめる。	同上
第15回	まとめ	・「障害者の福祉」「高齢者の福祉」「社会福祉施設」「専門職」等の項目について復習する。	予習:配布された資料および、授業内で板書した内容を読んでおく。

科目名(クラス)	ひとを読み解く科学	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1~4
担当教員	三室戸 元光	履修対象・条件	教職特設コースのみ1~3に履修				

【授業の「概要」と「目的」】

ひとの内面を読み解く方法をアセスメントといい、言葉や文章、数値や量的データを用いる方法と、制作物・作品によって行う方法などが代表的でしょう。前期には、ひとの「(悪い)ストレス」を減らし、自分自身の心をコントロールする方法を知り、一緒にストレスチェックを行いながら、「(適度な)ストレス」に変えていく練習を段階的に、個人内・ペア学習・グループ討議や発表で学びます。後期には、制作物や作品を通してアセスメントを行う描画法をもとに、制作者(子ども~学生)の心象世界に触れつつ、ひとの内面を深く読み解くための分析方法を、個人内検討、グループ討議・発表で様々な角度から学びます。最終的には、皆さんが仲間(=ピア)同士の簡単なカウンセリングならばできる(=ピア・カウンセラー)ようになることを目標とします。

【授業の「方法」と「形式」】

授業は個人学習と事例検討+全体講義+グループ演習、を毎時間行います。授業60分とトレーニング30分です。

【履修時の「留意点」と「心得」】

心理学についての全体解説はしないで、すぐ各論(ストレス・マネジメント)に入ります。このため、「現代の心理学」を受講したあとで、この科目を受講することを、学生の皆さんにおすすめます。配布物やノートなどは専用の「緑ファイル」に入れてロッカーに保管して下さい。当日、教員が指定した配布物は、授業終了時に提出して下さい。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	子どもと若者のための認知行動療法ワークブック	著者等	ポール・スタラード: 著 下山晴彦:監訳	出版社	金剛出版
参考文献	こころが晴れるノート	著者等	大野裕	出版社	創元社

【成績評価の「方法」と「基準」】

「①中間試験(知的な理解がどの程度進んだかどうかを計る 30%)」と「②期末試験(自分自身やひとを読み解く練習をして、「ひと」の事例を読み解く能力がどの程度身についたかを確かめる 40%)」を行います。さらに③毎回の授業で提出してもらうふりかえりシート(30%)をもとに、総合的な評価をします。②③については1つの正解を求めているのではなく、「獲得した知識や学び得たアセスメント能力をもとに、(感想文ではなく)自分の言葉で、ひとの内面の理解を、その理由とともに説明できているか」を基準に評価します。授業時の態度目標は「考えたことを伝える・仲間に質問する・分かるように説明する」「自分から動く・チームで協力する・チームに役に立つ」です。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	授業インフォメーション 知的理解 認知療法とは1 ポジティブ・トレーニング1 個人ワークとペアワーク・グループワークでポジティブな考え方の練習をする	認知療法・認知行動療法の基本的な構造と特徴を理解する。意識的にポジティブな考え方ができる。	以後、毎回、次回の授業までにポジティブ・トレーニングの練習を続ける課題に取り組む
第2回	知的理解 認知療法とは2 ポジティブ・トレーニング2 意識的にポジティブな考え方ができる練習をする	認知療法の基本的な構造と特徴を理解する。意識的にグループで異なる考え方を受け止め、お互いに提案できるようにする	次回までに、できるだけ多くの感情表現(言語)を調べてくる
第3回	知的理解 ストレス・マネジメント 認知1 気持ちはどこから来るの? ポジティブ・トレーニング3 意識的にポジティブな考え方ができる練習をする	ストレス・マネジメントの手法を使って、感情・認知・行動の関わりとその修正方法を学び、トレーニングで理解できるようにする	次回までに、多くの感情表現で生じてくる認知と行動のパターンを自分に当てはめて調べてくる

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	知的理解 ストレス・マネジメント 認知2 ABCころの法則 ポジティブ・トレーニング4 意識的にポジティブな考え方ができる練習をする	ABCころの法則という認知療法を学び、意識的にそれを用いたトレーニングで認知を変える行動ができる	次回までに、自分の感情を言語化して、できるだけ多くの感情表現を調べ、「ころの法則」という認知療法を意識して練習しておく
第5回	知的理解 ストレスマネジメント 認知3 いろいろな考え方をしよう1 ポジティブ・トレーニング5 意識的にポジティブな考え方ができる練習をする	認知の外在化と認知の種類を増やす考え方を学び、トレーニングでそれを言語化できる練習を行う	次回までに、自分の日常生活の中でくり返されている特徴的な認知を調べておく
第6回	知的理解 ストレス・マネジメント 認知4 いろいろな考え方をしよう2 ポジティブ・トレーニング6	認知の外在化と認知の種類を増やす考え方を学び、トレーニングでそれを言語化できる練習を行う	次回までに、自分の認知について、異なる認知の内容をできる限りたくさん考えておく
第7回	知的理解 ストレス・マネジメント 認知5 認知を変えてストレスを減らす ポジティブ・トレーニング7 意識的にポジティブな考え方ができる練習をする	増やした認知で悪いストレス状態に陥るのを防ぐ方法を学び、そのための練習で認知を意図的に変えられるようにする	前期前半の知的理解で学んだ内容を改めて復習しておく
第8回	中間まとめ(認知療法についての知的理解)	前期前半の認知療法についての知的理解の状況を確認する	
第9回	認知行動療法モジュール1 自分の気持ちに気づく・考えと気持ち ピア・カウンセリングその1	自分がどんな時にどんな気持ちになるのかを知る。どんな思い込みと推測、先入観を持ちやすいかを知る	さらに認知行動療法の理解を深めて、お互いにカウンセリングできるようにする
第10回	認知行動療法モジュール2 自動思考・問題をハッキリさせる ピア・カウンセリングその2	自分がどんな時に否定的な考え方(=自動思考)ばかり気になるのか?を知ることで、その問題性に気づく	次回までに自分自身の自動思考による考え方の偏りにどんなものがあるかを調べる
第11回	認知行動療法モジュール3 考え方の誤り・心の中の思い込み ピア・カウンセリングその3	日常生活で自分がやってしまう「思い込み」を見つけて、異なる考え方を増やせるようにする	次回までに思い込みによる自分の考え方の特徴にどんなものがあるかを調べる
第12回	認知行動療法モジュール4 考え方を変えてみる ピア・カウンセリングその4	異なる考え方を増やし、固まった自動思考をそらし、変えることで今の考え方を修正できるようにする	次回までに自分の自動思考を意図的に修正する課題に取り組む
第13回	認知行動療法モジュール5 人間関係の改善・いつもと違う行動をする ピア・カウンセリングその5	いつもの自分の気持ちと行動のパターンに気づき、修正することへの怖い気持ちに立ち向かえるようにする	友人関係で意図的にいつもと異なる行動をして、関係に生じた変化を確かめておく
第14回	認知行動療法モジュール6 問題を解決しよう ピア・カウンセリングその6	いつもの行動とは違う行動をした結果をお互いに発表・検討して、どんな結果が生まれたかをグループで発表できるようにする	前期後半の認知行動療法で学んだ内容を改めて読み直して、復習しておく
第15回	前期まとめ(総合力)	前期後半の認知行動療法のモジュールを使って、総合的なカウンセリングの実技(紙上)に取り組む	

科目名(クラス)	ひとを読み解く科学	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	三室戸 元光	履修対象・条件	教職特設コースのみ1～3に履修				

【授業の「概要」と「目的」】

ひとの内面を読み解く方法をアセスメントといい、言葉や文章、数値や量的データを用いる方法と、制作物・作品によって行う方法などが代表的でしょう。前期には、ひとの「(悪い)ストレス」を減らし、自分自身の心をコントロールする方法を知り、一緒にストレスチェックを行いながら、「(適度な)ストレス」に変えていく練習を段階的に、個人内学習・ペア学習・グループ討議や発表で学びます。後期には、制作物や作品を通してアセスメントを行う描画法をもとに、制作者(子ども～学生)の心象世界に触れつつ、ひとの内面を深く読み解くための分析方法を、個人内検討、グループ討議・発表で様々な角度から学びます。最終的には、皆さんが仲間(=ピア)同士の簡単なカウンセリングならばできる(=ピア・カウンセラー)ようになることを目標とします。

【授業の「方法」と「形式」】

授業は個人学習と事例検討+全体講義+グループ演習、を毎時間行います。授業60分とトレーニング30分です。

【履修時の「留意点」と「心得」】

心理学についての全体解説はしないで、すぐ各論(描画法)に入ります。このため、「現代の心理学」を受講したあとで、この科目を受講することを、学生の皆さんにおすすめします。配布物やノートなどは専用の「緑ファイル」に入れてロッカーに保管して下さい。当日、教員が指定した配布物は、授業終了時に提出して下さい。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	スクールカウンセリングに活かす描画法	著者等	高橋依子	出版社	金子書房
参考文献	『描画法』『人物画テスト』『樹木画テスト』など	著者等	高橋依子ほか	出版社	北大路書房

【成績評価の「方法」と「基準」】

「①中間試験(知的な理解がどの程度進んだかどうかを計る 30%)」と「②期末試験(自分自身やひとを読み解く練習をして、「ひと」の事例を読み解く能力がどの程度身についたかを確認する 40%)」を行います。さらに③毎回の授業で提出してもらうふりかえりシート(30%)をもとに、総合的な評価をします。②③については1つの正解を求めているのではなく、「獲得した知識や学び得たアセスメント能力をもとに、(感想文ではなく)自分の言葉で、ひとの内面の理解を、その理由とともに説明できているか」を基準に評価します。授業時の態度目標は、「考えたことを伝える・仲間に質問する・分かるように説明する」「自分から動く・チームで協力する・チームに役に立つ」です。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	授業インフォメーション 知的理解 投影法と描画法の特長	後期授業ガイダンス 心理検査のうち投影法と描画法の 違いを知る	
第2回	知的理解 樹木画作成体験と理解 ピア・トレーニング1 お互いに読み取れることを受け止め理解する	自分の樹木画を描く→樹木画の 解説→ペアワーク(描いてみて お互いに理解を深められる)→ ピア・トレーニング1	復習として、自分の樹木画から 何が読み取れるか、考えておく
第3回	知的理解 HTTP法作成体験と理解 ピア・トレーニング2 お互いに読み取れることを受け止め理解する	自分のHTTP法の画を描く→ HTTP法の解説→ペアワーク (描いてみてお互いに理解を深 められる)→ピア・トレーニング2	復習として、自分のHTTP法の 画から何が読み取れるか、考え ておく

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	知的理解 人物画作成体験と理解 ピア・トレーニング3 お互いに読み取れることを受け止め理解する	自分の人物画を描く→人物画の解説→ペアワーク(描いてみてお互いの理解を深められる)→ピア・トレーニングその3	復習として、自分の人物画から何が読み取れるか、考えておく
第5回	知的理解 家族画・動的家族画作成体験と理解 ピア・トレーニング4 お互いに読み取れることを受け止め理解する	自分の家族画を描く→家族画の解説→ペアワーク(描いてみてお互いの理解を深められる)→ピア・トレーニングその4	復習として、自分の学校画から何が読み取れるか、考えておく
第6回	知的理解 学校画・動的学校画作成体験と理解 ピア・トレーニング5 お互いに読み取れることを受け止め理解する	自分の学校画を描く→学校画の解説→ペアワーク(描いてみてお互いの理解を深められる)→ピア・トレーニングその5	後期前半の知的理解で学んだ内容を改めて復習して、次回の中間試験の準備をする
第7回	中間まとめ(描画法についての知的理解)	後期前半の知的理解の状況を確かめる	
第8回	ピア・カウンセリング復習	前期から受講した人と後期から受講した人のペア、もしくはトリオで、カウンセリングのトレーニングを復習する	後期から受講した学生は、前期のワークシートを使って、日常生活の中でトレーニングを行っておく
第9回	アセスメント事例検討 描画を用いたカウンセリング・トレーニング1 小学生編	実際の描画法アセスメントの事例を用いて、クライアント(子ども～学生)の感情・行動の変化をとらえる1	以後は、個人内検討→グループ検討→発表→ふりかえりの順番で学習する
第10回	アセスメント事例検討 描画を用いたカウンセリング・トレーニング2 小学生編	実際の描画法アセスメントの事例を用いて、クライアント(子ども～学生)の感情・行動の変化をとらえる2	
第11回	アセスメント事例検討 描画を用いたカウンセリング・トレーニング3 中学生編	実際の描画法アセスメントの事例を用いて、クライアント(子ども～学生)の感情・行動の変化をとらえる3	
第12回	アセスメント事例検討 描画を用いたカウンセリング・トレーニング4 中学生	実際の描画法アセスメントの事例を用いて、クライアント(子ども～学生)の感情・行動の変化をとらえる4	
第13回	アセスメント事例検討 描画を用いたカウンセリング・トレーニング5 高校生編	実際の描画法アセスメントの事例を用いて、クライアント(子ども～学生)の感情・行動の変化をとらえる5	
第14回	アセスメント事例検討 描画を用いたカウンセリング・トレーニング6 大学生編	実際の描画法アセスメントの事例を用いて、クライアント(子ども～学生)の感情・行動の変化をとらえる6	事例として取りあげた内容を改めて自分なりの言葉でまとめて復習しておく
第15回	後期まとめ(総合力)	後期後半のアセスメント事例検討の方法を使って、描画を用いたカウンセリングの紙上実践に取り組む	

科目名(クラス)	現代の心理学[発達心理を含む]A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1~4
担当教員	徳富 政樹	履修対象・条件	音楽療法専攻はBとのいずれか必修				

【授業の「概要」と「目的」】

これまで「心理学」という言葉を聞いたこともないという方もいると思います。高等学校までの授業では心理学という科目がないのでそれも当然のことでしょう。しかし人間の心に関しては日々考えることがあり、素朴ながらも人間の心理について皆さんが考えているのも事実です。そこで、この授業では人間の心と行動について入門的なお話をしていこうと思います。身の周りにある事象を取り上げ、それをわかりやすく心理学的に解説していきます。前期では学習心理学、認知心理学、社会心理学といった心理学の基礎的分野についてお話をします。

【授業の「方法」と「形式」】

基本的に講義形式です。

【履修時の「留意点」と「心得」】

この授業では板書をたくさんするのできちんとノートをとる必要があります。ただ書き写すだけでなく自分なりの説明を加えてわかりやすいノートを作成するようにしてください。当たり前のことですが、遅刻、無断早退、私語は厳禁です。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	やさしい教育心理学 第3版	著者等	鎌原雅彦	出版社	有斐閣
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

レポート(70点)+授業への取り組み方(授業終了後の小レポートも含む)(30点)で成績評価を行います。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	心理学入門	心理学とはどのような学問分野なのかを概観する	心理学という言葉から受けるイメージをあらかじめリストアップしておくこと
第2回	学習心理学 その1	古典的条件付けのメカニズムを学ぶ	身の回りに古典的条件付けによって身につけた行動があるか考えてみる
第3回	学習心理学 その2	道具的条件付けのメカニズムを学ぶ	身の回りに道具的条件付けによって身につけた行動があるか考えてみる

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	学習心理学 その3	道具的条件付けの応用を学ぶ	道具的条件付けによって他者の行動を変化させる手順を考えてみる
第5回	学習心理学 その4	観察学習・自己強化について学ぶ	動物、人間が新たな行動を獲得していく過程のパターンを自分なりにまとめてみる
第6回	認知心理学 その1	記憶研究の基礎について学ぶ	記憶のプロセスを身の回りの事象に当てはめて考えてみる
第7回	認知心理学 その2	記憶研究の応用について学ぶ	記憶のプロセスを身の回りの事象に当てはめて考えてみる
第8回	認知心理学 その3	目の錯覚について学ぶ	錯視を用いた広告事例を探してみる
第9回	認知心理学 その4	視覚と脳の関係について学ぶ	脳の機能について自分なりにまとめてみる
第10回	認知心理学 その5	思考研究の基礎を学ぶ	完璧に見える人間の行動にも様々なエラーの可能性が潜んでいることをまとめてみる
第11回	認知心理学 その6	思考研究の応用を学ぶ	同上
第12回	社会心理学 その1	他者や集団から影響される過程について学ぶ	集団が個人に対して与える影響をまとめてみる
第13回	社会心理学 その2	カルトマインドコントロールについて学ぶ	カルトマインドコントロールのメカニズムについてまとめてみる
第14回	社会心理学 その3	心理学研究から見た血液型性格診断について学ぶ	集団の中で生活している人間の行動は、集団に大きく影響を受けていることを自分なりにまとめてみる
第15回	まとめ	これまでの授業の重要なポイントを振り返る	学んだことを再確認し、実践してみる

科目名(クラス)	現代の心理学[発達心理を含む]B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1~4
担当教員	徳富 政樹	履修対象・条件	音楽療法専攻はAとのいずれか必修				

【授業の「概要」と「目的」】

これまで「心理学」という言葉を聞いたこともないという方もいると思います。高等学校までの授業では心理学という科目がないのでそれも当然のことでしょう。しかし人間の心に関しては日々考えることがあり、素朴ながらも人間の心理について皆さんが考えているのも事実です。そこで、この授業では人間の心と行動について入門的なお話をしていこうと思います。身の周りにある事象を取り上げ、それをわかりやすく心理学的に解説していきます。後期授業では臨床心理学、発達心理学などの応用的分野についてのお話となります。

【授業の「方法」と「形式」】

基本的に講義形式です。

【履修時の「留意点」と「心得」】

この授業では板書をたくさんするのできちんとノートをとる必要があります。ただ書き写すだけでなく自分なりの説明を加えてわかりやすいノートを作成するようにしてください。当たり前のことですが、遅刻、無断早退、私語は厳禁です。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	やさしい教育心理学 第3版	著者等	鎌原雅彦	出版社	有斐閣
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

テスト(70点)+授業への取り組み方(授業終了後の小レポートも含む)(30点)で成績評価を行います。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	臨床心理学 その1	臨床心理学の入門編として、様々なカウンセリング技法の紹介をする	カウンセリングという言葉から受けるイメージをあらかじめリストアップしておくこと
第2回	臨床心理学 その2	フロイトとユングの考え方の基礎を学ぶ	フロイトとユングの考え方の違いをリストアップして、その違いについて考察する
第3回	臨床心理学 その3	フロイトとユングの夢に対する考え方を比較する	同上

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	臨床心理学 その4	行動療法と認知療法について学ぶ	カウンセリングには様々な考え方、技法があり、それらを自分なりの表現でまとめてみる
第5回	発達心理学 その1	発達心理学の入門的考え方について学ぶ	発達心理学の歴史についてまとめる
第6回	発達心理学 その2	学習の臨界期と敏感期について学ぶ	人間にとって臨界期や敏感期が当てはまる行動についてまとめる
第7回	発達心理学 その3	知的発達について学ぶ	知能指数の概念についてまとめる
第8回	発達心理学 その4	ピアジェの発達段階の考え方を学ぶ	発達段階の違いによって何ができて、何ができないのかまとめる
第9回	発達心理学 その5	同上	同上
第10回	発達心理学 その5	フロイトの発達論を学ぶ	ピアジェとフロイトの発達観の違いをまとめる
第11回	発達心理学 その6	エリクソンの自我同一性の考え方を学ぶ	自分にとってのアイデンティティについてまとめる
第12回	生理心理学	睡眠の過程について学ぶ	レム睡眠とノンレム睡眠の違いをまとめる
第13回	教育心理学	教育現場での心理学の応用例を学ぶ	ピグマリオン効果についてまとめる
第14回	発達臨床心理学	思春期の心理状態について学ぶ	第11回から第14回までで心理学の応用について学ぶので、自分の生活の範囲内でどこに応用できるか考えてみる
第15回	まとめ	これまでの授業の重要なポイントを振り返る	学んだことを確認し、実践してみる

科目名(クラス)	コンピュータ演習A	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1~4
担当教員	湯浅 恭子	履修対象・条件	教職課程履修者と教職特設コースは必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

「情報を得る・発信する・保管する」「コミュニケーションをはかる」など、コンピュータの活用法はとても多様になっています。企業や学校教育現場などにおいてもコンピュータを活用する場面は多くあります。本演習では、文書作成ソフトウェアを用いた書類作成やプレゼンテーションの実習を行います。また近年身近に使われるようになった「SNS」「クラウドコンピューティング」などの情報技術についても触れていきます。

みなさんの身近にあるコンピュータを情報整理や情報発信に活用し、またその操作を通じて考え方と応用の仕方を見につけていくことを目的とします。Windows、Microsoft Officeの基本的な操作方法を身につけます。「コンピュータは苦手」という意識がある学生も、是非一緒にそれをなくしていきましょう。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式・講義形式・グループでのプレゼンテーション実習

【履修時の「留意点」と「心得」】

課題データを保存するため、USBフラッシュメモリ(2GB~)を必ず用意してください。

授業への参加姿勢、時間と期限を守ることを重視します。

授業開始後、30分を越えてからの入室は欠席、また遅刻は3回で欠席1とします。

教科書	30時間でマスター Office2013	著者等	実教出版編修部	出版社	実教出版
教科書	必要に応じて授業時にプリントを配布	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

演習課題への取り組み姿勢(40%)

各演習ごとの提出物・プレゼンテーション内容(30%)

学期末実技試験(30%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	OS(オペレーティングシステム)とソフトウェア・ハードウェア	OSについて理解し、説明できる。 ソフトウェア・ハードウェアの例を挙げそれぞれの役割を説明できる。	身近なコンピュータに使われているOSのしくみと役割を調べる。プリント課題。
第2回	身近なコンピュータのしくみ デジタル時代の音楽データ	スマートフォン・タブレット端末など身近なコンピュータのしくみと、 コンピュータ内における音楽データの扱われ方を理解する。	配布テキストの復習と整理。
第3回	Windowsの基本操作 文書作成ソフトウェア(Word)演習-1 ・文字入力・編集	任意の場所にファイルを保存することができる。 Wordを使って基本的な文字入力や編集ができる。	自己プロフィールの準備。 テキストまたはコンピュータでWindowsの基本操作を確認する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	文書作成ソフトウェア(Word)演習-2 ・画像の取り込み	Wordを使って文字入力・画像の取り込みや編集をし、理想的なレイアウトを実践できる。 プロフィールを作成し提出。	テキストまたはコンピュータでWordの基本操作を確認する。
第5回	文書作成ソフトウェア(Word)演習-3 ・一般的なビジネス文書の形式 ・ワードアートや図形の利用	一般的なビジネス文書の形式を理解し、文書作成をして提出。 ワードアートや図形を利用してチラシやポスターを作成し提出。	作成するチラシ・ポスターの構想、案内状・招待状の文書内容準備。
第6回	文書作成ソフトウェア(Word)演習-4 ・表作成	文書に表を入れて活用することができる。課題を提出。	テキストまたはコンピュータでWordの基本操作を確認する。
第7回	文書作成ソフトウェア(Word)演習-5 ・ヘッダーとフッター ・印刷・ページ設定について ・総合的な文書の作成(デジタルデータの活用)	ヘッダーとフッターの効果的な活用、印刷設定やページ設定の方法を習得する。	指導者の立場を想定し、音楽の教材作成の準備をする。
第8回	文書作成ソフトウェア(Word)演習-まとめ ・検定試験を想定した問題演習 デジタルデータの保存/クラウドコンピューティング	検定試験を想定した問題を通して理解度を確認。またスキルアップと定着をはかる。	テキストまたはコンピュータでWordの基本操作を確認する。 できなかった問題の復習。
第9回	プレゼンテーションソフトウェア ・プレゼンテーションとは ・PowerPointの基本操作	PowerPointの基本操作を習得する。	テキストまたはコンピュータでPowerPointの基本操作を確認する。
第10回	情報を集め、まとめ、発信する プレゼンテーションの準備(グループ演習)①	与えられたテーマについて意見を出し、ストーリーの構想を立てる。	プレゼンテーションのテーマに対する意見を各自まとめる。
第11回	情報を集め、まとめ、発信する プレゼンテーションの準備(グループ演習)②	与えられたテーマについての意見をまとめストーリーを組み立てる。	グループでストーリーを完成させる。
第12回	情報を集め、まとめ、発信する プレゼンテーションの準備(グループ演習)③	発表原稿による「話す」伝達手段と、PowerPointを用いた「見せる」伝達手段を効果的に組み合わせることができる。	プレゼンテーションのリハーサルを行う。
第13回	情報を集め、まとめ、発信する グループプレゼンテーション実践①	グループの考えを明確に聞き手へ伝えることができる。 実施したプレゼンテーションの良い点・反省点を挙げられる。	プレゼンテーションのリハーサルを行う。
第14回	情報を集め、まとめ、発信する グループプレゼンテーション実践②	グループの考えを明確に聞き手へ伝えることができる。 実施したプレゼンテーションの良い点・反省点を挙げられる。	これまでに学んだ情報リテラシーに関するプリント課題。 できなかった問題の復習。
第15回	本科目のまとめ	これまでに学んだ情報リテラシーの確認と苦手な部分の理解。	本科目の復習。

科目名(クラス)	コンピュータ演習B	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1～4
担当教員	湯浅 恭子	履修対象・条件	教職課程履修者と教職特設コースは必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

本演習では、コンピュータ演習Aで学んだWindowsの基本操作をもとに、ソフトウェアを用いて音楽データを取り扱います。また身近な情報端末で使われているデジタル情報の表現技術、アナログデータ・デジタルデータの違いを学びます。後半では表計算ソフトウェアを用いて情報の整理や分析を行います。
みなさんが身近にあるコンピュータを用いて、自身の音楽やその他情報発信の可能性や表現方法を見出し広げること、またコンピュータの操作を通じて考え方とその応用の仕方を見つけていくことを目的とします。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式・講義形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

課題データを保存するため、USBフラッシュメモリ(2GB～)を必ず用意してください。
授業への参加姿勢、時間と期限を守ることを重視します。
授業開始後、30分を越えてからの入室は欠席、また遅刻は3回で欠席1とします。

教科書	30時間でマスター Office2013	著者等	実教出版編修部	出版社	実教出版
教科書	必要に応じて授業時にプリントを配布	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

演習課題への取り組み姿勢(40%)
各演習ごとの提出物(30%)
学期末実技試験(30%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	Windowsの基本操作の確認 アナログとデジタル ・画像のデジタルデータ	Windowsの基本操作ができる。 画像データの表現のしくみを理解し、簡単なデータの加工ができる。	配付テキストの復習と整理。
第2回	デジタルデータの表現技術-1 ・音のデジタルデータ	音・音楽のデジタルデータの 種類・表現方法について説明できる。	自己の所有するデジタル端末で音声録音・音声編集を活用する。
第3回	デジタルデータの表現技術-2 ・いろいろな音楽ソフトウェア ・デジタルデータの統合	デジタルデータの特徴を理解し、データを統合してマルチメディアファイルを作成する。	自己の所有するデジタル端末で音楽ソフトウェアを活用する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	楽譜制作ソフトウェア(Sibelius)演習-1	楽譜制作ソフトウェアの基本操作を習得する。	配布テキストの復習と整理。
第5回	楽譜制作ソフトウェア(Sibelius)演習-2	楽譜制作ソフトウェアの基本操作を習得する。	課題制作のための譜面準備(手書き可)。
第6回	楽譜制作ソフトウェア(Sibelius)演習-3	楽譜制作ソフトウェアの基本操作を習得する。	課題制作のための譜面準備(手書き可)。
第7回	楽譜制作ソフトウェア(Sibelius)演習-4	楽譜制作ソフトウェアの基本操作を習得する。	課題制作のための譜面準備(手書き可)。
第8回	楽譜制作ソフトウェア(Sibelius)演習-5	楽譜制作ソフトウェアの基本操作を習得する。課題提出。	課題提出のための譜面準備(手書き可)。
第9回	表計算ソフトウェア(Excel)演習-1 ・文字や数字の入力 ・罫線の利用	「スケジュール管理」の考え方を理解し組み立てをすることができる。 Excelを用いて文字や罫線を入れることができる。課題提出。	進捗により、スケジュール管理表への記入を完成させてくる。 テキストまたはコンピュータでExcelの基本操作の確認をする。
第10回	表計算ソフトウェア(Excel)演習-2 ・計算式の活用①	Excelの計算機能を活用することができる。課題提出。	テキストまたはコンピュータでExcelの基本操作の確認をする。 次回「計算式の活用②」課題のための資料収集。
第11回	表計算ソフトウェア(Excel)演習-3 ・計算式の活用②	Excelの計算機能を活用することができる。課題提出。	テキストまたはコンピュータでExcelの基本操作の確認をする。
第12回	表計算ソフトウェア(Excel)演習-4 ・情報の分析(グラフ作成)	グラフの種類と特徴を理解する。 Excelを使ってグラフの作成ができる。課題提出。	テキストまたはコンピュータでExcelの基本操作の確認をする。
第13回	表計算ソフトウェア(Excel)演習-5 ・計算式の活用③	少し複雑なExcelの計算機能を活用することができる。課題提出。	テキストまたはコンピュータでExcelの基本操作の確認をする。
第14回	表計算ソフトウェア(Excel)演習-6(まとめ) 検定試験を想定した問題演習	検定試験を想定した問題を通して理解度を確認。またスキルアップと定着をはかる。	これまでに学んだ情報リテラシーに関するプリント課題。できなかった問題の復習。
第15回	本科目のまとめ	これまでに学んだ情報リテラシーの確認と苦手な部分の理解。	本科目の復習。

科目名(クラス)	ウィーンの社会と文化A-a・b	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1又は2
担当教員	荒木 洋育	履修対象・条件	全専攻必修(演奏家コースは1年次必修)				

【授業の「概要」と「目的」】

オーストリア、都市ウィーンの歴史と文化を、チェコ、スロヴァキア、ハンガリー等中欧世界の流れとも関連づけながら1年をかけてたどっていく。
 社会変動と文化との関わりが密接になる18世紀末～19世紀初頭の時期、具体的には「ウィーン会議」を分岐点として考え、前期では音楽を含む文化の流れを全体の流れよりも先行させる形で授業を進める。
 ウィーンおよびオーストリアを中欧世界の枠組みのなかでとらえる思考をできるようにする。古典派音楽等を同時代の社会状況の中で理解する視点を身につけられることの2点が授業の目的となる。

【授業の「方法」と「形式」】

口頭発表など学生とのコミュニケーションをとる時間(20分～30分)、講義(60分～70分)で構成する

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・オーストリア、ウィーンの歴史・文化に関する知識を学生が初歩段階から身につけるという前提で授業を行う。
- ・口頭発表も含め、積極的な授業参加が望ましい。

教科書	(プリントを授業時に配布する)	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	『世界各国19ドナウ・ヨーロッパ史』	著者等	南塚信吾(編)	出版社	山川出版社
参考文献	(その他授業時に適宜指定)	著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・口頭発表(任意の楽曲について、自分の言葉で説明する)(50%)
 指定の時間内に選んだ曲の知名度を考慮した適切な説明をすること
- ・期末レポート(50%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	導入:オーストリアとウィーン ・「中欧」「アルプス国家」としてのオーストリア。 ・「多民族都市」としてのウィーン。	オーストリア＝ドイツ人国家という概念を超えた広い視野を身につける。	復習:授業の内容を確認する。
第2回	中世西欧世界とオーストリア(1) ・西欧世界の「辺境」としての出現。	オーストリアという地域の成立過程を理解する。	復習:授業の内容を確認する。
第3回	中世西欧世界とオーストリア(2) ・「帝国」の盛衰。 ・バーベンベルク家の支配。	「帝国」の中の諸侯領というオーストリアの位置を理解する。	復習:授業の内容を確認する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	中世西欧世界とオーストリア(3) ・ベーメンによる支配。 ・ハプスブルク家支配の開始。	ハプスブルク家＝オーストリアの構図の成立過程を理解する。	復習：授業内容を確認する。
第5回	ハプスブルク家の発展 ・ハプスブルク家の分割相続。 ・他の中欧国家との競合。	ハプスブルク家とルクセンブルク家など他の有力家門との競合を理解する。	予習：『ドナウ・ヨーロッパ史』第1章、第2章を読んでおく。 復習：授業内容を確認する。
第6回	ベーメンとハンガリー ・ベーメンの歴史。 ・ハンガリーの歴史。	中欧の構成要素としてのベーメン、ハンガリーの歴史を把握する。	予習：『ドナウ・ヨーロッパ史』第1章、第2章を読んでおく。 復習：授業内容を確認する。
第7回	「ハプスブルク帝国」の成立と宗教改革 ・諸領域の統合。 ・カール5世の「帝国」と宗教改革。	ハプスブルク家による各領域の統治、宗教改革の影響を理解する。	復習：授業内容を確認する。
第8回	三十年戦争 ・「帝国」内の宗教対立の激化。 ・戦争の経緯とウェストファリア条約(1648年)。	「三十年戦争」の歴史的意義と社会・文化への影響を理解する。	復習：授業内容を確認する。
第9回	「ドナウ帝国」の成立 ・「帝国」から「オーストリア」へ。 ・トルコとの戦争と領土拡大。	多民族国家としてのオーストリアの形式過程を理解する。	予習：『ドナウ・ヨーロッパ史』第3章を読んでおく。 復習：授業内容を確認する。
第10回	マリア＝テレジアと後継者たち ・オーストリア継承戦争と七年戦争。 ・マリア＝テレジアとヨーゼフ2世。	オーストリアにおける「啓蒙専制」とその背景を理解する。	復習：授業内容を確認する。
第11回	「神聖ローマ帝国」の終わり ・フランス革命、ナポレオンへの対処。 ・「オーストリア帝国」の成立。	「市民革命」のオーストリアへの影響とハプスブルク家の対処を理解する。	復習：授業内容を確認する。
第12回	「ウイン体制」とウィーン ・ウィーン体制の中でのオーストリアの位置。 ・「三月前期」の政治体制。	19世紀前半オーストリアの政治、社会状況を理解する。	復習：授業内容を確認する。
第13回	都市ウィーンとその音楽環境 ・ウィーンの都市構造と建造物。 ・18世紀半ばまでの音楽状況。	ウィーンの都市としての成り立ちを理解する。	予習：観光ガイドなどを読んでおく。 復習：授業内容を確認する。
第14回	モーツァルトの時代のとウィーン ・モーツァルトの活動。 ・ウィーンの文化環境。	作曲家モーツァルトについて同時代の社会・文化状況の観点から理解する。	復習：授業内容を確認し、紹介された曲を聴いておく。
第15回	ベートーヴェンの時代のウィーン ・ベートーヴェンの活動。 ・ウィーンの文化環境。 まとめ	作曲家ベートーヴェンについて同時代の社会・文化状況の観点から理解する。	復習：授業内容を確認し、紹介された曲を聴いておく。

科目名(クラス)	ウィーンの社会と文化B-a・b	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1又は2
担当教員	荒木 洋育	履修対象・条件	全専攻必修(演奏家コースは1年次必修)				

【授業の「概要」と「目的」】

前期から継続して、オーストリア、都市ウィーンの歴史と文化を他の中欧地域の流れと関連づけながらたどっていく。後期では「ウィーン会議」を起点として、社会、文化状況を改めて確認することから出発し、現代(21世紀)まで進めていく。後期の授業では、内容として現代を扱う関係上、Aで提示した目的に加えて、ウィーンでの研修を充実させるのに必要な制度とその成り立ちについての知識を身につけることが目的として加わる。

【授業の「方法」と「形式」】

口頭発表など学生とのコミュニケーションをとる時間(20分～30分)、講義(60分～70分)で構成する

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・オーストリア、ウィーンの歴史・文化に関する知識を学生が初歩段階から身につけるという前提で授業を行う。
- ・口頭発表も含め、積極的な授業参加が望ましい。

教科書	(プリントを授業時に配布する)	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	『世界各国史19 ドナウ・ヨーロッパ史』	著者等	南塚信吾(編)	出版社	山川出版社
参考文献	(その他授業時に適宜指定)	著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・口頭発表(任意の楽曲について、自分の言葉で説明する)(50%)
指定の時間内に選んだ曲の知名度を考慮した適切な説明をすること
- ・期末レポート(50%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	「二重帝国」への道 ・前期内容の確認 ・「三月革命」(1848年)とその結果	「ドイツ統一」への流れとオーストリア、ウィーンの関わりについて理解する。	予習: 前期内容全般を理解しておく。 復習: 授業内容を確認する。
第2回	ロマン主義時代前半のウィーン ・「三月革命」ころまでのウィーンの文化状況。 ・ウィンナ・ワルツ、音楽院の成立。	19世紀前半のウィーンの音楽環境の整備について理解する。	復習: 授業内容を確認する。 紹介された曲を聴いておく。
第3回	「二重帝国」の推移 ・1867年に成立したいわゆる「オーストリア＝ハンガリー二重帝国」の構造。	「二重帝国」とその主要三部分(オーストリア、ハンガリー、ペーメン)の関わりを理解する。	予習: 『ドナウ・ヨーロッパ史』第6章を読んでおく。 復習: 授業内容を確認する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	「二重帝国」とハプスブルク家 ・1890年代以降の世界情勢の変化とオーストリアとの関係。	「二重帝国」とバルカン地域との関わりについて理解する。	予習:『ドナウ・ヨーロッパ史』第6章を読んでおく。 復習:授業内容を確認する。
第5回	第一次世界大戦とハプスブルク家の没落 ・「サラエヴォ事件」とその背景。 ・第一次世界大戦の推移と「帝国」の崩壊。	オーストリアとセルビア・ロシアとの対立、大戦を通じてのオーストリア、ハンガリー、ベーメン三地域の分離を理解する。	復習:授業内容を確認する。
第6回	ブラームス・ブルックナーの時代 ・ブラームス、ブルックナーのウィーンでの活動。 ・19世紀後半ウィーンの音楽・文化環境。	いわゆる「ヴァーグナー論争」と同時代の作曲家たちの関わりについて理解する。	復習:授業内容を確認し、紹介された曲を聴いておく。
第7回	マーラーと世紀末ウィーンの文化 ・「ウィーン分離派」 ・作曲家、指揮者としてのマーラーの活動。	作曲家マーラーをクリムトなど「ウィーン分離派」の活動と関連づけて理解する。	復習:授業内容を確認し、紹介された曲を聴いておく。
第8回	「第一共和国」の成立 ・ヴェルサイユ条約とサン＝ジェルマン条約。 ・オーストリア、ハンガリー、チェコスロヴァキアの推移。	サン＝ジェルマン条約によるオーストリアの変動を理解する。	予習:『ドナウ・ヨーロッパ史』第7章を読んでおく。 復習:授業内容を確認する。
第9回	アンシュルス(合邦)と「第一共和国」の終末 ・世界恐慌のオーストリアへの影響。 ・ドルフス政権とアンシュルスへの道。	いわゆる「オーストロ＝ファシズム」、およびナチス＝ドイツによるアンシュルスについて理解する。	予習:『ドナウ・ヨーロッパ史』第8章を読んでおく。 復習:授業内容を確認する。
第10回	第二次世界大戦とオーストリアの再興 ・併合時代のオーストリア。 ・英米仏ソによる分割占領。	大戦後のオーストリアのドイツからの「分離」、独立回復への道を理解する。	復習:授業内容を確認する。
第11回	20世紀前半のウィーンの文化、音楽 ・リヒャルト＝シュトラウスの活動。 ・「新ウィーン楽派」の活動。	20世紀前半のウィーンの様況と「新ウィーン楽派」の関わりを理解する。	復習:授業内容を確認し、紹介された曲を聴いておく。
第12回	東西冷戦期のオーストリア、ウィーン(1) ・冷戦の進行と中欧の分断。 ・オーストリア国家条約。	「鉄のカーテン」により中欧が分断された状況を理解する。	復習:授業内容を確認する。
第13回	東西冷戦期のオーストリア、ウィーン(2) ・永世中立国オーストリア。 ・「プラハの春」と東欧民主化。	冷戦後半期の中欧の様況および冷戦終結の影響を理解する。	復習:授業内容を確認する。
第14回	現代のオーストリア、ウィーン(1) ・中欧諸国のEU参加。 ・20世紀末のオーストリアの様況。	中欧世界の「復活」、欧州一体化への参加を理解する。	復習:授業内容を確認する。
第15回	現代のオーストリア、ウィーン(2) ・20世紀後半のオーストリアの文化、音楽。 ・21世紀のオーストリア。 まとめ	現代(21世紀)オーストリアの文化様況を理解する。	復習:授業内容を確認し、紹介された曲を聴いておく。

科目名(クラス)	スポーツ文化論	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	江向 真理子	履修対象・条件	教職課程履修者必修。教職特設コース必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

スポーツの歴史と発展していく過程を学ぶことにより、社会とのかかわりやどのような影響を受けてきたのかを考える。各種スポーツが発生した背景、歴史を学び知識を深める。オリンピックの歴史を学び、2020東京オリンピック、パラリンピックについて考える。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式・関連するDVDを視聴することもある。

【履修時の「留意点」と「心得」】

参考資料を配布
授業の最後5～10分間で確認テストを行う

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	現代生活とスポーツ文化	著者等	金芳保之 他	出版社	大修館
参考文献	スポーツの歴史と文化ースポーツ史を学ぶー	著者等	新井 博 他	出版社	道和書院

【成績評価の「方法」と「基準」】

平常点50%・・・各回のテストと授業への参加状況
学期末テスト50%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	スポーツとはなにか	単に競技として考えるのではなく、生活に密着して発展してきたものであると理解する	配布した資料を読んでおく
第2回	スポーツの起源はなにか	単に競技として考えるのではなく、生活に密着して発展してきたものであると理解する	配布した資料を読んでおく
第3回	古代オリンピック	古代オリンピックの特徴について知識を深める	配布した資料を読んでおく

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	中世のスポーツ 農民、都市の祭りとスポーツ ショースポーツ	人々が多く集まる祭りの場で遊びやゲームなどからスポーツに発展していったことを理解する	配布した資料を読んでおく
第5回	近代のスポーツ パブリックスクールでのスポーツ①	教育の手段としてスポーツが行われていたことを理解する	配布した資料を読んでおく
第6回	学校教育とスポーツ②	教育の手段としてスポーツが行われていたことを理解する	配布した資料を読んでおく
第7回	近代オリンピック① ピエール・ド・クーベルタンの主張	オリンピックの精神とクーベルタンの考えを理解する	あらかじめ配布した資料を読んでおく
第8回	近代オリンピック② 第二次世界大戦まで	ヨーロッパから世界に広がったことを理解する	配布した資料を読んでおく
第9回	近代オリンピック③ 第18回東京大会を中心に	オリンピック開催がその国の社会に与えた影響について考える	配布した資料を読んでおく
第10回	これからのオリンピック、パラリンピックについて考える	国をあげての巨大イベントになったオリンピックについて今後の方向性について考えてみる	配布した資料を読んでおく
第11回	2020年東京オリンピック、パラリンピック大会に向けた取り組み①	東京大会に向けて様々な方面から準備が進められていることについて理解する	あらかじめ配布した資料を読んでおく
第12回	2020年東京オリンピック、パラリンピック大会に向けた取り組み②	私たちができることはなにか、また、やらなければいけない課題はあるのかを考える	配布した資料を読んでおく
第13回	スポーツに求められているもの① DVD視聴	全国で行われているラジオ体操についての歴史を知り、今後の発展と継続性について考える	配布した資料を読んでおく
第14回	スポーツに求められているもの② 多様化するスポーツ DVD視聴	各種スポーツについて理解を深める	配布した資料を読んでおく
第15回	まとめ		学んだ内容を振り返り、実践に生かす。

科目名(クラス)	スポーツ演習a	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	南 明恵美	履修対象・条件	教職課程履修者は必修。教職特設コースは必修				

【授業の「概要」と「目的」】

・基礎運動能力(走・跳・投)を高め、様々なスポーツを楽しめるような体の使い方の基本を確認する。幼児期には運動が好きなのがほとんどであるが、いつの頃からか運動が苦手になったり、嫌いになったりしてしまうことがある。その理由の一つに「出来ないから」がある。そこでスポーツを楽しむためのコーディネーション(運動の神経支配、調整力)を高める運動を中心に行う。
 ・体を使ったゲーム・レクリエーションは、心身のリフレッシュ、コミュニケーションや親睦を深めるために有効である。経験してきた遊び、過去に体験したゲームを実施するとともに、ニュー・スポーツといわれるカテゴリーより、レクリエーションの観点から運動していく。
 ・自分の体を見つめ直し、体を「作る」「操(あやつる)」方法と手段として「体操」を、自分の体を使って自己表現する「ダンス」にもチャレンジする。

【授業の「方法」と「形式」】

自己の行動データを分析し、必要な運動を個人やグループでおこなう。ほとんどの授業は講堂で行うが、他に、グランドも使用する。

【履修時の「留意点」と「心得」】

怪我の予防のため必ず運動に適した服装で出席する。踵のある靴、伸縮性の無い素材の服での受講は不可。名前を見えるところにつけることが望ましい。不規則になりがちな大学生活の中で、健康を管理し出席する事を重要とし、遅刻は3回で1回欠席とする。ただし、見学は授業の記録や審判をすることで出席となる。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	健康づくりへのアプローチ	著者等	石井兵衛	出版社	文光堂
参考文献	体脂肪を落として「筋肉質」になる	著者等	金子嘉徳	出版社	女子栄養大学出版社

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への参加度 70%
 態度;リーダーシップ・フレンドシップ・協調性、授業の準備(服装等)・用具の管理等 20%
 知識;レポート課題 10%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	講義「大学時代以降の身体の変化と健康危機」 ・授業の受講の仕方 着替えなくてもよい	現代社会において運動の必要性を説明できる。	日常に「必要な運動量を算出」する
第2回	前半講義【体脂肪のことを知る】 後半実技【基礎運動能力の向上と「筋カトレーニング」と「手具体操」・「エアロビック・ダンス」】	太り辛い体質になる理論を説明できる。手段としてエアロビック運動の実演ができる。	日常の「目標の運動強度を算出」する
第3回	前半講義【体脂肪のことを知る】 後半実技【基礎運動能力の向上と「筋カトレーニング」と「手具体操」・「エアロビック・ダンス」】	「ストレッチング」の必要性が説明・実演できる。	体脂肪を測定し、[日常の運動量]を考察する

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	【バドミントン(で運動能力向上)】 ラケットの握り方 バドミントンのサーブ、レシーブ 【基礎運動能力の向上として「筋力トレーニング」と「手具体操」・「簡単なHIP・HOP」】	その運動に必要な体カトレーニング方法を理解し、ゲームができる力をさらに伸ばした。運動を通じて集団で課題を解決し、自己の責任を果たした。	予習としてストレッチング、基礎運動能力を高める運動を実践する
第5回	【バドミントン(で運動能力向上)】 ゲーム レシーブと攻撃 ダブルスのゲームの仕方【基礎運動能力の向上として「筋力トレーニング」と「手具体操」・「簡単なHIP・OP」】	ひとつの運動方法を知り、ゲームができる力を高められた。運動を通じて集団で課題を解決した。	予習としてストレッチング、基礎運動能力を高める運動を実践する
第6回	【ソフトバレーボール(で運動能力向上)】 ボール遊びからボールゲームへ 【基礎運動能力の向上として「筋力トレーニング」と「手具体操」・「簡単なHip・HOP」】	その運動に必要な体カトレーニング方法を理解し、ゲームができる力をさらに伸ばした。運動を通じて集団で課題を解決し、自己の責任を果たした。	予習としてストレッチング、基礎運動能力を高める運動を実践する
第7回	【ソフトバレーボール(で運動能力向上)】 ボールを使った運動からボールゲーム「ソフトバレーボール」へ バレーボールのサーブ、レシーブ ゲーム レシーブ、トス、パスの仕方	ひとつの運動方法を知り、ゲームができる力を高められた。運動を通じて集団で課題を解決した。	予習としてストレッチング、基礎運動能力を高める運動を実践する
第8回	【ボートボール(で運動能力向上)】 ボール遊びからボールゲームへ ゲーム 攻撃・守備の仕方	その運動に必要な体カトレーニング方法を理解し、ゲームができる力をさらに伸ばした。運動を通じて集団で課題を解決し、自己の責任を果たした。	予習としてストレッチング、基礎運動能力を高める運動を実践する
第9回	【ボートボール(で運動能力向上)】 ボール遊びからボールゲームへ ゲーム 攻撃・守備の仕方 ゲームの運営と参加 評価	ひとつの運動方法を知り、ゲームができる力を高められた。運動を通じて集団で課題を解決した。	予習としてストレッチング、基礎運動能力を高める運動を実践する
第10回	【卓球(で運動能力向上)】 ラケットの握り方、サーブ、レシーブ 【自己にあったストレッチング及び筋力トレーニング】 実技テスト	その運動に必要な体カトレーニング方法を理解し、ゲームができる力をさらに伸ばした。運動を通じて集団で課題を解決し、自己の責任を果たした。	復習として、日常の運動量を増やす計画を発表する
第11回	【卓球(で運動能力向上)】 ダブルスのゲーム攻撃の仕方 【自己にあったストレッチング及び筋力トレーニング】 実技テスト	ひとつの運動方法を知り、ゲームができる力を高められた。運動を通じて集団で課題を解決した。	復習として、日常の運動量を増やす計画を発表する
第12回	【ユニバーサル・ホッケー】 ストックの握り方、パス、レシーブ、シュート ルール理解・コーディネーション力評価	その運動に必要な体カトレーニング方法を理解し、ゲームができる力をさらに伸ばした。運動を通じて集団で課題を解決し、自己の責任を果たした。	体脂肪を測定し、運動量の過不足を判断する
第13回	【ユニバーサル・ホッケー】 ストックの握り方、パス、レシーブ、シュート ルール理解・コーディネーション力評価	ひとつの運動方法を知り、ゲームができる力を高められた。運動を通じて集団で課題を解決した。	復習として、日常の運動量を増やす計画を発表する
第14回	【キックベース・ボール(で親睦)】 ルール理解	その運動に必要な体カトレーニング方法を理解し、ゲームができる力をさらに伸ばした。運動を通じて集団で課題を解決し、自己の責任を果たした。	復習として、日常の運動量を増やす計画を発表する
第15回	【キックベース・ボール(で親睦)】 ルール理解	ひとつの運動方法を知り、ゲームができる力を高められた。運動を通じて集団で課題を解決した。	復習として、日常の運動量を増やす計画を発表する

科目名(クラス)	スポーツ演習b	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	南 明恵美	履修対象・条件	教職課程履修者は必修。教職特設コースは必修				

【授業の「概要」と「目的」】

・基礎運動能力(走・跳・投)を高め、様々なスポーツを楽しめるような体の使い方の基本を確認する。幼児期には運動が好きな子がほとんどであるが、いつの頃からか運動が苦手になったり、嫌いになったりしてしまうことがある。その理由の一つに「出来ないから」がある。そこでスポーツを楽しむためのコーディネーション(運動の神経支配、調整力)を高める運動を中心に行う。
 ・体を使ったゲーム・レクリエーションは、心身のリフレッシュ、コミュニケーションや親睦を深めるために有効である。経験してきた遊び、過去に体験したゲームを実施するとともに、ニュー・スポーツといわれるカテゴリーより、レクリエーションの観点から運動していく。
 ・自分の体を見つめ直し、体を「作る」「操(あやつる)」方法と手段として「体操」を、自分の体を使って自己表現する「ダンス」にもチャレンジする。

【授業の「方法」と「形式」】

自己の行動データを分析し、必要な運動を個人やグループでおこなう。ほとんどの授業は講堂で行うが、他に、グランドも使用する。

【履修時の「留意点」と「心得」】

怪我の予防のため必ず運動に適した服装で出席する。踵のある靴、伸縮性の無い素材の服での受講は不可。名前を見えるところにつけることが望ましい。不規則になりがちな大学生活の中で、健康を管理し出席する事を重要とし、遅刻は3回で1回欠席とする。ただし、見学は授業の記録や審判をすることで出席となる。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	健康づくりへのアプローチ	著者等	石井兵衛	出版社	文光堂
参考文献	体脂肪を落として「筋肉質」になる	著者等	金子嘉徳	出版社	女子栄養大学出版社

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への参加度 70%
 態度;リーダーシップ・フレンドシップ・協調性、授業の準備(服装等)・用具の管理等 20%
 知識;レポート課題 10%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	講義「大学時代以降の身体の変化と健康危機」 ・授業の受講の仕方 着替えなくてもよい	現代社会において運動の必要性を説明できる。	日常に「必要な運動量を算出」する
第2回	前半講義【体脂肪のことを知る】 後半実技【基礎運動能力の向上と「筋力トレーニング」と「手具体操」・「エアロビック・ダンス」】	太り辛い体質になる理論を説明できる。手段としてエアロビック運動の実演ができる。	日常の「目標の運動強度を算出」する
第3回	前半講義【体脂肪のことを知る】 後半実技【基礎運動能力の向上と「筋力トレーニング」と「手具体操」・「エアロビック・ダンス」】	「ストレッチング」の必要性が説明・実演できる。	体脂肪を測定し、[日常の運動量]を考察する

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	【バドミントン(で運動能力向上)】 ラケットの握り方 バドミントンのサーブ、レシーブ 【基礎運動能力の向上として「筋力トレーニング」と「手具体操」・「簡単なHIP・HOP」】	その運動に必要な体カトレーニング方法を理解し、ゲームができる力をさらに伸ばした。運動を通じて集団で課題を解決し、自己の責任を果たした。	予習としてストレッチング、基礎運動能力を高める運動を実践する
第5回	【バドミントン(で運動能力向上)】 ゲーム レシーブと攻撃 ダブルスのゲームの仕方【基礎運動能力の向上として「筋力トレーニング」と「手具体操」・「簡単なHIP・HOP」】	ひとつの運動方法を知り、ゲームができる力を高められた。運動を通じて集団で課題を解決した。	予習としてストレッチング、基礎運動能力を高める運動を実践する
第6回	【ソフトバレーボール(で運動能力向上)】 ボール遊びからボールゲームへ 【基礎運動能力の向上として「筋力トレーニング」と「手具体操」・「簡単なHip・HOP」】	その運動に必要な体カトレーニング方法を理解し、ゲームができる力をさらに伸ばした。運動を通じて集団で課題を解決し、自己の責任を果たした。	予習としてストレッチング、基礎運動能力を高める運動を実践する
第7回	【ソフトバレーボール(で運動能力向上)】 ボールを使った運動からボールゲーム「ソフトバレーボール」へ バレーボールのサーブ、レシーブ ゲーム レシーブ、トス、パスの仕方	ひとつの運動方法を知り、ゲームができる力を高められた。運動を通じて集団で課題を解決した。	予習としてストレッチング、基礎運動能力を高める運動を実践する
第8回	【ポートボール(で運動能力向上)】 ボール遊びからボールゲームへ ゲーム 攻撃・守備の仕方	その運動に必要な体カトレーニング方法を理解し、ゲームができる力をさらに伸ばした。運動を通じて集団で課題を解決し、自己の責任を果たした。	予習としてストレッチング、基礎運動能力を高める運動を実践する
第9回	【ポートボール(で運動能力向上)】 ボール遊びからボールゲームへ ゲーム 攻撃・守備の仕方 ゲームの運営と参加 評価	ひとつの運動方法を知り、ゲームができる力を高められた。運動を通じて集団で課題を解決した。	予習としてストレッチング、基礎運動能力を高める運動を実践する
第10回	【卓球(で運動能力向上)】 ラケットの握り方、サーブ、レシーブ 【自己にあったストレッチング及び筋力トレーニング】 実技テスト	その運動に必要な体カトレーニング方法を理解し、ゲームができる力をさらに伸ばした。運動を通じて集団で課題を解決し、自己の責任を果たした。	復習として、日常の運動量を増やす計画を発表する
第11回	【卓球(で運動能力向上)】 ダブルスのゲーム攻撃の仕方 【自己にあったストレッチング及び筋力トレーニング】 実技テスト	ひとつの運動方法を知り、ゲームができる力を高められた。運動を通じて集団で課題を解決した。	復習として、日常の運動量を増やす計画を発表する
第12回	【ユニバーサル・ホッケー】 ストックの握り方、パス、レシーブ、シュート ルール理解・コーディネーション力評価	その運動に必要な体カトレーニング方法を理解し、ゲームができる力をさらに伸ばした。運動を通じて集団で課題を解決し、自己の責任を果たした。	体脂肪を測定し、運動量の過不足を判断する
第13回	【ユニバーサル・ホッケー】 ストックの握り方、パス、レシーブ、シュート ルール理解・コーディネーション力評価	ひとつの運動方法を知り、ゲームができる力を高められた。運動を通じて集団で課題を解決した。	復習として、日常の運動量を増やす計画を発表する
第14回	【キックベース・ボール(で親睦)】 ルール理解	その運動に必要な体カトレーニング方法を理解し、ゲームができる力をさらに伸ばした。運動を通じて集団で課題を解決し、自己の責任を果たした。	復習として、日常の運動量を増やす計画を発表する
第15回	【キックベース・ボール(で親睦)】 ルール理解	ひとつの運動方法を知り、ゲームができる力を高められた。運動を通じて集団で課題を解決した。	復習として、日常の運動量を増やす計画を発表する

科目名(クラス)	ドイツ語1-a・b	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	高橋 幸雄	履修対象・条件	演奏家コースは履修不可				

【授業の「概要」と「目的」】

ドイツ語圏(ドイツ、オーストリア、スイス等)の文化理解のために、基本的な文法と発音そして文構造を身につけて行くことを主眼に置きます。
既習の英語との違いを意識しながら練習中心の授業を展開します。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式です。反復練習のための問題を数多く行います。

【履修時の「留意点」と「心得」】

まずドイツ語の構造を理解し、変化の定着を行いますから、規則の反復練習(復習)が最重要です。

教科書	怖くはないぞドイツ文法	著者等	春日正男	出版社	朝日出版
教科書		著者等		出版社	
参考文献	アクセス独和辞典] いずれか	著者等	出版社	三修社
参考文献	新アポロン独和辞典		著者等	出版社	同学社

【成績評価の「方法」と「基準」】

小テスト(40%)、課題提出(10%)、定期試験(50%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	ドイツ語圏を知る。又、基本的な発音の特徴をつかむ。	ドイツ語の話されている地域を明確にする。実際にドイツ語の単語発音ができるようにする。	・日本語になったドイツ語を見つける。 ・習った発音をくり返し練習し、慣れる。
第2回	特徴的な発音に慣れる。動詞の人称変化を知る。	動詞の変化に慣れ、語尾変化を身につける。	・人称変化をノートにまとめる。 ・練習問題を用いて動詞の人称変化を練習する。
第3回	規則変化の特徴を練習し、実際に文章を作ってみる。	人称変化語尾を確実に使用できるようにする。	・教科書から動詞を抜き出し、人称変化する。 ・変化の練習を他のさまざまな動詞でやってみる。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	不規則変化を学ぶ。規則動詞との違いを理解する。	重要不規則動詞を確実に覚え、使えるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・不規則動詞の練習を行ってみる。 ・不規則動詞の練習を行ってみる。
第5回	文について知る。動詞の位置を中心に。	文の中での動詞の語順を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで学んだ語順をまとめる。 ・語のならびを意識して文を作る練習をする。
第6回	動詞を作って疑問文を作り、人称変化を意識して答えの文を作ってみる。	動詞の語順を確実に身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・疑問文を教科書から抜き出す。 ・疑問文を既習の動詞を使って作り、応答練習を繰り返す。
第7回	名詞の性について考える。性(男性、女性、中性)の重要性を理解する。	性の見分け方を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書から名詞を抜き出し、整理する。 ・習った名詞を性に分類し、動詞と併に使ってみる。
第8回	冠詞類を用いて文を組み立てる。	冠詞の変化を覚える。	<ul style="list-style-type: none"> ・冠詞類をまとめる。 ・練習問題で冠詞を使用し定着させる。
第9回	格の使い方を英語との比較の中でする。	格変化ができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・格変化をノートにまとめる。 ・問題を用いて、格変化の練習をする。
第10回	名詞と動詞を用いて文を組み立てる。	動詞、冠詞の変化の定着をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> ・冠詞の変化をノートに書き出してみる。 ・語尾、格変化の練習を数多くする。
第11回	前置詞を格変化とともに使う。	冠詞の変化を、前置詞に応用できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の例文から前置詞を抜き出す。 ・前置詞の格支配を意識して練習し、身につける。
第12回	前置詞の応用練習をする。	3・4格で使用できる前置詞と熟語句を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・例文を覚える。 ・動詞との関連の中で3・4格支配の前置詞を練習してみる。
第13回	人称代名詞を学ぶ。	主語以外の使い方を変化と併に身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の文の中の名詞を代名詞に置きかえる。 ・人称代名詞の変化を覚え、文の中で使ってみる。
第14回	語法の助動詞を身につける。	助動詞の変化を覚え、一般動詞とともに使えるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書から助動詞文を抜き出してみる。 ・助動詞の変化を、一般動詞の変化と比較して練習する。
第15回	語法の助動詞の使い方の定着と学んできたことのまとめ。	既習の文法項目を再度確認して使用できるようにする。	変化と語順についてまとめてみる。

科目名(クラス)	ドイツ語2-a・b	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	高橋 幸雄	履修対象・条件	演奏家コースは履修不可				

【授業の「概要」と「目的」】

1で学んだ内容をさらに確実なものにしながら、文を読む力をつけるため次の文法的ステージに移行します。文を中心にしながら、分離動詞、再帰動詞、時制という初級文法の基礎になる項目の習得を目指します。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式で問題解読を数多く行います。

【履修時の「留意点」と「心得」】

反復練習が更に重要です。又、ドイツとドイツ語圏への興味を積極的に持って下さい。

教科書	怖くはないぞドイツ文法	著者等	春日正男	出版社	朝日出版
教科書		著者等		出版社	
参考文献	アクセス独和辞典	いずれか	著者等	出版社	三修社
参考文献	新アポロン独和辞典				

【成績評価の「方法」と「基準」】

小テスト(40%)、課題提出(10%)、定期試験(50%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	1の学習範囲の復習、及び今期の学習項目の概略。	変化とドイツ文を組み立てる際の規則の定着。	・動詞の人称変化と格変化の確認。又、文構造の概略を再確認。 ・例文の独作文を作る。
第2回	助動詞と未来形の関係を知る。	助動詞文の定着と未来形の実際の使用を身につける。	・枠構造の理解を深めるため助動詞を使った単文を作る練習をする。 ・練習問題の独作文に取り組む。
第3回	分離動詞の特徴を学ぶ。	動詞の変化と枠構造を身につける。	・不規則変化の再確認を変化表を用いて行う。 ・教科書の例文を訳す。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	簡単な文章を読んでみる。 都市物語 ミュンヘンとザルツブルク	変化と文構造を意識して文を読めるようにする。	・ミュンヘンとザルツブルクについて調べてみる。 ・調べた事例との違いを整理する。
第5回	再帰動詞を学ぶ。及び人称代名詞と再帰代名詞。	人称代名詞の変化を確実なものにする。又、再帰代名詞との相違を考える。	・人称代名詞の使い方を復習しておく。 ・例文の問題に取り組む。
第6回	分離動詞と再帰動詞を用いた文章を読む。	枠構造の再定着と変化の再確認ができるようにする。	・変化表を使って分離、再帰で出てきた不規則動詞を確認する。 ・プリントの課題を解いてみる。
第7回	時制について学ぶ(1) ドイツ語の「時」の考え方	文法的時制と実際の使う時制を理解する。	・変化表を用いて三基本形に慣れる。 ・課題の時制文を解く。
第8回	時制について学ぶ(2) 過去形について	過去人称変化を習得する。	・現在人称変化の再確認をする。 ・過去形の文を読む。
第9回	時制について学ぶ(3) 現在完了について	現在完了形の形式と動詞の変化を習得する。	・英語との相違を考えてみる。 完了形の形式を反復練習する。 ・課題の文を読む。
第10回	時制について学ぶ(4) その他の時制について考えてみる	6時制の確認と実際に使用する時制を分けられるようにする。	・時制全体を図にしてまとめる。 ・グリム童話を読む①
第11回	接続詞について考えてみる。	接続詞の種類を見分けられるようにする。	・語順に注意して文をつなげてみる練習をする。 ・教科書の課題を解く。
第12回	時制を含んだ文章を読んでみる。	過去形、完了形の定着をはかるようにする。	・現在文を他の時制に置き換える練習をする。 ・グリム童話を読む②
第13回	独検の練習問題を解いてみる(1)	今期に学習した文法項目を確認する。	・変化や格、文構造に注意して問題を解いてみる。 ・誤った項目の問題にあたる。
第14回	独検の練習問題を解いてみる(2)	特に枠構造の文を中心に文を組み立てられるようにする。	・独作文をさまざまなテーマをたてて実践してみる。 ・誤った項目の問題にあたる。
第15回	今期で学んだことをまとめてみる。	問題集を使って既習の項目の定着をはかる。	1・2で学んだ変化や構造をまとめてみる。

科目名(クラス)	ドイツ語3	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	高橋 幸雄	履修対象・条件	演奏家コースは履修不可				

【授業の「概要」と「目的」】

ドイツ語1・2で習得した文法知識をさらに高めるために、未習の項目を学習します。
 形容詞、関係代名詞、受動態、接続法をまず学習し、その上で文章を読むことによって、実践力を身につけて行きます。
 異文化としての文化領域にも触れながら進めます。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式で練習問題を数多く解いて行きます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

課題としての問題を数多く練習します。復習を兼ねた予習を既習の文法項目を使い確実にこなして下さい。

教科書	CD付きドイツ人の生活を知る11章	著者等	大谷弘道	出版社	三修社
教科書		著者等		出版社	
参考文献	アクセス独和辞典] いずれか	著者等	出版社	三修社
参考文献	新アポロン独和辞典		著者等	出版社	同学社

【成績評価の「方法」と「基準」】

小テスト(40%)、課題提出(20%)、定期試験(40%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	初級文法の総復習(1)	語尾変化、格変化を確実に身につける。	・既習の項目の変化表を確認する。 ・プリントの問題を解く。
第2回	初級文法の総復習(2)	時制の文型を確実に使えるようにする。	・時制の項目で扱った問題を再確認してみる。 ・時制の文を読んでみる。
第3回	形容詞の比級、最高級を学ぶ。	原級の文の比較、最高級への転換を身につける。	・練習問題で比較級、最高級を作ってみる。 ・教科書の問題を解く。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	関係代名詞について学ぶ(1)	関係代名詞の変化形を身につける。	・定冠詞の変化の再確認と関係代名詞との違いを練習する。 ・プリントの課題を解いてみる。
第5回	関係代名詞について学ぶ(2) (不定関係代名詞)	定関係代名詞と不定関係代名詞を使って文を作れるようになる。	・関係文を数多く練習する。 ・課題のプリントを訳してみる。
第6回	関係代名詞の含む文章を読む	実際の文章の中で関係代名詞を使えるようになる。	・辞書を用いて自分で読み疑問点を確認してみる。 ・課題のプリントを訳してみる。
第7回	受動文について学ぶ(1)	受動の形式を身につける。	・変化表を用いて過去分詞の形を確認する。 ・プリントの問題を解く。
第8回	受動文を実際に使ってみる(2)	形式と時制を受動文の中で使用できるようにする。	・時制の項目で扱った問題を再確認してみる。 ・長文を訳してみる。
第9回	受動文の文章を読む	実際の文の中で受動を定着させる。	・辞書を用いて読み問題点を確認してみる。 ・長文を訳してみる。
第10回	不定詞の使い方を学ぶ	zu不定詞の使い方を身につける。	・不定詞の問題を繰り返して行う。 ・課題のプリントで自作してみる。
第11回	分詞の使い方	分詞の使い方を形容詞の用法とともに定着させる。	・形容詞の変化と使い方を再確認する。 ・形容詞の文を読んでみる。
第12回	接続法の使い方(1)	接続法の形式と時制を直接法との関連で整理する。	・直接法と接続法の変化の違いを練習する。 ・教科書の問題を解いてみる。
第13回	接続法の時制(2)	時制の考え方を身につける。	・直接法と接続法の時制に従って文を作る練習をする。 ・I式II式の独作文にあたる。
第14回	接続法の文を読む(3)	接続法の形を実際使われている文の中で理解する。	・辞書を用いて読んでみる。そして、問題点を見つける。 ・長文を読んでみる。
第15回	学んだことのまとめ。	既習の文法項目を確実なものにする。	総合練習問題を行ってみる。

科目名(クラス)	ドイツ語4	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	高橋 幸雄	履修対象・条件	演奏家コースは履修不可				

【授業の「概要」と「目的」】

3で積み上げた文法項目を実際のドイツ文を読むことを通して定着をさせていきます。ベルリンを中心としたドイツの都市めぐりを主題にしながら読む力と文法力の増強をはかります。更に、ドイツ語をさまざまな文化的視点から考えてみます。異文化を実感として体験できるDVDを仕様しながら授業を進めます。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式で行い、読解力向上のための文章を数多く扱います。

【履修時の「留意点」と「心得」】

ドイツ文化に目を向けて、正確に文を読む力をつけます。辞書を使いこなすスキルを積極的に身につけてください。

教科書	CD付きドイツ人の生活を知る11章	著者等	大谷弘道	出版社	三修社
教科書		著者等		出版社	
参考文献	アクセス独和辞典	} いずれか	著者等	出版社	三修社
参考文献	新アポロン独和辞典		著者等	出版社	同学社

【成績評価の「方法」と「基準」】

小テスト(40%)、課題提出(20%)、定期試験(40%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	既習の文法を語尾変化、人称変化、時制を通してまとめる	初級文法の基本知識の確認と形式を理解する。	・初級文法のまとめのプリントを確認。 ・プリントの課題を行う。
第2回	ベルリン(1) (動詞群をまとめる)	ドイツ文化の基盤を知る。動詞の位置をまとめる。	・動詞の語順の整理を行う。 ・教科書の長文にあたる。①
第3回	ベルリン(2) (名詞群をまとめる)	名詞関連の語尾変化を理解する。	・名詞の格変化表を確認する。 ・教科書の長文にあたる。②

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	ブレーメン (疑問詞のもう一つの使い方)	間接疑問の語順を習得する。	・疑問詞の変化を再確認する。 ・例文を読む。
第5回	ヴッパータール (不定代名詞)	代名詞のさまざまなを確認し、変化を確実にする。	・人称代名詞の復習と他の代名詞の違いをプリントを使って練習する。 ・例文を読む。
第6回	ケルン (接続詞のいろいろ)	副詞的接続詞と熟語構文を使ってみる。	・既習の接続詞と文の中での構文としての接続詞を練習する。 ・長文を読む。①
第7回	バーデン・バーデン (熟語としての前置詞)	動詞熟語を身につける。	・動詞の格と前置詞の格を独作文で確認する。 ・長文を読む。②
第8回	アウグスブルク (助動詞の他の使い方を知る)	助動詞の基本的な使い方と発展型を使えるようにする。	・助動詞の変化の確認と語順を復習する。 ・長文を読む。③
第9回	バンベルク (不定詞句について)	不定詞の使い方のバリエーションを文章として使用できるようにする。	・zu不定詞の基本的な用法をプリントで確認する。 ・例文を読む。
第10回	マイセン (時制の実際)	時制を実際の使われ方から見て自分で表現できるようにする。	・6時制について復習する。 ・例文を読む。
第11回	ヴィッテンベルク (現在完了形のいろいろ)	現在完了形についてさまざまなバリエーションを定着させる。	・基本的な現在完了形について復習しておく。 ・完了形の文を独作する。
第12回	ミュンヘン (関係代名詞のさまざまな使い方)	特殊な関係代名詞の使い方について実際の文の中で理解する。	・関係代名詞の動詞の語順について前もって確認しておく。 ・関係文の問題を解く。
第13回	ウィーン (能動文による受動表現)	受動表現について事例にあたり理解する。	・受動表現をプリントで練習する。 ・受動分の問題を解く。
第14回	ザルツブルク (さらに構文について知る)	構文について実際の文の中で理解する。	・基本構文を覚え、文の中で確認する。 ・構文の例文を訳す。
第15回	まとめ (ドイツ、オーストリア文化に関する文を読む)	文法を生きた道具とするための活用法について学ぶ。	次のステップにそなえるために素材を考える。

科目名(クラス)	ドイツ語圏 異文化コミュニケーション1-a・b	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	I.K.Lenz	履修対象・条件					

【授業の「概要」と「目的」】

「話すこと」を中心にコミュニケーション能力を高めることを主眼に授業を進めます。
日常生活の中のさまざまな対話形式を通してドイツ語で表現する力を養成します。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式で、毎回ダイアログを行います。

【履修時の「留意点」と「心得」】

「話す」ことに積極的な関心を持って下さい。毎時間簡単な対話形式の会話を行います。

教科書	シュリットヒュア シュリットミニ	著者等	今井田亜弓	出版社	三修社	
教科書		著者等		出版社		
参考文献	アクセス独和辞典]	いずれか	著者等	出版社	三修社
参考文献	新アポロン独和辞典					

【成績評価の「方法」と「基準」】

課題提出(30%)、対話テスト(30%)、定期試験(40%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	ドイツ、オーストリアを知る(発音)	ドイツ、オーストリアの基本知識を得る。発音に慣れる。	楽語の発音をくり返し練習する。
第2回	あいさつ表現に慣れる。	あいさつ表現を通して発音に更に慣れる。	更に発音練習をくり返す。
第3回	出会い(動詞の使い方)①	人称変化を習得する。	動詞の変化を問題で確認する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	若者達 (動詞の使い方)②	重要動詞の使い方を覚える。	プリントで動詞の変化の再確認を行う。
第5回	パーティーにて (性について格変化を使えるようにする)①	格変化を性別に習得する。	男性、女性、中性の3つの性の冠詞を名詞につけて練習する。
第6回	週末をどう過ごすか (疑問文の作り方と格)②	対話形式の中で、動詞、冠詞を使えるようにする。	動詞の位置をプリントを用いて練習を行う。
第7回	買い物に行く (複数形の使い方)	名詞の複数形と動詞の形を習得する。	辞書を用いて複数形を作ってみる。
第8回	対話練習①	対話練習を通して自己紹介をする。	動詞、冠詞に注意して文を作る練習をする。
第9回	ドイツの住まい (人称代名詞の使い方)	主語以外の代名詞の使い方を習得する。	代名詞の変化を練習する。
第10回	ライン川 (前置詞の使い方)	前置詞の格支配を身につける。	前置詞の格を冠詞とともに使う練習をする。
第11回	対話練習②	自己紹介を通して2・3人称について変化を習得する。	2・3人称の不規則動詞を確認する。
第12回	大学について① (分離動詞を学ぶ)	分離動詞の動詞の位置を文の中で習得する。	動詞の変化を変化表を用いてまとめる。
第13回	大学について② (分離動詞)	分離の文型に慣れる。	枠構造の練習を問題を使って行う。
第14回	対話練習③	テーマを設定して、それをドイツ語で表現してみる。	既習の変化語尾の確認をする。
第15回	まとめ (テーマを設定して文を組み立てプレゼンをする)	他の学生が作った文のチェックをし、文を正確に手直しできるようにする。	次のステップのためのまとめを変化表を基に作成する。

科目名(クラス)	ドイツ語圏 異文化コミュニケーション2-a・b	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	I.K.Lenz	履修対象・条件					

【授業の「概要」と「目的」】

1で習得した文法知識で少しずつ長い文を作り、さらに文法の積み上げで高度な文を作れるようにすることを目標にします。そして、会話練習でそれを実際を使用します。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式で行い、毎回ダイアログを行います。

【履修時の「留意点」と「心得」】

より積極的な姿勢が求められます。自分を表現するための文法力を高めましょう。

教科書	シュリットヒュア シュリットミニ	著者等	今井田垂弓	出版社	三修社
教科書		著者等		出版社	
参考文献	アクセス独和辞典]	いずれか	著者等	出版社 三修社
参考文献	新アポロン独和辞典			著者等	出版社 同学社

【成績評価の「方法」と「基準」】

課題提出(30%)、小テスト(30%)、定期試験(40%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	1で学んだことの復習①	人称変化の確認と定着を行う。	動詞の人称変化を再度練習する。
第2回	1で学んだことの復習②	冠詞の変化を身につける。	冠詞の格変化について問題で練習する。
第3回	ドイツ人の休日(助動詞を学ぶ)①	助動詞の変化を練習し、動詞とともに使えるようにする。	助動詞の人称変化を問題で確認する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	旅行とドイツ人(助動詞を学ぶ)②	助動詞の文型に慣れる。文を実際に作ってみる。	助動詞文の中の動詞の人称変化と不定詞の関係をプリントを用いて練習してみる。
第5回	対話練習①	助動詞を用いて自己紹介を試みる。	動詞変化の再確認をプリントを用いてする。
第6回	環境問題①(時制について)	時制の概念を図式化し、時制を変える練習をする。	変化表を作って時の変換のツールを確認する。
第7回	環境問題②(時制について)	過去形を習得する。	現在人称変化の確認と過去人称変化を問題を用いて練習する。
第8回	環境問題③(時制について)	現在完了形について、助動詞の使い分けを身につける。	他動詞、自動詞の使い分けを練習する。
第9回	対話練習②	時制を変化させて自己紹介をする。	変化表を用いて過去分詞を使うように練習する。
第10回	日本とドイツ①	歴史の中で使われたドイツ語に親しむ。	日本語化した、ドイツ語を調べ、それを使ってみる。
第11回	日本とドイツ②	文章表現で歴史的テーマをプレゼンする。	実際に文に書いてみて、文法確認をする。
第12回	ヨーロッパについて①	ドイツのヨーロッパの中での位置、状況を考える。	ドイツ情報を集めてみる。
第13回	ヨーロッパについて②	ドイツ、オーストリア、スイスのドイツ語圏の中でのドイツ語を考える。	3か国の間での文化、風俗、ドイツ語の違いを見つけてみる。
第14回	今回までのまとめ①(文法を整理する)	既習の文法項目を整理して、使えるようにする。	変化形の確認と変化表の使い方をチェックする。
第15回	今回までのまとめ②(文型を整理する)	ドイツ文の文型を並べ、特徴をつかみ、使用できるようにする。	次のステップへの文法のまとめを行う。

科目名(クラス)	ドイツ語圏 異文化コミュニケーション3-a・b	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	I.K.Lenz	履修対象・条件					

【授業の「概要」と「目的」】

1・2で学習した文法項目を用いて更に表現力を高めるため、さまざまなテーマを使って既習項目の精度を上げて行きます。この授業も毎回対話練習を組み込んで行います。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式で行い、ダイアログを中心に進めます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

ドイツ、オーストリア文化に興味を持って下さい。アクティブなテーマを選んで表現練習を行います。

教科書	話すぞドイツ語！V2新版	著者等	在間 進	出版社	朝日出版
教科書		著者等		出版社	
参考文献	アクセス独和辞典]	いずれか	著者等	出版社 三修社
参考文献	新アポロン独和辞典			著者等	出版社 同学社

【成績評価の「方法」と「基準」】

課題提出(30%)、小テスト(30%)、定期試験(40%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	1・2の復習① (発音、人称変化)	既習の動詞の変化を確実なものにする。	規則、不規則動詞の変化を練習する。
第2回	1・2の復習① (格変化)	冠詞の格変化を確実にできるようにする。	変化表の確認と練習。
第3回	私の部屋① (代名詞のいろいろ)	人称代名詞とそれ以外の代名詞の使い方を習得する。	人称代名詞の変化を練習する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	家族① (否定詞の使い方)	いろいろな疑問文を作り、答え方の違いを習得する。	動詞の語順に注意して文を作る練習をする。
第5回	私の部屋② (不定代名詞の使い方)	一般化した表現法としての不定代名詞を使ってみる。	代名詞の変化を確認。
第6回	家族② (nichtとkeinの使い方)Doch	実際の文の中で否定詞を使い否定形を習得する。	疑問文に対する答えをプリントを用いて練習する。
第7回	対話練習①	肯定文、否定文を使い分けてみる。	練習問題を否定形に換えて練習してみる。
第8回	ベルリン	都市文化に触れる。簡単な文を読み、対話してみる。	動詞の変化、格変化、文構造をまとめてみる。
第9回	ミュンヘン	"	"
第10回	ボン	"	"
第11回	ウィーン、ザルツブルク	"	"
第12回	対話練習②	助動詞文と時制を変換する文を中心に文を作ってみる。	文型を動詞の語順に注意して練習する。
第13回	ヨーロッパの中のドイツを考える①	ドイツ文化の特徴を考え、それを簡単なドイツ語で表現してみる。	相手に質問して答えを一緒に創る練習をする。
第14回	ヨーロッパの中のドイツを考える②	プレゼンを行い、他の学生の意見を聞く。	ドイツ文化の特徴を自分なりにまとめる。
第15回	まとめ (文法の整理と文化の特徴をまとめてみる)	テーマ設定をした項目について、自分でまとめたドイツ文をプレゼンしてみる。	次のステップへの素材を考えてみる。

科目名(クラス)	ドイツ語圏 異文化コミュニケーション4-a・b	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	I.K.Lenz	履修対象・条件					

【授業の「概要」と「目的」】

1・2・3で学んだ項目を用いてドイツ文化のさまざまな面をドイツ語を用いて表現することを目指します。
ウィーンを含むオーストリアを中心に国の在り方や状況、歴史に触れて行きます。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式と対話練習を中心に行います。

【履修時の「留意点」と「心得」】

ドイツ、オーストリア文化に興味を持って下さい。アクティブなテーマを選んで表現練習を行います。

教科書	話すぞドイツ語！V2新版	著者等	在間 進	出版社	朝日出版
教科書		著者等		出版社	
参考文献	アクセス独和辞典]	いずれか	著者等	出版社 三修社
参考文献	新アポロン独和辞典			著者等	出版社 同学社

【成績評価の「方法」と「基準」】

課題提出(30%)、小テスト(30%)、定期試験(40%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	3の復習を行う①	助動詞文、分離動詞文を確実に 作ることができるようにする。	動詞の変化の確認と練習。
第2回	3の復習を行う②	時制を整理して文をつくってみ る。	枠構造の文を時制を換えて作っ てみる。
第3回	なぜドイツ語？① (未来形と意志表現)	時制の種類と実際に使われる 形の違いを習得する。	werdenの使い方のいろいろを復 習する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	なぜドイツ語?② (seinの使い方のいろいろ)	sein動詞を文章論から考えてみる。	seinの使い方を整理する。
第5回	なぜドイツ語?③ (habenの使い方のいろいろ)	haben動詞を文章論から考える。	habenの使い方を整理する。
第6回	対話練習①	3つの重要動詞を文の中で使ってみる。	3つの動詞を変化として整理する。
第7回	宗教① (再帰動詞)	再帰動詞の使い方を代名詞との関係の中で習得する。	人称代名詞の変化を復習する。
第8回	宗教② (比較表現)	比較級、最高級の文を習得する。	形容詞の変化をまとめる。
第9回	パソコンとEメール① (受動文)	受動の形を身につける。時制とともに使えるようにする。	werdenの変化と使い方を復習する。
第10回	パソコンとEメール② (受動表現)	受動表現の可能性を実際の文で身につける。	不定代名詞、zu不定詞の復習をする。
第11回	もっとドイツ語を!① (関係代名詞を使ってみる)	関係代名詞の形式を学び、文の連結ができるようにする。	冠詞の変化を再復習する。
第12回	もっとドイツ語を!② (不定関係代名詞の使い方)	不定関係代名詞の用法を例文で確認し、使えるようにする。	疑問代名詞との違いを考え、プリントで練習する。
第13回	対話練習②	比較、受動表現を用いて文を組み立てる力をつける。	練習問題を数多くこなし、定着してみる。
第14回	まとめ①	対話練習の文を参考にテーマを考え文に組み立てる。	対話文を多く読む。ヒアリングをくり返す。
第15回	まとめ②	ヒアリングCDを使って内容理解を深める。	ヒアリングの練習問題を繰り返しやってみる。

科目名(クラス)	ドイツ語(演奏家コース)1・3 [3は異文化コミュニケーションを含む]	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1・2
担当教員	高橋 幸雄	履修対象・条件	演奏家コースのみ履修可				

【授業の「概要」と「目的」】

ドイツ語を正確に理解し、発信するために基本的な文法の習得、表現するためのスキルを徹底的に身につけることを目指します。
この授業では文法力の向上と読解力のステップアップを主眼とする授業を心がけて行います。DVDを使って実際のドイツ、オーストリア事情を見て行きます。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式で行います。

【履修時の「留意点」と「心得」】

留学を目指すコースですから初歩から高度な言語力の習得を目指しますので、積極的な向上心と努力が必要です。

教科書	プリント教材を使います。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	アクセス独和辞典	いずれか	著者等	出版社	三修社
参考文献	新アポロン独和辞典				

【成績評価の「方法」と「基準」】

課題提出(30%)、小テスト(30%)、定期試験(40%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	ドイツ語圏について 発音	ドイツ、オーストリア、スイスを知る。発音の基礎を習得する。	・くり返し口に出してドイツ語の発音に慣れる。 ・プリントの単語の特徴をまとめる。
第2回	動詞の使い方(1) (規則動詞)	規則動詞の変化を習得する。	・人称変化の練習をする。 ・プリントの問題を解く。
第3回	動詞の使い方(2) (不規則動詞)	不規則動詞の変化を習得する。	・変化表を用いて、不規則変化の確認をする。 ・練習問題を解く。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	冠詞の変化に慣れる。	名詞の性に慣れ、変化を習得する。	・3つの性の変化をくり返し練習する。 ・課題のプリントを解く。
第5回	人称代名詞、前置詞について学ぶ。	冠詞の変化を前置詞との核変化の中で定着させる。	・人称代名詞の変化と前置詞の格支配を覚える。 ・人称代名詞を使って独作をする。
第6回	助動詞の使い方を学ぶ。	助動詞の変化と動詞の語順に慣れる。	・助動詞の変化と枠構造を練習する。 ・助動詞を用いて独作をする。
第7回	分離動詞の使い方を学ぶ。	動詞の人称変化と語順を身につける。	・動詞の変化をプリントを使って練習する。 ・課題の文を読む。①
第8回	文章を読む(1)	動詞、冠詞を中心に文法知識をまとめる。	・練習問題を解き、変化を定着させる。 ・課題の文を読む。②
第9回	文章を読む(2)	人称代名詞、前置詞を文中で使えるようにする。	・人称代名詞、前置詞の特徴を練習問題で確認する。 ・課題の文を読む。③
第10回	文章を読む(3)	助動詞、分離動詞を文中で使えるようにする。	・助動詞、分離動詞を用いて文を組み立てて練習を行う。 ・課題の文を読む。④
第11回	ドイツの都市を知る(1) ベルリン、ブレーメン	ドイツの都市文化を知り、既習の文法を整理する。(名詞編)	・変化語尾をまとめ、定着させる。 ・プリントの練習問題を解く。
第12回	ドイツの都市を知る(2) フランクフルト、ボン	ドイツの都市文化を知り、既習の文法を整理する。(動詞編)	・人称変化をまとめ、文を作る練習をする。 ・総合問題にあたる。①
第13回	ドイツの都市を知る(3) ミュンヘン、ウィーン、ザルツブルク	ドイツ、オーストリアの都市文化を知り、既習の文法を整理する。(文章編)	・文構造を理解し、実際にテーマをたてて文を作る練習をする。 ・総合問題にあたる。②
第14回	文章を作ってみる(1)	文法知識を用いて文を作る。プレゼンをする。	・表現のスキルアップのために単語帳を作る。 ・総合問題にあたる。③
第15回	文章を作ってみる(2)	文法知識を用いて文を作る。プレゼンをする。	表現のスキルアップのために単語帳を作る。ために熟語帳を作る。

科目名(クラス)	ドイツ語(演奏家コース)2・4 [4は異文化コミュニケーションを含む]	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1・2
担当教員	高橋 幸雄	履修対象・条件	演奏家コースのみ履修可				

【授業の「概要」と「目的」】

文法知識を確実に定着した上に表現のスキルをアップさせることを主眼に置きます。
文章表現アップのためのツールの習得を目指します。
いろいろな種類の文章を読み、実際のドイツ、オーストリアの事情に触れます。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式で行います。

【履修時の「留意点」と「心得」】

表現することに力点を置きますから、既習の文法知識の正確な運用が必要です。初級文法を確実に身につけ、使えるように積極的に参加して下さい。

教科書	プリント教材を使います。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	アクセス独和辞典	いずれか	著者等	出版社	三修社
参考文献	新アポロン独和辞典				

【成績評価の「方法」と「基準」】

課題提出(30%)、小テスト(30%)、定期テスト(40%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	簡単な文章を読む(1) (アニメーション)	基礎文法の確認と定着をはかる。	・既習の練習問題を整理する。 ・動詞群の問題を解く。
第2回	簡単な文章を読む(2)	基礎文法の確認と定着をはかる。	・既習の練習問題を整理する。 ・名詞群の問題を解く。
第3回	ドイツ映画を見る(1)	ヒアリングのスキルを上げる。	・(1)をくり返し聞き文章を発信する練習をする。 ・代名詞の問題を解く。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	映画を見る(2)	ヒアリング向上を目指す。	・CDを聞いておく。 ・前置詞の問題を解く。①
第5回	映画を見る(3)	ヒアリング向上を目指す。	・CDを聞いておく。 ・前置詞の問題を解く。②
第6回	ドイツ人の日常生活	文化の相違を知る。生活の中のドイツ語を使う。	・ドイツの日常生活について調べる。 ・助動詞で独作する。①
第7回	日本とドイツ(1) (文化のとらえ方)	考え方の相違からくる文化の現実を知る。	・生活の中で見られる日本とドイツの相違をまとめてみる。 ・助動詞で独作する。②
第8回	独検の問題を解く(1)	表現力アップのための文法の定着をはかる。	・基本的語尾変化、格変化の確認をする。 ・冠詞類の問題を解く。①
第9回	独検の問題を解く(2)	フレーズを使えるように熟語句を習得する。	・文構造の基本を確認し、プリントで練習する。 ・冠詞類の問題を解く。②
第10回	独検の問題を解く(3)	ヒアリングの向上を目指す。	・CDをくり返し聞く。 ・総合問題にあたる。①
第11回	オーストリア、スイスについて	ドイツ語圏の文化の違いを知る。	・オーストリア、スイスについて調べておく。 ・総合問題にあたる。②
第12回	スポーツと休日	サッカーの文化、休日のとらえ方を日独で比較し理解する。	・日本又はアジアのスポーツについての考え方をまとめておく。 ・総合問題にあたる。③
第13回	食事と風俗	地域の違いと食べ物文化を知る。	・知っているドイツの食べ物について調べておく。 ・ドイツ文化の特徴をまとめる。①
第14回	日本とドイツ(2)	経済、政治についてその在り方を知る。	・政治形態についてあらかじめ知っていることをまとめる。 ・ドイツ文化の特徴をまとめる。②
第15回	現実のドイツについてまとめる	日本とドイツの歴史をふまえそれぞれの国の特徴を理解する。	最近知ったドイツのことをまとめておく。

科目名(クラス)	ドイツ語(演奏家コース)5・7	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	3・4
担当教員	I.K.Lenz	履修対象・条件	演奏家コースのみ履修可				

【授業の「概要」と「目的」】

専門性を高めるために海外留学を視野に入れて、実践的でアカデミックな文章を読みこなし、その能力を使ってディベート能力を養う授業を展開します。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式で行い、歴史、文化史、評論等の文を読んで行きます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

文法力を用いてさまざまな文章に触れることによって、音楽のバックグラウンドを養ってゆきます。

教科書	プリントを使用します。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	アクセス独和辞典	いずれか	著者等	出版社	三修社
参考文献	新アポロン独和辞典		著者等	出版社	同学社

【成績評価の「方法」と「基準」】

課題提出(授業3回に一題の長文を課します)(50%)、定期試験(50%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	文法の総復習①	直接法、接続法の体系を身につける。	格変化・時制・態について整理する。
第2回	文法の総復習②	〃	〃
第3回	ウィーンの文化史を読む①	オーストリア文化の特徴を知る	日本語文献でウィーンの歴史をまとめる。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	ウィーンの文化史を読む②	オーストリア文化の特徴を知る	日本語文献でウィーンの歴史をまとめる。
第5回	ドナウ川はそんなに青いのか？	19世紀の文化の作られ方を知る。	ハプスブルクの歴史と芸術の関係を調べてみる。
第6回	オーストリアの成立を知る	オーストリアの歴史とドイツとの関係を知識として定着させる。	ドイツ史を簡単にまとめてみる。
第7回	フランツ・シューベルト	音楽、文学、絵画を実際のドイツ文d理解する。	それぞれ日本語で読める文献を自分でまとめる。
第8回	ルートヴィヒ・ベートーヴェン	〃	〃
第9回	「野バラ」の読み方	〃	〃
第10回	ドイツ文学とオーストリア文学の相違	〃	〃
第11回	ゲーテとシュティフター	〃	〃
第12回	演劇とオペラ	〃	〃
第13回	ロマン派と世紀末	〃	〃
第14回	詩を読む	〃	〃
第15回	評論を読む	〃	〃

科目名(クラス)	ドイツ語(演奏家コース)6・8	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	3・4
担当教員	I.K.Lenz	履修対象・条件	演奏家コースのみ履修可				

【授業の「概要」と「目的」】

5で扱った文化領域の文章に更に触れながら、現代のドイツ語圏に領域を移し、さまざまなトピックスを読んでいきます。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式で行います。読解を中心とした授業で行います。

【履修時の「留意点」と「心得」】

正確な読解を目指して進めますので、予習がきわめて重要です。

教科書	プリントを使用します。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	アクセス独和辞典	いずれか	著者等	出版社	三修社
参考文献	新アポロン独和辞典				

【成績評価の「方法」と「基準」】

課題提出(授業3回に一題の長文を課します)(50%)、定期試験(50%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	最近の新聞記事から①	ドイツ語圏の今を知る	素材を日本語文献で読んでみる。
第2回	最近の新聞記事から②	〃	〃
第3回	最近の新聞記事から③	〃	〃

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	音楽評論を読む①	論理的な文を読むことで文法の整理をする。	関連領域を日本語で読んでみる。
第5回	音楽評論を読む②	〃	〃
第6回	音楽評論を読む③	〃	〃
第7回	作品「魔笛」を読んでみる①	実際の原文を自分で読み解く。	特徴のある文を文法的に解読してみる。
第8回	作品「魔笛」を読んでみる②	〃	〃
第9回	作品「魔笛」を読んでみる③	〃	〃
第10回	ワイツゼッカー演説を読む①	演説文の特徴を理解する。	ネイティブスピーカーとしてのドイツ文の習得をプリントを用いて練習する。
第11回	ワイツゼッカー演説を読む②	〃	〃
第12回	ワイツゼッカー演説を読む③	〃	〃
第13回	日本文学をドイツ語で読む①	表現法の違いを発見し、その相違を理解する。	日本語をドイツ語に翻訳するスキルを習得する。
第14回	日本文学をドイツ語で読む②	〃	〃
第15回	日本文学をドイツ語で読む③	〃	〃

科目名(クラス)	英語1-a・b	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	増淵 千幸	履修対象・条件					

【授業の「概要」と「目的」】

中・高六年間学んできた基礎をもとに、応用力をつけてゆきましょう。リスニングと読解を中心に授業を進め、今まで学んできたことを振り返りながら、英語という言語の理解を深めてゆくことを目的とします。リスニングは、子ども向けの本の朗読を聞きながら書き取り練習をします。同じ作品を読む練習もします。読解は、村上春樹の短編小説の英訳と日本語原文を用い、和訳をしながら二言語間の言語的・文化的差異を考えてゆきます。

【授業の「方法」と「形式」】

講義・演習混合形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・事前準備の必要はありませんが、授業中の集中と積極的な参加を望みます。
- ・多くの作業をします。視覚・聴覚を鋭くし集中するために、私語やスマートフォンなどの電子機器の使用は禁止します。

教科書	プリントを配布します。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	(紙の辞書を新たに買うなら)ジーニアス英和辞典	著者等		出版社	大修館書店
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

1. 定期試験(筆記試験と暗誦試験 ※必ず両方受けること)
2. 良好な出席状況と、授業での取り組み方を点数化し、上記の試験結果に加算します。たとえ全出席でも、試験の点数が足りなければ合格できません。欠席は減点します。
3. 1.の定期試験は、筆記試験60%、暗誦試験40%で評価します。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容)	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	・オリエンテーション ・小テスト	授業の指針を理解する。 小テストでは現在の英語力を見る。	必要なし
第2回	・ウォーミングアップ	リスニングと発音練習で ウォーミングアップを行う。	予習: 必要なし 復習: リスニング教材の 発音練習
第3回	・リスニング(1) <i>The Little House</i> より抜粋 ・読解(1) <i>Concerning the Sound of a Train Whistle in the Night or On the Efficacy of Fiction</i> より抜粋	・英語の音に慣れる。 ・一語一語を大切に英語を 日本語に訳す。	予習: 必要なし 復習: リスニング教材の暗誦・ 読解教材の和訳の確認

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	リスニング(2) 読解(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の音に慣れる。 ・一語一語を大切に英語を日本語に訳す。 	予習: 必要なし 復習: リスニング教材の暗誦・読解教材の和訳の確認
第5回	リスニング(3) 読解(3)	同上	同上
第6回	リスニング(4) 読解(4)	同上	同上
第7回	リスニング(5) 読解(5)	同上	同上
第8回	リスニング(6) 読解(6)	<ul style="list-style-type: none"> ・つながる音の切れ目に気付く。 ・音を真似する。 ・原文・英訳・和訳の違いを意識して読み込む。 	同上
第9回	リスニング(7) 読解(7)	同上	同上
第10回	リスニング(8) 読解(8)	同上	同上
第11回	リスニング(9) 読解(9)	同上	同上
第12回	リスニング(10) 読解(10)	同上	同上
第13回	リスニング(11) 読解(11)	同上	同上
第14回	総括その1	英文の内容を良く理解した上で、正しい発音で暗誦する。	暗誦試験準備
第15回	総括その2	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の言葉で英語を日本語に訳す。 ・小説の世界観を理解する。 	筆記試験準備

科目名(クラス)	英語2-a・b	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	増渕 千幸	履修対象・条件					

【授業の「概要」と「目的」】

中・高六年間学んできた基礎をもとに、応用力をつけてゆきましょう。リスニングと読解を中心に授業を進め、今まで学んできたことを振り返りながら、英語という言葉の理解を深めてゆくことを目的とします。リスニングは、子供向けの本の朗読を聞きながら書き取り練習をします。同じ作品を読む練習もします。読解は、村上春樹の短編小説の英訳と日本語原文を用い、和訳をしながら二言語間の言語的・文化的差異を考えてゆきます。

【授業の「方法」と「形式」】

講義・演習混合形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・事前準備の必要はありませんが、授業中の集中と積極的な参加を望みます。
- ・多くの作業をします。視覚・聴覚を鋭くし集中するために、私語やスマートフォンなどの電子機器の使用は禁止します。

教科書	プリントを配布します。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	(紙の辞書を新たに買うなら)ジーニアス英和辞典	著者等		出版社	大修館書店
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

1. 定期試験(筆記試験と暗誦試験 ※必ず両方受けること)
2. 良好な出席状況と、授業での取り組み方を点数化し、上記の試験結果に加算します。たとえ全出席でも、試験の点数が足りなければ合格できません。欠席は減点します。
3. 1.の定期試験は、筆記試験60%、暗誦試験40%で評価します。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	・オリエンテーション ・ウォーミングアップ	・授業の指針を再確認する。 ・リスニングで休み明けのウォーミングアップ	予習: 必要なし 復習: リスニング教材の発音練習
第2回	・リスニング(12) <i>The Little House</i> より抜粋 ・読解(12) <i>Concerning the Sound of a Train Whistle in the Night or On the Efficacy of Fiction</i> より抜粋	・文単位で音を捉える。 ・一語一語を大切に英語を日本語に訳す。	予習: 必要なし 復習: リスニング教材の暗誦・読解教材の和訳の確認
第3回	リスニング(13) 読解(13)	同上	同上

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	リスニング(14) 読解(14)	<ul style="list-style-type: none"> ・文単位で音を捉える。 ・一語一語を大切に英語を日本語に訳す。 	予習: 必要なし 復習: リスニング教材の暗誦・読解教材の和訳の確認
第5回	リスニング(15) 読解(15)	同上	同上
第6回	リスニング(16) 読解(16)	同上	同上
第7回	リスニング(17) 読解(17)	同上	同上
第8回	リスニング(18) 読解(18)	同上	同上
第9回	リスニング(19) 読解(19)	<ul style="list-style-type: none"> ・音で物語を理解する。 ・原文・英文・和訳の違いを意識して読み込む。 	同上
第10回	リスニング(20) 読解(20)	同上	同上
第11回	リスニング(21) 読解(21)	同上	同上
第12回	リスニング(22) 読解(22)	同上	同上
第13回	リスニング(23) 読解(23)	同上	同上
第14回	総括その1	英文の内容を良く理解した上で、正しい発音で暗誦する。	暗誦試験準備
第15回	総括その2	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の言葉で英語を日本語に訳す。 ・小説の世界観を理解する。 	筆記試験準備

科目名(クラス)	英語3	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	増渕 千幸	履修対象・条件					

【授業の「概要」と「目的」】

英語1、2で培った基礎力をもとに、応用力をつけてゆきましょう。リスニングと読解を中心に授業を進め、今まで学んできたことを振り返りながら、英語という言語の理解をさらに深めてゆくことを目的とします。リスニングは昨年度少し触れたイギリス英語での語りの続きを聞き、書き取り練習をします。読解は昨年度扱った吉本ばななの小説の続きの英訳と日本語原文を用い、和訳をしながら二言語間の言語的・文化的差異を考えてゆきます。

【授業の「方法」と「形式」】

講義・演習混合形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・事前準備の必要はありませんが、授業中の集中と積極的な参加を望みます。
- ・多くの作業をします。視覚・聴覚を鋭くし集中するために、私語やスマートフォンなどの電子機器の使用は禁止します。

教科書	プリントを配布します。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	(紙の辞書を新たに買うなら)ジーニアス英和辞典	著者等		出版社	大修館書店
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

1. 定期試験(筆記試験と暗誦試験 ※必ず両方受けること)
2. 良好な出席状況と、授業での取り組み方を点数化し、上記の試験結果に加算します。たとえ全出席でも、試験の点数が足りなければ合格できません。欠席は減点します。
3. 1.の定期試験は、筆記試験60%、暗誦試験40%で評価します。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	・オリエンテーション ・小テスト	授業の指針を理解する。 小テストでは現在の英語力を見る。	必要なし
第2回	・ウォーミングアップ	リスニングと発音練習で ウォーミングアップを行う。	予習: 必要なし 復習: リスニング教材の 発音練習
第3回	・リスニング(1) <i>The Tale of Jemima Puddle- Duck</i> より抜粋 ・読解(1) <i>Kitchen</i> より抜粋	・音に慣れる。 ・一語一語を大切に英語を 日本語に訳す。	予習: 必要なし 復習: リスニング教材の暗誦・ 読解教材の和訳の確認

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	リスニング(2) 読解(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・音に慣れる。 ・一語一語を大切に英語を日本語に訳す。 	予習: 必要なし 復習: リスニング教材の暗誦・読解教材の和訳の確認
第5回	リスニング(3) 読解(3)	同上	同上
第6回	リスニング(4) 読解(4)	同上	同上
第7回	リスニング(5) 読解(5)	同上	同上
第8回	リスニング(6) 読解(6)	<ul style="list-style-type: none"> ・つながる音の切れ目に気付く。 ・音を真似する。 ・原文・英訳・和訳の違いを意識して読み込む。 	同上
第9回	リスニング(7) 読解(7)	同上	同上
第10回	リスニング(8) 読解(8)	同上	同上
第11回	リスニング(9) 読解(9)	同上	同上
第12回	リスニング(10) 読解(10)	同上	同上
第13回	リスニング(11) 読解(11)	同上	同上
第14回	総括その1	英文の内容を良く理解した上で、正しい発音で暗誦する。	暗誦試験準備
第15回	総括その2	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の言葉で英語を日本語に訳す。 ・小説の世界観を理解する。 	筆記試験準備

科目名(クラス)	英語4	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	増淵 千幸	履修対象・条件					

【授業の「概要」と「目的」】

英語1、2で培った基礎力をもとに、応用力をつけてゆきましょう。リスニングと読解を中心に授業を進め、今まで学んできたことを振り返りながら、英語という言語の理解をさらに深めてゆくことを目的とします。リスニングは昨年度少し触れたイギリス英語での語りの続きを聞き、書き取り練習をします。読解は昨年度扱った吉本ばななの小説の続きの英訳と日本語原文を用い、和訳をしながら二言語間の言語的・文化的差異を考えてゆきます。

【授業の「方法」と「形式」】

講義・演習混合形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・事前準備の必要はありませんが、授業中の集中と積極的な参加を望みます。
- ・多くの作業をします。視覚・聴覚を鋭くし集中するために、私語やスマートフォンなどの電子機器の使用は禁止します。

教科書	プリントを配布します。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	(紙の辞書を新たに買うなら)ジーニアス英和辞典	著者等		出版社	大修館書店
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

1. 定期試験(筆記試験と暗誦試験 ※必ず両方受けること)
2. 良好な出席状況と、授業での取り組み方を点数化し、上記の試験結果に加算します。たとえ全出席でも、試験の点数が足りなければ合格できません。欠席は減点します。
3. 1.の定期試験は、筆記試験60%、暗誦試験40%で評価します。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	・オリエンテーション ・ウォーミングアップ	・授業の指針を再確認する。 ・リスニングで休み明けのウォーミングアップ	予習: 必要なし 復習: リスニング教材の発音練習
第2回	・リスニング(12) <i>The Tale of Jemima Puddle-Duck</i> より抜粋 ・読解(12) <i>Kitchen</i> より抜粋	・文単位で音を捉える。 ・一語一語を大切に英語を日本語に訳す。	予習: 必要なし 復習: リスニング教材の暗誦・読解教材の和訳の確認
第3回	リスニング(13) 読解(13)	同上	同上

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	リスニング(14) 読解(14)	<ul style="list-style-type: none"> ・文単位で音を捉える。 ・一語一語を大切に英語を日本語に訳す。 	予習: 必要なし 復習: リスニング教材の暗誦・読解教材の和訳の確認
第5回	リスニング(15) 読解(15)	同上	同上
第6回	リスニング(16) 読解(16)	同上	同上
第7回	リスニング(17) 読解(17)	同上	同上
第8回	リスニング(18) 読解(18)	同上	同上
第9回	リスニング(19) 読解(19)	<ul style="list-style-type: none"> ・音で物語を理解する。 ・原文・英文・和訳の違いを意識して読み込む。 	同上
第10回	リスニング(20) 読解(20)	同上	同上
第11回	リスニング(21) 読解(21)	同上	同上
第12回	リスニング(22) 読解(22)	同上	同上
第13回	リスニング(23) 読解(23)	同上	同上
第14回	総括その1	英文の内容を良く理解した上で、正しい発音で暗誦する。	暗誦試験準備
第15回	総括その2	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の言葉で英語を日本語に訳す。 ・小説の世界観を理解する。 	筆記試験準備

科目名(クラス)	英語圏異文化コミュニケーション1	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	Christopher Scott	履修対象・条件	全専攻				

【授業の「概要」と「目的」】

ネイティブの講師による英語の基礎コミュニケーション力を養うコースです。これまでに習ってきた基本的な文法構文を確認しながら、誤用を減らし、実践的な語彙表現や慣用句を新たに学びます。口頭練習やロールプレイなどを行なう他、相手の意見に賛成・反対したり、質問したり、自分の考えを説明したりするスキルを身につけていきます。会話・聴解以外にも、リーディングやライティングの課題をこなしながら、英語の総合的な運用力を高めていくことを目的とします。

【授業の「方法」と「形式」】

各回の授業ではテキストを中心に、積極的な発話を促しながら各単元の要素を掴んでいきます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・口頭による反復練習やロールプレイ・ペアワークなど、発話の機会が多くあるため、積極的に英語を話す姿勢が求められます。
- ・遅刻・途中退室は原則として認めません。
- ・課題以外にも、授業で学んだ語彙や表現はきちんと復習し、自分の中に定着させていくことが求められます。

教科書	『SIDE by SIDE』 Book2	著者等	Steven J. Mol	出版社	PEARSON/Longman
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への参加態度、課題及び期末試験の素点に基づいて判断する。

- ・各単元ごとのライティング等の課題・・・20%
- ・授業中の積極的な言語活動の参加・・・20%
- ・期末試験・・・60%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション	授業概要のイントロダクション 自己紹介	
第2回	Unit 1 現在形／現在完了形／過去形／未来形 "Like and Dislike" going to	基本時制の確認・復習	※毎回、復習として授業で習った語彙・表現を覚えるようにすること。
第3回	Unit 1 時の表現／間接目的語	過去の時間表現の確認 give+目的格(人)の習得	

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	Unit 2 可算・不可算名詞① "Buying Food"	数えられる名詞と数えられない名詞(食物等)の確認	Reading課題①
第5回	Unit 2 可算・不可算名詞② a little/a few much/many	量的表現を使い分ける	
第6回	Unit 3 単位 pt./qt./gal./lb.	食べ物の単位を使い分ける	Journal(Writing)課題① これまでに食べたご馳走について
第7回	Unit 3 部分詞 "Describing Food" a glass of~/a dozen~	食べ物を注文する レシピを説明する	
第8回	Unit 4 未来形 will/won't	基本の未来形の確認 未来について語る	Reading課題②
第9回	Unit 4 時の表現/可能性/見込み might	未来の可能性や見込みを述べる	
第10回	Unit 5 Shouldの表現/比較 "Advise" "Expressing Opinion"	意見やアドバイスを述べる表現の習得	Journal(Writing)課題② 故郷と現在住んでいる場所について
第11回	Unit 5 比較と所有格 ~than/my-mine	物事を比較し、それに対して賛成・反対を述べる	
第12回	Unit 6 最上級① "Describing People, Place, and Things"	人や場所について良さや特徴を説明する	Reading課題③
第13回	Unit 6 最上級② "Shopping"	買い物で店員と相談をする	
第14回	Unit 7 道案内① "Giving Directions" "Transportation"	道案内の表現の習得 目的地までの経路を説明する	Journal(Writing)課題③ 家から大学までの行き方
第15回	Unit 7 道案内② Unit 1~Unit 7 まとめ	道案内の復習 Unit 7までの復習	学んだことを振り返ってみる。

科目名(クラス)	英語圏異文化コミュニケーション2	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	Christopher Scott	履修対象・条件	全専攻				

【授業の「概要」と「目的」】

ネイティブの講師による英語の基礎コミュニケーション力を養うコースです。これまでに習ってきた基本的な文法構文を確認しながら、誤用を減らし、実践的な語彙表現や慣用句を新たに学びます。口頭練習やロールプレイなどを行なう他、相手の意見に賛成・反対したり、質問したり、自分の考えを説明したりするスキルを身につけていきます。会話・聴解以外にも、リーディングやライティングの課題をこなしながら、英語の総合的な運用力を高めていくことを目的とします。

【授業の「方法」と「形式」】

各回の授業ではテキストを中心に、積極的な発話を促しながら各単元の要素を掴んでいきます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・口頭による反復練習やロールプレイ・ペアワークなど、発話の機会が多くあるため、積極的に英語を話す姿勢が求められます。
- ・遅刻・途中退室は原則として認めません。
- ・課題以外にも、授業で学んだ語彙や表現はきちんと復習し、自分の中に定着させていくことが求められます。

教科書	『SIDE by SIDE』 Book2	著者等	Steven J. Mol	出版社	PEARSON/Longman
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への参加態度、課題及び期末試験の素点に基づいて判断する。

- ・各単元ごとのライティング等の課題・・・20%
- ・授業中の積極的な言語活動の参加・・・20%
- ・期末試験・・・60%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	Unit 8 副詞／副詞の比較 "Describing People's Action"	副詞の確認 人の行動について特徴を述べる	※毎回、復習として授業で習った語彙・表現を覚えるようにすること。
第2回	Unit 8 動作主名詞	行動主を示す名詞表現の確認	
第3回	Unit 8 If節	基本的な仮定表現の習得	Reading課題①

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	Unit 9 過去進行形 was/were doing	過去進行の基本形の確認	
第5回	Unit 9 再帰代名詞/While節	by～self表現の習得 While表現の習得	Journal(Writing)課題① 独りでやりたいこと、友達とやりたいこと
第6回	Unit 10 過去および未来の可能性 could/be able to	可能性における時制を使い分ける	
第7回	Unit 10 過去および未来の義務 have got to	義務表現における時制を使い分ける	Reading課題②
第8回	Unit 10 弁解 too～	too～表現の習得 原因・理由について述べる	
第9回	Unit 11 過去形の復習 "Medical Examination"	メディカルチェックの表現の習得	Journal(Writing)課題② 自分の日常生活のルールについて
第10回	Unit 11 可算・不可算名詞の復習 "Diet"	ダイエットのアドバイスをする	
第11回	Unit 11 Must/Shouldの表現の復習 "Medical Advise"	病気を表す表現の習得 医者からアドバイスを受ける	Reading課題③
第12回	Unit 12 未来進行形 will be ～ing "Making Plans by Telephone"	電話対応表現の習得 電話で予定の確認をする	
第13回	Unit 12 時の表現 "Growing Up"	これからの成長について語る	Journal(Writing)課題③ 自分の家族が毎年祝う特別な日について
第14回	Unit 13 代名詞の復習 "Offering Help"	手伝いを依頼する something/anything表現の習得	〃
第15回	Unit 13 動詞の時制の復習 "Friends" Unit 8～Unit 13 まとめ	友達について語る Unit 13までの復習	学んだことを振り返ってみる。

科目名(クラス)	英語圏異文化コミュニケーション3	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	Christopher Scott	履修対象・条件	全専攻				

【授業の「概要」と「目的」】

ネイティブの講師による英語の基礎コミュニケーション力を養うコースです。これまでに習ってきた基本的な文法構文を確認しながら、誤用を減らし、実践的な語彙表現や慣用句を新たに学びます。口頭練習やロールプレイなどを行なう他、相手の意見に賛成・反対したり、質問したり、自分の考えを説明したりするスキルを身につけていきます。会話・聴解以外にも、リーディングやライティングの課題をこなしながら、英語の総合的な運用力を高めていくことを目的とします。

【授業の「方法」と「形式」】

各回の授業ではテキストを中心に、積極的な発話を促しながら各単元の要素を掴んでいきます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・口頭による反復練習やロールプレイ・ペアワークなど、発話の機会が多くあるため、積極的に英語を話す姿勢が求められます。
- ・遅刻・途中退室は原則として認めません。
- ・課題以外にも、授業で学んだ語彙や表現はきちんと復習し、自分の中に定着させていくことが求められます。

教科書	『SIDE by SIDE』 Book3	著者等	Steven J. Mol	出版社	PEARSON/Longman
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への参加態度、課題及び期末試験の素点に基づいて判断する。

- ・各単元ごとのライティング等の課題・・・20%
- ・授業中の積極的な言語活動の参加・・・20%
- ・期末試験・・・60%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション	授業概要のイントロダクション 自己紹介	
第2回	Unit 1 現在形/現在進行形の復習 "How often~?"	現在形・進行形の復習 自分や周囲の日常について語る	※毎回、復習として授業で習った語彙・表現を覚えるようにすること。
第3回	Unit 1 主格・目的格・代名詞・所有形容詞	家族や興味のあることについて語る	

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	Unit 2 過去形の復習①	過去の基本形の確認	Reading課題①
第5回	Unit 2 過去形の復習②／規則・不規則動詞	不規則動詞の活用の習得	
第6回	Unit 2 過去進行形の復習	出来事の経緯を説明する	Journal(Writing)課題① これまで経験した旅行について
第7回	Unit 3 未来形の復習①／時の表現	going to/will表現の復習	
第8回	Unit 3 未来形の復習② "Talking on the Phone"	電話対応表現の習得 電話をかけ直してもらう	Reading課題②
第9回	Unit 3 依頼 "Asking a Favor"	ものごとを依頼する do me a favor～?表現の習得	
第10回	Unit 4 現在完了形①	現在完了の基本形を復習	Reading課題③
第11回	Unit 4 現在完了形② "Making Recommendations"	これまでに見てきたお勧めの映画や本を紹介する	
第12回	Unit 4 現在完了形③ "Making Lists"	リストを作る	Journal(Writing)課題② 現在住んでいる場所でこれまで経験したこと
第13回	Unit 5 Since/forの表現	sinceとforを使い分ける	
第14回	Unit 5 現在完了形と現在形の違い	現在形と現在完了形を使い分ける	Journal(Writing)課題③ 自分が続けているスポーツや楽器について
第15回	Unit 5 現在完了形と過去形の違い Unit 1～Unit 5 まとめ	過去形と現在完了形を使い分ける Unit 5までの復習	学んだことを振り返ってみる。

科目名(クラス)	英語圏異文化コミュニケーション4	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	Christopher Scott	履修対象・条件	全専攻				

【授業の「概要」と「目的」】

ネイティブの講師による英語の基礎コミュニケーション力を養うコースです。これまでに習ってきた基本的な文法構文を確認しながら、誤用を減らし、実践的な語彙表現や慣用句を新たに学びます。口頭練習やロールプレイなどを行なう他、相手の意見に賛成・反対したり、質問したり、自分の考えを説明したりするスキルを身につけていきます。会話・聴解以外にも、リーディングやライティングの課題をこなしながら、英語の総合的な運用力を高めていくことを目的とします。

【授業の「方法」と「形式」】

各回の授業ではテキストを中心に、積極的な発話を促しながら各単元の要素を掴んでいきます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・口頭による反復練習やロールプレイ・ペアワークなど、発話の機会が多くあるため、積極的に英語を話す姿勢が求められます。
- ・遅刻・途中退室は原則として認めません。
- ・課題以外にも、授業で学んだ語彙や表現はきちんと復習し、自分の中に定着させていくことが求められます。

教科書	『SIDE by SIDE』 Book3	著者等	Steven J. Mol	出版社	PEARSON/Longman
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への参加態度、課題及び期末試験の素点に基づいて判断する。

- ・各単元ごとのライティング等の課題・・・20%
- ・授業中の積極的な言語活動の参加・・・20%
- ・期末試験・・・60%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	Unit 6 現在完了進行形①	現在完了進行形の復習	※毎回、復習として授業で習った語彙・表現を覚えるようにすること。
第2回	Unit 6 現在完了進行形② What have you been～? How long have you been～?	これまでの行動を説明する	
第3回	Unit 6 現在完了進行形③ "Job Interview"	これまでの経験を面接で説明する	

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	Unit 7 動名詞と不定詞① ～ing/to～	動名詞と不定詞の確認	Reading課題①
第5回	Unit 7 動名詞と不定詞②	動名詞をとる動詞と不定詞をとる動詞を使い分ける	
第6回	Unit 7 現在完了形と現在完了進行形の復習	主語または目的語としての動名詞を確認	Journal(Writing)課題① これまで経験した重要な決意について
第7回	Unit 8 過去完了形①	過去完了形の復習	
第8回	Unit 8 過去完了形② "Describing Consequences of Being Late"	遅刻をした状況を説明する	Reading課題②
第9回	Unit 8 過去完了進行形 "Discussing Feelings and Accomplishments"	過去の計画とその結果について語る	
第10回	Unit 9 イディオム① 分離系 put on~/put～on	間に目的語をとるイディオムの習得	Journal(Writing)課題② これまで自分が成し遂げたことについて
第11回	Unit 9 イディオム② 不分離系 hear from～	後ろにのみ目的語をとるイディオムの習得	
第12回	Unit 9 イディオム③ "Shopping for clothing"	イディオムの総復習 店で服を試着する	Reading課題③
第13回	Unit 10 接続詞① ～too/so～	肯定の同意をする	
第14回	Unit 10 接続詞② either/neither	否定の同意をする	Journal(Writing)課題③ 自分と似ている身近な人物について
第15回	Unit 10 接続詞③ "Same and Different" Unit 6～Unit 10 まとめ	not～,but～表現の習得 Unit 10までの復習	学んだことを振り返ってみる。

科目名(クラス)	イタリア語1	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	Marco Colnago	履修対象・条件	全専攻				

【授業の「概要」と「目的」】

イタリア語の初級文法を習得するコースです。コミュニケーションのアプローチを忘れず、初級文法の基礎を学ぶことができます。イタリア語未修者が、イタリア語文法の最低限の基礎的知識を習得することを第一の目的とします。履修者が授業を通して、正確な発音、簡単な本文の読書、初級文法の能力を身につけます。初めて学ぶ言語ですから困難は伴いますが、一步一步進んでいきましょう。初めてイタリア語を学ぶ皆さんが、着実にイタリア語を読み、イタリア語で表現する基礎的能力を身につけられるように、丁寧な説明と質問をしやすい環境作りを心がけます。履修者は、分からないことがあれば必ず質問するようにしてください（「どこが分からないのかわからない」場合にも、必ず教員にその旨を伝えてください。分からない項目を一緒に探し、解決していきましょう）。

【授業の「方法」と「形式」】

各回の授業ではテキスト、CD、先生のオリジナル教材等を使用します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・必ず毎回予習や復習などが必要です。（授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします）
- ・宿題もまじめにしてください。
- ・遅刻、途中退席は原則として認めません。
- ・授業中の携帯電話の利用も居眠りも固くお断りします。
- ・積極的な授業参加を望みます。

教科書	NUOVO RETE! A1	著者等	MARCO MEZZADR	出版社	GUERRA EDIZIONI
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業科目の成績評価は、100点を満点として評価し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。
授業への参加態度、小テスト及び授業で学んだ事項の知識定着を確認する定期試験の素点に基づいて判断する。

授業への参加態度 25%
期末試験（筆記試験） 75%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	第1課／IN VIAGGIO① 1)自分の名前と言うことができる。 2)相手の名前を聞くことができる。 3)他者に友達の名前を言うことができる。 4)国籍を表す形容詞を勉強することができる(性、数) 5)ESSERE, CHIAMARSI, STUDIARE動詞などの単数形を勉強することができる。	1)飛行機に乗っている二人の会話を聞く。 2)聞き取りに出てきた表現をペアで練習する。 3)クラスの皆さんの名前を聞く。 4)クラスメートの紹介する。 5)国籍、動詞の活用を用いて、文章を完成する。	授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします
第2回	第1課／IN VIAGGIO② 1)丁寧語を用いて、出身・国籍などを聞くことができる。 2)アルファベットの用いて、単語のつづりをはっきり区切って発音することができる。 3)行程形、否定形、疑問文をしっかりと把握する小田ができる。	1)飛行機に乗っている二人の会話を聞いて、CLOZE聞き取りを行う。 2)アルファベットの正しい発音を聞いて、発音練習する。 3)クラスメートの氏名をスペルする。 4)習った文法を用いて、文章を完成する。	〃
第3回	第1課／IN VIAGGIO③ 1)様々な会話を聞いて（語学学校の受付、ホテル、電話など）、第1課の表現を復習することができる。 2)様々な会話練習を行って、第1課の表現を復習することができる。 3)授業中で使える表現を学ぶことができる。	1)様々な聞き取り練習を行う。 2)自己紹介を復習する。 3)見てください、読んでください、お座りくださいのような表現を紹介する。	〃

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	第2課/ALL' AEROPORTO① 1) 自分の出身地や国籍などを言うことができる。 2) 旅行の目標を言うことができる。 3) 公共の場所を学ぶことができる。 4) 名詞の性、数などをしっかり把握することができる。 5) います/ありますと言う表現を勉強することができる。 6) ESSERE, AVERE, C'E', CI SONOを復習することができる。	1) 空港で行う入国審査の聞き取り練習を聞く。 2) 空港に入っているお店や公共の場所などを紹介する。 3) 空港に入っているお店や公共の場所などに不定冠詞の単数形をつけたり、複数形に変化したりする。 4) います・ありますを用いて、文章を完成する。 5) ESSERE, AVERE, C'E', CI SONOを用いて、文章を完成する。	授業が終わる前に予習/復習内容をお伝えします
第5回	第2課/ALL' AEROPORTO② 1) 数字(1~20)の正しい言い方を学ぶことができる。 2) 不定冠詞の単数形をしっかりと把握することができる。 3) 名詞の語尾の変化を復習することができる。4) 形容詞の反対語を学ぶことができる。	1) CDを聞いて、数字の正しい言い方を発音する。 2) 不定冠詞などを用いて、練習を完成する。 3) 形容詞を用いて、簡単に絵を説明する。	〃
第6回	第2課/ALL' AEROPORTO③ 1) 空港でチェックインをする時の表現を学ぶことができる。 2) 空港の知らせを理解をすることができる。 3) 第2課の表現を用いて、会話を作ることができる。	1) ローマ空港にてチェックインデスクで行う会話を聞く。 2) 空港で流れているアナウンスを聞いて、行き先、搭乗口などを聞き取る。 3) 第2課の表現を用いて、ペアで新しい会話を作成して、クラスの皆さんに発表する。	〃
第7回	第2課/ALL' AEROPORTO④ 1) 友達二人の会話を聞いて、様々な情報を聞き取ることができて、電話番号などを聞くことができる。 2) AVERE, SCRIVERE動詞を勉強する小音ができる。 3) 持っている/持っていないという表現を勉強することができる。 4) 疑問詞を勉強することができる。	1) 選択聞き取りを行う。 2) CE L'HO, CE L'ABBIAMOを用いて、文章を完成する。 3) AVERE, SCRIVEREなどを用いて、文章を作成する。 4) 疑問詞を用いて、様々な質問を作成する。	〃
第8回	第3課/IL LAVORO① 1) -ARE, -ERE, -IRE動詞の活用をしっかりと把握することができる。 2) 辞書の使い方を学ぶことができる。	1) -ARE, -ERE, -IRE動詞を用いて、練習を完成したり新しい文章を作成したりする。 2) 電子辞書を用いて、検索方法、文法的な言葉の省略などを説明する。	〃
第9回	第3課/IL LAVORO② 1) 履歴書を作成するときに見える単語を学ぶことができる。 2) 仕事の面接を聞いて、応募者の情報を聞き取ることができる。	1) 仕事の面接の聞き取り練習を行う。 2) 自分の情報を用いて、聞き取り練習に従って簡単な面接を行う。	〃
第10回	第3課/IL LAVORO③ 1) 職業の変化を勉強することができる。 2) FARE, SAPERE動詞を勉強することができる。	1) 職業の単語を用いて、家族、親戚、友達などの職業を紹介する。 2) 様々な動詞の現在形を用いて、文章を完成する。	〃
第11回	第3課/IL LAVORO④ 1) 中文を読んで、決まっている時間で仏用な情報を見つけることができる。 2) 定款師の単数形をしっかりと把握することができる。 3) 前置詞PER, IN, Aなどを使い分けることができる。	1) 速読練習を行う。 2) 第1、2、3課の単語に定冠詞の単数形をつける。 3) 前置詞PER, IN, Aなどを用いて、文章を完成する。	〃
第12回	第4課/LA FAMIGLIA① 1) 家族の単語、定冠詞、所有形容詞を学ぶことができる。	1) CLOZE聞き取り練習二つを行う。	〃
第13回	第4課/LA FAMIGLIA② 1) 家系図を説明することができる。 2) 家族と関係ある単語を勉強することができる。 3) 定冠詞の単数形を復習することができる。 4) 定款師の複数形をしっかりと把握することができる。	1) 様々な家族の関係を説明する。 2) 皆さんの家族を紹介する。 3) 定款師を用いて、文章を完成する。	〃
第14回	問題集/まとめ①	期末試験のための復習	〃
第15回	まとめ②	〃	学んだことを振り返ってみる。

科目名(クラス)	イタリア語2	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	Marco Colnago	履修対象・条件	全専攻				

【授業の「概要」と「目的」】

イタリア語の初級文法を習得するコースです。コミュニケーションのアプローチを忘れず、初級文法の基礎を学ぶことができます。イタリア語未修者が、イタリア語文法の最低限の基礎的知識を習得することを第一の目的とします。履修者が授業を通して、正確な発音、簡単な本文の読書、初級文法の能力を身につけます。初めて学ぶ言語ですから困難は伴いますが、一步一步進んでいきましょう。初めてイタリア語を学ぶ皆さんが、着実にイタリア語を読み、イタリア語で表現する基礎的能力を身につけられるように、丁寧な説明と質問をしやすい環境作りを心がけます。履修者は、分からないことがあれば必ず質問するようにしてください（「どこが分からないのかわからない」場合にも、必ず教員にその旨を伝えてください。分からない項目を一緒に探し、解決していきましょう）。

【授業の「方法」と「形式」】

各回の授業ではテキスト、CD、先生のオリジナル教材等を使用します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・必ず毎回予習や復習などが必要です。（授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします）
- ・宿題もまじめにしてください。
- ・遅刻、途中退席は原則として認めません。
- ・授業中の携帯電話の利用も居眠りも固くお断りします。
- ・積極的な授業参加を望みます。

教科書	NUOVO RETE! A1	著者等	MARCO MEZZADR	出版社	GUERRA EDIZIONI
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業科目の成績評価は、100点を満点として評価し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。
 授業への参加態度、小テスト及び授業で学んだ事項の知識定着を確認する定期試験の素点に基づいて判断する。

授業への参加態度 25%
 期末試験(筆記試験) 75%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	前期の復習		授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします
第2回	第4課/LA FAMIGLIA③ 1) POTERE, VOLERE, ANDARE動詞を使い分けられることかできる。 2) 指示形容詞QUESTOを学ぶことができる。 3) 所有形容詞を勉強することができる。 3) 数字(21~90)の正しい言い方を学ぶことができる。	1) 習った文法を練習する。 2) 指示形容詞と所有形容詞を用いて、文章を作成する。	〃
第3回	第4課/LA FAMIGLIA④ 1) 電話で使える表現を学ぶことができる。 2) 電話で会話することができる。 3) 不規則名詞を勉強することができる。 4) LEIとVOIを使い分けられることかできる。 5) PERCHE' NONという誘うための表現を学ぶことができる。	1) CLOZE聞き取り練習二つを行う。 2) ペアで電話の会話を作成して、ロールプレイングを行う。 3) PERCHE' NONを用いて、様々な誘いする。	〃

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	第5課/ LA CASA① 1) 部屋、家具、建物のタイプを学ぶことができる。 2) 間取りを説明する本文を読むことができる。	1) 写真や絵を見て、新しい単語を書く。 2) 本文を読んで、家の間取りを描く。	授業が終わる前に予習/復習内容をお伝えします
第5回	第5課/ LA CASA② 1) 寝室を説明する本文を読むことができる。 2) 冠詞前置詞を学ぶことができる。 3) 位置を表す副詞を学ぶことができる。	1) 本文を理解して、自分の寝室を説明する(口頭、筆記)。 2) 冠詞前置詞を用いて、文章を完成する。 3) 位置を表す副詞を用いて、新しい文章を作成する。	〃
第6回	第5課/ LA CASA③ 1) 家に関する電話を聞き取ることができる。 2) リビングを説明する会話を聞き取ることができる。	1) 会話を聞いて、質問に答える。 2) リビングの説明を聞いて、リビングの間取りを描く。	〃
第7回	第5課/ LA CASA④ 1) 月、季節、色を勉強することができる。 2) 「~だれのですか」という表現を学ぶことができる。 3) 前置詞DA, IN Diを使い分けすることができる。	1) 月、季節、色が入っている聞き取り練習を行う。 2) 「~だれのですか」という表現を練習する。 3) 様々な前置詞を用いて、文章を完成する。	〃
第8回	第5課/ LA CASA⑤ 1) VENIRE, DIRE, VINCERE, LEGGERE動詞を勉強することができる。 2) 不規則名詞を学ぶことができる。 3) 第5課の単語や表現を用いて、EMAILを作成することができる。	1) VENIRE, DIRE, VINCERE, LEGGERE動詞を用いて、文章を完成する。 2) パカンスに行つて、部屋を借りるためにEMAILを作成する。	〃
第9回	第6課/ LA VITA QUOTIDIANA① 1) 時間を聞くことができる。 2) 時間を教えることができる。 3) 女性の方の一日に関して聞くことができる。	1) T/F聞き取りを行う。 2) 時間が入っているプチ会話を聞いて、時間を書く。	〃
第10回	第6課/ LA VITA QUOTIDIANA② 1) 再起動詞の活用をしっかり勉強することができる。 2) ANDARE+前置詞を使い分けすることができる。 3) 日常に関して中文を作成することができる。	1) 再起動詞を用いて、文章を作成する。 2) 再起動詞を用いて、文章を完成する。 3) 第6課の表現や単語を用いて、中文を書く。	〃
第11回	第6課/ LA VITA QUOTIDIANA③ 1) 長文を読むことができる。 2) 日付を正しく書くことができる。 3) 指示形容詞QUELLOを勉強することができる。 4) 頻度副詞を使い分けすることができる。	1) バリに住んでいるイタリア人が書いた手紙を読んで、質問に答える。 2) 名詞の前に指示形容詞をつける。 3) 頻度副詞を用いて、文章を作成する。	〃
第12回	第6課/ LA VITA QUOTIDIANA④ 1) 家事に関しての会話を聞き取ることができる。 2) 所有形容詞を復習することができる。	1) 家事について話している夫婦の会話を聞いて、表を書き込む。 2) 所有形容詞を用いて、問題を解答する。	〃
第13回	イタリアのクリスマス	イタリアのクリスマス伝統/ゲームを経験する	〃
第14回	問題集/まとめ①	期末試験のための復習	〃
第15回	まとめ②		学んだことを振り返ってみる。

科目名(クラス)	イタリア語3	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	Marco Colnago	履修対象・条件	全専攻				

【授業の「概要」と「目的」】

イタリア語の中級文法を習得するコースです。前期に学んだ文法、コミュニケーションのアプローチを忘れず、中級文法の基礎を学ぶことができます。イタリア語で表現する基礎的能力を身につけられるように、丁寧な説明と質問をしやすい環境作りを心がけます。履修者は、分からないことがあれば必ず質問するようにしてください（「どこが分からないのかわからない」場合にも、必ず教員にその旨を伝えてください。分からない項目を一緒に探し、解決していきましょう）。

【授業の「方法」と「形式」】

各回の授業ではテキスト、CD、先生のオリジナル教材等を使用します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・必ず毎回予習や復習などが必要です。（授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします）
- ・宿題もまじめにしてください。
- ・遅刻、途中退席は原則として認めません。
- ・授業中の携帯電話の利用も居眠りも固くお断りします。
- ・積極的な授業参加を望みます。

教科書	NUOVO RETE! A1	著者等	MARCO MEZZADR	出版社	GUERRA EDIZIONI
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業科目の成績評価は、100点を満点として評価し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。
授業への参加態度、小テスト及び授業で学んだ事項の知識定着を確認する定期試験の素点に基づいて判断する。

授業への参加態度 25%
期末試験(筆記試験) 75%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	第6課／LA VITA QUOTIDIANA① 1) 時間を聞くことができる。 2) 時間を教えることができる。 3) 女性の方の一日に関して聞くことができる。	1) T/F聞き取りを行う。 2) 時間が入っているプチ会話を聞いて、時間を書く。	授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします
第2回	第6課／LA VITA QUOTIDIANA② 1) 再起動詞の活用をしっかりと勉強することができる。 2) ANDARE+前置詞を使い分けることができる。 3) 日常に関して中文を作成することができる。	1) 再起動詞を用いて、文章を作成する。 2) 再起動詞を用いて、文章を完成する。 3) 第6課の表現や単語を用いて、中文を書く。	〃
第3回	第6課／LA VITA QUOTIDIANA③ 1) 長文を読むことができる。 2) 日付を正しく書くことができる。 3) 指示形容詞QUELLOを勉強することができる。 4) 頻度副詞を使い分けることができる。	1) バリに住んでいるイタリア人が書いた手紙を読んで、質問に答える。 2) 名詞の前に指示形容詞をつける。 3) 頻度副詞を用いて、文章を作成する。	〃

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	第6課／LA VITA QUOTIDIANA④ 1) 家事についての会話を聞き取ることができる。 2) 所有形容詞を復習することができる。	1) 家事について話している夫婦の会話を聞いて、表を書き込む。 2) 所有形容詞を用いて、問題を解答する。	授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします
第5回	第7課／IL CIBO, AL RISTORANTE① 1) 食料品や量などの単語を勉強することができる。 2) レシピの材料を書くことができる。 3) 不規則名詞を学ぶことができる。	1) 聞き取り練習を行う。 2) 色によって食料品を分ける。 3) 好きなレシピの材料と必要な量を書いて、クラスの皆さんに発表する。	〃
第6回	第7課／IL CIBO, AL RISTORANTE② 1) レストランのメニューを理解することができる。 2) 不定冠詞の複数形を勉強することができる。	1) 料理のリストを読んで、前菜、パスタ、肉や魚料理、突き合わせで分ける。 2) 名詞の前に正しい不定冠詞の複数形をつける。	〃
第7回	第7課／IL CIBO, AL RISTORANTE③ 1) レストランの会話を聞くことができる。 2) 順番を表す形容詞を勉強することができる。	1) レストランで注文してる二人の会話を聞いて、中文を書く。 2) お会計の会話を聞いて、CLOZE聞き取りを行う。 3) 順番を表す形容詞を用い	〃
第8回	第8課／IL TEMPO LIBERO① 1) 暇な時について話すことができる。 2) 様々な動詞を学ぶことができる。 3) 前置詞INを復習することができる。	1) 教科書に載っている写真を説明する。 2) 動詞の活用を用いて、自分の暇な時間に着いて話す。 3) 前置詞INが入っている質問に答える。	〃
第9回	第8課／IL TEMPO LIBERO② 1) 近過去をしっかり学ぶことができる。	1) 近過去の活用、過去分詞の変化を用いて、様々な問題を解答する。	〃
第10回	第8課／IL TEMPO LIBERO③ 1) 1人の先生の暇な時間に関して聞くことができる。 2) 近過去で作った会話を聞くことができる。	1) 聞き取り練習を行って、質問に答える。 2) 聞き取り練習のストーリーを書く。 3) 近過去を用いて、問題を解答する。	〃
第11回	直接法未来形①		〃
第12回	直接法未来形②		〃
第13回	直接法未来形③		〃
第14回	問題集／まとめ①	期末試験のための復習	〃
第15回	まとめ②		学んだことを振り返ってみる。

科目名(クラス)	イタリア語4	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	Marco Colnago	履修対象・条件	全専攻				

【授業の「概要」と「目的」】

イタリア語の初級文法を習得するコースです。コミュニケーションのアプローチを忘れず、初級文法の基礎を学ぶことができます。イタリア語未修者が、イタリア語文法の最低限の基礎的知識を習得することを第一の目的とします。履修者が授業を通して、正確な発音、簡単な本文の読書、初級文法の能力を身につけます。初めて学ぶ言語ですから困難は伴いますが、一步一步進んでいきましょう。初めてイタリア語を学ぶ皆さんが、着実にイタリア語を読み、イタリア語で表現する基礎的能力を身につけられるように、丁寧な説明と質問をしやすい環境作りを心がけます。履修者は、分からないことがあれば必ず質問するようにしてください（「どこが分からないのかわからない」場合にも、必ず教員にその旨を伝えてください。分からない項目を一緒に探し、解決していきましょう）。

【授業の「方法」と「形式」】

各回の授業ではテキスト、CD、先生のオリジナル教材等を使用します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・必ず毎回予習や復習が必要です。（授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします）
- ・宿題もまじめにしてください。
- ・遅刻、途中退席は原則として認めません。
- ・授業中の携帯電話の利用も居眠りも固くお断りします。
- ・積極的な授業参加を望みます。

教科書	プリント教材	著者等	先生作成、その他	出版社	
教科書	NUOVO RETE! A1	著者等	MARCO MEZZADR	出版社	GUERRA EDIZIONI
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業科目の成績評価は、100点を満点として評価し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。
 授業への参加態度、小テスト及び授業で学んだ事項の知識定着を確認する定期試験の素点に基づいて判断する。

授業への参加態度 25%
 期末試験（筆記試験） 75%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	前期の復習		授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします
第2回	旅行のプランを書く①	書く練習	〃
第3回	旅行のプランを書く②	発表	〃

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	非人称のSI		授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします
第5回	受け身のSI		//
第6回	数量代名詞NE①	NE&現在形	//
第7回	数量代名詞NE②	NE&過去形	//
第8回	半過去①		//
第9回	半過去②		//
第10回	半過去③		//
第11回	半過去④		//
第12回	歌で学ぶイタリア語		//
第13回	イタリアのクリスマス	イタリアのクリスマス伝統／ゲームを経験する	//
第14回	問題集／まとめ①	期末試験のための復習	//
第15回	まとめ②		学んだことを振り返ってみる。

科目名(クラス)	イタリア語圏異文化コミュニケーション1	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	Marco Colnago	履修対象・条件	全専攻				

【授業の「概要」と「目的」】

イタリア語の日常会話でよく使われる表現を学びながら、会話の基礎を身につける授業です。録音を聞いて、耳を慣らしましょう。声を出して、正しい発音を身につけましょう。具体的な場面に沿って、日常会話を学びましょう。

イタリア語未修者が、イタリア語コミュニケーションの最低限の基礎的知識を習得することを第一の目的とします。履修者が授業を通して、日常会話の能力を身につけます。初めて学ぶ言語ですから困難は伴いますが、一步一步進んでいきましょう。初めてイタリア語を学ぶ皆さんが、基礎的能力を身につけられるように、丁寧な説明と質問をしやすい環境作りを心がけます。履修者は、分からないことがあれば必ず質問するようにしてください（「どこが分からないのかわからない」場合にも、必ず教員にその旨を伝えてください。分からない項目を一緒に探し、解決していきましょう）。

【授業の「方法」と「形式」】

各回の授業ではテキスト、CD、先生のオリジナル教材等を使用します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・必ず毎回予習や復習が必要です。（授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします）
- ・宿題もまじめにしてください。
- ・遅刻、途中退席は原則として認めません。
- ・授業中の携帯電話の利用も居眠りも固くお断りします。
- ・積極的な授業参加を望みます。

教科書	NUOVO ESPRESSO 1	著者等	LUCIANA ZIGLI	出版社	ALMA EDIZIONI
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業科目の成績評価は、100点を満点として評価し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。授業への参加態度、小テスト及び授業で学んだ事項の知識定着を確認する定期試験の素点に基づいて判断する。

授業への参加態度 25%
 口頭試験 25%
 筆記試験 50%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	挨拶、名前を聞く アルファベット、C/Gの発音	イタリア出身の知らない人に会う時に完璧に自己紹介する	授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします
第2回	自己紹介①、授業中に使える表現	イタリア出身の知らない人に会う時に完璧に自己紹介する	〃
第3回	国籍を聞く、数字(1-20)	相手の国を聞く	〃

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	TuとLEIの使い分け、電話番号・住所を聞く	丁寧語の使い方 数字を聞き取る	授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします
第5回	第1章 まとめ 第1章 ビデオ講座(画像／文法)		〃
第6回	第1章 小テスト 自己紹介②、気分を聞く 他人を紹介する	二人以上が居るときに自己紹介／紹介する	〃
第7回	話せる言語・国籍・年齢を聞く 数字(21-100)	形容詞の変化	〃
第8回	職業	名詞の変化	〃
第9回	第2章 まとめ 第2章 ビデオ講座(画像／文法)		〃
第10回	第2章 小テスト バーで使える表現、CI/GIの発音	イタリアンバーで注文する 定冠詞／不定冠詞 動詞の変化	〃
第11回	レストランで使える表現①	イタリアンレストランで注文する 定冠詞／不定冠詞 動詞の変化	〃
第12回	レストランで使える表現② 予約するための表現	お会計をお願いする 気に入ったレストランに電話してテブルを予約する	〃
第13回	第3章 まとめ 第3章 ビデオ講座(画像／文法)		〃
第14回	問題集(第1、2、3章) 口頭試験(練習)	期末試験のための復習	〃
第15回	まとめ		学んだことを振り返ってみる。

科目名(クラス)	イタリア語圏異文化コミュニケーション2	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	Marco Colnago	履修対象・条件	全専攻				

【授業の「概要」と「目的」】

イタリア語の日常会話でよく使われる表現を学びながら、会話の基礎を身につける授業です。録音を聞いて、耳を慣らしましょう。声を出して、正しい発音を身につけましょう。具体的な場面に沿って、日常会話を学びましょう。

イタリア語未修者が、イタリア語コミュニケーションの最低限の基礎的知識を習得することを第一の目的とします。履修者が授業を通して、日常会話の能力を身につけます。初めて学ぶ言語ですから困難は伴いますが、一步一步進んでいきましょう。初めてイタリア語を学ぶ皆さんが、基礎的能力を身につけられるように、丁寧な説明と質問をしやすい環境作りを心がけます。履修者は、分からないことがあれば必ず質問するようにしてください（「どこが分からないのか分からない場合にも、必ず教員にその旨を伝えてください。分からない項目を一緒に探し、解決していきま

【授業の「方法」と「形式」】

各回の授業ではテキスト、CD、先生のオリジナル教材等を使用します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・必ず毎回予習や復習などが必要です。（授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします）
- ・宿題もまじめにしてください。
- ・遅刻、途中退席は原則として認めません。
- ・授業中の携帯電話の利用も居眠りも固くお断りします。
- ・積極的な授業参加を望みます。

教科書	NUOVO ESPRESSO 1	著者等	LUCIANA ZIGLI	出版社	ALMA EDIZIONI
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業科目の成績評価は、100点を満点として評価し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。授業への参加態度、小テスト及び授業で学んだ事項の知識定着を確認する定期試験の素点に基づいて判断する。

授業への参加態度 25%
 口頭試験 25%
 筆記試験 50%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	前期の復習		授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします)
第2回	自由時間①	ARE, ERE, IRE 規則動詞の活用 頻度副詞 前置詞	〃
第3回	自由時間②	不規則動詞の活用 頻度副詞 前置詞	〃

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	好み	好きな食べ物やスポーツなどについて話す 間接目的語代名詞	授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします)
第5回	時間①、SC/SKの発音	時間を聞く	〃
第6回	第4章 まとめ 第4章 ビデオ講座(画像／文法)		〃
第7回	第4章 小テスト ホテルを予約する①、C/G/CI/GIの発音	イタリアのホテルに電話して予約する	〃
第8回	ホテルを予約する②	イタリアにあるホテルに電話して予約する	〃
第9回	ホテルで起きた問題を解決する	問題を解決する	〃
第10回	います／あります 問題を説明する	壊れたもの／足りないものがあれば電話で説明する	〃
第11回	月の言い方 順番を表す形容詞 数字(101-2,000,000,000)		〃
第12回	第5章 まとめ 第5章 ビデオ講座(画像／文法)		〃
第13回	第5章 小テスト イタリアのクリスマス	イタリアのクリスマス伝統／ゲームを経験する	〃
第14回	問題集(第4、5章) 口頭試験(練習)	期末試験のための復習	〃
第15回	まとめ		学んだことを振り返ってみる。

科目名(クラス)	イタリア語圏異文化コミュニケーション3	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	Marco Colnago	履修対象・条件	全専攻				

【授業の「概要」と「目的」】

イタリア語の日常会話を学ぶ授業です。目、耳、口を使い、本授業の目標はイタリア語で実践的なコミュニケーションをとることになります。イタリアの文化や生活習慣なども紹介します。分からないことがあれば必ず質問するようにしてください（「どこが分からないのかわからない」場合にも、必ず教員にその旨を伝えてください。分からない項目を一緒に探し、解決していきましょう）。

【授業の「方法」と「形式」】

各回の授業ではテキスト、CD、先生のオリジナル教材等を使用します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・必ず毎回予習や復習などが必要です。（授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします）
- ・宿題もまじめにきてください。
- ・遅刻、途中退席は原則として認めません。
- ・授業中の携帯電話の利用も居眠りも固くお断りします。
- ・積極的な授業参加を望みます。

教科書	NUOVO ESPRESSO 1	著者等	LUCIANA ZIGLI	出版社	ALMA EDIZIONI
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業科目の成績評価は、100点を満点として評価し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。授業への参加態度、小テスト及び授業で学んだ事項の知識定着を確認する定期試験の素点に基づいて判断する。

授業への参加態度 25%
 口頭試験 25%
 筆記試験 50%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	イタリア旅行①	不定冠詞の複数形 場所代名詞 CI	授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします)
第2回	イタリア旅行②	自分の住んでいる町を説明する バス停で停留場について話す 助動詞 DOVERE	〃
第3回	イタリア旅行③ SCO-SCHI, SCI-SCHIの発音	道を説明する 疑問視	〃

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	イタリア旅行④ 第6章 まとめ/ビデオ講座	お店の営業時間	授業が終わる前に予習/復習内容をお伝えします)
第5回	第6章 小テスト バカンスへ行きましょう! ①	近過去(自動詞/他動詞) イタリアからの絵はがきを読む	〃
第6回	バカンスへ行きましょう! ②	近過去(自動詞/他動詞) 近過去でBINGO! 週末物語り①	〃
第7回	バカンスへ行きましょう! ③ B-Pの発音	近過去(自動詞/他動詞) 週末物語り②	〃
第8回	バカンスへ行きましょう! ④ 第7章 まとめ/ビデオ講座	近過去(自動詞/他動詞) お天気	〃
第9回	第7章 小テスト 近過去まとめゲーム イタリアの美味①	イタリアでよく使う食料品	〃
第10回	イタリアの美味②	様々なお店で買物する 入れ物/量	〃
第11回	イタリアの美味③	スーパーで買物する 間接目的語代名詞	〃
第12回	イタリアの美味④	話す練習	〃
第13回	イタリアの美味⑤ 第8章 まとめ/ビデオ講座	ミートソースの作り方 非人称の SI	〃
第14回	問題集(第6、7、8章) 口頭試験(練習)	期末試験のための復習	〃
第15回	まとめ		学んだことを振り返ってみる。

科目名(クラス)	イタリア語圏異文化コミュニケーション4	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	Marco Colnago	履修対象・条件	全専攻				

【授業の「概要」と「目的」】

イタリア語の日常会話を学ぶ授業です。目、耳、口を使い、本授業の目標はイタリア語で実践的なコミュニケーションをとることにあります。イタリアの文化や生活習慣なども紹介します。分からないことがあれば必ず質問するようにしてください（「どこが分からないのかわからない」場合にも、必ず教員にその旨を伝えてください。分からない項目を一緒に探し、解決していきましょう）。

【授業の「方法」と「形式」】

各回の授業ではテキスト、CD、先生のオリジナル教材等を使用します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・必ず毎回予習や復習が必要です。（授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします）
- ・宿題もまじめにしてください。
- ・遅刻、途中退席は原則として認めません。
- ・授業中の携帯電話の利用も居眠りも固くお断りします。
- ・積極的な授業参加を望みます。

教科書	JOVO ESPRESSO 1	著者等	LUCIANA ZIGLI	出版社	ALMA EDIZIONI
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業科目の成績評価は、100点を満点として評価し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。授業への参加態度、小テスト及び授業で学んだ事項の知識定着を確認する定期試験の素点に基づいて判断する。

授業への参加態度 25%
 口頭試験 25%
 筆記試験 50%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	前期の復習		授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします)
第2回	日常生活①	勤務時間 終わる／終える&前置詞 始める／始まる&前置詞	〃
第3回	日常生活②	朝は早起きですか？ 時間 再起動詞	〃

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	日常生活③	平日の一日 時間 再起動し	授業が終わる前に予習／復習 内容をお伝えします)
第5回	日常生活④	Davideの土曜日 再起動詞	//
第6回	日常生活⑤ 第9章 まとめ／ビデオ講座	アンケートに答える	//
第7回	第9章 小テスト イタリアの祝日	グリーティングカードを書く	//
第8回	家族①	家族と関係ある単語を勉強して、 自分の家系図を説明する	//
第9回	家族②	聞き取り練習	//
第10回	家族③	所有形容詞 形容詞の最上級	//
第11回	家族④	再起動詞の直接法近過去	//
第12回	家族⑤ 第10章 まとめ／ビデオ講座	聞き取り練習	//
第13回	第10章 小テスト イタリアのクリスマス	イタリアのクリスマス伝統／ゲーム を経験する	//
第14回	問題集(第9、10章) 口頭試験(練習)	期末試験のための復習	//
第15回	まとめ		学んだことを振り返ってみる。

科目名(クラス)	和声学1-a	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	井上 淳司	履修対象・条件	音楽創造専攻以外は必修。演奏家コースは履修不可。				

【授業の「概要」と「目的」】

音楽をより理解し、より良い演奏につなげるためにも和声学の習得は必要です。メロディーを支える和声の響きは理論的にも感覚的にも音楽の流れを作り全体を支配する要因となっています。和声学Ⅰではハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンに代表される西洋音楽古典の調性音楽の和声の理論を学習し、実習を通して体感していきます。

【授業の「方法」と「形式」】

解説と実習。和声の解答は一通りではありません。出来る限り個別に見ます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

和声の解答は、必ずピアノ等で音にしましょう。和声をより効果的に学ぶには、その和音の響きを聴き、感覚的に把握することが大切です。眼で見て、音を出して、耳で聴くことによって、皆さんの和声学習はより確かなものになるでしょう。成果よりも姿勢や過程が大事です。

教科書	和声 理論と実習Ⅰ	著者等	池内友次郎他	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業中に見る実習ノート50%、筆記試験50%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション	和声法の概略。音楽に置ける和声の意味と重要性。授業のノートの取り方と使い方の注意等。	
第2回	構成音と配置	三和音の理解、各音の名称、音域、隣接声部間の距離、配分の理解、構成音の数	ノート記述の確認
第3回	基本的な連結法	進行の名称、制限、共通音の有無による連結法の違い	ノート記述の確認、計画的な実習

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第4回	例外的な連結	II-V、V-VIの連結方法	ノート記述の確認、計画的な実習
第5回	各和音の機能	T,D,Sの理解と対応する和音	ノート記述の確認、計画的な実習
第6回	カデンツと終止	3種のカデンツ、4種の終止	ノート記述の確認、計画的な実習
第7回	各調性による連結	和声短音階の理解、短調の連結、G:,F:g:,f:,その他の調	ノート記述の確認、計画的な実習
第8回	ここまでのまとめと実習	基本的な4通りの連結法の確認および実習の徹底	ノート記述の確認、計画的な実習
第9回	第一転回形の配置	[一転]の理解、構成音の確認、重複音、配置	ノート記述の確認、計画的な実習
第10回	第一転回形の連結	連結法の理解、実習の手引き、長い課題の実習	ノート記述の確認、計画的な実習
第11回	第二転回形の配置	[二転]の理解、構成音の確認、重複音、配置	ノート記述の確認、計画的な実習
第12回	第二転回形の連結	連結法の理解、実習の手引き、長い課題の実習	ノート記述の確認、計画的な実習
第13回	第二転回形までの実習	[一転][二転]の確認、実習の徹底	ノート記述の確認、計画的な実習
第14回	属七の構成音と配置	ドミナントおよび[属七]の理解、構成音の確認、基本形と転回形の重複音、配置等注意事項	ノート記述の確認、計画的な実習
第15回	属七の定型および転回形まとめ	バス定型の理解、転回形の連結法	ノート記述の確認、計画的な実習

科目名(クラス)	和声学 1-b	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	荻久保和明	履修対象・条件	全専攻必修(但し、音楽創造専攻は選択)(演奏家コースは履修不可)				

【授業の「概要」と「目的」】

ルネッサンスから古典派、ロマン派までのクラシックの根底を成すハーモニーの基本的な法則をわかり易く解説します。それらは、この時代に属する作曲家の共通言語であり、作品を理解する上で必要不可欠な要素だからです。尚、理解を容易にするためにC dur限定で講義を進める。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義形式及び演習形式、大体1:2の割合、演習は基本的に個人レッスン

【履修時の留意点と心得】

- ・完成した和声を合唱してみたり、管弦打楽器で合奏することもあります
- ・遅刻、途中退出は原則として認めません
- ・積極的な授業参加を望みます

教科書	なし	著者等		出版社	
教科書	なし	著者等		出版社	
参考文献	和声 I	著者等	島岡 譲 他	出版社	音楽之友社
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と基準】

- ・学期末定期試験(80%)
- ・演習時の理解到達度(20%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	用語解説、和声の基本的な考え方、機能と声という仕組み	和声という学問の考え方を正しく理解すること	
第2回	I、II、IV、V、VIという四声体と和声の解説、配置(密集と開離)分類方法、カデンツの種類	トニック(T)、ドミナント(D)、サブドミナント(S)の役割をしっかりとつかむこと	ローマ数字で表された和声を実際に密集、開離で書いてみる
第3回	共通音のある連結 I→VI、I→IV、I→V、IV→I、V→I、VI→IV、VI→II、IV→II、II→V	共通音保留の原則とあえてそれを行わないパターン(IV→II、II→V)の習得	それぞれの連結をピアノで弾いてみる

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	共通音のある連結の演習	個人レッスンにより理解を深める	
第5回	共通音のない連結(Ⅰ→Ⅱ、Ⅳ→Ⅴ、Ⅴ→Ⅵ)と連続5度、連続8度の解説	最大の禁止事項 連続5度と連続8度を正しく理解すること	それぞれの連結をピアノで弾いてみる
第6回	共通音のない連結の演習	個人レッスンにより理解を深める	
第7回	ソプラノとバスの美しい関係及び定型パターンの解説と演習(Ⅳ→Ⅱ→Ⅴ→Ⅵ)	和声という学問の中での音楽性(芸術性)の理解。(正解は無数にあるが、本当に美しいものはひとつ)	
第8回	第1転回形の解説 Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴの諸和音の第1転回形の使用方法和定型の解説	古典音楽における第1転回形のもつ意味を正しく理解すること	それぞれの連結をピアノで弾いてみる
第9回	第1転回形の演習	個人レッスンにより理解を深める	
第10回	第2転回形の解説 Ⅰ→Ⅳ ² →Ⅰ、Ⅰ→Ⅴ ² →Ⅰ ¹ 、Ⅱ ¹ →Ⅰ ² →Ⅴの定型使用方法の理解、説明	古典音楽における第2転回形のもつ意味を正しく理解すること	それぞれの連結をピアノで弾いてみる
第11回	第2転回形の演習	個人レッスンにより理解を深める	
第12回	Ⅴ度の7thの和音(属7)の理解と使用方法。第3転回形の解説	古典音楽における属7の和音(ドミナント)のもつ意味を正しく理解すること	それぞれの連結をピアノで弾いてみる
第13回	属7の和音の諸形態の演習	個人レッスンにより理解を深める	過去問を使用して最終チェック
第14回	総合問題演習	模範解答により個々に最終チェックを行う。到達レベルの確認	過去問を使用して最終チェック
第15回	まとめ		

科目名(クラス)	和声学1-c	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	加茂下 裕	履修対象・条件	音楽創造専攻以外は必修。演奏家コースは履修不可。				

【授業の「概要」と「目的」】

演奏のための楽曲分析・伴奏付け・編曲などの土台としてクラシック音楽の作曲の基本である和声学を勉強します。この和声学1ではバロック初期に確立された讃美歌スタイルとも言うべき三和音スタイルによる課題で演習を進めます。

【授業の「方法」と「形式」】

講義・演習

【履修時の「留意点」と「心得」】

テキスト以外に要点と基本課題をまとめたプリントを配ります。基本課題の内、提出課題と指定した課題の提出により課題点を算出します。必ず提出して下さい。またテキストから補充問題を指定し提出すれば課題点に加えます。積極的に取り組んで下さい。

教科書	和声 理論と実習 I	著者等	島岡譲 他	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

学期末試験60% 課題点40%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	予備知識	和音記号を覚える	
第2回	基本位置3和音の配置	基本位置三和音の配置法を理解する	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第3回	基本位置3和音の連結①	基本位置三和音の連結法を理解する	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	基本位置3和音の連結②	基本位置三和音の連結法を理解する	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第5回	和音設定の原理	和音設定の原理を理解する	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第6回	復習	・8小節のバス課題を解けるようにする ・提出課題の提出	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第7回	各種の調	・C durの和声を他の調に応用する方法を理解する ・提出課題の提出	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第8回	[1転]3和音の配置	[1転]3和音の配置法を理解する	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第9回	[1転]3和音の連結①	[1転]3和音の連結法を理解する	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第10回	[1転]3和音の連結②	[1転]3和音の連結法を理解する	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第11回	[1転]3和音を含むバス課題	[1転]3和音を含むバス課題を解けるようにする	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第12回	復習	・[1転]3和音を含むバス課題を解けるようにする ・提出課題の提出	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第13回	[2転]3和音の配置・連結	[2転]3和音の配置法・連結法を理解する	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第14回	復習	・[2転]3和音を含むバス課題を解けるようにする ・提出課題の提出	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第15回	まとめ	三和音スタイルによるバス課題を解ける	

科目名(クラス)	和声学2-a	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	井上 淳司	履修対象・条件	音楽創造専攻以外は必修。演奏家コースは履修不可。				

【授業の「概要」と「目的」】

音楽をより理解し、より良い演奏につなげるためにも和声学の習得は必要です。メロディーを支える和声の響きは理論的にも感覚的にも音楽の流れを作り全体を支配する要因となっています。和声学Ⅰではハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンに代表される西洋音楽古典の調性音楽の和声の理論を学習し、実習を通して体感していきます。

【授業の「方法」と「形式」】

解説と実習。和声の解答は一通りではありません。出来る限り個別に見ます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

和声の解答は、必ずピアノ等で音にしましょう。和声をより効果的に学ぶには、その和音の響きを聴き、感覚的に把握することが大切です。眼で見て、音を出して、耳で聴くことによって、皆さんの和声学習はより確かなものになるでしょう。成果よりも姿勢や過程が大事です。

教科書	和声 理論と実習Ⅰ	著者等	池内友次郎他	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業中に見る実習ノート50%、筆記試験50%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	属七一Ⅰの連結	基本形と転回形の連結の違いの理解	ノート記述の確認、計画的な実習
第2回	属七一Ⅵの連結	Ⅰへの連結法との違いの理解	ノート記述の確認、計画的な実習
第3回	属七の実習	長い課題の和音設定および和音の違いによる連結法の違いの理解	ノート記述の確認、計画的な実習

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第4回	属七の根音省略形の配置	VIIとの違い、ドミナントの徹底、第7音の意味と進行	ノート記述の確認、計画的な実習
第5回	属七の根音省略形の連結	定型の把握、配置による連結の違いの理解	ノート記述の確認、計画的な実習
第6回	ここまでの実習	移調の徹底およびC:以外の調での実習に慣れる。	ノート記述の確認、計画的な実習
第7回	属九の配置	ドミナントの確認および[属九]の理解、構成音の確認、基本形と転回形の省略音、配置等注意事項	ノート記述の確認、計画的な実習
第8回	属九の連結	限定進行音の確認、転回形によつての連結上の注意事項	ノート記述の確認、計画的な実習
第9回	属九の根音省略形の配置	配置による限定進行音の扱いの理解	ノート記述の確認、計画的な実習
第10回	長調における属九の和音設定および連結	長調の配置制限の理解および実習	ノート記述の確認、計画的な実習
第11回	属九の実習	長い課題の和音設定および配置の違いによる連結法の違いの理解	ノート記述の確認、計画的な実習
第12回	短調における属九の和音設定および連結	短調の配置制限の理解および実習	ノート記述の確認、計画的な実習
第13回	ここまでの実習	移調の徹底、様々な調の属九の連結に慣れる。	ノート記述の確認、計画的な実習
第14回	D諸和音の総括	ドミナントの意味や扱いを体感出来る。譜面からも読み取る。	ノート記述の確認、計画的な実習
第15回	まとめ	基本的な和声法の理解と確実な実習を体得するための理解。	ノート記述の確認、計画的な実習

科目名(クラス)	和声学 2-b	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	荻久保和明	履修対象・条件	全専攻必修(但し、音楽創造専攻は選択)(演奏家コースは履修不可)				

【授業の「概要」と「目的」】

和声 I で学んだことをもとに、実際の楽曲においてそれがどう生かされているかを実証、検証する。又それぞれの作品に和声による楽曲分析を試みる。
それによりハーモニーというものがその作品にどのような力(推進力)を与えているかを考察し、旋律とハーモニーの関係を明らかにするものである。尚、理解を容易にするためにC dur限定で講義を進める。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義とディスカッションを中心にする。後半は楽曲分析の演習も行う。

【履修時の留意点と心得】

- ・与えられたテキストを合唱、合奏したりして、講義内容を耳で確認する
- ・遅刻、早退は原則として認めません
- ・ディスカッションへの積極的な参加を望みます

教科書	なし	著者等		出版社	
教科書	なし	著者等		出版社	
参考文献	なし	著者等		出版社	
参考文献	なし	著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と基準】

- ・学期末定期試験(80%)
- ・演習時の理解到達度(20%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	V度の7th根音省略形の解説	開離形使用時の連続5度の回避	それぞれの連結をピアノで良く弾いてみること
第2回	V度の7th根音省略形の演習	個人レッスンにより理解を深める	
第3回	V度の9thの和音及びV度の9thの根音省略形の解説	5音と9音の連続5度の回避方法	それぞれの連結をピアノで弾いてみること

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	第3回の講義の演習	個人レッスンにより理解を深める	
第5回	実際の楽曲により偽終止の理解と美学的及び哲学的考察	偽終止が内在する音楽的美しさを体感する	テキストを歌ったりピアノで弾いて感動の再体験をして欲しい
第6回	実際の楽曲により変終止の理解と美学的及び哲学的考察	変終止が内在する音楽的美しさを体感する	テキストを歌ったりピアノで弾いて感動の再体験をして欲しい
第7回	c mollの借用和音(VI度とIV度)の使用方法和実例	特にベートーヴェンにみられる借用VI度の効果と音楽的意味を理解する	〃
第8回	ツェルニーのエチュードによる和音分析	和声分析による旋律とハーモニーの関係を理解する	〃
第9回	ブルグミュラーの小品による和音分析	和音分析により、旋律とハーモニーの関係を理解し、楽曲の構成を考察する	〃
第10回	コンコーネによる和音分析	〃	〃
第11回	ソナチネによる和音分析	〃	〃
第12回	重要定型のチェックとV度の諸和音の確認	前期の理解度の確認とミスしやすい部分の最終チェック	それぞれの連結をピアノで弾いてみる
第13回	総合問題演習	模範解答により個々に最終チェックを行う。到達レベルの確認	過去問を使用して復習
第14回	〃	〃	〃
第15回	まとめ		

科目名(クラス)	和声学2-c	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	加茂下 裕	履修対象・条件	音楽創造専攻以外は必修。演奏家コースは履修不可。				

【授業の「概要」と「目的」】

演奏のための楽曲分析・伴奏付け・編曲などの土台としてクラシック音楽の作曲の基本である和声学を勉強します。この和声学2では古典派の音楽によって発展したドミナント和音の諸形態を含む課題で演習を進めます。

【授業の「方法」と「形式」】

講義・演習

【履修時の「留意点」と「心得」】

テキスト以外に要点と基本課題をまとめたプリントを配ります。基本課題の内、提出課題と指定した課題の提出により課題点を算出します。必ず提出して下さい。またテキストから補充問題を指定し提出すれば課題点に加えます。積極的に取り組んで下さい。

教科書	和声 理論と実習 I	著者等	島岡譲 他	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

学期末試験60% 課題点40%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	和声学1-cの復習	和声学1-cの内容を思い出す	
第2回	属七の和音①	属七の和音の配置法・連結法を理解する	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第3回	属七の和音②	・属七の和音を含むバス課題を解けるようにする	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	復習	・属七の和音を含むバス課題を解けるようにする ・提出課題の提出	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第5回	属七の和音③	・属七の和音の各種省略形を理解する	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第6回	属九の和音①	属九の和音の基本形を理解する	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第7回	属九の和音②	長調の属九の和音の根音省略形を理解する	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第8回	復習	・長調の属九の和音を含むバス課題を解けるようにする ・提出課題の提出	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第9回	属九の和音③	短調の属九の和音の根音省略形を理解する	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第10回	復習	・短調の属九の和音を含むバス課題を解けるようにする ・提出課題の提出	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第11回	D諸和音の総括	・属七・属九の和音を含むバス課題を解けるようにする	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第12回	復習	・属七・属九の和音を含むバス課題を解けるようにする ・提出課題の提出	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第13回	総合練習	ここまでの内容を理解し、ドミナント和音の諸形態を含むバス課題を解けるようにする	・補充問題の練習
第14回	総合練習	ここまでの内容を理解し、ドミナント和音の諸形態を含むバス課題を解けるようにする	・補充問題の練習
第15回	まとめ	ドミナント和音の諸形態を含むバス課題を解ける	

科目名(クラス)	和声学3-a	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	加茂下 裕	履修対象・条件	音楽創造と音楽療法専攻以外は必修。演奏家コースは履修不可。				

【授業の「概要」と「目的」】

演奏のための楽曲分析・伴奏付け・編曲などの土台としてクラシック音楽の作曲の基本である和声学を勉強します。
この和声学3では、和声学2で勉強したドミナント諸和音を軸としつつ、ロマン派の音楽と共に発展した各種のサブドミナント和音を加えて演習を進めます。

【授業の「方法」と「形式」】

講義・演習

【履修時の「留意点」と「心得」】

テキスト以外に要点と基本課題をまとめたプリントを配ります。基本課題の内、提出課題と指定した課題の提出により課題点を算出します。必ず提出して下さい。またテキストから補充問題を指定し提出すれば課題点に加えます。積極的に取り組んで下さい。

教科書	和声 理論と実習Ⅱ	著者等	島岡讓 他	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

(380文字以内)

学期末試験60% 課題点40%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	和声学1の復習:[基]3和音/[1転][2転]3和音	[基]3和音及び[1転・2転]3和音の用法を思い出す	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第2回	和声学2の復習①属七の和音	属七の和音の用法を思い出す	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第3回	和声学2の復習②属九の和音	属九の和音の用法を思い出す	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	復習	・属九の和音を含むバス課題を解けるようにする ・提出課題の提出	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第5回	Ⅱ7の和音①	Ⅱ7の和音の配置法・連結法を理解する	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第6回	Ⅱ7の和音②	Ⅱ7の和音を含むバス課題を解けるようにする	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第7回	復習	・Ⅱ7の和音を含むバス課題を解けるようにする ・提出課題の提出	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第8回	準固有和音①	準固有和音の用法を理解する	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第9回	準固有和音②	準固有和音を含むバス課題を解けるようにする	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第10回	復習	・準固有和音を含むバス課題を解けるようにする ・提出課題の提出	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第11回	ドッペルドミナント①	ドッペルドミナントの三和音形の用法を理解する	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第12回	ドッペルドミナント②	ドッペルドミナントの属七形の用法を理解する	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第13回	復習	・ドッペルドミナントの属七形を含むバス課題を解けるようにする ・提出課題の提出	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第14回	総合練習	Ⅱ7の和音・準固有和音・ドッペルドミナントを含むバス課題を解けるようにする	・補充問題の練習
第15回	まとめ	Ⅱ7の和音・準固有和音・ドッペルドミナントを含むバス課題を解ける	

科目名(クラス)	和声学3-b	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	横山 裕美子	履修対象・条件	必修。但し、音楽創造と音楽療法専攻は選択。 演奏家コースは履修不可。				

【授業の「概要」と「目的」】

音楽の基本構成要素である“和声”の魅力と技法を学ぶことは、西洋音楽への理解を深める上で極めて重要です。和声学1・2で学んだ和声の基礎技法に加え、和声学3では、美しいサブドミナント諸和音を学びます。

【授業の「方法」と「形式」】

テキストとプリントを使い、講義と課題実習で進めていきます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

必ずピアノで弾いて音を確かめましょう。課題を繰り返し復習することが大事です。
積極的に取り組んでください。

教科書	和声理論と実習Ⅱ	著者等	島岡譲 他	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業内課題実習(30%)
学期末定期試験(70%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	和声学Ⅰの復習① 基本形の3和音	基本形の3和音を正しく配置・連結でき、バス課題をこなせる。禁則や和音設定の原理を説明できる。	和声学Ⅰ第5章までを復習しておく。 授業で学習した課題を見直す、弾く、やり残した課題を実習する。
第2回	和声学Ⅰの復習② 第1転回形・第2転回形の3和音	第1転回形・第2転回形の3和音を正しく配置・連結でき、バス課題をこなせる。	和声学Ⅰ第7章までを復習しておく。 授業で学習した課題を見直す、弾く、やり残した課題を実習する。
第3回	和声学Ⅰの復習③ 属七の和音	属七の和音を正しく配置・連結でき、バス課題をこなせる。	和声学Ⅰ第8章までを復習しておく。 授業で学習した課題を見直す、弾く、やり残した課題を実習する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	和声学Ⅰの復習④ 属九の和音	属九の和音を正しく配置・連結でき、バス課題をこなせる。	和声学Ⅰ第9章までを復習しておく。 授業で学習した課題を見直す、弾く、やり残した課題を実習する。
第5回	Ⅱ7の和音①	Ⅱ7の和音の配置・連結法を理解する。	テキスト第1章を読んでおく。 授業で学習した課題を見直す、弾く、やり残した課題を実習する。
第6回	Ⅱ7の和音②	Ⅱ7の和音の配置・連結法を理解する。	テキスト第1章を読んでおく。 授業で学習した課題を見直す、弾く、やり残した課題を実習する。
第7回	Ⅱ7の和音③	Ⅱ7の和音を含むバス課題を迅速にこなせる。	同上
第8回	準固有和音①	準固有和音の配置・連結法を理解する。	テキスト第2章を読んでおく。 授業で学習した課題を見直す、弾く、やり残した課題を実習する。
第9回	準固有和音②	準固有和音を正しく配置・連結でき、バス課題をこなせる。	同上
第10回	準固有和音③	準固有和音を含むバス課題を迅速にこなせる。	同上
第11回	ドッペルドミナントの3和音形	ドッペルドミナントの3和音形の配置・連結法を理解する。	テキスト第3章15～19を読んでおく。授業で学習した課題を見直す、弾く、やり残した課題を実習する。
第12回	ドッペルドミナントの属七形	ドッペルドミナントの属七形の配置・連結法を理解する。	テキスト第3章20を読んでおく。 授業で学習した課題を見直す、弾く、やり残した課題を実習する。
第13回	ドッペルドミナントの3和音形・属七形の復習。	ドッペルドミナントの3和音形・属七形を正しく配置・連結でき、バス課題をこなせる。	テキストいままでのところを読み直す。 授業で学習した課題を見直す、弾く、やり残した課題を実習する。
第14回	総復習	いままで学習した和音の配置・連結法の確認。バス課題をこなせる。	同上
第15回	本科目の総括	本科目で学習したⅡ7・準固有和音・ドッペルドミナントの3和音形と属七形の和音を使いこなすことができる。	同上

科目名(クラス)	和声学 3-c	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	荻久保和明	履修対象・条件	全専攻必修(但し、音楽創造専攻と音楽療法専攻は選択) (演奏家コースは履修不可)				

【授業の「概要」と「目的」】

ルネッサンスから古典派、ロマン派、印象派までのクラシックの根底を成すハーモニーの基本的な法則をわかり易く解説する。それらはこの時代に属する作曲家の共通言語であり、作品を理解する上で必要不可欠な要素だからである。尚、理解を容易にするためにc moll限定で講義を進める。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義形式及び演習形式、大体1:2の割合、演習は基本的に個人レッスン

【履修時の留意点と心得】

- ・完成した和声を合唱、合奏などの方法により耳で実感する
- ・遅刻、早退は原則として認めない
- ・講義への積極的な参加を望む

教科書	なし	著者等		出版社	
教科書	なし	著者等		出版社	
参考文献	和声Ⅱ	著者等	島岡 譲 他	出版社	音楽之友社
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と基準】

- ・学期末定期試験(80%)
- ・演習時の理解到達度(20%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	ソプラノとバスの美しい関係及び定型パターンの解説と演習(c mollヴァージョン)	和声という学問の中での音楽性(芸術性)の理解。(正解は無数にあるが、本当に美しいものはひとつである)	完成したものを良くピアノで弾いてみる
第2回	I、II、IV、V度の第1転回形の解説と演習(c mollヴァージョン)	第1転回形の定型ヴァージョンを理解すること	〃
第3回	I、IV、V度の第2転回形の解説と演習(c mollヴァージョン)	第2転回形の定型ヴァージョンを理解すること	〃

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	V度の7thの和音(属7)及び第3転回形の解説と演習(c mollヴァージョン)	ドミナント7thの第1、第2、第3転回形の定型ヴァージョンを理解すること	完成したものを良くピアノで弾いてみる
第5回	V度の9thの和音(属9)及び7thの根音省略第2転回形、9thの根音省略第1、第2、第3転回形の解説と演習(c mollヴァージョン)	ドミナント7th、9thの根音省略の各種定型ヴァージョンを正しく理解すること	〃
第6回	II度の7thの和音の使用法の理解と解説I(基本位置と第1転回形)	II度の7thの和音の持つ美しさ及び定型ヴァージョンを理解すること	
第7回	II度の7thの和音の使用法の理解と解説II(第2転回形と第3転回形)	〃	
第8回	II度の7thの和音の総合演習	個人レッスンにより理解を深める	完成したものを良くピアノで弾いてみる
第9回	IV度の7thの和音の解説と演習(基本位置のみ)	IV度の7thの和音の持つ美しさ及び定型ヴァージョンを理解すること	〃
第10回	ドッペルドミナント(V度V度)の和音の理解と解説I(基本位置と第1転回形)	V度V度の和音の持つ美しさと言学的意味を正しく理解すること	
第11回	ドッペルドミナント(V度V度)の和音の理解と解説II(第2転回形と第3転回形)	〃	
第12回	ドッペルドミナント(V度V度)の和音9th、及び7th根音省略、9th根音省略の解説	それぞれの形態の定型ヴァージョンを正しく理解すること	
第13回	ドッペルドミナント(V度V度)の和音の総合演習	個人レッスンにより理解を深める	完成したものを良くピアノで弾いてみる
第14回	総合問題演習	模範解答により個々に最終チェックを行い、到達レベルを確認すること	過去問を使用して最終チェック
第15回	まとめ		

科目名(クラス)	和声学4-a	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	加茂下 裕	履修対象・条件	音楽創造と音楽療法専攻以外は必修。演奏家コースは履修不可。				

【授業の「概要」と「目的」】

演奏のための楽曲分析・伴奏付け・編曲などの土台としてクラシック音楽の作曲の基本である和声学を勉強します。
この和声学4では、和声学3で勉強した内容の延長として、サブドミナント和音のヴァリエーションを更に増やして演習を進めます。

【授業の「方法」と「形式」】

講義・演習

【履修時の「留意点」と「心得」】

テキスト以外に要点と基本課題をまとめたプリントを配ります。基本課題の内、提出課題と指定した課題の提出により課題点を算出します。必ず提出して下さい。またテキストから補充問題を指定し提出すれば課題点に加えます。積極的に取り組んで下さい。

教科書	和声 理論と実習 II	著者等	島岡譲 他	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

学期末試験60% 課題点40%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	ドッペルドミナント③	ドッペルドミナントの属九形の用法を理解する	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第2回	復習	・ドッペルドミナントの属九形を含むバス課題を解けるようにする ・提出課題の提出	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第3回	ドッペルドミナント④	・ドッペルドミナントの準固有和音形の配置法・連結法を理解する	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	復習	・ドッペルドミナントの準固有和音形を含むバス課題を解けるようにする ・提出課題の提出	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第5回	ドッペルドミナント⑤	ドッペルドミナントの第5音下方変位形の配置法・連結法を理解する	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第6回	復習	・ドッペルドミナントの第5音下方変位形を含むバス課題を解けるようにする ・提出課題の提出	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第7回	IV7の和音	IV7の和音の配置法・連結法を理解する	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第8回	復習	・IV7の和音を含むバス課題を解けるようにする ・提出課題の提出	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第9回	ドリア・ナポリの和音	ドリア・ナポリの和音の配置法・連結法を理解する	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第10回	復習	・ドリア・ナポリの和音を含むバス課題を解けるようにする ・提出課題の提出	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第11回	サブドミナント諸和音の総括及び追加	ここまでの内容を理解し、種々のサブドミナント和音を含むバス課題を解けるようにする	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第12回	復習	ここまでの内容を理解し、種々のサブドミナント和音を含むバス課題を解けるようにする ・提出課題の提出	・授業中にできなかった課題の復習 ・補充問題の練習
第13回	総合練習	ここまでの内容を理解し、種々のサブドミナント和音を含むバス課題を解けるようにする	・補充問題の練習
第14回	総合練習	ここまでの内容を理解し、種々のサブドミナント和音を含むバス課題を解けるようにする	・補充問題の練習
第15回	まとめ	種々のサブドミナント和音を含むバス課題を解ける	

科目名(クラス)	和声学4-b	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	横山 裕美子	履修対象・条件	必修。但し、音楽創造と音楽療法専攻は選択。 演奏家コースは履修不可。				

【授業の「概要」と「目的」】

音楽の基本構成要素である“和声”の魅力と技法を学ぶことは、西洋音楽への理解を深める上で極めて重要です。和声学3に引き続き、さらに多くのサブドミナント諸和音を学び、使いこなせるようになることを目指します。

【授業の「方法」と「形式」】

テキストとプリントを使い、講義と課題実習で進めていきます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

必ずピアノで弾いて音を確かめましょう。課題を繰り返し復習することが大事です。積極的に取り組んでください。

教科書	和声理論と実習Ⅱ	著者等	島岡譲 他	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業内課題実習(30%)
学期末定期試験(70%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	ドッペルドミナントの属七の根音省略形①	ドッペルドミナントの属七の根音省略形の配置・連結法を理解する。	テキスト第3章21を読んでおく。授業で学習した課題を見直す、弾く、遣り残した課題を実習する。
第2回	ドッペルドミナントの属七の根音省略形②	ドッペルドミナントの属七の根音省略形を正しく配置・連結でき、バス課題をこなせる	同上
第3回	ドッペルドミナントの属九形①	ドッペルドミナントの属九形の配置・連結法を理解する。	テキスト第3章22を読んでおく。授業で学習した課題を見直す、弾く、遣り残した課題を実習する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	ドッペルドミナントの属九形②	ドッペルドミナントの属九形を正しく配置・連結でき、バス課題をこなせる。	同上
第5回	ドッペルドミナントの属九形③	ドッペルドミナントの属九形を含むバス課題をこなせる。	同上
第6回	ドッペルドミナントの第5音下方変位形①	ドッペルドミナントの第5音下方変位形の配置・連結法を理解する。	テキスト第3章23を読んでおく。授業で学習した課題を見直す、弾く、遣り残した課題を実習する。
第7回	ドッペルドミナントの第5音下方変位形②	ドッペルドミナントの第5音下方変位形を正しく配置・連結でき、バス課題をこなせる。	同上
第8回	ドッペルドミナントの第5音下方変位形③	ドッペルドミナントの第5音下方変位形を含むバス課題をこなせる。	同上
第9回	IV7の和音①	IV7の和音の配置・連結法を理解する。	テキスト第4章を読んでおく。授業で学習した課題を見直す、弾く、遣り残した課題を実習する。
第10回	IV7の和音②	IV7の和音を正しく配置・連結でき、バス課題をこなせる。	同上
第11回	ドリア・ナポリの和音①	ドリア・ナポリの和音の配置・連結法を理解する。	同上
第12回	ドリア・ナポリの和音②	ドリア・ナポリの和音を正しく配置でき、バス課題をこなせる。	同上
第13回	総復習①	いままで学習したサブドミナント和音の配置・連結法の確認。バス課題をこなせる。	テキストいままでのところを読み直す。授業で学習した課題を見直す、弾く、やり残した課題を実習する。ところを見直す、弾く、遣り残した課題を実習する。
第14回	総復習②	いままで学習したサブドミナント和音を含む長いバス課題がこなせる。	テキストいままでのところを読み直す。授業で学習した課題を見直す、弾く、やり残した課題を実習する。ところを見直す、弾く、遣り残した課題を実習する。
第15回	本科目の総括	本科目で学習したすべてのサブドミナント和音を使いこなすことができる。	同上

科目名(クラス)	和声学 4-c	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	荻久保和明	履修対象・条件	全専攻必修(但し、音楽創造専攻と音楽療法専攻は選択) (演奏家コースは履修不可)				

【授業の「概要」と「目的」】

和声3で学んだことをもとに、実際の楽曲においてそれがどう生かされているかを実証、検証する。
又それぞれの作品に和声による楽曲分析を試みる。
それによりハーモニーというものがその作品にどのような力(表現力)を与えているかを考察し、旋律とハーモニーの関係を明らかにするものである。
尚、理解を容易にするためにc moll限定で講義を進める。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義とディスカッションを中心にする。後半は楽曲分析の演習も行う。

【履修時の留意点と心得】

- ・与えられたテキストを合唱、合奏したりして、講義内容を耳で確認する
- ・遅刻、早退は原則として認めない
- ・ディスカッションへの積極的な参加を望む

教科書	なし	著者等		出版社	
教科書	なし	著者等		出版社	
参考文献	なし	著者等		出版社	
参考文献	なし	著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と基準】

- ・学期末定期試験(80%)
- ・演習時の理解到達度(20%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	ドリアの和音の諸形態の機能と解説 (+IV度の7th及び9thの和音)	旋律的短音階使用時における和声感覚を身につける	
第2回	ドリアの和音の演習	個人レッスンにより理解を深める	完成したものを良くピアノで弾くこと
第3回	VIの7thとドッペルドミナント 下方変位の使い方、機能と解説	VIの7th持つ独得の美しさ、V度V度下方変位の音楽的意味(増6度音程の存在理由)を理解する	

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	VIの7th、V度V度下方変位和音の演習	個人レッスンにより理解を深める	完成したものを良くピアノで弾くこと
第5回	ナポリの和音とIV度付加6度和音の使い方、機能と解説(Ⅱの第1転回形とIV+6の和音)	ナポリの和音の持つ独得の響きとIV度付加6が同主長調へ解決するカタルシス効果を理解する	
第6回	ドリア、VIの7th、ドッペルドミナント下方変位、ナポリ、IV度付加6の諸和音の演習	個人レッスンにより理解を深める	完成したものを長くピアノで弾くこと
第7回	コンコーネによる和音分析	和声分析により、旋律とハーモニーの関係を理解し、楽曲の構成を考察する	テキストを歌ったりピアノで弾いて感動の再体験をして欲しい
第8回	バッハ平均律 プレリュードによる和音分析	〃	〃
第9回	モーツァルトのピアノソナタによる和音分析	〃	〃
第10回	フォーレの歌曲による和音分析	〃	〃
第11回	ショパンのピアノ曲による和音分析	〃	〃
第12回	重要定型のチェックとサブドミナント諸和音の確認	前期の理解度の確認とミスしやすい部分の最終チェック	それぞれの連結をピアノで良く弾いてみること
第13回	総合問題演習	模範解答により個々に最終チェックを行う。到達レベルの確認	過去問を使用して復習
第14回	〃	〃	〃
第15回	まとめ		

科目名(クラス)	対位法A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	新井雅之	履修対象・条件	演奏家コースは履修不可				

【授業の「概要」と「目的」】

音楽の縦の関係を研究するのが和声学、すなわちハーモニーの学問であるのに対し、音楽の横の関係を探求するのが対位法、すなわち複数の旋律の学術的規則の解明である。低音部、或は高音部に定められた旋律(定旋律)に、対旋律を書くという2声対旋律法の習得に努める。

【授業の「方法」と「形式」】

原理の講義の後、対旋律実施を試みる。各自の実施した対旋律を比較検討し旋律全体の設計の違いを確認してみる。

【履修時の「留意点」と「心得」】

与えられた旋律に新たな旋律を加えるという演習は、和声の学習とは全く違う楽しみと発見をもたらします。旋律制作に、積極的にチャレンジしてみてください。学期末筆記試験のみでの評価に偏らないように、通常授業での理解力、実施能力も評価の際に加味しますので、授業への積極的参加が望まれます。

教科書	二声対位法	著者等	池内友次郎	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

学期末筆記試験(筆記試験)の採点により評価。(70%) 学期末筆記試験のみでの評価に偏らないように、通常授業での理解力、実施能力も加味。(30%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	対位法とポリフォニー音楽について・複旋律をもつ音楽の例を紹介ポリフォニー音楽の創作を可能にする原理	ポリフォニー音楽の創作を可能にする原理を大まかに把握し、その可能性を知る。	復習として、ポリフォニー音楽の領域で新たに知った楽曲、或は再確認をした楽曲等を、鑑賞してみる。
第2回	全音符による定旋律に、学習過程で実施して行く対旋律の種類とそのそれぞれがもつ制約の違いについて。	対旋律の実施に先立ち、学習過程の各段階で、どのようなリズムの対旋律を習得しようとするのか、それぞれの種類の対旋律がどのような制約と性格を、とくにリズムの上で持っているのかを知る。	復習として、テキスト全体のコンテンツを確認しつつ、テキストに掲載されている模範実施例を吟味してみる。
第3回	2分音符による対旋律実施のための、基本原理について。	もっとも基本的な2分音符による強拍と弱拍を形成する音の進行の根底にある原理を知り、旋律創作に際して、どのように音を進行させて行くのが望ましいかを理解・判断する。	復習として、実施例の定旋律と対旋律の間に生じる音程を検証しつつ、旋律全体の動向を再確認してみる。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	2分音符による対旋律の創作(1)(バスの定旋律に対しての上声部の対旋律)	各小節を、原理に従い上声部の対旋律を形成させながら繋げられるように実施できる。	復習として、上声部の対旋律動向が、どのように制約を受ける事になるか、実施したもので再確認する。
第5回	同上	同上	同上
第6回	2分音符による対旋律の創作(2)(ソプラノの定旋律に対しての下声部の対旋律)	各小節を、原理に従い下声部の対旋律を形成させながら繋げられるように実施できる。	復習として、下声部の旋律動向が、どのように制約を受ける事になるか、実施したもので再確認する。
第7回	同上	同上	同上
第8回	2分音符による対旋律の創作(3)(バスの定旋律に対しての上声部の対旋律)	上声部において旋律動向の可能性が複数ある場合、選び得る音をどのように取捨選択していけば良いか、数小節先を見通して考えられる。	復習として、上声部の旋律動向の可能性を、実施してみたものの他にも探り、可能であれば他の実施例を作ってみる。
第9回	同上	同上	同上
第10回	2分音符による対旋律の創作(4)(ソプラノの定旋律に対しての下声部の対旋律)	下声部において対旋律動向の可能性が複数ある場合、選ぶ音をどのように取捨選択していけば良いか、数小節先を見通して考えられる。	復習として、下声部の対旋律動向の可能性を、実施してみたものの他にも探り、可能であれば他の実施例を作ってみる。
第11回	同上	同上	同上
第12回	同上	同上	同上
第13回	2分音符による対旋律の創作(5)(バスの定旋律に対しての上声部の対旋律)	上声部の対旋律動向の可能性を確かめながら、全体の旋律曲線を見通したうえで創作に努める。、選ぶ音をどのように取捨選択していけば良いか、全体を見通して考えられる。	復習として、上声部の旋律動向の可能性を、実施してみたものの他にも探り、可能であれば他の実施例を作ってみる。
第14回	同上	同上	同上
第15回	同上	同上	同上

科目名(クラス)	対位法B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	新井雅之	履修対象・条件	演奏家コースは履修不可				

【授業の「概要」と「目的」】

音楽の縦の関係を研究するのが和声学、すなわちハーモニーの学問であるのに対し、音楽の横の関係を探求するのが対位法、すなわち複数の旋律の学術的規則の解明である。低音部、或は高音部に定められた旋律(定旋律)に、対旋律を書くという2声対旋律法の習得に努める。

【授業の「方法」と「形式」】

原理の講義の後、対旋律実施を試みる。各自の実施した対旋律を比較検討し旋律全体の設計の違いを確認してみる。

【履修時の「留意点」と「心得」】

与えられた旋律に新たな旋律を加えるという演習は、和声の学習とは全く違う楽しみと発見をもたらします。旋律制作に、積極的にチャレンジしてみてください。学期末筆記試験のみでの評価に偏らないように、通常授業での理解力、実施能力も評価の際に加味しますので、授業への積極的参加が望まれます。

教科書	二声対位法	著者等	池内友次郎	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

学期末筆記試験(筆記試験)の採点により評価。(70%) 学期末筆記試験のみでの評価に偏らないように、通常授業での理解力、実施能力も加味。(30%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	4分音符による対旋律の実際の創作(1)(バスの定旋律に対しての上声部の対旋律)	各小節を、原理に従い下声部の対旋律を形成させながら、全体を見通し実施してみる。4分音符による対旋律を創作する際、2分音符による対旋律の創作のときよりも、さらに多くの可能性を模索する。	復習として、上声部の対旋律動向が、どのように制約を受ける事になるか、実施したもので再確認する。
第2回	同上	同上	同上
第3回	同上	同上	同上

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	分音符による対旋律の創作(2)(ソプラノの定旋律に対しての下声部の対旋律)	各小節を、原理に従い下声部の対旋律を形成させながら、全体を見通し実施できる。	復習として、下声部の旋律動向が、どのように制約を受ける事になるか、実施したもので再確認する。
第5回	同上	同上	同上
第6回	同上	同上	同上
第7回	移勢リズムによる対旋律の創作(1)(バスの定旋律に対しての上声部の対旋律)	各小節を、原理に従い上声部の対旋律を形成させながら繋げられるように実施できる。	各小節を、原理に従い上声部の対旋律を形成させながら繋げられるように実施できる。
第8回	同上	同上	同上
第9回	移勢リズムによる対旋律の創作(2)(ソプラノの定旋律に対しての下声部の対旋律)	各小節を、原理に従い下声部の対旋律を形成させながら繋げられるように実施できる。	復習として、下声部の移勢リズムによる対旋律動向が、どのように制約を受ける事になるか、実施したもので再確認する。
第10回	同上	同上	同上
第11回	合リズム、すなわち2分音符、4分音符、移勢リズムを統合したリズムによる華麗対旋律の創作(1)(バスの定旋律に対しての上声部の対旋律)	リズム複合のパターンを認識理解しつつ、上声部の全体の見通しを立てて旋律線を形成する。	復習として、上声部の旋律動向の可能性を、実施してみたものの他にも探り、可能であれば他の実施例を作ってみる。
第12回	同上	同上	同上
第13回	複合リズム、すなわち2分音符、4分音符、移勢リズムを統合したリズムによる華麗対旋律の創作(2)(ソプラノの定旋律に対しての下声部の対旋律)	リズム複合のパターンを認識理解しつつ、下声部の全体の見通しを立てて旋律線を形成する。	復習として、下声部の対旋律動向の可能性を、実施してみたものの他にも探り、可能であれば他の実施例を作ってみる。
第14回	同上	同上	同上
第15回	本科目の総括。2分音符対旋律と4分音符対旋律による対旋律の動向の違い。移勢対旋律の特徴。華麗対旋律のリズムについて。	それぞれの種類のリズムによる対旋律の特徴を再認識する。	復習として、今までの実施例を、旋律動向やリズムの面から再検証してみる。

科目名(クラス)	和声学(演奏家コース)1・3	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1又は2
担当教員	白石 茂浩	履修対象・条件	演奏家コースのみ履修可。必修 但し、声楽演奏家コースのみ3は選択。				

【授業の「概要」と「目的」】

演奏家コースの学生を対象としている本講義は、楽曲分析において必要不可欠な機能的和声法の理解・基礎部分の習得を目的としている。これは個々の受講生にとっては自らの力で楽曲分析・解釈を行うことを可能とするための学習であり、この観点から本講義では機能的和声法以外の楽曲分析・解釈にかかわる事柄にも触れながら授業を進めていく。
1・3では主に知識の提示を行う。第2回・第3回の授業では主に受講生がこれまでに学んできた知識の復習をしこれを確かなものとする。第4回・第5回の授業ではより深く近代西洋音楽における和声法(機能的和声法)を理解するためにその成立過程を辿る。第6回から第12回までは機能的和声法の基礎的な知識を、第13回・第14回では機能的和声法と形式の関係について学び、第15回では前期で学んだ知識の総括を行う。

【授業の「方法」と「形式」】

基本的に講義形式を採るが、知識のより深い理解・習得のために課題実習も行う。

【履修時の「留意点」と「心得」】

基本的に講義形式を採るが、知識のより深い理解・習得のために課題実習も行う。

教科書	授業内容をまとめたプリントを配布する。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	大作曲家の和声	著者等	ディーター デラ	出版社	シンフォニア
参考文献	図解音楽事典	著者等		出版社	白水社

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業中に行う試験・課題、予習・復習として与える課題への評価70%。授業への取り組み姿勢(積極性)30%。
具体的な試験の内容については実施直前の授業で通知する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	自己紹介とガイダンス(これまでに学んできた楽典(和声)の習熟度を測るために楽典問題を解く)	授業の進め方を理解し、的確な事前学習・事後学習ができるようにする。	事前にこれまでに学んできたことの復習をしておく。授業後は自分の習熟度が低いと感じた部分についてさらに復習する。
第2回	基礎的な知識の確認(これまでに楽典(音楽通論)として学んできた内容について、ことに和声の授業において不可欠となる音階・音程・和音・調についての知識の確認)	音階・音程・和音・調についての知識を確かなものとする。	配布プリントを使って復習。授業後、習熟度が低かったと気付いたところを復習する。
第3回	和音・和声の表記(コード記号・音階度数に基づく表記・数字付き低音の表記・機能表記)	すでに学んでいる受講生にとっては復習になるが、和音・和声の表記について学び、習熟度を高める。	配布プリントの該当部分を予習しておく。授業後は授業内容を復習し、習熟度を高める。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	近代西洋音楽の成立まで-1(単声音楽からバロックまでの概要)	近代西洋音楽の成立までの流れを大まかに観ることで、近代西洋音楽の特徴を理解する。	配布プリントの該当部分を予習。授業後、中世～ルネサンスまでの音楽を近代西洋音楽の響きとの違いを意識して聴く。
第5回	近代西洋音楽の成立まで-2(古典対位法・非和声音)	古典対位法の概要を学び声楽的旋律・協和音と不協和音について知り、各種の非和声音の区別ができるようになる。	配布プリントの該当箇所の予習し、授業で学んだ内容の復習をする。
第6回	機能的和声法-1(予備知識と基本的な和音の連結法・カデンツの原理)	授業内容を理解する。	配布プリントで予習。宿題として与えられた課題を解き理解度を自己チェックする。
第7回	機能的和声法-2(三和音の転回・終止)	三和音の転回形の扱い、終止形について理解する。	配布プリントで予習。宿題として与えられた課題を解き理解度を自己チェックする。
第8回	機能的和声法-3(七の和音・セクヴェンツ・副属和音)	七の和音の成立と用法、セクヴェンツ・副属和音とその用法を理解する。	配布プリントで予習。宿題として与えられた課題を解き理解度を自己チェックする。
第9回	機能的和声法-4(下屬和音の長三和音化と短三和音化・ナボリの六の和音)	副属和音・長三和音化された短三和音と短三和音化された長三和音・ナボリの六の和音の成立と用法を理解する。	配布プリントで予習。宿題として与えられた課題を解き理解度を自己チェックする。
第10回	機能的和声法-5(変位和音・転調)	変位和音についてその成立用法を理解した上で、ここまでの授業中に触れてきた転調について総括しこれを理解する。	配布プリントで予習。宿題として与えられた課題を解き理解度を自己チェックする。
第11回	機能的和声法-6(総括 理解度を測るために簡単な試験を行い、理解が不十分であった点の確認を行わせる)	ここまでに学んできた知識を確かなものにする。	授業前にここまでに学んできた内容を全て復習。宿題として与えられた課題を解き理解度を自己チェックする。
第12回	機能的和声法-7(楽曲分析に際して必要となる知識として和声的対位法の概要を学ぶ)	器楽的旋律・単線ポリフォニー・二重対位法(転回対位法)を理解する。	配布プリントで予習。宿題として与えられた課題を解き理解度を自己チェックする。
第13回	機能的和声法と形式-1(カノン・フーガ)	機能的和声法と形式の関係を理解する。	配布プリントで予習。宿題として与えられた課題を解きこれを調性面から考察する。
第14回	機能的和声法と形式-2(リート形式・ソナタ形式)	機能的和声法と形式の関係を理解する。	配布プリントで予習。宿題として与えられた課題を解きこれを調性面から考察する。
第15回	『和声学1・3』の総括(試験を行い、理解が不十分であった点の確認を行わせる)	学んできた内容の習得度を確認し、不足部分を補って知識を確かなものとする。	試験に備え、これまでの学習内容を復習しておく。

科目名(クラス)	和声学(演奏家コース)2・4	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1又は2
担当教員	白石 茂浩	履修対象・条件	演奏家コースのみ履修可。必修 但し、声楽演奏家コースのみ4は選択。				

【授業の「概要」と「目的」】

本講義は和声音楽の根幹をなす機能的和声法の基礎的な部分の理解・習得を目的とし、楽曲分析・解釈にかかわる事柄を交えながらこれを学んでいく。
2・4では1・3で学んだ知識をより確かなものにするために様々な課題に取り組む。第1回から第4回の授業では1・3で学んだ内容を確認するための課題実習を行いながら、楽曲分析を行う上で必要となる様々な知識についてその概要を学び、第5回以降では実作品の和声分析に取り組んでいく。

【授業の「方法」と「形式」】

和声分析の授業では解釈について討論をさせることもある。

【履修時の「留意点」と「心得」】

講義形式であっても受講生に意見発表を求めることはあるので、常に学んだことを復習し自分なりにまとめておくこと。まとめをしている中で出てきた疑問点、授業の中で理解が難しい点があるときは積極的に質問するようにし、これを習慣とするよう心がけてもらいたい。

教科書	授業内容をまとめたプリントを配布する。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	大作曲家の和声	著者等	ディーター デラ	出版社	シンフォニア
参考文献	図解音楽事典	著者等		出版社	白水社

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業中に行う試験・課題、予習・復習として与える課題への評価70%。授業への取り組み姿勢(積極性)30%。
具体的な試験の内容については実施直前の授業で通知する。
なお、2・4では創作課題にも取り組むが、これは実際に書いてみることでより深い理解を得ることを目的としたものであり、巧みに書けたかどうかを評価の対象とするものではない。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	楽曲分析に必要な諸知識-1(オーケストラ)	楽曲分析に必要な知識として、オーケストラについての基本的な知識を獲得する。	配布プリントの該当部分を予習しておく。授業後は授業内容を復習し知識を確かにする。
第2回	楽曲分析に必要な諸知識-2(拍節法・強弱法)	楽曲分析に必要な知識として、拍節法・強弱法についての基本的な知識を獲得する。	配布プリントの該当部分を予習しておく。授業後は授業内容を復習し知識を確かにする。
第3回	楽曲分析に必要な諸知識-3(複数の曲・楽章から成る曲種)	楽曲分析に必要な知識として、組曲・ソナタについての基本的な知識を獲得する。	配布プリントの該当部分を予習しておく。授業後は授業内容を復習し知識を確かにする。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	楽曲分析に必要な諸知識-4(オペラ・純粋音楽と標題音楽)	楽曲分析に必要な知識として、オペラ・純粋音楽と標題音楽についての基本的な知識を獲得する。	配布プリントの該当部分を予習しておく。授業後は授業内容を復習し知識を確かにする。
第5回	和声分析A-1(和声分析Aでは独力で和声分析を行える力を養うため基本的な和声分析を行う)	様々な実作品の和声分析を行うことで和声法の理解を深める。	予習として与えられた課題曲の下見を、復習としては授業で学んだことの確認を行う。
第6回	和声分析A-2	様々な実作品の和声分析を行うことで和声法の理解を深める。	予習として与えられた課題曲の下見を、復習としては授業で学んだことの確認を行う。
第7回	和声分析A-3	様々な実作品の和声分析を行うことで和声法の理解を深める。	予習として与えられた課題曲の下見を、復習としては授業で学んだことの確認を行う。
第8回	和声分析A-4	様々な実作品の和声分析を行うことで和声法の理解を深める。	予習として与えられた課題曲の下見を、復習としては授業で学んだことの確認を行う。
第9回	和声分析B-1(和声分析Bでは和声法と形式の関係についての理解を深めることを目的としてこれを行う)	リード形式・ソナタ形式・ロンド形式について基本的な調的構造を理解する。	予習として与えられた課題曲の下見を、復習としては授業で学んだことの確認を行う。
第10回	和声分析B-2	より複雑なリート形式における和声法に基づく調的構造について理解する。	予習として与えられた課題曲の下見を、復習としては授業で学んだことの確認を行う。
第11回	和声分析B-3	リート形式とソナタ形式における和声法に基づく調的構造の類似性を理解する。	予習として与えられた課題曲の下見を、復習としては授業で学んだことの確認を行う。
第12回	和声分析B-4	ソナタ形式における和声法に基づく調的構造について理解を深める。	予習として与えられた課題曲の下見を、復習としては授業で学んだことの確認を行う。
第13回	和声分析B-5	ソナタ形式における和声法に基づく調的構造について理解を深める。	予習として与えられた課題曲の下見を、復習としては授業で学んだことの確認を行う。
第14回	創作課題(ここまでで学んだ知識を応用して簡単な曲を書き、これに考察を加える)	実際に曲を書いてみることで、和声と形式の関係についての理解を深める。	簡単な曲を書き、これを解説するための準備しておく。
第15回	『和声学』の総括(試験を行い、理解が不十分であった点の確認を行わせる)	学んできた内容の習得度を確認し、不足部分を補って知識を確かなものとする。	試験に備え、これまでの学習内容を復習しておく。

科目名(クラス)	対位法(演奏家コース)A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	白石 茂浩	履修対象・条件	演奏家コースのみ履修可。				

【授業の「概要」と「目的」】

本講義は『和声学』の中で分析・解釈に必要な知識として簡単に触れていた対位法の基礎的な内容について、その理解度・習得度を高めることを主な目的とする。が、演奏家コースの学生を対象とする本講義は『和声学』同様「個々の受講生が作品演奏に際して自らの力で楽曲分析・解釈を行うことを可能とする」という目的も併せ持っているため、ここでは対位法にとどまらず和声学等でこれまでに学んできた内容についても触れ、さらにその理解をも深められるような形で授業を進めていく。

Aでは主に対位法に関する基礎知識を提示するとともに、これまでに学んできた知識の確認・復習(ことに和声的対位法では和声学の知識は不可欠なもの)を行う。

【授業の「方法」と「形式」】

Aでは基本的に講義形式を採るが、知識のより深い理解・習得のために課題実習も行う。

【履修時の「留意点」と「心得」】

講義形式であっても受講生に意見発表を求めることはあるので、常に学んだことを復習し自分なりにまとめておくこと。なお、「授業の中で理解が難しい点があるときは積極的に質問する」「予習・復習を行う中で出てきた疑問点は必ず質問する」を習慣とするよう心がけてもらいたい。

教科書	授業内容をまとめたプリントを配布する。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	対位法 - 分析と実習 -	著者等	ウォルター・ピス	出版社	音楽之友社
参考文献	図解音楽事典	著者等		出版社	白水社

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業中に行う試験・課題、予習・復習として与える課題への評価70%。授業への取り組み姿勢(積極性)30%。具体的な試験の内容については実施直前の授業で通知する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	古典対位法の概要	単声音楽～不完全協和音程優位の対位法音楽までを簡単に辿り、パレストリーナを規範とする古典対位法の学習意義を理解する。	授業内容を復習し知識を確かにする。図書館を利用し、パレストリーナの作品を聴いておく。
第2回	古典対位法-1	古典対位法における旋律線に関する規則を学び、声楽的旋律への理解を深める。	配布プリントで予習を行う。授業後は、授業内容を復習し授業で学んだ知識を確かなものにしておく。
第3回	古典対位法-2	古典対位法二声1対1、1対2(3)を学び、『和声学』で学んだ非和声音と比較し、この違いを理解する。	配布プリントで予習。宿題として与えられた課題を解き授業内容の理解度を自己チェックする。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	古典対位法-3	古典対位法二声1対4、1対シンコペーションを学び、『和声学』で学んだ非和声音と比較し、この違いを理解する。	配布プリントで予習。宿題として与えられた課題を解き授業内容の理解度を自己チェックする。
第5回	古典対位法-4	古典対位法二声1対自由を学び、古典対位法におけるリズムの扱いについて理解する。	配布プリントで予習。宿題として与えられた課題を解き授業内容の理解度を自己チェックする。
第6回	これまでに学んできた和声に関する知識の確認(和音の連結に関する部分の習熟度を測るために和声課題を解かせる)	『和声学』で学んできた知識を確認するとともに、理解度の低い部分を明らかにし、これを補う。	和声学で学んだ内容を復習しておく。授業後、授業中に気がついた理解度の低かった部分についてさらに復習する。
第7回	古典対位法-5	古典対位法三声1対1を学び、すでに学んでいる機能的和声法と比較し、この違いを理解する。	配布プリントで予習。宿題として与えられた課題を解き授業内容の理解度を自己チェックする。
第8回	古典的対位法のまとめ	古典的対位法で学んできた知識をもとに、実作品を観、学習内容を確かなものとする。	予習として与えられた課題曲の下見をしておく。復習として授業で学んだことの確認を行う。
第9回	これまでに学んできた和声に関する知識の確認(変位和音以外の和音に関する知識の確認のために和声課題を解かせる)	『和声学』で学んできた知識を確認するとともに、理解度の低い部分を明らかにし、これを補う。	和声学で学んだ内容を復習しておく。授業後、授業中に気がついた理解度の低かった部分についてさらに復習する。
第10回	和声的対位法-1	器楽的旋律について学び、先に学んだ声楽的旋律と比較し、この違いを理解する。	配布プリントで予習。授業後に身近な楽曲の旋律を古典対位法の旋律に関する規則と照らし合わせ、この違いを確認する。
第11回	和声的対位法-2	単声ポリフォニーについて学び、単声旋律に隠された多声性を読み取れるようにする。	配布プリントで予習。次回授業の予習として与えられた課題曲の下見をしておく。
第12回	和声的対位法-3	実作品にあたって、単声ポリフォニーについての理解を深める。	予習として与えられた課題曲の下見をしておく。授業後は、復習として学習内容の確認を行う。
第13回	和声的対位法-4	二重対位法(あるいは転回対位法)について学び、その概要を理解する。	配布プリントで予習。授業後に授業内容を復習しておく。
第14回	和声的対位法-5	主題(動機)の扱いについてこの概要を理解する。	配布プリントで予習。授業後に授業内容を復習しておく。
第15回	『対位法A』のまとめ(試験を行い、理解が不十分であった点の確認を行わせる)	学んできた内容の習得度を確認し、不足部分を補って知識を確かなものとする。	試験に備え、これまでの学習内容を復習しておく。

科目名(クラス)	対位法(演奏家コース)B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	白石 茂浩	履修対象・条件	演奏家コースのみ履修可。				

【授業の「概要」と「目的」】

本講義は『和声学』の中で分析・解釈に必要な知識として触れていた対位法の基本的な内容について、その理解度・習得度を高めることを主な目的とする。
BではAで学んだ知識をより確かなものとするため、また実践に役立てるための訓練として様々な課題に取り組む。またこの過程で必要に応じて対位法以外の楽曲分析・解釈に必要な事柄についても簡単な解説を行う。

【授業の「方法」と「形式」】

基本的には講義形式をとるが、Ⅱでは課題実習が多くなるので対話形式・討論形式でも行う。

【履修時の「留意点」と「心得」】

常に学んだことを復習し自分なりにまとめておくこと。なお、「授業の中で理解が難しい点があるときは積極的に質問する」「予習・復習を行う中で出てきた疑問点は必ず質問する」を習慣とするよう心がけてもらいたい。

教科書	授業内容をまとめたプリントを配布する。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	対位法 - 分析と実習 -	著者等	ウォルター・ピス	出版社	音楽之友社
参考文献	図解音楽事典	著者等		出版社	白水社

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業中に行う試験・課題、予習・復習として与える課題への評価70%。授業への取り組み姿勢(積極性)30%。
具体的な試験の内容については実施直前の授業で通知する。
なお、Bでは創作課題にも取り組むが、これは実際に書いてみることでより深い理解を得ることを目的としたものであり、巧みに書けたかどうかを評価の対象とするものではない。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	対位法技法を主体とする音楽作品-1(カノン技法)(ここではAで学んだ内容を基に対位法技法を主体とする実作品について観ていく)	実作品にあたり対位法技法についての理解を深める。	Aで学んだ内容の再確認しておく。
第2回	対位法技法を主体とする音楽作品-2(カノン技法)	実作品にあたり対位法技法についての理解を深める。	予習として与えられた課題曲の下見を、復習としては授業で学んだことの確認を行う。
第3回	対位法技法を主体とする音楽作品-3(カノン技法)	実作品にあたり対位法技法についての理解を深める。	予習として与えられた課題曲の下見を、復習としては授業で学んだことの確認を行う。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	創作課題-1(カノン技法を用いて簡単な曲を作り、これについて考察を加える)	実際に曲を書いてみることでカノン技法についての理解を深める	簡単な曲を書き、これを解説するための準備しておく。
第5回	対位法技法を主体とする音楽作品-4(バッハフーガ)	実作品にあたり対位法技法についての理解を深める。	予習として与えられた課題曲の下見を、復習としては授業で学んだことの確認を行う。
第6回	対位法技法を主体とする音楽作品-5(バッハフーガ)	実作品にあたり対位法技法についての理解を深める。	予習として与えられた課題曲の下見を、復習としては授業で学んだことの確認を行う。
第7回	古典派の対位法的作品-1	実作品にあたり対位法技法についての理解を深める。	予習として与えられた課題曲の下見を、復習としては授業で学んだことの確認を行う。
第8回	古典派の対位法的作品-2	実作品にあたり対位法技法についての理解を深める。	予習として与えられた課題曲の下見を、復習としては授業で学んだことの確認を行う。
第9回	古典派の対位法的作品-3	実作品にあたり対位法技法についての理解を深める。	予習として与えられた課題曲の下見を、復習としては授業で学んだことの確認を行う。
第10回	古典派の対位法的作品-4	実作品にあたり対位法技法についての理解を深める。	予習として与えられた課題曲の下見を、復習としては授業で学んだことの確認を行う。
第11回	古典派の対位法的作品-5	実作品にあたり対位法技法についての理解を深める。	予習として与えられた課題曲の下見を、復習としては授業で学んだことの確認を行う。
第12回	古典派の対位法的作品-6	実作品にあたり対位法技法についての理解を深める。	予習として与えられた課題曲の下見を、復習としては授業で学んだことの確認を行う。
第13回	和声音楽における対位法技法(和声音楽の中で対位法的な技法がどのような形で用いられているかについて考察する)	実作品にあたり対位法技法についての理解を深める。	これまでに課題としてやってきた曲を見直し和声音楽の中での対位法的技法について意見発表ができるように準備する。
第14回	創作課題-2(簡単な和声音楽の曲を作り、これについて考察を加える)	実際に曲を書いてみることで和声音楽の中で対位法的技法がどのように用いられているかを体験的に理解する。	簡単な曲を書き、これを解説するための準備しておく。
第15回	『対位法』のまとめ(試験を行い、理解が不十分であった点の確認を行わせる)	学んできた内容の習得度を確認し、不足部分を補って知識を確かなものとする。	試験に備え、これまでの学習内容を復習しておく。

科目名(クラス)	楽式論(作曲法・編曲法を含む) A-a	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	田村 治美	履修対象・条件	教職課程履修者と音楽療法専攻は「ポピュラーミュージックAB」と「楽式論B」よりいずれか必修。教職特設コースは必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・作品を演奏するには、その構造や形式の基本原則を深く理解することが重要です。
- ・ここでは、様々な形式について実際の作品を分析します。
- ・西洋古典音楽の基本的な楽式構造を学ぶだけでなく、その形式が時代とともに変遷していく様相を把握します。
- ・さらに、作曲家による特徴を抽出し、形式の多様性と柔軟性を学びます。
- ・異なる編成やジャンル(ジャズ)への編曲を原曲と比較しながら分析し、編曲技法を学びます。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式。発表形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・様々な楽曲に触れるので、興味を持って積極的に参加してください。
- ・私語は注意します。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	調性音楽のシェンカー分析	著者等	キヤドウオーラ	出版社	音楽之友社
参考文献	和声法	著者等	ピストン他著/角	出版社	音楽之友社

【成績評価の「方法」と「基準」】

提出課題と発表で評価します。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	概論(形式、ジャンル、様式、構造の概念)		各授業の準備、学習をする。
第2回	音楽の最小単位、動機、楽節	動機、楽節について、概念と構造を学びます。	〃
第3回	2部形式、複合2部形式	2部形式の原理を学びます。	〃

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	3部形式、複合3部形式	3部形式の原理を学びます	各授業の準備、学習をする。
第5回	舞曲(バロックまで)	ルネサンスからバロックまでの舞曲の形式と歴史を学びます。	〃
第6回	舞曲(18世紀以降)	18世紀以降の舞曲と組曲を分析します。	〃
第7回	ロンド形式	ロンド形式の歴史と構造を学びます。	〃
第8回	対位法とフーガ	対位法について学び、楽曲を分析します。	〃
第9回	カデンツと終止形	カデンツと終止形の基本原理を学びます。	〃
第10回	ソナタ形式(バロックまで)	初期のソナタ形式を理解します。	〃
第11回	ソナタ形式(古典派からベートーヴェンまで)	古典派のソナタ形式の原理を把握し、分析ができるようにします。	〃
第12回	ソナタ形式(19世紀以降)	19世紀以降の様々なソナタの分析ができるようにします。	〃
第13回	変奏技法	様々な変奏技法を把握します。	〃
第14回	変奏曲	様々な変奏曲の分析をとおして、ベートーヴェンが達成した形式を理解します。	〃
第15回	まとめ	前期に学んだ器楽形式の基本原則をまとめ、整理します。	学んだことを振り返る。

科目名(クラス)	楽式論(作曲法・編曲法を含む) A-b	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	伊藤 制子	履修対象・条件	教職課程履修者と音楽療法専攻は「ポピュラーミュージックAB」と「楽式論B」よりいずれか必修。教職特設コースは必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

音楽の基本的な形式やジャンルの特徴などを学び、各自の演奏に役立てることを目的としています。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式ですが、小テストを行い知識の定着をはかります。

【履修時の「留意点」と「心得」】

講義中の携帯電話の使用、私語、長時間の居眠りは厳禁です。
違反した場合は単位取得ができなくなることがありますので、注意しましょう。
講義中で強調されたポイントはしっかり覚えておきましょう。

教科書	とくになし	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	講義中に紹介します	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

講義中のとりくみ、小テスト40%、期末レポート60%

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第1回	授業の概要説明と知識習熟度調査		
第2回	楽式とは何か		
第3回	二部形式、三部形式	二部形式や三部形式が使われている楽曲について説明できる	楽曲の実例を復習

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第4回	バロック時代とその時代様式	バロック時代の様式について説明できる	楽曲の実例を復習
第5回	バロックオペラとその様式	オペラの初期の様式について説明できる	同上
第6回	バロック組曲1	組曲について説明できる	同上
第7回	バロック組曲2	組曲で使われている舞曲について説明できる	舞曲について調べておく
第8回	バロック時代の協奏曲	ヴィヴァルディなどの協奏曲について説明できる	バロック時代の様式と組曲について復習しておく
第9回	古典派とその時代様式	古典派時代の様式について説明できる	
第10回	ソナタ形式とその展開1	ソナタ形式の基本を説明できる	ソナタ形式について予習しておく
第11回	ソナタ形式とその展開2	ソナタ形式の作曲家ごとの個性を説明できる	講義で聴いた曲を再度視聴しておく
第12回	ソナタ形式とその展開3	より自由なソナタ形式について理解できる	同上
第13回	古典派の協奏曲	古典派の協奏曲について理解できる	バロック時代との比較を復習しておく
第14回	前期の重要事項の復習		
第15回	前期のまとめと小テスト		

科目名(クラス)	楽式論(作曲法・編曲法を含む) B-a	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	田村 治美	履修対象・条件	教職課程履修者と音楽療法専攻は「ポピュラーミュージックAB」と「楽式論A」よりいずれか必修。教職特設コースは必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

・前期に引き続き、古典的な楽曲形式を学びます。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式。できるだけ多くの視聴覚資料を用いて講義をします。

【履修時の「留意点」と「心得」】

予習はしなくてよいですが、私語は注意します。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	前期と同じ。随時配布します。	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

期末試験で総合評価をします。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	概論(音楽と自然界の形式)	音楽と自然界の様々な現象との関わりを紹介し、音楽形式の原理について考察します。	各授業の準備、学習をする。
第2回	非和声音と旋律学	様々な非和声音の種類を学びます。	〃
第3回	旋律と和声	旋律と和声のつながりについて楽曲から考察します。	〃

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	有節歌曲	ゲーテの作品を例に、有節歌曲の分析を行ない、作曲家による様式の違いを考察します。	各授業の準備、学習をする。
第5回	通作歌曲	通作歌曲の分析から、有節歌曲との違いを明らかにします。	〃
第6回	キリスト教暦と宗教曲	キリスト教暦を学び、宗教曲との関係を理解します。	〃
第7回	印象派の音楽	ドビュッシー、ラヴェルなどのフランス近代の作品を分析します。	〃
第8回	12音技法	シェーンベルグの音楽理論と作品を分析します。	〃
第9回	20世紀の日本の作曲家	武満徹、黛敏郎など、20世紀の日本の作曲家の作品を分析します。	〃
第10回	映像と音楽①	音楽と映画の関わりについて、様々な例を示しながら相乗的な効果について考察します。	〃
第11回	映像と音楽②	現代アートの様々な試みを紹介します。	〃
第12回	編曲技法	バッハの作品の、ケンプやブゾーニ、ヘスらの編曲を分析し、編曲技法を学びます。	〃
第13回	編曲技法	バッハの作品のジャズへの編曲を例に、編曲技法を学びます。	〃
第14回	編曲の実践	課題を与えて、みなさんに編曲をしていただきます。	〃
第15回	まとめ		学んだことを振り返る。

科目名(クラス)	楽式論(作曲法・編曲法を含む) B-b	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	伊藤 制子	履修対象・条件	教職課程履修者と音楽療法専攻は「ポピュラーミュージックAB」と「楽式論A」よりいずれか必修。教職特設コースは必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

音楽の基本的な形式やジャンルの特徴などを学び、各自の演奏に役立てることを目的としています。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式ですが、小テストを行い知識の定着をはかります。

【履修時の「留意点」と「心得」】

講義中の携帯電話の使用、私語、長時間の居眠りは厳禁です。
違反した場合は単位取得ができなくなることがありますので、注意しましょう。
講義中で強調されたポイントはしっかり覚えておきましょう。

教科書	とくになし	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	講義中に紹介します	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

講義中のとりくみ、小テスト40%、期末レポート60%

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第1回	前期の復習		バロック舞曲、ソナタ形式の復習
第2回	変奏曲のその展開1	変奏曲の基本事項を理解できる	変奏曲の実例を調べる
第3回	変奏曲とその展開2	種々の変奏曲を分析できる	同上

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第4回	ロマン派の性格小品	性格小品の特徴について理解できる	ロマン派音楽史を復習しておく
第5回	ロマン派交響曲、交響詩	古典派とロマン派の交響作品の形式上の特徴について理解できる	同上
第6回	編曲とその手法1	編曲の基本原則について理解できる	編曲の実例を調べておく
第7回	編曲とその手法2	編曲が音楽史において果たした役割について理解できる	
第8回	旋法、無調、一二音技法、セリー	20世紀の新しい音の組織について理解できる	編曲について復習しておく
第9回	20世紀の新しい手法: 引用	ベリオらの新しい技法について説明できる	20世紀音楽史を復習する
第10回	20世紀の新しい手法: 偶然性の音楽	ケージらの新しい技法について説明できる	同上
第11回	20世紀の新しい手法: ミュージック・コンクレート	テクノロジーを用いた技法について説明できる	同上
第12回	20世紀の新しい手法: 音楽劇とその周辺	音楽劇、オペラの新しいスタイルについて説明できる	同上
第13回	20世紀の新しい手法: ミニマリズム	アメリカの20世紀の技法を説明できる	20世紀の新しい技法について復習しておく
第14回	後期の重要事項の復習		
第15回	まとめと小テスト		

科目名(クラス)	ポピュラーミュージック (作曲法・編曲法を含む)A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	桑原 巖	履修対象・条件	教職課程履修者と音楽療法専攻は「楽式論A・B」および「ポピュラーミュージックB」よりいずれか必修。教職特設コースは履修不可				

【授業の「概要」と「目的」】

ワールドミュージックとしてスタンダードと呼ばれている音楽を中心に授業毎に選曲をし、わかりやすく、丁寧にそれぞれの音楽がどのように作曲され、編曲されているのかを知る。主にコードネームを理解しながら、ハーモニーの意味や特徴を知り、単純なメロディをオシャレに編曲できるようにする。授業で扱う音楽は特にジャンルを決めず、様々な音楽に触れ、その基礎を体感していく。

【授業の「方法」と「形式」】

演習と講義

【履修時の留意点と心得】

休まずに出席すること。間違いを恐れずに積極的に取り組むこと。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	コードがわかるピアノ講座	著者等		出版社	レッスンの友社
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

毎授業でのプリント課題40%、オリジナル演奏60%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	ハーモニー	ダイアトニックコード ノンダイアトニックコード を理解する	オーラリー ジングルベル
第2回	実際にハーモニーをつけてみよう	適当にあたりをつけられるように するコード進行の基本を理解す る	マイボニー 赤い河の谷間 アロハオエ
第3回	D7ってかっこいい!	なぜかっこいいのか?を体感しよう	峠の我が家 ケンタッキーの我が家

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	ドミナントモーション C7	ハーモニーの自然な繋がり、流れをいろいろな曲で体感しよう	主人は冷たい土の中
第5回	サブコードを知ろう	サブコードの意味や使い方を理解する	ふるさと きらきら星
第6回	代理コード	似ている？にてない？その魅力を知る	サンタルチア モルゲンレーテ
第7回	循環コード	樹間するコードをおぼえよう	ロッホローモンド
第8回	Emコード	オシャレなコードを使ってみよう	家路 こげよマイケル
第9回	コード進行のいろいろ	正解は一つではない。コード進行の多様性を理解する	おおブレネリ 星の世界
第10回	再びのドミナントモーション	効果の秘密に迫る	エデンの東 愛しのクレメンタイン 愛の讃歌
第11回	セカンダリードミナント	セカンダリードミナントのまとめ	ロンドンデリーの歌 結婚行進曲
第12回	マイナーキー	短調について	愛のロマンス フランスの古い歌
第13回	オーギュメントコード サブドミナントマイナー	響き、魅力を引き出そう	家路深い河 シェリトリンド
第14回	ディミニッシュコード	曲にもっと刺激を与えよう	80日間世界一周 星に願いを
第15回	トゥファイブ	流れをつくろう	マチルダ この世の果てまで

科目名(クラス)	ポピュラーミュージック (作曲法・編曲法を含む)B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	桑原 巖	履修対象・条件	教職課程履修者と音楽療法専攻は「楽式論A・B」および「ポピュラーミュージックA」よりいずれか必修。教職特設コースは履修不可				

【授業の「概要」と「目的」】

ワールドミュージックとしてスタンダードと呼ばれている音楽を中心に授業毎に選曲をし、わかりやすく、丁寧にそれぞれの音楽がどのように作曲され、編曲されているのかを知る。主にコードネームを理解しながら、ハーモニーの意味や特徴を知り、単純なメロディをオシャレに編曲できるようにする。授業で扱う音楽は特にジャンルを決めず、様々な音楽に触れ、その基礎を体感していく。

【授業の「方法」と「形式」】

演習と講義

【履修時の留意点と心得】

休まずに出席すること。間違いを恐れずに積極的に取り組むこと。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	コードがわかるピアノ講座	著者等		出版社	レッスンの友社
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

毎授業でのプリント課題40%、オリジナル演奏60%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	リズムを感じるころ	メロディラインから触発されるリズムを体現する	
第2回	オーソドックスなリズムの種類	ロック・ポップス・ジャズ・クラシック	
第3回	リズムの特徴	ラテン・レゲイ・ボサノバ	リズムについてまとめる

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	音域	音の音域を知る	
第5回	音跳び	メロディ作りの考え方を学ぶ	
第6回	リズムからメロディをつくる	実践・アプローチする	
第7回	ハーモニーからメロディをつくる	実践・アプローチする	メロディについてまとめる
第8回	テンポ	アップ・ミディアム・バラード	
第9回	アレンジとは	必要な楽器群を知る	
第10回	リズム隊 オルタネーティングベース	ベースの基本的な動きを理解する	
第11回	楽器・音色・奏法	それぞれの特徴を理解する	
第12回	コード進行のいろいろを活用しよう	いろいろなパターンを試してみる	
第13回	(ノリ)	感覚・バウンド感・音楽の作用を体感する	アレンジについてまとめる
第14回	製作	制作の流れをまとめる	
第15回	発表	オリジナル曲や既成曲の作曲・編曲を発表する	

科目名(クラス)	指揮法一a・b	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	加門 伸行	履修対象・条件	教職課程履修者と教職特設コースは必修				

【授業の「概要」と「目的」】

教職課程履修者を主な対象として実践的な指揮テクニックの基礎を修得することを目指し、表情豊かな演奏を引き出すためにはどのように指揮すればよいのか自ら体験することを通じて考察すると同時に、楽譜に記された様々な音楽的意図を読み取って実際の演奏に反映させるための読譜力・想像力・表現力などを養う。

【授業の「方法」と「形式」】

中学校・高校用の音楽教科書に掲載された歌唱用教材(下記「授業内容」参照)を課題に、毎回数名ずつ交代で指揮する。

【履修時の「留意点」と「心得」】

教職専門科目で使用する中学校・高校用の音楽教科書を必ず毎回持参すること。遅刻(遅延証明書提出の場合を除く)・中抜け・早退は欠席としてカウントする。各自事前に充分予習した上で積極的に取り組み、他の者が指揮している様子も注意深く観察しながら、何がポイントなのか理解しようと努めること。

教科書	「中学生の音楽1」「中学生の音楽2・3上/下」	著者等	小原光一ほか	出版社	教育芸術社
教科書	「高校生の音楽1」	著者等	小原光一ほか	出版社	教育芸術社
参考文献	(多数のため、初回の授業時に一覧を配布)	著者等	(諸家)	出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

学期末に行う実技試験で評価する。
 「客観的に認識され得る基本的な指揮の技術を修得しているか」「適切なテンポ設定で演奏しているか」「楽譜上に記載された事項を忠実に演奏に反映しようと努めているか(強弱やテンポの変化・フェルマータなど)」「主体的な表現意欲が見られるか(指揮する対象を過不足なくリードできているか)」等の諸点を評価基準とし、試験課題は授業で取り扱ったテーマ全てから抽出する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	単純拍子(2拍子)① 課題曲:「花」	2拍子の基本的な振り方をマスターし、曲想に応じた指揮ができる。	予習: 左記課題曲の譜読みを丹念に行い、曲についてのイメージをふくらませる。 復習: どんな点に注意が必要か、自分なりに整理する。
第2回	単純拍子(2拍子)② 課題曲:「花」	強弱の変化や細かなニュアンスを指揮で明快に示すことができる。	同上
第3回	単純拍子(2拍子)③ 課題曲:「花」	指揮することによって、正確かつ音楽的に表情豊かな演奏を引き出すことができる。	同上

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	単純拍子(3拍子)① 課題曲:「赤とんぼ」	3拍子の基本的な振り方をマスターし、曲想に応じた指揮ができる。	予習:左記課題曲の譜読みを丹念に行い、曲についてのイメージをふくらませる。 復習:どんな点に注意が必要か、自分なりに整理する。
第5回	単純拍子(3拍子)② 課題曲:「赤とんぼ」	強弱の変化や細かなニュアンスを指揮で明快に示すことができる。	同上
第6回	単純拍子(3拍子)③ 課題曲:「赤とんぼ」	指揮することによって、正確かつ音楽的に表情豊かな演奏を引き出すことができる。	同上
第7回	複合拍子(4拍子)① 課題曲:「夏の思い出」	4拍子の基本的な振り方をマスターし、曲想に応じた指揮ができる。	予習:左記課題曲の譜読みを丹念に行い、曲についてのイメージをふくらませる。 復習:どんな点に注意が必要か、自分なりに整理する。
第8回	複合拍子(4拍子)② 課題曲:「夏の思い出」	強弱の変化や細かなニュアンスを指揮で明快に示すことができる。	同上
第9回	複合拍子(4拍子)③ 課題曲:「夏の思い出」	指揮することによって、正確かつ音楽的に表情豊かな演奏を引き出すことができる。	同上
第10回	複合拍子(6拍子)① 課題曲:「浜辺の歌」	6拍子の基本的な振り方①(2つ振り)をマスターし、曲想に応じた指揮ができる。	予習:左記課題曲の譜読みを丹念に行い、曲についてのイメージをふくらませる。 復習:どんな点に注意が必要か、自分なりに整理する。
第11回	複合拍子(6拍子)② 課題曲:「浜辺の歌」	強弱の変化や細かなニュアンスを指揮で明快に示すことができる。指揮することによって、正確かつ音楽的に表情豊かな演奏を引き出すことができる。	同上
第12回	複合拍子(6拍子)③ 課題曲:「揚げば尊し」	6拍子の基本的な振り方②(6つ振り)をマスターし、曲想に応じた指揮ができる。	予習:左記課題曲の譜読みを丹念に行い、曲についてのイメージをふくらませる。 復習:どんな点に注意が必要か、自分なりに整理する。
第13回	複合拍子(6拍子)④ 課題曲:「揚げば尊し」	強弱の変化や細かなニュアンスを指揮で明快に示すことができる。指揮することによって、正確かつ音楽的に表情豊かな演奏を引き出すことができる。	同上
第14回	混合拍子と変拍子 課題曲:「この道」	混合拍子と変拍子について正しく理解し、曲想に応じた指揮ができる。	予習:左記課題曲の譜読みを丹念に行い、曲についてのイメージをふくらませる。 復習:どんな点に注意が必要か、自分なりに整理する。
第15回	本科目の総括	これまでの授業で取り扱った各テーマのポイントを踏まえながら、的確かつ音楽的に指揮することができる。	予習:学習してきた内容を振り返り、それぞれの要点についてもう一度確認する。 復習:成果や今後の課題等について、自己点検する。

科目名(クラス)	音楽文化論A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	遠山 菜穂美	履修対象・条件					

【授業の「概要」と「目的」】

「音楽文化論」は、音楽について、音楽以外のことも含めた広い視野をもって考える講座です。今年はフランスの異色な作曲家、エリック・サティをテーマとし、多角的な研究の糸口をつかみます。授業のなかではサティの作品だけでなく、同時代の音楽や各回のテーマに関連する音楽も取り上げます。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式。

【履修時の「留意点」と「心得」】

覚えることではなく、考えることに重点をおいた授業です。好奇心と研究心にあふれる学生の受講を期待しています。「音楽文化論B」と合わせて受講することが望ましいです。

教科書	なし	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業内評価(意見の発表等)60%、試験40%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	音楽文化論で学ぶこと	広い視野をもって音楽に取り組むことの意義を知る。	日頃から音楽と関連した諸分野に関心をもつよう心がける。
第2回	サティの人物像(概説)	サティの人物像を理解する。	サティの伝記を読む。
第3回	サティとパリの大衆文化① 《3つのシムノペディ》	サティとパリの大衆文化との関わりを知り、音楽と大衆文化について理解する。	モンマルトルを題材にしたロートレックなどの絵画を画集で見る。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	サティとパリの大衆文化② 《3つのジムノペディ》	同上	同上
第5回	サティとパリの大衆文化③ 《ジュ・トゥ・ヴー》	同上	同上
第6回	サティとパリの大衆文化④ 《ジュ・トゥ・ヴー》	同上	同上
第7回	サティと神秘主義① 《薔薇十字会のファンファーレ》	サティと世紀末の神秘主義との関わりを知り、音楽と神秘的なものについて理解する。	他の作曲家と神秘主義との関わりについて調べてみる。
第8回	サティと神秘主義② 《薔薇十字会のファンファーレ》	同上	同上
第9回	サティとユーモア① 《犬のためのぶよぶよした前奏曲》	サティの曲にみられる風変わりなタイトルやパロディについて知り、音楽とユーモアの関わりについて理解する。	サティ以外の音楽とユーモアについても考えてみる。
第10回	サティとユーモア② 《5つのしかめつら》	同上	同上
第11回	サティとユーモア③ 《官僚的なソナチネ》	同上	同上
第12回	サティと前衛芸術家① バレエ音楽《パレード》	サティとピカソ、コクトーら前衛芸術家たちとの交流を知り、彼らの共同作品である《パレード》の面白さを知る。	ピカソの絵を画集で見る。 コクトーの詩や評論を読む。
第13回	サティと前衛芸術家② バレエ音楽《パレード》	同上	同上
第14回	サティと前衛芸術家③ バレエ音楽《パレード》	同上	同上
第15回	まとめ	前期のテーマを振り返り、自分なりのサティ論が書ける。	夏休み中にサティについてさらに調べてみる。

科目名(クラス)	音楽文化論B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	遠山 菜穂美	履修対象・条件					

【授業の「概要」と「目的」】

「音楽文化論」は、音楽について、音楽以外のことも含めた広い視野をもって考える講座です。今年はフランスの異色な作曲家、エリック・サティをテーマとし、多角的な研究の糸口をつかみます。授業のなかではサティの作品だけでなく、同時代の音楽や各回のテーマに関連する音楽も取り上げます。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式。

【履修時の「留意点」と「心得」】

覚えることではなく、考えることに重点をおいた授業です。好奇心と研究心にあふれる学生の受講を期待しています。「音楽文化論B」と合わせて受講することが望ましいです。

教科書	なし	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業内評価(意見の発表等)60%、試験40%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	サティとファッション・スポーツ① 《スポーツと気晴らし》	サティと同時代のファッションやスポーツとの関わりを知る。	ファッションやスポーツの歴史を調べてみる。
第2回	サティとファッション・スポーツ② 《スポーツと気晴らし》	同上	同上
第3回	サティとドビュッシー① 《梨の形をした小品》	サティとドビュッシーとの交流や音楽上の接点を知る。	ドビュッシーについて調べておく。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	サティとドビュッシー② ドビュッシー《ボードレールの5つの詩》	同上	同上
第5回	サティとラヴェル① ラヴェル《愛に死せる女王のバラード》	サティとラヴェルとの交流や音楽上の接点を知る。	ラヴェルについて調べておく。
第6回	サティとラヴェル② ラヴェル《美女と野獣》(マ・メール・ロワより)	同上	同上
第7回	サティと六人組① ミヨー《屋根の上の牡牛》	サティと六人組の交流や、サティの影響力について理解する。	六人組について調べておく。
第8回	サティと六人組② プーランク《コカルド》	同上	同上
第9回	サティと六人組③ オーリック《さらばニューヨーク》	同上	同上
第10回	サティと六人組④ ミヨー《スカラムーシュ》	同上	同上
第11回	サティと六人組⑤ 《六人組のアルバム》	同上	同上
第12回	サティと六人組⑥オーリック 映画《美女と野獣》の音楽	同上	同上
第13回	サティと「家具の音楽」 《家具の音楽》	サティが提唱した「家具の音楽」とその現代性について理解する。	BGMの歴史を調べておく。
第14回	サティと「家具の音楽」 《家具の音楽》	同上	同上
第15回	まとめ	後期のテーマを振り返り、自分なりのサティ論が書ける。	授業で学んだ方法を、今後の作曲家や作品の研究に生かす。

科目名(クラス)	民族音楽学A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	鈴木 良枝	履修対象・条件	教職課程履修者はA・Bいずれか必修。 教職特設コースはA・Bともに必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

世界には様々な音楽があり、その価値観や特徴は実に多様です。講義では、世界各地の音楽の諸特徴を理解すると共に、その音楽が生み出された人々の生活や社会、宗教などを通して音楽の多様性について理解を深めることを目的とします。民族音楽学Aでは、主に地域ごとに音楽や楽器の特徴について理解を深め、音楽教員として知っておくべき資料の調べ方や知識を紹介し、身につけることを目的とします。

【授業の「方法」と「形式」】

- ・授業ではDVD等の視聴覚資料とパワーポイントを用い授業を進めます。
- ・バリのガムラン音楽であるケチャの実技を体験してもらいます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・授業開始時に、授業の感想等を記入する用紙を配り、出席カードの代わりとします。
- ・30分以上の遅刻は出席と認めません。不正出席は減点対象とします。
- ・授業ごとにプリントを配布しますが、音楽の特色などをメモするノートを用意することが望ましい。
- ・学期末試験は、配布資料やノートの持ち込み可とします。

教科書	『はじめての世界音楽 —諸民族の伝統音楽からポップスマ』	著者等	柘植元一・塚田健一編	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献	『事典世界音楽の本』	著者等	徳丸吉彦他編	出版社	岩波書店
参考文献	『音楽理論の基礎』	著者等	笠原潔 徳丸吉彦	出版社	放送大学教育振興会

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・授業の出席(40%)と学期末に行う筆記試験(60%)の両方にもとづいて評価する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション～民族音楽学について～	民族音楽学という学問領域について理解を深める。	予習: 興味のある諸民族の音楽を視聴する。 復習: 授業で取り扱った内容を教科書と照らし合わせて読む。
第2回	民族音楽学概論(1) ～世界各地の伝統音楽～	世界各地の伝統音楽の実践について理解する。	同上
第3回	民族音楽学概論(2) ～伝統音楽とポピュラー音楽～	世界各地の伝統音楽とポピュラー音楽の特徴について理解する。	同上

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	・民族音楽学概論(3)～民族音楽学の研究の歴史～ ・東アジアの音楽(1)	民族音楽学の研究の歴史、東アジアの音楽について理解する。	予習:興味のある諸民族の音楽を視聴する。 復習:民族音楽学の研究方法について概説書を読み理解を深める。
第5回	・東アジアの音楽(2) ・西アジア・中央アジアの音楽(1)	東アジア、西アジア・中央アジアの音楽について理解する。	予習:教科書を事前に読む。 復習:授業で取り扱った内容を教科書と照らし合わせて読み、音楽を聴く。
第6回	・西アジア・中央アジアの音楽(2) ・南アジアの音楽(1)	西アジア・中央アジア、南アジアの音楽について理解する。	同上
第7回	・南アジアの音楽(2) ・東南アジアの音楽(1)	南アジア、東南アジアの音楽について理解する。	同上
第8回	・東南アジアの音楽(2) ・ヨーロッパの音楽(1)	東南アジア、ヨーロッパの音楽について理解する。	同上
第9回	・ヨーロッパの音楽(2) ・オセアニアの音楽(1)	ヨーロッパ、オセアニアの音楽について理解する。	同上
第10回	・オセアニアの音楽(2) ・アメリカの音楽(1)	オセアニア、アメリカの音楽について理解する。	同上
第11回	・アメリカの音楽(2) ・アフリカの音楽(1)	アメリカ、アフリカの音楽について理解する。	同上
第12回	・アフリカの音楽(2) ・音楽教材の紹介(1)	・アフリカの音楽について理解する。 ・諸民族の音楽の教材を紹介し、教育現場での活用方法について考える。	予習:教科書を事前に読む。 復習:授業内で紹介した資料や教材を図書館等で探し音楽を聴く。
第13回	・音楽教材の紹介(2) ・バリのガムラン音楽の実技(ケチャ)	・諸民族の音楽の教材を紹介し、教育現場での活用方法について考える。 ・バリのガムラン音楽の仕組みについて理解し、教育現場で活用できるようにする。	同上
第14回	総括(1)	講義で扱った地域の音楽文化の特色が説明できる	同上
第15回	総括(2)	講義で扱った地域の音楽文化の特色が説明できる。	復習:授業の内容をまとめる。

科目名(クラス)	民族音楽学B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1~4
担当教員	鈴木 良枝	履修対象・条件	教職課程履修者はA・Bいずれか必修。 教職特設コースはA・Bともに必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

世界には様々な音楽があり、その価値観や特徴は実に多様です。講義では、世界各地の音楽の諸特徴を理解すると共に、その音楽が生み出された人々の生活や社会、宗教などを通して音楽の多様性について理解を深めることを目的とします。民族音楽学Bでは、諸民族の音楽を考える上で重要なキーワードを各回ごとに設定し、世界各地の音楽の特色について学ぶことを目的とします。

【授業の「方法」と「形式」】

- ・講義を中心とする。授業ではDVD等の視聴覚資料とパワーポイントを用い授業を進める。
- ・バリのガムラン音楽(ケチャ)の実技も数回行う。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・授業開始時に、授業の感想等を記入する用紙を配り、出席カードの代わりとする。30分以上の遅刻は出席と認めない。不正出席は減点対象とする。
- ・授業ごとにプリントを配布するが、音楽の特色などをメモするノートを用意することが望ましい。
- ・学期末試験は、配布資料やノートの持ち込み可とする。

教科書	『音楽理論の基礎』	著者等	笠原潔 徳丸吉彦	出版社	放送大学教育振興会
教科書		著者等		出版社	
参考文献	『事典世界音楽の本』	著者等	徳丸吉彦他編	出版社	岩波書店
参考文献	『はじめての世界音楽 —諸民族の伝統音楽からポップスまで—』	著者等	柘植元一・塚田健一編	出版社	音楽之友社

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・授業の出席(40%)と学期末に行う筆記試験(60%)の両方にもとづいて評価する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション～民族音楽学について～	民族音楽学という学問領域について理解を深める。	予習: 興味のある諸民族の音楽を視聴する。 復習: 民族音楽学の研究方法について概説書を読み理解を深める。
第2回	民族音楽学概論(1) ～世界各地の伝統音楽の実践～	世界各地の伝統音楽の実践について理解する。	同上
第3回	民族音楽学概論(2) ～伝統音楽とポピュラー音楽～	世界各地の伝統音楽とポピュラー音楽の特徴について理解する。	同上

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	民族音楽学概論(3) ～伝統音楽とポピュラー音楽～	世界各地の伝統音楽とポピュラー音楽の特徴について理解する。	同上
第5回	楽器・音具	世界各地の楽器や音具について理解する。	予習:教科書を事前に読む。 復習:授業内で紹介した教材や資料を図書館等で探し音楽を聴く。
第6回	音組織(1)	世界各地の音楽の音階の諸特徴について理解する。	同上
第7回	音組織(2)	世界各地の音楽のリズムの諸特徴について理解する。	同上
第8回	口頭伝承と楽譜	口頭伝承と楽譜のある音楽の差異について理解する。	同上
第9回	引用と創作	日本やバリの音楽の新しい作品の創作(作曲)手法から、世界各地の音楽文化について理解を深める。	同上
第10回	音楽の伝播と変容	楽器や音楽が世界各地に伝播して行く過程から、音楽の変容について考える。	同上
第11回	「民族音楽」と音楽教育	民族音楽を学習、指導する意義を考える。	同上
第12回	・音楽教材の紹介(1)	・諸民族の音楽の教材を紹介し、教育現場での活用方法について考える。	同上
第13回	・音楽教材の紹介(2) ・バリのガムラン音楽の実技(ケチャ)	・諸民族の音楽の教材を紹介し、教育現場での活用方法について考える。 ・バリのガムラン音楽の仕組みについて理解し、教育現場で活用できるようにする。	同上
第14回	総括(1)	講義で扱った地域の音楽文化の特色が説明できる。	同上
第15回	総括(2)	講義で扱った地域の音楽文化の特色が説明できる。	復習:授業の内容をまとめる。

科目名(クラス)	日本音楽史概説A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	黒川 真理恵	履修対象・条件	教職履修者と音楽療法専攻はBとのいずれか必修。 教職特設コースは必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

日本の伝統音楽についての基礎的な知識を身に付けることを目的とします。

- ・伝統音楽の種目ごとに、歴史と理論を学習します。
- ・前期は、音高理論を中心に学習します。
- ・唱歌(しょうが)の実践を通して、音楽構造への理解を深めます。
- ・箏(こと)の実習を通して、理論と実践の両面から理解を深めます。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義形式 ・随時、映像や楽器を用いながら進めます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・遅刻、途中退出は原則として認めません。・後期の「日本音楽史概説B」を継続して履修することが望ましいです。
・授業で触れることのできる音楽は限られていますので、実際に演奏会や劇場へ足を運び、パフォーマンスを体感することが望ましいです。

教科書	『日本音楽との出会い—日本音楽の歴史と理論—	著者等	月溪 恒子	出版社	東京堂出版
教科書		著者等		出版社	
参考文献	『日本音楽基本用語辞典』	著者等	音楽之友社(編)	出版社	音楽之友社
参考文献	『カラー図解 和楽器の世界』	著者等	西川 浩平	出版社	河出書房新社

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・各单元ごとの小テスト(10%)
- ・レポート(20%)
- ・学期末試験【筆記試験】(60%)
- ・授業への参加度(10%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション ・教科書参考書紹介 ・和楽器紹介 音律理論 ・三分損益 ・五音音階	三分損益の理論を説明することができる。近代唱歌における五音音階を分析し、理論と実践の両面から楽曲を理解することができる。	予習:教科書p.44～46を読む。 復習:授業プリントを読む。
第2回	音階① ・核音 ・二音音階と三音音階	核音について説明することができる。わらべうたにおける二音音階と三音音階を分析し、それぞれの特徴を述べることができる。	予習:授業プリントを読む。 復習:授業プリントを読む。
第3回	音階② ・テトラコルド(民謡・都節・律・沖縄)	テトラコルド理論について説明することができる。民謡におけるテトラコルドを分析し、説明することができる。	予習:教科書p.47～48を読む。 復習:レポート:わらべうたを五線譜に記す。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	雅楽① ・雅楽の歴史 ・雅楽の楽器分類 ・〈越天楽〉の唱歌(しょうが)の実践	雅楽の歴史と楽器分類について説明することができる。〈越天楽〉の吹物の唱歌を唱えることができる。	予習:教科書p.64～74を読む。 復習:〈越天楽〉の唱歌をできるようにする。
第5回	雅楽② ・雅楽の歴史 ・〈越天楽〉の唱歌の実践	〈越天楽〉の打物のリズムパターンを理解することができる。	予習:教科書p.64～74を読む。 復習:〈越天楽〉の唱歌をできるようにする。
第6回	雅楽③ ・雅楽の種類 ・〈越天楽〉の唱歌の実践	〈越天楽〉の唱歌によるアンサンブルを組むことができる。ヘテロフォニーを理解することができる。	予習:教科書p.64～74を読む。 復習:〈越天楽〉の唱歌をできるようにする。
第7回	声明 ・声明の歴史・種類・記譜法	日本における仏教音楽について理解し、声明の歴史・種類・記譜法を説明することができる。	予習:教科書p.76～84を読む。 復習:授業プリントを読む。
第8回	平家琵琶 ・平家の歴史	語り物音楽としての琵琶楽を理解し、歴史的背景や音楽的特徴を説明することができる。	予習:教科書p.86～97を読む。 復習:授業プリントを読む。
第9回	能① ・能の歴史 ・能の舞台空間 ・謡のリズム法(平ノリ・中ノリ・大ノリ)	能の歴史と重要人物について説明することができる。謡のリズム法を理解し、説明することができる。	予習:教科書p.100～111を読む。 復習:謡のリズム法をできるようにする。
第10回	能② ・謡の発声法(ヨフ吟・ツヨ吟) ・能の楽器 ・〈羽衣〉の鑑賞	謡の発声法を理解し、能の舞台や楽器について、その特徴を説明することができる。	予習:教科書p.100～111を読む。 復習:授業プリントを読む。
第11回	地歌・箏曲 ・地歌・箏曲の歴史 ・箏の基本構造・調弦法	地歌・箏曲の歴史と重要人物について説明することができる。箏の基本構造と調弦法を説明することができる。	予習:教科書p.114～125を読む。 復習:授業プリントを読む。
第12回	箏実習 ・箏の扱い方・柱の立て方・座り方 ・箏爪のつけ方・基本的な奏法	箏の基本的な扱い方や奏法を習得し、〈さくらさくら〉を演奏することができる。	予習:授業プリントを読む。 復習:演奏家の映像を見る。
第13回	歌舞伎① ・歌舞伎の歴史 ・歌舞伎の舞台空間	歌舞伎の歴史と重要人物について説明することができる。歌舞伎の舞台空間と、それを作り上げている人々について理解することができる。	予習:教科書p.130～144を読む。 復習:授業プリントを読む。
第14回	歌舞伎② ・歌舞伎の音楽(長唄・黒御簾音楽)	歌舞伎で用いられている音楽について説明することができる。	予習:教科書p.130～144を読む。 復習:授業プリントを読む。
第15回	本科目の総括(振り返り)	日本の伝統音楽についての基礎的な知識を身に付けている。	予習:これまでの授業プリントとノートを振り返る。 復習:レポート:伝統芸能を鑑賞し、感想文を書く。

科目名(クラス)	日本音楽史概説B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1~4
担当教員	黒川 真理恵	履修対象・条件	教職履修者と音楽療法専攻はAとのいずれか必修。 教職特設コースは必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

日本の伝統音楽に対する理解を深めます。

- ・伝統音楽の種目ごとに、歴史と理論を学習します。
- ・後期は、リズム様式を中心に学習します。
- ・楽譜や唱歌(しょうが)、家元制度などの「伝承の仕掛け」を通して、現代における伝統音楽の諸相を論じます。
- ・唱歌の実践を通して、音楽構造への理解を深めます。
- ・箏(こと)の実習を通して、理論と実践の両面から理解を深めます。

【授業の「方法」と「形式」】

- ・講義形式 ・随時、映像や楽器を用いながら進めます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・遅刻、途中退出は原則として認めません。
- ・前期の「日本音楽史概説A」を履修しておくことが望ましいです。
- ・授業で触れることのできる音楽は限られていますので、実際に演奏会や劇場へ足を運び、パフォーマンスを体感することが望ましいです。

教科書	『日本音楽との出会い—日本音楽の歴史と理論—	著者等	月溪 恒子	出版社	東京堂出版
教科書		著者等		出版社	
参考文献	『日本音楽基本用語辞典』	著者等	音楽之友社(編)	出版社	音楽之友社
参考文献	『カラー図解 和楽器の世界』	著者等	西川 浩平	出版社	河出書房新社

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・各单元ごとの小テスト(10%)
- ・レポート(20%)
- ・学期末試験【筆記試験】(60%)
- ・授業への参加度(10%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	リズム様式① ・八木節様式と追分様式 ・シラビックとメリスマ	民謡にみられるリズム様式について説明することができる。	予習:教科書p.49~53を読む。 復習:授業プリントを読む。
第2回	リズム様式② ・拍節的リズムと自由リズム	伝統音楽にみられるリズム様式について説明することができる。	予習:教科書p.49~53を読む。 復習:授業プリントを読む。
第3回	雅楽① ・雅楽の歴史 ・雅楽の楽器分類 ・〈越天楽〉の唱歌(しょうが)の実践	雅楽の歴史と楽器分類について説明することができる。〈越天楽〉の吹物の唱歌を唱えることができる。	予習:教科書p.64~74を読む。 復習:〈越天楽〉の唱歌をできるようにする。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	雅楽② ・雅楽の歴史 ・〈越天楽〉の唱歌の実践	〈越天楽〉の打物のリズムパターンを理解することができる。	予習:教科書p.64～74を読む。 復習:〈越天楽〉の唱歌をできるようにする。
第5回	雅楽③ ・雅楽の種類 ・〈越天楽〉の唱歌の実践	〈越天楽〉の唱歌によるアンサンブルを組むことができる。ヘテロフォニーを理解することができる。	予習:教科書p.64～74を読む。 復習:〈越天楽〉の唱歌をできるようにする。
第6回	声明 ・声明の歴史・種類・記譜法	日本における仏教音楽について理解し、声明の歴史・種類・記譜法を説明することができる。	予習:教科書p.76～84を読む。 復習:授業プリントを読む。
第7回	琵琶 ・平家琵琶・薩摩琵琶・筑前琵琶の歴史	語り物音楽としての琵琶楽を理解し、歴史的背景や音楽的特徴を説明することができる。	予習:教科書p.86～97を読む。 復習:授業プリントを読む。
第8回	能① ・能の歴史 ・能の舞台空間 ・謡のリズム法(平ノリ・中ノリ・大ノリ)	能の歴史と重要人物について説明することができる。謡のリズム法を理解し、説明することができる。	予習:教科書p.100～111を読む。 復習:謡のリズム法をできるようにする。
第9回	能② ・謡の発声法(ヨワ吟・ツヨ吟) ・能の楽器 ・〈船弁慶〉の鑑賞	謡の発声法を理解し、能の舞台や楽器について、その特徴を説明することができる。	予習:教科書p.100～111を読む。 復習:授業プリントを読む。
第10回	地歌・箏曲 ・地歌・箏曲の歴史 ・箏の基本構造・調弦法	地歌・箏曲の歴史と重要人物について説明することができる。箏の基本構造と調弦法を説明することができる。	予習:教科書p.114～125を読む。 復習:授業プリントを読む。
第11回	箏実習 ・箏の扱い方・柱の立て方・座り方 ・箏爪のつけ方・基本的な奏法	箏の基本的な扱い方や奏法を習得し、〈初夏の小川〉を演奏することができる。	予習:授業プリントを読む。 復習:演奏家の映像を見る。
第12回	文楽 ・義太夫節の歴史 ・文楽の舞台空間	義太夫節の歴史と重要人物について説明することができる。文楽の舞台空間と、それを作り上げている人々について理解することができる。	予習:教科書p.130～144を読む。 復習:授業プリントを読む。
第13回	伝承の仕掛け ・口頭性と書記性 ・楽譜・唱歌・家元制度・研修制度	音楽の伝承における口頭性と書記性について説明することができる。現代における伝統音楽の伝承制度について説明することができる。	予習:p.54～60を読む。 復習:授業プリントを読む。
第14回	近代における日本音楽 ・西洋音楽の受容 ・新日本音楽	近代における西洋音楽の受容と、新日本音楽について説明することができる。	予習:教科書p.146～158を読む。 復習:授業プリントを読む。
第15回	本科目の総括(振り返り)	日本の伝統音楽についての基礎的な知識を身に付けている。現代における伝統音楽のあり方について説明することができる。	予習:これまでの授業プリントとノートを振り返る。 復習:レポート:伝統芸能を鑑賞し、感想文を書く。

科目名(クラス)	音楽の基礎理論A-a	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	田村 治美	履修対象・条件	全専攻必修。但し、演奏家コースは履修不可。				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・西洋音楽の基礎を学び、理解を深めることは、演奏、作曲など実践的に音楽に関わる者にとって極めて重要なことです。
- ・ここでは、基本的な読譜からはじめて、楽曲の基本原理を学びます。
- ・前期はいわゆる楽典の内容ですが、後期になると楽曲の様々な原理に向き合うことになります。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式、演習形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・演習問題をたくさんおこなうので、積極的に参加してください。
- ・私語は注意します。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	楽典	著者等	池之内友次郎他	出版社	音楽之友社
参考文献	和声法	著者等	ピストン他	出版社	音楽之友社

【成績評価の「方法」と「基準」】

期末試験で総合評価をします。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	概論	授業の進め方、整理の仕方、評価法、目的、心得などを把握する。西洋音楽理論の成立の歴史背景など	各授業の準備、学習をする。
第2回	譜表、音部記号、音名	音部記号を理解し、読譜ができる	〃
第3回	小節、楽節	小節や楽節の意味を把握する	〃

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	音符と休符	音符の種類や休符を理解する	各授業の準備、学習をする。
第5回	拍子とリズム	様々な拍子を即座に実践する。	〃
第6回	色々なリズム	変拍子などの多様なリズムがすぐに読めるようにする	〃
第7回	長音階	長音階の理論を把握する	〃
第8回	短音階	短音階の理論を把握する	〃
第9回	旋法	様々な旋法を理解する	〃
第10回	音程1	旋律の音程を即座に理解する	〃
第11回	音程2	ハーモニーの音程をすぐに把握できるようにする	〃
第12回	和音1	3和音の基礎を理解する	〃
第13回	和音2	7の和音を理解する	〃
第14回	まとめと復習	前期の内容を振り返る	〃
第15回	確認テストと説明	前期の内容の確認	学んだことを振り返る。

科目名(クラス)	音楽の基礎理論A-b	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	加茂下 裕	履修対象・条件	全専攻必修。但し、演奏家コースは履修不可。				

【授業の「概要」と「目的」】

音楽を学んでいくために必要な理論的知識を習得することを目的とします。
このA-bクラスでは楽典の基礎(音名・音程・音階・調など)を理解するための演習が主な授業内容となります。

【授業の「方法」と「形式」】

講義・演習

【履修時の「留意点」と「心得」】

問題練習を中心としたプリントを配って授業を行います。
プリントの内、提出と指定されたもの提出状況で課題点を算出します。

教科書	なし	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

学期末試験50% 課題点50%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	譜表と音名①	主にドイツ音名の作られ方を理解する	ドイツ音名を確実に覚える
第2回	譜表と音名②	・楽譜中の音の音名を判定できる ・プリント提出	間違った問題の見直し
第3回	音符と休符	各種の音符と休符を覚える	

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	リズムと拍子	リズムと拍子の仕組みを理解する	
第5回	音程①	・幹音間の音程を覚える ・プリント提出	・幹音間の音程を確実に覚える ・間違った問題の見直し
第6回	音程②	・派生音を含む音程の考え方を理解する ・プリント提出	間違った問題の見直し
第7回	音程③	・複音程と音程の転回について理解する ・プリント提出	間違った問題の見直し
第8回	音程④	・楽譜中の音の音程を判定できる ・プリント提出	間違った問題の見直し
第9回	音階と調①	・長調と短調の音階の仕組みを理解する ・プリント提出	間違った問題の見直し
第10回	音階と調②	・調号を覚える ・プリント提出	・調号を確実に覚える ・間違った問題の見直し
第11回	音階と調③	・調の相互関係について理解する ・プリント提出	間違った問題の見直し
第12回	音階と調④	・指定した音階を書ける ・プリント提出	間違った問題の見直し
第13回	総合練習	音名・音程・音階・調に関する問題を解けるようにする	・覚えておくべきことを確実に覚える
第14回	総合練習	音名・音程・音階・調に関する問題を解けるようにする	・覚えておくべきことを確実に覚える
第15回	まとめ	音名・音程・音階・調に関する問題を解ける	

科目名(クラス)	音楽の基礎理論B-a	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	田村 治美	履修対象・条件	全専攻必修。但し、演奏家コースは履修不可。				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・前期に続き、音楽の基礎を学びます。
- ・さらに発展させて、簡単な楽曲分析を行ないます。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式、演習形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

私語は注意します
積極的に参加してください。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

期末試験で評価します。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	前期の復習		前期の内容を見直す
第2回	カデンツと終止形	3種のカデンツと様々な終止形を把握する。	各授業の準備、学習をする。
第3回	調判定1	調性と変化記号の関係を把握する	〃

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	調判定2	楽曲の断片の調性を判断する	各授業の準備、学習をする。
第5回	移調1	速いスピードで移調ができるようにする	〃
第6回	移調2	耳から移調ができるようにする	〃
第7回	旋律リズム	旋律の様々なリズムを把握する	〃
第8回	和声リズム	和声の変化によるリズムを把握し、旋律リズムとのずれを解析できるようにする	〃
第9回	音楽用語1	覚える	〃
第10回	音楽用語2	覚える	〃
第11回	ソナチネの分析	和声、楽曲構造の理解をする	〃
第12回	ソナチネの分析	和声、楽曲構造の理解をする	〃
第13回	歌曲の分析	言葉と音楽の関わり方を理解する	〃
第14回	まとめ	後期の内容を整理する	〃
第15回	確認テストと説明	後期の内容を整理する	後期の内容を応用確認する

科目名(クラス)	音楽の基礎理論B-b	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	加茂下 裕	履修対象・条件	全専攻必修。但し、演奏家コースは履修不可。				

【授業の「概要」と「目的」】

音楽を学んでいくために必要な理論的知識を習得することを目的とします。
このB-bクラスでは楽典の基礎(楽語・移調・調判定・和音など)を理解するための演習が主な授業内容となります。

【授業の「方法」と「形式」】

講義・演習

【履修時の「留意点」と「心得」】

問題練習を中心としたプリントを配って授業を行います。
プリントの内、提出と指定されたもの提出状況で課題点を算出します。

教科書	なし	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

学期末試験50% 課題点50%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	音楽の基礎A-bの復習	音楽の基礎A-bの内容を思い出す	
第2回	楽語①	・楽語の読み方と意味を覚える ・プリント提出	覚えていない楽語を確実に覚える
第3回	楽語②	・楽語の読み方と意味を覚える ・プリント提出	覚えていない楽語を確実に覚える

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	移調①	・移調の仕方を理解する ・プリント提出	間違った問題の見直し
第5回	移調②	・移調の仕方を理解する ・プリント提出	間違った問題の見直し
第6回	調判定①	・調判定の仕方を理解する ・プリント提出	間違った問題の見直し
第7回	調判定②	・調判定の仕方を理解する ・プリント提出	間違った問題の見直し
第8回	和音①	・各種の和音の仕組みを理解する ・プリント提出	間違った問題の見直し
第9回	和音②	・楽譜中の和音の種類を判定できる ・プリント提出	間違った問題の見直し
第10回	調と和音の分析①	・楽譜から調と和音を判定できる ・プリント提出	間違った問題の見直し
第11回	調と和音の分析②	・楽譜から調と和音を判定できる ・プリント提出	間違った問題の見直し
第12回	総合練習	楽語・移調・調判定・和音に関する問題を解けるようにする	間違った問題の見直し
第13回	総合練習	楽語・移調・調判定・和音に関する問題を解けるようにする	間違った問題の見直し
第14回	総合練習	楽語・移調・調判定・和音に関する問題を解けるようにする	間違った問題の見直し
第15回	まとめ	楽語・移調・調判定・和音に関する問題を解ける	

科目名(クラス)	音楽の基礎理論(演奏家コース)A	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	横山 裕美子	履修対象・条件	演奏家コースのみ履修可。必修				

【授業の「概要」と「目的」】

音楽の基礎理論の勉強は、楽譜の中に込められた作曲家の意図や思いを深く理解するのに必要不可欠です。演奏家として必要な音楽の基礎理論を実際の楽曲を使って学び、楽曲を分析していく力を養います。

【授業の「方法」と「形式」】

講義と演習、ディスカッション、CD、DVDなど

【履修時の「留意点」と「心得」】

授業で学習した課題は見直し、常に自分の専攻の楽曲分析に応用していきましょう。皆さんに実際に音を出していただくことも考えています。

教科書	なし(プリント)	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業内課題実習(20%)
学期末定期試験(筆記試験)(80%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	音階の種類(旋法も含む)①	楽曲に使用されている音階の種類と構成音を理解する。どの音階も指示通り作ることができる。	授業で学習した課題・楽譜・CD演奏をもう一度復習し、知識を定着させる。
第2回	音階の種類(旋法も含む)②	同上	同上
第3回	音階の種類(旋法も含む)③	同上	同上

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	音程①	それぞれの音程の持つ役割と性格を理解する。	同上
第5回	音程②	同上	同上
第6回	和音の種類(コードネームも含む)①	それぞれの和音の組み立て・役割・進行を理解する。楽曲に和音・コードネームを付ける。	同上
第7回	和音の種類(コードネームも含む)②	同上	同上
第8回	和音の種類(コードネームも含む)③	同上	同上
第9回	非和声音と偶成和音①	非和声音と偶成和音の種類を理解し、譜例を分析する。	同上
第10回	非和声音と偶成和音②	同上	同上
第11回	音楽表現のための用語と記号①	音楽表現のための用語と記号を理解し覚える。	同上
第12回	音楽表現のための用語と記号②	同上	同上
第13回	音楽表現のための用語と記号③	同上	同上
第14回	音楽表現のための用語と記号④	同上	同上
第15回	本科目の総括	前期で学習した内容を振り返る。	同上

科目名(クラス)	音楽の基礎理論(演奏家コース)B	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	横山 裕美子	履修対象・条件	演奏家コースのみ履修可。必修				

【授業の「概要」と「目的」】

音楽の基礎理論の勉強は、楽譜の中に込められた作曲家の意図や思いを深く理解するのに必要不可欠です。演奏家として必要な音楽の基礎理論を実際の楽曲を使って学び、楽曲を分析していく力を養います。

【授業の「方法」と「形式」】

講義と演習、ディスカッション、CD、DVDなど

【履修時の「留意点」と「心得」】

授業で学習した課題は見直し、常に自分の専攻の楽曲分析に応用していきましょう。皆さんに実際に音を出していただくことも考えています。

教科書	なし(プリント)	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業内課題実習(20%)
レポート提出(80%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	音楽の最小限のまとめり 音楽の始まり方	音楽のまとめりはどのようにして出来るか。譜例から理解する。 音楽の始まり方の種類と違いを理解する。	授業で学習した課題・楽譜・CD演奏をもう一度復習し、知識を定着させる。
第2回	フレーズのまとめり方 抑揚①	フレーズのまとめり方の種類と違いを理解する。 抑揚の種類と違いを理解する。	同上
第3回	抑揚② 音楽の終止	抑揚の種類と違いを理解する。 終止の種類と違いを理解する。	同上

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	歌曲集の分析①	いままで学習した基礎理論を 基に、歌曲集を分析する。	事前に楽曲のCDを聴いておく。 授業で学習した課題・楽譜・CD をもう一度復習し、知識を定着さ せる。
第5回	歌曲集の分析②	同上	同上
第6回	ピアノ独奏曲の分析①	いままで学習した基礎理論を 基に、ピアノ独奏曲を分析する。	同上
第7回	ピアノ独奏曲の分析②	同上	同上
第8回	ピアノ独奏曲の分析③	同上	同上
第9回	室内楽の名曲の分析(二重奏)①	いままで学習した基礎理論を 基に、二重奏曲を分析する。	同上
第10回	室内楽の名曲の分析(二重奏)②	同上	同上
第11回	室内楽の名曲の分析(二重奏)③	同上	同上
第12回	室内楽の名曲の分析(三重奏)①	いままで学習した基礎理論を基 に三重奏～四重奏曲を分析す る。	同上
第13回	室内楽の名曲の分析(三重奏以上)②	同上	同上
第14回	室内楽の名曲の分析(三重奏以上)③	同上	同上
第15回	本科目の総括	後期で学習した内容を振り返 る。	同上

科目名(クラス)	音楽史A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	遠山 菜穂美	履修対象・条件	音楽療法専攻と教職課程履修者はBとのいずれか必修。 教職特設コースはABともに必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

私たちがふだん親しんでいる西洋音楽(クラシック音楽)の歴史をたどり、様々な時代の音楽家たちの活動や音楽の特徴を、同時代の社会や文化、芸術全般とともに学びます。西洋音楽の歴史を知ることが、私たちの音楽の未来を考えるための大きなヒントを与えてくれることでしょう。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式。CD,DVD,ピアノなどをフルに活用しながら解説します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

教科書、音楽史専用のノートを持参すること。配付プリント用のファイル(A4版)もあると便利です。
「音楽史B」と合わせて受講することが望ましいです。

教科書	増補改訂版「はじめての音楽史」	著者等	久保田慶一 他	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業内評価50%、試験50%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	なぜ音楽史を学ぶのか	音楽の歴史を学ぶ意味をつかむ。	関心を持ったことは図書館などで調べてみる。
第2回	ヨーロッパ文化の源流:古代ギリシャ・ローマ	古代ギリシャ・ローマの芸術文化を知る。	同上
第3回	中世の音楽:グレゴリオ聖歌から多声音楽へ	グレゴリオ聖歌の特徴と、聖歌から発展した多声音楽の特徴をつかむ。	同上

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	ルネサンスの音楽	ルネサンスの音楽の特徴をつかむ。	同時代の美術なども図書館で調べてみる。
第5回	バロックの音楽(声楽・オペラ)①	バロックの声楽・オペラの特徴をつかむ。	授業で取り上げたオペラを図書館などで全編観てみる。
第6回	バロックの音楽(声楽・オペラ)②	同上	同上
第7回	バロックの音楽(器楽)①	バロックの器楽曲の特徴をつかむ。	関心を持ったことは図書館等で調べてみる。
第8回	バロックの音楽(器楽)②	同上	同上
第9回	バロックの音楽(J.S.バッハ,ヘンデル)①	バロック時代の頂点を築いたJ.S.バッハやヘンデルの作曲家像と作風を知る。	同上
第10回	バロックの音楽(J.S.バッハ,ヘンデル)②	同上	同上
第11回	バロックの音楽(J.S.バッハ,ヘンデル)③	同上	同上
第12回	前古典派から古典派へ	前古典派(J.S.バッハの息子達等)の作曲家像と作風を知る。	同上
第13回	古典派の音楽(ハイドン,モーツァルト)①	ハイドン,モーツァルトの作曲家像と作風を知る。	同上
第14回	古典派の音楽(ハイドン,モーツァルト)②	同上	同上
第15回	まとめ	中世から古典派までの音楽史を整理する。	興味を持った内容について、夏休みに研究してみる。

科目名(クラス)	音楽史B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	遠山 菜穂美	履修対象・条件	音楽療法専攻と教職課程履修者はAとのいずれか必修。 教職特設コースはABともに必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

私たちがふだん親しんでいる西洋音楽(クラシック音楽)の歴史をたどり、様々な時代の音楽家たちの活動や音楽の特徴を、同時代の社会や文化、芸術全般とともに学びます。西洋音楽の歴史を知るとは、私たちの音楽の未来を考えるための大きなヒントを与えてくれることでしょう。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式。CD、DVD、ピアノなどをフルに活用しながら解説します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

教科書、音楽史専用のノートを持参のこと。配付プリント用ファイル(A4版)もあると便利です。
「音楽史A」と合わせて受講することが望ましいです。

教科書	増補改訂版 はじめての音楽史	著者等	久保田慶一 他	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業内評価50%、試験50%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	古典派からロマン派へ(ベートーヴェン)①	ベートーヴェンの作曲家像と作風を知る。	関心を持ったことは図書館等で調べてみる。
第2回	古典派からロマン派へ(ベートーヴェン)②	同上	同上
第3回	ロマン主義とは何か	ロマン主義の特徴をつかむ。	同上

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	ロマン派の音楽(ピアノ曲、室内楽、歌曲)①	ロマン派のピアノ曲、室内楽、歌曲の特徴をつかむ。	関心を持ったことは「図書館等で調べてみる。
第5回	ロマン派の音楽(ピアノ曲、室内楽、歌曲)②	同上	同上
第6回	ロマン派の音楽(ピアノ曲、室内楽、歌曲)③	同上	同上
第7回	ロマン派の音楽(オーケストラ曲)①	ロマン派のオーケストラ曲の特徴をつかむ。	
第8回	ロマン派の音楽(オーケストラ曲)②	同上	同上
第9回	ロマン派の音楽(オペラ)	19世紀オペラの特徴をつかむ。	同上
第10回	近現代の音楽①	近現代の音楽の特徴をつかむ。	同上
第11回	近現代の音楽②	同上	同上
第12回	近現代の音楽③	同上	同上
第13回	近現代の音楽④	同上	同上
第14回	近現代の音楽⑤	同上	同上
第15回	まとめ	ロマン派から近現代までの音楽史を整理する。	音楽史で学んだことを演奏や創作に生かす。

科目名(クラス)	音楽療法概論a	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	平田 紀子	履修対象・条件	音楽療法専攻は必修				

【授業の「概要」と「目的」】

音楽療法とは、音楽が心身に及ぼす働きを効果的に用い、人々の健康に役立てるもので、医療・福祉・地域で活用されている。
この授業では、音楽療法の目的・定義・歴史や音楽の作用について、基礎的知識を身につける。
また、主な対象領域(児童・成人・精神・高齢者他)への実践、さらには音楽療法士の専門性への理解を深める。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式。毎回の授業で教材のプリントを配布する。

【履修時の「留意点」と「心得」】

欠席や遅刻、退席をしないことを原則とする。
課題提出等の期限を厳守する。

教科書	音楽療法の基礎	著者等	村井靖児	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

期末筆記試験を行う。
評価率は、筆記試験70%、授業への積極的参加など取り組みの姿勢を30%とする。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	音楽療法とは何か	音楽療法の定義、目的、対象について理解する	配布プリントや各自のノートを読んで次回の授業に備える(以下同様)
第2回	受動的音楽療法と能動的音楽療法	「聴く」音楽療法と「する」音楽療法について具体的に理解する	
第3回	音楽療法の歴史	古代や・歴史的エピソードにおける音楽と癒し、国内外の近代的音楽療法の歴史について理解する	教科書(第2章)を読んでおく

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	音楽の作用 1. 生理的働き	音楽が及ぼす生理的な働きについて理解する	教科書(第3章)を読んでおく
第5回	音楽の作用 2. 心理的働き	音楽が及ぼす心理的な働きについて理解する	配布プリントや各自のノートを読んで次回の授業に備える(以下同様)
第6回	音楽の作用 3. 社会的働き	音楽が及ぼす社会的な働きについて理解する	
第7回	音楽の作用 4. 身体活動への働き	音楽が身体活動を誘発する働き、その他の作用について理解する	
第8回	音楽療法の原理	音楽療法の手法に用いられる原理について理解する	教科書(第4章)を読んでおく
第9回	音楽療法の実際	実践においての、目的、手順、流れなどについて理解する	配布プリントや各自のノートを読んで次回の授業に備える
第10回	音楽療法の実際 各論1. 精神科領域	精神科領域に関して、疾患、障害、療法、支援などの知識を得る	配布プリント、教科書(第5章)を読んでおく
第11回	音楽療法の実際 各論2. 高齢者領域	高齢者領域に関して、疾患、障害、療法、支援などの知識を得る	配布プリントや各自のノートを読んで次回の授業に備える(以下同様)
第12回	音楽療法の実際 各論3. 児童領域	児童領域に関して、疾患、障害、療法、支援などの知識を得る	
第13回	音楽療法の実際 各論4. その他の領域	その他の領域に関して、実践例や支援についての知識を得る	
第14回	職業としての音楽療法	音楽療法士の仕事、療法士になるには、など職業的側面から理解する	教科書(第7章)を読んでおく
第15回	本科目の総括(振り返り)	本科目の目的について解説できる	配布プリントや各自のノート、教科書を再読する

科目名(クラス)	音楽療法概論 b	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	田村 治美	履修対象・条件	音楽療法専攻は必修				

【授業の「概要」と「目的」】

音楽療法の基礎となる音・音楽の構造、認知システム、音楽療法の実践と役割、諸領域の音楽療法などについて学びます。また、音楽の効果が生かされた周辺領域についても紹介します。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式、発表形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

音楽療法を実践するものにとっての基礎的な知識なので、積極的に授業に臨んでください。私語は謹んでください。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	音楽療法の基礎	著者等	村井靖児	出版社	音楽之友社
参考文献	標準 音楽療法入門(上)(下)	著者等	篠田知璋	出版社	春秋社

【成績評価の「方法」と「基準」】

発表の実践、期末テスト、各50%ずつで成績評価をします。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション		各授業の準備、学習をする。
第2回	音楽療法の定義と実施	世界の音楽療法の定義と意味、日本音楽療法学会の定義と意味、専門用語、対象、治療目的、治療過程、評価などを学びます。	〃
第3回	3. 音楽療法の歴史	古代、中世、18世紀、アメリカ、近代的音楽療法の出現、日本における音楽療法の展開を学びます。	〃

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	聞こえと認知のシステム	耳の構造と脳による情報処理を学びます。	各授業の準備、学習をする。
第5回	音と音楽のしくみ	音色、音高、リズム、旋律、調性、ハーモニー、音楽の構造と形式について学びます。	〃
第6回	音楽の療法的意味と実践	身体的・心理的・社会的意義、発声、歌、楽器、身体運動、認知と統制、情緒と記憶など、身体と音楽の関係を学びます。	〃
第7回	高齢者領域とQOLとしての音楽療法	加齢、高齢化社会の問題、認知症について学びます。	〃
第8回	児童の音楽療法	胎児と音楽、発達障害、学校教育について学びます。	〃
第9回	成人と精神科領域	精神疾患の分類と音楽療法に関して学びます。	〃
第10回	ホスピスと緩和ケア	海外の緩和ケア、死生観と音楽、家族・友人への援助、配慮などについて学びます。	〃
第11回	健康管理及び医療現場における音楽療法	日常における音楽の役割と様々な医療現場における音楽療法の実践例を学びます。	〃
第12回	文化に根差した音楽療法・日本における音楽療法	日本の音、古典にみられる音・音楽療法を学びます。	〃
第13回	音楽療法士の役割	職業としての心構え、資格について、伴奏の方法を学びます。	〃
第14回	音楽効果に関する応用	サウンドスケープ、様々なサイン音、バリアフリーと音楽を学びます。	〃
第15回	まとめ	今学期の内容の振り返りと発展課題について討論します。	学んだことを振り返ってみる。

科目名(クラス)	音楽療法的音楽論	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1~4
担当教員	平田 紀子	履修対象・条件	音楽療法専攻は必修				

【授業の「概要」と「目的」】

音楽療法の実践現場で用いられる様々な音楽ジャンルや、そのルーツとなる芸能について、幅広く理解する。明治・大正・昭和・平成の日本の大衆音楽(唱歌・流行歌・ポップス、民謡・邦楽など)について知識を習得する。紹介する楽曲は、すべて当時の音源を実際に聴きながら進めていく。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式。実際の音源をCDなどで聴きながら解説をする。また毎回の授業で教材のプリントを配布する。

【履修時の「留意点」と「心得」】

欠席や遅刻、退席をしないことを原則とする。課題提出等の期限を厳守する。口述した付加解説や板書に関しては、ノートを必ず取るように。欠席すると内容の理解・継続に影響するので、出席者に内容を聞く、配布プリントをコピーするなどで次回に備えること。

教科書	決定版 平田紀子のちょっと嬉しい伴奏が弾きた	著者等	平田紀子	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献	授業内でプリント配布	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

期末筆記試験を行う。
評価率は、筆記試験70%、授業への積極的参加など取り組みの姿勢を30%とする。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	音楽療法に用いられる音楽について	音楽療法に用いられる音楽について、様々なジャンルを知る	配布プリントや各自のノートを読んで次回の授業に備える
第2回	受容的音楽療法	履修生各自が好きな音楽を紹介し、分かち合う	一人一曲ずつ曲を持参、コメントを用意する
第3回	日本の唱歌	明治・大正・昭和の日本の唱歌について知識と理解を深める	配布プリントや各自のノートを読んで次回の授業に備える

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	流行歌の歴史とその背景 1	明治・大正・昭和初期の日本の流行歌について知識を得、時代背景を理解する	配布プリントや各自のノートを読んで次回の授業に備える(以下同様)
第5回	流行歌の歴史とその背景 2	昭和(戦前・戦後)の流行歌について知識を得、時代背景を理解する	
第6回	流行歌の歴史とその背景 3	昭和20年代の流行歌について知識を得、時代背景を理解する	
第7回	流行歌の歴史とその背景 4	昭和20～30年代の流行歌について知識を得、時代背景を理解する	
第8回	流行歌の歴史とその背景 5	昭和30年代の流行歌について知識を得、時代背景を理解する	
第9回	流行歌の歴史とその背景 6	昭和30～40年代の流行歌について知識を得、時代背景を理解する	
第10回	流行歌の歴史とその背景 7	昭和40年代の流行歌について知識を得、時代背景を理解する	
第11回	流行歌の歴史とその背景 8	昭和50年代の流行歌について知識を	
第12回	流行歌の歴史とその背景 9	昭和50年代以降の流行歌について知識を得、理解を深める	
第13回	古典大衆芸能と邦楽	日本の古典大衆芸能における楽曲や楽器について知識を得る	
第14回	日本の民謡	よく知られる日本の各地の民謡について知識を得、奏法について理解する	
第15回	本科目の総括(振り返り)	本科目の目的について解説できる	配布プリントや各自のノート、教科書を再読する

科目名(クラス)	音楽心理学A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1~4
担当教員	徳富 政樹	履修対象・条件	音楽療法専攻はBとのいずれか必修				

【授業の「概要」と「目的」】

音楽の歴史や演奏技術、思想などを学ぶ機会はたくさんあると思いますが、科学的に音楽を検証するという機会はあまりないことと思います。この授業では心理学の観点から音楽について考察をしていき、皆さんの知っている音楽を違う側面から見てもらおうと思います。できるだけ最新の研究を取り上げて、わかりやすく解説していきます。

【授業の「方法」と「形式」】

基本的に講義形式です。

【履修時の「留意点」と「心得」】

この授業では板書をたくさんするのできちんとノートをとる必要があります。ただ書き写すだけでなく自分なりの説明を加えてわかりやすいノートを作成するようにしてください。当たり前のことですが、遅刻、無断早退、私語は厳禁です。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	音は心のなかで音楽になるー音楽心理学への招	著者等	谷口高士	出版社	北大路書房
参考文献	音の世界の心理学	著者等	重野純	出版社	ナカニシヤ出版

【成績評価の「方法」と「基準」】

テスト(70点)+授業への取り組み方(授業終了後の小レポートも含む)(30点)で成績評価を行います。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	「なぜ音楽大学へ進学したのか」	音楽大学への進学理由とその後の学校への満足との関係を考える	あらかじめ自分がなぜ音楽大学へ進学しようと思ったのか文章化してみる
第2回	音楽心理学の方法	具体的な音楽心理学の研究方法について考える	特に実験法と質問紙法の違いについてまとめる
第3回	記憶研究の基礎	心理学における記憶についての基礎的考え方を学ぶ	記憶のプロセスについてまとめる

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	音楽の記憶について	音楽と記憶との関係について考える	記憶をテストする方法についてまとめてみる
第5回	和音の記憶	和音を記憶するさいのメカニズムについて考える	自らの経験と記憶研究の成果との類似点と相違点をまとめてみる
第6回	共感覚	共感覚という不思議な現象について考える	共感覚についてまとめてみる
第7回	音感	絶対音感と相対音感の違いを学ぶ	絶対音感と相対音感の違いについてまとめてみる
第8回	絶対音感の研究例	絶対音感に関する具体的な研究事例を学ぶ	第6回から第8回の内容から、自分の感覚とは異なる感覚を持っている人がいることを考察してみる
第9回	やる気について その1	音楽をなぜ学ぶのかをやる気という観点から考える	自分が音楽を教えるという立場に立った時に学習者のやる気をどのようにコントロールするか考えをまとめてみる
第10回	やる気について その2	音楽をなぜ学ぶのかをやる気という観点から考える	同上
第11回	やる気について その3	やる気についての具体的な研究事例を学ぶ	同上
第12回	やる気について その4	やる気についての具体的な研究事例を学ぶ	同上
第13回	演奏者の動きについて	演奏者の動きと聴取者が受ける印象との関係について考える	自分が演奏している姿を動画撮影して、その動きについて分析してみる
第14回	まとめ その1	これまでの授業の重要なポイントを振り返る	
第15回	まとめ その2	これまでの授業の重要なポイントを振り返り、自分なりにまとめる作業をする	学んだことを確認し、実践してみる。

科目名(クラス)	音楽心理学B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1~4
担当教員	徳富 政樹	履修対象・条件	音楽療法専攻はAとのいずれか必修				

【授業の「概要」と「目的」】

音楽の歴史や演奏技術、思想などを学ぶ機会はたくさんあると思いますが、科学的に音楽を検証するという機会はあまりないことと思います。この授業では心理学の観点から音楽について考察をしていき、皆さんの知っている音楽を違う側面から見てもらおうと思います。できるだけ最新の研究を取り上げて、わかりやすく解説していきます。後期の授業では自分の性格と音楽との関連についても考察してもらおうのがメインとなります。

【授業の「方法」と「形式」】

基本的に講義形式です。

【履修時の「留意点」と「心得」】

この授業では板書をたくさんするのできちんとノートをとる必要があります。ただ書き写すだけでなく自分なりの説明を加えてわかりやすいノートを作成するようにしてください。当たり前のことですが、遅刻、無断早退、私語は厳禁です。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	音は心のなかで音楽になるー音楽心理学への招	著者等	谷口高士	出版社	北大路書房
参考文献	音の世界の心理学	著者等	重野純	出版社	ナカニシヤ出版

【成績評価の「方法」と「基準」】

(380文字以内)

レポート(70点)+授業への取り組み方(授業終了後の小レポートも含む)(30点)で成績評価を行います。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	心理テスト実習 その1	質問紙法という心理テストを体験する	
第2回	心理テスト実習 その2	質問紙法での心理テストの結果について考察する	テスト結果について自分なりの解釈をまとめてみる
第3回	音楽の聴取 その1	音楽の聴取に関する具体的な実験事例を学ぶ	音楽を用いた苦痛鎮静効果の実験についてまとめてみる

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	音楽の聴取 その2	音楽の聴取に関する具体的な実験事例を学ぶ	音楽と性格との関連について考察してみる
第5回	音楽の聴取 その3	音楽の聴取に関する具体的な実験事例を学ぶ	どのように実験が行われ、どのような結果がそこから得られたのか自分なりにまとめてみる
第6回	心理テスト実習 その3	投影法という心理テストを体験する	投影法の特徴をまとめてみる
第7回	心理テスト実習 その4	投影法という心理テストの結果について考察する	テスト結果について自分なりの解釈をまとめてみる
第8回	錯聴について	耳の錯覚について考える	自分の体験と客観的事実の間に相違がある可能性がある点について考察してみる
第9回	ビッグファイブ理論について その1	音楽と性格との関係性について考える	性格について様々な考え方があるので、それらを自分なりの言葉でまとめてみる
第10回	ビッグファイブ理論について その2	同上	同上
第11回	ビッグファイブ理論について その3	同上	同上
第12回	ビッグファイブ理論について その4	同上	同上
第13回	レポートの準備作業	これまでの学習内容をまとめるための作業を行う	
第14回	自己実現について	なぜ音楽を学ぶのか、演奏するのか、その最終目標を考える	あらかじめ自分がなぜ音楽を学んでいるのかを考えておく
第15回	まとめ	これまでの授業の重要なポイントを振り返る	学んだことを確認し、実践してみる。

科目名(クラス)	作品研究〔鍵盤〕A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	遠山 菜穂美	履修対象・条件	演奏家コースは履修不可				

【授業の「概要」と「目的」】

フランスのピアノ音楽をテーマに、作曲家と作品について深く学びます。楽曲分析によって音楽の特徴を理解する一方、同時代の文化・芸術全般にも視野を広げて探求していきます。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式。

【履修時の「留意点」と「心得」】

楽曲分析に備えて、音楽理論の基礎を理解しておくこと。
作品研究〔鍵盤〕Bと合わせて履修することが望ましいです。

教科書	なし	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業内評価(楽曲分析への取り組み等)60%、試験40%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	フランス・ピアノ音楽の楽しみ	フランスのピアノ音楽全体のイメージを音でつかむ。	日頃からフランスのピアノ音楽に親しむ。
第2回	フォーレのピアノ音楽① 《即興曲集》	フォーレのピアノ音楽の特徴を理解する。	同上
第3回	フォーレのピアノ曲② 《夜想曲集》《舟歌集》	同上	同上

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	フォーレのピアノ音楽③ 《主題と変奏》	フォーレのピアノ音楽の特徴を理解する。	フォーレのピアノ曲を弾いてみる。
第5回	フォーレのピアノ音楽④ 《パレード》	同上	同上
第6回	フォーレのピアノ音楽⑤ 《ピアノ五重奏曲第2番》	同上	同上
第7回	ラヴェルのピアノ音楽① 《古風なメヌエット》《水の戯れ》	ラヴェルのピアノ音楽の特徴を理解する。	ラヴェルのピアノ曲を弾いてみる。
第8回	ラヴェルのピアノ音楽② 《夜のガスパール》	同上	同上
第9回	ラヴェルのピアノ音楽③ 《クーブランの墓》	同上	同上
第10回	ラヴェルのピアノ音楽④ 《ピアノ三重奏曲》《ピアノ協奏曲ト長調》	同上	同上
第11回	ドビュッシーのピアノ音楽① 《ベルガマスク組曲》	ドビュッシーのピアノ音楽の特徴を理解する。	ドビュッシーのピアノ曲を弾いてみる。
第12回	ドビュッシーのピアノ音楽② 《版画》	同上	同上
第13回	ドビュッシーのピアノ音楽③ 《映像1・2集》《前奏曲集1・2集》	同上	同上
第14回	ドビュッシーのピアノ音楽④ 《練習曲集》	同上	同上
第15回	まとめ	授業で学んだことをもとに、フランス・ピアノ音楽の特徴を理解する。	授業で学んだことを演奏などの実践に生かす。

科目名(クラス)	作品研究〔鍵盤〕B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	遠山 菜穂美	履修対象・条件	演奏家コースは履修不可				

【授業の「概要」と「目的」】

フランスのピアノ音楽をテーマに、作曲家と作品について深く学びます。楽曲分析によって音楽の特徴を理解する一方、同時代の文化・芸術全般にも視野を広げて探求していきます。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式。

【履修時の「留意点」と「心得」】

楽曲分析に備えて、音楽理論の基礎を理解しておくこと。
作品研究〔鍵盤〕Aと合わせて履修することが望ましいです。

教科書	なし	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業内評価(楽曲分析への取り組み等)60%、試験40%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	フランス・ピアノ音楽の楽しみ	フランスのピアノ音楽全体のイメージを音でつかむ。	日頃からフランスのピアノ音楽に親しむ。
第2回	フランクと弟子たちのピアノ音楽 《前奏曲、コラールとフーガ》	フランクと弟子たちのピアノ音楽の特徴を理解する。	フランクと弟子たちのピアノ曲を弾いてみる。
第3回	シャブリエのピアノ音楽 《絵画的な小品集》	シャブリエのピアノ音楽の特徴を理解する。	シャブリエのピアノ曲を弾いてみる。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	サティのピアノ音楽① 《3つのジムノペディ》	サティのピアノ音楽の特徴を理解する。	サティのピアノ曲を弾いてみる。
第5回	サティのピアノ音楽② 《官僚的なソナチネ》	同上	同上
第6回	六人組のピアノ音楽① ミヨー《ブラジルの郷愁》	六人組のミヨーとプーランクのピアノ音楽の特徴を知る。	六人組のピアノ曲を弾いてみる。
第7回	六人組のピアノ音楽② ミヨー《スカラムーシュ》	同上	同上
第8回	六人組のピアノ音楽③ プーランク《3つの常動曲》	同上	同上
第9回	六人組のピアノ音楽④ プーランク《夜想曲集》《即興曲集》	同上	同上
第10回	六人組のピアノ音楽⑤ プーランク《田園のコンセール》	同上	同上
第11回	六人組のピアノ音楽⑥ プーランク《2台のピアノのための協奏曲》	同上	同上
第12回	六人組以後のピアノ音楽① メシアン《4つのリズムの練習曲》	メシアン、デュティユー等のピアノ音楽の特徴を理解する。	メシアン、デュティユー等のピアノ音楽に親しむ。
第13回	六人組以後のピアノ音楽② デュティユー《ピアノ・ソナタ》	同上	同上
第14回	六人組以後のピアノ音楽③ プーレーズ《ピアノ・ソナタ第2番》	同上	同上
第15回	まとめ	授業で学んだことをもとに、フランス・ピアノ音楽の特徴を理解する。	授業で学んだことを演奏などの実践に生かす。

科目名(クラス)	作品研究[管弦楽]A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1~4
担当教員	遠山 菜穂美	履修対象・条件	演奏家コースは履修不可				

【授業の「概要」と「目的」】

近代フランスのオーケストラ音楽をテーマに、作曲家と作品について深く学びます。楽曲分析によって音楽の特徴を理解する一方、同時代の文化・芸術全般にも視野を広げて探求していきます。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式。

【履修時の「留意点」と「心得」】

楽曲分析に備えて、音楽理論の基礎を理解しておくこと。
作品研究[管弦楽]Bと合わせて履修することが望ましいです。

教科書	なし	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業内評価(楽曲分析への取り組み等)60%、試験40%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	フランス・オーケストラ音楽の楽しみ	フランスのオーケストラ音楽全体のイメージを音でつかむ。	日頃からフランスのオーケストラ音楽に親しむ。
第2回	ドビュッシーのオーケストラ曲① 《牧神の午後への前奏曲》	ドビュッシーのオーケストラ曲の特徴を理解する。	ドビュッシーについて調べておく。
第3回	ドビュッシーのオーケストラ曲② 《牧神の午後への前奏曲》	同上	同上

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	ドビュッシーのオーケストラ曲③ 《牧神の午後への前奏曲》	同上	同上
第5回	ドビュッシーのオーケストラ曲④ 《海》	同上	同上
第6回	ドビュッシーのオーケストラ曲⑤ 《海》	同上	同上
第7回	ラヴェルのオーケストラ曲① 《亡き王女のためのパヴァーヌ》	ラヴェルのオーケストラ曲の特徴を理解する。	ラヴェルについて調べておく。
第8回	ラヴェルのオーケストラ曲② 《亡き王女のためのパヴァーヌ》	同上	同上
第9回	ラヴェルのオーケストラ曲③ 《スペイン狂詩曲》	同上	同上
第10回	ラヴェルのオーケストラ曲④ 《スペイン狂詩曲》	同上	同上
第11回	ラヴェルのオーケストラ曲⑤ 《クープリンの墓》	同上	同上
第12回	ラヴェルのオーケストラ曲⑥ 《クープリンの墓》	同上	同上
第13回	シャブリエのオーケストラ曲①	シャブリエのオーケストラ曲の特徴を理解する。	シャブリエについて調べておく。
第14回	シャブリエのオーケストラ曲①	同上	同上
第15回	まとめ	授業で学んだことをもとに、フランス・オーケストラ音楽の特徴を理解する。	授業で学んだことを演奏などの実践に生かす。

科目名(クラス)	作品研究[管弦楽]B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1~4
担当教員	遠山 菜穂美	履修対象・条件	演奏家コースは履修不可				

【授業の「概要」と「目的」】

20世紀のフランスの作曲家またはフランスで活動した作曲家のオーケストラ音楽をテーマに、作曲家と作品について深く学びます。楽曲分析によって音楽の特徴を理解する一方、同時代の文化・芸術全般にも視野を広げて探求していきます。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式。

【履修時の「留意点」と「心得」】

楽曲分析に備えて、音楽理論の基礎を理解しておくこと。
作品研究[管弦楽]Aと合わせて履修することが望ましいです。

教科書	なし	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業内評価(楽曲分析への取り組み等)60%、試験40%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	20世紀オーケストラ音楽の楽しみ	20世紀オーケストラ音楽のイメージを音でつかむ。	20世紀のオーケストラ作品を聴いてみる。
第2回	ストラヴィンスキーのオーケストラ曲① 《火の鳥》《ペトルーシュカ》	ストラヴィンスキーのオーケストラ曲の特徴を理解する。	ストラヴィンスキーについて調べておく。
第3回	ストラヴィンスキーのオーケストラ曲② 《春の祭典》	同上	同上

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	ストラヴィンスキーのオーケストラ曲③ 《春の祭典》	同上	同上
第5回	ストラヴィンスキーのオーケストラ曲④ 《プルチネッタ》	同上	同上
第6回	ストラヴィンスキーのオーケストラ曲⑤ 《プルチネッタ》	同上	同上
第7回	六人組のオーケストラ曲① ミヨー《世界の創造》	六人組それぞれのオーケストラ曲の特徴を理解する。	六人組について調べておく。
第8回	六人組のオーケストラ曲② オネゲル《パシフィック231》	同上	同上
第9回		同上	同上
第10回	六人組のオーケストラ曲④ プーランク《牝鹿》	同上	同上
第11回	六人組のオーケストラ曲⑤ プーランク《オーバード》	同上	同上
第12回	六人組のオーケストラ曲⑥ プーランク《2台のピアノのための協奏曲》	同上	同上
第13回		フランスと関わりの深いその他のオーケストラ音楽について知識を得る。	興味をもった作品について調べてみる。
第14回	20世紀のオーケストラ音楽(補遺)②	同上	同上
第15回		授業で学んだことをもとに、20世紀オーケストラ音楽の特徴を理解する。	授業で学んだことを演奏などの実践に生かす。

科目名(クラス)	作品研究[オペラ]A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	伊藤 制子	履修対象・条件	声楽演奏家コースは2年必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・オペラの起源から19世紀前半のイタリアオペラまでを扱います。
- ・それぞれの様式の相違、作曲家のスタイルなどを学び、著名な作品の鑑賞を通じて、オペラに親しみ、自分自身の演奏活動に役立てることを目的としています。

【授業の「方法」と「形式」】

- ・講義形式で、さまざまな作品の視聴を行います。またアンケートなど学生の意見をきく機会ももうけます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・講義中の私語、携帯電話の使用、長時間の居眠りは厳禁です。違反した場合は単位取得できないこともありますので、注意してください。講義のポイントは3つくらいに集約されますので、授業で繰り返し説明された事項を必ず覚えてください。

教科書	とくになし	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	講義中に紹介します	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・講義中の発言、アンケート、学習意欲など30%、定期試験(レポート)70%

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第1回	授業全体の説明と知識の習熟度をはかるためのアンケート調査		
第2回	オペラの誕生からモンテヴェルディまで	オペラの誕生、「オルフェオ」の内容について説明できる	講義できいた曲を再度視聴しておく
第3回	イタリアからフランスオペラへ：劇場の様子とラモーらのフランスオペラ	バロックオペラの中でも近年注目されているフランスオペラの特徴について説明できる	同上

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第4回	モーツァルトとその周辺	古典派時代のオペラの位置づけについて説明できる	同上
第5回	モーツァルトと古典派オペラ	モーツァルトの主要な作品の特徴を説明できる	同上
第6回	ペルゴレージ、チマローザ、	18世紀から19世紀初めにかけてオペラの流れを理解する	モーツァルト、モンテヴェルディなどの作品について見直し
第7回	ベルカントオペラとその歌唱スタイル	ベルカントオペラとは何か、その歌唱の特徴が何かを説明できる	ベルカントとは何かを調べておく
第8回	ベッリーニのオペラ	「ノルマ」「清教徒」などの主要作品について説明できる	講義できいた作品を再度視聴しておく
第9回	ドニゼッティのオペラ	「ルチア」「愛の妙薬」など主要なオペラの特徴について説明できる	同上
第10回	ベルカントオペラとマリア・カラス	マリアカラスの業績、さらに彼女とベルカントオペラ関連について説明できる	同上
第11回	ロッシーニのオペラ1	ロッシーニのオペラ全容とその特徴を時代背景とともに理解できる	同上
第12回	ロッシーニのオペラ2	「セビリヤの理髪師」「チェネントラ」など主要なオペラの特徴を説明できる	ベルカントオペラの特性について復習
第13回	オペラ劇場の運営と現代のオペラについて	世界のオペラハウスの現況を理解し、その特徴を説明できる	歌劇場の運営について調べておく
第14回	前期に学んだことの総括	オペラの誕生からベルカントオペラまでを説明できる	前期の内容を復習する
第15回	小テストおよび補足事項		

科目名(クラス)	作品研究オペラB	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	伊藤制子	履修対象・条件	声楽演奏家コースは2年必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・19世紀半ば以後から現代までのオペラを扱います。
- ・それぞれの様式の相違、作曲家のスタイルなどを学び、著名な作品の鑑賞を通じて、オペラに親しみ、自分自身の演奏活動に役立てることを目的としています。

【授業の「方法」と「形式」】

- ・講義形式で、さまざまな作品の視聴を行います。またアンケートなど学生の意見をきく機会ももうけます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・講義中の私語、携帯電話の使用、長時間の居眠りは厳禁です。違反した場合は単位取得できないこともありますので、注意してください。講義のポイントは3つくらいに集約されますので、授業で繰り返し説明された事項を必ず覚えてください。

教科書	とくになし	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	講義中に紹介します	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・講義中の発言、アンケート、学習意欲など30%、定期試験(レポート)70%

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第1回	授業全体の説明と知識の習熟度をはかるためのアンケート調査		
第2回	ヴェルディ1	ヴェルディの全体像を学び、その特徴を説明できる	ヴェルディの生涯について調べておく
第3回	ヴェルディ2	「椿姫」「アイダ」「マクベス」「ドン・カルロ」などの特徴を説明できる	講義できいた作品を再度視聴しておく

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第4回	ヴェリズモオペラ	「道化師」などのヴェリズモオペラの特徴を説明できる	同上
第5回	プッチーニ1	プッチーニ概要を学び、その作風について説明できる	プッチーニの生涯について調べておく
第6回	プッチーニ2	「蝶々夫人」「ラ・ボエーム」「トゥーランドット」などの特徴を説明できる	ヴェルディからプッチーニまでの知識の復習
第7回	オペラにおけるバレエの役割	オペラの中でバレエがどう使われてきたかを理解できる	バレエの簡単な歴史を調べておく
第8回	ロシアオペラ、フランスオペラとその様式	チャイコフスキー、ビゼーらのオペラの特徴について説明できる	講義できいた作品を再度視聴しておく
第9回	ブリテンとイギリスオペラ	「ピーター・グライムズ」などについて、その様式を説明できる	同上
第10回	リヒャルト・シュトラウスのオペラ	「ばらの騎士」「サロメ」などの様式について説明できる	同上
第11回	現代の主要な歌手の歌唱比較	現代活躍中の歌手について知り、その特徴を説明できる	
第12回	ベルクのオペラ	無調、12音技法などを理解し、ベルクの主要作品について説明できる	ヴェルディからベルクまでのオペラの流れを復習
第13回	現代のオペラ新作と新演出	世界のオペラハウスの現況を理解し、その特徴を説明できる	講義でとりあげた劇場について復習
第14回	後期に学んだことの総括	オペラの誕生から20世紀までに流れを説明できる	これまでとりあげた作品を復習
第15回	小テストおよび補足事項		

科目名(クラス)	作品研究〔歌曲〕A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	伊藤 制子	履修対象・条件	声楽演奏家コースは3年必修				

【授業の「概要」と「目的」】

・前期は日本歌曲とフランス歌曲について学びます。主要なレパートリーについての知識を身につけ、それぞれの演奏に役立てること目的としています。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式ですが、講義中にアンケートなども行います。

【履修時の「留意点」と「心得」】

私語、携帯電話の使用、長時間の居眠りは厳禁です。違反した場合は単位取得ができない場合もありますので、注意してください。講義中に必ず覚えるようにと言われた事項はしっかり覚えてください。

教科書	とくになし	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	講義中に紹介します。	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業中のとりくみやアンケート、小テスト30%、レポート試験70%

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第1回	授業概要の説明と知識習熟度調査		
第2回	日本の近代の洋楽の黎明と滝廉太郎	日本で西洋音楽が入ってきた当時のことについて説明できる	唱歌について調べる
第3回	山田耕筰とその周辺1	山田耕筰の全体像について理解できる	山田耕筰の歌曲を視聴しておく

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第4回	山田耕筰とその周辺2	彼の童謡を中心とした歌曲について説明できる	同上
第5回	山田耕筰とその周辺3	彼の演奏会用の歌曲について説明できる	同上
第6回	小松耕輔、清水脩ほか	主要なレパートリーについて	山田耕筰の歌曲について基本事項を確認しておく
第7回	中田喜直、別宮貞夫、團生玖磨	日本で歌曲のレパートリーについて理解できる	講義で聴いた曲を確認しておく
第8回	20世紀後半の日本歌曲	林光、武満徹ほかの歌曲について理解できる	同上
第9回	フランス歌曲とその黎明期、フランス語の発音	初期のフランス歌曲やフランス語の特徴について説明できる	フランス語の発音を調べておく
第10回	フォーレの歌曲	フォーレの歌曲スタイルについて説明できる	フランス語の発音について復習
第11回	ドビュッシー、ラヴェルの歌曲	ドビュッシー、ラヴェルの歌曲について説明できる	講義で聞いた曲を再度視聴しておく
第12回	アーン、ショーソン、サンサーンス、デュパルク	現在主要なレパートリーになっている	同上
第13回	プーランク、メシアンらの歌曲	プーランクやメシアンの主な作品の特徴について説明できる	これまでのフランス歌曲の復習
第14回	現代のフランスの創作について	現代におけるフランス歌曲の位置について理解できる	
第15回	まとめと小テスト、補足		前期学んだことについて復習

科目名(クラス)	作品研究〔歌曲〕B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	伊藤 制子	履修対象・条件	声楽演奏家コースは3年必修				

【授業の「概要」と「目的」】

後期はドイツ歌曲とイタリア歌曲について学びます。それぞれの特徴や主なレパートリーを理解し、それぞれの演奏に役立てることを目的としています。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式ですが、講義中にアンケートなども行います。

【履修時の「留意点」と「心得」】

私語、携帯電話の使用、長時間の居眠りは厳禁です。違反した場合は単位取得ができない場合もありますので、注意してください。講義中に必ず覚えるようにと言われた事項はしっかり覚えてください。

教科書	とくになし	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	講義中に紹介します	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業中のとりくみやアンケート、小テスト30%、レポート試験70%

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第1回	授業概要の説明と知識習熟度調査		
第2回	ドイツ歌曲の起源	ドイツ歌曲の起源について理解できる	
第3回	シューベルト1	シューベルトの創作の概要について理解できる	

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第4回	シューベルト2	初期のレパートリー、「冬の旅」などの作品の特徴について説明できる	
第5回	シューマン	「詩人の恋」「女の愛と生涯」の特徴について理解できる	
第6回	ヴォルフ、ブラームス、マーラー	声楽つきオーケストラ歌曲も含め特徴を説明できる	
第7回	シュトラウス、ベルク	20世紀の前半の歌曲の現況について理解できる	これまで学んだ楽曲を復習しておく
第8回	ドイツ歌曲のまとめ	現代までの歌曲のレパートリーと歌手について理解できる	
第9回	イタリア歌曲の起源	イタリア歌曲の起源について説明できる	
第10回	19世紀前半のイタリア歌曲	ロッシーニ、ベッリーニ、ドニゼッティらの楽曲について理解できる	
第11回	ヴェルディ、プッチーニほか	オペラと歌曲の相違と共通点などを理解できる	
第12回	レオンパヴァッロ、マスカーニ	二人の作曲家の主要なレパートリーについて理解できる	
第13回	トスティ	トスティのレパートリーについて理解できる	
第14回	レスピーギ、チマーラ、ベリオほか	現在までのイタリア歌曲の現況を理解できる	トスティについて復習しておく
第15回	まとめと小テスト、補足		

科目名	作品研究〔様式学〕(演奏家コース) I・II	開講学期	随時	単位数	1
配当年次	全	担当教員	林千尋	履修対象・条件	演奏家コースのみ履修可・必修(声楽演奏家コースは選択)ウィーンキャンパスにて実施

【授業計画の概要】

優れた演奏家となる為には、「音楽的な響き」、それを支える「技術」、「音楽文法に基づく表現」と共に「様式学」の知識と感性も求められます。

目的) 各時代や場所に共通した演奏法、表現法の実際を検証し、各様式に属する作品の楽想、響き、表現の原点を知り、それを現代の自己の演奏にどう取り入れたら良いかを考える。

方法) 各様式別に歴史的な時代背景とその精神を探る。同時代のその地域の他の芸術との比較によりその感覚を理解し、当時の生活を垣間見る。それと同時に、同時代、同地域に共通する「記譜法の規則」、書かれていない「演奏上の約束」とその意図する事を知る事によって、知性と感覚の両面からアプローチする。更に現代の楽器との比較により現時点での演奏への裁量の生かし方を考察する。

【授業の「方法」と「形式」】

ウィーン研修時に実施(1・2年合同)

【授業計画の内容】

月	内容
9	バロック、古典、ロマン派、印象派とその時代から近現代に至るまでの様式学の基礎。
3	様式学の歴史的演奏法の文献にも参考にしながら、作品例を基に実際の演奏と様式学がどう結び付くか、又はその事がいかに大切であるかを考察する。

【成績評価の方法】

学習した内容をまとめたレポート等により評価する。
予備知識として過去300年間の世界史と芸術史を簡単に予習しておく事が望ましい。

科目名(クラス)	合唱 I A (女声)(混声)	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	荻久保和明	履修対象・条件	全専攻選択必修				

【授業の「概要」と「目的」】

合唱という音楽表現形態の中で音楽する喜びを追求する。正しいヴォイストレーニングによってハーモニーし得る声という楽器を作り、音取り、パート練習、アンサンブルという流れの中で合唱でなければ表現できない音楽的美しさを体験する。

【授業の「方法」と「形式」】

体操、ヴォイストレーニング、音取り、パート練習、アンサンブル、これにつきる

【履修時の「留意点」と「心得」】

・指揮者がひとた“表現する”というゾーンに入った時には異常な緊張をもって指揮をみること

教科書	木下牧子女声合唱曲集	著者等	木下牧子	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・合唱完成への努力目標達成度(40%)
- ・声作りの努力目標達成度(30%)
- ・アンサンブル能力の向上達成度(30%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	パート分け、体操の仕方、ヴォイストレーニングの方法	合唱するのに最も効果的な体操とヴォイストレーニングを必ずマスターすること	合唱のイメージをする
第2回	ヴォイストレーニングと音取り・アンサンブル	“おんがく”音取り	各自、できるだけ自分のパートを良く歌ってくること
第3回	”	“ロマンチストのぶた”音取り	”

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	〃	“さびしいカシの木”音取り	〃
第5回	〃	“めばえ”音取り	〃
第6回	〃	“いっしょに”音取り	〃
第7回	〃	“母の教え給いし歌”音取り	〃
第8回	ピアノとのアンサンブル	“おんがく”“ロマンチストのぶた”のアンサンブル	〃
第9回	〃	〃	〃
第10回	〃	“さびしいカシの木”“めばえ”のアンサンブル	〃
第11回	〃	〃	〃
第12回	〃	“いっしょに”“母の教え給いし歌”のアンサンブル	〃
第13回	〃	〃	〃
第14回	〃	全体のまとめアンサンブル	〃
第15回	まとめ	全体を通してみる	授業をふり返る

科目名(クラス)	合唱 I B (女声)(混声)	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	荻久保和明	履修対象・条件	全専攻選択必修				

【授業の「概要」と「目的」】

合唱 I・II A(前期)の練習を踏まえて定期演奏会での研究成果発表に臨む。つまり、合唱表現とは指揮者の内面にどれだけ大きく強い何かがあり、それを正しく歌う者に伝え、聞く者に届け、そこに感動という形で確かなものを実現することができるかということにつける。

【授業の「方法」と「形式」】

アンサンブルの精度をひたすら高め、ピアノ、エレクトーンとの共同作業を進めて行く

【履修時の「留意点」と「心得」】

・演奏会本番に向けて緊張感を高めて行く過程を、音楽の高みを目指すプロセスを楽しんで欲しい

教科書	木下牧子女声合唱曲集	著者等	木下牧子	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・ピアノ、エレクトーンとの共同作業達成度(30%)
- ・表現のための声作り達成度(30%)
- ・演奏会へ向けて合唱完成への達成度(40%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	ヴォイストレーニングとピアノ器楽との総合アンサンブル	“おんがく”“ロマンチストのふた”“さびしいカシの木”の部分練習、仕上げ	各自で自分のパートを良く覚えてくること
第2回	”	”	”
第3回	”	”	”

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	〃	“めばえ”“いっしょに”“母の教え給いし歌”の部分練習、仕上げ	〃
第5回	〃	〃	〃
第6回	〃	〃	〃
第7回	〃	暗譜での合唱音楽完成を目指す	〃
第8回	〃	〃	〃
第9回	〃	〃	〃
第10回	定期演奏会での発表	特別な表現を目指して、本物の感動を共有しよう	発表をふり返る
第11回	反省会	1人1人感想を述べてもらう	〃
第12回	次年度に向けての練習	ヴォイストレーニング、音取り、パート練習、アンサンブルの初歩的な確認	各自、自分のパートを良く歌ってくる
第13回	〃	〃	〃
第14回	〃	〃	〃
第15回	まとめ	〃	授業をふり返る

科目名(クラス)	合唱ⅡA (女声)(混声)	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	荻久保和明	履修対象・条件	全専攻選択必修				

【授業の「概要」と「目的」】

合唱という音楽表現形態の中で音楽する喜びを追求する。正しいヴォイストレーニングによってハーモニーし得る声という楽器を作り、音取り、パート練習、アンサンブルという流れの中で合唱でなければ表現できない音楽的美しさを体験する。

【授業の「方法」と「形式」】

体操、ヴォイストレーニング、音取り、パート練習、アンサンブル、これにつきる

【履修時の「留意点」と「心得」】

・指揮者がひとた“表現する”というゾーンに入った時には異常な緊張をもって指揮をみること

教科書	モーツァルト レクイエム	著者等	別宮貞雄	出版社	全音楽譜出版社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・合唱完成への努力目標達成度(40%)
- ・声作りの努力目標達成度(30%)
- ・アンサンブル能力の向上達成度(30%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	パート分け、体操の仕方、ヴォイストレーニングの方法	合唱するのに最も効果的な体操とヴォイストレーニングを必ずマスターすること	合唱に対するイメージをする
第2回	ヴォイストレーニングと音取り・アンサンブル	“イントロワ”“キリエ”の音取り	各自、できるだけ自分のパートを良く歌ってくること
第3回	”	”	”

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	〃	“サンクトゥス”音取り	〃
第5回	〃	〃	〃
第6回	〃	“アーニユス. デイ”音取り	〃
第7回	〃	〃	〃
第8回	〃	“リベラ・メ”音取り	〃
第9回	〃	〃	〃
第10回	ピアノとのアンサンブル	“イントロフ”“キリエ”のアンサンブル	〃
第11回	〃	“サンクトゥス”のアンサンブル	〃
第12回	〃	“アーニユス. デイ”のアンサンブル	〃
第13回	〃	“リベラ・メ”のアンサンブル	〃
第14回	〃	全体のまとめアンサンブル	〃
第15回	まとめ	全体を通してみる	授業をふり返る

科目名(クラス)	合唱ⅡB (女声)(混声)	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	荻久保和明	履修対象・条件	全専攻選択必修				

【授業の「概要」と「目的」】

合唱Ⅰ・ⅡA(前期)の練習を踏まえて定期演奏会での研究成果発表に臨む。つまり、合唱表現とは指揮者の内面にどれだけ大きく強い何かがあり、それを正しく歌う者に伝え、聞く者に届け、そこに感動という形で確かなものを実現することができるかということにつくる。

【授業の「方法」と「形式」】

アンサンブルの精度をひたすら高め、ピアノ、エレクトーンとの共同作業を進めて行く

【履修時の「留意点」と「心得」】

・演奏会本番に向けて緊張感を高めて行く過程を、音楽の高みを目指すプロセスを楽しんで欲しい

教科書	モーツァルト レクイエム	著者等	別宮貞雄	出版社	全音楽譜出版社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・ピアノ、エレクトーンとの共同作業達成度(30%)
- ・表現のための声作り達成度(30%)
- ・演奏会へ向けて合唱完成への達成度(40%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	ヴォイストレーニング+ピアノ 器楽との総合アンサンブル	“イントロワ”“キリエ”“サンワ トウス”の部分練習と仕上げ	各自で自分のパートを良く覚えて てくること
第2回	”	”	”
第3回	”	”	”

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	〃	“アーニユス・デイ”“リベラ・メ” の部分練習と仕上げ	〃
第5回	〃	〃	〃
第6回	〃	〃	〃
第7回	〃	暗譜での合唱音楽完成を目指す	〃
第8回	〃	〃	〃
第9回	〃	〃	〃
第10回	定期演奏会での発表	特別な表現を目指して、本物の 感動を共有しよう	発表をふり返る
第11回	反省会	1人1人感想を述べてもらう	〃
第12回	次年度に向けての練習	ヴォイストレーニング、音取り、 パート練習、アンサンブルの初 歩的な確認	各自、自分のパートを良く歌っ てくること
第13回	〃	〃	〃
第14回	〃	〃	〃
第15回	まとめ	〃	授業をふり返る

科目名(クラス)	合唱ⅢA(日本の伝統的な歌唱を含む)	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	3
担当教員	粕谷 宏美	履修対象・条件	全専攻必修				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・民謡をもとに作曲された合唱曲に取り組み、日本の伝統的な歌唱についての理解を深めます。
- ・アンサンブルや表現力の向上を目指し、一人ひとりの歌唱力の向上を追求します。
- ・小人数サンサンブルに取り組み、演奏の質の向上を図ります。

【授業の「方法」と「形式」】

- ・11月の定期演奏会に向けて、合唱団としての練習を進めます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・一つの合唱団に参加するという意識をもって主体的に参加してください。
- ・遅刻、私語、無気力など、他人の迷惑となる行為は厳禁します。

教科書	使用楽譜は授業中の指示に基づいて購入。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	必要に応じて配付します。	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・授業への取り組みの姿勢を評価します。(関心・意欲・態度)
- ・小アンサンブルの発表を評価の参考にします。(中間評価)
- ・鑑賞レポート等の提出及びその内容で評価することがあります。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	定期演奏会に向けてのパート分け及び今後の授業方針	パートバランスのよい合唱団を編成する。	自分の声域を考えて、適切なパートを考えておく。
第2回	定期演奏会に向けてのパート分け及び楽曲練習	常により質の高いアンサンブルに向けて全力を尽くす	所属パートの個人練習
第3回	定期演奏会に向けてのパート分け及び楽曲練習	常により質の高いアンサンブルに向けて全力を尽くす	所属パートの個人練習

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	定期演奏会に向けての楽曲練習	常により質の高いアンサンブルに向けて全力を尽くす	所属パートの個人練習
第5回	定期演奏会に向けての楽曲練習	常により質の高いアンサンブルに向けて全力を尽くす	所属パートの個人練習
第6回	定期演奏会に向けての楽曲練習	常により質の高いアンサンブルに向けて全力を尽くす	所属パートの個人練習
第7回	定期演奏会に向けての楽曲練習	常により質の高いアンサンブルに向けて全力を尽くす	所属パートの個人練習
第8回	定期演奏会に向けての楽曲練習	常により質の高いアンサンブルに向けて全力を尽くす	所属パートの個人練習
第9回	定期演奏会に向けての楽曲練習	常により質の高いアンサンブルに向けて全力を尽くす	所属パートの個人練習
第10回	定期演奏会に向けての楽曲練習	常により質の高いアンサンブルに向けて全力を尽くす	所属パートの個人練習
第11回	定期演奏会に向けての楽曲練習	常により質の高いアンサンブルに向けて全力を尽くす	所属パートの個人練習
第12回	定期演奏会に向けての楽曲練習	常により質の高いアンサンブルに向けて全力を尽くす	所属パートの個人練習
第13回	定期演奏会に向けての楽曲練習	常により質の高いアンサンブルに向けて全力を尽くす	所属パートの個人練習
第14回	定期演奏会に向けての楽曲練習	常により質の高いアンサンブルに向けて全力を尽くす	所属パートの個人練習
第15回	既習楽曲の小編成アンサンブル発表(中間)	常により質の高いアンサンブルに向けて全力を尽くす	所属パートの個人練習

科目名(クラス)	合唱ⅢB(日本の伝統的な歌唱を含む)	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	3
担当教員	粕谷 宏美	履修対象・条件	全専攻必修				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・民謡をもとに作曲された合唱曲を取り上げて、日本の伝統的な歌唱についての理解を深めます。
- ・アンサンブルや表現力の向上を目指し、一人ひとりの歌唱力の向上を追求します。
- ・小人数アンサンブルに取り組み、演奏の質の向上を図ります。

【授業の「方法」と「形式」】

- ・11月の定期演奏会に向けて、合唱団としての練習を進めます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・一つの合唱団に参加するという意識をもって主体的に参加してください。
- ・遅刻、私語、無気力など、他人の迷惑となる行為は厳禁します。

教科書	合唱ⅢAでの使用楽譜	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・授業への取り組みの姿勢を評価します。(関心・意欲・態度)
- ・小アンサンブルの発表を評価の参考にします。(中間評価)
- ・鑑賞レポート等の提出及びその内容で評価することがあります。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	定期演奏会に向けての楽曲練習(演出を含む)	常により質の高いアンサンブルに向けて全力を尽くす	各個人の歌唱力、表現力の向上を図る。
第2回	定期演奏会に向けての楽曲練習(演出を含む)	常により質の高いアンサンブルに向けて全力を尽くす	各個人の歌唱力、表現力の向上を図る。
第3回	定期演奏会に向けての楽曲練習(演出を含む)	常により質の高いアンサンブルに向けて全力を尽くす	各個人の歌唱力、表現力の向上を図る。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	定期演奏会に向けての楽曲練習(演出を含む)	常により質の高いアンサンブルに向けて全力を尽くす	各個人の歌唱力、表現力の向上を図る。
第5回	定期演奏会に向けての楽曲練習(演出を含む)	常により質の高いアンサンブルに向けて全力を尽くす	各個人の歌唱力、表現力の向上を図る。
第6回	定期演奏会に向けての楽曲練習(演出を含む)	常により質の高いアンサンブルに向けて全力を尽くす	各個人の歌唱力、表現力の向上を図る。
第7回	定期演奏会に向けての楽曲練習(演出を含む)	常により質の高いアンサンブルに向けて全力を尽くす	各個人の歌唱力、表現力の向上を図る。
第8回	定期演奏会に向けての楽曲練習(演出を含む)	常により質の高いアンサンブルに向けて全力を尽くす	各個人の歌唱力、表現力の向上を図る。
第9回	定期演奏会に向けての楽曲練習(演出を含む)	常により質の高いアンサンブルに向けて全力を尽くす	各個人の歌唱力、表現力の向上を図る。
第10回	日本の伝統的な歌唱についての研究発表と演習	演習を通して伝統音楽への理解を深めます。	事前に伝統音楽の歌唱法について理解しておく。
第11回	翌年度の入学式での演奏作品の練習	常により質の高いアンサンブルに向けて全力を尽くす	各個人の歌唱力、表現力の向上を図る。
第12回	翌年度の入学式での演奏作品の練習	常により質の高いアンサンブルに向けて全力を尽くす	各個人の歌唱力、表現力の向上を図る。
第13回	翌年度の入学式での演奏作品の練習	常により質の高いアンサンブルに向けて全力を尽くす	各個人の歌唱力、表現力の向上を図る。
第14回	翌年度の入学式での演奏作品の練習	常により質の高いアンサンブルに向けて全力を尽くす	各個人の歌唱力、表現力の向上を図る。
第15回	翌年度の入学式での演奏作品の練習	常により質の高いアンサンブルに向けて全力を尽くす	各個人の歌唱力、表現力の向上を図る。

科目名(クラス)	合唱ⅣA(日本の伝統的歌唱を含む)	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	4
担当教員	藤井 宏樹	履修対象・条件	全専攻必修				

【授業の「概要」と「目的」】

卒業演奏、定期演奏会を最終的な目的としてより豊かな合唱音楽を4年生らしく実現し、日本の伝統的な文化への視座も深く広げて行く。

【授業の「方法」と「形式」】

合唱演奏の実演、実践、リハーサル。

【履修時の「留意点」と「心得」】

互いに協力し、共同の心を持って質の高い演奏を実現出来る様努力する事。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

成績評価は授業取り組みと積極的な姿勢を総合的に見て行く。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	卒業演奏、定期演奏会の為の楽曲練習	より優れた表現、より優れたアンサンブル	パート譜の個人練習
第2回	〃	〃	〃
第3回	〃	〃	〃

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	〃	〃	
第5回	〃	〃	〃
第6回	〃	〃	〃
第7回	〃	〃	〃
第8回	〃	〃	〃
第9回	〃	〃	〃
第10回	〃	〃	〃
第11回	〃	〃	
第12回	〃	〃	〃
第13回	〃	〃	〃
第14回	〃	〃	〃
第15回	まとめ		

科目名(クラス)	合唱ⅣB(日本の伝統的歌唱を含む)	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	4
担当教員	藤井 宏樹	履修対象・条件	全専攻必修				

【授業の「概要」と「目的」】

卒業演奏、定期演奏会等、4年次の最終、総合的な音楽演奏の実現を目的とする。
多様な合唱芸術を特に日本という視点に立ち理解、表現する。

【授業の「方法」と「形式」】

合唱演奏の実演等

【履修時の「留意点」と「心得」】

互いに協力し、共同の心を持って質の高い演奏を実現出来る様努力する事。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

成績評価は授業取り組みと積極的な姿勢を総合的に見て行く。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	卒業演奏、定期演奏会の為の楽曲練習	より優れた表現、より優れたアンサンブル	パート譜の個人練習
第2回	〃	〃	〃
第3回	〃	〃	〃

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	〃	〃	〃
第5回	〃	〃	〃
第6回	〃	〃	〃
第7回	〃	〃	〃
第8回	〃	〃	〃
第9回	〃	〃	〃
第10回	〃	〃	〃
第11回	〃	〃	〃
第12回	〃	〃	〃
第13回	〃	〃	〃
第14回	〃	〃	〃
第15回	まとめ		

科目名(クラス)	室内楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・ⅣA-a[弦楽器]	開講学期	前期	単位数	各1	配当年次	1~4
担当教員	白井 英治	履修対象・条件	ピアノと声楽の演奏家・教職特設コースは履修不可。音楽療法とメディアデザインはⅠ・Ⅱのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の「概要」と「目的」】

室内楽を勉強する事により、技術的にも精神的にもより広く音楽的素養を深めていく事を、目的とします。
 弦楽器奏者にとって、室内楽は欠かせない分野であり、ソロやオーケストラを演奏する際の基本は、室内楽にあります。
 前期はまず室内楽の説明やアンサンブルの基本をお話してから、バロック・古典派そしてベートーベンまで、音楽形式の移り変わりを辿りながら、演奏方法の基本を勉強していきます。
 一人では経験できない充実した感動を得る為に、音楽を通して、コミュニケーションしていく課程に興味を持ってもらいたい。

【授業の「方法」と「形式」】

実際に弦楽合奏の形式で演じて、勉強します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

注意事項をすぐ記入して欲しいので4Bの鉛筆(又はそれに代わる物)と消しゴムは必ず用意して下さい。
 あらかじめ配布するテキストの予習をしておくこと。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

アンサンブルに対する理解や能力により評価します。レポート提出を課します。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	受講生の確認と室内楽授業の進め方を説明。必要な係を決める。	左記内容を把握する。	シラバスを基に授業をイメージする
第2回	ハーモニーの実習	和音を美しく響かせられる要素を知る。	ハーモニーの復習をする
第3回	リズムの実習	様々なリズムに対する理解と演奏方法	リズムに対する復習をする

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	バロックの室内楽Ⅰ (ヘンリー・パーセル, コレルリ)	左記音楽の理解と演奏方法	楽譜を渡すので練習をしておくこと。
第5回	バロックの室内楽Ⅱ (ヴィヴァルディ, バッハ)	左記音楽の理解と演奏方法	同上
第6回	バロックの室内楽Ⅲ (エマヌエル・バッハ)	バロックから古典派へ移っていく時代の音楽を知る。	同上
第7回	古典派の室内楽Ⅰ (ハイドン)	ハイドン前期から中期の弦楽四重奏曲を知る。	同上
第8回	古典派の室内楽Ⅱ (ハイドン)	ハイドン後期の弦楽四重奏曲を知る。	同上
第9回	古典派の室内楽Ⅲ (モーツァルト)	モーツァルト中期までの弦楽四重奏曲を知る。	同上
第10回	古典派の室内楽Ⅳ (モーツァルト)	モーツァルトのハイドンセットカルテット以降の作品を知る。	同上
第11回	ベートーベンの弦楽四重奏曲Ⅰ (Op.18の1)	弦楽四重奏曲ひとつの頂点であるベートーベンのカルテとを前・中・後期に分けて勉強する。	同上
第12回	ベートーベンの弦楽四重奏曲Ⅱ (Op.18の4)	同上	同上
第13回	ベートーベンの弦楽四重奏曲Ⅲ (ラズモフスキー第1番)	同上	同上
第14回	ベートーベンの弦楽四重奏曲Ⅳ (ラズモフスキー第1番)	同上	同上
第15回	ベートーベンの弦楽四重奏曲Ⅴ (Op.132)	同上	同上

科目名(クラス)	室内楽 I・II・III・IVB-a[弦楽器]	開講学期	後期	単位数	各1	配当年次	1~4
担当教員	白井 英治	履修対象・条件	ピアノと声楽の演奏家・教職特設コースは履修不可。音楽療法とメディアデザインはI・IIのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の「概要」と「目的」】

前期に勉強した室内楽を基本に、ベートーベン以降の室内楽を取りあげて勉強していきます。様々な音楽や現代の室内楽を知る事により、より幅広い演奏に結びつけられる事を目的とします。

【授業の「方法」と「形式」】

基本的に弦楽合奏で行いますが、少人数で交代にする事もあります。

【履修時の「留意点」と「心得」】

筆記用具を必ず用意してください。あらかじめ配布したテキストの予習をしておくこと。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

アンサンブルに対する理解や能力により評価します。レポート提出を課します。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	ドイツロマン派の音楽 I シューベルトの室内楽	左記音楽の理解と演奏法を学ぶ	楽譜を渡すので練習をしておくこと。
第2回	ドイツロマン派の音楽 II メンデルスゾーンの室内楽	同上	同上
第3回	ドイツロマン派の音楽 III シューマンの室内楽	同上	同上

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	ドイツロマン派の音楽Ⅲ ブラームスの室内楽	左記音楽の理解と演奏法を学ぶ	楽譜を渡すので練習をしておくこと。
第5回	チェコの音楽Ⅰ スメタナの室内楽	同上	同上
第6回	チェコの音楽Ⅱ ドヴォルザークの室内楽	同上	同上
第7回	イギリスの音楽Ⅰ エルガーの室内楽	同上	同上
第8回	イギリスの音楽Ⅱ ブリテン	同上	同上
第9回	フランスの音楽Ⅰ フォーレ・サンサーンスの室内楽	同上	同上
第10回	フランスの音楽Ⅱ ラヴェル・ドビュッシーの室内楽	同上	同上
第11回	ハンガリーの音楽 コダーイ・バルトークの室内楽	同上	同上
第12回	ロシアの音楽 チャイコフスキーの室内楽	同上	同上
第13回	ソビエトの音楽 プロコフィエフ、ショスタコーヴィチの室内楽	同上	同上
第14回	12音技法による音楽 シェーンベルク・ウェーベルとの室内楽	同上	同上
第15回	ウォルトンの室内楽 (2つの弦楽の為のソナタ)	同上	同上

科目名(クラス)	室内楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・ⅣA-b[フルート]	開講学期	前期	単位数	各1	配当年次	1~4
担当教員	岩間 丈正	履修対象・条件	ピアノと声楽の演奏家・教職特設コースは履修不可。音楽療法とメディアデザインはⅠ・Ⅱのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				
【授業の「概要」と「目的」】							

主に小編成のアンサンブルを中心に、アンサンブルの基本を習得する。
 特殊フルートが含まれるフルートアンサンブルも行う。
 最後の授業で各アンサンブルの発表を行う。将来フルートオーケストラで演奏するための基礎を習得するので、出来れば室内楽B-c[フルート](後期開講)と合わせて履修する事を勧める。

【授業の「方法」と「形式」】							
アンサンブル形式							
【履修時の「留意点」と「心得」】							

欠席、遅刻厳禁。各自が全体の一員である事を自覚し、必ず事前練習をして授業に臨む事。
 音源が入手できる曲は授業前に必ず聴いておく事。

教科書	教員側で準備する	著者等		出版社	
教科書	教員側で準備する	著者等		出版社	
参考文献	教員側で準備する	著者等		出版社	
参考文献	教員側で準備する	著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】							
授業への積極的な参加、アンサンブル能力、事前練習、合奏に対する意欲等を考慮して成績とする。							

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】							
回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)				
第1回	東邦祭練習。	東邦祭に向けて合奏練習。	各自事前練習の徹底。				
第2回	東邦祭練習。	東邦祭に向けて仕上げ。	各自個人練習の徹底。				
第3回	アンサンブル組み分け及び曲決め。	組み分けの決定。	演奏希望曲を事前に確認する。				

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回	小編成のアンサンブルをいくつかのグループに分かれて行う。ウインドオーケストラの音楽教室等の公欠により、授業計画が変更になる場合がある。	アンサンブル能力の基本を身につける。	各自個人練習及び各グループの自主練習の徹底。
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回	各グループごとに授業内で発表する。	音程、リズム、タイミングをしっかりと合わせる。	アンサンブル能力の確認。

科目名(クラス)	室内楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・ⅣB-b[フルート]	開講学期	後期	単位数	各1	配当年次	1~4
担当教員	岩間 丈正	履修対象・条件	ピアノと声楽の演奏家・教職特設コースは履修不可。音楽療法とメディアデザインはⅠ・Ⅱのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の「概要」と「目的」】

この授業の形態はフルートオーケストラである。
 卒業までに全員がピッコロをはじめ、全ての特殊フルートを経験し、卒業後の演奏活動に役立たせることを目標とする。
 普通のフルートでは味わえない音の世界を体験すると同時に合奏力を身につける。
 室内楽A-c[フルート]-cの応用編として授業を進めるので、出来れば室内楽A[フルート](前期開講)と合わせて履修する事を勧める。
 12月の室内楽発表演奏会を目標とする。

【授業の「方法」と「形式」】

合奏形式。

【履修時の「留意点」と「心得」】

欠席、遅刻厳禁。各自が全体の一員である事を自覚し、必ず事前練習をして授業に臨む事。
 音源が入手できる曲は授業前に必ず聴いておく事。

教科書	教員側で準備する	著者等		出版社	
教科書	教員側で準備する	著者等		出版社	
参考文献	教員側で準備する	著者等		出版社	
参考文献	教員側で準備する	著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への積極的な参加、アンサンブル能力、事前練習、合奏に対する意欲等を考慮して成績とする。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	編成の大きい作品やオーケストラの編曲作品を体験する。	アンサンブル能力を身につける。全ての特殊フルートに精通する。	各自個人練習の徹底。
第2回			
第3回			

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)	
第4回	室内楽研究発表演奏会に向けての練習。	アンサンブル能力を身につける。全ての特殊フルートに精通する。	各自個人練習の徹底。	
第5回				
第6回				
第7回				
第8回				
第9回				
第10回				
第11回				室内楽研究発表演奏会で演奏する。
第12回				※授業で取り上げる曲は学生のレベルを見て教員が決定する。選曲には、もちろん学生からの意見、希望も取り入れるので、履修する学生は希望する曲を事前に調べ、教員に伝達する事。ボランティア演奏等の依頼があった場合は演奏会にふさわしい曲を別途選曲し演奏する。
第13回				
第14回				
第15回	まとめ。	特殊フルートの演奏方法の習得。	アンサンブル能力の確認。	

科目名(クラス)	室内楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・ⅣA-c [クラリネット]	開講学期	前期	単位数	各 1	配当年次	1~4
担当教員	松尾 賢一郎	履修対象・条件	ピアノと声楽の演奏家・教職特設コースは履修不可。音楽療法とメディアデザインはⅠ・Ⅱのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の「概要」と「目的」】

導入には比較的優しい楽曲を取り上げ、3段階に分けてDuo作品に取り組みます。音程感、バランス感を覚えながら相手の旋律を生かす伴奏技術も習得していきます。また、移調楽器である故に必要な読み替えのトレーニングも行います。

【授業の「方法」と「形式」】

初期段階では任意のペアを、後半では固定のペアを作り、聴講形式でレッスンを行っていきます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

与えられた楽曲は責任を持って練習してきてください。

教科書	Ludwig Wiedemann/Klarinetten-Studien Heft 2,3	著者等		出版社	Breitkopf
教科書	Francois Devienne/Duo concertant No.1	著者等		出版社	Doblinger
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

室内楽発表会を行い、授業時の譜読みや積極性を平常点(50%)とし、室内楽発表会での演奏(50%)と総合して評価します。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	Mozart/Kegelduette Nr.2と5を使い初見力をみると同時に、読替えのトレーニングを行う。	初見と読替えのノウハウを習得し、応用できるようにする。	この回の授業で学んだことは今後必要不可欠になるため、同曲の他の曲でも応用すること。
第2回	Mozart/Kegelduette Nr.2, 4, 5の学習。	音程とバランスの取り方の基本を学ぶ。	原則1年生は2ndパートを、2年生以上は1stパートを十分に練習してくること。
第3回	Wiedemann/Klarinetten-Studien Heft 2の学習。Nr.13,14,15を取り上げる。	様々なアンサンブル力を身に付ける。	全学年、1st, 2nd共に充分練習してくること。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	第3回の2回目	レッスンを通し完成度を上げる。	上記と同様。
第5回	Beethoven/String Quintet Op.4を使って読替えのトレーニングを行う。	ヘ音記号とハ音記号の読み替え方法を習得し、応用できるようにする。	この回の授業で学んだことは今後必要不可欠になるため、同曲の他の曲でも応用すること。
第6回	Devienne/Duo concertant No.1の学習。	固定のペアを組み室内楽発表会に向けて準備する。	事前に譜読みは勿論のこと、合わせを行うこと。
第7回	第2回の2回目	レッスンを通し完成度を上げる。	事前に譜読みは勿論のこと、合わせを行うこと。
第8回	Wiedemann/Klarinetten-Studien Heft 3の学習。Nr.32,33,34を取り上げる。	様々なアンサンブル力を身に付ける。	全学年、1st、2nd共に充分練習してくること。
第9回	第8回の2回目	レッスンを通し完成度を上げる。	事前に譜読みは勿論のこと、合わせを行うこと。
第10回	第3回の3回目	室内楽発表会を想定して既に完成されたアンサンブルができること。	〃
第11回	第6回の2回目	レッスンを通し完成度を上げる。	事前に譜読みは勿論のこと、合わせを行うこと。
第12回	第8回の3回目	室内楽発表会を想定して既に完成されたアンサンブルができること。	〃
第13回	第2回の3回目	室内楽発表会を想定して既に完成されたアンサンブルができること。	〃
第14回	第6回の3回目	室内楽発表会を想定して既に完成されたアンサンブルができること。	〃
第15回	室内楽発表会(Duoのタベ)	実際に演奏会を経験し、お客様の前で演奏することの喜びと責任を実感してほしい。	発表を振り返る。

科目名(クラス)	室内楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・ⅣB- c [クラリネット]	開講学期	後期	単位数	各 1	配当年次	1~4
担当教員	松尾 賢一郎	履修対象・条件	ピアノと声楽の演奏家・教職特設コースは履修不可。音楽療法とメディアデザインはⅠ・Ⅱのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の「概要」と「目的」】

Uhl/DivertimentoとBeethoven/String Quintet Op.4を取り上げ、高度なアンサンブル演奏をするためのノウハウを学びます。

【授業の「方法」と「形式」】

原則、聴講形式でレッスンを行いますが実際に教員と一緒に演奏する場合があります。

【履修時の「留意点」と「心得」】

与えられた楽曲は必ず自分のパートに責任を持って練習してきてください。また、自分のパートだけではなく、スコアを持参し学習する必要があります。

教科書	Alfred Uhl/Divertimento	著者等		出版社	Shott
教科書	Ludwig van Beethoven/String Quintet Op.4	著者等		出版社	Henle
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

室内楽研究発表会の直前に同プログラムで室内楽発表会を行い、本番50%、平常点50%で総合的に評価します。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	Beethoven/String Quintet Op.4に取り組むに当たって、スコアリーディングを行う。	あらゆる角度から楽曲を学べるようにする。	今回の授業で取り上げることは今後楽曲に取り組む上で重要なので、しっかりノウハウを学んでほしい。
第2回	Beethoven/String Quintet Op.4, 1,2楽章に取り組む。	楽曲を理解する。	それぞれのパートの譜読みを充分行うこと。
第3回	Beethoven/String Quintet Op.4, 3,4楽章に取り組む。	楽曲を理解する。	それぞれのパートの譜読みを充分行うこと。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	Uhl/Divertimentoに取り組む。	導入としてスコアリーディングを行う。	今回の授業で取り上げることは今後楽曲に取り組む上で重要なので、しっかりノウハウを学んでほしい。
第5回	第2回の2回目(Beethoven)	レッスンを通して完成度を上げる。	それぞれのパートの譜読みを充分行うこと。
第6回	第3回の2回目(Beethoven)	レッスンを通して完成度を上げる。	それぞれのパートの譜読みを充分行うこと。
第7回	第4回の2回目(Uhl)	レッスンを通して完成度を上げる。	それぞれのパートの譜読みを充分行うこと。
第8回	第2回の3回目(Beethoven)	レッスンで言われたことだけでなく、積極的に音楽できるようにする。	グループ内で積極的に意見交換し、自分たちのやりたい音楽を明確にすること。
第9回	第3回の3回目(Beethoven)	レッスンで言われたことだけでなく、積極的に音楽できるようにする。	グループ内で積極的に意見交換し、自分たちのやりたい音楽を明確にすること。
第10回	第4回の3回目(Uhl)	レッスンで言われたことだけでなく、積極的に音楽できるようにする。	グループ内で積極的に意見交換し、自分たちのやりたい音楽を明確にすること。
第11回	Beethoven/String Quintet Op.4全楽章	室内楽発表会を想定して既に高いレベルの演奏ができるようにする。	〃
第12回	第4回の4回目(Uhl)	室内楽発表会を想定して既に高いレベルの演奏ができるようにする。	〃
第13回	Beethoven/String Quintet Op.4全楽章	室内楽発表会を想定して既に高いレベルの演奏ができるようにする。	〃
第14回	室内楽発表会	室内楽発表会を想定した発表会。	〃
第15回	室内楽研究発表会	実際にステージでの演奏会を経験し、表現する喜びを感じてほしい。	発表を振り返る。

科目名(クラス)	室内楽 I・II・III・IVA-d[木管]	開講学期	前期	単位数	各1	配当年次	1~4
担当教員	鈴木 一志	履修対象・条件	ピアノと声楽の演奏家・教職特設コースは履修不可。音楽療法とメディアデザインはI・IIのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の「概要」と「目的」】

室内楽を学ぶ事によって、各楽器の特徴・特性を活かし、演奏技術と表現能力を向上させる。

【授業の「方法」と「形式」】

5重奏を中心に進める。(Fl・Ob・Cl・Fg・Hr)

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・各パートは責任を持って練習し、曲に対する研究をする。
- ・スコアリーディングをして、自分のパートだけではなく、他の楽器のパートを理解する。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

平常点を重視し、室内楽発表演奏会も合わせて評価する。(前期・最後の授業)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	ガイダンス	室内楽の意味、楽しみを理解する	授業のイメージを具体化する
第2回	選曲	各編成の響を理解する	選曲した曲を練習する
第3回	選曲	各編成の響を理解する	選曲した曲を練習する

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	実技演習 ・作曲者について、作品の様式	作曲者の生きた時代の音楽的様式を理解する。	スコアで各パートの動きを理解する
第5回	実技演習 ・作品の様式、曲想(表現)	各楽器の特性と音色を理解する	・各パートの復習練習 ・スコアリーディング
第6回	実技演習 ・作品の様式、曲想(表現)	各楽器の特性と音色を理解する	・各パートの復習練習 ・スコアリーディング
第7回	実技演習 ・作品の様式、曲想(表現)	各楽器の特性と音色を理解する	・各パートの復習練習 ・スコアリーディング
第8回	実技演習 ・作品の様式、曲想(表現)	各楽器のフレーズ感を一致させる	・各パートの復習練習 ・スコアリーディング
第9回	実技演習 ・作品の様式、曲想(表現)	各楽器のフレーズ感を一致させる	・各パートの復習練習 ・スコアリーディング
第10回	実技演習 ・作品の様式、曲想(表現)	各楽器のフレーズ感を一致させる	・各パートの復習練習 ・スコアリーディング
第11回	曲の仕上げと研究	各楽器の表現能力の向上	・各パートの復習練習 ・スコアリーディング
第12回	曲の仕上げと研究	各楽器の表現能力の向上	・各パートの復習練習 ・スコアリーディング
第13回	曲の仕上げと研究	各楽器の表現能力の向上	・各パートの復習練習 ・スコアリーディング
第14回	曲の仕上げと研究	各楽器の表現能力の向上	・各パートの復習練習 ・スコアリーディング
第15回	演奏会形式で進める	前期授業の集大成	・各パートの復習練習 ・スコアリーディング

科目名(クラス)	室内楽 I・II・III・IVB-d[木管]	開講学期	後期	単位数	各1	配当年次	1~4
担当教員	鈴木 一志	履修対象・条件	ピアノと声楽の演奏家・教職特設コースは履修不可。音楽療法とメディアデザインはI・IIのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の「概要」と「目的」】

室内楽を学ぶ事によって、各楽器の特徴・特性を活かし、演奏技術と表現能力を向上させる。

【授業の「方法」と「形式」】

10重奏を中心に進める。(2Fl・2Ob・2Cl・2Fg・2Hr)

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・各パートは責任を持って練習し、曲に対する研究をする。
- ・スコアを使って自分のパートだけではなく、他の楽器のパートを理解する。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

平常点を重視し、室内楽発表演奏会も合わせて評価する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	選曲(10重奏)	編成の響を理解する	選曲した曲を練習する
第2回	選曲(10重奏)	編成の響を理解する	選曲した曲を練習する
第3回	実技演習 ・作曲者について、作品の様式、曲想(表現)	作曲者の生きた時代(様式)を理解する	スコアで各パートの動きを理解する

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	実技演習 ・作曲者について、作品の様式	作曲者の生きた時代の音楽的様式を理解する	・スコアと各パートの動きを理解する
第5回	実技演習 ・作品の様式、曲想(表現)	各楽器の特性と音色を理解する	・各パートの復習練習 ・スコアリーディング
第6回	実技演習 ・作品の様式、曲想(表現)	各楽器の特性と音色を理解する	・各パートの復習練習 ・スコアリーディング
第7回	実技演習 ・作品の様式、曲想(表現)	各楽器の特性と音色を理解する	・各パートの復習練習 ・スコアリーディング
第8回	実技演習 ・作品の様式、曲想(表現)	各楽器のフレーズ感を一致させる	・各パートの復習練習 ・スコアリーディング
第9回	実技演習 ・作品の様式、曲想(表現)	各楽器のフレーズ感を一致させる	・各パートの復習練習 ・スコアリーディング
第10回	実技演習 ・作品の様式、曲想(表現)	各楽器のフレーズ感を一致させる	・各パートの復習練習 ・スコアリーディング
第11回	曲の仕上げと研究	各楽器の表現能力の向上	・各パートの復習練習 ・スコアリーディング
第12回	曲の仕上げと研究	各楽器の表現能力の向上	・各パートの復習練習 ・スコアリーディング
第13回	曲の仕上げと研究	各楽器の表現能力の向上	・各パートの復習練習 ・スコアリーディング
第14回	室内楽発表演奏会G. P	各楽器の表現能力の向上	・各パートの復習練習 ・スコアリーディング
第15回	室内楽発表演奏会	1年間の集大成	・各パートの復習練習 ・スコアリーディング

科目名(クラス)	室内楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・ⅣA-e [サクソフォン]	開講学期	前期	単位数	各1	配当年次	1~4
担当教員	佐々木 雄二	履修対象・条件	ピアノと声楽の演奏家・教職特設コースは履修不可。音楽療法とメディアデザインはⅠ・Ⅱのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の「概要」と「目的」】

サクソフォンアンサンブル(主に四重奏の授業)を通して、演奏技術・表現能力・各奏者間のコミュニケーション能力を強化し向上させることが目的です。
サクソフォンアンサンブルは表現力に富み、四重奏をはじめ様々な編成で数多くの曲が作られまた、アレンジされています。新作の発掘と演奏会でよく取り上げられる作品を勉強します。4月中は10名以上で編成されるラージアンサンブルも研究し演奏します。

【授業の「方法」と「形式」】

サクソフォンだけのアンサンブルの授業になります。主にソプラノ、アルト、テナー、バリトンを研究します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

受け持つパート譜、楽譜はしっかりと読み練習してから授業に臨んで下さい。スコアを読んで構成を理解しましょう。作曲家、時代背景も研究しより芸術性を高めた演奏を目指します。

教科書	その都度こちらで準備します。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への取り組み(40%)、授業内容の理解度(30%)、実践力、応用力(30%)等、総合的に評価します。
欠席、遅刻をしないこと。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション 9月までの授業内容の説明。東邦祭までのラージアンサンブルパート決め	最初のアンサンブル授業で自分が受け持つパートの演奏ができる。	パート譜の譜読みをしっかりと行ってくる。事前準備をすること。
第2回	バッハ「トッカータとフーガ」、コレルリ「クリスマスコンチェルト」この2曲の合奏練習(1回目)	合奏の中で自分のパート譜が演奏できるようになること。	オリジナル曲の音源を聴き、曲全体の構成を知る。
第3回	バッハ「トッカータとフーガ」、コレルリ「クリスマスコンチェルト」この2曲の合奏練習(2回目)	合奏で曲作りができるようになること。	他パートについても理解し連動できるように準備する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	四重奏団体決め 受け持つパート決め	各自が受け持つパートについて 曲の流れの中でイメージできる ようにする。	各自が受け持つパート譜を読み ながら音源を聴くこと。
第5回	四重奏演奏表現研究。 主にSopとBariの外声部の音の流れを理解する。	外声部の動きや音を理解する。	各自スコアを読む。 SopとBariの合わせ練習をして おくこと。
第6回	四重奏演奏表現研究。 主にAltとTenの内声部の音の流れを理解する。	内声部の動きや音を理解する。	各自スコアを読む。 AltとTenの合わせ練習をして おくこと。
第7回	四重奏演奏表現研究。 主にSopとAltの組み合わせでの音色やハーモ ニーを聴き取る。	上二声部の動きや音を理解す る。	各自スコアを読む。 SopとAltの合わせ練習をして おくこと。
第8回	四重奏演奏表現研究。 主にSopとTenの組み合わせでの音色やハーモ ニーを聴き取る。	SopとTenの動きや音を理解す る。	各自スコアを読む。 SopとTenの合わせ練習をして おくこと。
第9回	四重奏演奏表現研究。 主にAltとBariの組み合わせでの音色やハーモ ニーを聴き取る。	AltとBariの動き方や音を理解す る。	各自スコアを読む。 AltとBariの合わせ練習をして おくこと。
第10回	四重奏演奏表現研究。 主にTenとBariの組み合わせでの音色やハーモ ニーを聴き取る。	TenとBariの動き方や音を理解 する。	各自スコアを読む。 TenとBariの合わせ練習をして おくこと。
第11回	四重奏演奏表現研究。 主にSopとBariの外声部の音とAltの音を重ねた 響きを聴く。	SopとBariそしてAltの動きや音 を理解する。	各自スコアを読む。 Sop,Alt,Bariの合わせ練習をして おくこと。
第12回	四重奏演奏表現研究。 主にSopとBariの外声部の音とTenの音を重ねた 響きを聴く。	SopとBariそしてTenの動きや音 を理解する。	各自スコアを読む。 Sop,Ten,Bariの合わせ練習をして おくこと。
第13回	四重奏演奏表現研究。 各パートが他パートの動きと響きを理解した上での 合奏。	四パート全体の動き、音を聴き ながら曲作りをする。	他パートの動きが理解されてい ること。
第14回	同上	同上	同上
第15回	四重奏演奏表現の研究 発表会	これまでの勉強の成果を発揮す る。	同上

科目名(クラス)	室内楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・ⅣB-e [サクソフォン]	開講学期	後期	単位数	各1	配当年次	1~4
担当教員	佐々木 雄二	履修対象・条件	ピアノと声楽の演奏家・教職特設コースは履修不可。音楽療法とメディアデザインはⅠ・Ⅱのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の「概要」と「目的」】

サクソフォンアンサンブル(主に四重奏の授業)を通して、演奏技術・表現能力・各奏者間のコミュニケーション能力を強化し向上させることが目的です。
サクソフォンアンサンブルは表現力に富み、様々な編成で数多くの曲が作られ、またアレンジされています。新作の発掘と演奏会でよく取り上げられる作品を勉強します。また適宜四重奏の研究もして行きます。

【授業の「方法」と「形式」】

サクソフォンだけのアンサンブルの授業になります。主にソプラニーノからバスまでのサクソフォンを使用します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

受け持つパート譜、楽譜はしっかりと読み練習してから授業に臨んで下さい。スコアを読んで構成を理解しましょう。作曲家、時代背景も研究しより芸術性を高めた演奏を目指します。

教科書	その都度こちらで準備します。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への取り組み(40%)、授業内容の理解度(30%)、実践力、応用力〔30%〕等、総合的に評価します。
欠席、遅刻をしないこと。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	四重奏からラージアンサンブル 楽曲決め、パート決め、音だし(四曲)	最初のアンサンブル授業で自分が受け持つパートの演奏ができる。	パート譜の譜読みをしっかりと行ってこること。
第2回	ポピュラー音楽、ジャズ音楽、四重奏 練習	音だしから曲作りまで	音源を聴き曲全体の構成を知る
第3回	同上	曲作りができ仕上げる	他パートについても理解し連動して曲を仕上げる。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	ラージアンサンブル演奏表現研究1(一曲目)	各自が受け持つパートについて曲の流れの中でイメージできるようにする。	原曲の音源を聴き曲のイメージをつかむ
第5回	ラージアンサンブル演奏表現研究2(一曲目)	各声部の動きや音を理解する	各自スコアを読みながら音源を聴くパート練習をする
第6回	ラージアンサンブル演奏表現研究3(一曲目)	各自が受け持つパートを演奏しながら、他パートの動きや音を感じる	同上
第7回	ラージアンサンブル演奏表現研究4(二曲目)	各自が受け持つパートについて曲の流れの中でイメージできるようにする。	原曲の音源を聴き曲のイメージをつかむ
第8回	ラージアンサンブル演奏表現研究5(二曲目)	各声部の動きや音を理解する	各自スコアを読みながら音源を聴くパート練習をする
第9回	ラージアンサンブル演奏表現研究6(二曲目)	各自が受け持つパートを演奏しながら、他パートの動きや音を感じる	同上
第10回	ラージアンサンブル演奏表現研究7(三曲目・四曲目)	各自が受け持つパートについて曲の流れの中でイメージできるようにする。	原曲の音源を聴き曲のイメージをつかむ
第11回	ラージアンサンブル演奏表現研究8(三曲目・四曲目)	各声部の動きや音を理解する	各自スコアを読みながら音源を聴くパート練習をする
第12回	ラージアンサンブル演奏表現研究9	各自が受け持つパートを演奏しながら、他パートの動きや音を感じる	同上
第13回	ラージアンサンブル演奏表現研究10(四曲仕上げる)	各自が受け持つパートを演奏しながら、音量バランスを調整する。	同上
第14回	ラージアンサンブル演奏表現研究11(四曲仕上げる)	同上	同上
第15回	ラージアンサンブル演奏表現研究12(発表会)	これまでの研究の成果を発揮する	同上

科目名(クラス)	室内楽1・Ⅱ・Ⅲ・ⅣA-f [トランペット]	開講学期	前期	単位数	各1	配当年次	1~4
担当教員	藤井 完	履修対象・条件	ピアノと声楽の演奏家・教職特設コースは履修不可。音楽療法とメディアデザインはⅠ・Ⅱのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の「概要」と「目的」】

「合わせる」事を行なっている時、ソロを演奏している時より楽しく感じる事がしばしばあります。毎時間、その事を感じ取ってもらいたいと思います。
リズム、ユニゾン、ハーモニーを合わせるという事は、「響き」を合わせる。「響いた瞬間」を合わせる事です。これを「耳」「息」「心」で感じ取ってもらいたいと思います。

【授業の「方法」と「形式」】

デュエットからはじめて大きい編成にすすめます。先ずデュエットをしっかりやります。

【履修時の「留意点」と「心得」】

調合、拍子、フレーズ、アーティキュレーション等をすばやく読み取って音楽的表現につなげます。
1st、2ndを交替します。予習2時間は必要です。

教科書	アーバンのデュエット集	著者等	アーバン	出版社	全音
教科書	Selected Dudts I	著者等	Voxman	出版社	Rubank
参考文献	Selected Dudts II	著者等	Voxman	出版社	Rubank
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

意欲、態度、技能、音楽性等、総合的に評価します。
期末の発表会の演奏だけでなく、毎週の授業への取り組みも大事な評価対象です。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション 授業の進め方、内容について	各個人の能力に応じて問題点の解決	各授業内容の準備学習
第2回	合わせることの意味 「響き」を合わせる実習	各個人の能力に応じて問題点の解決	〃
第3回	二重奏実習	各個人の能力に応じて問題点の解決	〃

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	二重奏実習	各個人の能力に応じて問題点の解決	各授業内容の準備学習
第5回	二重奏実習	各個人の能力に応じて問題点の解決	〃
第6回	二重奏実習	各個人の能力に応じて問題点の解決	〃
第7回	二重奏実習	各個人の能力に応じて問題点の解決	〃
第8回	二重奏実習	各個人の能力に応じて問題点の解決	〃
第9回	二重奏実習	各個人の能力に応じて問題点の解決	〃
第10回	二重奏実習	各個人の能力に応じて問題点の解決	〃
第11回	二重奏実習	各個人の能力に応じて問題点の解決	〃
第12回	三重奏以上の実習	能力に応じて曲を選び、各自の問題を解決	〃
第13回	三重奏以上の実習	能力に応じて曲を選び、各自の問題を解決	〃
第14回	三重奏以上の実習	能力に応じて曲を選び、各自の問題を解決	〃
第15回	三重奏以上の実習	能力に応じて曲を選び、各自の問題を解決	学んだことを振り返る。

科目名(クラス)	室内楽1・Ⅱ・Ⅲ・ⅣB-f [トランペット]	開講学期	後期	単位数	各1	配当年次	1~4
担当教員	藤井 完	履修対象・条件	ピアノと声楽の演奏家・教職特設コースは履修不可。音楽療法とメディアデザインはⅠ・Ⅱのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の「概要」と「目的」】

前期に続いてデュエットもやりますが、難度は上がります。
三重奏以上の編成もできるようにします。
吹奏楽、オーケストラのスタディも扱います。その後演奏発表につなげます。

【授業の「方法」と「形式」】

他のグループもできるだけ聴いて学んでもらいたい。

【履修時の「留意点」と「心得」】

後期は難度も上がってきますので、予習をしっかりやってもらいたい。

教科書	アーバンのデュエット集	著者等	アーバン	出版社	全音
教科書	Selected Dudts I	著者等	Voxman	出版社	Rubank
参考文献	Selected Dudts II	著者等	Voxman	出版社	Rubank
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

意欲、態度、技能、音楽表現等総合的に評価します。
毎週の取り組みが大切な評価対象です。
楽譜を追うだけでなく、「楽しさ」を表現できるように進歩して下さい。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	デュエット及び三重奏以上の実習	合奏の「楽しさ」を表現できるように	各授業内容の準備学習
第2回	デュエット及び三重奏以上の実習	合奏の「楽しさ」を表現できるように	〃
第3回	デュエット及び三重奏以上の実習	合奏の「楽しさ」を表現できるように	〃

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	デュエット及び三重奏以上の実習	合奏の「楽しさ」を表現できるように	各授業内容の準備学習
第5回	吹奏楽、オーケストラのパートスタディも含む	演奏会に出せるレベルまで	〃
第6回	吹奏楽、オーケストラのパートスタディも含む	演奏会に出せるレベルまで	〃
第7回	吹奏楽、オーケストラのパートスタディも含む	演奏会に出せるレベルまで	〃
第8回	吹奏楽、オーケストラのパートスタディも含む	演奏会に出せるレベルまで	〃
第9回	吹奏楽、オーケストラのパートスタディも含む	演奏会に出せるレベルまで	〃
第10回	演奏会にむけて	各グループとも最高レベルまで	〃
第11回	演奏会にむけて	各グループとも最高レベルまで	〃
第12回	演奏会にむけて	各グループとも最高レベルまで	〃
第13回	演奏会にむけて	各グループとも最高レベルまで	〃
第14回	まとめ	各グループとも最高レベルまで	〃
第15回	まとめ	〃	学んだことを振り返る。

科目名(クラス)	室内楽 I・II・III・IVA-g[ホルン]	開講学期	前期	単位数	各1	配当年次	1~4
担当教員	澤 敦	履修対象・条件	ピアノと声楽の演奏家・教職特設コースは履修不可。音楽療法とメディアデザインはI・IIのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の「概要」と「目的」】

・ホルンアンサンブルを通して、「合奏能力」を向上させる。
 ・ホルンの「演奏能力」の向上。
 ・オーケストラ・スタディーのレパートリーを拓げる。

【授業の「方法」と「形式」】

アンサンブル授業の形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

「レッスン・ノート」各自用意して、毎日の練習内容、目標達成度、新たなひらめき等を記入すること。授業内でチェックを行なう。

教科書	教材は毎回こちらで準備する	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業中の学習意欲、参加意識を評価
 ・「レッスン・ノート」の内容を評価
 ・授業内での発言(ディスカッション等での)を評価

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	・スケール(全調)を使い、響きの良い音を学ぶ	・「ブレンド」しやすい「音色感」を覚える	・次回のテキストを配布するので、必ず練習してくること
第2回	・3オクターブをクリア出来る、「アンブシュア」を研究する	・「アンブシュア」についての理解を深める	・次回のテキストを配布するので、必ず練習してくること
第3回	・ホルンを使つての「ソルフェージュ」トレーニング①	・頭の中で「音程」を歌いながら吹くことを理解する	・次回のテキストを配布するので、必ず練習してくること

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	・ホルンを使つての「ソルフェージュ」トレーニング②	・頭の中のソルフェージュとアンブシュアの連動を覚える	・次回のテキストを配布するので、必ず練習してくること
第5回	・「ユニゾン」を合わせる 2人～X人と増やしてゆく	・他人の音程に反応し合わせる	・次回のテキストを配布するので、必ず練習してくること
第6回	・「ハーモニー」を合わせる① 賛美歌を使用	・良く合った「ハーモニー」の感覚を覚える	・次回のテキストを配布するので、必ず練習してくること
第7回	・「ハーモニー」を合わせる② 4重奏曲を使用	・周りの音から自分の「ピッチ」を調整する	・次回のテキストを配布するので、必ず練習してくること
第8回	・「ハーモニー」を合わせる③ 4重奏曲を使用	・「ピッチ」をできるだけ早く調整する	・次回のテキストを配布するので、必ず練習してくること
第9回	・オケ・スタより2本の部分	・自分のレパートリーとする	・次回のテキストを配布するので、必ず練習してくること
第10回	・オケ・スタより2本の部分	・自分のレパートリーとする	・次回のテキストを配布するので、必ず練習してくること
第11回	・オケ・スタより3・4本の部分	・自分のレパートリーとする	・次回のテキストを配布するので、必ず練習してくること
第12回	・オケ・スタより3・4本の部分	・自分のレパートリーとする	・次回のテキストを配布するので、必ず練習してくること
第13回	・オケ・スタよりソロの部分	・自分のレパートリーとする	・次回のテキストを配布するので、必ず練習してくること
第14回	・1～13回までの復習	・各自、自分の到達をしっかりと把握する	・次回のテキストを配布するので、必ず練習してくること
第15回	・4重奏を使つての「初見大会」	・初見での演奏能力の強化	自己の演奏をふり返る

科目名(クラス)	室内楽 I・II・III・IVB-g[ホルン]	開講学期	後期	単位数	各1	配当年次	1~4
担当教員	澤 敦	履修対象・条件	ピアノと声楽の演奏家・教職特設コースは履修不可。音楽療法とメディアデザインはI・IIのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の「概要」と「目的」】

・ホルン演奏においての、「能力向上」
 ・オーケストラ等のオーディションに向けての取り組み方
 ・発表会

【授業の「方法」と「形式」】

アンサンブル授業の形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

・常にホルンに対して「向上心」を強く持つこと。そして、その状態に自分を持っていけるよう、練習がまんねりにならないこと。

教科書	教材は毎回こちらで準備する	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】 (380文字以内)

・授業中の学習意欲、参加意識を評価
 ・「レッスン・ノート」の内容を評価
 ・授業内での発言(ディスカッション等での)を評価

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	・4重奏において、全パートを演奏する①	・各パートの「役割り」や曲の「しかけ」を知る	・次回のテキストを配布するので、必ず練習してくること
第2回	・4重奏において、全パートを演奏する②	・自分にとっての得意、不得意を知る	・次回のテキストを配布するので、必ず練習してくること
第3回	・4重奏において、全パートを演奏する③	・不得意なパートを出来るだけ、クリアーする	・次回のテキストを配布するので、必ず練習してくること

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	・上吹きオーディションに対するの傾向と対策①	・オーディションでの「ポイント」を知る	・次回のテキストを配布するので、必ず練習してくること
第5回	・上吹きオーディションに対するの傾向と対策②	・オーディションでの「ポイント」を知る	・次回のテキストを配布するので、必ず練習してくること
第6回	・下吹きオーディションに対するの傾向と対策①	・オーディションでの「ポイント」を知る	・次回のテキストを配布するので、必ず練習してくること
第7回	・下吹きオーディションに対するの傾向と対策②	・オーディションでの「ポイント」を知る	・次回のテキストを配布するので、必ず練習してくること
第8回	・6～8重奏の曲を学ぶ。 (主に「表現」と「バランス」)①	・大編成における「バランス」をつかむ	・次回のテキストを配布するので、必ず練習してくること
第9回	・6～8重奏の曲を学ぶ。(仕上げ)②	・「サウンド」に注意しながら、仕上げる	・次回のテキストを配布するので、必ず練習してくること
第10回	・発表会へ向けての曲目を決める	・自分のやりたい曲をプレゼンテーションする	・次回のテキストを配布するので、必ず練習してくること
第11回	・発表会へ向けての練習① (技術面をクリアーする)	・自分の楽譜をすべて確実に吹く	・次回のテキストを配布するので、必ず練習してくること
第12回	・発表会へ向けての練習② (曲想を表現する)	・いろいろ自分の意見を提供する	・次回のテキストを配布するので、必ず練習してくること
第13回	・発表会へ向けての練習③ (曲想を表現する)	・一曲をトータルした曲想を作る	・次回のテキストを配布するので、必ず練習してくること
第14回	・発表会へ向けての練習④ GP(総合通し)	・発表会のイメージをしっかりと持つ	・次回のテキストを配布するので、必ず練習してくること
第15回	・発表会	・この半年間、授業で学んだ事の成果を出す	発表をふり返る

科目名(クラス)	室内楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ A-h 〔トロンボーン〕	開講学期	前期	単位数	各 1	配当年次	1～4
担当教員	吉川武典	履修対象・条件	ピアノと声楽の演奏家・教職特設コースは履修不可。音楽療法とメディアデザインはⅠ・Ⅱのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の「概要」と「目的」】

トロンボーン・アンサンブルの楽曲の練習、発表を通して室内楽奏者としての能力の向上と楽曲に対する理解を深める。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

事前の準備、楽曲に対する研究、新しい練習方法に対する研究、全てにおいて怠らぬよう、勤勉に取り組むこと。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への積極的な取り組みと、十分な練習等を総合的に評価する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	楽曲の練習及びレッスン	各授業の内容を理解する	各授業の準備学習をする
第2回	同上	各授業の内容を理解する	各授業の準備学習をする
第3回	同上	各授業の内容を理解する	各授業の準備学習をする

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	楽曲の練習及びレッスン	各授業の内容を理解する	各授業の準備学習をする
第5回	同上	各授業の内容を理解する	各授業の準備学習をする
第6回	同上	各授業の内容を理解する	各授業の準備学習をする
第7回	同上	各授業の内容を理解する	各授業の準備学習をする
第8回	同上	各授業の内容を理解する	各授業の準備学習をする
第9回	同上	各授業の内容を理解する	各授業の準備学習をする
第10回	同上	各授業の内容を理解する	各授業の準備学習をする
第11回	同上	各授業の内容を理解する	各授業の準備学習をする
第12回	同上	各授業の内容を理解する	各授業の準備学習をする
第13回	同上	各授業の内容を理解する	各授業の準備学習をする
第14回	同上	各授業の内容を理解する	各授業の準備学習をする
第15回	まとめ		各授業の準備学習をする

科目名(クラス)	室内楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ B-h 〔トロンボーン〕	開講学期	後期	単位数	各 1	配当年次	1～4
担当教員	吉川武典	履修対象・条件	ピアノと声楽の演奏家・教職特設コースは履修不可。音楽療法とメディアデザインはⅠ・Ⅱのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の「概要」と「目的」】

トロンボーン・アンサンブルの楽曲の練習、発表を通して室内楽奏者としての能力の向上と楽曲に対する理解を深める。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

事前の準備、楽曲に対する研究、新しい練習方法に対する研究、全てにおいて怠らぬよう、勤勉に取り組むこと。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

(380文字以内)

授業への積極的な取り組みと、十分な練習等を総合的に評価する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	ガイダンス	各授業の内容を理解する	各授業の準備学習をする
第2回	楽曲の練習及びレッスン	各授業の内容を理解する	各授業の準備学習をする
第3回	同上	各授業の内容を理解する	各授業の準備学習をする

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	楽曲の練習及びレッスン	各授業の内容を理解する	各授業の準備学習をする
第5回	同上	各授業の内容を理解する	各授業の準備学習をする
第6回	同上	各授業の内容を理解する	各授業の準備学習をする
第7回	同上	各授業の内容を理解する	各授業の準備学習をする
第8回	同上	各授業の内容を理解する	各授業の準備学習をする
第9回	同上	各授業の内容を理解する	各授業の準備学習をする
第10回	同上	各授業の内容を理解する	各授業の準備学習をする
第11回	同上	各授業の内容を理解する	各授業の準備学習をする
第12回	同上	各授業の内容を理解する	各授業の準備学習をする
第13回	同上	各授業の内容を理解する	各授業の準備学習をする
第14回	同上	各授業の内容を理解する	各授業の準備学習をする
第15回	まとめ		各授業の準備学習をする

科目名(クラス)	室内楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・ⅣA-Ⅰ [ユーフォニアム・チューバ]	開講学期	前期	単位数	各1	配当年次	1~4
担当教員	庄司 恵子 大塚 哲也	履修対象・条件	ピアノと声楽の演奏家・教職特設コースは履修不可。音楽療法とメディアデザインはⅠ・Ⅱのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の「概要」と「目的」】

ユーフォニアム・チューバアンサンブルの演奏を通して、アンサンブル能力の向上と、幅広い音楽の様式やジャンルの研究・体験を目的とする。

【授業の「方法」と「形式」】

レッスン形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・授業で取り上げる楽曲・編成については、その都度指示を出しながら進めていく。
- ・事前準備(練習)・研究にも力を入れ、授業に臨むことが大切。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

平常点、能力、技術の達成度などを総合的に評価する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション	各授業内容を理解する	
第2回	二重奏・三重奏・四重奏と編成を拡げていく 主な教材 ・Melodious etudes (J,Rochut) ・12Melodious duets (O. Blume) ・Advances duets Vol.1・2 (W.Sears)	同上	授業で取り上げる楽曲の練習・研究
第3回	・11 duets for tuba (V.Nelhybel) ・Quartet for low Brass Vol.1~3 (S.Bulla) ・コーラール集	同上	授業で取り上げる楽曲の練習・研究

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)	
第4回	二重奏・三重奏・四重奏と編成を拡げていく 主な教材 ・Melodious etudes (J.Rochut) ・12Melodious duets(O. Blume) ・Advances duets Vol.1・2(W.Sears) ・11duets for tuba (V.Nelhybel) ・Quartet for low Brass Vol.1~3 (S.Bulla) ・コーラル集	同上	授業で取り上げる楽曲の練習 ・研究	
第5回		同上	授業で取り上げる楽曲の練習 ・研究	
第6回		同上	授業で取り上げる楽曲の練習 ・研究	
第7回		同上	授業で取り上げる楽曲の練習 ・研究	
第8回		同上	授業で取り上げる楽曲の練習 ・研究	
第9回		同上	授業で取り上げる楽曲の練習 ・研究	
第10回		同上	授業で取り上げる楽曲の練習 ・研究	
第11回		同上	授業で取り上げる楽曲の練習 ・研究	
第12回		同上	授業で取り上げる楽曲の練習 ・研究	
第13回		同上	授業で取り上げる楽曲の練習 ・研究	
第14回		同上	授業で取り上げる楽曲の練習 ・研究	
第15回		まとめ	同上	授業で取り上げる楽曲の練習 ・研究

科目名(クラス)	室内楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・ⅣB-Ⅰ [ユーフォニアム・チューバ]	開講学期	後期	単位数	各 1	配当年次	1~4
担当教員	庄司 恵子 大塚 哲也	履修対象・条件	ピアノと声楽の演奏家・教職特設コースは履修不可。音楽療法とメディアデザインはⅠ・Ⅱのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の「概要」と「目的」】

ユーフォニアム・チューバアンサンブルの演奏を通して、アンサンブル能力の向上と、幅広い音楽の様式やジャンルの研究・体験を目的とする。

【授業の「方法」と「形式」】

レッスン形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・授業で取り上げる楽曲・編成については、その都度指示を出しながら進めていく。
- ・事前準備(練習)・研究にも力を入れ授業に臨むことが大切。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

平常点、能力、技術の達成度などを総合的に評価する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	オリジナル作品や大編成の作品も研究対象に加え、応用力を高め、幅広くレパートリーを体験・研究し、作品を仕上げ発表会をする	各授業内容を理解する	授業で取り上げる楽曲の練習・研究
第2回	オリジナル作品や大編成の作品も研究対象に加え、応用力を高め、幅広くレパートリーを体験・研究し、作品を仕上げ発表会をする	同上	授業で取り上げる楽曲の練習・研究
第3回	オリジナル作品や大編成の作品も研究対象に加え、応用力を高め、幅広くレパートリーを体験・研究し、作品を仕上げ発表会をする	同上	授業で取り上げる楽曲の練習・研究

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	オリジナル作品や大編成の作品も研究対象に加え、応用力を高め、幅広くレパートリーを体験・研究し、作品を仕上げ発表会をする	同上	授業で取り上げる楽曲の練習・研究
第5回	オリジナル作品や大編成の作品も研究対象に加え、応用力を高め、幅広くレパートリーを体験・研究し、作品を仕上げ発表会をする	同上	授業で取り上げる楽曲の練習・研究
第6回	オリジナル作品や大編成の作品も研究対象に加え、応用力を高め、幅広くレパートリーを体験・研究し、作品を仕上げ発表会をする	同上	授業で取り上げる楽曲の練習・研究
第7回	オリジナル作品や大編成の作品も研究対象に加え、応用力を高め、幅広くレパートリーを体験・研究し、作品を仕上げ発表会をする	同上	授業で取り上げる楽曲の練習・研究
第8回	オリジナル作品や大編成の作品も研究対象に加え、応用力を高め、幅広くレパートリーを体験・研究し、作品を仕上げ発表会をする	同上	授業で取り上げる楽曲の練習・研究
第9回	オリジナル作品や大編成の作品も研究対象に加え、応用力を高め、幅広くレパートリーを体験・研究し、作品を仕上げ発表会をする	同上	授業で取り上げる楽曲の練習・研究
第10回	オリジナル作品や大編成の作品も研究対象に加え、応用力を高め、幅広くレパートリーを体験・研究し、作品を仕上げ発表会をする	同上	授業で取り上げる楽曲の練習・研究
第11回	オリジナル作品や大編成の作品も研究対象に加え、応用力を高め、幅広くレパートリーを体験・研究し、作品を仕上げ発表会をする	同上	授業で取り上げる楽曲の練習・研究
第12回	オリジナル作品や大編成の作品も研究対象に加え、応用力を高め、幅広くレパートリーを体験・研究し、作品を仕上げ発表会をする	同上	授業で取り上げる楽曲の練習・研究
第13回	オリジナル作品や大編成の作品も研究対象に加え、応用力を高め、幅広くレパートリーを体験・研究し、作品を仕上げ発表会をする	同上	授業で取り上げる楽曲の練習・研究
第14回	オリジナル作品や大編成の作品も研究対象に加え、応用力を高め、幅広くレパートリーを体験・研究し、作品を仕上げ発表会をする	同上	授業で取り上げる楽曲の練習・研究
第15回	まとめ	同上	

科目名(クラス)	室内楽 I・II・III・IVA-j[打楽器]	開講学期	前期	単位数	各1	配当年次	1~4
担当教員	安藤 芳広	履修対象・条件	ピアノと声楽の演奏家・教職特設コースは履修不可。音楽療法とメディアデザインはI・IIのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の「概要」と「目的」】

打楽器アンサンブルを作り上げる中で、一人ひとりのアンサンブル能力を向上させることを目的とする。特に前期では、比較的簡易な楽曲を教材とし、演奏への取り組みの第一歩であり基本である「読譜」について掘り下げ、かつ演奏における呼吸感、テンポ感について感覚的に理解することを目標に、アンサンブル演奏の実践を行なう。

【授業の「方法」と「形式」】

複数名での実技レッスン/目的やタイミングに応じた選曲を教材に実際に演奏、音楽作りをしながら授業を行ないます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

各自の事前準備なしに「アンサンブル」は成立しません。受講する皆さんには、あらゆる場面での能動的な取り組み姿勢を期待します。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

アンサンブル演奏に向けての音楽的な事前準備、より適切な演奏環境実現への取り組み等、本授業全般への取り組み姿勢(30%) 取り組む楽曲ごとの音楽的、技術的達成度(50%)～毎回の授業の中で見えてくる各自の課題が、次回にどれだけ達成されているかという点を重視します。

前期最終授業で実施する発表演奏会における実践(20%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション	授業内容を明確に把握する	取り組みをイメージする
第2回	読譜について①(個々の実力をはかりつつ、教材=取り上げる楽曲について検討する)	相応しい楽曲の選出	予習: 興味のある楽曲を提案できるように準備する
第3回	読譜について②(①で決定した楽曲の主に前半部分について、実際に音を出しながら「読譜」の重要性について体感する)	正しい読譜力を身に付け、その重要性を理解する	予習: 取り上げる楽曲について、各自一通りの譜読みしておく

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	読譜について③(①で決定した楽曲の主に後半部分について、実際に音を出しながら「読譜」の重要性について体感する)	正しい読譜が、演奏上の余裕、余力を生むことを実感＝楽曲に取り組む際、必ずしっかりと楽譜を読み込むことを習慣づける	予習&復習:②で得た課題について、より理解を深めるため、実演の音があれば視聴するなどして研究する
第5回	打楽器演奏における呼吸感について①(正しい読譜のなされた楽曲を実演しながら、打楽器における呼吸感について学ぶ)	「呼吸感」という概念についての認識を促す	予習:正しい読譜により理解した音楽を実際の音にできるよう、特に技術面について練習しておく
第6回	打楽器演奏における呼吸感について②(①のつづき)	呼吸感が音楽に自然な流れを生むことを体感する	予習:「呼吸感」という観点で今一度楽曲を読み込み、実演と結びつくよう練習する
第7回	打楽器演奏における呼吸感について③(②のつづき)	同上	同上
第8回	テンポ感について①(打楽器演奏における呼吸感とテンポ感の密接な関係について、実演を交え提示する)	演奏における「テンポ感」という感覚についての認識を促す	復習:「テンポ感」という観点で楽曲と向き合い、実演と結びつくよう練習する
第9回	テンポ感について②(自分たちで演奏しながら実感する)	同上	同上
第10回	テンポ感について③(様々なテンポをもつ楽曲に接し理解を深める)	同上	復習:「テンポ感」を意識して、様々なジャンルの音楽を聴いてみる
第11回	小編成楽曲 アンサンブル実践①	規模、内容共に比較的簡易な楽曲を実演しながら、ここまでの学びを復習し、さらなる理解を深める	授業で即アンサンブルができるよう、各自の担当パートについては演奏準備を怠らないこと
第12回	小編成楽曲 アンサンブル実践②	前回と同じ楽曲を取り上げ、個々の役割を自覚し、かつ全体を見渡しながらの演奏を心がけることによりアンサンブルする力を身に付ける	同上
第13回	中編成楽曲 アンサンブル実践①	楽曲の規模を拡大し、さらにアンサンブルする力を高める	同上
第14回	中編成楽曲 アンサンブル実践②	同上	同上
第15回	演奏発表	発表形式でこれまで取り上げた楽曲の演奏を行ない、前期の総括とする	復習:後期授業に活かせるよう、演奏発表で得た課題をしっかり認識すること

科目名(クラス)	室内楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・ⅣB-1[打楽器]	開講学期	後期	単位数	各1	配当年次	1~4
担当教員	安藤 芳広	履修対象・条件	ピアノと声楽の演奏家・教職特設コースは履修不可。音楽療法とメディアデザインはⅠ・Ⅱのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の「概要」と「目的」】

前期に引き続き、打楽器アンサンブルを作り上げる中で、一人ひとりのアンサンブル能力を向上させることを目的とする。特に後期では、楽曲のもつ音楽の流れやビート感を共有し、お互い聞き合うことで複数名での演奏に一体感が生まれることを感覚的に理解できるよう、幅広いジャンル、様式の楽曲を教材として取り上げる。

【授業の「方法」と「形式」】

複数名での実技レッスン形式／目的やタイミングに応じた選曲を教材に実際に演奏、音楽作りをしながら授業を行ないます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

各自の事前準備なしに「アンサンブル」は成立しません。受講する皆さんには、あらゆる場面での能動的な取り組み姿勢を期待します。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

アンサンブル演奏に向けての音楽的な事前準備、より適切な演奏環境実現への取り組み等、本授業全般への取り組み姿勢(30%) 取り組む楽曲ごとの音楽的、技術的達成度(50%)～毎回の授業の中で見えてくる各自の課題が、次回にどれだけ達成されているかという点を重視します。
室内楽発表演奏会における実践(20%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	楽曲分析①(正確な読譜の先にあるもの)	楽曲を感覚的に理解する力を養う	予習: 読譜は終えた状態で受講できるよう準備する
第2回	楽曲分析②(ビート感)	クラシックのみならず、民族音楽、ポップスのリズムの特徴をつかむ	同上
第3回	楽曲分析③(グルーブ感)	同上	同上

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	アンサンブル実践(幅広いジャンル、様式の楽曲)①	楽曲分析の実践の場として幅広いジャンルの音楽と接する	予習:クラシック以外のジャンルから興味のある楽曲を提案できるよう準備する
第5回	アンサンブル実践(幅広いジャンル、様式の楽曲)②	同上	同上
第6回	アンサンブル実践(幅広いジャンル、様式の楽曲)③	同上	同上
第7回	大編成楽曲 アンサンブル実践①	ここまでの学びの実践、応用の場として、規模・内容を拡大した楽曲に取り組む	予習:室内楽発表会で取り上げるに相応しい楽曲について提案できるよう準備する
第8回	大編成楽曲 アンサンブル実践②	同上	同上
第9回	大編成楽曲 アンサンブル実践③	同上	同上
第10回	大編成楽曲 アンサンブル実践④	同上	同上
第11回	大編成楽曲 アンサンブル実践⑤	同上	同上
第12回	アンサンブル実践	室内楽発表会を視野に入れた音楽作りの場とする	発表会＝演奏会という場を音楽面のみならず、作り上げるという意識で捉え、あらゆる角度からの準備を心がける
第13回	アンサンブル実践	同上	同上
第14回	室内楽発表会	同上	復習:「演奏会」として成立していたか、総合的な視点で振り返り、今後へ活かす
第15回	まとめ	発表をふり返り課題を見つける	授業をふり返る

科目名(クラス)	合奏(和楽器を含む)A	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	3
担当教員	金子 健治	履修対象・条件	教職課程履修者は必修				

【授業の「概要」と「目的」】

合奏は教職の単位として必修科目です。教育実習や実際の教育現場において必要なアルトリコーダーの基本奏法を確認し、教科書の楽曲を合奏していく中で、様々な演奏技術を習得していきます。そして、そこにソプラノ、テナー、バスを重ねた簡単な合奏から、ソプラニーノ、コントラバスを加えた本格的なリコーダー・オーケストラのスタイルまで、直ぐに授業で役立つ合奏法を体験します。また、単に中学・高校の授業内容にとどまらず、世界の様々なジャンルの名曲に触れることにより、リコーダーを通して様式による表現方法の相違点を認識し、各々の専攻科目の表現を深めていくことを目的とします。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義形式による 教科書に掲載されている楽曲を、受講生全員でパートを割り振り、演奏し仕上げていきます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

合奏を指導するための授業ではありますが、最低限必要なソプラノ・アルトリコーダーの基本奏法は各々マスターしなければいけません。ソプラノリコーダー(バロック式)・アルトリコーダーを各自用意し、十分な準備・予習をして臨んでください。最終的には大小8種類のリコーダーや様々な打楽器を体験することになります。初めての楽器にも積極的に取り組んでください。

教科書	New Recorder Library	著者等	金子 健治	出版社	教育出版社
教科書	いきいきリコーダー アンサンブル編	著者等	金子 健治	出版社	全音楽譜出版社
教科書	中学器楽 音楽のおくりもの	著者等	金子 健治 他	出版社	教育出版社
参考文献	中学生の器楽	著者等	吉澤 実 他	出版社	教育芸術社

【成績評価の「方法」と「基準」】

・各項目毎に担当楽器、パートを決め、合奏を仕上げていく形を取り、その中での理解度・完成度をチェックし評価する。
 ・試験は、指定した数曲のアルトリコーダーの楽曲の中から独奏曲一曲、重奏曲一曲を選び、発表会形式で行う。(各項目毎の完成度70%、前期末試験30%)

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第1回	学校教育におけるリコーダーの50年	日本の学校教育でのリコーダーの役割を理解する。	「音楽のおくりもの」～リコーダーを楽しもう～ 「New Recorder Library」～リコーダーについて～ の項目を熟読する。
第2回	リコーダーの基礎知識 I ……歴史、種類、発音原理、名曲の鑑賞	リコーダー(笛全般)の歴史、時代による編成の推移を理解する。	アルトリコーダーの音階を復習する。
第3回	アルトリコーダーの基本奏法 I ……中学生のアルトリコーダー導入指導を想定した模擬授業。(「カノン」)	一般の中学生、高校生の目線に立って、リコーダーを学んでゆく意義を理解する。	「音楽のおくりもの」～姿勢とかまえ方～ ～タンギング～ を確認する。

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第4回	アルトリコーダーの基本奏法Ⅱ……左手の音域ド～ソの運指、正しい息使い、タンギングの種類を確認する。(「しりとりの歌」「喜びの歌」)	安定した息使い、曲想に合ったタンギングをコントロールすることができる。	「New Recorder Library」～リコーダー奏法～を熟読する。～レミファソの練習～で左手の運指・支えに慣れる。
第5回	アルトリコーダーの合奏Ⅰ……左手の音域で様々な楽曲に挑戦する。(「聖者の行進」「オーラリー」)	アーティキュレーションを工夫し、様々な表現ができる。	「New Recorder Library」P7～アーティキュレーション～を実践する。
第6回	ソプラノリコーダーを加えた合奏Ⅰ……左手の音域を使ってソプラノ(テナー)とアルト(バス)の合奏に挑戦する。(「ガヴオット」「マーチ」)	それぞれが少ない音域の中で音を重ね合い、合奏へと仕上がっていく過程を体験し、理解する。	大ききの違うリコーダーの運指に慣れる。
第7回	アルトリコーダーの基本奏法Ⅲ……右手の音域シラソの運指。低音域での息圧、タンギングの留意点。(「アメイジング・グレイス」「バロック・ハウダウン」)	中音域と低音域の息圧、タンギングの違いを理解し、コントロールできる。	「New Recorder Library」P13～低いシの練習2～を様々なテンポ・アーティキュレーションで練習する。
第8回	アルトリコーダーの合奏Ⅱ……右手の音域を使った合奏曲の練習。(「カスタンネットの歌」「あの丘につづく道」)	音程を息圧によりコントロールし、美しいハーモニーを感じることができる。	ここまでの最低音ドから中音域のソまでを、安定した息圧で斑無く響かせられるようにする。
第9回	リコーダーの基礎知識Ⅱ……運指の歴史、他の管楽器との比較、ジャーマン式とバロック式の違い	ジャーマン式とバロック式のフィンガリングのシステムを理解する。	シ、シbの運指に慣れる。
第10回	アルトリコーダーの基本奏法Ⅳ……高音域の練習。サミングの方法、種類。アンブシュアによる音色の変化。(「エーデルワイス」「てんさぐの花」「メヌエット」)	親指をコントロールし、高音域を澄んだ音色で出すことができる。	「New Recorder Library」P15～高いラの練習1～をいろいろなテンポで練習する。
第11回	アルトリコーダーの基本奏法Ⅴ……派生音の練習。クロス・フィンガリングにより全ての派生音に挑戦する。(「星に願いを」「風のとおり道」)	クロス・フィンガリングのシステムを理解する。	クロマチック・スケールの練習。
第12回	ソプラノリコーダーを加えた合奏Ⅱ……テナーを用いてソプラノのバロック式運指を確認。ソプラノ(テナー)とアルト(バス)の編成の楽曲の練習。(「聖アントニー・コラール」)	これまで学んできた音域を自由に使い、様々なジャンルの楽曲を吹きこなすことができる。	合奏時に運指に気を取られ、息使い、タンギングのコントロールが不安定にならないように、しっかりと譜読みをしておく。
第13回	アルトリコーダーの合奏Ⅲ……アルトリコーダーのみの様々な編成の楽曲に挑戦する。(「風のとおり道」「キエフの大門」「大きな古時計」)	基本奏法を駆使し、その楽曲の様式に合った表現ができる。	多くの楽曲を演奏するため、譜読みを徹底させる。
第14回	発表会課題曲の演奏上のポイント……強弱の表現方法、適切なアーティキュレーション等、評価ポイントの確認。	楽曲の曲想を余裕の持って表現ができる。	演奏上のポイントを徹底させる。
第15回	発表会	お互いの演奏を聴き、それぞれの音楽表現を理解し合う。	発表をふり返る

科目名(クラス)	合奏(和楽器を含む)B	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	3
担当教員	金子 健治	履修対象・条件	教職課程履修者は必修				

【授業の「概要」と「目的」】

合奏は教職の単位として必修科目です。教育実習や実際の教育現場において必要なアルトリコーダーの基本奏法を確認し、そこにソプラノ、テナー、バスを重ねた簡単な合奏から、ソプラニーノ、コントラバスを加えた本格的なリコーダー・オーケストラのスタイル、また和楽器・打楽器を加えて出来る簡単な合奏まで、直ぐに授業で役立つ合奏法を体験していきます。そして、単に中学・高校の授業内容にとどまらず、世界の様々なジャンルの名曲に触れることにより、リコーダーを通して様式による表現方法の相違点を認識し、各々の専攻科目の表現を深めていくことを目的とします。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義形式による 教科書に掲載されている楽曲を、受講生全員でパートを割り振り、演奏し仕上げていきます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

合奏を指導するための授業ではありませんが、最低限必要なソプラノ・アルトリコーダーの基本奏法は各々マスターしなければいけません。ソプラノリコーダー(バロック式)・アルトリコーダーを各自用意し、十分な準備・予習をして臨んでください。最終的には大小8種類のリコーダーや様々な打楽器、和楽器を体験することになります。初めての楽器にも積極的に取り組んでください。

教科書	New Recorder Library	著者等	金子 健治	出版社	教育出版社
教科書	いきいきリコーダー アンサンブル編	著者等	金子 健治	出版社	全音楽譜出版社
教科書	中学器楽 音楽のおくりもの	著者等	金子 健治 他	出版社	教育出版社
参考文献	中学生の器楽	著者等	吉澤 実 他	出版社	教育芸術社

【成績評価の「方法」と「基準」】

・各項目毎に担当楽器、パートを決め、合奏を仕上げていく形を取り、その中での理解度・完成度をチェックし評価する。
 ・試験は、指定した数曲のリコーダー四重奏の楽曲の中から一曲を選び、発表会形式で行う。(各項目毎の完成度70%、後期末試験30%)

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第1回	アルトリコーダーの基本奏法の確認・・・前期の基本奏法の復習。(前期試験曲、名曲旋律集)	運指表に頼らず、全ての幹音、派生音の運指を理解し、説明できる。	前期に学習した楽曲を一通り復習する。
第2回	四声の合奏の基礎Ⅰ・・・左手の音域を使った合奏。テナー、バスに慣れる。「マーチ」「ファンファーレ」「さすらい」)	4種類の楽器の運指を理解する。	ソプラノの運指とアルトの運指が混乱しないように練習する。
第3回	四声の合奏の基礎Ⅱ・・・右手の低音域を使った合奏。「月あかりの道」「思い出のクルーズ」)	低音域を豊かに響かせることができる。	不慣れなテナーをソプラノで、バスをアルトで練習し、余裕を持って合奏に臨めるようにする。

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第4回	四声の合奏の基礎Ⅲ・・・高音域まで使った合奏。(「ピタゴラスイッチ」「めぐり逢い」「メロディース・オブ・ライフ」)	楽器の種類による息圧、タンギングのコントロール法の違いを理解し、低音域から高音域までを斑なく響かせることができる。	「New Recorder Library」のサミングの練習曲をいろいろな大きさのリコーダーを想定し練習する。
第5回	ルネッサンス時代の舞曲・歌曲・・・名曲の紹介。当時の管楽器の紹介。(「スザートの舞曲」「バレット」「今こそ別れ」)	ルネッサンス時代の合奏形態とリコーダーとの関係を理解し、説明できる。	「New Recorder Library」巻末の装飾法のルネッサンス部分を熟読する。
第6回	バロック時代の合奏曲Ⅰ・・・時代による装飾法の違い。(「メヌエット」「四季より春」「ブランデンブルグ協奏曲」)	装飾法の代表であるトリルに関して、替え指を駆使し、楽曲の中で演奏できる。	「New Recorder Library」巻末の装飾法のバロック部分を熟読する。
第7回	バロック時代の合奏曲Ⅱ・・・合奏協奏曲、組曲等、典型的なバロック時代の合奏音楽を体験する。(「コレルリの合奏協奏曲」「主よ、人の望みの喜びよ」)	代表的な舞曲「アルマンド」「サラバンド」「メヌエット」「ブーレ」「ジューグ」を理解し、適切なテンポ、アーティキュレーションを説明できる。	各自専攻に関連するバロックの組曲を聴く。
第8回	授業で使えるクラシック名曲集Ⅰ・・・簡単にできる学年合奏、全校合奏のレパートリー。(「威風堂々」「木星」「カヴァレリア・ルスティカーナ～前奏曲」)	大合奏に臨むまでの練習過程を説明できる。	原曲を聴く。
第9回	授業で使えるクラシック名曲集Ⅱ・・・簡単にできる学年合奏、全校合奏のレパートリー。(「ブラームス・交響曲第一番より」)	人数、楽器編成により、適切な配置を説明できる。	原曲を聴く。
第10回	リコーダーによる世界の民族音楽・・・世界の民族による管楽器の演奏方法の違い。タンギングに焦点を集めて、様々な表現方法を体験する。(「風たちの会話」「サリーガーデン」)	民族による表現方法をタンギングの観点から説明できる。	世界の民族音楽を聴く。
第11回	打楽器を加えた合奏・・・音楽室にある小物打楽器。授業に使える民族打楽器の紹介。(「さすらい」「ロンド」「ジューグ」)	楽曲の様式、曲想に合った打楽器を自ら選択し、用いることができる。	「音楽のおくりもの」「いきいきリコーダー アンサンブル編」掲載曲に打楽器を加えた場合のリズムを想定する。
第12回	和楽器の基礎知識・・・尺八、篠笛、石笛、三味線、檜太鼓、締太鼓など、授業で使える和楽器の紹介。西洋と東洋の奏法の違い。(「こきりこ節」「ソーラン節」「八木節」)	リコーダーにより日本民謡を西洋風と日本風に吹分けられることができる。	「音楽のおくりもの」のP30～和楽器の解説を読む。
第13回	和楽器を加えた合奏・・・三味線、締太鼓、檜太鼓、リコーダーによる合奏。(「からくり絵巻」)	日本の笛の奏法でリコーダーを吹くことができる。	「からくり絵巻」を譜読みをする。
第14回	発表会課題曲の演奏上のポイント・・・強弱の表現方法、適切なアーティキュレーション等、試験曲の評価ポイントの確認。	選択した楽曲に合った表現ができる。	演奏上のポイントを徹底させる。
第15回	発表会	お互いの演奏を聴き、それぞれの音楽表現を理解し合う。	発表をふり返る

科目名(クラス)	オペラ研究 I・IIA	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	3・4
担当教員	大島 洋子	履修対象・条件	声楽演奏家コースは必修。声楽専攻のみ履修可。				

【授業の「概要」と「目的」】

オペラの重唱を課題として個々に登場人物の役を振り分け重唱の勉強をする。必ずレチタティーヴォを含みます。独唱と違いパートに分かれて歌うので自分のパートだけでなく相手役のレチタティーヴォも学習します。題材はイタリア語、又はドイツ語なので必ず単語を調べその意味を良く理解しておいて下さい。自分に割り振られた個所だけでなくオペラ全体の筋書きも学習しましょう。

【授業の「方法」と「形式」】

少人数に分かれて指揮者、声楽教員と楽譜を読み歌います。また演出が動きをつけ、演技の勉強をします。

【履修時の「留意点」と「心得」】

アンサンブルなので遅刻、欠席をして相手役に迷惑を掛ける事の無い様にして下さい。第一回目の授業はオペラの役柄を決める為の試聴会です。各自で自選の曲を一曲用意して下さい。演技の基礎講座では動きやすい服装で臨んで下さい。

教科書	フィガロの結婚	著者等	モーツァルト	出版社	ペーレンライター
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

前期は音楽のみの試演会。試演会の点数60%、平常の授業に向ける取り組み20%、出席20%を成績評価とします。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	試聴会を行い、今後の授業における配役を決める		各自、任意に一曲を選び、予習して臨む
第2回	音楽稽古の開始 イタリア語のレチタティーヴォ(朗唱)を読む	正しくイタリア語を発音する	各自決められた曲の意味を調べておく
第3回	音楽稽古の開始 イタリア語のレチタティーヴォ(朗唱)を読む	正しくイタリア語を発音する	同上

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	音楽稽古の開始 イタリア語のレチタターヴォ(朗唱)を読む	正しくイタリア語を発音する	同上
第5回	音楽稽古 旋律を歌う	正確なリズムを刻み音程を意識して正しくイタリア語で歌う	与えられた曲を含むオペラ全体を良く理解する
第6回	音楽稽古 旋律を歌う	正確なリズムを刻み音程を意識して正しくイタリア語で歌う	同上
第7回	音楽稽古 旋律を歌う	正確なリズムを刻み音程を意識して歌う	同上
第8回	音楽稽古 レチタターヴォと重唱を歌う	発声に注意して正しいイタリア語の発語、自分の旋律を意識しながらアンサンブルが出来る様にする	同上
第9回	音楽稽古 レチタターヴォと重唱を歌う	発音に注意して正しいイタリア語の発語、自分の旋律を意識しながらアンサンブルが出来る様にする	レチタターヴォが音、リズムに束縛されすぎずに会話として流れる様に家庭で学習
第10回	音楽稽古 レチタターヴォと重唱を歌う	発声に注意して正しいイタリア語の発語、自分の旋律を意識しながら相手役とアンサンブルが出来ているか、レチタターヴォのタイミングが会話として成り立っているか確認する	同上
第11回	音楽稽古 レチタターヴォと重唱を歌う	オペラ全体の筋を知りその中で与えられた場面の役柄を理解。言葉の意味を良く理解して歌う	同上
第12回	音楽稽古 レチタターヴォと重唱を歌う	オペラ全体の筋を知りその中で与えられた場面の役柄を理解。言葉の意味を良く理解して歌う	同上
第13回	音楽稽古 (レチタターヴォを歌う)	オペラ全体の筋を知りその中で与えられた場面の役柄を理解。言葉の意味を良く理解して歌う	同上
第14回	音楽稽古 (レチタターヴォを歌う)	オペラ全体筋を知り、その中で与えられた役柄を理解。言葉の意味を良く理解して歌う	同上
第15回	音楽のみの試演会	レチタターヴォと旋律を暗譜してこれまで学習してきたオペラの場面の状況を踏まえ表情豊かに歌う	学んだことを振り返り実践してみる

科目名(クラス)	オペラ研究 I・II B	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	3・4
担当教員	大島 洋子	履修対象・条件	声楽演奏家コースは必修。声楽専攻のみ履修可。				

【授業の「概要」と「目的」】

オペラの重唱を課題として役を割り振り、重唱の勉強をします。(必ずレチタティーヴォを含む)
 独唱と違いパートに分かれて歌うので、自分のパートだけでなく相手役のパートのレチタティーヴォと旋律も学習します。
 題材がイタリア語あるいはドイツ語という事も有りますので、単語を調べて意味を理解します。
 自分に割り振られた部分だけでなくオペラ全体のストーリーも勉強します。
 立ち稽古に入ってからでは歌いながら演じるので演じる事が初めての場、すぐにスムーズに動く事は出来ないかもしれません。
 時間を掛けてその役の特徴を掴み安定した歌唱と自然な演技を目指します。

【授業の「方法」と「形式」】

後期には演出家の指示を受けて基礎となる動きを学びオペラの演技に繋がります

【履修時の「留意点」と「心得」】

アンサンブルなので遅刻、欠席をして相手に迷惑を掛けない様に出席して下さい。
 演技の基礎講座では動きやすい服装、靴で臨んで下さい。
 また、演技の試演会のGPまでに自分の役柄に相応しい服装を用意します。

教科書	フィガロの結婚	著者等	モーツァルト	出版社	ベーレンライター
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

後期は衣装を付けて、グランツ・ザールで演技付の試演会を行います・
 試演会の点数60%、平常の授業に向けた取り組み40%を成績評価とします。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	立ち稽古 (立ち稽古に当たらない組は音楽稽古)	大まかな立ち位置を確認	与えられた役について理解 相手役のキャラクターについて 考察
第2回	立ち稽古 (立ち稽古に当たらない組は音楽稽古)	大まかな立ち位置を確認	同上
第3回	立ち稽古 (立ち稽古に当たらない組は音楽稽古)	大まかな立ち位置を確認たち	同上

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	立ち稽古 (立ち稽古に当たらない組は音楽稽古)	立ち位置を決め、音楽のタイミングに合わせて細かい演技を決めて行く	音楽の見直し 音と言葉を再確認
第5回	立ち稽古 (立ち稽古に当たらない組は音楽稽古)	立ち位置を決め、音楽のタイミングに合わせて細かい演技を決めて行く	同上
第6回	立ち稽古 (立ち稽古に当たらない組は音楽稽古)	立ち位置を決め、音楽のタイミングに合わせて細かい演技を決めて行く	同上
第7回	立ち稽古 (立ち稽古に当たらない組は音楽稽古)	正しい発音を意識、正確な言葉と音程で歌える。 キャラクターを自然体で演じる事が出来る	さらに楽譜を見直し役の性格を掘り下げる
第8回	立ち稽古 (立ち稽古に当たらない組は音楽稽古)	正しい発音を意識、正確な言葉と音程で歌える。 キャラクターを自然体で演じる事が出来る	同上
第9回	立ち稽古 (立ち稽古に当たらない組は音楽稽古)	正しい発音を意識、正確な言葉と音程で歌える。 キャラクターを自然体で演じる事が出来る	同上
第10回	立ち稽古 (立ち稽古に当たらない組は音楽稽古)		立ち稽古に併せてまだ改善されていない音楽部分を拾い出し学習する
第11回	立ち稽古 (立ち稽古に当たらない組は音楽稽古)	正しい発声を認識、正確な言葉と音程で歌える。 自分の演じるキャラクターが相手役と噛み合っているか、また全体の流れに添っているか考察	ハウフトプローベ、ゲネラルプローベ、本番に向けて自分の役に相応しい衣装を用意する
第12回	試演会のHP	大道具、小道具を用意。 衣装を付けてグランツ・ザールで本番の様に演じる	ハウフトプローベで使った大道具後、小道具、衣装等の見直しをしてゲネラルプローベに臨む
第13回	試演会のGP	大道具、小道具を用意。 衣装を付けてグランツ・ザールで本番の様に演じる	同上
第14回	試演会	大道具、小道具を用意。 衣装を付けてグランツ・ザールで本番に臨む	同上
第15回	纏め	舞台に立つ意識を持って自分の動作を考察、また、舞台メイクの講習等舞台に立つために必要な要素のレクチャー	同上

科目名(クラス)	朗読法A[ドイツ語]	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	山崎 明美	履修対象・条件	声楽専攻のみ履修可。必修。但し、演奏家コースは履修不可。				

【授業の「概要」と「目的」】

ドイツ歌曲歌唱の際の「言葉への感性」すなわち、言葉の意味を正しく捉え、適確なイメージをつかみ、情感豊かに表現する能力を養うことを目的とする。その為に必要となる美しい発音・言葉の明確な表現・詩への深い理解を得る事を繰り返し演習する。ドイツ語発音の基礎、ドイツ語歌唱の際の基本練習法、歌唱法の基礎を習得する。

【授業の「方法」と「形式」】

講義は演習形式にて行う。また、必要に応じて、DVD、CD等視聴覚機器を使用する。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・毎回次のステップへの重要な内容となる講義である。欠席、遅刻なく、受講する事が必要である。
- ・各自が課題をこなし、常に積極的に取り組む事が必要である。
- ・復習を確実に行う事。

教科書		著者等		出版社	
教科書	・教科書は用いない。適宜、資料を授業内で配布する。	著者等		出版社	
参考文献	・参考文献は授業の中で紹介する。	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

1. 提出されたレポート(35%) [レポートは採点します。]
 2. 平常の演習(35%) [同上]
 3. 学期末の試験(30%) [同上]
- ・上記1. 2. 3. 全ての要素がそろっていること。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	ドイツ語発音の基礎 1 ・母音発音の基礎、特徴的発音の習得	ドイツ語歌唱の際に重要となる、ドイツ語の母音を確立させること。変母音の習得。舞台語としての発音。	・復習: 授業で習得した発音を反復練習に務めること ・予習: 子音の発音の準備を行う
第2回	ドイツ語発音の基礎 2 ・子音発音の基礎、特徴的発音の習得	ドイツ語子音発音の調音点を理解すること。 特徴的子音の発音の理解。	・復習: 授業で習得した発音を反復練習に務めること。 ・予習: 綴り字と発音について各自予習
第3回	ドイツ語発音の基礎 3	ドイツ語の綴り字と発音の理解・習得	・復習: 授業で習得した発音を反復練習に務めること。 ・予習: ゲーテについてのレポートをまとめる

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	ゲーテの詩を読む ・ゲーテについて基本知識を得る。詩の朗読	ドイツ歌曲の分野においても重要な詩人ゲーテの基本的知識を得る。	・復習:ゲーテについてのレポートを提出する。 ・予習:CDでの次回課題の演奏を聴く
第5回	Nur wer die Sehnsucht kennt	多くの作曲家によって作曲されてきた「ミニョンの歌」の一つであることを理解し、正しく発音する事を目標とする。	・復習:母音、子音ともに美しく発音できるように復習する。 ・予習:CDでの次回課題の演奏を聴く
第6回	Das Veilchen	正しく発音する事はもちろん、言葉の内容を理解し、情景をイメージしながら朗読することを目標とする。	・復習:母音、子音ともに美しく発音できるように復習する。 ・予習:CDでの次回課題の演奏を聴く
第7回	Erlkönig	正しく発音する事はもちろん、言葉の内容を理解し、情景をイメージしながら朗読することを目標とする。登場人物の心情を表現する。	・内容を理解して朗読できるように復習する。 ・予習:日本語の詩を用意する
第8回	日本語の詩を朗読 ・日本語の詩を朗読する事を通して、朗読表現とは何かを探る	第6回、第7回の講義で目標とした内容の理解、情景のイメージ、心情のイメージを母国語である日本語の朗読を通して把握することを目標とする。	・予習:ハイネについてのレポートをまとめる
第9回	ハイネの詩を読む ・ハイネについて基本知識を得る。詩の朗読	多くの作曲家によって作曲されているハイネについての基礎知識を得る。	・復習:ハイネについてのレポートを提出する ・予習:CDでの次回課題の演奏を聴く
第10回	“Dichterliebe” より	連作歌曲集「詩人の恋」を取り上げ、美しき確かな発音、内容を理解して表現する事を演習する。	・復習:各自、「詩人の恋」のCDを繰り返し聴き、歌唱におけるドイツ語の発音を耳から学ぶこと。
第11回	“Dichterliebe” より	第10回の講義の内容をさらに進める。	・予習:“Die Myrten”の成立過程を調べる。
第12回	“Die Myrten” より	歌曲集「ミルテの花」を取り上げ、美しき確かな発音、内容を理解して表現する事を演習する。	・復習:各自、「ミルテの花」のCDを繰り返し聴き、歌唱におけるドイツ語の発音を耳から学ぶこと。
第13回	各自詩を朗読 1 ・まとめに向けて各自2編を選び朗読。	本科目の目的であるドイツ語の美しい発音、情感豊かに表現する事を繰り返し演習する。	各自詩を朗読 ・まとめに向けて各自2編を選び朗読。
第14回	各自詩を朗読 2 ・まとめに向けて各自2編を選び朗読。暗記のこと。	・内容を理解して朗読できているか確認しながら、いかに朗読するかを工夫する。	正しく、美しい発音、舞台語としての発声、表現をめざして復習する。
第15回	本科目の総括	本科目の目的であるドイツ語の美しい発音、情感豊かに表現する事を達成出来たかを確認する。	学んだ内容を振り返り、実践に生かす。

科目名(クラス)	朗読法B〔イタリア語〕	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	伊藤 和広	履修対象・条件	声楽専攻のみ履修可。必修。(演奏家コースは履修不可)				

【授業の「概要」と「目的」】

歌唱の際、言葉の意味や詩の内容を十分に理解していることは当然だが、それらをその言語の持つ独自のリズムや正しい発音で表現することは極めて重要なことである。この授業では、歌曲とオペラを題材に、イタリア語の持つ言葉の流れの感覚を養い、7つの母音、様々な子音、音節、アクセントを正しく習得することを目的とする。更には、文法も正しく理解することにより、的確な感情表現が出来るよう、舞台発音法を用いた朗読を繰り返し実践していく。

【授業の「方法」と「形式」】

各回の授業では、説明や実演に加え、CD等機器を使用することもあります。可能な限り朗読を実践していきます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

毎回新しいことを学びますので、遅刻・欠席・早退をしないようにして下さい。朗読ですから感情が伴わなければなりませんので、常に積極的に取り組んでください。教材に関しては、印刷物を毎回配布します。

教科書	イタリア歌曲集、トスティ歌曲集	著者等		出版社	全音楽譜出版社
教科書	歌劇「フィガロの結婚」ヴォーカルスコア	著者等		出版社	ベーレンライター
参考文献	Linea diretta 1	著者等		出版社	Guerra出版社
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

各回の授業内での理解度、習得度を50%、最終回での試験を50%とします。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	イタリア語発音の基礎、イタリア語の持つリズム、発音の実践	イタリア語発音の基礎を理解し、イタリア語の持つリズムで発音できる	予習: これまでに学んできたイタリア語の教科書や詩を読み返しておく
第2回	le vocali(母音)7種類と le consonanti(子音)の基礎 特に難しいものを繰り返し実践	le vocali(母音)7種類と le consonanti(子音)の基礎を習得する	復習: 授業で学んだ難しい発音等を各々試す
第3回	e の閉口音と開口音、o の閉口音と開口音、u 母音、様々な子音 特に難しいものを繰り返し実践	日本人にとって難しい母音と子音を習得する	復習: 授業で学んだ難しい発音等を各々試す

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	長母音と短母音、troncamento(語尾切断)、sillaba(音節)、accento(アクセント) 特に難しいものを繰り返し実践	アクセントの感覚が身に付く	復習: 授業で学んだ難しい発音等を各々試す
第5回	i dittonghi(二重母音)と iato(分離母音)、難しい子音の徹底 特に難しいものを繰り返し実践	母音、子音の細やかな違いに意識して発音できる	復習: 授業で学んだ難しい発音等を各々試す
第6回	Caro mio ben 基本文法のおさらい 特に難しい部分を繰り返し実践	正しい発音、言葉の流れで朗読できる	復習: 授業で学んだ詩を各々朗読する
第7回	Nel piu non mi sento 大切な言葉を明確に 特に難しい部分を繰り返し実践	正しい発音、言葉の流れで朗読できる	復習: 授業で学んだ詩を各々朗読する
第8回	L'ultima canzone 日本語訳でも朗読 特に難しい部分を繰り返し実践	正しい発音、言葉の流れで朗読できる	復習: 授業で学んだ詩を各々朗読する
第9回	Voi che sapete~“Le nozze di Figaro” 日本語訳でも朗読 特に難しい部分を繰り返し実践	正しい発音、言葉の流れで表現し朗読できる	復習: 授業で学んだ詩を各々朗読する
第10回	la metrica(韻律法)、表現する発音へ、古語や方言 特に難しい部分を繰り返し実践	la metrica(韻律法)を理解し、表現できる	復習: 授業で学んだ難しい発音等を各々試す
第11回	文法を理解しながらオペラのrecitativo secco “Le nozze di Figaro”より 特に難しい部分を繰り返し実践	文法を理解し、言葉のキャッチボールをする	予習: “Le nozze di Figaro”のrecitativo seccoを聴く
第12回	“Le nozze di Figaro”より 特に難しい部分を繰り返し実践	文法を理解し、言葉のキャッチボールをする	予習: “Le nozze di Figaro”のrecitativo seccoを聴く
第13回	“Le nozze di Figaro”より 特に難しい部分を繰り返し実践	本科目の目的に沿った正し的確なイタリア語朗読ができる	予習: “Le nozze di Figaro”のrecitativo seccoを聴く
第14回	“Le nozze di Figaro”より 特に難しい部分を繰り返し実践	本科目の目的に沿った正し的確なイタリア語朗読ができる	予習: “Le nozze di Figaro”のrecitativo seccoを聴く
第15回	まとめ	正し的確なイタリア語朗読が自然にできるよう身に付く	学んだことを振り返ってみる。

科目名(クラス)	朗読法(イタリア語) (演奏家コース) I A	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	伊藤 和広	履修対象・条件	声楽演奏家コースのみ履修可。必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

歌唱の際、言葉の意味や詩の内容を十分に理解していることは当然だが、それらをその言語の持つ独自のリズムや正しい発音で表現することは極めて重要なことである。この授業では、歌曲とオペラを題材に、イタリア語の持つ言葉の流れの感覚を養い、7つの母音、様々な子音、音節、アクセントを正しく習得することを目的とする。更には、文法も正しく理解することにより、的確な感情表現が出来るよう、舞台発音法を用いた朗読を繰り返し実践していく。

【授業の「方法」と「形式」】

各回の授業では、説明や実演に加え、CD等機器を使用することもあります。可能な限り朗読を実践していきます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

毎回新しいことを学びますので、遅刻・欠席・早退をしないようにして下さい。朗読ですから感情が伴わなければなりませんので、常に積極的に取り組んでください。教材に関しては、印刷物を毎回配布します。

教科書	イタリア歌曲集、トスティ歌曲集	著者等		出版社	全音楽譜出版社
教科書	歌劇「フィガロの結婚」ヴォーカルスコア	著者等		出版社	ベーレンライター
参考文献	Linea diretta 1	著者等		出版社	Guerra出版社
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

各回の授業内での理解度、習得度を50%、最終回での試験を50%とします。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	イタリア語発音の基礎、イタリア語の持つリズム、発音の実践	イタリア語発音の基礎を理解し、イタリア語の持つリズムで発音できる	予習: これまでに学んできたイタリア語の教科書や詩を読み返しておく
第2回	同上	同上	同上
第3回	le vocali(母音)7種類と le consonanti(子音)の基礎 特に難しいものを繰り返し実践	le vocali(母音)7種類と le consonanti(子音)の基礎を習得する	復習: 授業で学んだ難しい発音等を各々試す

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	同上	同上	同上
第5回	e の閉口音と開口音、o の閉口音と開口音、u 母音、様々な子音 特に難しいものを繰り返し実践	日本人にとって難しい母音と子音を習得する	復習: 授業で学んだ難しい発音等を各々試す
第6回	同上	同上	同上
第7回	長母音と短母音、troncamento(語尾切断)、sillaba(音節)、accento(アクセント) 特に難しいものを繰り返し実践	アクセントの感覚が身に付く	復習: 授業で学んだ難しい発音等を各々試す
第8回	同上	同上	同上
第9回	i dittonghi(二重母音)と iato(分離母音)、難しい子音の徹底 特に難しいものを繰り返し実践	母音、子音の細やかな違いを意識して発音できる	復習: 授業で学んだ難しい発音等を各々試す
第10回	同上	同上	同上
第11回	Caro mio ben 基本文法のおさらい 特に難しい部分を繰り返し実践	正しい発音、言葉の流れで朗読できる	復習: 授業で学んだ詩を各々朗読する
第12回	同上	同上	同上
第13回	Nel piu non mi sento 大切な言葉を明確に 特に難しい部分を繰り返し実践	正しい発音、言葉の流れで朗読できる	復習: 授業で学んだ詩を各々朗読する
第14回	同上	同上	同上
第15回	まとめ	正しい発音、言葉の流れで朗読できる	学んだことを振り返ってみる。

科目名(クラス)	朗読法(イタリア語) (演奏家コース) I B	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	伊藤 和広	履修対象・条件	声楽演奏家コースのみ履修可。必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

歌唱の際、言葉の意味や詩の内容を十分に理解していることは当然だが、それらをその言語の持つ独自のリズムや正しい発音で表現することは極めて重要なことである。この授業では、歌曲とオペラを題材に、イタリア語の持つ言葉の流れの感覚を養い、7つの母音、様々な子音、音節、アクセントを正しく習得することを目的とする。更には、文法も正しく理解することにより、的確な感情表現が出来るよう、舞台発音法を用いた朗読を繰り返し実践していく。

【授業の「方法」と「形式」】

各回の授業では、説明や実演に加え、CD等機器を使用することもあります。可能な限り朗読を実践していきます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

毎回新しいことを学びますので、遅刻・欠席・早退をしないようにして下さい。朗読ですから感情が伴わなければなりませんので、常に積極的に取り組んでください。教材に関しては、印刷物を毎回配布します。

教科書	イタリア歌曲集、トスティ歌曲集	著者等		出版社	全音楽譜出版社
教科書	歌劇「フィガロの結婚」ヴォーカルスコア	著者等		出版社	ベーレンライター
参考文献	Linea diretta 1	著者等		出版社	Guerra出版社
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

各回の授業内での理解度、習得度を50%、最終回での試験を50%とします。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	L'ultima canzone 日本語訳でも朗読 特に難しい部分を繰り返し実践	正しい発音、言葉の流れで朗読できる	復習: 授業で学んだ詩を各々朗読する
第2回	同上	同上	同上
第3回	Voi che sapete~“Le nozze di Figaro” 日本語訳でも朗読 特に難しい部分を繰り返し実践	正しい発音、言葉の流れで表現し朗読できる	復習: 授業で学んだ詩を各々朗読する

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	同上	同上	同上
第5回	同上	同上	同上
第6回	文法を理解しながらオペラのrecitativo secco “Le nozze di Figaro”より 特に難しい部分を繰り返し実践	文法を理解し、言葉のキャッチボールをする	予習：“Le nozze di Figaro”のrecitativo seccoを聴く
第7回	同上	同上	同上
第8回	“Le nozze di Figaro”より 特に難しい部分を繰り返し実践	同上	同上
第9回	同上	同上	同上
第10回	la metrica(韻律法)、表現する発音へ、古語や方言 特に難しい部分を繰り返し実践	la metrica(韻律法)を理解し、表現できる	復習：授業で学んだ難しい発音等を各々試す
第11回	同上	同上	同上
第12回	“Le nozze di Figaro”より 特に難しい部分を繰り返し実践	本科目の目的に沿った正し的確なイタリア語朗読ができる	復習：授業で学んだ詩を各々朗読する
第13回	同上	同上	同上
第14回	これまでの復習 まとめ①	同上	復習：これまでの授業で学んできたことをきちんと整理し、試験に向け各々朗読する
第15回	まとめ②	正し的確なイタリア語朗読が自然にできるよう身に付く	学んだことを振り返ってみる。

科目名(クラス)	朗読法〔ドイツ語〕 (演奏家コース)ⅡA	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	武藤 直美	履修対象・条件	声楽演奏家コースのみ履修可。必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

如何にして舞台から明瞭な言語を届けられることができるかは声楽を学ぶにあたり必須のテーマである。芸術歌曲を題材に、詩の持つ美しさを理解し、歌うためのドイツ語の正しい発音を身につける。詩と音楽の融合、詩人と作曲家についても勉強する。

【授業の「方法」と「形式」】

授業は演習形式で行う。

【履修時の「留意点」と「心得」】

遅刻、欠席はせず、積極的に授業に取り組むこと。予習、復習は行うこと。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業における発音能力の進歩具合50% 期末試験50%とする。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	ドイツ語発音の基礎、Vokale 母音ー長(短)母音	正しい発音を習得する	復習-授業で演習したことを繰り返し練習する。
第2回	ドイツ語発音の基礎、Konsonanten 子音	開口音、破裂音、摩擦音、破擦音などの子音を正しく発音する	復習-授業で演習したことを繰り返し練習する。
第3回	同上	同上	同上

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	ドイツ語発音の基礎、Rhythmus 韻律と Dynamik 強弱法	正しい発音を習得する	復習-授業で演習したことを繰り返し練習する
第5回	同上	同上	予習-次回の授業で行うテキストの単語の意味、発音記号を調べる 復習-授業で演習したことを繰り返し練習する
第6回	Heidenroeslein	詩の内容を理解し正しい発音で朗読する	予習-次回の授業で行うテキストの単語の意味、発音記号を調べる 復習-授業で演習したことを繰り返し練習する
第7回	Gretchen am Spinnrade	詩の内容を理解し正しい発音で朗読する	予習-ゲーテとシューベルトについて調べる 復習-授業で演習したことを繰り返し練習する
第8回	Gretchen am Spinnrade ゲーテとシューベルト	詩人と作曲家についての知識を高める	予習-次回の授業で行うテキストの単語の意味、発音記号を調べる 復習-授業で演習したことを繰り返し練習する
第9回	Ganymed	詩の内容を理解し正しい発音で朗読する	復習-授業で演習したことを繰り返し練習する。
第10回	同上	同上	予習-次回の授業で行うテキストの単語の意味、発音記号を調べる 復習-授業で演習したことを繰り返し練習する
第11回	Die Lotusblume	詩の内容を理解し正しい発音で朗読する	予習-次回の授業で行うテキストの発音記号と内容を調べる ハイネについて調べる 復習-授業で演習したことを繰り返し練習する
第12回	Die Lotusblume Du bist wie eine Blume ハイネ	詩の内容を理解し正しい発音で朗読する 詩人についての知識を高める	予習-次回の授業で行うテキストの発音記号と内容を調べる シューマンについて調べる 復習-授業で演習したことを繰り返し練習する
第13回	Widmung シューマン	詩の内容を理解し正しい発音で朗読する 作曲家について知識を高める	予習-次回の授業で行うテキストの発音記号と内容を調べる リュッケルトについて調べる 復習-授業で演習したことを繰り返し練習する
第14回	Aus den oestlichen Rosen リュッケルト	詩の内容を理解し正しい発音で朗読する 詩人についての知識を高める	”
第15回	まとめ	歌うためのドイツ語の発音を確実に身につけている。詩の持つ美しさを理解し朗読できる。	授業を振り返る。

科目名(クラス)	朗読法(ドイツ語) (演奏家コース)ⅡB	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	武藤 直美	履修対象・条件	声楽演奏家コースのみ履修可。必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

如何にして舞台から明瞭な言語を届けられることができるかは声楽を学ぶにあたり必須のテーマである。芸術歌曲では詩の持つ美しさを理解し、オペラでは登場人物の心情をイメージしながら台詞を自然に美しく発音できるようにする。

【授業の「方法」と「形式」】

授業は演習形式で行う。DVDなどの視聴覚器を必要時に用いる。

【履修時の「留意点」と「心得」】

遅刻、欠席はせず、積極的に授業に取り組むこと。予習、復習は行うこと。

教科書	オペラ「魔笛」ヴォーカルスコア	著者等		出版社	ベーレンライター
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

発音能力の進歩具合20%中間試験30%期末試験50%とする。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	「Liederkreis」Op. 39 より	詩の内容を理解し正しい発音で朗読する	予習-次回の授業で行うテキストの発音記号と内容を調べる リーダクライスとアイヒェンドルフについて調べる
第2回	「Liederkreis」Op. 39 より アイヒェンドルフ	詩の内容を理解し正しい発音で朗読する 詩人についての知識を高める	予習-次回の授業で行うテキストの単語の意味、発音記号を調べる 復習-授業で演習したことを繰り返し練習する
第3回	「Liederkreis」Op. 39 より	詩の内容を理解し正しい発音で朗読する	予習-次回の授業で行うテキストの単語の意味、発音記号を調べる 復習-授業で演習したことを繰り返し練習する

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	「Liederkreis」Op. 39 より	詩の内容を理解し正しい発音で朗読する	予習-次回の授業で行うテキストの単語の意味、発音記号を調べる 復習-授業で演習したことを繰り返し練習する
第5回	同上	同上	同上
第6回	「Liederkreis」Op. 39 より	詩の内容を理解し正しい発音で朗読する	予習-次回の授業で行うテキストの単語の意味、発音記号を調べる 復習-授業で演習したことを繰り返し練習する
第7回	同上	同上	復習-第一回の授業より演習したことを繰り返し練習する。
第8回	第1回からのまとめ	歌うためのドイツ語の発音を確実に身につけている。詩の持つ美しさを理解し朗読できる。	予習-オペラ「魔笛」の内容、モーツァルトについて調べる
第9回	「Die Zauberfloete」 モーツァルト	オペラ「魔笛」と作曲家について知識を高める	復習-授業で演習したことを繰り返し練習する。
第10回	「Die Zauberfloete」より登場人物の台詞を抜粋し演習	舞台から明瞭なドイツ語を届けられることができるよう、内容を理解したうえで表現できる	復習-授業で演習したことを繰り返し練習する。
第11回	同上	同上	同上
第12回	「Die Zauberfloete」より日本語での台詞演習	日本語の台詞により内容をより理解し表現できる	予習-授業での演習を生かし言語で繰り返し練習
第13回	「Die Zauberfloete」より 言語での台詞を暗記	舞台から明瞭なドイツ語を届けられることができるよう、内容を理解したうえで自然に表現できる	〃
第14回	同上	同上	〃
第15回	第9回からのまとめ	舞台から明瞭なドイツ語を届けられることができるよう、内容を理解したうえで美しいドイツ語が発音でき自然に表現できる	授業を振り返る。

科目名(クラス)	ピアノアンサンブルA	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	田中 梢	履修対象・条件	ピアノ専攻のみ履修可				

【授業の「概要」と「目的」】

ピアノアンサンブルの演奏を通じて、共演者と呼吸を合わせる事、お互いの音を聴き合い音楽を作り上げることを学ぶ。シューベルトとブラームスを通じて室内乐的演奏の基礎を学ぶ。

【授業の「方法」と「形式」】

お互いにパートナーを選んで組を作り与えられた課題をこなしてゆく。組ごとの到達度によってそれぞれに合った課題を選ぶ。

【履修時の「留意点」と「心得」】

パートナーがなければ成り立たない授業なのでお互いを思いやる心を忘れずに。それぞれが必ず練習してくることと欠席しないことが重要です。又各組の力量と到達度によってシラバスは流動的になります。

教科書	その都度用意します。又は指示します	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

前期の試演会の演奏評価30%。出席及び平常の授業意欲70%。

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第1回	自己紹介(音楽を使った)とパートナー決め	音楽を使って自分を表現する。 自分に合った相手を見つける	なし
第2回	小品によるアンサンブル演習	パートナーに慣れる	課題の予習
第3回	シューベルトの連弾曲	シューベルトの室内乐的要素を学ぶ	音源を聴く。譜読みする。

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第4回	同	アンサンブルの完成	パートナーと合わせる
第5回	ブラームスの連弾曲「ワルツ集」	ブラームスの室内楽的要素を学ぶ。ブラームスのワルツについて学ぶ	音源を聴く。譜読みする。
第6回	同	アンサンブルの完成	パートナーと合わせる
第7回	ブラームスの連弾曲「ハンガリア舞曲集」	ブラームスの室内楽的要素を学ぶ。ハンガリア舞曲について学ぶ。	音源を聴く。譜読みする。
第8回	同	アンサンブルの完成①	パートナーと合わせる
第9回	同	アンサンブルの完成②	同
第10回	同	アンサンブルの完成③	同
第11回	自由課題	演奏してみたい演目を探して準備する	曲目を探す。譜読みする。
第12回	同	アンサンブルの完成①	パートナーとの合わせ
第13回	同	アンサンブルの完成②	同
第14回	前期試演会ゲネプロ	前期に学習した曲のまとめ	同
第15回	前期試演会	お互いの演奏を聴いて批評する。自身の演奏を聴いてもらうことで反省する	同

科目名(クラス)	ピアノアンサンブルB	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	田中 梢	履修対象・条件	ピアノ専攻のみ履修可				

【授業の「概要」と「目的」】

ピアノアンサンブルの演奏を通じて共演者と呼吸を合わせること、お互いの音を聴き合い音楽を作り上げることを学ぶ。前期で学習したことをもとに更にさまざまなスタイルの音楽、様々な作曲家の作品を学び自身のピアノ演奏への向上に役立てる。

【授業の「方法」と「形式」】

お互いにパートナーを選んで組を作り与えられた課題をこなしてゆく。組ごとの到達度によってそれぞれに合った課題を選ぶ。

【履修時の「留意点」と「心得」】

パートナーがなければ成り立たない授業なのでお互いを思いやる心を忘れずに。それぞれが必ず練習してくることと欠席しないことが重要です。又各組の力量と到達度によってシラバスは流動的になります。

教科書	その都度指示	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

後期の試演会の演奏評価30%。出席及び普段の授業意欲70%

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第1回	サンサーンス「動物の謝肉祭」	動物の謝肉祭を知る。	音源を聴く。演目を選ぶ
第2回	同	アンサンブルの完成①	パートナーと合わせる
第3回	同	アンサンブルの完成②	同

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第4回	フランスの作曲家のアンサンブル曲	フランスの作曲家のアンサンブル曲を知る	音源を聴く
第5回	同	フランス音楽のエッセンスと演奏法を学ぶ	演目を決めて譜読みする。
第6回	同	アンサンブルの完成①	パートナーとの合わせ
第7回	同	アンサンブルの完成②	同
第8回	自由課題	演奏したい演目を探して準備する	演目を調べて音源を聴く
第9回	同	アンサンブルの完成①	パートナーとの合わせ
第10回	同	アンサンブルの完成②	同
第11回	クリスマス音楽の連弾曲	クリスマスの音楽を知り演奏法を学ぶ	譜読みとパートナーとの合わせ
第12回	ぐるぐるピアノなど	さまざまなスタイルのアンサンブルを学ぶ	同
第13回	後期試演会ゲネプロ	後期に学習したことのまとめ	同
第14回	後期試演会	お互いの演奏を聴き批評する。自身の演奏の反省をする。	同
第15回	一年間の総括	一年間に学習したことのまとめ	同

科目名(クラス)	チェンバロ研究 I A	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	3
担当教員	梶山 希代	履修対象・条件	ピアノ専攻科目				

【授業の「概要」と「目的」】

・16世紀後半から18世紀末(ルネサンス～バロック時代)、およそ250年にわたりヨーロッパ各地で愛好された撥弦楽器チェンバロについて、構造・様式・歴史的背景を踏まえ多角的な面から取り上げる。
 ・ピアノとの奏法および鍵盤語法の違いを理解し、撥弦楽器のタッチに親しむこと、バロック時代の鍵盤作品へのアプローチの仕方を学ぶことを目的とする。そのための基本的な実技演習を行う。
 ・今年度は主にF.クーブラン「クラヴサン奏法」とJ.S.バッハ「クライネプレリュード」を教材として使用。

【授業の「方法」と「形式」】

講義と演習形式。可能な限り楽器に触れる時間をとりながら、必要に応じCD等も使用する。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・受講者の積極性と任意性を最重要視。
- ・実技課題は毎回充分な準備の上、授業に臨むこと。
- ・質問・意見は活発に。
- ・正当な理由がない限り、遅刻・途中退回は認めない。

教科書	使用しない。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	必要に応じ資料配布。	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

・学期末定期試験(実技)70%
 ・授業態度(平常点)30% 授業に対する積極性、実技課題への取り組み方とその内容、質問や感想等、自発的発言の有無、教師からの問いかけに対する反応、以上が判断基準となる。したがって、発言および反応無しの受身の姿勢が目立つ者は評価されない。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	チェンバロとは何か、そのルーツと楽器の構造	撥弦鍵盤楽器への関心と探究心を養う。	復習:チェンバロのアクションについて各部分の必要最低限の名称と機能を把握しておく。
第2回	チェンバロの発音原理	チェンバロの発音アクションについて説明できる。	同上
第3回	チェンバロのタッチとアーティキュレーション	アーティキュレーションの意味と必要性を理解する。	同上

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	バロック時代のチェンバロ以外の撥弦鍵盤楽器	各楽器の形状の違いと名称を説明できる。	同上
第5回	楽器の変遷とピリオド楽器の復興	ピリオド楽器とは何か、またその特徴を理解する。	予習:予備知識として17世紀以降19世紀初頭までの音楽史の流れを把握しておく。
第6回	チェンバロの様式①初期イタリア	同上	復習:初期イタリアのチェンバロの音色、イメージを把握。
第7回	チェンバロの様式②初期フランドル	チェンバロ製作の歴史において二つの大きな源流となったイタリアとフランドルのスタイルへの理解。	復習:初期イタリアのチェンバロとの違いを把握。
第8回	チェンバロの様式③後期フランドル	後期フランドル独自の機能を理解する。	同上
第9回	チェンバロの様式④フランス	フランドル様式の影響と、その後の発展を理解する。	復習:オリジナル楽器の音を通して、フランスの音色をイメージする。
第10回	チェンバロの様式⑤ドイツ	同上	同上
第11回	チェンバロの様式⑥イギリス	イギリス独自のレジスター機能とその効果を理解する。	復習:各時代と地域ごとのスタイルと特色について一通り説明する。
第12回	実技演習①主に18世紀の簡易な鍵盤作品を課題として取り上げる。	同上	予習:バロック時代の主な作曲家と代表的な鍵盤作品について、どのようなものがあるか調べておく。
第13回	実技演習②	同上	同上
第14回	実技演習③	同上	同上
第15回	実技演習④	18世紀の鍵盤音楽の語法を理解し、必要なアーティキュレーションを実践できる。	復習:課題として取り上げた作品のアーティキュレーションを基に、各自の表現において応用してみる。

科目名(クラス)	チェンバロ研究 I B	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	3
担当教員	梶山 希代	履修対象・条件	ピアノ専攻科目				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・チェンバロ演奏においては様式感に基づいた装飾や即興の実践が必要不可欠となる。そのため最低限の装飾の種類と名称を理解し、実技演習を通して実践する。
- ・チェンバロは奏者が自分で調律をする楽器であるため、簡単な調律実習を行う。
- ・バロック音楽を学ぶ上で、その土台となる通奏低音の知識が欠かせないことから、数字付き低音による伴奏法の基礎的能力を身につける。

【授業の「方法」と「形式」】

講義と実技演習形式。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・課題の種類と難易度も上がるため、十分な準備を必要とする。
- ・準備不足の者は出席を認めない。

教科書	使用しない。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	必要に応じ資料配布。	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

学期末定期試験(実技)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	チェンバロ音楽における装飾の種類と名称	最低限の装飾の名称と奏法を理解する。	復習:17世紀と18世紀の装飾の違いを把握する。
第2回	装飾の実践①18世紀フランスの実例	作曲家によって異なる名称と記号を理解し、正確に弾くことができる。	予習:作曲家ごとの装飾表にある表記の違いと奏法を確認しておく。
第3回	装飾の実践②ドイツとイギリスの実例	J.S.バッハ「クライネプレリュード」における装飾を正しく弾くことができる。	同上

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	装飾の実践③イタリア風の任意な装飾の実例	記号として表記されない即興的な装飾を理解する。	復習:フランスとイタリアの装飾スタイルの違いを把握。
第5回	調律実習①	バロック時代に用いられた代表的な不等分律を理解する。	予習:現在のピアノに主に用いられている調律法について調べておく。
第6回	調律実習②	二音間に生じる「うなり」を聞き取る。	同上
第7回	調律実習③17世紀と18世紀の調律の実例	調律によって作り出される響きの違いを体験する。	復習:12平均律との響きの違いを把握。
第8回	通奏低音奏法①数字付き低音とは何か、その機能と室内楽における役割	同上	同上
第9回	通奏低音奏法②和音の機能と終止形	＃ ♭ 三つまでの長短調のカデンツを配置を変えて正しい連結で弾くことができる。	予習:二年次までの必修和声学で学習した内容を一通り確認しておく。
第10回	通奏低音奏法③基本形による和音の連結	同上	同上
第11回	通奏低音奏法④第1転回形の和音を含む低音課題	バロック時代の通奏低音独自の表記の仕方を理解する。	同上
第12回	通奏低音奏法⑤第2転回形の和音を含む低音課題	同上	同上
第13回	通奏低音奏法⑥繋留和音を含む低音課題	繋留と第2転回を含むカデンツを正しい連結で弾くことができる。	予習:課題として取り上げた和音進行において留意すべきことをまとめておく。
第14回	通奏低音奏法⑦第1、第2転回形および繋留和音を含む4～8小節程度の低音課題	数字譜を見ながら、出来れば簡単な課題を初見で弾くことができる。	通奏低音における各数字の意味を一通り把握。
第15回	本科目の総括	チェンバロの構造と様式について説明でき、適切なアーティキュレーションを実践できる。簡単な通奏低音課題をリアリゼーションを伴って弾くことができる。	同上

科目名(クラス)	チェンバロ研究ⅡA	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	4
担当教員	梶山 希代	履修対象・条件	ピアノ専攻科目				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・チェンバロ研究Ⅰで学んだ奏法の基本を踏まえた上で、より撥弦楽器のタッチに習熟することを目指す。
- ・通奏低音による伴奏法の理解を深め、各自がリアリゼーションした譜面を用いてアンサンブル実習を行う。
- ・初期・盛期バロックのレパートリーからチェンバロ独自の語法を活かした作品を取り上げ、各時代の様式感を理解する。

【授業の「方法」と「形式」】

講義と実技演習形式。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・実技課題・アンサンブル課題は十分な準備をした上で授業に臨むこと。
- ・演習ではお互いに感想や意見を率直に伝え合うよう心がける。
- ・正当な理由がない限り、遅刻・途中退席は認めない。

教科書	使用しない。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	必要に応じ資料配布。	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・全授業を通しての受講態度とその内容により評価する。
- ・判断の基準は、各課題の習熟度、授業に対する積極的な姿勢が見られたか、発言の有無と内容、これらを総合的に見て判断する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	通奏低音による伴奏法①7の和音を含む低音課題	7の和音とその転回形を含む低音譜のリアリゼーションを実施できる。	予習:チェンバロ研究Ⅰで扱った和音とその進行についてまとめておく。
第2回	通奏低音による伴奏法②7の和音の転回形 第1転回形	同上	同上
第3回	通奏低音による伴奏法③7の和音の第2、第3転回形	同上	復習:課題として取り上げた全ての数字とその実践について留意すべきことを一通り把握。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	通奏低音による伴奏法④より実践的なリアリゼーション	同上	予習:バッハ、ヘンデル、ヴィヴァルディ等代表的なバロック時代の室内楽作品(いずれか一曲でよい)の現代譜に目を通しておく。
第5回	通奏低音奏法による伴奏法⑤多様な作品への対応	通奏低音奏者の役割を理解し、適切なリアリゼーションを実施できる。	同上
第6回	通奏低音による伴奏法⑥作品の音楽的構成と和声感への理解	各作品のアフェクトに即した表現と和声感の違いを出しながら演奏できる。	復習:即興演奏としての通奏低音の奏法を把握。
第7回	アンサンブル実習①各自の課題決定	同上	同上
第8回	アンサンブル実習②課題の和音付け	同上	同上
第9回	アンサンブル実習③課題の和音付けの続き	ファクシミリ譜に親しみ、その譜面からアフェクトを読み取る。	同上
第10回	アンサンブル実習④課題のリアリゼーション譜を完成させる	リアリゼーション譜を基に音楽的表現の習熟を目指す。	同上
第11回	アンサンブル実習⑤	同上	同上
第12回	アンサンブル実習⑥ソリストとの合わせ	同上	同上
第13回	アンサンブル実習⑦ソリストとの合わせ	低音の役割を理解しながら、ソリストの要求に応えることができる。	同上
第14回	アンサンブル実習⑧課題の仕上げ	選択した課題を一通り弾く。	同上
第15回	アンサンブル実習のまとめ 各自の課題発表とディスカッション	数字譜に慣れ、なおかつ簡易な作品において即興で弾くことができる。	復習:現代譜とファクシミリ譜を比較し、違いや問題点を把握。

科目名(クラス)	チェンバロ研究ⅡB	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	4
担当教員	梶山 希代	履修対象・条件	ピアノ専攻科目				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・後期ルネサンスおよび17世紀初期バロックのレパートリーを中心に、チェンバロ独自の語法を活かした作品を取り上げ、バロック音楽の重要な諸形式とその様式への理解を深める。
- ・当時の文献(作曲者による序文等)にも当り、作品が生まれた源泉を識る。

【授業の「方法」と「形式」】

講義と実技演習形式。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・毎回の実技演習は各自の演奏解釈発表の場と捉え、可能な限りディスカッションしながら進める。
- ・常に自分の言葉で意見や感想を述べるよう心がける。
- ・批判にさらされる事に慣れること。
- ・課題の準備を怠る者は、他の受講者の妨げになるので出席を認めない。

教科書	使用しない。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	必要に応じ資料配布。	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

チェンバロ研究ⅡAに準じる。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	ルネサンス～バロック期の鍵盤作品における諸形式	ルネサンスの反動としてのバロックの美学を理解する。	予習:バロック時代の鍵盤音楽の形式について、主にどのようなものがあるか調べておく。
第2回	①プレリュード	バロック時代における形式の一つとして「自由なフォルム」による様式を理解する。	同上
第3回	②トッカータ(ルネサンス末期)	プレリュードと並ぶ自由な形式に親しむ。	同上

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	③トッカータ(初期バロック)	バロックの美学を代表する17世紀のトッカータを理解する。	同上
第5回	④カンツォーナ	「自由なフォルム」と対照を成す「厳格なフォルム」による様式を理解する。	同上
第6回	⑤ファンタジア	同上	復習:自由な形式と厳格な形式について、様式の違いを一通り把握。
第7回	⑥舞曲	器楽曲として様式化された舞曲の基本となるビート感を理解する。	予習:バロック時代の舞曲について、どのようなものがあるか調べておく。
第8回	⑦組曲	各舞曲の特徴を表現することができる。	復習:主な舞曲の種類を挙げ、その特徴を一通り把握。
第9回	⑧標題付きおよび描写的作品	標題の意味を理解し、描写の対象となるものに即したアフエクトを表現できる。	復習:授業で取り上げた諸形式と作品について列挙しながら特長を確認。
第10回	実技演習①	授業で取り上げた様々な形式への理解を深め、さらに様式感をもった演奏への習熟を目指す。	同上
第11回	実技演習②	同上	同上
第12回	実技演習③	同上	同上
第13回	実技演習④	同上	同上
第14回	実技演習⑤	バロックとは何か、チェンバロ音楽に顕れたその特質を簡潔に説明することができる。	同上
第15回	本科目の総括	17～18世紀までの鍵盤音楽の諸形式と様式を理解し、具体的な作品名を挙げて説明できる。おなかつ演奏において、それを実践できることが望ましい。	復習:総まとめとしてチェンバロ独自の語法やバロック音楽の特質と美学について自分の言葉でまとめてみる。

科目名(クラス)	オーケストラⅠ・Ⅱ・Ⅲ・ⅣA	開講学期	前期	単位数	各1	配当年次	1~4
担当教員	田中 良和	履修対象・条件	管弦打楽器専攻は「ウィンドオーケストラⅠ・Ⅱ・Ⅲ・ⅣA」とのいずれか必修。 管弦打楽器専攻以外はⅠ・ⅡABのみ履修可。教職特設コースはⅠABのみ履修可。 演奏家コースは履修不可				

【授業の「概要」と「目的」】

年間の授業を通し、音楽の美しさ、楽しさを共有し、今年度行う全ての演奏会で、その時出来る最高の演奏を披露する。

【授業の「方法」と「形式」】

オーケストラのリハーサル、および演奏会

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・リハーサルの開始時間厳守
- ・事前に練習し、授業に出席すること
- ・演奏する作品のスコアを持参すること

教科書	著者等	出版社
教科書	著者等	出版社
参考文献	著者等	出版社
参考文献	著者等	出版社

【成績評価の「方法」と「基準」】

出席、演奏姿勢、音楽性、準備度、などを総合的に評価する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習（予習・復習）
第1回	東邦祭りリハーサル：ベートーヴェン「エグモント」 序曲：交響曲No.5：モーツァルト「フィガロの結婚」 より：「コシ・ファン・トゥッテ」より：〔ドンジョヴァンニ〕より		
第2回	同上		
第3回	同上		

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習（予習・復習）
第4回	定期演奏会・トライアルコンサート・ オーケストラフェスティバル等の為の楽曲練習		
第5回	〃		
第6回	〃		
第7回	〃		
第8回	〃		
第9回	〃		
第10回	〃		
第11回	〃		
第12回	〃		
第13回	〃		
第14回	〃		
第15回	〃		

科目名(クラス)	オーケストラⅠ・Ⅱ・Ⅲ・ⅣB	開講学期	後期	単位数	各1	配当年次	1~4
担当教員	田中 良和	履修対象・条件	管弦打楽器専攻は「ウィンドオーケストラⅠ・Ⅱ・Ⅲ・ⅣB」とのいずれか必修。 管弦打楽器専攻以外はⅠ・ⅡABのみ履修可。教職特設コースはⅠABのみ履修可。 演奏家コースは履修不可				

【授業の「概要」と「目的」】

オーケストラのリハーサル、および演奏会を通して、音楽の美しさ、楽しさ、素晴らしさを共有し、今年度行われる4回の演奏会でその場でできる、最高の演奏を聴衆に聴いていただく。

【授業の「方法」と「形式」】

オーケストラのリハーサル、および演奏会

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・ リハーサルの開始時間厳守
- ・ 事前に練習し、授業に出席すること
- ・ 演奏する作品のスコアを持参すること

教科書	著者等	出版社
教科書	著者等	出版社
参考文献	著者等	出版社
参考文献	著者等	出版社

【成績評価の「方法」と「基準」】

出席、演奏姿勢、音楽性、準備度、などを総合的に評価する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習（予習・復習）
第1回	定期演奏会・トライアルコンサート・オーケストラフェスティバル等の為の楽曲練習		
第2回	〃		
第3回	〃		

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習（予習・復習）
第4回	定期演奏会・トライアルコンサート・ オーケストラフェスティバル等の為の楽曲練習		
第5回	〃		
第6回	〃		
第7回	〃		
第8回	〃		
第9回	〃		
第10回	〃		
第11回	〃		
第12回	〃		
第13回	〃		
第14回	〃		
第15回	〃		

科目名(クラス)	ウインドオーケストラ I・II・III・IVA	開講学期	前期	単位数	各1	配当年次	1～4
担当教員		履修対象・条件	全専攻・管弦打楽器専攻はオーケストラI～IVとのいずれか必修。管弦打楽器専攻以外はI・IIのみ履修可。但し、声楽・ピアノ演奏家コースは履修不可。声楽・ピアノ教職特設コースはIのみ履修可。(但し、相応の演奏技量が必要)				

【授業の「概要」と「目的」】

この授業では、吹奏楽を通じて、基本的合奏能力の向上と表現能力の幅を広げることによりポイントを置く。合奏において、自分のパート譜をどのような役割でどう演奏すべきかをよく理解させ、その中で自己表現ができる力を育成する。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

自分に与えられたパート譜は事前にしっかりと練習して、授業に臨んで欲しい。出来る限り高いレベルに持っていきたいので、各パートとも曲ごとに1番奏者がしっかりとまとめてもらいたい。これも重要な学ぶべきことです。

教科書	その都度準備します	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

演奏に向かう姿勢、積極的な授業への取り組みを総合的に評価します。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	東邦祭オープニングコンサートの為の楽曲練習	より優れた表現、より優れたアンサンブル	パート譜の個人練習、セクション練習
第2回	〃	〃	〃
第3回	〃	〃	〃

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	音楽鑑賞教室の為の楽曲練習	〃	〃
第5回	〃	〃	〃
第6回	〃	〃	〃
第7回	〃	〃	〃
第8回	〃	〃	〃
第9回	・レパートリーの拡大 ・初見能力強化 ・その他	〃	〃
第10回	〃	〃	〃
第11回	〃	〃	〃
第12回	〃	〃	〃
第13回	〃	〃	〃
第14回	〃	〃	〃
第15回	まとめ		

科目名(クラス)	ウインドオーケストラ I・II・III・IVB	開講学期	後期	単位数	各1	配当年次	1～4
担当教員		履修対象・条件	全専攻・管弦打楽器専攻はオーケストラI～IVとのいずれか必修。管弦打楽器専攻以外はI・IIのみ履修可。但し、声楽・ピアノ演奏家コースは履修不可。声楽・ピアノ教職特設コースはIのみ履修可。(但し、相応の演奏技量が必要)				

【授業の「概要」と「目的」】

この授業では、吹奏楽を通じて、基本的合奏能力の向上と表現能力の幅を広げることによりポイントを置く。合奏において、自分のパート譜をどのような役割でどう演奏すべきかをよく理解させ、その中での自己表現ができる力を育成する。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

自分に与えられたパート譜は事前にしっかりと練習して、授業に臨んで欲しい。出来る限り高いレベルに持っていきたいので、各パートとも曲ごとに1番奏者がしっかりとまとめてもらいたい。これも重要な学ぶべきことです。

教科書	その都度準備します	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

演奏に向かう姿勢、積極的な授業への取り組みを総合的に評価します。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	定期演奏会の為の楽曲練習	より優れた表現、より優れたアンサンブル	パート譜の個人練習、セクション練習
第2回	〃	〃	〃
第3回	〃	〃	〃

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	〃	〃	〃
第5回	〃	〃	〃
第6回	〃	〃	〃
第7回	〃	〃	〃
第8回	〃	〃	〃
第9回	〃	〃	〃
第10回	〃	〃	〃
第11回	作曲専攻作品の試奏	〃	〃
第12回	作曲専攻作品の試奏	〃	〃
第13回	作曲専攻作品の試奏	〃	〃
第14回	作曲専攻作品の試奏	〃	〃
第15回	まとめ		

科目名(クラス)	総合作曲演習ⅢA	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1～4
担当教員	井上 淳司	履修対象・条件	音楽創造専攻生				

【授業の「概要」と「目的」】

作曲の実践を行うことを前提に、歴史的変遷を踏まえた過去の作曲技法を現代に生かすため、あらゆる角度の視点から考察する訓練を行いたい。

【授業の「方法」と「形式」】

学生個々の技術に結びつけて議論を進めながら、作曲に対する意識も高めて行きたい。

【履修時の「留意点」と「心得」】

各自の自由な発想、さまざまな視点による考察を持って切磋琢磨する場を作って欲しい。そのための準備を怠らないよう積極的な授業態度を希望する。

教科書	特になし	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	その都度譜面等を用意すること	著者等		出版社	
参考文献	特になし	著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

平常研究50%、レポート50%。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	音楽の書法—動機	18世紀末から19世紀中葉までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽を研究する。	既知の作曲家たちの書法を明らかにしその後への影響等を研究する。
第2回	音楽の書法—動機	18世紀末から19世紀中葉までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽を研究する。	既知の作曲家たちの書法を明らかにしその後への影響等を研究する。
第3回	音楽の書法—小楽節	18世紀末から19世紀中葉までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽を研究する。	既知の作曲家たちの書法を明らかにしその後への影響等を研究する。

前期：【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	音楽の書法—小楽節	18世紀末から19世紀中葉までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽を研究する。	既知の作曲家たちの書法を明らかにしその後への影響等を研究する。
第5回	音楽の書法—大楽節	18世紀末から19世紀中葉までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽を研究する。	既知の作曲家たちの書法を明らかにしその後への影響等を研究する。
第6回	音楽の書法—大楽節	18世紀末から19世紀中葉までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽を研究する。	既知の作曲家たちの書法を明らかにしその後への影響等を研究する。
第7回	音楽の書法—一部形式	18世紀末から19世紀中葉までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法の特徴を研究する。	既知の作曲家たちの書法を明らかにしその後への影響等を研究する。
第8回	音楽の書法—一部形式	18世紀末から19世紀中葉までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法の特徴を研究する。	既知の作曲家たちの書法を明らかにしその後への影響等を研究する。
第9回	音楽の書法—二部形式	18世紀末から19世紀中葉までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法の特徴を研究する。	既知の作曲家たちの書法を明らかにしその後への影響等を研究する。
第10回	音楽の書法—二部形式	18世紀末から19世紀中葉までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法の特徴を研究する。	既知の作曲家たちの書法を明らかにしその後への影響等を研究する。
第11回	音楽の書法—三部形式	18世紀末から19世紀中葉までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法の特徴を研究する。	既知の作曲家たちの書法を明らかにしその後への影響等を研究する。
第12回	音楽の書法—三部形式	18世紀末から19世紀中葉までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法の特徴を研究する。	既知の作曲家たちの書法を明らかにしその後への影響等を研究する。
第13回	音楽の書法—複合三部形式	18世紀末から19世紀中葉までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法の特徴を研究する。	既知の作曲家たちの書法を明らかにしその後への影響等を研究する。
第14回	音楽の書法—複合三部形式	19世紀末から20世紀初頭までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽を研究する。	既知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽への影響や道筋等を研究する。
第15回	音楽の書法—複合三部形式	19世紀末から20世紀初頭までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽を研究する。	既知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽への影響や道筋等を研究する。

科目名(クラス)	総合作曲演習ⅢB	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1～4
担当教員	井上 淳司	履修対象・条件	音楽創造専攻生				

【授業の「概要」と「目的」】

作曲の実践を行うことを前提に、歴史的変遷を踏まえた過去の作曲技法を現代に生かすため、あらゆる角度の視点から考察する訓練を行いたい。

【授業の「方法」と「形式」】

学生個々の技術に結びつけて議論を進めながら、作曲に対する意識も高めて行きたい。

【履修時の「留意点」と「心得」】

各自の自由な発想、さまざまな視点による考察を持って切磋琢磨する場を作りたい。そのための準備を怠らないよう積極的な授業態度を希望する。

教科書	特になし	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	その都度譜面等を用意すること	著者等		出版社	
参考文献	特になし	著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

平常研究50%、レポート50%。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	音楽の書法—ロンド形式	18世紀末から19世紀中葉までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法の特徴を研究する。	既知の作曲家たちの書法を明らかにしその後への影響等を研究する。
第2回	音楽の書法—ロンド形式	18世紀末から19世紀中葉までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法の特徴を研究する。	既知の作曲家たちの書法を明らかにしその後への影響等を研究する。
第3回	音楽の書法—ロンド形式	18世紀末から19世紀中葉までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法の特徴を研究する。	18世紀末から19世紀中葉までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法を譜面から読み取りながら研究をする。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	音楽の書法—変奏曲形式	18世紀末から19世紀中葉までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法の特徴を研究する。	18世紀末から19世紀中葉までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法を講面から読み取りながら研究をする。
第5回	音楽の書法—変奏曲形式	18世紀末から19世紀中葉までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法の特徴を研究する。	ドイツ以外のオーストリア、イタリア、フランス、等の音楽の状況を把握する。
第6回	音楽の書法—変奏曲形式	18世紀末から19世紀中葉までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法の特徴を研究する。	ドイツ以外のオーストリア、イタリア、フランス、等の音楽の状況を把握する。
第7回	音楽の書法—ソナタ形式	18世紀末から19世紀中葉までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法の特徴を研究する。	ドイツ以外のオーストリア、イタリア、フランス、等の音楽の状況を把握する。
第8回	音楽の書法—ソナタ形式	18世紀末から19世紀中葉までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法の特徴を研究する。	学習対位法との相違及び対位法的が曲全体の構成や構造にどう関わるかを考察する。
第9回	音楽の書法—ソナタ形式	18世紀末から19世紀中葉までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法の特徴を研究する。	学習対位法との相違及び対位法的が曲全体の構成や構造にどう関わるかを考察する。
第10回	音楽の書法—ソナタ形式	18世紀末から19世紀中葉までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法の特徴を研究する。	学習対位法との相違及び対位法的が曲全体の構成や構造にどう関わるかを考察する。
第11回	音楽の書法—ソナタ形式	対位法の最終目標であるフーガを研究しモチーフのあり方とその展開および構成を考察する。	学習フーガとの相違及び「フーガの技法」より厳格フーガの考察をする。
第12回	音楽の書法—フーガ形式	ヨーロッパ音楽に多大な影響を与えたバッハの対位法を研究しその書法を研究する。	学習フーガとの相違及び「フーガの技法」より厳格フーガの考察をする。
第13回	音楽の書法—フーガ形式	ヨーロッパ音楽に多大な影響を与えたバッハの対位法を研究しその書法を研究する。	学習フーガとの相違及び「フーガの技法」より厳格フーガの考察をする。
第14回	音楽の書法—フーガ形式	ヨーロッパ音楽に多大な影響を与えたバッハの対位法を研究しその書法を研究する。	既知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽への影響や道筋等を研究する。
第15回	音楽の書法—フーガ形式	ヨーロッパ音楽に多大な影響を与えたバッハの対位法を研究しその書法を研究する。	既知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽への影響や道筋等を研究する。

科目名	ソフトウェア演習 I A・B
-----	----------------

【授業計画の概要】

本演習では、作編曲を行う者にとって必要な「アイデアを実現するために必要なものは何か？」を学ぶ。「自己のアイデアを具現化するための手法」「より明確に表現するため・伝達するためにどのような方法を用いるのか」についての実践的なスキルを修得する。
講義、作品制作、発表、実習、これらを通じて総合的な情報統合力と音楽応用力を拡大する。

【授業計画の内容】

月	内容
4	アイデアを具現化するための方法について ・さまざまな伝達手法／ソフトウェアの役割
5	譜面の書き方について-1 ～譜面の役割～
6	・基本的な譜面の書き方
7	
8	音楽制作ソフトウェアの基本操作-1 ・ソフトウェアを用いた表現
9	
10	譜面の書き方について-2 ～細かな譜面情報：アイデアを伝達するために必要な情報は？～
11	・ Score/Part譜の作成 ・ Lead sheet/Rhythm sectionの譜面
12	音楽制作ソフトウェアの基本操作-2
1	
2	本講義のまとめ 作品提出に向けて
3	

【成績評価の方法】

授業に対する姿勢(50%)、授業内課題提出(50%)

科目名 ソフトウエア演習Ⅱ A・B

【授業計画の概要】

本演習では、日常生活の中での「音への注意力」をさらに向上させることを目的とし「音を用いた作品表現」を学ぶ。
 「音の採集・編集・加工」についてソフトウェアを活用しながら作業を進め、楽音との共存を試みる。
 さらに、音楽と関連メディアをどのように連携させるか？についての基礎を構築することを目的とする。

【授業計画の内容】

月	内容
4	“音”を使った表現手法 Sound Collage, Music Concrete、Ambient Music, Electronica についての概観 音声データの編集作業について ソフトウエア上でのMix作業について
5	
6	
7	音の採集(非楽音の活用) ・全体の構成をデザインする ・ソフトウェアを使った録音について(準備すべき事、ハードウェアの設定、録音後のデータ管理) ・編集とレイアウト(間合いの取り方、「小節線を越える」には) ・音色の加工、距離感、(plug-inソフトウェアを用いて)
8	
9	
10	楽音(楽器)を加える 楽器録音への準備 全体の再構成 編集とMixの最終確認
11	
12	
1	課題から作品へ コンテンツの展示、発表 形式についてデザインする 作品展示に向けての準備
2	
3	

授業への参加度(50%)、課題提出(25%)、最終楽曲課題提出(25%)

科目名	ソフトウェア演習 III A・B
-----	------------------

【授業計画の概要】

本演習では、「自分がイメージするコンテンツを制作するには？」に向けての、企画立案からソフトウェア活用を実践的に修得し、自らの表現活動の拡大を目標とする。

【授業計画の内容】

月	内容
4	どのようなコンテンツを目指すのか？ コンテンツ作品の概観 作品のオーディオ録音 実演作品の映像記録 高解像度記録 映像作品(Streaming、Networkの活用) アイディアの具体化、スケジュール管理、準備事項リスト化
5	
6	
7	コンテンツ制作 1 コンセプトの立案 Pre-Productionの設定 録音・撮影、他の作業、 スケジュール管理、制作データ管理
8	
9	
10	コンテンツ制作 2 Post-Productionの中での設定可能な表現 記録後の発展展開について コンセプトと表現の確認
11	
12	
1	課題から作品へ 最終形の完成と試聴、第三者からのフィードバックをいかに反映させるか？ 発表に向けての準備
2	
3	

【成績評価の方法】

授業への参加度(50%)、課題提出(25%)、最終楽曲課題提出(25%)

科目名(クラス)	子どものためのピアノ指導法A	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1又は3
担当教員	桑原 巖	履修対象・条件	声楽演奏家コースと管弦打楽器専攻と音楽療法専攻は履修不可。ピアノ専攻のみ1年次配当科目。他は3年次配当科目。				

【授業の「概要」と「目的」】

地域に根ざした自宅ピアノ教室の先生、大手楽器会社の先生、出張先生とは？
先生としてのサービス(動き方)のありかたや、ピアノの指導方法についてMOGノートを中心に心理的に考えていく。
キーワードは「エナジャイズ」だ。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式 学生との対話、自分自身のMOGノートを作り上げる。

【履修時の「留意点」と「心得」】

疑問をそのままにしないこと。いつも問題意識をもち発言を積極的に。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

適時におけるノート提出(30%)
各学期末、課題によるレポート提出(70%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	授業オリエンテーション	授業の進め方やノート作りを理解する	
第2回	MOGノート ミッション なんのために	実社会に出るまえのこころの準備	
第3回	MOGノート 行動力と実行力	動くことによる変化を知る	MOGノート閲覧

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	MOGノート 最終目標って？	先生としての自覚	
第5回	MOGノート 付加価値 発表会	指導する立場からの視点を知る	
第6回	MOGノート 人間のもつ表情とは	音楽表現の多様さを知る	
第7回	MOGノート レッスンのかたち 居心地	経営、企画を考える	MOGノート閲覧
第8回	MOGノート 良い生徒 変な注文	こころの成長、訓練	
第9回	MOGノート 感動 日本人は勉強家	欧米との比較	
第10回	MOGノート いろいろなド 8分音符	ハーモニーのもつ多様性 指導する立ち位置	
第11回	MOGノート 強み リゾート業	自覚、いろいろなアイデア	MOGノート閲覧
第12回	MOGノート 作曲家スタイル解釈	とくに導入本について知る	
第13回	MOGノート ドロップとロール	テクニックの指導とは？	
第14回	MOGノート 天から仕事を降らせよう	動くことによる体験をする	
第15回	まとめ	レポート課題説明等	

科目名(クラス)	子どものためのピアノ指導法B	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1又は3
担当教員	桑原 巖	履修対象・条件	声楽演奏家コースと管弦打楽器専攻と音楽療法専攻は履修不可。ピアノ専攻のみ1年次配当科目。他は3年次配当科目。				

【授業の「概要」と「目的」】

地域に根ざした自宅ピアノ教室の先生、大手楽器会社の先生、出張先生とは？先生としてのサービス(動き方)のありかたや、ピアノの指導方法についてMOGノートを中心に心理的に考えていく。キーワードは「エナジャイズ」だ。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式 学生との対話、自分自身のMOGノートを作り上げる。

【履修時の「留意点」と「心得」】

疑問をそのままにしないこと。いつも問題意識をもち発言を積極的に。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

適時におけるノート提出(30%)
各学期末、課題によるレポート提出(70%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	授業オリエンテーション	授業の進め方やノートづくりを理解する	
第2回	MOGノート 暗記と記憶	暗譜のしかたのいろいろを知る	
第3回	MOGノート 教育と学習	比較、それぞれの違いを理解する	

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	MOGノート 怒る どなる 叱る	指導法の過去と現在を知る	MOGノート閲覧
第5回	MOGノート ホームコンサート	能動的な企画を考える	
第6回	MOGノート 魔法のえんぴつ	一人前な先生とは	
第7回	MOGノート 楽しさを持続させよう	テーマをもって指導することを知る	
第8回	MOGノート 休み ずる休み トラブル	親とのコミュニケーションの大切さを知る	MOGノート閲覧
第9回	MOGノート ベトナム時間	できる先生の時間の使い方を学ぶ	
第10回	MOGノート ピアノを続ける中高生	やめない生徒をつくるための言葉掛けを学ぶ	
第11回	MOGノート ピアノコンプレックス	悲しい先生にならないためにピアノ教室の過去を知る	
第12回	MOGノート 継続と両立	クラブ活動・進学塾・他の習い事との向き合い方を考える	MOGノート閲覧
第13回	MOGノート 言葉掛け	約束事・先生の計画性を知る	
第14回	MOGノート 自分で動いて作り出す仕事	仕事を増やしていくための動き方を知る	
第15回	まとめ	レポート課題説明等	

科目名(クラス)	教材伴奏法 I A-a・b・c・d	開講学期	前期	単位数	1	配当年	1又は2
担当教員	中島裕紀・小林律子 久邇之宜・平田紀子	履修対象・条件	全専攻(但し、教職課程履修者、教職特設コースは必修)				

【授業の「概要」と「目的」】

本授業は、「教材伴奏法 I B」と共に教職必修科目であり、学校教育の授業に必要なピアノ伴奏のスキルを高めることを目的としている。授業形態は、少人数制のグループレッスン方式をとっており、集中的な学習が可能である。「教材伴奏法 I A」においては、伴奏の基礎的な知識を習得すると共に、コードネームを用いた伴奏付け、楽譜作成など、平易なアレンジ法を学び、ピアノを弾きながら歌う「弾き歌い」ができるようになるための基礎を習得する。

【授業の「方法」と「形式」】

授業の方法は、基礎知識の講義とその実践であるピアノ伴奏演習とからなり、グループレッスン形式を取る。

【履修時の「留意点」と「心得」】

「教材伴奏法 I B」と共に教職必修であるため、教材伴奏法 I A・B共に連続して履修することが望ましい。また、授業の趣旨から、毎回の授業において、全員がピアノ演奏及び歌唱の演習を行うため、受講に対しては、課題の予習復習など十分な準備が不可欠である。

教科書	音楽 I Tutti(音 I 301)	著者等	共著	出版社	教育出版
教科書	中学生の音楽1、中学生の音楽2・3上/2・3下	著者等	共著	出版社	教育芸術社
参考文献	プリント配布資料あり	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

Semester終了時に「弾き歌い」課題の実技試験を行う。また、演奏演習を含む授業であることと、教職のための授業であるという趣旨から、実技試験を70%、通常の授業への取り組みを30%として総合的な評価を行う。

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第1回	授業ガイダンスと課題提示	授業の趣旨、シラバス、授業内容について理解をし、それに即した課題の理解ができる。	次回の個々の課題への準備。
第2回	伴奏課題研究・演習1	作詞者・作曲者や作曲された背景、歌詞の意味などを理解するためのアプローチができる。	課題に対して調べる。
第3回	伴奏課題研究・演習2	教材の内容を理解した上で、実際にピアノで演奏するイメージができる。	実技課題の予習復習。

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第4回	弾き歌い演習1	教科書掲載の平易な曲の伴奏を弾くことができる。	実技課題の予習復習。
第5回	弾き歌い演習2	前回の伴奏に「歌うこと」を加え弾き歌いができる。	実技課題の予習復習。
第6回	弾き歌い演習3	音楽的な要素を意識しながら弾き歌いができる。	実技課題の予習復習。
第7回	弾き歌い演習4	はっきりとした発声と共に、スムーズな弾き歌いができる。	実技課題の予習復習。
第8回	弾き歌い演習5	拍子を意識し、クラス授業を意識した弾き歌いができる。	実技課題の予習復習。
第9回	コードネームの基礎	コードネームについて理解することができる。	コードネームの復習。
第10回	コードネームによる演奏演習1	コードネームを使って平易な和音による伴奏付けができる。	実技課題の予習復習。
第11回	コードネームによる演奏演習2	コードネームを基に、和音にリズムを加えて伴奏付けができる。	実技課題の予習復習。
第12回	コードネームによる演奏演習3	コードネームを基にした簡易な伴奏アレンジができる。	実技課題の予習復習。
第13回	コードネームによる伴奏譜作成演習	旋律とコードネームから伴奏をアレンジして楽譜にすることができる。	伴奏譜完成と、弾き歌い課題の予習
第14回	弾き歌い演習6	本授業のまとめに向けて弾き歌い課題を明瞭に演奏することができる。	実技課題の予習復習。
第15回	まとめ・弾き歌い演習7	本 Semester で学んだことを生かしながら弾き歌い課題を演奏することができる。	授業内容を振り返る。

科目名(クラス)	教材伴奏法 I B-a・b・c・d	開講学期	後期	単位数	1	配当年	1又は2
担当教員	中島裕紀・小林律子 久邇之宜・平田紀子	履修対象・条件	全専攻(但し、教職課程履修者、教職特設コースは必修)				

【授業の「概要」と「目的」】

本授業は、「教材伴奏法 I A」と共に教職必修科目であり、学校教育の授業に必要なピアノ伴奏のスキルを高めることを目的としている。授業形態は、少人数制のグループレッスン方式をとっており、集中的な学習が可能である。「教材伴奏法 I B」においては、中学校の共通教材の弾き歌いを中心課題としながら、実際の歌唱指導に結びつく指揮法や、呼吸法などのスキルを高める。また、メロディーへの和声付け、高校の教科書にある日本と世界の音楽の演奏法について学び、教育実習に必要な知識とスキルを習得する。

【授業の「方法」と「形式」】

授業の方法は、基礎知識の講義とその実践であるピアノ伴奏演習とからなり、グループレッスン形式を取る。

【履修時の「留意点」と「心得」】

「教材伴奏法 I A」と共に教職必修であるため、教材伴奏法 I A・B共に連続して履修することが望ましい。また、授業の趣旨から、毎回の授業において、全員がピアノ演奏及び歌唱の演習を行うため、受講に対しては、課題の予習復習など十分な準備が不可欠である。

教科書	音楽 I Tutti(音 I 301)	著者等	共著	出版社	教育出版
教科書	中学生の音楽1、中学生の音楽2・3上/2・3下	著者等	共著	出版社	教育芸術社
参考文献	プリント配布資料あり	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

Semester終了時に「弾き歌い」課題の実技試験を行う。また、演奏演習を含む授業であることと、教職のための授業であるという趣旨から、実技試験を70%、通常の授業への取り組みを30%として総合的な評価を行う。

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第1回	授業ガイダンスと課題提示	授業の趣旨、シラバス、授業内容について理解をし、それに即した課題の理解ができる。	次回の個々の課題への準備。
第2回	メロディーへの和声付け演習1	メロディー課題に対して、コードネームを付けることができる。	メロディー、コードを意識した伴奏の復習。共通教材の予習。
第3回	メロディーへの和声付け演習2	メロディー課題に対して、コードネームを付け、それをもとに演奏することができる。	メロディー、コードを意識した伴奏の復習。共通教材の予習。

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第4回	中学共通教材弾き歌い演習1「夏の思い出」	課題の弾き歌いができる。	授業課題の実技復習と次回実技課題の予習。
第5回	中学共通教材弾き歌い演習2「赤とんぼ」	前回授業課題がスムーズにでき、今回の課題の弾き歌いができる。	授業課題の実技復習と次回実技課題の予習。
第6回	中学共通教材弾き歌い演習3「浜辺の歌」	前回授業課題がスムーズにでき、今回の課題の弾き歌いができる。	授業課題の実技復習と次回実技課題の予習。
第7回	中学共通教材弾き歌い演習4「花の街」	前回授業課題がスムーズにでき、今回の課題の弾き歌いができる。	授業課題の実技復習と次回実技課題の予習。
第8回	中学共通教材弾き歌い演習5「早春賦」	前回授業課題がスムーズにでき、今回の課題の弾き歌いができる。	授業課題の実技復習と次回実技課題の予習。
第9回	中学共通教材弾き歌い演習6「花」	前回授業課題がスムーズにでき、今回の課題の弾き歌いができる。	授業課題の実技復習と次回実技課題の予習。
第10回	中学共通教材弾き歌い演習7「荒城の月」	前回授業課題がスムーズにでき、今回の課題の弾き歌いができる。	授業課題の実技復習と次回実技課題の予習。
第11回	日本と世界の音楽1「フランス・イタリアの音楽」	フランス・イタリアの音楽の特徴を捉え、弾き歌いをすることができる。	授業課題の実技復習と次回実技課題の予習。
第12回	日本と世界の音楽2「ドイツ・オーストリアの音楽」	ドイツ・オーストリアの音楽の特徴を捉え、弾き歌いをすることができる。	授業課題の実技復習と次回実技課題の予習。
第13回	日本と世界の音楽3「日本・アジアの音楽」	日本・アジアの音楽の特徴を捉え、弾き歌いをすることができる。	授業課題の実技復習と次回実技課題の予習。
第14回	中学共通教材の総合的演習	中学共通課題7曲に関して学んだことを生かしながら演奏することができる。	実技課題の予習復習。
第15回	まとめ・弾き歌い演習	本 Semester で学んだことを生かしながら弾き歌い課題を演奏することができる。	授業内容を振り返る。

科目名(クラス)	教材伴奏法ⅡA	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2又は3
担当教員	金井良次	履修対象・条件	全専攻(声楽と管弦打の演奏家コースは履修不可) 教職特設コースは必修				

【授業の「概要」と「目的」】

概要／音楽の教科書をどのように活用して適切に授業を進めるかという観点から、「コードネームの知識」「コードによる伴奏付け」「メロディーのコード付け」「弾き歌い」などに関する様々な知識を深め、教材伴奏の技術を磨きます。レッスンと宿題のどちらが主となるかは受講人数によりますが、いずれの場合でも予習復習が不可欠です。
目的／伴奏は、用途、曲趣、相手の演奏の仕方や力量等、様々な要素によって必ず変化を伴います。教材を多角的に捉え、変化に即応したフレキシブルな伴奏を心掛けることは、教師にとって重要不可欠な要素です。本授業は、系統的な知識を深め、学校教育における授業に必要なピアノ伴奏の技術を一層高めることを目的としています。

【授業の「方法」と「形式」】

講義でコードネーム等の系統的知識を深め、同時に小グループレッスンにより、伴奏力向上の様々な課題に習熟します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

「コードを分析する」「コードを弾く」「コードを付ける」「コードに基づいて伴奏を即興的に弾く」「初見演奏する」「弾き歌いする」等の演習や、課題の実施を伴うため、各回の準備・練習、予習・復習等を充分に行うことが求められます。なお、資料や課題を保存するため、フラットファイル(A4版縦型)を各自用意してください。(課題実施のための五線紙はこちらで用意します)

教科書	中学生の音楽1, 同2・3上, 同2・3下	著者等	小原光一 他	出版社	教育芸術社
教科書		著者等		出版社	
参考文献	和声 理論と実習 I	著者等	島岡 譲 他	出版社	音楽之友社
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

評価の判断は、日頃の授業の課題実施状況や、単元テスト・期末テスト等の結果を勘案して総合的に行います。評価に当たっては、次のような観点を基準とします。

- ・コードネームを理解している
 - ・メロディーに適切なコードを付けることができる
 - ・メロディーやコードネームを見て、即興的な伴奏をすることができる
 - ・メロディーに適切なコードを付けながら、即興的な伴奏をすることができる
 - ・教材等の「初見演奏」や「弾き歌い」に習熟していて、伴奏能力や伴奏应用能力が高い
 - ・模擬授業への応用力や指導力が高い
- など

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	・授業の概要説明 ・コードネーム／予備知識 ・教材のコード分析、及びコードによる伴奏演習 ①	・当授業の全体構成やそのねらい、到達目標を理解する ・コードネーム活用のための基本的な楽典の知識を理解している	・シラバスに目を通しておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第2回	・コードネーム／三和音と調との関係 ・教材のコード分析、及びコードによる伴奏演習 ②	・三和音と調との関係をコードネームで理解している ・コードネームでコードが弾ける	・復習により、配布資料の理解に努める
第3回	・コードネーム／主要三和音と三種のカデンツ ・コードネーム付き教材の、適切な伴奏形による伴奏演習①	・主要三和音と三種のカデンツをコードネームで理解している ・メロディーと適切なコード伴奏が弾ける	・復習により、配布資料の理解に努める

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	・コードネーム／セブンスのコード ・コードネーム付き教材の、適切な伴奏形による伴奏演習②	・セブンスのコードをコードネームで理解している ・メロディーと適切なコード伴奏が弾ける	・復習により、配布資料の理解に努める
第5回	・コードネーム／コード進行の可能性 ・コードネーム付けの演習で付けたコードに基づく、メロディーの即興的弾き歌い演習①	・コード進行の可能性をコードネームで理解している ・メロディーと適切なコード伴奏により弾き歌いができる	・復習により、配布資料の理解に努める
第6回	・コードネーム／終止について ・コードネーム付けの演習で付けたコードに基づく、メロディーの即興的弾き歌い演習②	・各終止形をコードネームで理解している ・メロディーと適切なコード伴奏により弾き歌いができる	・復習により、配布資料の理解に努める
第7回	・コードネーム／これまでの復習および単元テスト	・学修内容の定着度を確認する	・復習により、これまでの配布資料の理解に努める
第8回	・メロディーのコード付け／固有和音① ・コードネーム付けの演習で付けたコードに基づく、メロディーの即興的弾き歌い演習③	・各調の固有和音により適切なコード付けができる ・メロディーと適切なコード伴奏により弾き歌いができる	・課題を実施しておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第9回	・メロディーのコード付け／固有和音② ・コードネーム付けの演習で付けたコードに基づく、メロディーの即興的弾き歌い演習④	・各調の固有和音により適切なコード付けができる ・メロディーと適切なコード伴奏により弾き歌いができる	・課題を実施しておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第10回	・メロディーのコード付け／固有和音③ ・コードネーム付けの演習で付けたコードに基づく、メロディーの即興的弾き歌い演習⑤	・各調の固有和音により適切なコード付けができる ・メロディーと適切なコード伴奏により弾き歌いができる	・課題を実施しておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第11回	・メロディーのコード付け／固有和音④ ・コードネーム付けの演習で付けたコードに基づく、メロディーの即興的弾き歌い演習⑥	・各調の固有和音により適切なコード付けができる ・メロディーと適切なコード伴奏により弾き歌いができる	・課題を実施しておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第12回	・非和声音について ・メロディーのコード付け／固有和音⑤ ・コードネーム付けの演習で付けたコードに基づく、メロディーの即興的弾き歌い演習⑦	・各調の固有和音により適切なコード付けができる ・メロディーと適切なコード伴奏により弾き歌いができる	・課題を実施しておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第13回	・メロディーのコード付け／固有和音⑥ ・コードネーム付けの演習で付けたコードに基づく、メロディーの即興的弾き歌い演習⑧	・各調の固有和音により適切なコード付けができる ・メロディーと適切なコード伴奏により弾き歌いができる	・課題を実施しておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第14回	・メロディーのコード付け／これまでの復習および単元テスト	・学修内容の定着度を確認する	・復習により、これまでの配布資料の理解に努める
第15回	まとめ(実技テスト) ・コードネーム付けの演習で付けたコードに基づく、メロディーの弾き歌いテスト	・学修内容の定着度を確認する	・弾き歌い演奏の準備をしておく

科目名(クラス)	教材伴奏法ⅡB	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2又は3
担当教員	金井良次	履修対象・条件	全専攻(声楽と管弦打の演奏家コースは履修不可) 教職特設コースは必修				

【授業の「概要」と「目的」】

概要／音楽の教科書をどのように活用して適切に授業を進めるかという観点から、「コードネームの知識」「コードによる伴奏付け」「メロディーのコード付け」「弾き歌い」などに関する様々な知識を深め、教材伴奏の技術を磨きます。レッスンと宿題のどちらが主となるかは受講人数によりますが、いずれの場合でも予習復習が不可欠です。
目的／伴奏は、用途、曲趣、相手の演奏の仕方や力量等、様々な要素によって必ず変化を伴います。教材を多角的に捉え、変化に即応したフレキシブルな伴奏を心掛けることは、教師にとって重要不可欠な要素です。本授業は、系統的な知識を深め、学校教育における授業に必要なピアノ伴奏の技術を一層高めることを目的としています。

【授業の「方法」と「形式」】

講義でコードネーム等の系統的知識を深め、同時に小グループレッスンにより、様々な伴奏の方法に習熟します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

「コードを分析する」「コードを弾く」「コードを付ける」「コードに基づいて伴奏を即興的に弾く」「初見演奏する」「弾き歌いする」等の演習や、課題の実施を伴うため、各回の準備・練習、予習・復習等を充分に行うことが求められます。なお、資料や課題を保存するため、フラットファイル(A4版縦型)を各自用意してください。(課題実施のための五線紙はこちらで用意します)

教科書	中学生の音楽1, 同2・3上, 同2・3下	著者等	小原光一 他	出版社	教育芸術社
教科書		著者等		出版社	
参考文献	和声 理論と実習 I	著者等	島岡 譲 他	出版社	音楽之友社
参考文献	ヤマハ指導グレード	著者等	ヤマハ	出版社	ヤマハ

【成績評価の「方法」と「基準」】

評価の判断は、日頃の授業の課題実施状況や、単元テスト・期末テスト等の結果を勘案して総合的に行います。評価に当たっては、次のような観点を基準とします。
 ・コードネームを理解している
 ・メロディーに適切なコードを付けることができる
 ・メロディーやコードネームを見て、即興的な伴奏をすることができる
 ・メロディーに適切なコードを付けながら、即興的な伴奏をすることができる
 ・教材等の「初見演奏」や「弾き歌い」に習熟していて、伴奏能力や伴奏应用能力が高い
 ・模擬授業への応用力や指導力が高い
 など

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	・借用和音と副属七の和音について ・メロディーのコード付け／借用和音を含む① ・教材伴奏の様々な手法／①モノフォニーとホモフォニー音楽、及び分散和音の使用演習	・借用和音を含めメロディーへの適切なコード付けができる ・各パートの音取などにも役立つような伴奏の手法を用いている	・課題を実施しておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第2回	・メロディーのコード付け／借用和音を含む② ・教材伴奏の様々な手法／②ポリフォニー音楽、及び平易な新曲視奏による演習	・借用和音を含めメロディーへの適切なコード付けができる ・各パートの音取などにも役立つような伴奏の手法を用いている	・課題を実施しておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第3回	・メロディーのコード付け／借用和音を含む③ ・教材伴奏の様々な手法／③合唱曲Ⅰ	・借用和音を含めメロディーへの適切なコード付けができる ・各パートの音取などにも役立つような伴奏の手法を用いている	・課題を実施しておく ・復習により、配布資料の理解に努める

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	・メロディーのコード付け／借用和音を含む④ ・非和声音の種類について ・教材伴奏の様々な手法／④合唱曲Ⅱ	・借用和音を含めメロディーへの適切なコード付けができる ・各パートの音取などにも役立つような伴奏の手法を用いている	・課題を実施しておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第5回	・メロディーのコード付け／借用和音を含む⑤ ・準固有和音、ナポリの和音、ドリアの和音、その他の和音 ・教材伴奏の様々な手法／⑤合唱曲Ⅲ	・借用和音を含めメロディーへの適切なコード付けができる ・各パートの音取などにも役立つような伴奏の手法を用いている	・課題を実施しておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第6回	・メロディーのコード付け／借用和音を含む⑥ ・教材伴奏の様々な手法／⑥新曲視唱指導体験Ⅰ	・借用和音を含めメロディーへの適切なコード付けができる ・各パートの音取などにも役立つような伴奏の手法を用いている	・課題を実施しておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第7回	・ヤマハグレードシステムによる演習①(コード進行法) ・教材伴奏の様々な手法／⑦新曲視唱指導体験Ⅱ	・借用和音を含めメロディーへの適切なコード付けができる ・各パートの音取などにも役立つような伴奏の手法を用いている	・課題を実施しておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第8回	・ヤマハグレードシステムによる演習②(コード進行法)和声付け)	・メロディーへの適切なコード付けができる 適切なコード伴奏により弾き歌いができる	・課題を実施しておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第9回	・ヤマハグレードシステムによる演習③(カウンターライン、ベースランニング課題)	・メロディーや和声に相応しいカウンターラインを創作できる ・メロディーや和声に相応しいベースラインを創作できる	・課題を実施しておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第10回	・ヤマハグレードシステムによる演習④(移調奏、その他)	・移調しながら新曲視奏できる	・課題を実施しておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第11回	・ヤマハグレードシステムによる演習⑤補遺課題 ・メロディーのコード付け単元テスト	・学修内容の定着度を確認する	・課題を実施しておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第12回	・様々な伴奏の方法を駆使した歌唱の模擬授業①	・模擬授業の中で、様々な伴奏の手法を適切に用いることができる	・指導案(簡略版)作成と配布の準備をしておく ・伴奏に習熟しておく ・用意するものを予告しておく
第13回	・様々な伴奏の方法を駆使した歌唱の模擬授業②	・模擬授業の中で、様々な伴奏の手法を適切に用いることができる	・指導案(簡略版)作成と配布の準備をしておく ・伴奏に習熟しておく ・用意するものを予告しておく
第14回	・様々な伴奏の方法を駆使した歌唱の模擬授業③	・模擬授業の中で、様々な伴奏の手法を適切に用いることができる	・指導案(簡略版)作成と配布の準備をしておく ・伴奏に習熟しておく ・用意するものを予告しておく
第15回	まとめ(実技テスト) ・メロディーのコード付け課題提出 ・教材の弾き歌い	・学修内容の定着度を確認する	・コード付け課題を実施しておく ・弾き歌いの準備をしておく

科目名(クラス)	ピアノ伴奏法 I A	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	大場 文恵	履修対象・条件	ピアノ専攻のみ履修可				

【授業の「概要」と「目的」】

伴奏はピアノ演奏の重要な分野です。声楽あるいは器楽とのアンサンブルであることから、ソロを弾く時に加えて多くのことを心がけなければなりません。
初めの2回は伴奏を弾く時に心がけることを考え、ポイントを探っていきます。その後、イタリア歌曲やドイツ歌曲を題材に演奏を通して具体的に考えながら、ピアノパートを作り上げ、ソリストと共演することで完成を目指します。
I Aでは伴奏の基本を身につけることを目的とします。
ピアノ伴奏法 I Bを履修することにより、さらに幅広く学ぶことができます。

【授業の「方法」と「形式」】

実技(受講生の演奏)、講義、ディスカッションを取り混ぜながら行います。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・受講生の演奏をもとに授業を進めますので、準備を十分にして授業に臨んでください。
- ・遅刻、途中退出は原則として認めません。
- ・ピアノ伴奏法 I Bも履修することを勧めます。

教科書	ドイツ歌曲名歌集 I (原典版)	著者等		出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業内での演奏と授業への取り組み方(50%)
期末試験【レポートと実技試験】(50%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	伴奏について考えよう	伴奏とは何か、伴奏者はどうあるべきかという意識を持つ	伴奏についてのイメージをする。
第2回	伴奏の基礎(1)	良い伴奏を弾くために、完璧な譜読みと適切な運指を身につける	予習: 課題の譜読みをする 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする
第3回	伴奏の基礎(2)	自分の演奏を客観的に聴き、音色・バランスなど音に対する意識を高める	予習: 課題の練習をする 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	イタリア古典歌曲(1)	楽譜から読み取れることを考える イタリア語の詩を理解する	予習: 課題の譜読みをする 歌詞の意味、対訳を楽譜に書く 復習: 授業で学んだことを踏まえて 練習をする
第5回	イタリア古典歌曲(2)	共演者と合わせることを意識して演奏を組み立てる	復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする
第6回	イタリア古典歌曲(3)	歌い手と合わせることによって演奏を完成させる	予習: 弾きながら歌詞を目で追えるようにする 復習: 3回の授業をふり返る
第7回	ドイツ古典派の歌曲(1)	正確な譜読みをし、ドイツ語の詩を理解する	予習: 課題の譜読みをする 歌詞の意味、対訳を楽譜に書く 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする
第8回	ドイツ古典派の歌曲(2)	共演者と合わせることを意識して演奏を組み立てる	予習: 弾きながら歌詞を目で追えるようにする 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする
第9回	ドイツ古典派の歌曲(3)	歌い手と合わせることによって演奏を完成させる	予習: 音楽のイメージをつかむ 復習: 3回の授業を振り返る
第10回	ドイツロマン派の歌曲(1)	作曲家と時代背景を知る 曲や詩を解釈することから、ロマン派の豊かな世界を感じる	予習: 課題の譜読みをする 歌詞の意味、対訳を楽譜に書く 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする
第11回	ドイツロマン派の歌曲(2)	共演者と合わせることを意識して演奏を組み立てる	予習: 歌詞が言えるようにする 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする
第12回	ドイツロマン派の歌曲(3)	歌い手と合わせることによって演奏を完成させる	予習: 作品のイメージを明確にする 復習: 3回の授業をふり返る
第13回	実技試験で共演する曲(1)	各自の演奏のレベルアップを目指す	復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする
第14回	実技試験で共演する曲(2)	各自の演奏のレベルアップを目指す	復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする
第15回	本科目の総括(振り返り)	伴奏を弾く上での基礎的な取り組み方が身についている イタリア、ドイツの音楽の特色を理解している	授業をふり返る

科目名(クラス)	ピアノ伴奏法 I B	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	大場 文恵	履修対象・条件	ピアノ専攻のみ履修可				

【授業の「概要」と「目的」】

ピアノ伴奏法 I Aで学んだことを更に発展させていきます。ドイツ後期ロマン派の歌曲、日本歌曲、オーケストラの代わりを務めるオペラアリアやコンチェルトの伴奏など、さまざまな形態の伴奏について学びます。ピアノ伴奏法 I A及び I Bを通して、伴奏を自分自身で作りに上げていく力を養うことを目的とします。

【授業の「方法」と「形式」】

実技(受講生の演奏)、講義、ディスカッションを取り混ぜながら行います。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・受講生の演奏をもとに授業を進めますので、準備を十分にして授業に臨んでください。
- ・遅刻、途中退出は原則として認めません。
- ・ピアノ伴奏法 I Aから順次履修することを勧めます。

教科書	ドイツ歌曲名歌集 I (原典版)	著者等		出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業内での演奏と授業への取り組み方(50%)
 期末試験【レポートと実技試験】(50%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	ドイツ後期ロマン派の歌曲(1)	オーケストラ的な淳美のある響きをピアノで表現することができる	予習: 課題の譜読みをする 歌詞の意味、対訳を楽譜に書く 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする
第2回	ドイツ後期ロマン派の歌曲(2)	合わせることを意識して演奏を組み立てる	予習: 弾きながら歌詞が目で見えるようにする 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする
第3回	ドイツ後期ロマン派の歌曲(3)	歌い手と合わせることによって演奏を完成させる	予習: 音楽のイメージをつかむ 復習: 3回の授業をふり返る

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	オペラのアリア(1)	オペラのあらすじを知り、アリアの内容を把握する オーケストラで楽器がどのように使われているか知る	予習: 課題の譜読みをする 課題のオペラについて調べる 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする
第5回	オペラのアリア(2)	伴奏が指揮者的な役割を持っていることを理解する 合わせることを意識して演奏を組み立てる	予習: 歌詞と内容を確認する 音源を聴き、オーケストラの響きをイメージする 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする
第6回	オペラのアリア(3)	歌手と合わせることによって演奏を完成させる	復習: 3回の授業をふり返る
第7回	日本歌曲(1)	日本語と日本の情緒を理解する	予習: 課題の譜読みをする 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする
第8回	日本歌曲(2)	合わせることを意識して演奏を組み立てる	予習: 言葉を目で追えるようにする 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする
第9回	日本歌曲(3)	歌手と合わせることによって完成させる	予習: 詩と音楽の関わりを理解する 復習: 3回の授業をふり返る
第10回	器楽曲及び協奏曲(1)	楽器の特性と響きを知る	予習: 課題の譜読みをする 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする
第11回	器楽曲及び協奏曲(2)	合わせることを意識して演奏を組み立てる	予習: ソロパートを目で追えるようにする 復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする
第12回	器楽曲及び協奏曲(3)	ソリストと合わせることによって完成させる	予習: 響きと音楽のイメージを明確にする 復習: 3回の授業をふり返る
第13回	実技試験で共演する曲(1)	各自の演奏のレベルアップを目指す	復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする
第14回	実技試験で共演する曲(2)	各自の演奏のレベルアップを目指す	復習: 授業で学んだことを踏まえて練習をする
第15回	本科目の総括(振り返り)	いろいろな分野の音楽を知り、伴奏者としてそれぞれに対応できるようにする	授業をふり返る

科目名(クラス)	ピアノ伴奏法ⅡA	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	3
担当教員	田中 梢	履修対象・条件	ピアノ専攻のみ履修可				

【授業の「概要」と「目的」】

伴奏について学ぶ。ピアノを使って仕事をするとき求められる実践的技術を学ぶ。そのために必要な能力を基礎から学び、様々な分野で必要とされる技術を身に着ける。パートナーの譜面も読める目、パートナーの演奏を聴ける耳を養う。

【授業の「方法」と「形式」】

各回ごとに与えられた演目を全員が演奏する。伴奏される側に立って歌ったり指揮したりすることも求められる。

【履修時の「留意点」と「心得」】

伴奏の分野は非常に幅広いです。毎回課題が出されますができる範囲で予習をしてください。毎回新しいことを学習しますので出来る限り欠席しないことを望みます。

教科書	その都度配ります	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

平常授業での実技評価30%及び平常の授業に対する意欲評価70%。しかし実技能力よりも各々が課題に対してどれだけ意欲的に参加し達成したかを評価する

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第1回	自己紹介(音楽で)とガイダンス	音楽で自己表現する	なし
第2回	呼吸法と指揮法と伴奏法について学ぶ	伴奏の基礎概念を身に着ける	なし
第3回	合唱曲①	合唱の伴奏の基礎を学ぶ	課題の予習

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第4回	合唱曲②	前奏・間奏・後奏の弾き方及び合唱伴奏の基礎技術を身に着ける	同
第5回	合唱曲③	4段譜及び伴奏パートを同時に見て弾ける能力を身に着ける	同
第6回	イタリア古典歌曲①	音源を聴き、イタリア古典歌曲の様式を学ぶ	音源を聴く、譜読みする。
第7回	イタリア古典歌曲②	チェンバロ演習によりイタリア古典歌曲の様式感を身に着ける	同
第8回	イタリア歌曲(ベルカントとロマン派)	ベルカントとロマン派様式について学ぶ	同
第9回	イタリア歌曲(カンツォーネ)	カンツォーネの伴奏について学ぶ	同
第10回	歌手とのアンサンブルの準備	歌手と合わせられる能力を身に着ける	同
第11回	歌手とのアンサンブル①	歌手とのアンサンブルの完成	同
第12回	ドイツリート(モーツァルト)	ドイツリートについて学ぶ。モーツァルトの演奏法を学ぶ	同
第13回	ドイツリート(シューベルト)	シューベルトについて学ぶ	同
第14回	ドイツリート(シューマン)	シューマンについて学ぶ	同
第15回	歌手とのアンサンブル②	ドイツリートを歌手と合わせられる能力を身に着ける	お互いの演奏を聴き合い反省する

科目名(クラス)	ピアノ伴奏法ⅡB	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	3
担当教員	田中 梢	履修対象・条件	ピアノ専攻のみ履修可				

【授業の「概要」と「目的」】

前期に学習した伴奏法の上に更にさまざまなスタイルの分野の曲を学ぶ

【授業の「方法」と「形式」】

課題ごとに全員が課題曲を演奏します。Video、ミュージックベル、楽器なども補助として使います。

【履修時の「留意点」と「心得」】

毎回違う学習をするのでなるべく欠席しないように。できれば予習する方が望ましい。

教科書	その都度渡す	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

平常授業での実技評価30%及び授業に対する平常意欲評価70%。しかし実技能力よりも各々が課題に対してどれだけ意欲的に参加し達成したかを評価する

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第1回	コード奏の基礎	コードによる基礎テクニックを身に着ける	コードによる基礎テクニック課題を繰り返す
第2回	コード奏による演習	コード付きメロ譜で伴奏できる能力を身に着ける	課題の予習
第3回	移調と編曲	コードネームを使って移調編曲できるようにする	同

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第4回	オペラの伴奏①	オペラについて学ぶ。オペラを鑑賞する。	同
第5回	オペラの伴奏②	オーケストラとしてのピアノの弾き方を学ぶ	同
第6回	ウィンナーワルツ	ワルツを踊る。ワルツの弾き方を身につける	同
第7回	オペレッタの伴奏	オペレッタの音源を聴く。オペレッタについて学ぶ	同
第8回	ミュージカルの伴奏①	音源を聴き、ミュージカルについて学ぶ	同
第9回	ミュージカルの伴奏②	ミュージカルの弾き方を学ぶ	同
第10回	クリスマス曲	クリスマス音楽について学ぶ	同
第11回	即興伴奏	メロディ譜を見て伴奏をつけることを学ぶ	同
第12回	ミュージックベルの演奏	ミュージックベルでのアンサンブルの仕方を学ぶ	なし
第13回	器楽の伴奏①	器楽の伴奏を学習する	課題の予習
第14回	器楽奏者とのアンサンブルの準備	器楽奏者とのアンサンブル能力を身に着ける	同
第15回	器楽奏者とのアンサンブル	アンサンブルの完成	お互いの演奏を聴き合い反省する

科目名(クラス)	音楽療法の理論と技法A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	二俣 泉	履修対象・条件	音楽療法専攻、教職特設コースのみ履修可。 音楽療法専攻生については必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

音楽療法実践における対象者への介入に際しては、対象者の問題の要因の分析とそれに基づく合理的な介入方法の選択が必要である。その前提となるのが「理論」である。専門家の行なう音楽療法において、理論なき実践はありえない。音楽療法には複数の理論があり、対象者のニーズに応じて、理論を使い分ける必要もある。理論を知らずして、音楽療法の専門家になることはできない。本授業は、音楽療法における様々な支援方法と背景理論についての基礎的な理解を深めることを目的とする。本授業では、理論・アプローチのうち、神経学的音楽療法、精神分析とそれに影響を受けて発展した分析的音楽療法、また行動主義心理学・認知行動療法・応用行動分析学とそれに基づく音楽療法について学ぶ。

【授業の「方法」と「形式」】

講師による講義、ビデオ等による音楽療法の実践場面の紹介、および学生相互の討議で進行する。

【履修時の「留意点」と「心得」】

ほぼ毎回、授業の最初に小テストを実施する。この小テストも成績評価に反映される。復習を徹底すること。原則として欠席、遅刻、早退をしないこと。順序だてて講義を進めるので、出席しない授業があると、内容の理解に甚だしく影響する可能性が高いので、そのつもりで授業に臨んでもらいたい。大学外で行われる学会、講習会への参加、およびその感想文の提出も課題とする。

教科書	音楽療法を学ぶ 第2版	著者等	二俣泉	出版社	音楽療法研究会
教科書	音楽療法入門(第3版) 第1巻・第2巻	著者等	デイビスら	出版社	一麦出版社
参考文献	標準音楽療法入門 上・下	著者等	篠田知璋ら	出版社	春秋社
参考文献	音楽療法を定義する	著者等	生野里花	出版社	東海大学出版会

【成績評価の「方法」と「基準」】

毎授業冒頭で実施される小テストの平均点(50%)、学期末で実施される授業全体に関するテスト(50%)の合計点で成績を換算する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	音楽療法とは何か(1):音楽療法には、広い意味での音楽療法と、より厳密な意味での音楽療法があると言える。両者の違いを認識し、専門的な介入としての音楽療法に求められる条件について学ぶ。	正式な音楽療法の条件を把握し、自分で説明できるようになること。	教科書と配布資料を熟読し、次回冒頭に実施される小テストに備える。
第2回	音楽療法とは何か(2)音楽療法の対象領域:音楽療法の多様な対象領域、およびその実践の様相を学ぶ。	音楽の主要な対象領域、およびそれらに対する主な音楽療法のアプローチを把握し、人に説明できるようになること。	教科書と配布資料を熟読し、次回冒頭に実施される小テストに備える。
第3回	音楽療法とは何か(3)音楽療法の目的:音楽療法は、健康に関する目的を達成するものである。健康の諸次元(身体・心理・社会・スピリチュアル)を学ぶ。また、音楽教育と音楽療法の相違についても検討する。	健康の各次元、およびそれに対する音楽療法のアプローチを把握し、人に説明できるようになること。	次回までに音楽療法と音楽教育の違いについての小レポートを作成。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	音楽療法とは何か(4)音楽療法実践の流れ:音楽療法は、アセスメント、目標設定、実践、記録、評価という流れをもつ体系的な営みである。実践の流れにおける諸要素とその意義について学ぶ。	実践の流れにおける諸要素と、その意義について説明できるようになること。	音楽療法の事例研究を2つ読み、「アセスメント—目標設定・実践—評価」という観点から分析し、レポートにまとめる。
第5回	音楽療法における音楽体験(1)聴取:音楽療法における聴取体験(リラクゼーション、GIM、RMT、随伴的聴取等)、	音楽療法における聴取体験の意義とその方法論について把握する。	
第6回	音楽療法における音楽体験(2)歌唱:失語症の訓練、自己表現、その他	音楽療法における歌唱体験の意義とその方法論について把握する。	
第7回	音楽療法における音楽体験(3)楽器演奏・即興・創作・その他	音楽療法における楽器演奏その他の体験の意義とその方法論について把握する。	
第8回	音楽療法における身体へのアプローチ:音楽療法における「身体」の健康への貢献について説明する。また、身体リハビリテーションを目的とした音楽療法の代表的な方法である神経学的音楽療法について学ぶ。	神経学的音楽療法の創始者、歴史、基本的な考え方について理解する。	神経学的音楽療法の概説が書かれた文書を読み、その要点をまとめてレポートに書く。
第9回	精神分析と音楽療法(1):精神分析の歴史・理論の概要・治療の方法について説明すると共に、音楽療法にこの理論を応用するときの考え方について学ぶ。	精神分析の基礎概念(意識、無意識、自我、超自我、エス、リビドー等)を理解し、人に説明できるようになる。	分析的音楽療法の概説が書かれた文書を読み、その要点をまとめてレポートに書く。
第10回	精神分析と音楽療法(2):精神分析に強く影響を受けた音楽療法の方法「分析的音楽療法」について学ぶ。加えて、精神分析において重要な「転移」および「逆転移」についても学ぶ。	分析的音楽療法の概要、および「転移・逆転移」について理解する。	自分が過去に経験した「転移感情」についてレポートを書く。
第11回	精神分析と音楽療法(3):「分析的音楽療法」の事例を検討し、音楽とこころの深層との関係についてより深く学ぶ。	分析的音楽療法の手法・基礎概念について理解する。	主要な防衛機制について、必要な文献を読んでまとめたレポートを書く。
第12回	認知行動療法・応用行動分析学(1):心理学の重要な学派の一つである行動主義心理学の歴史と概要、基本的な概念等を学ぶ。また、その臨床への応用である行動療法の概要を把握する。	行動療法の主要概念(強化、弱体化、馴化、弁別刺激等)を理解し、人に説明できるようになる。	自分が過去に経験した「強化・弱体化」の例を書いたレポートを作成する。
第13回	認知行動療法・応用行動分析学と音楽療法(2):行動療法の歴史と特徴を学ぶと共に、それを音楽療法にどう応用するのかについて、学ぶ。	認知行動療法・応用行動分析学および行動主義心理学の音楽療法への応用方法、またその意義を理解する。	認知行動療法・応用行動分析学に関する、理解が難しい概念(負の強化、負の罰)について文献を読んでまとめたレポートを作成する。
第14回	認知行動療法・応用行動分析学と音楽療法(3):行動療法に基づく音楽療法の事例を検討する。また、行動主義心理学・行動療法の諸概念が、音楽療法実践にどう活用するかを実例を通して紹介する。	認知行動療法・応用行動分析学および行動主義心理学の音楽療法への応用方法、またその意義を理解する。	神経学的音楽療法、分析的音楽療法、行動療法に基づく音楽療法の特徴を簡潔にまとめ、レポートを作成する。
第15回	授業まとめ・試験	神経学的音楽療法・分析的音楽療法・行動療法にもとづく音楽療法の概要を理解し、人に説明できるようになる。	

科目名(クラス)	音楽療法の理論と技法B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	二俣 泉	履修対象・条件	音楽療法専攻、教職特設コースのみ履修可。 音楽療法専攻のみ必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

音楽療法実践における対象者への介入に際しては、対象者の問題の要因の分析とそれに基づく合理的な介入方法の選択が必要である。その前提となるのが「理論」である。専門家の行なう音楽療法において、理論なき実践はありえない。音楽療法には複数の理論があり、対象者のニーズに応じて、理論を使い分ける必要もある。理論を知らずして、音楽療法の専門家になることはできない。本授業は、音楽療法における様々な支援方法と背景理論についての基礎的な理解を深めることを目的とする。本授業では、音楽療法の理論・アプローチのうち、人間性心理学とそれに影響を受けて発展したノードフ・ロビンズ音楽療法、トランスパーソナル心理学とGIM(音楽によるイメージ誘導法)、折衷主義、RMT(調整的音楽療法)、スピリチュアリティと音楽療法との関係等について学ぶ。

【授業の「方法」と「形式」】

講師による講義、ビデオ等による音楽療法の実践場面の紹介、および学生相互の討議で進行する。

【履修時の「留意点」と「心得」】

ほぼ毎回、授業の最初に小テストを実施する。この小テストも成績評価に反映される。復習を徹底すること。原則として欠席、遅刻、早退をしないこと。順序だてて講義を進めるので、出席しない授業があると、内容の理解に甚だしく影響する可能性が高いので、そのつもりで授業に臨んでもらいたい。大学外で行われる学会、講習会への参加、およびその感想文の提出も課題とする。

教科書	音楽療法を知る	著者等	宮本啓子ら	出版社	杏林書院
教科書	音楽療法士サバイバル・ブック	著者等	二俣泉	出版社	杏林書院
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

毎授業冒頭で実施される小テストの平均点(50%)、学期末で実施される授業全体に関するテスト(50%)の合計点で成績を換算する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	「音楽療法理論と技法A」の概要および本授業の概要説明	神経学的音楽療法、行動療法的音楽療法、分析的音楽療法の特徴と相違について簡潔に説明できるようになる。	ロジャーズの「治療的变化の必要十分条件」について、自ら文献を調べてレポートにまとめる。
第2回	人間性心理学と音楽療法(1):マズローの欲求階層説およびロジャーズのパーソン・センタード・アプローチについて学ぶ。加えて、これらの理論の音楽療法への応用について検討する。	欲求階層説およびロジャーズの理論の概要を把握する。	
第3回	人間性心理学と音楽療法(2):人間性心理学に影響を受けているノードフ・ロビンズ音楽療法の概要について学ぶ。	ノードフ・ロビンズ音楽療法の創始者・歴史・基本概念を把握する。	

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	人間性心理学と音楽療法(3):ノードフ・ロビンズ療法の多様な対象領域の実践を学ぶ	ノードフ・ロビンズ音楽療法の実践方法の特徴を把握する。	
第5回	トランスパーソナル心理学と音楽療法(1)	他の心理学・心理療法のアプローチと、トランスパーソナル心理学の相違点を把握し、それについて人に説明できるようになる。	
第6回	トランスパーソナル神学と音楽療法(2)	GIMの歴史と具体的方法、特徴について理解し、それを人に説明できるようになる。	GIMを用いた音楽療法の症例報告を読み、そのレポートを書く。
第7回	トランスパーソナル心理学と音楽療法(3):トランスパーソナル心理学の代表的理論である「意識のスペクトル理論」と、その理論に基づく音楽療法の症例を検討する。	ウィルバーの学説の概要を理解する。	宗教についてどう思うか、死後の世界、人間はどこから来て、どこへ行くのかなどに関する、現時点での自身の考えをまとめレポートにする。
第8回	音楽療法とスピリチュアリティ(1):音楽は、古代から宗教と深い関係があった。スピリチュアリティ・宗教、および人間のもつスピリチュアルなニーズについて考える。	自分の中にある、スピリチュアルなニーズに気づく。スピリチュアリティ・宗教について、通俗的理解や自分なりの理解ではなく、学問的に理解する。	
第9回	音楽療法とスピリチュアリティ(2):近年、心理療法の世界で注目を集めているマインドフルネスについて説明する。加えて、マインドフルネスを活用した音楽療法であるRMTについても説明する。	マインドフルネス体験を通じて、「自己を観察する」スキル的一端を体験し、その健康への意義を理解する。	
第10回	社会へのアプローチ:ここ10年ほどで研究・実践が進んできた「コミュニティ音楽療法」の理論と実践例について検討する。加えて、WHOの国際生活機能分類を紹介し、環境要因の改善の意義についても学ぶ。	WHOの国際生活機能分類の主要な概念を記憶し、それを人に説明できるようになる。	
第11回	音楽療法と効果:音楽療法は効果をもたらすために行うものであるが、何をもって効果とするか、またその効果が音楽療法によるものと言い切るには、様々の問題がある。音楽療法の効果に関する諸問題について検討する。	音楽療法の効果(量・質)の確認の方法、その意義と困難さについて理解する。	
第12回	音楽療法と研究活動	音楽療法における研究活動の意義について理解する。	音楽療法に関する歴史年表を作成する。
第13回	音楽療法の歴史(1):諸外国	諸外国の音楽療法の歴史の流れを把握する。	
第14回	音楽療法の歴史(2):日本	日本の音楽療法の歴史の流れを把握する。	
第15回	授業まとめ・試験	音楽療法の諸理論の概要と歴史を理解する。	

科目名(クラス)	音楽療法各論〔児童〕	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3・4
担当教員	二俣 泉	履修対象・条件	音楽療法専攻、教職特設コースのみ履修可。 音楽療法専攻のみ必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

知的障害・発達障害の子どもへの音楽療法の理論、実践の具体的方法、活動の例、保護者への対応等について学ぶ。この領域への音楽療法を実施するにあたっての知識を得ることを目的とする。

【授業の「方法」と「形式」】

講師による講義、ビデオ等による音楽療法の実践場面の紹介、および学生相互の討議で進行する。

【履修時の「留意点」と「心得」】

ほぼ毎回、授業の最初に小テストを実施する。この小テストも成績評価に反映される。復習を徹底すること。原則として欠席、遅刻、早退をしないこと。順序だてて講義を進めるので、出席しない授業があると、内容の理解に基だしく影響する可能性が高いので、そのつもりで授業に臨んでもらいたい。大学外で行われる学会、講習会への参加、およびその感想文の提出も課題とする。

教科書	発達障害の子どもたち	著者等	杉山登志郎	出版社	講談社
教科書	音楽で育てよう子どものコミュニケーション・スキル	著者等	二俣泉ら	出版社	春秋社
参考文献	音楽療法士サバイバル・ブック	著者等	二俣泉	出版社	杏林書院
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

毎授業冒頭で実施される小テストの平均点(50%)、学期末で実施される授業全体に関するテスト(50%)の合計点で成績を換算する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	授業全体の概要の説明および子どもの発達について考える。ヒトという種と他の動物との相違(環境からの影響を大きく受ける、環境に適応する能力が高い)について説明する。	子どもの発達に及ぼす環境の重要性を理解する。	教科書「発達障害の子どもたち」を読み、その前半部分に関するレポートを作成する。
第2回	発達障害の子どもの特徴:発達障害とは何か、その種類(知的障害、自閉症スペクトラム障害、学習障害、注意欠陥多動性障害)、およびその支援方法について学ぶ。	発達障害の代表的な障害とその特徴を理解する。	教科書「発達障害の子どもたち」を読み、その後半部分に関するレポートを作成する。
第3回	発達障害の子どもへの音楽療法の「流れ」(アセスメント、目標設定、主要な介入方法、評価)について学ぶ。	子どもの音楽療法実践の「流れ」を理解する。	発達障害児のためのアセスメント法(知能検査、発達検査等)のうちの一つを選び、それについてのレポートを作成する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	発達障害の子どもへの音楽療法の目的の3つの方向性(社会性・コミュニケーション、アカデミック・スキル、美的体験)について学ぶ。	子どもの音楽療法の目的を把握する。	
第5回	応用行動分析学に基づく音楽療法(1)	応用行動分析学の基本的な考え方を理解する。	
第6回	応用行動分析学に基づく音楽療法(2)	音楽療法実践における諸現象を、応用行動分析学の用語で説明することができるようになる。	
第7回	応用行動分析学に基づく音楽療法(3)	行動問題に対処する際に、応用行動分析学を用いた解決方法を考えられるようになる。	
第8回	ノードフ・ロビンズ音楽療法(1):歴史・方法・基本概念を学ぶ	ノードフ・ロビンズ音楽療法の創始者・歴史・基本概念を把握する。	
第9回	ノードフ・ロビンズ音楽療法(2):エドワードの症例その他、実際の例を知る。	ノードフ・ロビンズ音楽療法の古典的事例を通じて、美的体験の臨床上の意義を理解する。	ノードフ・ロビンズのプレイソングを1曲選び、練習してくる。
第10回	ノードフ・ロビンズ音楽療法(3):プレイソング、ピフ・パフ・ポールトリーの体験	ノードフ・ロビンズ音楽療法の中で作られた楽曲を体験することを通して、音楽体験の意義を理解する。	
第11回	発達論に基づく音楽療法(1):子どもの支援において不可欠な「発達論」に関する学説を学ぶ。	子どもの発達にかかわる主要な理論を把握する。	
第12回	発達論に基づく音楽療法(2):音楽療法実践に大きな影響を与えてきた、宇佐川浩の「感覚と運動の高次化理論」について学ぶ。	感覚と運動の高次化理論の概要を把握する。	
第13回	発達論に基づく音楽療法(3):宇佐川浩の「感覚と運動の高次化理論」に基づく音楽療法実践の方法について学ぶ。	感覚と運動の高次化理論にもとづくアクティビティと音楽の活用方法を把握する。	
第14回	折衷主義	複数の理論の使い分け方について把握する。	
第15回	授業まとめ・試験	発達障害の特徴と、音楽療法での支援の方法の概要について理解する。	

科目名(クラス)	音楽療法各論〔精神科〕	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3・4
担当教員	馬場 存	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可。必修				

【授業の「概要」と「目的」】

精神科領域の音楽療法の理論と実践を理解する。具体的には、精神障害全般を、音楽療法を施行することを念頭に置いて概観し、次に音楽療法の歴史を精神医学的観点から踏まえて復習する。それらを踏まえて音楽療法の実践の際の考え方、技法等について説明する。大きく分けると健常者から神経症圏の音楽療法と、統合失調症圏の音楽療法に分けて解説する。また、音楽療法理論の全体象を、主に心理療法的観点から再確認する。最終的には、それらを統合して、精神症状全般と音楽療法の関連について有機的に理解する事を目標とする。また、その理解のために、即興的体験や心理療法的体験も随時盛り込む。教科書及び講義内配布のプリントを用いる。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式で行い、時に即興的体験等を交える。

【履修時の「留意点」と「心得」】

2年次の「人間と医療I」で履修した範囲を復習し、概略を念頭に置いておくこと。この領域の音楽療法の理解はそのまま人間理解、心理理解、そして自分自身の理解に繋がりを持つので、常に自分の心を振り返る心構えをどこかに持つておくこと。

教科書	音楽療法の基礎	著者等	村井靖児	出版社	音楽之友社
教科書	精神医学エッセンス	著者等	濱田秀伯	出版社	弘文堂
参考文献	医学的音楽療法の基礎と臨床	著者等	日本音楽医療研	出版社	北大路書房
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

講義であるので、概念の正確な理解とその応用力が必要である。そのため、試験は筆記試験で行う。すべて記憶できればそれに越したことはないが、学生時代においては、内容を細部にわたり記憶することよりも、全体の大枠を頭の中に定着させることが重要である。そのため、試験は、教科書、参考書、自筆ノート、講義プリントを持ち込み可とし、選択肢形式ではなく文章を筆記する形で行う。問われていることが何かを理解できれば解答可能の形になる。したがって、全体を良く理解し、何が本質であるのか、しっかり理解し問いに答えられるようにすることが望まれる。講義終了時の、その日の内容についての質問に対する返答の正確性(15%)と、筆記試験の点数(85%)を合算する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	精神障害の概略1	妄想性障害の理解。	予習:「人間と医療I」の復習をしてくること。復習:講義の内容が理解できているか確認すること。
第2回	精神障害の概略2	気分障害の理解。	予習:前回までの講義の理解。復習:講義の内容が理解できているか確認すること。
第3回	精神障害の概略3	神経症圏の症状や病態の理解。	予習:前回までの講義の理解。復習:講義の内容が理解できているか確認すること。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	精神障害の概略4	パーソナリティ障害の理解。	予習: 前回までの講義の理解。 復習: 講義の内容が理解できているか確認すること。
第5回	音楽療法の歴史1	主な目標: 音楽の起源と心理学的側面との関連の理解。	予習: 前回までの講義の理解。 復習: 講義の内容が理解できているか確認すること。
第6回	音楽療法の歴史2	主な目標: ピタゴラスとアリストテレスの言説と音楽の心理療法的側面の理解。	予習: 前回までの講義の理解。 復習: 講義の内容が理解できているか確認すること。
第7回	音楽療法の歴史3	主な目標: ルードのいう逆療法的音楽療法の概念と同質の原理の再確認。	予習: 前回までの講義の理解。 復習: 講義の内容が理解できているか確認すること。
第8回	音楽療法の歴史4	主な目標: 近代精神医学の誕生と精神病院の交流に伴う音楽療法の誕生の流れの理解。	予習: 前回までの講義の理解。 復習: 講義の内容が理解できているか確認すること。
第9回	音楽療法の歴史5	主な目標: 全米音楽療法協会の誕生に至る過程での音楽療法の発展経過の理解。	予習: 前回までの講義の理解。 復習: 講義の内容が理解できているか確認すること。
第10回	音楽の生理的作用	主な目標: 音楽の心理作用の理解に当たり、先ず身体にどのような作用を及ぼすのかについて最新の研究報告も含め理解すること。	予習: 前回までの講義の理解。 復習: 講義の内容が理解できているか確認すること。
第11回	音楽の心理的作用1	主な目標: 同質の原理の再確認と、音楽の気分の転導に関する、和声進行を基にした有機的関連の理解。	予習: 前回までの講義の理解。 復習: 講義の内容が理解できているか確認すること。
第12回	音楽の心理的作用2	主な目標: 音楽の心理的作用として、発散・感情の誘発・気分の転導の種々の方向・励まし・慰めといった作用の理解。	予習: 前回までの講義の理解。 復習: 講義の内容が理解できているか確認すること。
第13回	音楽の心理的作用3	主な目標: 精神療法の4つの枠組みとそれに対応した音楽の作用の理解。及び即興体験。	予習: 前回までの講義の理解。 復習: 講義の内容が理解できているか確認すること。
第14回	精神病圏の音楽療法	主な目標: 統合失調症の病態と音楽療法的作用との有機的関連の理解。	予習: 前回までの講義の理解。 復習: 講義の内容が理解できているか確認すること。
第15回	授業内試験	第1～14回の講義及び即興体験の意義を理解し、それらを問われた際に必要な情報に当たり言語的に的確に記述・表現できること。	学んだ内容を振り返り、実践に生かす。

科目名(クラス)	音楽療法各論〔高齢者〕	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3・4
担当教員	平田 紀子	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可。必修				

【授業の「概要」と「目的」】

高齢者領域の音楽療法について、基礎的知識を習得し、理解を深める。
この授業では、高齢者の心理や疾患、障害、支援の方法、実践の手順、他職種との連携など、実習や社会で役に立つ知識や心得を身につける。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式。毎回の授業で教材のプリントを配布する。

【履修時の「留意点」と「心得」】

欠席や遅刻、退席をしないことを原則とする。課題提出等の期限を厳守する。
口述した付加解説や板書に関しては、ノートを必ず取るように。
欠席すると内容の理解・継続に影響するので、出席者に内容を聞く、配布プリントをコピーするなど次回に備えること。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	授業内でプリント配布	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

期末筆記試験を行う。
評価率は、筆記試験70%、授業への積極的参加など取り組みの姿勢を30%とする。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	高齢者の支援について 1	高齢者の生活機能、生活行動情報に着目し、活動の発展を踏まえた支援を学ぶ	配布プリントや各自のノートを読んで次回の授業に備える(以下同様)
第2回	高齢者の支援について 2	高齢者の生活機能、生活行動情報に着目し、活動の発展を踏まえた支援を学ぶ	
第3回	加齢について～高齢者の心理～	加齢による心身機能の変化、高齢者の心理について理解する	

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	主な疾患と障害 1. 認知症	認知症について病態生理、症状などの知識を得る	
第5回	主な疾患と障害 2. 認知症	認知症のケアについて学ぶ	
第6回	主な疾患と障害 3. 脳卒中	脳卒中について病態生理、症状などの知識を得る	
第7回	主な疾患と障害 4. 脳卒中	脳卒中のケア、リハビリテーションについて学ぶ	
第8回	主な疾患と障害 5. 神経難病他	パーキンソン病などの神経難病について知識を得る	
第9回	主な疾患と障害 6. 廃用症候群	廃用症候群について知識を得、予防や改善の方法を学ぶ	
第10回	実践の目的、手順	高齢者への音楽療法の実践における流れ、技法について学ぶ	
第11回	実践の流れ、進め方 1	高齢者への音楽療法の実際における流れ、技法、留意点について学ぶ	
第12回	実践の流れ、進め方 2	高齢者への音楽療法の実際における流れ、技法、留意点について学ぶ	
第13回	記録と評価	実践の記録や評価法について学ぶ	
第14回	新しい分野の実践現場	予防的音楽療法その他、新しい分野の実践について知識を得る	
第15回	本科目の総括(振り返り)	本科目の目的について解説できる	配布プリントや資料を再読する

科目名(クラス)	ソルフェージュ1-a	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	加茂下 裕	履修対象・条件	全専攻必修				

【授業の「概要」と「目的」】

音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」を踏まえて迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。新曲視唱、新曲リズム、聴音(単旋律、複旋律、3~4声和音および和声、音や表現の違い等)、伴奏付旋律の弾き歌い、リズムアンサンブル、読譜(和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等)、カデンツの理解(特にドミナント進行)、移調訓練等その他。

【授業の「方法」と「形式」】

主に演習

【履修時の「留意点」と「心得」】

積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。

教科書	美しい新曲課題集	著者等	荻久保和明 他著	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

聴音、弾き歌い、新曲視唱の実技試験有り。(100%)原則としてクラス毎に行う。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

週	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1週	①聴音(旋律・2声:C dur/a moll/G durで各種の臨時記号を含むもの、和声:C durで3声開離タイプ、必要に応じた高度な課題) ②新曲視唱(2°音程: # ♭ 1つまでの調) ③弾き歌い(テキストNo.1~4)	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第2週	①聴音(第1週の続き) ②新曲視唱(3°音程: # ♭ 1つまでの調) ③弾き歌い(テキストNo.5~8)	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第3週	①聴音(第2週の続き) ②新曲視唱(4°音程: # ♭ 1つまでの調) ③弾き歌い(テキストNo.9~12)	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4週	①聴音(旋律・2声:F durで各種の臨時記号を含むものを加える、和声:a mollで3声開離タイプ、必要に応じた高度な課題) ②新曲視唱(5°音程: # ♭ 1つまでの調) ③弾き歌い(テキストNo.13~17)	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第5週	①聴音(第4週の続き) ②新曲視唱(6°音程: # ♭ 1つまでの調) ③弾き歌い(テキストNo.18~21)	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第6週	①聴音(第5週の続き) ②新曲視唱(7°音程: # ♭ 1つまでの調)	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第7週	①聴音(旋律・2声:e mollで基本的なものを加える、和声:C durで4声開離タイプ、必要に応じた高度な課題)②新曲視唱(8°音程: # ♭ 1つまでの調) ③弾き歌い(テキストNo.26~29)	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第8週	①聴音(第7週の続き) ②新曲視唱(応用練習) ③弾き歌い(テキストNo.30~33)	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第9週	①聴音(第8週の続き) ②新曲視唱(応用練習) ③弾き歌い(テキストNo.34~37)	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第10週	①聴音(旋律・2声:d mollで基本的なものを加える、和声:c mollで4声開離タイプ、必要に応じた高度な課題) ②新曲視唱(応用練習) ③弾き歌い(テキストNo.38~41)	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第11週	①聴音(第10週の続き) ②新曲視唱(応用練習) ③弾き歌い(テキストNo.42~44)	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第12週	①聴音(第11週の続き) ②新曲視唱(応用練習) ③弾き歌い(復習)	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第13週	総合練習	・ここまでの内容による聴音・新曲視唱の課題ができる	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第14週	まとめ	・ここまでの内容による聴音・新曲視唱の課題ができる ・弾き歌いの演奏ができる	
第15週	まとめ	・ここまでの内容による聴音・新曲視唱の課題ができる ・弾き歌いの演奏ができる	

科目名(クラス)	ソルフェージュ1ーb	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	井上 淳司	履修対象・条件	全専攻必修				

【授業の「概要」と「目的」】

音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」を踏まえて迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。新曲視唱、新曲リズム、聴音(単旋律、複旋律、3～4声和音および和声、音や表現の違い等)、伴奏付旋律の弾き歌い、リズムアンサンブル、読譜(和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等)、カデンツの理解(特にドミナント進行)、移調訓練等その他。

【授業の「方法」と「形式」】

ソルフェージュに該当する総ての訓練を実技中心にクラス全体および個別に行う。

【履修時の「留意点」と「心得」】

積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。

教科書	美しい新曲課題集	著者等	井上淳司、荻久	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

聴音、弾き歌い、新曲視唱の実技試験有り。(100%)原則としてクラス毎に行う。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(No.1～4)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、主要三和音中心の三～四声の書き取り、読み取り、視唱。	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第2回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(No.5～7)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、主要三和音中心の三～四声の書き取り、読み取り、視唱。	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第3回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(No.8～10)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、主要三和音中心の書き取り、読み取り、視唱。	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第4回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(No.11~13)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、副三和音や副七を含む三~四声の書き取り、読み取り、視唱。	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第5回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(No.14~17)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、副三和音や副七を含む三~四声の書き取り、読み取り、視唱。	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第6回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(No.18~21)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、副三和音や副七を含む三~四声の書き取り、読み取り、視唱。	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第7回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(No.22~25)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、副三和音や副七を含む三~四声の書き取り、読み取り、視唱。	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第8回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(No.26~29)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、副三和音や副七を含む三~四声の書き取り、読み取り、視唱。	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第9回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(No.30~33)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、副三和音や副七を含む三~四声の書き取り、読み取り、視唱。	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第10回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(No.34~37)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、副三和音や副七を含む三~四声の書き取り、読み取り、視唱。	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第11回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(No.38~41)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、副三和音や副七を含む三~四声の書き取り、読み取り、視唱。	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第12回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(No.42~45)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、副三和音や副七を含む三~四声の書き取り、読み取り、視唱。	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第13回	まとめ	聴音のまとめ問題	
第14回	まとめ	新曲視唱のまとめ問題	
第15回	まとめ	弾き歌いのまとめ問題	

科目名(クラス)	ソルフェージュ1-c	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	松岡 俊克	履修対象・条件	全専攻必修				

【授業の「概要」と「目的」】

新曲視唱、新曲リズム、聴音(単旋律、複旋律、3~4声和音、および和声、音や表現の違い等)、伴奏付旋律の弾きうたい、リズムアンサンブル、読譜(和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等)、カデンツの理解(特にドミナント進行)、移調訓練等、その他。
各専攻の専門技術を補完する、あらゆる実技トレーニング。すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」が迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練とさらにそれを応用して表現に結びつける力を養う。

【授業の「方法」と「形式」】

実技トレーニング

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・毎日、単元ごとのプリントを配布するので、必ず出席すること。
- ・積み重ねが重要。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・聴音、新曲(視唱)、弾きうたい(100%)の実技試験

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	・オリエンテーション ・2度音程の練習① ・4分、2分(音符、休符)ト音記号		歌ったり、書きとった旋律を楽器で演奏してくる
第2回	・2度音程の練習② ・3度音程の練習① ・2・3度音程の練習①ト音記号	・長2度・短2度の区別 ・歌うこと、書きとることが出来る	新曲課題集「1番~9番」を練習
第3回	・2・3度音程の練習② ・シンコペーション ・ハ長調、8分、4分、2分音符(休符)		「10番~19番」

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・2・3度音程の練習③ ・ハ長調、リズム打ち(3連符) ・ト音記号 	<ul style="list-style-type: none"> ・長3度・短3度の区別 ・歌うこと、書きとることが出来る 	「20番～29番」
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・4度音程の練習① ・2・3・4度音程の練習① ・8分の6拍子、4分の3拍子のリズムパターン① 	<ul style="list-style-type: none"> ・平行調の理解 	「30番～39番」
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・2・3・4度音程の練習② ・8分の6拍子、4分の3拍子のリズムパターン② ・ハ長調、イ短調 	<ul style="list-style-type: none"> ・平行調の理解 	「40番～49番」
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・2・3・4度音程の練習③ ・8分の6拍子、4分の3拍子のリズムパターン③ 	<ul style="list-style-type: none"> ・平行調の理解 	個人ごとに2曲を選び、随時練習してくる(弾きうたい)
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・2・3・4度音程の練習④ ・付点音符(8分、4分、2分音符) ・8分の6拍子、4分の3拍子のリズムパターン④ 	<ul style="list-style-type: none"> ・♭1つまでの長音階の理解 	「50番～59番」
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・5度音程の練習① ・2・3・4・5度音程の練習① 	<ul style="list-style-type: none"> ・♯1つまでの長音階の理解 	「60番～」
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・2・3・4・5度音程の練習② ・複合拍子の練習 ・ハ長調、ヘ長調、ト長調 		
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・6度音程の練習① ・2・3・4・5・6度音程の練習① ・ハ長調、イ短調 	<ul style="list-style-type: none"> ・2度～6度までの音程を聞きわけ、歌うことが出来る 	個人ごとに2曲を選び弾きうたいの練習
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・過去問題の実施と対策①(聴音、新曲視唱) 		
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ・過去問題の実施と対策②(聴音、新曲視唱) 		
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ① 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハ長調・イ短調 ・ト長調・ヘ長調 	
第15回	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ② 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハ長調・イ短調 ・ト長調・ヘ長調 	

科目名(クラス)	ソルフェージュ2-a	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	加茂下 裕	履修対象・条件	全専攻必修				

【授業の「概要」と「目的」】

音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」を踏まえて迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。新曲視唱、新曲リズム、聴音(単旋律、複旋律、3~4声和音および和声、音や表現の違い等)、伴奏付旋律の弾き歌い、リズムアンサンブル、読譜(和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等)、カデンツの理解(特にドミナント進行)、移調訓練等その他。

【授業の「方法」と「形式」】

主に演習

【履修時の「留意点」と「心得」】

積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。

教科書	美しい新曲課題集	著者等	荻久保和明 他著	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

聴音、弾き歌い、新曲リズム打ちの実技試験有り。(100%)原則としてクラス毎に行う。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1週	①聴音(旋律・2声:1-aの内容にe mollで各種の臨時記号を含むものを加える、和声:C durでV9・II7の和音を加える、必要に応じた高度な課題) ②リズム打ち(2/4基礎) ③弾き歌い(テキストNo.45~48)	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第2週	①聴音(第1週の続き) ②リズム打ち(2/4応用) ③弾き歌い(テキストNo.49~52)	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第3週	①聴音(第2週の続き) ②リズム打ち(3/4基礎) ③弾き歌い(テキストNo.53~56)	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4週	①聴音(旋律・2声:d mollで各種の臨時記号を含むものを加える、和声:c mollでV9・II7の和音を加える、必要に応じた高度な課題) ②リズム打ち(3/4応用) ③弾き歌い(テキストNo.57～60)	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第5週	①聴音(第4週の続き) ②リズム打ち(4/4基礎) ③弾き歌い(テキストNo.61～64)	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第6週	①聴音(第5週の続き) ②リズム打ち(4/4応用) ③弾き歌い(テキストNo.65～69)	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第7週	①聴音(旋律・2声:B durで基本的なものを加える、和声:準固有和音・ドッペルドミナントの和音を加える、必要に応じた高度な課題) ②リズム打ち(3/8基礎) ③弾き歌い(テキストNo.70～73)	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第8週	①聴音(第7週の続き) ②リズム打ち(3/8応用) ③弾き歌い(テキストNo.74～78)	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第9週	①聴音(第8週の続き) ②リズム打ち(6/8基礎) ③弾き歌い(テキストNo.79～83)	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第10週	①聴音(旋律・2声:D durで基本的なものを加える、和声:IV7の和音を加える、必要に応じた高度な課題) ②リズム打ち(6/8応用) ③弾き歌い(テキストNo.84～86)	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第11週	①聴音(第10週の続き) ②リズム打ち(総合練習) ③弾き歌い(復習)	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第12週	①聴音(第11週の続き) ②リズム打ち(総合練習) ③弾き歌い(復習)	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第13週	総合練習	・ここまでの内容による聴音・新曲視唱の課題ができる	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第14週	まとめ	・ここまでの内容による聴音・リズム打ちの課題ができる ・弾き歌いの演奏ができる	
第15週	まとめ	・ここまでの内容による聴音・リズム打ちの課題ができる ・弾き歌いの演奏ができる	

科目名(クラス)	ソルフェージュ2ーb	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	井上 淳司	履修対象・条件	全専攻必修				

【授業の「概要」と「目的」】

音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」を踏まえて迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。新曲視唱、新曲リズム、聴音(単旋律、複旋律、3～4声和音および和声、音や表現の違い等)、伴奏付旋律の弾き歌い、リズムアンサンブル、読譜(和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等)、カデンツの理解(特にドミナント進行)、移調訓練等その他。

【授業の「方法」と「形式」】

ソルフェージュに該当する総ての訓練を実技中心にクラス全体および個別に行う。

【履修時の「留意点」と「心得」】

積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。

教科書	美しい新曲課題集	著者等	井上淳司、荻久	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

聴音、弾き歌い、新曲リズム打ちの実技試験有り。(100%)原則としてクラス毎に行う。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(No.46～49)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第2回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(No.50～53)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第3回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(No.54～57)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第4回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(No.58~61)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、主要三和音中心の書き取り、読み取り、視唱。	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第5回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(No.62~65)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、主要三和音中心の書き取り、読み取り、視唱。	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第6回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(No.66~69)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、主要三和音中心の書き取り、読み取り、視唱。	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第7回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(No.70~73)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、主要三和音中心の書き取り、読み取り、視唱。	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第8回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(No.74~77)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、主要三和音中心の書き取り、読み取り、視唱。	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第9回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(No.78~81)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、主要三和音中心の書き取り、読み取り、視唱。	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第10回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(No.82~85)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、主要三和音中心の書き取り、読み取り、視唱。	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第11回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(No.86~88)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、主要三和音中心の書き取り、読み取り、視唱。	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第12回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集(No.89~90)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、主要三和音中心の書き取り、読み取り、視唱。	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第13回	まとめ	聴音のまとめ問題	
第14回	まとめ	新曲リズム打ちのまとめ問題	
第15回	まとめ	弾き歌いのまとめ問題	

科目名(クラス)	ソルフェージュ2-c	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	松岡 俊克	履修対象・条件	全専攻必修				

【授業の「概要」と「目的」】

新曲視唱、新曲リズム、聴音(単旋律、複旋律、3~4声和音、および和声、音や表現の違い等)、伴奏付旋律の弾きうたい、リズムアンサンブル、読譜(和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等)、カデンツの理解(特にドミナント進行)、移調訓練等、その他。
各専攻の専門技術を補完する、あらゆる実技トレーニング。すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」が迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練とさらにそれを応用して表現に結びつける力を養う。

【授業の「方法」と「形式」】

実技トレーニング

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・毎日、単元ごとのプリントを配布するので、必ず出席すること。
- ・積み重ねが重要。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・聴音、新曲(リズム)、弾きうたい(100%)の実技試験

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	・後期授業の展開方法 ・2度音程の練習①	・長2度・短2度音程を聞きわけ、歌うことが出来る	
第2回	・3度音程の練習① ・へ音記号の練習① ・ハ長調、イ短調		新曲課題集「1番～9番」を練習
第3回	・2・3度音程の練習① ・へ音記号の練習② ・ト長調	・長3度・短3度音程を聞きわけ、歌うことが出来る	「10番～19番」を練習

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	・2・3度音程の練習② ・へ長調 ・リズム打ち①	・2・3度までの読譜、歌う、記譜 することが出来る	「20番～29番」
第5回	・4度音程の練習① ・2・3・4度音程の練習①		「30番～39番」
第6回	・2・3・4度音程の練習② ・リズム打ち(3連符)②		「40番～49番」
第7回	・2・3・4度音程の練習③ ・リズム打ち③	・2～4度音程までの読譜、歌 う、記譜することが出来る	「50番～59番」
第8回	・5度音程の練習① ・リズム打ち(細かい音符)④		「60番～69番」
第9回	・2・3・4・5度音程の練習① ・へ音記号の練習③	・2～5度音程までの読譜、歌 う、記譜することが出来る	「70番～79番」
第10回	・6度音程の練習① ・リズム打ち⑤ ・へ音記号の練習④	・2～6度音程までの読譜、歌 う、記譜することが出来る	「80番～90番」
第11回	・過去問題の実施と対策① (聴音、新曲リズム)		個人ごとに2曲を選び弾きうた いの練習
第12回	・過去問題の実施と対策②		
第13回	・過去問題の実施と対策③		
第14回	・まとめ①		
第15回	・まとめ②		

科目名(クラス)	ソルフェージュ3-a	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	松岡 俊克	履修対象・条件	音楽療法専攻以外は必修				

【授業の「概要」と「目的」】

新曲視唱、新曲リズム、聴音(単旋律、複旋律、3~4声和音、および和声、音や表現の違い等)、伴奏付旋律の弾きうたい、リズムアンサンブル、読譜(和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等)、カデンツの理解(特にドミナント進行)、移調訓練等、その他。
各専攻の専門技術を補完する、あらゆる実技トレーニング。すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」が迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練とさらにそれを応用して表現に結びつける力を養う。

【授業の「方法」と「形式」】

実技トレーニング

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・毎日、単元ごとのプリントを配布するので、必ず出席すること。
- ・積み重ねが重要。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】 (380文字以内)

・聴音、新曲(視唱)、弾きうたい(100%)の実技試験

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	・オリエンテーション ・2度音程の練習①		
第2回	・3度音程の練習① ・へ音記号の練習① ・ハ長調、イ短調、ト長調		
第3回	・2・3度音程の練習① ・へ音記号の練習② ・ト長調、へ長調		新曲課題集「1番~20番」を練習

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・2・3度音程の練習② ・複合拍子の練習① ・シンコペーションの練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・2・3度までの読譜、歌う、記譜することができる 	「21番～30番」
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・4度音程の練習① ・ハ音記号の練習① ・イ短調、ホ短調 		「31番～40番」
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・2・3・4度音程の練習① ・ハ音記号の練習② ・ニ長調、ロ短調 		「41番～50番」
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・2・3・4度音程の練習② ・変ロ長調、ト短調 	<ul style="list-style-type: none"> ・2～4度までの読譜、歌う、記譜することができる 	「51番～60番」
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・5度音程の練習① ・ハ音記号の練習③ ・イ長調、変ホ長調 		「61番～70番」
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・2・3・4・5度音程の練習① ・複合拍子の練習② ・嬰ヘ短調、ハ短調 	<ul style="list-style-type: none"> ・2～5度までの読譜、歌う、記譜することができる 	「71番～」
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・6度音程の練習① ・ニ短調、ニ長調 	<ul style="list-style-type: none"> ・6度までの読譜、歌う、記譜することができる 	個人ごとに2曲を選び、弾きうたいの練習
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・7度音程の練習① ・ト短調、ト長調 	<ul style="list-style-type: none"> ・7度までの読譜、歌う、記譜することができる 	
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・過去問題の実施と対策① (聴音、新曲視唱) 		
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ・過去問題の実施と対策② 		
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ① 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハ長調・イ短調 ・ト長調・ホ短調 ・ニ長調、ロ短調 	
第15回	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ② 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘ長調・ニ短調 ・変ロ長調・ト短調 ・変ホ長調、ハ短調 	

科目名(クラス)	ソルフェージュ3-b	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	加茂下 裕	履修対象・条件	音楽療法専攻以外は必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」を踏まえて迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。新曲視唱、新曲リズム、聴音(単旋律、複旋律、3~4声和音および和声、音や表現の違い等)、伴奏付旋律の弾き歌い、リズムアンサンブル、読譜(和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等)、カデンツの理解(特にドミナント進行)、移調訓練等その他。

【授業の「方法」と「形式」】

主に演習

【履修時の「留意点」と「心得」】

積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。

教科書	美しい新曲課題集	著者等	荻久保和明 他著	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

聴音、弾き歌い、新曲視唱の実技試験有り。(100%)原則としてクラス毎に行う。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

週	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1週	①聴音(旋律・2声:昨年度2-bの内容にe mollで各種の臨時記号を含むものを加える、和声:C durでV9・II7の和音を加える) ②新曲視唱(2°音程: # ♭ 2つまでの調) ③弾き歌い(テキストNo.1~4)④コード判定	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第2週	①聴音(第1週の続き) ②新曲視唱(3°音程: # ♭ 2つまでの調) ③弾き歌い(テキストNo.5~8) ④コード判定	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第3週	①聴音(第2週の続き) ②新曲視唱(4°音程: # ♭ 2つまでの調) ③弾き歌い(テキストNo.9~12) ④コード判定	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標 (70文字以内)	準備学習(予習・復習)
第4週	①聴音(旋律・2声:d mollで各種の臨時記号を含むものを加える、和声:c mollでV9・II7の和音を加える) ②新曲視唱(5°音程: # ♭ 2つまでの調) ③弾き歌い(テキストNo.13~17) ④コード判定	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第5週	①聴音(第4週の続き) ②新曲視唱(6°音程: # ♭ 2つまでの調) ③弾き歌い(テキストNo.18~21) ④コード判定	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第6週	①聴音(第5週の続き) ②新曲視唱(7°音程: # ♭ 2つまでの調) ③弾き歌い(テキストNo.22~25) ④コード判定	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第7週	①聴音(旋律・2声:B durで基本的なものを加える、和声:準固有和音・ドッペルドミナントの和音を加える) ②新曲視唱(8°音程: # ♭ 2つまでの調) ③弾き歌い(テキストNo.26~29) ④コード判定	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第8週	①聴音(第7週の続き) ②新曲視唱(応用練習) ③弾き歌い(テキストNo.30~33) ④コード判定	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第9週	①聴音(第8週の続き) ②新曲視唱(応用練習) ③弾き歌い(テキストNo.34~37) ④コード判定	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第10週	①聴音(旋律・2声:D durで基本的なものを加える、和声:IV7の和音を加える) ②新曲視唱(応用練習) ③弾き歌い(テキストNo.38~41) ④コード判定	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第11週	①聴音(第10週の続き) ②新曲視唱(応用練習) ③弾き歌い(テキストNo.42~44) ④コード判定	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第12週	①聴音(第11週の続き) ②新曲視唱(応用練習) ③弾き歌い(復習) ④コード判定	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第13週	総合練習	・ここまでの内容による聴音・新曲視唱の課題ができる	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第14週	まとめ	・ここまでの内容による聴音・新曲視唱の課題ができる ・弾き歌いの演奏ができる	
第15週	まとめ	・ここまでの内容による聴音・新曲視唱の課題ができる ・弾き歌いの演奏ができる	

科目名(クラス)	ソルフェージュ3-c	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	井上 淳司	履修対象・条件	音楽療法専攻以外は必修				

【授業の「概要」と「目的」】

音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」を踏まえて迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。新曲視唱、新曲リズム、聴音(単旋律、複旋律、3~4声和音および和声、音や表現の違い等)、伴奏付旋律の弾き歌い、リズムアンサンブル、読譜(和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等)、カデンツの理解(特にドミナント進行)、移調訓練等その他。

【授業の「方法」と「形式」】

ソルフェージュに該当する総ての訓練を実技中心にクラス全体および個別に行う。

【履修時の「留意点」と「心得」】

積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。

教科書	美しい新曲課題集	著者等	井上淳司、荻久	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

聴音、弾き歌い、新曲視唱の実技試験有り。(100%)原則としてクラス毎に行う。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	タイやシンコペーションを多少多く含むもの、調号二つ以上でやや複雑なリズムや、跳躍進行の習得。対位法的二声部や重音から四声体で和声感の習得。	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第2回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	タイやシンコペーションを多少多く含むもの、調号二つ以上でやや複雑なリズムや、跳躍進行の習得。対位法的二声部や重音から四声体で和声感の習得。	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第3回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	タイやシンコペーションを多少多く含むもの、調号二つ以上でやや複雑なリズムや、跳躍進行の習得。対位法的二声部や重音から四声体で和声感の習得。	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	タイやシンコペーションを多少多く含むもの、調号二つ以上でやや複雑なリズムや、跳躍進行の習得。対位法的二声部や重音から四声体で和声感の習得。	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第5回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	タイやシンコペーションを多少多く含むもの、調号二つ以上でやや複雑なリズムや、跳躍進行の習得。対位法的二声部や重音から四声体で和声感の習得。	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第6回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	タイやシンコペーションを多少多く含むもの、調号二つ以上でやや複雑なリズムや、跳躍進行の習得。対位法的二声部や重音から四声体で和声感の習得。	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第7回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	タイやシンコペーションを多少多く含むもの、調号二つ以上でやや複雑なリズムや、跳躍進行の習得。対位法的二声部や重音から四声体で和声感の習得。	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第8回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	タイやシンコペーションを多少多く含むもの、調号二つ以上でやや複雑なリズムや、跳躍進行の習得。対位法的二声部や重音から四声体で和声感の習得。	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第9回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	タイやシンコペーションを多少多く含むもの、調号二つ以上でやや複雑なリズムや、跳躍進行の習得。対位法的二声部や重音から四声体で和声感の習得。	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第10回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	タイやシンコペーションを多少多く含むもの、調号二つ以上でやや複雑なリズムや、跳躍進行の習得。対位法的二声部や重音から四声体で和声感の習得。	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第11回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	タイやシンコペーションを多少多く含むもの、調号二つ以上でやや複雑なリズムや、跳躍進行の習得。対位法的二声部や重音から四声体で和声感の習得。	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第12回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	タイやシンコペーションを多少多く含むもの、調号二つ以上でやや複雑なリズムや、跳躍進行の習得。対位法的二声部や重音から四声体で和声感の習得。	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第13回	まとめ	聴音のまとめ問題	
第14回	まとめ	新曲視唱のまとめ問題	
第15回	まとめ	弾き歌いのまとめ問題	

科目名(クラス)	ソルフェージュ4-a	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	松岡 俊克	履修対象・条件	音楽療法専攻以外は必修				

【授業の「概要」と「目的」】

新曲視唱、新曲リズム、聴音(単旋律、複旋律、3~4声和音、および和声、音や表現の違い等)、伴奏付旋律の弾きうたい、リズムアンサンブル、読譜(和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等)、カデンツの理解(特にドミナント進行)、移調訓練等、その他。
各専攻の専門技術を補完する、あらゆる実技トレーニング。すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」が迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練とさらにそれを応用して表現に結びつける力を養う。

【授業の「方法」と「形式」】

実技トレーニング

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・毎日、単元ごとのプリントを配布するので、必ず出席すること。
- ・積み重ねが重要。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・聴音、新曲(リズム)、弾きうたい(100%)の実技試験

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	・後期授業の展開方法 ・前期の復習		
第2回	・2・3度音程の練習① ・へ・ハ音記号の練習① ・リズム打ち		
第3回	・2・3度音程の練習② ・へ・ハ音記号の練習② ・ト長調、二長調	・2・3度音程までの読譜、歌う、 記譜することが出来る	新曲課題集 「1番~20番」を練習

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・2・3・4度音程の練習① ・ハ音記号の練習③ ・二短調、ト短調、ト長調 		「21番～30番」
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・2・3・4度音程の練習② ・ハ音記号の練習④ ・二短調、ト長調、ヘ長調 		「31番～40番」
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・2・3・4度音程の練習③ ・ハ音記号の練習⑤ ・二短調、ヘ長調 	種々な音部記号にて4度音程まで、歌ったり記譜することが出来る	「41番～50番」
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・2・3・4・5度音程の練習① ・リズムの練習① ・ハ短調、変ホ長調 		「51番～60番」
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・2・3・4・5度音程の練習② ・リズムの練習② ・二長調、ロ短調 		「61番～70番」
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・2・3・4・5度音程の練習③ ・リズムの練習③ ・イ長調、ホ長調、ロ長調 	種々な音部記号にて5度音程まで、歌ったり記譜することが出来る	「71番～80番」
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・2・3・4・5・6度音程の練習① ・リズムの練習④ ・イ短調、ホ短調、ロ短調 		「81番～90番」
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・2・3・4・5・6・7度音程の練習① ・リズムの練習⑤ ・嬰ヘ長調、変イ長調、嬰ハ短調 	・2～7度音程までの読譜、歌う、記譜することが出来る	個人ごとに2曲を選び、弾きうたいの練習
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・過去問題の実施と対策① (聴音、新曲リズム) 		
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ・過去問題の実施と対策② 		
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ① 		
第15回	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ② 		

科目名(クラス)	ソルフェージュ4-b	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	加茂下 裕	履修対象・条件	音楽療法専攻以外は必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」を踏まえて迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。新曲視唱、新曲リズム、聴音(単旋律、複旋律、3~4声和音および和声、音や表現の違い等)、伴奏付旋律の弾き歌い、リズムアンサンブル、読譜(和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等)、カデンツの理解(特にドミナント進行)、移調訓練等その他。

【授業の「方法」と「形式」】

主に演習

【履修時の「留意点」と「心得」】

積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。

教科書	美しい新曲課題集	著者等	荻久保和明 他著	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

聴音、弾き歌い、新曲リズム打ちの実技試験有り。(100%)原則としてクラス毎に行う。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1週	①聴音(旋律・2声:3-bの内容にB durで各種の臨時記号を含むものを加える、和声:ドリア・ナポリの和音を加える)②リズム打ち(2/2) ③弾き歌い(テキストNo.45~48) ④伴奏付け	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第2週	①聴音(第1週の続き) ②リズム打ち(2/4) ③弾き歌い(テキストNo.49~52) ④伴奏付け	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第3週	①聴音(第2週の続き) ②リズム打ち(遅い3/4) ③弾き歌い(テキストNo.53~56) ④伴奏付け	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4週	①聴音(旋律・2声:D durで各種の臨時記号を含むものを加える、和声:第3週の続き) ②リズム打ち(速い3/4) ③弾き歌い(テキストNo.57~60) ④伴奏付け	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第5週	①聴音(第4週の続き) ②リズム打ち(遅い4/4) ③弾き歌い(テキストNo.61~64) ④伴奏付け	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第6週	①聴音(第5週の続き) ②リズム打ち(速い4/4) ③弾き歌い(テキストNo.65~69) ④伴奏付け	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第7週	①聴音(旋律・2声:g mollで基本的なものに加える、和声:各種の副属和音を加える) ②リズム打ち(遅い6/8) ③弾き歌い(テキストNo.70~73) ④伴奏付け	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第8週	①聴音(第7週の続き) ②リズム打ち(速い6/8) ③弾き歌い(テキストNo.74~78) ④伴奏付け	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第9週	①聴音(第8週の続き) ②リズム打ち(混合拍子一) ③弾き歌い(テキストNo.79~83) ④伴奏付け	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第10週	①聴音(旋律・2声:h mollで基本的なものに加える、和声:第9週の続き) ②リズム打ち(混合拍子二) ③弾き歌い(テキストNo.84~86) ④伴奏付け	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第11週	①聴音(第10週の続き) ②リズム打ち(総合練習) ③弾き歌い(復習) ④伴奏付け	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第12週	①聴音(第11週の続き) ②リズム打ち(総合練習) ③弾き歌い(復習) ④伴奏付け	・各課題の音楽的構造の理解 ・各課題に必要とされる技能の習得	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第13週	総合練習	・ここまでの内容による聴音・新曲視唱の課題ができる	・難しかった課題の復習 ・弾き歌いの練習
第14週	まとめ	・ここまでの内容による聴音・リズム打ちの課題ができる ・弾き歌いの演奏ができる	
第15週	まとめ	・ここまでの内容による聴音・リズム打ちの課題ができる ・弾き歌いの演奏ができる	

科目名(クラス)	ソルフェージュ4-c	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	井上 淳司	履修対象・条件	音楽療法専攻以外は必修				

【授業の「概要」と「目的」】

音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」を踏まえて迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。新曲視唱、新曲リズム、聴音(単旋律、複旋律、3~4声和音および和声、音や表現の違い等)、伴奏付旋律の弾き歌い、リズムアンサンブル、読譜(和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等)、カデンツの理解(特にドミナント進行)、移調訓練等その他。

【授業の「方法」と「形式」】

ソルフェージュに該当する総ての訓練を実技中心にクラス全体および個別に行う。

【履修時の「留意点」と「心得」】

積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。

教科書	美しい新曲課題集	著者等	井上淳司、荻久	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

聴音、弾き歌い、新曲リズム打ちの実技試験有り。(100%)原則としてクラス毎に行う。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	高度な跳躍音程、変化音、付点やタイ。三拍四連等の複雑なリズム。より対位法的、複雑な響き、より適切な表現のためのデュナーミク、アゴーギグの習得。	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第2回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	高度な跳躍音程、変化音、付点やタイ。三拍四連等の複雑なリズム。より対位法的、複雑な響き、より適切な表現のためのデュナーミク、アゴーギグの習得。	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第3回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	高度な跳躍音程、変化音、付点やタイ。三拍四連等の複雑なリズム。より対位法的、複雑な響き、より適切な表現のためのデュナーミク、アゴーギグの習得。	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第4回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	高度な跳躍音程、変化音、付点やタイ。三拍四連等の複雑なリズム。より対位法的、複雑な響き、より適切な表現のためのデューナミック、アゴーギグの習得。	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第5回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	高度な跳躍音程、変化音、付点やタイ。三拍四連等の複雑なリズム。より対位法的、複雑な響き、より適切な表現のためのデューナミック、アゴーギグの習得。	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第6回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	高度な跳躍音程、変化音、付点やタイ。三拍四連等の複雑なリズム。より対位法的、複雑な響き、より適切な表現のためのデューナミック、アゴーギグの習得。	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第7回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	高度な跳躍音程、変化音、付点やタイ。三拍四連等の複雑なリズム。より対位法的、複雑な響き、より適切な表現のためのデューナミック、アゴーギグの習得。	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第8回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	高度な跳躍音程、変化音、付点やタイ。三拍四連等の複雑なリズム。より対位法的、複雑な響き、より適切な表現のためのデューナミック、アゴーギグの習得。	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第9回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	高度な跳躍音程、変化音、付点やタイ。三拍四連等の複雑なリズム。より対位法的、複雑な響き、より適切な表現のためのデューナミック、アゴーギグの習得。	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第10回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	高度な跳躍音程、変化音、付点やタイ。三拍四連等の複雑なリズム。より対位法的、複雑な響き、より適切な表現のためのデューナミック、アゴーギグの習得。	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第11回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	高度な跳躍音程、変化音、付点やタイ。三拍四連等の複雑なリズム。より対位法的、複雑な響き、より適切な表現のためのデューナミック、アゴーギグの習得。	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第12回	聴音(単旋律、二声、三和音、四声体等)、美しい新曲課題集((抜粋)、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	高度な跳躍音程、変化音、付点やタイ。三拍四連等の複雑なリズム。より対位法的、複雑な響き、より適切な表現のためのデューナミック、アゴーギグの習得。	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第13回	まとめ	聴音のまとめ問題	
第14回	まとめ	新曲リズム打ちのまとめ問題	
第15回	まとめ	弾き歌いのまとめ問題	

科目名(クラス)	キーボードハーモニーA	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	3
担当教員	新井雅之	履修対象・条件					

【授業の「概要」と「目的」】

与えられたメロディーやモチーフへ、伴奏、即興を施す手法を知り、かつ実際にピアノを弾き、技術を習得していきます。

【授業の「方法」と「形式」】

基本的には、テキストに従い、基礎的な事項を弾き、または楽譜に書きながら基本と応用を試みて行きます。適宜、既存のよく知られたメロディーも使います。

【履修時の「留意点」と「心得」】

積極的に鍵盤で音をならしつつ、響きを確かめましょう。慣れるつもりで取り組んで下さい。

教科書	ピアノ即興演奏	著者等	岩田稔	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

学期末筆記試験(筆記試験)の採点により評価。(70%) 学期末筆記試験のみでの評価に偏らないように、通常授業での理解力、実施能力も加味。(30%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	キーボードハーモニーの意義とその実施について	旋律を支える、鍵盤楽器奏法における伴奏の実際の例を、幅広く観察しその原理を知る。	テキスト、6ページ
第2回	基本的な和音の配置と連結(1)比較的、調号が少ない場合	トニックコードとドミナントコードの、もっとも基本的な連結が左手で実施できる。(比較的、調号がすくない調で)	テキスト、7ページ
第3回	基本的な和音の配置と連結(2)比較的、調号が多い場合	トニックコードとドミナントコードの、最も基本的な連結による伴奏と共に、メロディーを弾くことができる。(比較的、調号が多い調で)	テキスト、8ページ

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	完全終止カデンツの習得、及び半終止の習得。	フレーズを完結させるコードパターンすなわち完全終止の定型、およびフレーズの半終止を左手で弾く事ができる。	テキスト、9~11ページ
第5回	完全終止と半終止の、メロディーへの応用。	完全終止と半終止を使った伴奏とともに、メロディーを弾ける。	テキスト、12ページ
第6回	完全終止の定型のヴァリエーションについて。	完全終止の変形応用パターンを知り、メロディーに活用できる。	テキスト、13ページ
第7回	同上	同上	同上
第8回	属和音の第3、第7音の扱い方について	限定進行音と呼ばれる属和音の第3、第7音を的確に処理できる。	テキスト、15~18ページ
第9回	和音の開離配置について	和音の1オクターブより広い音域での配置すなわち開離配置を理解し、鍵盤上で具現化できる。	テキスト、19~21ページ
第10回	中間楽節と服属和音について	2部形式について理解し、中間楽節でよく用いられる副属和音の使用例を知る。及び、それをメロディーの伴奏として応用できる。	テキスト、22~27ページ
第11回	同上	同上	同上
第12回	同上	同上	同上
第13回	変奏について	旋律とリズムという要素に対して、変奏を施す手法を知り、実施できる。	テキスト、28~32ページ
第14回	同上	同上	同上
第15回	本科目の総括。		学んだことを実践に生かす

科目名(クラス)	キーボードハーモニーB	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	3
担当教員	新井雅之	履修対象・条件					

【授業の「概要」と「目的」】

与えられたメロディーやモチーフへ、伴奏、即興を施す手法を知り、かつ実際にピアノを弾き、技術を習得していきます。

【授業の「方法」と「形式」】

基本的には、テキストに従い、基礎的な事項を弾き、または楽譜に書きながら基本と応用を試みて行きます。適宜、既存のよく知られたメロディーも使います。

【履修時の「留意点」と「心得」】

積極的に鍵盤で音をならしつつ、響きを確かめましょう。慣れるつもりで取り組んで下さい。

教科書	ピアノ即興演奏	著者等	岩田稔	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

学期末筆記試験(筆記試験)の採点により評価。(70%) 学期末筆記試験のみでの評価に偏らないように、通常授業での理解力、実施能力も加味。(30%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	変奏について	さらに変奏即興の応用力を身につける	テキスト、35~38ページ
第2回	同上	同上	同上
第3回	同上	同上	同上

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	同上	同上	同上
第5回	モチーフを使う即興演奏について	モチーフを発展させて、まとまった形式に仕上げる手法を知り、得た手法により実施でき	テキスト、39~50ページ
第6回	同上	同上	同上
第7回	同上	同上	同上
第8回	同上	同上	同上
第9回	同上	同上	同上
第10回	同上	同上	同上
第11回	和音の転回形とバスの順次進行について	和音の転回形を応用しつつ、バスに順次進行を使うことができる。	テキスト、52~54ページ
第12回	右手に厚みを重ねる和音重音について	右手に旋律に重音を施し厚みを加えて弾く事ができる。	テキスト、55~56ページ
第13回	第11回、第12回の手法での伴奏による応用実施	和音転回形と、右手重音奏の応用ができる。	テキスト、57~58ページ
第14回	ピアノスティックな奏法、Fill in、移旋について	よりピアノらしいパッセージ、フレーズからフレーズへの流れを円滑にするための穴埋めによるつなぎ、同主短調、同主長調への転調「移旋」について理解し、応用できる。	テキスト、59~69ページ
第15回	本科目の総括。		学んだことを実践に生かす

科目名	学内演奏
-----	------

【授業計画の概要】

学修の成果を発表し、また他の学生の演奏を聴くことにより、音楽内容、技術の向上を目指す。
学内演奏会は皆さんが将来幅広く多彩な音楽活動をしていくための貴重な実践科目であり、この授業を通じて豊かな感性の育成と演奏力の伸長を目指す。
また「自分の音楽」を「創造」する有意義で充実した「音楽体験」にしたい。

【履修にあたっての注意事項】

月	内容
4	1) 要出演学生及び出演日 ・「主専攻Ⅲ」履修中の学生全員(ピアノ・声楽・管弦打・作曲専攻生のみ)指定された出演日に1回必ず出演すること。
5	・出演日の変更は原則として認めない
6	2) 要出席の学生 / 出席のとり方 ・14時30分開場時に、ホール入り口にて出席カードを配布し、終演後出口でカードを回収する。 ・演奏会途中入退場者のカードは無効(遅刻・途中退場厳禁)
7	・出演日の出席については、出演することにより出席扱いとなるのでカードの提出は必要なし(伴奏者も含む) ・ウィーン研修中は公欠扱いとなる。
8	3) 伴奏者 ・他学年の学生が伴奏をする場合、出演日当日のリハーサルは公欠にならないので注意のこと。 (本番は公欠になる)
9	4) 役員(係り) ・全員1回あたる。主な仕事は、ステージ係・アナウンス係・受付係・会場整理係等。役員については事前に提示するので各自で確認の事。役員の集合時間は14時15分ステージ下手。また、係りについては当日指定。また、役員学生の出席については、集合時に出席をとり、終演後片付けが終わった時点でカードを配布。 (3限目に授業がある役員は公欠にならないので、授業が終わり次第来る事)
10	5) リハーサル
11	・出演日当日午前中グランツザールで一人当たり15分程度のリハーサルを組む予定。時間については教務に提出する「履修時間割表」をもとに空いている時間に組むので、提出していない学生はどの時間帯もリハーサル可能と判断し、時間を組むので要注意。また、自分が出演する1週間前よりグランツザール以外の大教室やレッスン室を貸出(有料)でするので利用する場合、庶務担当まで申し出ること。
12	6) 出演者控室: グランツザール内「楽屋1」または「楽屋2・3」当日確認の事
1	7) 服装
2	8) 座席 ・3年次生はある程度座席が決まっているので、会場系の指示に従うこと。
3	9) 録音CD配付 ・学生会が演奏会の録画を行い、自分が出演をした日のDVDが配付される。
4	11) 来聴 ・一般の方や卒業生など誰でも来聴できる。但し、他学年の学生が来聴する場合「公欠」にはなりません。

【成績評価の方法】

科目名 学内演奏/学内作品発表(作曲コース)

【授業計画の概要】

学修の成果を発表し、また他の学生の演奏を聴くことにより、音楽内容、技術の向上を目指す。
学内演奏会は皆さんが将来幅広く多彩な音楽活動をしていくための貴重な実践科目であり、この授業を通じて豊かな感性の育成と演奏力の伸長を目指す。
また「自分の音楽」を「創造」する有意義で充実した「音楽体験」にしたい。

【履修にあたっての注意事項】

内 容

- 1) 要出演学生及び出演日
 - ・「主専攻5・6履修中の学生全員(ピアノ・声楽・管弦打・作曲専攻生のみ)指定された出演日に1回必ず出演すること。
 - ・出演日の変更は原則として認めない
- 2) 要出席の学生 / 出席のとり方
 - ・14時30分開場時に、ホール入り口にて出席カードを配布し、終演後出口でカードを回収する。
 - ・演奏会途中入退場者のカードは無効(遅刻・途中退場厳禁)
 - ・出演日の出席については、出演することにより出席扱いとなるのでカードの提出は必要なし(伴奏者も含む)
 - ・ウィーン研修中は公欠扱いとなる。
- 3) 伴奏者
 - ・他学年の学生が伴奏をする場合、出演日当日のリハーサルは公欠にならないので注意のこと。(本番は公欠になる)
- 4) 役員(係り)
 - ・全員1回あたる。主な仕事は、ステージ係・アナウンス係・受付係・会場整理係等。役員については事前に提示するので各自で確認の事。役員の集合時間は14時15分ステージ下手。また、係りについては当日指定。
 - また、役員学生の出席については、集合時に出席をとり、終演後片付けが終わった時点でカードを配布。(3限目に授業がある役員は公欠にならないので、授業が終わり次第来る事)
- 5) リハーサル
 - ・出演日当日午前中グラントツザールで一人当たり15分程度のリハーサルを組む予定。時間については教務に提出する「履修時間割表」をもとに空いている時間に組むので、提出していない学生はどの時間帯もリハーサル可能と判断し、時間を組むので要注意。また、自分が出演する1週間前よりグラントツザール以外の大教室やレッスン室を貸出(有料)ですので利用する場合。庶務担当まで申し出ること。
- 6) 出演者控室:グラントツザール内「楽屋1」または「楽屋2・3」当日確認の事
- 7) 服装
- 8) 座席
 - ・3年次生はある程度座席が決まっているので、会場係の指示に従うこと。
- 9) 録音CD配付
 - ・学生会が演奏会の録画を行い、自分が出演をした日のDVDが配付される。
- 10) 来聴
 - ・一般の方や卒業生など誰でも来聴できる。但し、他学年の学生が来聴する場合「公欠」にはなりません。

【成績評価の方法】

作品発表等を総合的に評価する

科目名(クラス)	学内実習発表	開講学期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	馬場 存	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可・必修			

【授業の「概要」と「目的」】

この講義は、3年時終了時に行われる、学内実習発表において、優れた学術発表を行うための学術的思考や言語的能力を身につけるためのもので、正確で客観的な学術的情報収集とその咀嚼・理解の出来る力を養うことを目的とする。そのために必要なコンセプトは、「自らの考えを言語的に表現できなければ、それは考えていることにならない」ということである。すなわち、人間の成熟途上によくみられる「言わなくてもわかってもらえる」「言葉では上手く言えないが、こんな感じ」といった、概念を明確に言語的に表現できない状況から脱し、自らの考えを的確に言語で表現できる力を養うことを目指し、研究の途中経過の各自による発表と、研究とは何かについて種々の側面から解説する講義形式を交えて進行する。

【授業の「方法」と「形式」】

研究の経過を各自発表してもらう時間と講義形式を交える。

【履修時の「留意点」と「心得」】

上記のごとく、言語で説明できない場合には、理解していない、考えていないとみなされる。通常会話であるならば、聞く側が「こういう意味ですね」と助け船を出すような場合でも、自らの思考により適切に言語化できることを目指すために、あえて助け船を出さない場面が多くなる。そのような心構えを持って臨むこと。

教科書	(講義内プリントを用いる)	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	カウンセリング・リサーチ入門	著者等	国分康孝	出版社	誠信書房
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

講義で解説する部分については、概念の正確な理解とその応用力が必要である。また、各自のプレゼンテーションにおいては、必要十分な、正確な情報収集と適切な言語表現がなされていることが前提となる。評価に関しては、まず講義については、その日の内容についての質問に対する返答の正確性および随時行われる経過発表時の内容・質・言語表現(15%)および、年度末に行われる、「学内実習発表」のプレゼンテーションにおける、各自の研究の、情報収集の度合い、研究の内容・質、発表時の言語表現を音楽療法教員全員で評価した点数(85%)を合算する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	この段階での、各自の研究テーマ、そのテーマを選んだ理由、調査経過を一人ずつ順に発表してもらい、全員でディスカッションする(2回にわたり一人ずつ)。	自らの研究テーマの位置づけ、情報収集の仕方、言語表現のスキルに関し、進歩すること。	予習:自らの興味と研究に値するか否かの両観点から研究テーマを選び発表の準備をする。復習:当日の議論を踏まえ、研究をどう発展させるかを考える。
第2回	引き続き、この段階での、各自の研究テーマ、なぜそのテーマを選んだか、調査経過、を一人ずつ順に発表してもらい、全員でディスカッションする。	自らの研究テーマの位置づけ、情報収集の仕方、言語表現のスキルに関し、進歩すること。	予習:自らの興味と研究に値するか否かの両観点から研究テーマを選び発表の準備をする。復習:当日の議論を踏まえ、研究をどう発展させるかを考える。
第3回	国分康孝著「カウンセリング・リサーチ入門」を基に、「リサーチとは何か」「リサーチに値するトピックをどのように選ぶか」「理論化するリサーチと事実発見のリサーチ」等について解説する。	左記について、自らが質の高い研究が行えるようになるべく概念や本質を理解する。	予習:事前に配布するプリント、及び資料に目を通しておく。復習:プリント及び資料に目を通して概念の理解を確認する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	引き続き、国分康孝著「カウンセリング・リサーチ入門」を基に、「リサーチとは何か」「リサーチに値するトピックをどのように選ぶか」「理論化するリサーチと事実発見のリサーチ」等について解説する。	引き続き、左記について、自らが質の高い研究が行えるようになるべく概念や本質を理解する。	予習:配布プリント、及び資料に目を通しておく。復習:プリント及び資料に目を通し概念の理解を確認する。
第5回	引き続き、国分康孝著「カウンセリング・リサーチ入門」を基に、「リサーチとは何か」「リサーチに値するトピックをどのように選ぶか」「理論化するリサーチと事実発見のリサーチ」等について学ぶ。	引き続き、左記について、自らが質の高い研究が行えるようになるべく概念や本質を理解する。	予習:配布プリント、及び資料に目を通しておく。復習:プリント及び資料に目を通し概念の理解を確認する。
第6回	この段階での、(変更がある場合には)各自の研究テーマ、そのテーマを選んだ理由、調査経過を一人ずつ順に発表してもらい、全員でディスカッションする。	より適切な情報収集と考察に基づき発表し、当日のディスカッションを基に自らの研究の質を高め、言語表現について進歩すること。	予習:質疑応答を想定し、必要な情報を揃えて発表の準備を行う。復習:当日の議論を踏まえ、研究をどう発展させるかを考える。
第7回	引き続き、この段階での、(変更がある場合には)各自の研究テーマ、そのテーマを選んだ理由、調査経過を一人ずつ順に発表してもらい、全員でディスカッションする。	引き続き、より適切な情報収集と考察に基づき発表し、当日のディスカッションを基に自らの研究の質を高め、言語表現について進歩すること。	予習:質疑応答を想定し、必要な情報を揃えて発表の準備を行う。復習:当日の議論を踏まえ、研究をどう発展させるかを考える。
第8回	国分康孝著「カウンセリング・リサーチ入門」を基に、リサーチの意義と、価値観との関連、トピックの設定と操作的定義とは何かについて解説する。	左記について、自らが質の高い研究が行えるようになるべく概念や本質を理解する。	予習:配布プリント、及び資料に目を通しておく。復習:プリント及び資料に目を通し概念の理解を確認する。
第9回	引き続き、国分康孝著「カウンセリング・リサーチ入門」を基に、リサーチの意義と、価値観との関連、トピックの設定と操作的定義について解説する。	引き続き、左記について、自らが質の高い研究が行えるようになるべく概念や本質を理解する。	予習:配布プリント、及び資料に目を通しておく。復習:プリント及び資料に目を通し概念の理解を確認する。
第10回	国分康孝著「カウンセリング・リサーチ入門」を基に、母集団の考え方とサンプリングの手法、研究における測定方法について解説する。	左記について、自らが質の高い研究が行えるようになるべく概念や本質を理解する。	予習:配布プリント、及び資料に目を通しておく。復習:プリント及び資料に目を通し概念の理解を確認する。
第11回	国分康孝著「カウンセリング・リサーチ入門」を基に、得られた資料の分析方法及び入門的な統計学について解説する。	左記について、自らが質の高い研究が行えるようになるべく概念や本質を理解する。	予習:配布プリント、及び資料に目を通しておく。復習:プリント及び資料に目を通し概念の理解を確認する。
第12回	引き続き、国分康孝著「カウンセリング・リサーチ入門」を基に、得られた資料の分析方法及び入門的な統計学について解説する。	引き続き、左記について、自らが質の高い研究が行えるようになるべく概念や本質を理解する。	予習:配布プリント、及び資料に目を通しておく。復習:プリント及び資料に目を通し概念の理解を確認する。
第13回	国分康孝著「カウンセリング・リサーチ入門」を基に、リサーチ・レベルと研究における考察の仕方について解説する。	左記について、自らが質の高い研究が行えるようになるべく概念や本質を理解する。	予習:配布プリント、及び資料に目を通しておく。復習:プリント及び資料に目を通し概念の理解を確認する。
第14回	後期末に行われる「学内実習発表」(学会発表に準じた形で行う)の予行演習を兼ね、可能な限り完成型に近づけて、自らの研究発表を2回にわたって一人ずつ行う。	適切な情報収集と考察に基づいた研究内容を完成させ、言語表現にも十分配慮した発表を行うこと。	予習:質疑応答を想定し、必要な情報を揃えて発表の準備を行う。復習:当日の議論を踏まえ、本番に向けさらに研究をどう発展させるかを考える。
第15回	引き続き、後期末に行われる「学内実習発表」(学会発表に準じた形で行う)の予行演習を兼ね、可能な限り完成型に近づけて、自らの研究発表を一人ずつ行う。	適切な情報収集と考察に基づいた研究内容を完成させ、言語表現にも十分配慮した発表を行うこと。	予習:質疑応答を想定し、必要な情報を揃えて発表の準備を行う。復習:当日の議論を踏まえ、本番に向けさらに研究をどう発展させるかを考える。

科目名 声楽1・2

【授業計画の概要】

声楽は音楽全般の中でも特異性を持っています。自分が楽器であるという事。また、言葉を伴い歌詞と旋律の融合により成り立っているという事です。まずは自分の体を楽器として認識しましょう。
 一年次には無理のない呼吸法、発声法、発語法を身に付けて行きます。
 また、各期末には半年間取り組んで来た曲目を見返してそれまでの成果を確認します。
 授業は 学生と教師、一対一のレッスン形式となります。

【授業計画の内容】

月	内容
4	主要課題: 母音の作り方が初期の学習に適しているイタリア歌曲を学び、呼吸法、発声法、発語法を身に付けると共に、練習曲(コンコーネ等)を併用してソルフェージュ力を高める。
5	・声楽を学ぶに必要な要点を伝え、学習方法、レッスンの進め方を説明 ・声楽には欠かせない言葉の大切さを伝え、イタリア語、ドイツ語等を履修に向けて促す ・一年次は特にイタリア語の発音の徹底
6	・授業で与えられた曲目の単語、意味調べをしてレッスンに臨む ・日常において自分が声を出す練習に終始するだけでなく、他の演奏にも触れて行く。特に生演奏を聴く機会を作って行く
7	主要課題: 前期試験の準備と仕上げ ・能力に応じた曲を選び学習する。学んで来た曲目から5分以内で纏められるものを前期試験曲に決める
8	・伴奏者と合わせる事で協演と言う演奏の基本的なテクニックを学んで行く ・夏休みの学習計画を立てる ☆夏休みには4月から学習して来た曲目を再度見直し、前回出来なかった個所を復習、他の曲にも応用出来る様にする
9	【前期試験】 ☆試験までの学習で得た事を確認、試験の反省と共に先の学習に繋げて行く
10	主要課題: 前期で学んだ呼吸法、発声法、発語法を充実
11	・前期に引き続き、呼吸法、発声法、発語法の学習を進めて行く ・詩の意味を良く理解して音に表して行く。曲の持つ情緒的な意味を感じ、細やかな変化を表現する
12	・自分に合った曲を見極め、後期試験曲を決める
1	主要課題: 呼吸法、発声法、発語法を身に付けて、レガート唱法に繋いで行く ☆10月から学習して来た曲目を見直し、学習成果の確認
2	【後期試験】 ・試験の反省と一年の総括 ・春休みの学習計画を立てる ☆春休みにはこの一年学習して来た事を再度見直し、前回出来なかった個所を復習する
3	

【成績評価の方法】

実技試験による成績評価

科目名 声楽3・4

【授業計画の概要】

一年次で学んだ4ことを継続。正しい呼吸法、発声法、発語法を身に付け多くの曲に活かして行きましょう。
 二年次から四年次前期迄に行われる試験の間にイタリア歌曲、ドイツ歌曲を必ず歌います。
 何をどの時期に歌うかは担当教員と良く話し合い取り組んで行きましょう。
 自由学習において自分の歌う曲の作曲家、作詞家、また時代背景等についても学習して行く事が望ましい。

【授業計画の内容】

月	内容
4	主要課題：一年間の計画を立てる ・一年次で学んだ事を振り返り、今後取り組んで行くべき方向を担当教員と相談して学習計画を立てる ・日本歌曲の学習に向け、母音の作り方、子音のさばき方、鼻濁音等の認識を深める ・ドイツ語の発音練習、殊に子音の発音と日本語には無いウムラウト(umlaut)の発音を念入りにレッスンに組み入れる事が望ましい
5	
6	
7	主要課題：前期試験の準備と仕上げ ・前期試験に向け自分の力に適した曲を選び学習する ☆試験は制限時間の6分以内ならば同一分野から複数曲を歌う事も可 ・夏休みの学習計画を立てる ☆4月から学習して来た曲目をここで再度見直し、前回出来なかった個所を復習し他の曲にも応用出来る様にする 【前期試験】 ・試験から得られた課題に取り組んで行く
8	
9	
10	主要課題：レパートリーを広げる ・これまで学習して来た事を土台としてレパートリーを広げて行く ・オペラアリア等を学習する時には声帯に負担が掛らない様に注意が必要 ・後期試験に向けて曲を選ぶ
11	
12	
1	主要課題：後期試験の準備と仕上げ ・二年間学んで来た内容を確認し後期試験に向けて問題点を改善して行く 【後期試験】 ・試験の反省と一年間の総括 ・春休みの学習計画を立てる ☆春休みにはこの一年間学習して来た事を再度見直し、前回出来なかった個所を復習、他の曲にも応用出来る様にする
2	
3	

【成績評価の方法】

実技試験による成績評価

科目名 声楽5・6

【授業計画の概要】

三年次では特記する事としてウイーン研修、学内演奏会が挙げられます。
 これまで重ねて来た発声の勉強をさらに充実させ、楽譜からそこに書かれた意図をくみ取り音楽の表現を広げて行きましょう。
 ウイーン研修の経験を生かし、歴史的、文化的背景を知った上で西洋音楽への理解を深め、学習の姿勢を身に付けて行きましょう
 学内演奏はグランツ・ザールで行い、そこでは大ホールでの演奏を経験します。
 なお、オペラ研究の授業は三年次から履修出来る選択科目ですが、アンサンブルの必要性、オペラへの理解を深める為にも履修する事が望ましいです。
 自由学習において、自分に与えられた曲の作曲家、作詞家を知ると同時に、また、その背景についても学習して行く事が望ましいです。

【授業計画の内容】

月	内容
4	主要課題: 学内演奏会、ウイーン研修への準備 ・早いグループではこの時期からウイーン研修、学内演奏会が行われるので、曲を決め学習に励む ☆後期になる場合もある アンサンブルにも積極的に取り組む事が望ましい
5	
6	
7	主要課題: 前期試験の準備と仕上げ ・しっかりとした発声に裏付けられて豊かな音楽表現を目指す。自分に適した曲を選ぶ事が大切。 ☆前期試験として6分以内で曲を決める。同じ分野であれば複数曲歌う事も可 ・自主的に夏休みの学習計画を立てる ☆夏休みには4月から学習して来た曲目をここで再度見直し、前回出来なかった箇所を復習し応用出来る様にする 【前期試験】 ・ウイーン研修の経験、学内演奏会の講評を参考にさらに学習を進める(後期になる事もある)
8	
9	
10	主要課題: レパートリーの更なる拡大 ・自分の声質や感性に合う曲を探す ☆後期試験として6分以内で曲を選ぶ。同じ分野であれば複数曲も可。 ・試験曲に選んだ曲を研究し、表現の充実に努める
11	
12	
1	主要課題: 後期試験の準備と仕上げ ・三年次に学んだ事を振り返り、自分の持つ課題を改善して行く 【後期試験】 ・最終学年に向けて後期試験の課題を掘り下げ改善、次年度に繋いで行く ・春休みの学習計画を立てる ☆春休みにはこの一年間学習して来た事を再度見直し、前回出来なかった箇所を復習し、他の曲にも応用出来る様にする
2	
3	

【成績評価の方法】

実技試験による成績評価

科目名 声楽7・8

【授業計画の概要】

体が楽器である声楽はその身体が十分に成育して行かなければ真の完成には近づきません。大学の4年間はその道程であり、卒業までに技術、音楽性、豊かな人間性を磨きその先へと繋いで行かなければなりません。4年次はこれまでの学習の総点検です。問題を改め卒業試験に向けて研鑽を積み、4年間の成果を十分に発揮しましょう。

大学院を目指すものは担当教員と綿密に打ち合わせをし早期より準備を始める必要が有ります。

卒業試験では持ち時間12分以内で、日本歌曲、外国歌曲、オペラまたはオラトリオのアリアから一曲を歌い、その3曲についての作品ノートを提出しなければなりません。

【授業計画の内容】

月	内容
4	主要課題: これまでの学習内容を見直しレパートリーを広げて行く ・発声法、歌唱法について現在の方向を点検 ・技術面だけでなく音楽の内容も再確認する ・これまで学んでいない分野も積極的に取り組んで行く
5	
6	
7	主要課題: 前期試験の準備と仕上げ ・これまで学習して来た中で自分の長所を生かせる曲を選び完成度を高めて行く ・夏休みの学習計画を立てる ☆夏休みには4月から学習して来た曲目を再度見直し、前回出来なかった個所を復習し、他の曲にも応用できるようにする 【前期試験】 ☆6分以内で同じ分野なら複数曲も可 ・試験での反省点と後期で取り組むべき課題の検討
8	
9	
10	主要課題: 卒業試験に向けての準備 ・日本歌曲1曲、外国歌曲1曲、オペラ・オラトリオのアリアから1曲、合計3曲を選び演奏に向けて取り組んで行く。12分以内に纏める。 ・卒業試験について、曲の内容、解説、構成、分析、創作の経過、作詞者及び作曲家、歴史的、文化的背景等について調べ、作品ノートを完成する
11	
12	
1	主要課題: 卒業試験 【卒業試験】 ・演奏する各曲の言葉の意味を掴み、美しく正しい発声を持って表現を深めて行く ・各々の曲の持つスタイルを考察し、表現を充実させる ・演奏に当たり、会場の空間と響きを考え、曲の力配分を計る ・4年間の学習内容の総括及び卒業後の課題を展望
2	
3	

【成績評価の方法】

実技試験による成績評価

科目名	ピアノ1・2
-----	--------

【授業計画の概要】

ピアノ演奏の基礎力を高める。
 ピアノ1では古典期、ピアノ2ではロマン期を中心課題として時代様式に基づいた演奏法を習得する。そのためには演奏技術の向上を目指した学習が必須である。
 上記課題のほか、エチュードやバロック作品の継続的学習をする。

【授業計画の内容】

月	内容	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の特性及び身体運動と音色の関係を理解し、演奏技術の向上を図る。 ・ピアノ1の試験課題である古典期の作品を学ぶ。 ・楽曲表現を豊かにするための理論的アプローチを行う。 	
5		
6		
7	古典期の作品様式及び形式や和声進行などへの理解を深める。 作曲家や楽曲の背景について理解を深め、演奏に反映させる。	
8		
9		ピアノ1の実技試験
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ2の試験課題であるロマン期の作品を学ぶ。 ・ロマン期の和声・表現法・奏法への理解を深める。 ・作曲家や楽曲の背景について理解を深め、演奏に反映させる。 ・ピアノの構造と特性を理解し、楽器の完成期と楽曲の関わりについて考察する。 	
11		
12		
1	ピアノ2の実技試験	
2		<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ3の課題(バロック期)に向けて、ポリフォニー音楽への理解を深める。 ・レパートリーを広げる。
3		

【成績評価の方法】

実技試験による

科目名	ピアノ3・4
-----	--------

【授業計画の概要】

ピアノ1・2の学習を発展させ、音楽の基礎力をさらに向上させる。
 ピアノ3の課題(バロック期)を通してポリフォニックな作品や舞曲等の演奏法を学習する。
 ピアノ4の課題(ロマン期～近現代期)を通して多様な和声やリズム、表現法等を学ぶ。
 作品の歴史的背景や地域性の把握に積極的に取り組む。
 トライアルコンサートのオーディションへの参加を機会に、コンチェルトの演奏法を学習する。

【授業計画の内容】

月	内容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ3の試験課題であるバロック期の音楽について学ぶ。 ・楽曲理解のために、鍵盤楽器以外の作品や文献等を通じた考察をする。 ・楽曲分析を通じて曲の構造の理解を深める。 ・他の楽曲も継続して学習する。
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ポリフォニーの演奏法における技術的聴覚的コントロール高める。 ・バロックダンスへの理解を深め、演奏に反映させる。 ・楽曲の特性を見極め、完成を目指す。 ピアノ3実技試験
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ4の試験曲の選定にあたり、多様な楽曲に触れる。 ・ロマン期から近現代期への時代的変遷と音楽の多様性について理解をする。 ・ピアノ1～3における学習内容を基礎として、表現の拡大を図る。
11	
12	
1	ピアノ4実技試験 <ul style="list-style-type: none"> ・3年次における定期試験、ウィーン研修、学内演奏会等に向けた演奏計画を立て、学習を進める。
2	
3	

【成績評価の方法】

実技試験による

科目名	ピアノ5・6
-----	--------

【授業計画の概要】

定期試験、学内演奏会及びウィーン研修等の演奏機会を生かし、レパートリーを拡大すると共に、より専門的な技術の習得を目指す。

時代背景や他の楽器との関連など、広い視野を持って音楽への理解を深める。

トライアルコンサートのオーディションへの参加を機に、コンチェルトの演奏法を学習する。

【授業計画の内容】

月	内 容
4	定期試験及びウィーン研修に向けた準備に取り組む。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィーン研修において、有意義なレッスンを受けることができるよう準備をする。 ・ウィーン研修終了後には、現地で学習した内容を生かし、発展させることができるよう取り組む。
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ5の試験曲に対し多角的なアプローチを行う中で、理解を深め演奏に反映させる。 ・演奏技術の向上と共に、表現の拡大を目指し学習を進める。 ピアノ5実技試験
8	
9	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・学内演奏会に向けて準備をする。 ・ホールでの演奏を経験すると共に、ステージマナーを身につける。 ・ピアノ6の試験曲の準備をする。
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィーン研修や学内演奏会の学習成果を反映させ、より完成度の高い演奏を目指す。 ピアノ6実技試験
2	
3	

【成績評価の方法】

実技試験による

科目名	ピアノ7・8
-----	--------

【授業計画の概要】

ピアノ1～6の学習内容を基に表現力の拡大とそのための演奏技術向上を目指し、更にレパートリーの拡大を図る。
 ピアノ8においては実技試験とともに作品ノートが課せられるため、年間を通じた計画に基づいて多角的な学習が必要である。
 トライアルコンサートのオーディションへの参加を機に、コンチェルトの演奏法を学習する。

【授業計画の内容】

月	内容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の向上、レパートリーの拡大とともに、各時代様式に基づいた演奏法を習得する。 ・作品ノート作成のための資料などを収集する。
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ7の試験曲をさまざまな角度から考察し、理解を深めると共に演奏に反映させる。 ピアノ7実技試験
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ8の試験曲と作品ノート作成に取り組む。 ・作品ノートは、担当教員の指導下で作成する。 ・作品ノートの内容を踏まえ、ピアノ8の試験曲における演奏の完成度を高める。
11	
12	
1	ピアノ8実技試験 <ul style="list-style-type: none"> ・試験終了後は、担当教員と共に卒業後の学びの方向や指針を考える。
2	
3	

【成績評価の方法】

実技試験による
 ピアノ8は卒業試験として、それに伴う作品ノートを提出する。

科目名	管弦打楽器1・2〔弦楽器〕
-----	---------------

【授業計画の概要】

専門的な弦楽器の演奏を目指す上で必要な、基本的奏法を確立する。
 スケール・エチュードの課題を、毎日欠かさず練習する習慣を身に着ける。
 楽譜に書かれていることを忠実に音に表す技術を習得する。
 オーケストラやアンサンブルでは、自分の音だけでなく、周囲の音も聴きながら
 演奏することを心がける。

【授業計画の内容】

月	内 容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の奏法を見直し楽器の構え方や、姿勢、弓の持ち方、ボーイングなどで問題点があれば改善する。 ・スケール、エチュードを中心にした練習、また練習方法を学ぶ。 ・オーケストラでのマナー、また演奏する時の心得を学ぶ。
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・前期試験の課題である、古典期作品の選曲。 ・古典期のアーティキュレーション、フレーズの特徴を理解し、演奏法を学ぶ。 ・ピアノ(伴奏)と合せる時の心得。 ・前期実技試験。
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・デダッシュやスピッカート、全弓を使う運弓など、右手の基本的奏法の見直し。 ・ポジション移動、ヴィブラートなど、左手の基本的奏法の見直し。 ・後期試験の選曲。改善点の達成を目標として取り組む。 ・オーケストラ定期演奏会に向けて。
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・後期実技試験。 ・試験での演奏の反省。 ・一年間の練習方法(時間の使い方を含む)の反省。 ・来年度の目標を具体的に考える。
2	
3	

【成績評価の方法】

実技試験による。

科目名	管弦打楽器3・4〔弦楽器〕
-----	---------------

【授業計画の概要】

1年次で身に付けてきた奏法で、まだ足りない部分を習得する。
より高度なスケールやエチュードに取り組む。
楽譜に書かれている、細かい指示や表示を読み取る。
アンサンブルでは、他のパートの音を聴きながら、自分のパートの役割を理解する。

【授業計画の内容】

月	内容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な奏法でまだ問題点があれば、引き続き改善していく。 ・スケールやエチュードを用いて、より高い技術を身に付ける。 ・表現の幅を広げる。表現方法の習得。
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・前期試験の選曲(ヴァイオリンは、エチュードと小品) ・曲を演奏する際に、習得した技術、表現方法をよりよく実践する。 ・弦楽器特有の音色、表現力を意識して仕上げる。 ・室内楽(弦楽四重奏)に積極的に参加する。 ・前期実技試験。
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・後期試験の選曲。協奏曲やソナタなど、より大きな曲に挑戦していく。 ・楽譜の読み取り方を学ぶ。作曲家の指示を注意深く読み、音にする。
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・後期実技試験。 ・試験での演奏の反省。 ・自分の良点、欠点の認識。 ・来年度の計画(ウィーン研修、学内演奏会)
2	
3	

【成績評価の方法】

実技試験による。

科目名	管弦打楽器5・6〔弦楽器〕
-----	---------------

【授業計画の概要】

学内演奏会、ウィーン研修に向け、より専門的な演奏技術を習得する。学内演奏会では、聴衆の前で自分の音楽を演奏(表現)するという自覚を持って取り組む。
 ウィーン研修の経験を生かし、西洋音楽を演奏する際に、ヨーロッパの歴史、文化を意識するよう心掛ける。オーケストラ、弦楽合奏では、自分のテンポ感、音程、音質が全体の音に溶け込んでいるか意識し、更にアンサンブル能力を高める。

【授業計画の内容】

月	内 容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィーン研修、学内演奏会の時期を考慮し、計画的に準備を進める。 ・グランツァールで演奏することを意識し、大きなホールで演奏する際の演奏スタイル、舞台上でのマナーを学ぶ。 ・自分の好みに片寄らず、様々な時代、様式の楽曲に挑戦する。
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィーン滞在をきっかけに、ヨーロッパの歴史や文化に興味を持ち、曲の時代背景を学んだ上で、楽曲を理解する姿勢を身に付ける。 ・ウィーンで聴いた音楽、音を思い出し、自分の演奏に反映できるよう努力する。 ・コンクール、オーディションへの挑戦。 ・前期実技試験。
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・前期試験や学内演奏会の反省を踏まえ、自分に足りない技術や表現力を身に付ける努力をする。 ・近現代の楽曲にも取り組むとよい。 ・表現の幅を広げるために、音楽以外の分野にも目を向け、幅広い教養を身に付ける。
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・後期実技試験。 ・試験での演奏の反省。 ・オーケストラ、室内楽での演奏の反省。 ・学生時代に経験できることを考え、最終学年での学びに備える。 ・卒業後の進路について考える。
2	
3	

【成績評価の方法】

実技試験による。

科目名	管弦打楽器7・8〔弦楽器〕
-----	---------------

【授業計画の概要】

卒業前にもう一度、基本的な奏法を見直す。
 卒業試験に向けて、より技術・表現力を磨き、4年間の集大成となる演奏を目指す。
 豊かな人間性こそ、豊かな表現が出来ることを覚え、社会へ出る前に自己の在り方について深く考える。
 4年間で学んだ学術的な要素も、作品ノートに反映できるように作成する。

【授業計画の内容】

月	内容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的奏法が身に付いているかを点検する。 ・前期試験曲、卒業試験曲を選曲する。 (卒業試験の曲は多少難しくても、自分の弾きたい曲を選ぶのもよい。) ・卒業後の進路について、計画的に行動する。
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・技術的な内容にばかりとらわれず、音楽的内容についてよく考察する。 ・自分の思いや、感情を自由に音に表すことができるように、更に研鑽を積む。 ・曲全体の音楽の流れを意識し、完成度の高い演奏を目指す。 ・前期実技試験。
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・4年間の総まとめとして、学んできたこと1つ1つを演奏する際に、実践することを心掛ける。 ・作品ノートを作成する。 作曲家、時代背景、楽曲分析などについて詳しく調べる。
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・後期実技試験。 ・卒業試験での演奏の講評と反省。 ・卒業後の演奏活動、指導活動について。 ・演奏技術を維持する方法。
2	
3	

【成績評価の方法】

実技試験による。

科目名	管弦打楽器1・2〔木管楽器〕
-----	----------------

【授業計画の概要】

管弦打楽器1・2〔木管楽器〕(1年)においては、木管楽器の専門的演奏を目指す上での基本的奏法の訓練を中心としたレッスンをを行います。
 ロングトーンを含めた様々なパターンのスケールとエチュードを柱にした練習方法を確立します。
 「音質、音色、音程」を整えながら「姿勢と呼吸」「フィンガリングと指の形」「アンブッシュア」「タンギング」「スラー」「ビブラート」等、演奏の土台となる基本的技術を身に付け基本的感覚を養うことが目的です。

【授業計画の内容】

月	内容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション(今後4年間の概要、レッスン内容の説明、レッスンの心得) ・教材、参考資料の説明(スケール練習の本、エチュード、楽曲等の案内) ・基本的奏法「楽器の構え方」「姿勢と呼吸」「フィンガリングと指の形」「ロングトーン」「アタック」「タンギング」「スラー」「ビブラート」 ・基礎知識「楽器の種類」「楽器の構造」「楽器の歴史」リード楽器についてはリードの「選び方」「調整法」 ・楽器の「メンテナンス」楽器によって自分に合ったマウスピース選び
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・木管楽器1の実技試験課題の楽曲研究と伴奏合わせのためのアドバイス ・夏期休業中実技試験課題の準備と仕上げ(伴奏合わせを含む) ・木管楽器1実技試験の講評、反省会、グループ討論。今後の課題検討 ・木管楽器2の授業開始、基本奏法の整理
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・「スケール練習」の発展 メトロノームを使って少しずつテンポを上げてスラー、タンギングで3度音程、アルペジオを含む練習 ・楽器によって「ビブラート」の実践 ・木管楽器2の実技試験課題の楽曲研究と伴奏合わせ
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・木管楽器2実技試験の講評、反省会、グループ討論 ・1年間の点検と評価 ・今後の課題を検討し、来年度の計画を立てる
2	
3	

【成績評価の方法】

実技試験による

科目名	管弦打楽器3・4[木管楽器]
------------	----------------

【授業計画の概要】

管弦打楽器3・4[木管楽器](2年)においては、1年次で勉強した基本的奏法の訓練と応用技術の研究を更に発展させたレッスンをを行います。
演奏に対する意識を高め、楽曲の理解を深めます。学生一人一人の個性を大切にしつつ、良い部分は伸ばし次点をチェックしていきます。
楽曲、エチュードは中級上級とレベルアップします。

【授業計画の内容】

月	内 容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・アンブッシュアの点検スラー、タンギング技術の点検 ・日々のスケール練習の確立、アーティキュレーションを工夫した3度、4度、アルペジオ練習 ・表現方法の研究・エチュード、楽曲の研究 ・幅広い演奏家達の演奏研究 ・吹奏感の充実と安定、音質音色の研究
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・木管楽器3の実技試験課題楽曲研究と伴奏合わせ ・夏期休業中実技試験課題の準備と仕上げ ・実技試験課題伴奏合わせ ・木管楽器3実技試験課題の講評、反省会、グループ討論、今後の課題検討 ・木管楽器4授業開始、木管楽器4実技試験課題の研究
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・オーケストラスタディー(Ⅰ期) ・楽器によって古楽器の知識と奏法の研究 ・木管楽器4実技試験課題の楽曲研究と伴奏合わせ ・吹奏楽スタディー(Ⅰ期) ・アンブッシュアの安定、個人練習方法の確立
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・木管楽器4実技試験の講評、反省会、グループ討論 ・1年間の点検と評価 ・今後の課題を検討し、来年度の計画を立てる
2	
3	

【成績評価の方法】

実技試験による

科目名	管弦打楽器5・6〔木管楽器〕
-----	----------------

【授業計画の概要】

管弦打楽器5・6〔木管楽器〕(3年)においては、1・2年次に進められてきた(基本奏法と応用技術)を更に発展させたレッスンをを行う。
 学内演奏会やウィーン研修に向けての準備を大切に、ウィーン研修の経験を後の学習に役立てて下さい。
 また「オーケストラスタディー」「吹奏楽スタディー」の他に、様々な形の「アンサンブルスタディー」を行います。「ジャズ」「ポピュラー」の演奏表現も取り入れて行きます。

【授業計画の内容】

月	内 容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・学内演奏会、ウィーン研修のための楽曲研究 ・アンサンブルの編成(楽器によって様々な形態になる) ・アンサンブルスタディー(Ⅰ期) ・オーケストラスタディー(Ⅱ期)
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・木管楽器5の実技試験課題の楽曲研究と伴奏合わせ ・夏期休業実技試験の準備と仕上げ ・木管楽器5実技試験の講評、反省会、グループ討論 ・木管楽器6の課題検討 ・木管楽器6授業開始 木管楽器6実技試験の課題曲研究
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・吹奏楽スタディー(Ⅱ期) ・ジャズ、ポピュラー音楽基礎奏法研究。特殊奏法の研究 ・特殊楽器の基礎奏法研究。同属楽器奏法の研究 ・オーケストラスタディー(Ⅲ期) ・木管楽器6実技試験課題の楽曲研究と伴奏合わせ
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・木管楽器6実技試験講評、反省会、グループ討論 ・学内演奏会、ウィーン研修等を含めた1年間の点検と評価 ・今後の課題を検討し、来年度の計画を立てる
2	
3	

【成績評価の方法】

実技試験による

科目名	管弦打楽器7・8〔木管楽器〕
------------	----------------

【授業計画の概要】

管弦打楽器7・8〔木管ガキ〕(4年)では、これまで3年間勉強してきた奏法、応用技術、アンサンブル力等、演奏技術の確立を目指し、卒業試験に向けて演奏するための総合力を高めます。「作品ノート」(作曲家について、時代背景、楽曲分析等)を作成し、芸術的な幅を広げた演奏を目指します。コンクールやオーディション等にもチャレンジして頂きたい。また、また指導者としての能力を修得することも大切な目的の一つです。

【授業計画の内容】

月	内 容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・奏法全般の総点検 ・オーケストラスタディー(Ⅱ期)、吹奏楽スタディー(Ⅲ期) ・アンサンブルスタディー(Ⅱ期) ・指導法研究(Ⅰ期) ・コンクール・オーディション対策
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・木管楽器7の実技試験課題の楽曲研究、伴奏合わせ ・木管楽器8(卒業試験)の課題曲を決める。「作品ノート」作成準備 ・夏期休業中木管楽器7の実技試験課題の仕上げ、伴奏合わせ ・木管楽器7の実技試験の講評、反省会、グループ討論 ・木管楽器8授業開始、指導法研究(Ⅱ期)
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・コンクール・オーディション対策 ・木管楽器8(卒業試験)の課題楽曲研究と伴奏合わせ。「作品ノート」作成状況チェック ・オーケストラスタディー(Ⅴ期)、吹奏楽スタディー(Ⅳ期)、アンサンブルスタディー(Ⅲ期) ・指導法研究(Ⅲ期)
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・木管楽器8(卒業試験)の講評、反省会、グループ討論 ・4年間の点検と評価 ・卒業後の演奏活動と指導活動に対する考え方と心構え ・卒業後の課題を検討する
2	
3	

【成績評価の方法】

実技試験による

科目名	管弦打楽器1・2〔金管楽器〕
------------	----------------

【授業計画の概要】

1年次においては、基礎奏法、及び応用技術の修得を中心にレッスンを行います。
 「姿勢」「呼吸法」「リラクゼーション」「アンブシュア」「フィンガリング」「スロート・コントロール」「リップ・フレキシビリティ」「レンジ」「エンデュアランス」「アーティキレーション」など、演奏の土台となる基本テクニックを確実に身につけることが最大の目的です。

【授業計画の内容】

月	内 容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス (概要説明、レッスン内容説明、レッスン心得、教材・参考資料の説明・案内等) ・基礎奏法 (姿勢、呼吸法、楽器の構え方、ロングトーン、リップ・スラー、タンギング等) ・基礎知識(楽曲、教本、楽器、楽器の歴史等)
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・前期実技試験のための楽曲研究 ・ " " の講評、反省会、グループ討論 ・名演奏家の演奏研究(Ⅰ期) ・前期実技試験
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎奏法(アンブシュア、フィンガリング、フレキシビリティ、インターヴァル、グルベット、リラクゼーション、スロート・コントロール、エンデュアランス等) ・基礎知識(楽曲研究、楽器のメンテナンス等) ・学年末実技試験のための楽曲研究
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・後期実技試験の講評、反省会、グループ討論 ・1年間の点検と評価 ・今後の課題検討、及び来年度の計画作成
2	
3	

【成績評価の方法】

実技試験による

科目名	管弦打楽器3・4〔金管楽器〕
-----	----------------

【授業計画の概要】

2年次においては、1年次に引き続き、基礎奏法に修得を中心にレッスンをを行います。そして、それを更に発展させた「応用技術」の修得にも目を向けていきます。「インターバル」「レンジ」「エンデュランス」「アーティキレーション」などのレベル・アップを目指します。3年次生になったとき、コンチェルトなどの演奏が可能になっていることが、目標の目安です。

【授業計画の内容】

月	内容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・響き、音色、音質等の研究 ・名演奏家の演奏研究(Ⅱ期) ・表現様式の研究 ・アンサンブル。スタディー(Ⅰ期) ・スケール・アルペジオの総点検 ・トランスポジションの修得(Ⅰ期)
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・前期実技試験のための楽曲研究 ・ " " の講評、反省会、グループ討論 ・メソッド、エチュード研究(Ⅰ期) ・前期実技試験
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・オーケストラ・スタディ(Ⅰ期) ・古楽器の知識と奏法研究(Ⅰ期) ・吹奏楽スタディー(Ⅰ期) ・特殊奏法の研究(Ⅰ期) ・デイリー・トレーニングの確立 ・学年末実技試験のための楽曲研究
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・後期実技試験の講評、反省会、グループ討論 ・2年間の点検と評価 ・今後の課題検討、及び来年度の計画作成
2	
3	

【成績評価の方法】

実技試験による

科目名	管弦打楽器5・6〔金管楽器〕
-----	----------------

【授業計画の概要】

3年次においては、「基礎・応用技術」の更なる修得に加え、「トランスポジション」「オーケストラ・スタディー」などの項目も更に強化していきます。
 また、「チャーチ・モード」を加え、スケール枠を広げていきたいと考えています。
 更に、この楽器の演奏カテゴリーを考慮し、「ジャズ」「ポピュラー」の演奏表現方法も、希望する学生には取り入れていきたいと思っています。

【授業計画の内容】

月	内容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・学内演奏会、ウィーン研修のための楽曲研究 ・チャーチ・モードの修得と和声への対応 ・アンサンブル・スタディー(Ⅱ期) ・オーケストラ・スタディー(Ⅱ期) ・トランスポジションの修得(Ⅱ期)
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・前期実技試験のための楽曲研究 ・ " " の講評、反省会、グループ討論 ・指導法研究(Ⅰ期) ・コンクール、オーディション対策(Ⅰ期) ・前期実技試験
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・吹奏楽スタディー(Ⅱ期) ・ジャズ、ポピュラー音楽、基礎奏法研究 ・特殊楽器の基礎奏法の研究(Ⅰ期) ・特殊奏法の研究(Ⅱ期) ・オーケストラ・スタディー(Ⅲ期)及び、トランスポジションの修得(Ⅲ期) ・学年末実技試験のための楽曲研究
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・後期実技試験の講評、反省会、グループ討論 ・3年間の点検と評価 ・今後の課題検討、及び来年度の計画作成
2	
3	

【成績評価の方法】

実技試験による

科目名	管弦打楽器7・8〔金管楽器〕
-----	----------------

【授業計画の概要】

最終年次においては、これまで培ってきたものを確実に修得し、国内で開催されているコンクールやオーディションにチャレンジできるようなレベルを目指します。
又、演奏能力の向上とは別に、指導者としての能力も修得することを期待しています。

【授業計画の内容】

月	内容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・オーケストラ・スタディー(Ⅳ期) ・吹奏楽スタディー(Ⅲ期) ・アンサンブル・スタディー(Ⅲ期) ・指導法研究(Ⅱ期) ・コンクール・オーディション対策(Ⅱ期) ・メソッド・エチュード研究
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・前期実技試験のための楽曲研究 ・ " " の講評、反省会、グループ討論 ・特殊楽器の基礎奏法研究(Ⅱ期) ・古楽器の知識と奏法研究(Ⅱ期) ・前期実技試験
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・指導法研究(Ⅲ期) ・コンクール・オーディション対策(Ⅲ期) ・オーケストラ・スタディー(Ⅴ期) ・吹奏楽スタディー(Ⅳ期) ・アンサンブル・スタディー(Ⅳ期) ・卒業実技試験のための楽曲研究
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業実技試験の講評、反省会、グループ討論 ・4年間の点検と評価 ・卒業後の演奏活動、指導活動に対する基本的コンセプトの確立
2	
3	

【成績評価の方法】

実技試験による

科目名	管弦打楽器1・2〔打楽器〕
------------	---------------

【授業計画の概要】

「音楽を自らの言葉で語る(語れるようになる)」ことを目標とし、その目標達成の第一歩として、基本奏法や演奏技術を身に付ける。

【授業計画の内容】

月	内 容
4	ガイダンス／脱力と身体の使い方の習得 ／小太鼓・鍵盤楽器の基本奏法の習得(初級エチュードを使って正しいフォームを学ぶ)
5	
6	
7	基本奏法の確立と楽曲への応用①(初級エチュードに加え、楽曲演奏の中での基本奏法の応用について学ぶ) ／前期試験曲の決定、指導
8	
9	
10	前期試験の講評及び課題提示 ／基本奏法の確立と楽曲への応用②(自らの課題をふまえた選曲を行ない、その楽曲への取り組みの中で基本奏法の確立、応用について更に追求し、音楽表現を深める) ／後期試験曲の決定、指導
11	
12	
1	後期試験の講評と課題提示 ／次年度への目標提示 ／1年間の総括
2	
3	

【成績評価の方法】

実技定期試験による

科目名	管弦打楽器3・4[打楽器]
------------	---------------

【授業計画の概要】

「いかに音楽的に奏するか」をテーマに、個々の楽器の奏法を習得、同時にオーケストラ・スタディを教材に用いて、楽曲の一部である打楽器パートが、いかにして楽曲全体を音楽的に拡大し彩ることができるのか、打楽器の本質的な可能性について学ぶ。

【授業計画の内容】

月	内 容
4	ガイダンス ／小太鼓・鍵盤楽器の基本奏法の充実(各自の実力に応じたエチュード、楽曲を使用) ／ティンパニを含む打楽器全般に関する知識と奏法の習得(初級エチュードを使用)
5	
6	
7	小太鼓・鍵盤楽器について、より自由な音楽表現を目指す＝基本奏法、技術習得の追求 ／ティンパニを含む打楽器全般の音楽表現について学ぶ＝オーケストラ・スタディを使用して奏法、技術を習得する ／前期試験曲の決定、指導
8	
9	
10	前期試験の講評及び後期の方針検討 ／前述の楽器レッスンに加え、マルチパーカッション楽曲について学ぶ ／後期試験曲の決定、指導
11	
12	
1	後期試験の講評と次年度への目標、課題提示 ／1年間の総括
2	
3	

【成績評価の方法】

実技定期試験による

科目名	管弦打楽器5・6〔打楽器〕
------------	---------------

【授業計画の概要】

音楽表現の手段として扱える楽器の幅を広げることでレパートリーを増やし、自分の言葉で音楽することへの更なる追求の1年とする

【授業計画の内容】

月	内 容
4	ガイダンス ／多種楽器を使用したマルチパーカッション楽曲を題材に、難易度の高い楽譜の読み方を学び、効率的なセッティング、奏法等を研究しながら、より広い視野をもって曲に取り組む機会をもつ
5	
6	
7	オーケストラ・スタディ(Percussion)に取り組むことで、より高い技術習得がより深い音楽表現を生み出すことを学ぶ ／前期試験への取り組み(試験曲の決定、指導) ／ミニ・コンサートを実施し、演奏者、舞台人としての意識をもつ
8	
9	
10	前期試験の講評と課題提示 ／定期公演での発表、魅力あるプログラミングの実現を目標に、 ①複数名での演奏について学びながら、アンサンブル技術の向上を目指す ②各種打楽器(ラテン楽器・特殊楽器等)の知識と奏法を習得する／後期試験曲の決定、指導
11	
12	
1	後期試験の講評と次年度への目標、課題提示 ／1年間の総括
2	
3	

【成績評価の方法】

実技定期試験による

科目名	管弦打楽器7・8〔打楽器〕
------------	---------------

【授業計画の概要】

入学時に掲げた目標であり、この授業(レッスン)の継続的なテーマともいえる「音楽を自らの言葉で語ること」を、今一度あらゆる方向から深め、充実させるためのまとめの1年とする。同時に、大学最終学年ということで、各自の卒業後の進路をも見据えた内容を検討しつつ進行する。

【授業計画の内容】

月	内 容
4	ガイダンス ／内外コンクール、オーディションへ向けた指導 ／各自の将来検討に即した情報提供及び指導
5	
6	
7	オーケストラ・スタディ習得の充実 ／将来に向けてのより具体的な検討を意識し、客観的な実力の認識を深めることを目的とした試みとして、プロ・オーケストラのリハーサルや本番を聴いた上でのレポート提出を課す ／前期試験曲の決定(内外コンクール、オーディション情報を参考に、相応のレベルの選曲とすること)
8	
9	
10	前期試験の講評 ／卒業試験にむけての課題提示、曲目検討、指導 ／各自の進路を意識した取り組み
11	
12	
1	卒業試験 ／卒業後の進路全般に対するアドバイス ／4年間の総括
2	
3	

【成績評価の方法】

定期、卒業試験による

科目名	作曲1・2
-----	-------

【授業計画の概要】

和声学の能力を向上させ、理解を深める。
 ピアノによる小品あるいは形式に沿った楽曲を創作する。
 内容的には特に指定はしないが、個性を充分生かして創作することが望ましい。

【授業計画の内容】

月	内 容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・和声能力の確認と課題の実習 ・形式の研究(年間通して) ・ピアノ曲の研究
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・和声学課題の実習
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・和声学課題の実習 ・ピアノ曲の制作(提出作品)
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・出作品の制作及び提出、演奏試験
2	
3	

【成績評価の方法】

実技試験による

科目名	作曲3・4
-----	-------

【授業計画の概要】

和声学の能力を高める。
実践的な対位法を学び、制作する室内楽への応用を試みる。
ピアノと管楽器または弦楽器または打楽器との二重奏の制作

【授業計画の内容】

月	内 容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・和声課題の実習 ・室内楽の研究(1) ・対位法楽曲の研究(1)
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・和声課題の実習 ・室内楽の研究(2) ・対位法楽曲の研究(2)
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・和声課題の実習 ・提出作品の制作(ピアノとのデュオ) ・対位法楽曲の研究(3)
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・提出作品の制作および提出
2	
3	

【成績評価の方法】

実技試験による

科目名	作曲5・6
-----	-------

【授業計画の概要】

ピアノ伴奏による歌曲の制作。
それに向けた歌曲の研究をさまざまな視点から行なう。
ピアノ曲をオーケストラに編曲する管弦楽法、楽器法を研究する。

【授業計画の内容】

月	内 容
4	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・より高度な和声学課題の実習(1) ・歌曲の研究(1)
6	
7	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・より高度な和声学課題の実習(2) ・歌曲の研究(2) ・歌曲の制作、提出および演奏試験
9	
10	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・スコアリーディングとオーケストレーション実習
12	
1	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・オーケストレーション実習および提出
3	

【成績評価の方法】

実技試験による

科目名	作曲7・8
-----	-------

【授業計画の概要】

曲の形態、編成などに制限はないが、オーケストラを伴う作品が望ましい。
4年間の集大成ともいべき作品であるから、作曲家としての自覚、力量を充分に発揮することが求められる。

【授業計画の内容】

月	内 容
4	和声学、対位法の総合的課題の実習
5	卒業作品の検討及び制作開始
6	現代音楽の研究
7	
8	卒業作品の制作開始
9	
10	
11	卒業作品の制作
12	
1	
2	卒業作品の提出
3	

【成績評価の方法】

実技試験による

科目名	メディアデザイン演習1・2
-----	---------------

【授業計画の概要】

《創り方を作るために》

本演習では、旋律、リズム、ハーモニー、の「音楽の基本構造」を作曲の過程を通じて修得する。
演習内でのディスカッションや学生作品を全員で試聴しながら意見交換を交えながら作品の精度を高める。

【授業計画の内容】

月	内 容
4	「倍音と時間軸」 ○点と線を使ったコントロールについて基本原理の習得と実践 「点と線を用いた楽曲」制作
5	
6	
7	「旋律の作成」 ○最小限の音程移動を用いて旋律を作る
8	
9	
10	「楽器に関する分析と考察」 音色と編成、アンサンブルについての解析手法と考察 ○アンサンブルのMaster Rhythm ○低音の制御 ○低音の多様性について
11	
12	
1	「楽曲の構成」に関する考察 ○構成力の要素を分解する 古典的様式
2	
3	

【成績評価の方法】

平常出席点(50%)、課題提出(25%)、最終楽曲課題提出(25%)

科目名	メディアデザイン演習3・4
-----	---------------

【授業計画の概要】

《創り方を作る-1》

本演習では、1年次の修得事項をさらに拡張し「機能と声」→「相対的mode scale」を使ったwritingについて修得する。

【授業計画の内容】

月	内容
4	「1年次修得事項の確認」 機能と声の確認 dominant chord → 解決 (resolution) を基本とする考え方
5	
6	
7	Pre-Productionの具体的な内容と準備項目 低音の連動性 Master Rhythmの生成 と 多様なアンサンブルへの応用 Basic Rhythmの録音に向けて・・・譜面準備・録音データ準備
8	
9	
10	機能主義と声から相対的Modeへ 相対的modeを使ったwritingについて
11	
12	
1	「楽曲の構成」に関する考察 作品の最終チェック 全体のチェック 課題から作品へ(作品展示または実演に向けての準備)
2	
3	

【成績評価の方法】

平常出席点(50%)、課題提出(25%)、最終楽曲課題提出(25%)

科目名	メディアデザイン演習5・6〔実習を含む〕
-----	----------------------

【授業計画の概要】

《創り方を作る-2》

本演習では、1～2年次に修得した項目を基本としながら、さらに具体的「創り方を作る」を学ぶことを目的とする。
「イメージする楽曲を作り上げる」に始まり「企画意図を反映した作品を完成する」までの一連の過程を修得する。

【授業計画の内容】

月	内容
4	1～2年次の修得事項確認 …… 制作楽曲の概映像・音声データを用いて 今年度の楽曲制作の方向性について
5	何を作品として生み出し、未だ何が実現出来ていないのか？
6	
7	<制作進行-1> 楽曲制作と録音（新曲作成、学内演奏発表曲を含む）
8	楽曲コンセプトの立案
9	コンセプトの置き換え作業 コンセプトの実現に必要な音要素・音楽要素のリスト化と実践
10	<制作進行-2> 楽曲の準備（スコア作成、パート譜面作成、データ準備）
11	スタジオ実習に向けての準備作業（Pre-Production）
12	録音後の作業についての確認（Post-Production） 編集作業、Mix作業
1	<制作進行-3> 作品の最終チェック 全体のチェック
2	課題から作品へ（作品展示または実演に向けての準備）
3	

【成績評価の方法】

平常出席点(50%)、課題提出(25%)、最終楽曲課題提出(25%)

科目名	メディアデザイン演習7・8〔実習を含む〕
-----	----------------------

【授業計画の概要】

《創り方の応用》

本演習では、これまでに学んで来た「創り方を作る」を実践的に応用し、自己の制作表現(卒業制作)を完成させる為にさらに必要となる実践的、ディレクション力、コミュニケーションスキルを習得することを目的とする。

【授業計画の内容】

月	内 容
4	「オーディオブック」制作に向けての制作手順の確認 <制作準備：Pre-Production>
5	卒業制作に向けての準備事項(素材準備、企画概要の書面化、スケジュール管理)
6	シナリオの確認とキャスティング サウンドトラックの楽器編成
7	<制作進行-1> 朗読録音
8	
9	
10	<制作進行-2> 音楽制作進行(音楽録音に向けての準備、演奏者手配、データ管理と準備、)
11	音楽の音声データ化
12	Post-Productionに向けて Mixバランス、距離感、間合いの取り方
1	<制作進行-3> コンテンツ作品全体のチェック
2	課題から作品へ(作品展示または実演に向けての準備)
3	「スタジオ実習」(3・4年生必修)への準備(譜面、録音データ)

【成績評価の方法】

平常出席点(50%)、課題提出(25%)、最終楽曲課題提出(25%)

科目名	音楽療法1・2-1
-----	-----------

【授業計画の概要】

ゼミ形式で、2クラス同時進行で進められる。各々の教官から音楽療法の実践に必要なピアノ、歌唱、即興、を含む器楽演奏、読譜の技術(例:初見演奏、コード伴奏)など等の基本を習得し、実技の基礎能力の向上を目指す。同時に、臨床現場で多く使われる音楽や曲のレパートリーを知っていく。

【授業計画の内容】

月	内容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション、クラス分け ・コードネームの読み方 ・コード進行の平易な歌から始め、基礎的伴奏パターンを学習する。
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・コード進行のより複雑な楽曲へと、徐々に枠を広げていく。 ・音楽療法のセッションで必須のレパートリーを重点的に取り上げ、演奏可能にする。 ・先読み、リードの技術を学ぶ。
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・自由即興演奏の体験 ・ペンタトニックを用いた即興 ・教会旋法を用いた即興 ・音楽療法用に創られた楽曲の体験、および指揮の技術を学ぶ
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・無調による即興 ・音楽療法で用いるための楽曲の創作
2	
3	

【成績評価の方法】

学期末に行う実技試験(音楽療法で使用する歌唱のための曲の伴奏の演奏、音楽療法の実践場面を想定した即興演奏)、および音楽療法用の楽曲を創作・編曲した作品の提出したものを、複数の教員で採点し、その平均点を算出し、成績評価を行なう。

科目名	専攻実技1・2-2〔音楽療法〕
------------	-----------------

【授業計画の概要】

ギターの基礎的な演奏法を習得し、ギターを用いた音楽療法の実践に向けた基盤を確立する。個別指導においては授業時間には要点を指摘し助言をすることが主となるので、それを踏まえて自宅で十分に練習をすること。そうでないと向上は望めない。教科書：フォークギター初歩の初歩入門(ドレミ楽譜出版社)、上達への近道・ギターテキスト(現代ギター社)

【授業計画の内容】

月	内 容
4	ギターに関する基礎知識と、基礎的な奏法を学ぶ。
5	
6	
7	コードとコード進行の基礎を学び、アルペジオを中心とした奏法を習得する。状況に応じて個別指導を開始する。
8	
9	
10	課題曲を設定し、基礎的な技法を用いて簡単な曲を演奏できる技術を習得する。個別指導に比重を移す。
11	
12	
1	個別指導を継続し、各自の技術向上を援助する。
2	
3	

【成績評価の方法】

毎回のレッスン時の技能の水準15%、年度末試験85%。

科目名	音楽療法3・4-1
-----	-----------

【授業計画の概要】

ピアノ・キーボードによる歌唱伴奏の技術、即興演奏の技術、および音楽療法で用いられる様々楽曲(合奏、身体運動、あいさつ、発声・発語・数概念・コミュニケーション技能を学ぶために創られたもの)を体験し、また創作することを学ぶ。くわえて、音楽を介して対象者とのかかわりを築き、深めるためのコミュニケーション技能(視線の使い方、声の出し方、必要に応じたプロンプトの使用など)についても体験的に学ぶ。

【授業計画の内容】

月	内 容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・長調・短調の音楽による即興 ・スペイン風の音楽による即興 ・複雑なコード進行のポピュラー音楽の伴奏技術 ・多様なリズム・パターン(8ビート、3連ロック等)による伴奏
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・全音音階による即興 ・ジャズ・ブルース風の音楽による即興 ・ラテン風(タンゴ、サンバ等)の音楽による即興 ・対象者の状態、グループ・サイズに合わせた伴奏法
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽療法用のあいさつの曲の体験と創作 ・音楽療法の合奏の曲の体験・指揮の技術の学習・創作 ・身体運動を促すための曲の体験・創作
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・発声・発語・数概念・コミュニケーションを促進するための楽曲の体験・創作
2	
3	

【成績評価の方法】

学期末に行う実技試験(音楽療法で使用する歌唱のための曲の伴奏の演奏、音楽療法の実践場面を想定した即興演奏)、および音楽療法用の楽曲を創作・編曲した作品の提出したものを、複数の教員で採点し、その平均点を算出し、成績評価を行なう。

科目名	音楽療法3・4-2
------------	-----------

【授業計画の概要】

1年次で習得したギターの基礎技能を基に、コード理論を基にした、ポピュラーミュージックの有機的・効率的な把握の方法を身に付け、音楽療法の臨床場面を想定して、自在にギターを扱える演奏技能と音楽的な応用力を習得することを目的とする。またその一環として、簡単な曲ならばメロディを伴った演奏を即時的に行えるようになる技能の獲得も目指す。教科書:音楽療法1・2-2で使用したものに加え、「JAZZ理論講座 初級編」(武蔵野音楽院)を使用する。個別指導においては授業時間には要点を指摘し助言をすることが主となるので、それを踏まえて自宅で十分に練習をすること。そうでないと向上は望めない。

【授業計画の内容】

月	内容
4	ジャズ理論をベースに、ポピュラーミュージックの音楽理論を概観し、それらのギター演奏への応用について解説と実技指導を行う。
5	
6	
7	音楽療法の臨床場面を想定し、ポピュラーミュージックの既成曲を呈示して、可能な限り迅速に当該曲の伴奏や弾き語りができるよう、解説と実技指導を行う。
8	
9	
10	メロディを伴った演奏を即時的に行えるようになることを目指し、各自の課題曲を設定して実技指導を行う。適宜前期の復習も交える。
11	
12	
1	個別指導を継続し、各自の技術向上を援助する。
2	
3	

【成績評価の方法】

毎回のレッスン時の技能の水準15%、年度末試験85%。

科目名	音楽療法5・6(実習を含む)
-----	----------------

【授業計画の概要】

3年次から始まる音楽療法実習を振り返り、2年までに学んだ理論・技術を実践にどう生かすかについて、ディスカッションを通して検討する。加えて、学内実習発表の作成にも取り組む。

【授業計画の内容】

月	内容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・実習での問題を洗い出す(自身の心理的課題、チームワークなど人間関係の問題、音楽技術、対人技術、必要な知識の不足等) ・問題の解決に向けての方策を教員、クラスメイトとのディスカッションを通じて見出す。
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・学内実習発表のテーマの選定 ・対象者のニーズとその解決のための介入方法の選択について
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・学内実習発表レポートの作成 ・チームワークを高めるための配慮について ・伴奏、即興、楽曲創作、リードの技術を高める
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・学内実習発表レポート仕上げ ・プレゼンテーション準備 ・実習で学んだことをまとめる
2	
3	

【成績評価の方法】

学生が行なう現場での実習について、各実習場所の複数の指導教員・現場指導者による採点の平均点をもって成績評価とする。

科目名	音楽療法7・8(実習を含む)
-----	----------------

【授業計画の概要】

ゼミ形式授業と現場実習を明確に関連づけ、実践技術・知識・経験を蓄積する。
3年までで学んだ知識・技術を臨床実践に活かす方法を、体験的に学ぶ。
各指導教員の指導のもと、各自の研究テーマを模索し、卒業論文作成に取り組む。

【授業計画の内容】

月	内容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだ知識、技術を復習し、不足の部分を確認し再学習する ・卒業研究のテーマについて考える ・研究テーマに関連する先行研究を調べる
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究の構成を考える。卒業論文の序論を完成させる ・実習における、対象者のニーズに応じた介入技術を磨く
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究中間発表の準備 ・実習技術の研鑽
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究の完成と発表 ・実習技術の研鑽と振り返り
2	
3	

【成績評価の方法】

各課題やレポート、授業への積極的参加など取り組みの姿勢、実習点数を平均して評価する

科目名	副科ピアノⅠA/B
-----	-----------

【授業計画の概要】

ピアノは広い音域と豊かな響きを持ち、オーケストラもイメージ可能な楽器であるため、副科ピアノは各自の専門分野において総合的に音楽を構築するために学習するものである。
1年次は基礎的な奏法を中心に学習する。
試験は暗譜で演奏するため、ひごろから暗譜を心がけた学習をする。

【授業計画の内容】

月	内容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノを演奏するための基礎を身につける。 特に 正確な譜読みと適切な運指を学習する。
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲表現に必要な演奏技術を高める。 副科ピアノⅠAの実技試験
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・正確な譜読みと適切な運指を学習する。 ・ⅠAにおける学習成果を演奏に生かす。 ・美しい響きを作るために、音色、ペダルの使い方に気を配る。
11	
12	
1	副科ピアノⅠBの実技試験 <ul style="list-style-type: none"> ・試験終了後は、副科ピアノⅡに向けてレパートリーを広げる。
2	
3	

【成績評価の方法】

実技試験による

科目名	副科ピアノⅡA/B
-----	-----------

【授業計画の概要】

副科ピアノⅠで学んだことを基にさらに発展させた学習をする。
 ピアノ演奏技術の基本を学習する。
 1年次に「キーボード基礎演習」を履修した場合は、副科ピアノⅡに進む。
 試験は暗譜で演奏するため、日頃から暗譜を心がけた学習をする。

【授業計画の内容】

月	内容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・副科ピアノⅠ ふり返る。 ・正確な譜読みと適切な運指を学習する。 ・技術的問題点の抽出と克服への取り組みをする。
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲表現に必要な演奏技術を高める。 副科ピアノⅡAの実技試験
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・正確な譜読みと適切な運指を学習する。 ・技術的問題点の抽出と克服への取り組みをする。 ・実技試験に向けて、完成度を高める。
11	
12	
1	副科ピアノⅡBの実技試験 <ul style="list-style-type: none"> ・試験終了後は、ピアノⅢに向けてレパートリーを広げる。
2	
3	

【成績評価の方法】

科目名	副科ピアノⅢA/B
-----	-----------

【授業計画の概要】

副科ピアノⅠ・Ⅱで学んだことを踏まえて、更に発展させる。
フレーズ・アーティキュレーション・和声等に留意し、様式を踏まえた表現法を学ぶことによって、より高度な演奏を目指す。
試験は暗譜で演奏するため、日頃から暗譜を心がけた学習をする。

【授業計画の内容】

月	内容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・副科ピアノⅠ・Ⅱの学習内容をふり返る。 ・正確な譜読みと適切な運指を学習する。
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・各時代様式を踏まえた表現法を学習し、演奏の質を高める。 副科ピアノⅢAの実技試験
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・正確な譜読みと適切な運指を学習する。 ・各時代様式を踏まえた表現法を学習することにより、演奏の質を高める。
11	
12	
1	副科ピアノⅢBの実技試験 <ul style="list-style-type: none"> ・試験終了後は、副科ピアノⅣに向けてレパートリーを広げる。
2	
3	

【成績評価の方法】

実技試験による

科目名	副科ピアノⅣA/B
-----	-----------

【授業計画の概要】

副科ピアノⅠ・Ⅱ・Ⅲで学んだことを踏まえ、さらに発展させる。
音楽を総合的な観点から捉え、バランスの良い完成度の高い演奏を目指す。
試験は暗譜で演奏するため、日頃から暗譜を心がけた学習をする。

【授業計画の内容】

月	内容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・副科ピアノⅠ・Ⅱ・Ⅲの学習内容をふり返る。 ・高度な演奏を目指すため、基本となる正確な譜読みと適切な運指を確認する。
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・今までに学んだことが発揮できるよう努める。 副科ピアノⅣAの実技試験
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・完成度の高い演奏を目指すため、基本となる正確な譜読みと適切な運指を再度確認する。 ・作品の分析及び作曲家・時代背景など、楽曲に対し多角的なアプローチをし、演奏に反映させる。
11	
12	
1	副科ピアノⅣBの実技試験 <ul style="list-style-type: none"> ・4年間の学習を礎に、さらにレパートリーを広げる。 ・ピアノの演奏で学んだことを、自身の専攻実技やアンサンブルに生かす。
2	
3	

【成績評価の方法】

実技試験による

科目名	副科声楽 I A/B
-----	------------

【授業計画の概要】

自分自身が楽器である認識を持ち、基礎的な体の使い方、呼吸法また発声に伴う口の使い方の学習を目指します。
練習曲としてコンコーネ等を用いる事が望ましい。
言葉を伴う声楽の特質性を知り詩の意味を深め、歌唱に活かせる様に取り組みます。
教職課程履修者は指導現場で必要となる教材への取り組みを実践しましょう。

【授業計画の内容】

月	内容
4	主要課題: 発声練習で姿勢、腹式呼吸、口の使い方を確認 ・練習曲(コンコーネ等)を中心に体の使い方、声の出し方の確認をしながら歌う
5	
6	
7	主要課題: 重ねて練習して来た発声の基礎を充実させる ・イタリア歌曲を学び、詩への理解とイタリア歌曲の発音に取り組む ・夏休みの学習計画を立てる ☆4月から学んで来た発声、練習曲、イタリア歌曲を再度見直しておく
8	
9	
10	主要課題: 前期で学んだ呼吸法、発声法をさらに深める ・旋律と詩を融合させレガートに歌う事を学ぶ
11	
12	
1	主要課題: 一年間の纏め ・この一年間学んで来たイタリア歌曲を復習、表現力の幅を広げる ・春休みの学習計画を立てる
2	
3	

【成績評価の方法】

授業への取り組みを総合的に評価する

科目名	副科声楽ⅡA/B
-----	----------

【授業計画の概要】

副科声楽Ⅰで学んだ事を継続し、呼吸法、発声法の学習を進め表現力を習得。
イタリア歌曲だけでなくドイツ語、日本歌曲、オペラ作品等、個人のレベルに合わせて取り組んで行く事も望ましい。
引き続きコンコーネ等の練習曲も積極的に学習に取り入れて行く。

【授業計画の内容】

月	内容
4	主要課題:レガート唱法を身に付ける ・練習曲の母音唱法をイタリア歌曲に活かしレガート唱法を学習する
5	
6	
7	主要課題:イタリア歌曲以外の外国歌曲また日本歌曲の学習により多くの曲を知る ・個々の力に応じてイタリア歌曲以外の外国歌曲や日本歌曲の学習により多くの曲を知る ・夏休みの学習計画を立てる ☆夏休みにはこれまで学んで来た発声、練習曲、歌曲を見直しておく
8	
9	
10	主要課題:詩の意味を汲み取り歌唱力を高めて行く ・声楽に不可欠な詩の意味を租借して歌唱に表して行く
11	
12	
1	主要課題:二年間の纏めをする ・二年間学んで来た作品の復習 ・声楽をこの二年間で終わらせるのではなく、平生から歌う事を続けて行く
2	
3	

【成績評価の方法】

授業への取り組みを総合的に評価する

科目名 副科管弦打楽器 I A/B〔弦楽器〕

【授業計画の概要】

* 該当者がいない可能性があります。

弦楽器の音色は大変美しく、多くの人に愛されている。
 美しい音色を鳴らすためには、正しい奏法を身に付けなければならない。
 基本的奏法を学び、きれいな音、正しい音程を作れるようにする。
 「音を作る、音程を作る」という行為は、音を注意深く聴く習慣ができ、専門楽器の演奏の向上にもつながる。

【授業計画の内容】

月	内 容
4	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・初心者 基本的な奏法の習得 ・経験者 基本的奏法の見直し ・各自 それぞれの能力にあった楽曲を学習する。
6	
7	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・教則本に沿って、練習を進める。 ・楽器の特性を理解する。 ・前期実技試験。
9	
10	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・教則本に沿って、新しい技術を身に付ける。 ・学習したことを基に、試験曲を決め、練習する。
12	
1	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ伴奏と合わせ、基本的なアンサンブルを経験する。 ・後期実技試験。 ・試験の結果を踏まえ、改善点を確認する。
3	

【成績評価の方法】

実技試験による。

科目名	副科管弦打楽器ⅡA/B〔弦楽器〕
-----	------------------

【授業計画の概要】	* 該当者がいない可能性があります。
-----------	--------------------

副科Ⅰに引き続き、更に基本的奏法の習得に重点を置く。

【授業計画の内容】	
-----------	--

月	内容
4	
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・弦楽器特有の音程のとり方、作り方を学ぶ。 ・前期実技試験。
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・教則本に従い、更に技術を高める。 ・学習したことを基に、試験曲を決め、練習する。
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・後期実技試験。 ・試験結果を踏まえ、改善点を確認する。
2	
3	

【成績評価の方法】	
-----------	--

実技試験による。

科目名	副科管弦打楽器ⅢA/B〔弦楽器〕
-----	------------------

【授業計画の概要】	* 該当者が出ない可能性があります。
-----------	--------------------

強弱をはじめ、楽譜に書いてある表現が、出来るようになる方法(技術)を学習する。

【授業計画の内容】	
-----------	--

月	内 容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の欠点を認識して、改善に努める。 ・それぞれの進度に応じて、ポジション移動、ヴィブラートを学ぶ。
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の専門楽器と、弦楽器の表現方法の違いを認識する。 ・前期実技試験。
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・教則本に従い、更に技術を高める。 ・学習したことを基に、試験曲を決め、練習する。 ・学習してきた様々な表現方法を実践する。
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・後期実技試験。 ・試験結果を踏まえ、改善点を確認する。
2	
3	

【成績評価の方法】	
-----------	--

実技試験による。

科目名	副科管弦打楽器ⅣA/B〔弦楽器〕
-----	------------------

【授業計画の概要】

更に難しい曲に挑戦していく。
弦楽器は、室内楽・弦楽合奏・オーケストラなどの合奏を楽しむことができる。
副科履修生達とのアンサンブルの機会を設けたい。

【授業計画の内容】

月	内 容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の欠点を認識して、改善に努める。 ・それぞれの進度に応じて、ポジション移動、ヴィブラートを学ぶ。
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な表現方法を学習する。 ・難しい楽曲へ挑戦していく。 ・前期実技試験。
8	
9	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・最後の試験に向けて、試験曲を選択する。 ・以前から弾いてみたいと思っていた曲を選ぶのもよい。
11	
12	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・後期実技試験。 ・4年間で身に付けた楽器の演奏技術を、卒業後も生かすことが出来る環境を作る。
2	
3	

【成績評価の方法】

実技試験による。

科目名	副科管弦打楽器Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・ⅣA/B〔木管楽器〕
-----	-------------------------

【授業計画の概要】

副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅠA/Bは、フルート・クラリネット・オーボエ・ファゴット・サクソフォンの中から任意の楽器一種類を選び、基礎的奏法を学習する。
副科管弦打楽器〔木管楽器〕Ⅱ～ⅣA/Bでは、各々の前年度に学習したことを基に、更に発展させた演奏能力を身に付けられるレッスンをを行います。
実技試験は年2回行います。

【授業計画の内容】

月	内容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅠA ・オリエンテーション(今後1年間の概要、レッスン内容の説明、心構え、教材説明) ・基本的奏法「楽器の構え方」「姿勢と呼吸」「アンブッシュア」「フィンガリングと指の形」
5	
6	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎知識「楽器の歴史」「楽器の種類」 ・副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅡA～ⅣA ・オリエンテーション(今後1年間の概要、レッスン内容の説明、心構え、教材説明) ・基本的奏法「姿勢と呼吸」「アンブッシュア」 ・副科木管楽器ⅠA実技試験の楽曲決め
8	
9	
10	<p>各学生それぞれの能力ごとにエチュード、楽曲を学習する。 副科木管楽器ⅡA～ⅣA 実技試験楽曲決め</p> <p>副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅠB～ⅣB授業開始</p>
11	
12	
1	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・副科木管楽器ⅠA～ⅣAで学習したことを更に進めて行く。 ・副科木管楽器ⅠB～4B 実技試験の楽曲決めは学生それぞれの能力ごとに選曲し、学習する。
3	

【成績評価の方法】

実技試験による。

科目名	副科管弦打楽器 I ～IVA/B〔金管楽器〕
------------	------------------------

【授業計画の概要】

I : 管弦打の各楽器は、ソロ楽器としては言うまでもなく、オーケストラ・吹奏楽・室内楽など、様々な合奏グループの一貫として活躍している。
副科とはいえ、上達のためには第2の専攻というぐらいの意識を持ち、日々の練習を重ねることが、重要且つ不可欠である。
レッスンでは基本奏法・基礎知識の修得が中心となる。
II～IV : 前年度の学習を基に、引き続き基本奏法・基礎知識の修得が中心となる。

【授業計画の内容】

月	内 容	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・基本奏法の修得 ・基礎知識の修得 ・実技試験のための楽曲、又は練習曲の研究 	
5		
6		
7		
8		
9		
10		<ul style="list-style-type: none"> ・基本奏法の修得 ・基礎知識の修得 ・実技試験のための楽曲、又は練習曲の研究 ・1年間の点検と評価 ・今後の課題検討、及び来年度の計画作成 <p>IV : 卒業後の課題検討、及び計画作成</p>
11		
12		
1		
2		
3		

【成績評価の方法】

実技試験による

科目名(クラス)	障害学A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	高畑 敦子	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可。必修				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・音楽療法を行うために、対象者を理解することはもっとも大切なことです。
- ・この授業では、幼児・児童領域を中心に「障害とは何か」「障害者の福祉理念」「障害児教育」「さまざまな障害の特徴と支援方法」等、実際の音楽療法場面で活かせる知識を習得していきます。

【授業の「方法」と「形式」】

- ・講義形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・新聞、テレビ、インターネットなどで「障害」「障害児教育」「福祉」に関連するニュースや番組を意識して見ておくようにしてください。
- ・ディスカッションがある場合は、積極的な発言を望みます。
- ・遅刻、途中退席は原則として認めません。

教科書	指定なし(毎回資料配布)	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・学期末定期試験【4択問題と筆記】70%
- ・授業内レポートおよび小テスト30%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	「障害について」 ・ビデオ鑑賞から障害について考える	・「障害とは何か」について、それぞれの意識を確認する。	復習: 授業についての要約記述。
第2回	「障害について」 ・ICF(国際生活機能分類)について	・障害についての考え方例「ICF」の構造を理解する。	同上
第3回	障害児教育の歴史① ・アメリカ・欧州における障害児教育の歴史を概観する	・現在の教育システムや考え方がどのように成り立ってきたか理解する。	同上

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	障害児教育の歴史② ・日本の障害児教育の歴史を概観する ・ノーマライゼーション、インクルーシブ教育について	・日本の教育の歴史を理解するとともに、「ノーマライゼーション」「インクルーシブ」等の理念についても理解する。	復習:授業についての要約記述。
第5回	障害児教育の諸制度 ・日本の障害児教育の構造 ・特別支援教育について	・現在の障害児教育がどのように行われているか理解する。	同上
第6回	福祉と障害児・者 ・障害児・者に対する福祉システム ・総合支援法について	・現在の障害児・者に対する福祉政策がどのように行われているか理解する。	同上
第7回	小テスト(ノート持ち込み可)	・第1回～第6回までの授業内容を整理し、文章で説明できる。	予習:配布された資料および、授業内で板書した内容を読んでおく。
第8回	視覚障害① ・定義、原因、分類、心理・行動特性について	・視覚障害について理解する。	復習:授業についての要約記述。
第9回	視覚障害② ・教育支援、療育について	・視覚障害児の教育や具体的な援助方法について理解する。	同上
第10回	聴覚障害① ・定義、原因、分類、心理・行動特性について	・聴覚障害について理解する。	同上
第11回	聴覚障害② ・教育支援、療育について	・聴覚障害児の教育や具体的な援助方法について理解する。	同上
第12回	病弱・身体虚弱児① ・定義、原因、分類、心理・行動特性について	・病弱・身体虚弱児について理解する。	同上
第13回	病弱・身体虚弱児② ・教育支援、療育について	・病弱・身体虚弱児の教育や具体的な援助方法について理解する。	同上
第14回	小テスト(ノート持ち込み可)	・第8回～第14回までの授業内容を整理し、文章で説明できる。	予習:配布された資料および、授業内で板書した内容を読んでおく。
第15回	まとめ	「障害とは何か」「歴史」「教育・福祉システム」「視覚障害、聴覚障害、病弱・身体虚弱児と教育支援」の項目について、復習する。	同上

科目名(クラス)	障害学B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	高畑 敦子	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可。必修				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・音楽療法を行うために、対象者を理解することはもっとも大切なことです。
- ・この授業では、幼児・児童領域を中心に「障害とは何か」「障害者の福祉理念」「障害児教育」「さまざまな障害の特徴と支援方法」等、実際の音楽療法場面で活かせる知識を習得していきます。

【授業の「方法」と「形式」】

- ・講義形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・新聞、テレビ、インターネットなどで「障害」「障害児教育」「福祉」に関連するニュースや番組を意識して見ておくようにしてください。
- ・ディスカッションがある場合は、積極的な発言を望みます。
- ・遅刻、途中退回は原則として認めません。

教科書	指定なし(毎回資料配布)	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・学期末定期試験【4択問題と筆記】70%
- ・授業内レポートおよび小テスト30%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	知的障害① ・定義、原因、分類、心理・行動特性について	・知的障害について理解する。	復習:授業についての要約記述。
第2回	知的障害② ・教育支援、療育について	・知的障害児の教育や具体的な援助方法について理解する。	同上
第3回	知的障害～ダウン症～① ・定義、原因、分類、心理・行動特性について	・知的障害～ダウン症～について理解する。	同上

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	知的障害～ダウン症～② ・教育支援、療育について	・知的障害児～ダウン症～の教育や具体的な援助方法について理解する。	復習：授業についての要約記述。
第5回	小テスト(ノート持ち込み可)	・第1回～第4回までの授業内容を整理し、文章で説明できる。	同上
第6回	発達障害～自閉症～① ・定義、原因、分類、心理・行動特性について	・発達障害～自閉症～について理解する。	同上
第7回	発達障害～自閉症～② ・教育支援、療育について	・発達障害～自閉症～の教育や具体的な援助方法について理解する。	同上
第8回	発達障害～AD/HD、学習障害～① ・定義、原因、分類、心理・行動特性について	・発達障害～AD/HD、学習障害～について理解する。	同上
第9回	知的障害～AD/HD、学習障害～② ・教育支援、療育について	・発達障害～AD/HD、学習障害～の教育や具体的な援助方法について理解する。	同上
第10回	運動障害～重度重複障害～① ・定義、原因、分類、心理・行動特性について	・運動障害～重度重複障害～について理解する。	同上
第11回	運動障害～重度重複障害～② ・教育支援、療育について	・運動障害～重度重複障害～の教育や具体的な援助方法について理解する。	同上
第12回	小テスト(ノート持ち込み可)	・第1回～第4回までの授業内容を整理し、文章で説明できる。	予習：配布された資料および、授業内で板書した内容を読んでおく。
第13回	診断と検査について(おもに知能検査)	・障害の状態像を理解するための検査について知る。(おもに知能検査)	復習：授業についての要約記述。
第14回	指導技法について	・各障害に合わせた指導技法について整理・理解する。	同上
第15回	まとめ	「知的障害、発達障害、運動障害と教育支援」「検査と技法」の項目について、復習する。	予習：配布された資料および、授業内で板書した内容を読んでおく。

科目名(クラス)	臨床心理学 I A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	植松 芳信	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可				

【授業の「概要」と「目的」】

・臨床心理学は、心理的課題を持った人を対象とした場面に限らず、「人間」を対象とした多様な活動場面において重要な視点を提供するものです。
 ・臨床心理学を「人を知る」「人に関わる」「成果をまとめる」という過程に分けて捉えた上で、この科目では「人を知る」過程に関する理論を中心に理解を深めます。
 ・理論等を知っているだけではなく、音楽療法セッションを始めとする「臨床」「実践」場面で、使える知識・スキルとして定着させていくことを目指します。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義形式 ・授業では教科書や参考文献等を基に知識を整理するとともに、自分自身や身近な例を取り上げた演習も実施し

【履修時の「留意点」と「心得」】

・ほとんどの回において、指定された箇所の教科書の予習と自分自身を対象とした実践を求めます。
 ・自分自身を対象とした実践においては授業内での指示を厳格に守って頂く必要がありますので、遅刻・途中退出は認められません。
 ・また、課題はその説明を行った授業の出席とセットになっていますので、課題のみの提出は評価対象になりません。

教科書	臨床心理学序説	著者等	高橋雅春 高橋依子	出版社	ナカニシヤ出版
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

・学期末定期試験【レポートまたは筆記試験】(50%)
 ・授業への参加・授業の中で実施する実践課題への取り組み状況の評価(50%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション 臨床心理学とは？ 臨床心理学の定義、目的、方法、対象等についての概説を行う。	この授業の進め方・ルールについて理解する 臨床心理学の定義、目的、方法等についての概観を得る	予習: 必要ない 復習: 復習・予習シート
第2回	「人を知る」 1) 「人」について a 人の感覚・知覚	人が情報を取り入れる過程である「感覚」「知覚」について整理された知識を持つ	予習: これまでに心理学等を履修した学生は、本単元の該当箇所について確認しておく 復習: 復習・予習シート
第3回	「人を知る」 1) 「人」について b 人の認知・学習・行動	人が情報を取り入れたのち、それを理解し、身につけていく過程について理解する	予習: これまでに心理学等を履修した学生は、本単元の該当箇所について確認しておく 復習: 復習・予習シート

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	「人を知る」 1) 「人」について c 人の成長・発達	人が成長や発達においてたどる過程や諸機能の変化について理解する	予習: これまでに心理学等を履修した学生は、本単元の該当箇所について確認しておく 復習: 復習・予習シート
第5回	「人を知る」 2) 人の状態を理解する枠組み a 人間の行動の理解 ①	適応行動や不適応行動を理解する上で必須となる行動そのものの捉え方について整理する	予習: 前回の復習・予習シート 復習: 復習・予習シート
第6回	「人を知る」 2) 人の状態を理解する枠組み a 人間の行動の理解 ②	〃	予習: 前回の復習・予習シート 復習: 復習・予習シート
第7回	「人を知る」 2) 人の状態を理解する枠組み b ストレスとその影響 ①	人に変化を生じさせるストレスについて理解する	予習: 前回の復習・予習シート 復習: 復習・予習シート
第8回	「人を知る」 2) 人の状態を理解する枠組み c ストレスとその影響 ②	〃	予習: 前回の復習・予習シート 復習: 復習・予習シート
第9回	「人を知る」 2) 人の状態を理解する枠組み d 防衛と適応	状態理解において興味深い視点を提供する防衛について理解する	予習: 前回の復習・予習シート 復習: 復習・予習シート
第10回	「人を知る」 2) 人の状態を理解する枠組み e パーソナリティ	パーソナリティの理解が「人を知る」過程にどのように貢献しているかを知る	予習: 前回の復習・予習シート 復習: 復習・予習シート
第11回	「人を知る」 2) その人の状態・状況について知る a 健康と病気・障害 ①	臨床心理の対象となる人の健康と疾患について理解する	予習: 前回の復習・予習シート 復習: 復習・予習シート
第12回	「人を知る」 2) その人の状態・状況について知る a 健康と病気・障害 ②	〃	予習: 前回の復習・予習シート 復習: 復習・予習シート
第13回	「人を知る」 2) その人の状態・状況について知る a 健康と病気・障害 ③	〃	予習: 前回の復習・予習シート 復習: 復習・予習シート
第14回	「人を知る」 2) その人の状態・状況について知る a 健康と病気・障害 ③	〃	予習: 前回の復習・予習シート 復習: 復習・予習シート
第15回	まとめ	本科目を振り返り、疑問点を残さない	予習: 前回の復習・予習シート(授業全体の振り返り) 復習: 達成点を整理する

科目名(クラス)	臨床心理学 I B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	植松 芳信	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可				

【授業の「概要」と「目的」】

・臨床心理学は、心理的課題を持った人を対象とした場面に限らず、「人間」を対象とした多様な活動場面において重要な視点を提供するものです。
 ・臨床心理学を「人を知る」「人に関わる」「成果をまとめる」という過程に分けて捉えた上で、この科目では「人を知る」方法と「人に関わる」方法を中心に理解を深めます。
 ・理論等を知っているだけではなく、音楽療法セッションを始めとする「臨床」「実践」場面で、使える知識・スキルとして定着させていくことを目指します。

【授業の「方法」と「形式」】

・実習と講義 ・授業では様々な心理検査に関する実習を行うとともにその内容等について講義を行います

【履修時の「留意点」と「心得」】

・実習においては授業内での指示を厳格に守って頂く必要がありますので、遅刻・途中退出は認められません。
 ・また、課題はその説明を行った授業の出席とセットになっていますので、課題のみの提出は評価対象になりません。

臨床心理学序説	著者等	高橋雅春 高橋依子	出版社	ナカニシヤ出版
	著者等		出版社	
	著者等		出版社	
	著者等		出版社	

・学期末定期試験【レポートまたは筆記試験】(50%)
 ・授業への参加・授業の中で実施する実践課題への取組み状況の評価(50%)

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション 「人を知る」方法 1)アセスメント概論	この授業の進め方・ルールについて理解する 臨床心理学において「人を知る」方法である「アセスメント」の主要過程を理解する	予習: 必要ない 復習: 復習・予習シート
第2回	「人を知る」方法 2)アセスメントの実際 a 面接して「知る」①	面接法について概観を得る	予習: 前回の復習・予習シート 復習: 復習・予習シート
第3回	「人を知る」方法 2)アセスメントの実際 a 面接して「知る」②	面接法への理解を深めると共に実習を行う	予習: 必要なし 復習: 実施した検査法に関するレポート作成

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	「人を知る」方法 2)アセスメントの実際 b 観察して「知る」①	観察法について概観を得ると共に簡易な実習を行う	予習: 必要なし 復習: 実施した観察法に関するレポート作成
第5回	「人を知る」方法 2)アセスメントの実際 c 検査して「知る」①	様々な検査法に付いて概観を得る	予習: 前回の復習・予習シート 復習: 復習シート
第6回	「人を知る」方法 2)アセスメントの実際 c 検査して「知る」②	主要な検査法を実習する	予習: 必要なし 復習: 実施した検査法に関するレポート作成
第7回	「人を知る」方法 2)アセスメントの実際 c 検査して「知る」③	主要な検査法を実習する	予習: 必要なし 復習: 実施した検査法に関するレポート作成
第8回	「人に関わる」方法 2)アセスメントの実際 c 検査して「知る」④	主要な検査法を実習する	予習: 必要なし 復習: 実施した検査法に関するレポート作成
第9回	「人に関わる」方法 2)アセスメントの実際 c 検査して「知る」⑤	主要な検査法を実習する	予習: 必要なし 復習: 実施した検査法に関するレポート作成
第10回	「人に関わる」 1)介入法概論 ①	人に関わっていく技法についての概観を得る	予習: 予習シート 復習: 復習・予習シート
第11回	「人に関わる」 1)介入法概論 ②	人に関わっていく技法についての概観を得る	予習: 前回の復習・予習シート 復習: 復習・予習シート
第12回	「人に関わる」 2)介入の実際	主要な介入法を実習する	予習: 必要なし 復習: 実施した検査法に関するレポート作成
第13回	「人に関わる」 2)介入の実際	主要な介入法を実習する	予習: 必要なし 復習: 実施した検査法に関するレポート作成
第14回	「人に関わる」 2)介入の実際	主要な介入法を実習する	予習: 必要なし 復習: 実施した検査法に関するレポート作成
第15回	まとめ	本科目を振り返り、疑問点を残さない	予習: 前回の復習・予習シート (授業全体の振り返り) 復習: 達成点を整理する

科目名(クラス)	臨床心理学Ⅱ	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	4
担当教員	植松 芳信	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・臨床心理学は、心理的課題を持った人を対象とした場面に限らず、「人間」を対象とした多様な活動場面において重要な視点を提供するものです。
- ・臨床心理学を「人を知る」「人に関わる」「成果をまとめる」という過程に分けて捉え、これまでに学んだ対象の理解に関する理論を基に、実際に臨床心理学の枠組みで人を知り、人に関わっていく技法に付いての理解を深めます。
- ・理論等を知っているだけではなく、音楽療法セッションを始めとする「臨床」「実践」場面で、使える知識・スキルとして定着させていくことを目指します。

【授業の「方法」と「形式」】

- ・講義形式 ・授業では教科書や参考文献等を基に知識を整理するとともに、実習を行います

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・概論学習の授業においては予習をして授業に望むこと。実習の際には次回授業時にレポート提出を求めます。
- ・実習においては授業内での指示を厳格に守って頂く必要がありますので、遅刻・途中退出は認められません。
- ・また、課題はその説明を行った授業の出席とセットになっていますので、課題のみの提出は評価対象になりません。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・学期末定期試験【筆記試験】(50%)
- ・各単元で指示する実践課題の実施状況と実践課題に関するレポート(50%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	「人に関わる」 1) 介入法概論 ①	人に関わっていく技法についての概観を得る	予習: 予習シート 復習: 復習・予習シート
第2回	「人に関わる」 1) 介入法概論 ②	人に関わっていく技法についての概観を得る	予習: 前回の復習・予習シート 復習: 復習・予習シート
第3回	「人に関わる」 2) 介入の実際	主要な介入法を実習する	予習: 前回の復習・予習シート 復習: 復習・予習シート

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	「人に関わる」 2)介入の実際	主要な介入法を実習する	予習:前回の復習・予習シート 復習:復習・予習シート
第5回	「人に関わる」 2)介入の実際	主要な介入法を実習する	予習:前回の復習・予習シート 復習:復習・予習シート
第6回	「人に関わる」「成果をまとめる」 1)介入の実施	各自介入計画を立てるための 材料を揃える	予習:前回の復習・予習シート 復習:復習・予習シート
第7回	「人に関わる」「成果をまとめる」 1)介入の実施	介入計画を立てる	予習:前回の復習・予習シート 復習:復習・予習シート
第8回	「人に関わる」「成果をまとめる」 1)介入の実施	介入に必要なコンディションの 検討	予習:前回の復習・予習シート 復習:復習・予習シート
第9回	「人に関わる」「成果をまとめる」 1)介入の実施	介入に関する倫理の理解	予習:前回の復習・予習シート 復習:復習・予習シート
第10回	「人に関わる」「成果をまとめる」 1)介入の実施	各自介入の経過整理を行う	予習:前回の復習・予習シート 復習:復習・予習シート
第11回	「人に関わる」「成果をまとめる」 1)介入の実施	各自介入の経過整理を行う	予習:前回の復習・予習シート 復習:復習・予習シート
第12回	「人に関わる」「成果をまとめる」 1)介入の実施	各自介入の経過整理を行う	予習:前回の復習・予習シート 復習:復習・予習シート
第13回	「人に関わる」「成果をまとめる」 1)介入の実施	各自介入結果をまとめる	予習:前回の復習・予習シート 復習:復習・予習シート
第14回	「人に関わる」「成果をまとめる」 1)介入の実施	各自介入結果をまとめる	予習:前回の復習・予習シート 復習:復習・予習シート
第15回	まとめ	本科目を振り返り、疑問点を残さない	予習:前回の復習・予習シート (授業全体の振り返り) 復習:達成点を整理する

科目名(クラス)	人間と医療 I A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	馬場 存	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可。必修				

【授業の「概要」と「目的」】

音楽療法においては、精神科領域は重要な実践分野の一つである。その実践のためには、むろん精神医学を一定程度理解する必要がある。精神医学を学ぶには大変長い期間と膨大な量の知識・理解・洞察力が必要だが、そのためには、当科目AとBを合わせて1年間という期間は十分ではない。したがって、なるべく広く、情報を取捨選択しながら、精神医学全般を学ぶ。具体的には、精神現象の基盤となる脳のしくみ、そしてこころのしくみ、精神医学の歴史、精神症状と症候群等について、順次講義形式で学んでいく。教科書及び講義内配布のプリントを用いる。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式で行うが、適宜質問と議論を交える予定である。

【履修時の「留意点」と「心得」】

2年生の時点で精神医学を学ぶのは、比較的ハードルが高いと思われるので、根気が必要である。精神医学の理解はそのまますべて人間理解、心理の理解、そして自分自身の理解に繋がりを持つので、常に自分の心を振り返る心構えをどこかに持っておくこと。

教科書	精神医学エッセンス	著者等	濱田秀伯	出版社	弘文堂
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

講義であるので、概念の正確な理解とその応用力が必要である。そのため、試験は筆記試験で行う。すべて記憶できればそれに越したことはないが、学生時代においては、内容を細部にわたり記憶することよりも、全体の大枠を頭の中に定着させることが重要である。そのため、試験は、教科書、自筆ノート、講義プリントを持ち込み可とし、選択肢形式ではなく文章を筆記する形で行う。問われていることが何かを理解できれば解答可能な形になる。したがって、全体を良く理解し、何が本質であるのか、しっかり理解し問いに答えられるようにすることが望ましい。講義終了時の、その日の内容についての質問に対する返答の正確性(15%)と、筆記試験の点数(85%)を合算する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	精神医学とは何かについて、その入門として全体のアウトラインを示す。	精神医学とはどのようなものかについての、自分なりのイメージを作る。	予習:教科書の序章「1. 精神医学とは」を読んでおく。復習:再度読み直し理解を確認する。
第2回	脳の仕組みについて、3回にわたり、教科書を中心に適宜スライドと資料を用いて解説する。	脳の仕組みについての理解を深める。	予習:教科書の序章「2. 脳のしくみ」を読んでおく。復習:再度読み直し理解を確認する。
第3回	引き続き、脳の仕組みについて、教科書を中心に適宜スライドと資料を用いて解説する。	引き続き、脳の仕組みについての理解を深める。	予習:教科書の序章「2. 脳のしくみ」を読んでおく。復習:再度読み直し理解を確認する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	引き続き、脳の仕組みについて、教科書を中心に適宜スライドと資料を用いて解説する。	引き続き、脳の仕組みについての理解を深める。	予習:教科書の序章「2. 脳のしくみ」を読んでおく。復習:再度読み直し理解を確認する。
第5回	2回にわたり、こころのしくみについて、精神医学の成果を踏まえながら臨床心理学を視野に入れ、解説する。	心とは何か、多面的に理解する。	予習:教科書の序章「3. こころのしくみ」を読んでおく。復習:再度読み直し理解を確認する。
第6回	引き続き、こころのしくみについて、精神医学の成果を踏まえながら臨床心理学を視野に入れ、解説する。	引き続き、心とは何か、多面的に理解する。	予習:教科書の序章「3. こころのしくみ」を読んでおく。復習:再度読み直し理解を確認する。
第7回	2回にわたり、精神医学の歴史について、様々なエピソードをたどりながら解説していく。	精神医学がどのように発展してきたかを理解する。	予習:教科書の序章「4. 精神医学の歴史」を読んでおく。復習:再度読み直し理解を確認する。
第8回	引き続き、精神医学の歴史について、様々なエピソードをたどりながら解説していく。	引き続き、精神医学がどのように発展してきたかを理解する。	予習:教科書の序章「4. 精神医学の歴史」を読んでおく。復習:再度読み直し理解を確認する。
第9回	5回にわたり精神症状について解説する。まず、主症状と基本症状、経過、および病像の形成過程について解説する。	左記で取り上げる精神症状についての知識を深める。3年生から始まる実習への備えも兼ねる。	予習:教科書の「II. いろいろな症状 1. 症状と症候群」を読んでおく。復習:再度読み直し理解を確認する。
第10回	引き続き、精神症状についての解説を続ける。この回では、意識症状及び無意識について解説する。	左記で取り上げる精神症状についての知識を深める。3年生から始まる実習への備えも兼ねる。	予習:教科書の「II. いろいろな症状 2. 意識の症状」を読んでおく。復習:再度読み直し理解を確認する。
第11回	引き続き、精神症状についての解説を続ける。この回では、人格と自我に関連した症状について解説する。	左記で取り上げる精神症状についての知識を深める。3年生から始まる実習への備えも兼ねる。	予習:教科書の「II. いろいろな症状 3. 人格と自我の症状」を読んでおく。復習:再度読み直し理解を確認する。
第12回	引き続き、精神症状についての解説を続ける。この回では、知覚と感情に関連した症状について解説する。	左記で取り上げる精神症状についての知識を深める。3年生から始まる実習への備えも兼ねる。	予習:教科書の「II. いろいろな症状 4. 知覚の症状 5. 感情の症状」を読んでおく。復習:再度読み直し理解を確認する。
第13回	引き続き、精神症状についての解説を続ける。この回では、意欲と思考に関連した症状について解説する。	左記で取り上げる精神症状についての知識を深める。3年生から始まる実習への備えも兼ねる。	予習:教科書の「II. いろいろな症状 6. 意欲の症状 7. 思考の症状」を読んでおく。復習:再度読み直し理解を確認する。
第14回	引き続き、精神症状についての解説を続ける。この回では、記憶と知能に関連した症状について解説する。	左記で取り上げる精神症状についての知識を深める。3年生から始まる実習への備えも兼ねる。	予習:教科書の「II. いろいろな症状 8. 記憶の症状 9. 知能の症状」を読んでおく。復習:再度読み直し理解を確認する。
第15回	授業内試験。	第1～14回の講義内容を理解し、それらを問われた際に必要な情報に当たり言語的に的確に記述・表現できること。	学んだ内容を振り返り、実践に生かす。

科目名(クラス)	人間と医療 I B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	馬場 存	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可。必修				

【授業の「概要」と「目的」】

音楽療法においては、精神科領域は重要な実践分野の一つである。その実践のためには、むろん精神医学を一定程度理解する必要がある。精神医学を学ぶには大変長い期間と膨大な量の知識・理解・洞察力が必要だが、そのためには、当科目AとBを合わせて1年間という期間は十分ではない。したがって、なるべく広く、情報を取捨選択しながら、精神医学全般を学ぶ。具体的には、病気の分類と器質性精神障害、機能性精神障害などの疾患各論、心理療法と薬物療法等について、順次講義形式で学んでいく。教科書及び講義内配布のプリントを用いる。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式で行うが、適宜質問と議論を交える予定である。

【履修時の「留意点」と「心得」】

2年生の時点で精神医学を学ぶのは、比較的ハードルが高いと思われるので、根気が必要である。精神医学の理解はそのまますべて人間理解、心理の理解、そして自分自身の理解に繋がりを持つので、常に自分の心を振り返る心構えをどこかに持っておくこと。

教科書	精神医学エッセンス	著者等	濱田秀伯	出版社	弘文堂
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

講義であるので、概念の正確な理解とその応用力が必要である。そのため、試験は筆記試験で行う。すべて記憶できればそれに越したことはないが、学生時代においては、内容を細部にわたり記憶することよりも、全体の大枠を頭の中に定着させることが重要である。そのため、試験は、教科書、自筆ノート、講義プリントを持ち込み可とし、選択肢形式ではなく文章を筆記する形で行う。問われていることが何かが理解できれば解答可能な形になる。したがって、全体を良く理解し、何が本質であるのか、しっかり理解し問いに答えられるようにして欲しい。講義終了時の、その日の内容についての質問に対する返答の正確性(15%)と、筆記試験の点数(85%)を合算する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	精神医学領域の疾患を、一つ一つ学んで行く。この回では、まず病気の分類について、解説する。	左記で取り上げる項目についての知識と理解を深める。3年生から始まる実習への備えも兼ねる。	予習:教科書の「Ⅲ. いろいろな病気 1. 病気の分類」を読んでおく。復習:再度読み直し理解を確認する。
第2回	この回では、主に、器質性・症候性精神障害について解説する。	左記で取り上げる精神疾患についての知識と理解を深める。3年生から始まる実習への備えも兼ねる。	予習:教科書の「Ⅲ. いろいろな病気 2. 器質性・症候性精神障害」を読んでおく。復習:再度読み直し理解を確認する。
第3回	この回では、主に、認知症性疾患について解説する。	左記で取り上げる精神疾患についての知識と理解を深める。3年生から始まる実習への備えも兼ねる。	予習:教科書の「Ⅲ. いろいろな病気 3. 認知症(痴呆)性疾患」を読んでおく。復習:再度読み直し理解を確認する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	この回では、主に、依存と嗜癖に関連した精神障害について解説する。	左記で取り上げる精神疾患についての知識と理解を深める。3年生から始まる実習への備えも兼ねる。	予習:教科書の「Ⅲ. いろいろな病気 4. 依存と嗜癖」を読んでおく。復習:再度読み直し理解を確認する。
第5回	この回では、主に、統合失調症について解説する。	左記で取り上げる精神疾患についての知識と理解を深める。3年生から始まる実習への備えも兼ねる。	予習:教科書の「Ⅲ. いろいろな病気 5. 統合失調症」を読んでおく。復習:再度読み直し理解を確認する。
第6回	この回では、主に、妄想性障害について解説する。	左記で取り上げる精神疾患についての知識と理解を深める。3年生から始まる実習への備えも兼ねる。	予習:教科書の「Ⅲ. いろいろな病気 6. 妄想性障害」を読んでおく。復習:再度読み直し理解を確認する。
第7回	この回では、主に、感情(気分)障害について解説する。	左記で取り上げる精神疾患についての知識と理解を深める。3年生から始まる実習への備えも兼ねる。	予習:教科書の「Ⅲ. いろいろな病気 7. 感情(気分)障害」を読んでおく。復習:再度読み直し理解を確認する。
第8回	この回では、主に、不安・強迫性障害について解説する。	左記で取り上げる精神疾患についての知識と理解を深める。3年生から始まる実習への備えも兼ねる。	予習:教科書の「Ⅲ. いろいろな病気 8. 不安・強迫性障害」を読んでおく。復習:再度読み直し理解を確認する。
第9回	この回では、主に、身体表現性障害について解説する。	左記で取り上げる精神疾患についての知識と理解を深める。3年生から始まる実習への備えも兼ねる。	予習:教科書の「Ⅲ. いろいろな病気 9. 身体表現性障害」を読んでおく。復習:再度読み直し理解を確認する。
第10回	この回では、主に、生理機能に関連する精神障害について解説する。	左記で取り上げる精神疾患についての知識と理解を深める。3年生から始まる実習への備えも兼ねる。	予習:教科書の「Ⅲ. いろいろな病気 10. 生理機能に関連する精神障害」を読んでおく。復習:再度読み直し理解を確認する。
第11回	この回では、主に、パーソナリティ障害について解説する。	左記で取り上げる精神疾患についての知識と理解を深める。3年生から始まる実習への備えも兼ねる。	予習:教科書の「Ⅲ. いろいろな病気 11. パーソナリティ(人格)障害」を読んでおく。復習:再度読み直し理解を確認する。
第12回	この回では、主に、小児および高齢者の精神障害について解説する。	左記で取り上げる精神疾患についての知識と理解を深める。3年生から始まる実習への備えも兼ねる。	予習:教科書の「Ⅲ. いろいろな病気 12. 小児の精神障害、13. 老人の精神障害」を読んでおく。復習:再度読み直し理解を確認する。
第13回	精神科の診察と検査について、どのようなものがどのように行われているかを解説する。	左記で取り上げる精神疾患についての知識と理解を深める。3年生から始まる実習への備えも兼ねる。	予習:教科書の「Ⅳ. 診察と検査」を読んでおく。復習:再度読み直し理解を確認する。
第14回	精神科の治療について、その身体(薬物を中心とする)治療と精神療法について解説する。	左記で取り上げる精神疾患についての知識と理解を深める。3年生から始まる実習への備えも兼ねる。	予習:教科書の「Ⅴ. 治療」を読んでおく。復習:再度読み直し理解を確認する。
第15回	授業内試験。	第1～14回の講義内容を理解し、それらを問われた際に必要な情報に当たり言語的に的確に記述・表現できること。	学んだ内容を振り返り、実践に生かす。

科目名(クラス)	人間と医療ⅡA	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	馬場 存	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可。必修				

【授業の「概要」と「目的」】

音楽療法は、医療や福祉との関わりを強く持つ分野であることは言うまでもない。その実践の現場も様々で、病院等で音楽療法を担当することも稀ではない。そこでは他の医療職と対等に議論する必要がある。そのことを想定するとむしろ基礎及び身体医学を一定程度理解する必要がある。基礎及び身体医学を学ぶには大変長い期間と膨大な量の知識・理解・洞察力が必要だが、そのためには、当科目AとBを合わせて1年間という期間は十分ではない。したがって、なるべく広く、情報を取捨選択し主に神経学に比重を置いて、基礎・身体医学を学ぶ。具体的には、健康と病気、神経生理学(入門程度)について、順次講義形式で学んでいく。講義内配布のプリントを用いる。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式で行うが、適宜質問と議論を交える予定である。

【履修時の「留意点」と「心得」】

これまであまり生物学系の科目に接する機会が少なかったと推測される音大生の立場で基礎・身体医学を学ぶのは、比較的ハードルが高いと思われるので、根気が必要である。医学の理解は健康や人間の理解、そして自分自身の理解に繋がりを持つので、常に自分の健康を振り返る心構えをどこかに持っておくこと。

教科書	(既成の教科書は用いず、講義内プリントを用意)	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

講義であるので、概念の正確な理解とその応用力が必要である。そのため、試験は筆記試験で行う。すべて記憶できればそれに越したことはないが、学生時代においては、内容を細部にわたり記憶することよりも、全体の大枠を頭の中に定着させることが重要である。そのため、試験は、自筆ノート、講義プリントを持ち込み可とし、選択肢形式ではなく文章を筆記する形で行う。問われていることが何かを理解できれば解答可能な形になる。したがって、全体を良く理解し、何が本質であるのか、しっかり理解し問いに答えられるようにして欲しい。講義終了時の、その日の内容についての質問に対する返答の正確性(15%)と、筆記試験の点数(85%)を合算する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	基礎及び身体医学への入門に際し、生命の誕生、生命の特性、人命の特性について解説する。	左記で取り上げる項目についての知識を獲得し、生命・健康・人間についての理解を深める。	当日にプリントを配るので、特に予習の必要はないが、常日頃医学に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。
第2回	基礎及び身体医学への入門に際し、医学の定義、病気の診断・治療・予防、リハビリテーション、健康増進 全人的医療について解説する。	左記で取り上げる項目についての知識を獲得し、生命・健康・人間についての理解を深める。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第3回	医学の歴史について、紀元前の太古の時代から中世にかけて、解説する。	左記で取り上げる項目についての知識を獲得し、医学についての理解を深める。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	医学の歴史について、紀元前のルネサンスの時代から現代にかけて、解説する。	左記で取り上げる項目についての知識を獲得し、医学についての理解を深める。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第5回	「健康と病気」と題し、文字通り「健康」と「病気」について、それらがどのようなものであるかを種々の側面から解説する。特に健康について重点を置く。	まず健康とはどのようなものかを理解し、病気の理解への基礎とする。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第6回	引き続き「健康と病気」を巡り、文字通り「健康」と「病気」について、それらがどのようなものであるかを種々の側面から解説する。特に、健康及び病気の定義と分類について重点を置く。	引き続き、健康とはどのようなものかを理解し、病気の理解への基礎とする。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第7回	引き続き「健康と病気」を巡り、文字通り「健康」と「病気」について、それらがどのようなものであるかを種々の側面から解説する。特に、病因と免疫に重点を置く。	病気とはどのようなものかを理解し、疾患を持つ人への理解の一助とする。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第8回	引き続き「健康と病気」を巡り、文字通り「健康」と「病気」について、それらがどのようなものであるかを種々の側面から解説する。特に、病理学の入門程度の内容に触れる。	引き続き病気とはどのようなものかを理解し、疾患を持つ人への理解の一助とする。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第9回	引き続き「健康と病気」を巡り、文字通り「健康」と「病気」について、それらがどのようなものであるかを種々の側面から解説する。特に、診断と治療について、入門程度の概要に言及する。	引き続き病気とはどのようなものかを理解し、疾患を持つ人への理解の一助とする。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第10回	神経生理学入門と題し、まず、ニューロンとはどのようなものか、興奮性細胞の原理と神経伝達の基礎について学ぶ。	ニューロンとはどのような特質を持つものかを理解する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第11回	神経生理学入門その2と題し、興奮性細胞である筋肉細胞にも触れ、さらに感覚機能、特に聴覚を中心に解説する。	興奮性細胞と感覚機能、特に聴覚のメカニズムについて理解する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第12回	神経生理学入門その3と題し、聴覚及び音の物理的性質、および内耳レベルでのフーリエ解析と1/fゆらぎについて解説する。	音の物理的性質と聴覚との関連を理解し、1/fゆらぎとは何かを理解する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第13回	神経生理学入門その4と題し、聴覚伝導路、および脳の各部についての解剖学的な解説を行う。	聴覚伝導路と脳の全体象について理解する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第14回	神経生理学入門その5と題し、前頭葉機能、側頭葉機能、後頭葉機能、頭頂葉機能、失語および失音楽について解説する。	前頭葉、側頭葉、後頭葉、頭頂葉の機能と、失語・失音楽を理解する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第15回	授業内試験。	第1～14回の講義内容を理解し、それらを問われた際に必要な情報に当たり言語的に的確に記述・表現できること。	学んだ内容を振り返り、実践に生かす。

科目名(クラス)	人間と医療ⅡB	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	馬場 存	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可。必修				

【授業の「概要」と「目的」】

音楽療法は、医療や福祉との関わりを強く持つ分野であることは言うまでもない。その実践の現場も様々で、病院等で音楽療法を担当することも稀ではない。そこでは他の医療職と対等に議論する必要がある。そのことを想定するとむしろ基礎及び身体医学を一定程度理解する必要がある。基礎及び身体医学を学ぶには大変長い期間と膨大な量の知識・理解・洞察力が必要だが、そのためには、当科目AとBを合わせて1年間という期間は十分ではない。したがって、なるべく広く、情報を取捨選択し主に神経学に比重を置いて、基礎・身体医学を学ぶ。具体的には、神経内科学(入門程度)、小児の疾患、および緩和ケアについて、順次講義形式で学んでいく。講義内配布のプリントを用いる。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式で行うが、適宜質問と議論を交える予定である。

【履修時の「留意点」と「心得」】

これまであまり生物学系の科目に接する機会が少なかったと推測される音大生の立場で基礎・身体医学を学ぶのは、比較的ハードルが高いと思われるので、根気が必要である。医学の理解は健康や人間の理解、そして自分自身の理解に繋がりを持つので、常に自分の健康を振り返る心構えをどこかに持っておくこと。

教科書	(既成の教科書は用いず、講義内プリントを用意)	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

講義であるので、概念の正確な理解とその応用力が必要である。そのため、試験は筆記試験で行う。すべて記憶できればそれに越したことはないが、学生時代においては、内容を細部にわたり記憶することよりも、全体の大枠を頭の中に定着させることが重要である。そのため、試験は、自筆ノート、講義プリントを持ち込み可とし、選択肢形式ではなく文章を筆記する形で行う。問われていることが何かを理解できれば解答可能な形になる。したがって、全体を良く理解し、何が本質であるのか、しっかり理解し問いに答えられるようにして欲しい。講義終了時の、その日の内容についての質問に対する返答の正確性(15%)と、筆記試験の点数(85%)を合算する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	神経内科学入門1と題し、先ずこの領域でのリハビリテーションおよび、機能評価について解説する。	神経内科的疾患に関連したリハビリテーションの概念を学ぶ。	人間と医療IAの講義から連続性があるため前期科目全体を振り返ることが予習であり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第2回	神経内科学入門2と題し、意識障害(特に上行性網様体賦活系)、脳死と植物状態について解説する。	意識障害と脳死、植物状態を理解する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第3回	神経内科学入門3と題し、運動麻痺と筋萎縮、Manual Muscle TestやBrunnstormステージについて解説する。	運動麻痺や筋萎縮の類型、Manual Muscle TestやBrunnstormステージとはどのようなものかを理解する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	神経内科学入門4と題し、失語症の種類と症状の生じる機序について解説する。	失語症にはどのような種類があるか、その機序と共に理解する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第5回	神経内科学入門5と題し、失語症の治療を、状況に応じてビデオを交えて解説する。	失語症の治療にはどのようなものはあるか、その効果も含め理解する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第6回	神経内科学入門6と題し、脳血管を中心とした解剖学と、主に脳梗塞、脳出血、くも膜下出血等の脳血管障害について解説する。	脳血管を中心とした解剖学と脳血管障害を理解する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第7回	神経内科学入門7と題し、引き続き脳血管障害について解説を加える。	脳血管障害を理解する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第8回	神経内科学入門8と題し、記憶の機序、認知症、および関連した記憶障害について解説する。	記憶の機序と認知症、記憶障害について理解する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第9回	神経内科学入門9と題し、認知症の治療とリハビリテーションについて解説する。	認知症の治療とリハビリテーションについて理解する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第10回	神経内科学入門10と題し、主に変性疾患と筋疾患について解説する。	変性疾患及び筋疾患について理解する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第11回	小児の疾患入門1と題し、小児の成長と発達、および原始反射について解説する。	健常な小児の成長と発達、および原始反射について理解する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第12回	小児の疾患入門2と題し、てんかん、精神遅滞、および脳性麻痺について解説する。	てんかん、精神遅滞、脳性麻痺について医学的側面の概要を理解する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第13回	小児の疾患入門3と題し、学習障害、注意欠陥多動性障害、重症心身障害等について解説する。	学習障害、注意欠陥多動性障害、重症心身障害等について理解する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第14回	緩和ケアについて、論文で報告された症例を紹介し、基に緩和ケアの現状と課題、インフォームドコンセント等について解説する。	緩和ケアの現状と課題、インフォームドコンセント等について理解する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第15回	授業内試験。	第1～14回の講義内容を理解し、それらを問われた際に必要な情報に当たり言語的に的確に記述・表現できること。	学んだ内容を振り返り、実践に生かす。

科目名	ウィーンアカデミー	単位数	4	配当年次	2
【授業計画の概要】					
音楽の都ウィーンの空気と雰囲気に触れることによって、参加者自身の音楽観を深めること。					
【授業計画の内容】					
内 容					
<p>1. A. 専攻実技レッスン ウィーン特有の感性に触れると同時に伝統的表現方法を学ぶ。</p> <p>B. 音楽療法</p> <p>a.音楽療法における人類学:様々な文化と時代による音楽的療法 b.身体医学入門:身体医学の仮説と行動計画 c.グループによる音楽療法:精神療法的音楽療法理論と実践、即興演奏、楽器での表現、コミュニケーション d.楽器としての身体:主観的構造と生理学、理論と実践、声と響き、身体表現 e.現場ビデオによる現場紹介、又は施設訪問</p> <p>2. オーストリア事情 歴史的背景をもとに、ハプスブルグ家を中心としたヨーロッパ文化の中心としてのウィーン音楽の意義</p> <p>3. ピアノ教育法(ピアノ専攻) (Ⅰ)絵入り楽譜でピアノ教育法を実践的に学ぶ(子供・初心者への教育) (Ⅱ)各時代による表現方法の違い等(大人・すでに弾ける人への教育)</p> <p>4. 朗読法(声楽専攻):テキストはその都度決められる</p> <p>5. 楽曲分析(声楽専攻):ソロ・コロペティツィオン:専門家による歌唱指導</p> <p>6. 楽曲解釈(全員):時代別スタイルと表現法</p> <p>7. 音楽史跡研究:主として大作曲家の史跡等を訪れる</p> <p>8. 文化史体験:美術館を訪れ、音楽と美術等、他の文化との関係を探る</p> <p>9. 音楽鑑賞(2回):国立歌劇場、フォルクスオペ、ムジークフェアイン(楽友協会)、コンツェルトハウス等の公演鑑賞</p> <p>10. 自由研修</p> <p>11. 修了演奏会(基本的に全員参加)</p> <p>12. レポート:その都度出されたテーマについて作成し提出する。</p> <p>その他、ザルツブルグ研修も行われる</p>					
【受講心得】					
<p>専攻実技のレッスン曲は最も得意とする作品、又は無理なく弾きこなせている曲を選ぶこと。 修了演奏会では1人、4～5分程度の演奏時間となるので小曲を選曲することが望ましいが、ソナタや組曲等の抜粋でも良い。 日本とウィーンの習慣の違いを良く理解し、種々の事故を防ぐために与えられる注意事項を守り行動すること。</p>					
【成績評価の方法】					
研修期間中のレポート等を総合的に判断して評価する。					

科目名 ヒューマンコミュニケーション1・2・3・4

開講学期

通年

単位数

1

【授業計画の概要】

本学の学生は、建学の精神である「音楽芸術の研鑽の一貫教育を通じ、情操豊かな人格の形成を目途とする」を学び、更に幅広く、深い教養を身につけることにより現代社会の中で、音楽に関わる者として知的創造性を高め、人間への深い理解を持ってコミュニケーションを図ることが重要である。それによって形成される広い視野の中で、音楽表現の実践や音楽教育は生きたものになると考える。このような理念の実践の場として下記の通り必修科目〔各学年1単位〕を設定する。

【授業計画の内容】

月	内容
4	
5	
6	
7	<p>【目標】</p> <p>1) 行事に参加する中から責任を持って成し遂げたよるこびを体験する ・行事の意義を十分に理解し、積極的に参加し、協力し、本学学生として参加したことに喜びを見出す。</p>
8	<p>・計画段階、事前準備段階、実施段階、事後処理段階までそれぞれにおいて創意工夫し、責任を持って遂行することの大切さを自覚し、友人とのコミュニケーションをはかる中において、社会人としての自覚を養う。</p>
9	
10	<p>2) 音楽活動等の体験を通じたボランティア活動を実施することによって、社会に貢献し、人間形成の育成をはかる。・本学で学んだ音楽的感性、豊かな情操を学園の内外において一人一人の学生が自ら参加し、ボランティア活動等の奉仕にかかわる体験活動を通して社会性を身につける。</p>
11	<p>【単位】</p> <p>ポイント制により年間15ポイント以上取得することで1単位認定する。〔尚、余剰ポイントは次年度には、繰り越さない〕単位履修のためのポイント項目東邦祭・定期研究発表演奏会・公開講座・大学短大の認めた演奏会・大学短大の認めたコンクール・大学短大の認めたボランティア活動、及び大学短大の認めた上記項目に類するもの。 〔各項目のポイント数は、別途定め告示する。〕</p>
12	
1	
2	
3	

【成績評価の方法】

科目名(クラス)	インターンシップ I	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	キャリア支援センター	履修対象・条件	全専攻選択				

【授業の「概要」と「目的」】

学生が就業体験を通して、企業や社会の実情をしることで、仕事に対する興味や関心を高め、自らの適性や適職を考え、職業選択につなげることを目的とする。

【授業の「方法」と「形式」】

事前の研修・セミナー出席と現場での実習、事後のレポート提出と学内発表会での成果発表を要件とする。

【履修時の留意点と心得】

- ・学校指定のインターンシップの受入先が限られており、希望者が多い場合は、選考のうえ、受入先が決定した時点で本登録となります。
- ・独自に希望する研修先の場合も学校指定同様の方法と形式・基準に従い、事前申請するものとする。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- インターンシップを実際に体験することが大前提となります。且つ以下の条件を満たした者に単位を認定する。
- ※指定の事前研修に出席すること。
 - ※2週間(実質10日間以上)の実習をおこなうこと。
 - ※体験レポートを提出すること。
 - ※インターンシップ体験先の外部評価が著しく低くない事。
 - ※学内発表会で成果を発表すること。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	ガイダンスにて、インターンシップ実施の目的、意義、手続き、スケジュールなどの説明。	インターンシップの趣旨・目的を理解する。	予習: インターンシップに対しての自分の目的を明確にする。 復習: 配布資料を読み返し、内容スケジュールを確認する。
第2回	募集開始: 希望学生は参加申込書を提出。	自分の目的と研修先の整合性を考える。	予習: 参加した先輩などから行先の情報を入手する。 復習: 研修先について自分なりに企業について調べてみる。
第3回	事前研修①社会人の心構え、就業活動全般について	就職活動の中でのインターンシップの位置づけを理解する。	予習: 就活を意識する。 復習: 自分なりのスケジュールを作成する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	事前研修②マナー講座受講	社会人としてのルール・マナーを身につける。	予習: 参加にあたっての心構えを 考えておく。 復習: 配布された資料・マニュアル を読み返す。
第5回	事前研修③: 実習参加の心構え、注意事項伝達 など	具体的活動にむけた準備をする。	予習: 研修の目的を考えておく。 復習: 配布された資料・マニュアル を読み返す。
第6回	インターンシップ実習(夏休み期間中の実質10 日間)	実習活動の遂行。	予習: 実習先からの案内・指示を 再確認し、当日の準備をする。 復習: 実習をふり返り、レポート作 成にむけ準備をする。
第7回	体験レポート提出	実習を振り返り、自分の活動をまと める。	予習: 日報を読み返す。 復習: 発表にむけた準備をする。
第8回	学内成果発表会での発表	プレゼンテーション能力を強化す る。	予習: 発表にむけ台本を作成し リハーサルをする。 復習: 発表について自己評価し、 他人からの意見をもらう。
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

科目名(クラス)	インターンシップⅡ	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	キャリア支援センター	履修対象・条件	全専攻選択				

【授業の「概要」と「目的」】

学生が就業体験を通して、企業や社会の実情をしることで、仕事に対する興味や関心を高め、自らの適性や適職を考え、職業選択につなげることを目的とする。

【授業の「方法」と「形式」】

事前の研修・セミナー出席と現場での実習、事後のレポート提出と学内発表会での成果発表を要件とする。

【履修時の留意点と心得】

- ・学校指定のインターンシップの受入先が限られており、希望者が多い場合は、選考のうえ、受入先が決定した時点で本登録となります。
- ・独自に希望する研修先の場合も学校指定同様の方法と形式・基準に従い、事前申請するものとする。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

インターンシップを実際に体験することが大前提となります。且つ以下の条件を満たした者に単位を認定する。

※指定の事前研修に出席すること。

※2週間(実質10日間以上)の実習をおこなうこと。

※体験レポートを提出すること。

※インターンシップ体

験先の外部評価が著しく低くない事。

※学内発表会で成果を発表すること。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	ガイダンスにて、インターンシップ実施の目的、意義、手続き、スケジュールなどの説明。	インターンシップの趣旨・目的を理解する。	予習: インターンシップに対しての自分の目的を明確にする。 復習: 配布資料を読み返し、内容スケジュールを確認する。
第2回	募集開始: 希望学生は参加申込書を提出。	自分の目的と研修先の整合性を考える。	予習: 参加した先輩などから行先の情報を入手する。 復習: 研修先について自分なりに企業について調べてみる。
第3回	事前研修①社会人の心構え、就業活動全般について	就職活動の中でのインターンシップの位置づけを理解する。	予習: 就活スタートを意識する。 復習: 自分なりのスケジュールを作成する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	事前研修②マナー講座受講	社会人としてのルール・マナーを身につける。	予習:参加にあたっての心構えを 考えておく。 復習:配布された資料・マニュアル を読み返す。
第5回	事前研修③:実習参加の心構え、注意事項伝達 など	具体的活動にむけた準備をする。	予習:研修の目的を考えておく。 復習:配布された資料・マニュアル を読み返す。
第6回	インターンシップ実習(夏休み期間中の実質10 日間)	実習活動の遂行。	予習:実習先からの案内・指示を 再確認し、当日の準備をする。 復習:実習をふり返り、レポート作 成にむけ準備をする。
第7回	体験レポート提出	実習を振り返り、自分の活動をまと める。	予習:日報を読み返す。 復習:発表にむけた準備をする。
第8回	学内成果発表会での発表	プレゼンテーション能力を強化す る。	予習:発表にむけ台本を作成し リハーサルをする。 復習:発表について自己評価し、
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

科目名	地域創造① I A・I B・II A・II B(地域貢献として、オーケストラ等の指導)					
単位数	I A, 1単位	I B, 1単位	II A, 1単位 II B, 1単位			
配当年次	I A・I B, 1年～3年	II A・II B, 2年～4年	履修 選択履修			
【授業計画の概要】						
南古谷ウィンドオーケストラを通して、主として地域中学生に初歩からの楽器に手ほどき等指導、演奏法、演奏の楽しさを教えるとともに、あいさつ等の礼儀を教え、共に演奏を行う。						
【履修時の留意点と心得】						
直接地域の中学生等を指導するので、音楽の豊富な知識、技量を有し、他の科目に対しても取り組みが良好な者。						
【授業計画の内容】						
月	内 容					
4	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎練習方法を学ぶ ・楽器の知識の修得 ・楽曲の知識の修得 ・アンサンブルの指導法、知識の修得 					
5						
6						
7						
8						
9						
10				<ul style="list-style-type: none"> ・基礎練習方法を学ぶ ・楽器の知識の修得 ・楽曲の知識の修得 ・アンサンブルの指導法、知識の修得 		
11						
12						
1						
2						
3						
【成績評価の方法】						
学期ごとに、指導に対する取組む姿勢及び指導実績により評価する。						

科目名	地域創造② I A・ I B・ II A・ II B (地域の学校等の授業等補助)		
単位数	I A, 1単位	I B, 1単位	II A, 1単位 II B, 1単位
配当年次	I A・ I B, 2年・3年	II A・ II B, 3年・4年	履修 選択履修
【授業計画の概要】			
地域の学校等教育現場において、教科指導・学校行事指導・校外活動等引率・部活動等の課外活動等学校等行事全般にわたり補助活動を行い、地域児童・生徒等とのふれあい体験を行う。			
【履修時の留意点と心得】			
直接地域の中学生等を指導するので、音楽の豊富な知識、技量を有し、他の科目に対しても取り組みが良好な者。			
【授業計画の内容】			
月	内 容		
4	・現場に対応した事前指導		
5	・教育等現場の事前知識の取得		
6	・現場教員(指導者)とのコミュニケーションの確立		
7	・児童、生徒とのコミュニケーション力の修得		
8	・成果の発表		
9			
10	・現場に対応した事前指導		
11	・教育等現場の事前知識の取得		
12	・現場教員(指導者)とのコミュニケーションの確立		
1	・児童、生徒とのコミュニケーション力の修得		
2	・成果の発表		
3			
【成績評価の方法】			
現場教師等の評価と成果の発表等を総合的に判断して評価する。			

科目名(クラス)	コンピュータミュージック演習 I A	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1~4
担当教員	湯浅 恭子	履修対象・条件					

【授業の「概要」と「目的」】

「コンピュータ」と「音楽」、この2つの関係をどのように考えますか？この授業では、「コンピュータを使って音を奏でる」ということを通じて、音楽を様々な視点から観、聴いていきます。

近年では、みなさんが毎日利用しているスマートフォンを用いても音楽をつくってみることができるようになりました。自分で音楽を作りたい人はもちろん、コンピュータを自分の生活・音楽活動でよりよく活用したいと思っている人、何か自分の中にあるものを形にしたい人には是非受講していただきたい。

コンピュータの活用を通じて「考え方を身につける」「情報を整理する」「いろいろな視点で音楽を観る」ということを目的とします。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式・講義形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

・遅刻、途中退出は原則として認めません。

・プリント資料(A4サイズ)を配布しますので、それを管理できるファイルを必ず用意してください。形式は初回授業時に指示します。

教科書	授業内でプリントを配布	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業参加姿勢(40%)、授業内課題提出(20%)、学期末課題提出(40%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	演習室システムについて Mac OSとソフトウェア・ハードウェア	演習室の利用に際しての決まり事を理解し実践する。 OSについて理解し、説明できる。	配布テキストをまとめるためのファイル準備。 身近な機器のOSについて調べる。
第2回	Mac OSの基本動作-1 ・起動と終了 ・入力と保存 情報の整理:フォルダの活用、階層について	コンピュータの起動・終了、ソフトウェアの起動・終了ができる。 データの入力と保存ができる。 階層について理解する。	配布テキストの整理と復習。
第3回	Mac OSの基本動作-2 ・テキストエディット	テキストエディットを用いて、文書入力や簡単な編集をすることができる。	配布テキストの整理と復習。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	Mac OSの基本動作-3 ・音楽再生ソフトウェア(iTunes) ・写真編集ソフトウェア(iPhoto)	ソフトウェアの特徴を理解し、活用できる。	自己の所有するコンピュータを用いてソフトウェア(アプリ)を活用してみる。
第5回	Digital Performerに関する基本動作-1 ・基本レイアウト画面 ・MIDI音源の音色について	Digital PerformerでMIDI音源を再生できる。各音色の特徴を捉える。	配布テキストの整理と復習。
第6回	Digital Performerに関する基本動作-2 ・トラックについて	トラックに関する各操作ボタンの活用ができる。 トラックネームとコメントの入力ができる。	配布テキストの整理と復習。
第7回	Digital Performerに関する基本動作-3 ・音色を組み合わせる①～レイヤーの発想～	4声の入力と音色の変更。 2パターン作成し提出。	配布テキストの整理と復習。
第8回	Digital Performerに関する基本動作-4 ・テンポ、拍子のコントロール ・リズムトレーニング①	「tics」の概念を理解する。 テンポと拍子の変更ができる。	配布音源資料をよく聴く。
第9回	Digital Performerに関する基本動作-5 ・音色を組み合わせる②～リズムセクション～ リズムパートについて ベースパートについて	ポピュラーミュージックにおけるリズム/ベースパートの役割や構成について理解する。音源と譜面を用いて各パートの入力ができる。	配布音源資料をよく聴く。
第10回	Digital Performerに関する基本動作-6 ・音色を組み合わせる②～リズムセクション～ メロディパートについて ハーモニーパートについて	ポピュラーミュージックにおけるメロディ/ハーモニーパートについて理解する。音源と譜面を用いて各パートの入力ができる。	配布音源資料をよく聴く。
第11回	MIDI編集機能について	入力後のMIDIデータを、いくつかの方法を用いて編集できる。	配布テキストの整理と復習。
第12回	Digital Performerに関する基本動作-7 ・リズムトレーニング②	リズムパターンをパート別に分解して聴くことができる。	配布音源資料をよく聴く。 必要に応じて譜面を作成する。
第13回	Digital Performerに関する基本動作-8 ・リズムトレーニング②	リズムパターンをパート別に分解して聴き、MIDIで入力できる。	配布音源資料をよく聴く。 必要に応じて譜面を作成する。
第14回	Digital Performerに関する基本動作-9 ・リズムトレーニング②	入力したリズムパターンを編集できる。	配布音源資料をよく聴く。 必要に応じて譜面を作成する。
第15回	本科目のまとめ	課題提出。「音楽や音を聴いたり観たりする視点」を具体的に増やせている。	講義ノートの整理。

科目名(クラス)	コンピュータミュージック演習 I B	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1~4
担当教員	湯浅 恭子	履修対象・条件					

【授業の「概要」と「目的」】

コンピュータミュージック I Aで修得したDigital Performerの基本操作に加え、音声編集について学びます。これらを通じてより
いっそう、多くの視点を増やしていくことを目的とします。
またコンピュータミュージック I Aで修得した「考え方」を、他のOSやソフトウェア、コンピュータ以外のことに応用できるよう理解を深めます。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式・講義形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・遅刻、途中退出は原則として認めません。
- ・プリント資料(A4サイズ)を配布しますので、それを管理できるファイルを必ず用意してください。形式は初回授業時に指示します。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	授業内でプリントを配布	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・授業参加姿勢(40%)、授業内課題提出(30%)、学期末課題提出(30%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	Motif(Melody)とMotif Development-1 Digital Performerの基本動作-10 ・データの編集	Motif(Melody)発展のいくつかの手法を理解する。	前期配布プリントの整理と復習。
第2回	Motif(Melody)とMotif Development-2 Digital Performerの基本動作-11 ・データの修正変更①	Motif(Melody)発展のいくつかの手法を理解する。またその手法を用いて展開し、MIDIで入力できる。	Motif Developmentの手法を用いてMotifを発展させ、32小節程度の曲を書く。
第3回	Motif(Melody)とMotif Development-3 Digital Performerの基本動作-12 ・データの修正変更②	Motif(Melody)発展のいくつかの手法を理解する。またその手法を用いて展開し、MIDIで入力できる。	複数パートに展開させる。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	Motif(Melody)とMotif Development-4 Digital Performerの基本動作-13 ・ミキサー機能の活用	Motif(Melody)発展のいくつかの手法を理解する。またその手法を用いて展開し、MIDIで入力できる。	複数パートに展開させる。
第5回	Motif(Melody)とMotif Development-5	Motif(Melody)発展の手法を用いた楽曲制作課題提出	複数パートに展開させる。
第6回	音声編集-1 ・音のデジタルデータの取り扱い	スマートフォンやiPadを用いて音声データの録音・取り込みができる。音声のデジタル化のしくみを理解する。	スマートフォンやその他の録音機器を使ってさまざまな音声を録音する。
第7回	音声編集-2 ・音声データの編集	音声データの編集・加工ができる。複数の音のデジタルデータを取り扱うことができる	スマートフォンやその他の録音機器を使ってさまざまな音声を録音する。
第8回	音声編集-3 ・音声データの編集	音声データの編集ができる。複数の音のデジタルデータを取り扱うことができる。課題提出。	スマートフォンやその他の録音機器を使ってさまざまな音声を録音する。
第9回	期末提出課題の提示	期末提出課題の内容を正しく理解し、おおまかな編成・曲の構成を組み立てる。	Motifを書く。
第10回	課題制作-1	課題提出までの進行スケジュールを考え、それに合わせて進行させる。必要に応じて進行スケジュールの修正を行う。	進度によって音声データまたは譜面を持ち帰り、進めてくる。
第11回	課題制作-2	課題提出までの進行スケジュールを考え、それに合わせて進行させる。必要に応じて進行スケジュールの修正を行う。	進度によって音声データまたは譜面を持ち帰り、進めてくる。
第12回	課題制作-3	課題提出までの進行スケジュールを考え、それに合わせて進行させる。必要に応じて進行スケジュールの修正を行う。	進度によって音声データまたは譜面を持ち帰り、進めてくる。
第13回	課題制作-4	課題提出までの進行スケジュールを考え、それに合わせて進行させる。必要に応じて進行スケジュールの修正を行う。	進度によって音声データまたは譜面を持ち帰り、進めてくる。
第14回	課題制作-5	課題提出までの進行スケジュールを考え、それに合わせて進行させる。必要に応じて進行スケジュールの修正を行う。	進度によって音声データまたは譜面を持ち帰り、進めてくる。
第15回	本科目のまとめ	「音楽や音を聴いたり観たりする視点」を具体的に増やしている。期末課題の提出。	学んだことを確認し、実践してみる。

科目名(クラス)	コンピュータミュージック演習ⅡA	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1～4
担当教員	湯浅 恭子	履修対象・条件					

【授業の「概要」と「目的」】

コンピュータミュージックⅠを通じて習得した「音楽を観る視点」を広げていきます。「楽器」「楽音」以外の「音」を取り扱うこと、また「画像」「映像」などの他メディアと音楽との関わりについて考察し実践します。
またコンピュータを利用して「情報を分解する」「情報を統合する」ことを学び、それらを音楽活動や日常生活などに応用する思考を身につけることを目的とします。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式・講義形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

・遅刻、途中退出は原則として認めません。
・プリント資料(A4サイズ)を配布しますので、それを管理できるファイルを必ず用意してください。形式は初回授業時に指示します。

教科書	「コンピュータミュージック演習Ⅰ」の配布プリント	著者等		出版社	
教科書	必要に応じて授業内で配布	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業参加姿勢(40%)、授業内課題提出(30%)、学期末課題提出(30%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	Digital Performerの基本動作の復習と確認	コンピュータミュージック演習Ⅰで学んだ楽曲制作の工程・習得したdpの基本動作、また自分の得意なこと・不得意なことを確認する。	コンピュータミュージック演習Ⅰで使用したテキストの整理。
第2回	オーディオデータの編集-1	ソフトウェアへオーディオデータの取り込みができる。	録音機器を使ってさまざまな音声を録音する。
第3回	オーディオデータの編集-2	ソフトウェア上でオーディオデータの取り扱い・編集・加工ができる。	必要に応じ、録音機器を使って音声を録音する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	オーディオデータの編集-3	オーディオデータの音量バランス・定位のコントロールができる。	進度により音声データを持ち帰り、構成を考える。
第5回	オーディオデータの編集-4	オーディオ編集課題提出。	進度により音声データを持ち帰り、構成を考える。
第6回	マルチメディアについて-1 —タブレット端末、スマートフォンの活用	身近なコンピュータでできるデジタルデータの編集や加工、その利点や欠点について理解する。	自己の所有するデジタル端末を利用してデジタルデータの編集・加工を行う。
第7回	マルチメディアについて-2 —音・音楽と画像・動画の関係	映像と音・音楽に関する解析を通じてその特徴・効果を理解する。	映像作品1つを選んで、音・音楽に関する解析を行う。
第8回	マルチメディアについて-3 —音・音楽と画像・動画の関係	映像と音・音楽に関する解析を通じてその特徴・効果を理解する。	映像作品1つを選んで、音・音楽に関する解析を行う。
第9回	音楽制作ソフトウェアでの映像同期について	音楽編集ソフトウェアへ映像を同期させ、音のデータ入力を行うことができる。	
第10回	期末提出課題の提示 課題制作-1	課題内容を正しく理解し、おおまかな編成・曲の構成を組み立てる。	進度によってデータまたは譜面を持ち帰り、進めてくる。
第11回	課題制作-1	課題提出までの進行スケジュールを考え、それに合わせて進行させる。必要に応じて進行スケジュールの修正を行う。	進度によってデータまたは譜面を持ち帰り、進めてくる。
第12回	課題制作-2	課題提出までの進行スケジュールを考え、それに合わせて進行させる。必要に応じて進行スケジュールの修正を行う。	進度によってデータまたは譜面を持ち帰り、進めてくる。
第13回	課題制作-3	課題提出までの進行スケジュールを考え、それに合わせて進行させる。必要に応じて進行スケジュールの修正を行う。	進度によってデータまたは譜面を持ち帰り、進めてくる。
第14回	課題制作-4	課題提出までの進行スケジュールを考え、それに合わせて進行させる。必要に応じて進行スケジュールの修正を行う。	進度によってデータまたは譜面を持ち帰り、進めてくる。
第15回	本科目のまとめ	課題の提出。	講義ノートの整理。

科目名(クラス)	コンピュータミュージック演習ⅡB	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1~4
担当教員	湯浅 恭子	履修対象・条件					

【授業の「概要」と「目的」】

コンピュータミュージックⅡAに続き、「音楽を観る視点」を広げます。「画像」「映像」を取り扱いその「表現方法」を考察します。そのうえで「音楽の表現」について見つめ直し、「曲をつくる」「演奏する」といった自己の音楽表現や、音楽の聴き方につなげていきます。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式・講義形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

・遅刻、途中退出は原則として認めません。
 ・プリント資料(A4サイズ)を配布しますので、それを管理できるファイルを必ず用意してください。形式は初回授業時に指示します。

教科書	「コンピュータミュージック演習Ⅰ」の配布プリント	著者等		出版社	
教科書	必要に応じて授業内で配布	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業参加姿勢(40%)、学期末課題提出(60%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	写真を用いたスライドショー作成	画像データのデジタル化のしくみを理解する。	スライドショーで用いる写真・画像の素材収集。
第2回	写真データの取り込み	コンピュータへ写真データの取り込みをすることができる。	スライドショーで用いる写真・画像の素材収集。
第3回	写真編集ソフトウェアについて	写真編集ソフトウェアの基本操作について理解する。簡単な編集をすることができる。	テキストの復習。 自分の持っているコンピュータで同様のことができるかの確認。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	スライドショー作成-1	動画編集ソフトウェアの基本操作について理解する。 さまざまな効果を用いてスライドショーを作成。	必要に応じ、写真・画像素材収集。
第5回	スライドショー作成-2	動画編集ソフトウェアの基本操作について理解する。 さまざまな効果を用いてスライドショーを作成。	必要に応じ、写真・画像素材収集。
第6回	スライドショー作成-3	動画編集ソフトウェアの基本操作について理解する。 さまざまな効果を用いてスライドショーを作成。	
第7回	スライドショー作成-4	動画編集ソフトウェアの基本操作について理解する。 さまざまな効果を用いてスライドショーを作成。	
第8回	スライドショー作成-5	スライドショーMovieの書き出しを行う。	
第9回	作成したスライドショーに合わせて曲をつくる。 楽曲作成-1	課題内容を正しく理解し、おおまかな編成・曲の構成を組み立てる。	Motifの創案・作成。
第10回	楽曲作成-2	課題提出までの進行スケジュールを考え、それに合わせて進行させる。必要に応じて進行スケジュールの修正を行う。	進度によってデータまたは譜面を持ち帰り、進めてくる。
第11回	楽曲作成-3	課題提出までの進行スケジュールを考え、それに合わせて進行させる。必要に応じて進行スケジュールの修正を行う。	進度によってデータまたは譜面を持ち帰り、進めてくる。
第12回	楽曲作成-4	課題提出までの進行スケジュールを考え、それに合わせて進行させる。必要に応じて進行スケジュールの修正を行う。	進度によってデータまたは譜面を持ち帰り、進めてくる。
第13回	楽曲作成-5	課題提出までの進行スケジュールを考え、それに合わせて進行させる。必要に応じて進行スケジュールの修正を行う。	進度によってデータまたは譜面を持ち帰り、進めてくる。
第14回	オーディオトラックへの書き出しとスライドショーとの同期	課題提出までの進行スケジュールを考え、それに合わせて進行させる。必要に応じて進行スケジュールの修正を行う。	進度によってデータまたは譜面を持ち帰り、進めてくる。
第15回	本科目のまとめ	期末課題の提出。	学んだ内容を確認し、実践する。

科目名(クラス)	日本事情 I A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	田仲 正江	履修対象・条件	外国人留学生のみ履修可				

【授業の「概要」と「目的」】

本科目は、日本という国の輪郭を知ることを目指して、日本の生い立ちである歴史を概観的に学んでいく。ある国の事情や現在を理解するためには、その国の生い立ちである歴史を学び知る必要があるからである。今期は特に日本の原始・古代を中心に概観する。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式が基本であるが、必要に応じて演習や対話形式を採る。

【履修時の「留意点」と「心得」】

1. 日本語の学習に役立たせること
2. 謙虚な学習態度を持つこと
3. 必ずテキストの予習をすること
4. 自分の生活環境に関心を持ち、学習に結び付けて考えること

教科書	教科書は使用せずプリントを配布する。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	「日本史ノート」	著者等	石川晶康監修	出版社	旺文社
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への取り組み(60%)
期末にレポートを提出(40%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション 本教科の教育目的、教育内容、 授業方法について説明	1.学習内容の理解 2.学習方法の確認	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第2回	日本の原始・古代 (1)旧石器文化 (2)縄文文化	日本における人の営みの初め を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第3回	日本の原始・古代 (3)弥生文化 (4)小国の成立と邪馬台国	稲作がもたらした文化と国造り の前景を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	日本の原始・古代 (5)ヤマト政権の成立 (6)古墳文化	古代の社会の成立を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第5回	日本の原始・古代 (7)推古朝 (8)大化の改新	中央集権国家の形態を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第6回	日本の原始・古代 (9)律令国家 (10)平城京	天皇の摂政体系を知る	
第7回	日本の原始・古代 まとめ①		
第8回	日本の原始・古代 (11)奈良時代の政治 (12)遣唐使	仏教による国家安定と交易を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第9回	日本の原始・古代 (13)飛鳥文化・白鳳文化 天平文化	歴史書の編纂を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第10回	日本の原始・古代 (14)平安初期の政治と 弘仁・貞観文化	1.東北への政治拡大を知る 2.神道と仏教の融合を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第11回	日本の原始・古代 (15)摂関政治	政治権力の一極化を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第12回	日本の原始・古代 (16)地方と貴族社会の変化	地方の武士の台頭を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第13回	日本の原始・古代 (17)国風文化 (18)荘園の発達と武士の成長	仮名の発達と日本の独自文化の醸成を知る	〃
第14回	日本の原始・古代 まとめ②	〃	〃
第15回	レポート①		学んだ内容を振り返り、実践してみる。

科目名(クラス)	日本事情 I B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	田仲 正江	履修対象・条件	外国人留学生のみ履修可				

【授業の「概要」と「目的」】

本科目は、日本という国の輪郭を知ることを目指して、日本の生い立ちである歴史を概観的に学んでいく。ある国の事情や現在を理解するためには、その国の生い立ちである歴史を学び知る必要があるからである。今期は特に日本の中世・近世を中心に概観する。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式が基本であるが、必要に応じて演習や対話形式を採る。

【履修時の「留意点」と「心得」】

1. 日本語の学習に役立たせること
2. 謙虚な学習態度を持つこと
3. 必ずテキストの予習をすること
4. 自分の生活環境に関心を持ち、学習に結び付けて考えること

教科書	教科書は使用せずプリントを配布する。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	「日本史ノート」	著者等	石川晶康監修	出版社	旺文社
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への取り組み(60%)
 期末にレポートを提出(40%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション 本教科の教育目的、教育内容、 授業方法について説明	1.学習内容の理解 2.学習方法の確認	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第2回	日本の中世 (1)院生 (2)平氏政権と院政期の文化	天皇と武士の関係を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第3回	日本の中世 (3)鎌倉幕府の成立 (4)執権政治と御成敗式目	関東における武士社会の形成 を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	日本の中世 (5)鎌倉時代の武士の社会 (6)蒙古襲来	防御と武士の社会的位置を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第5回	日本の中世 (7)永仁の徳政令 (8)鎌倉文化	武士文化を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第6回	日本の中世 (9)建武の新制と南北朝の動乱 (10)室町幕府の成立	武家と公家の関係を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第7回	日本の中世 (11)東アジアとの交易 (12)幕府の動揺と応仁の乱	交易による統一と東西の対立を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第8回	日本の中世 (13)一揆の時代 (14)中世の農業・商工業の発達	農業商業工業の従事者の立場を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第9回	日本の中世 (15)室町文化 (16)戦国大名の登場	動乱の背景を知る	
第10回	日本の中世 まとめ		
第11回	日本の近世 (1)南蛮貿易とキリスト教 (2)織田信長の統一事業	ヨーロッパとの関係と統一の必要性を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第12回	日本の近世 (3)豊臣秀吉の全国統一 (4)豊臣秀吉の内政と桃山文化	近世社会の成立を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第13回	日本の近世 (5)江戸幕府の成立 (6)幕藩体制の確立	政権の移動と統制による社会安定を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第14回	日本の近世 (7)江戸初期の外交と禁教 (8)寛永期の文化	鎖国の背景とその影響を知る	”
第15回	日本の中世 まとめ① レポート②		学んだ内容を振り返り、実践してみる。

科目名(クラス)	日本事情ⅡA	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	田仲 正江	履修対象・条件	外国人留学生のみ履修可				

【授業の「概要」と「目的」】

本科目は、日本という国の輪郭を知ることを目指して、日本の生い立ちである歴史を概観的に学んでいく。ある国の事情や現在を理解するためには、その国の生い立ちである歴史を学び知る必要があるからである。今期は特に日本の近代を中心に概観する。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式が基本であるが、必要に応じて演習や対話形式を採る。

【履修時の「留意点」と「心得」】

1. 日本語の学習に役立たせること
2. 謙虚な学習態度を持つこと
3. 必ずテキストの予習をすること
4. 自分の生活環境に関心を持ち、学習に結び付けて考えること

教科書	教科書は使用せずプリントを配布する。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	「日本史ノート」	著者等	石川晶康監修	出版社	旺文社
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への取り組み(60%)
 期末にレポートを提出(40%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション 本教科の教育目的、教育内容、 授業方法について説明	1.学習内容の理解 2.学習方法の確認	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第2回	日本の近世 (9)文治政治 (10)産業の発達	幕府と大名との緩やかな関係を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第3回	日本の近世 (11)交通と金融の発達 (12)元禄文化	当時の交通路や航路の発展から国内における地方文化の相互影響を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	日本の近世 (13)享保の改革と社会の変化 (14)寛政の改革	安定期における三大改革を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第5回	日本の近世 (15)経済の発展と経世論 (16)列強の接近	商品経済の重視を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第6回	日本の近世 (17)天保の改革 (18)化政文化	幕府の財政危機と社会変化を知る	
第7回	日本の近世 まとめ②		
第8回	日本の近代 (1)開国 (2)開港貿易と幕末の政局	幕末の背景を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第9回	日本の近代 (3)江戸幕府の滅亡 (4)明治維新	近代化を推し進める潮流を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第10回	日本の近代 (5)明治初期外交 (6)殖産興業	東アジアとの交流を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第11回	日本の近代 (7)文明開化 (8)自由民権運動	新国家建設と議会開設運動を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第12回	日本の近代 (9)立憲体制の成立 (10)初期会議	憲法制定の流れを知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第13回	日本の近代 (11)条約改正 (12)日清戦争	東アジア内の混乱と列強の進出劇を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第14回	日本の近代 (13)日露戦争 (14)韓国併合	列強間の利害を知る	”
第15回	日本の近代 まとめ レポート①		学んだことを振り返り、 実践してみる。

科目名(クラス)	日本事情ⅡB	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	田仲 正江	履修対象・条件	外国人留学生のみ履修可				

【授業の「概要」と「目的」】

本科目は、日本という国の輪郭を知ることを目指して、日本の生い立ちである歴史を概観的に学んでいく。ある国の事情や現在を理解するためには、その国の生い立ちである歴史を学び知る必要があるからである。今期は特に日本の現代を中心に概観する。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式が基本であるが、必要に応じて演習や対話形式を採る。

【履修時の「留意点」と「心得」】

1. 日本語の学習に役立たせること
2. 謙虚な学習態度を持つこと
3. 必ずテキストの予習をすること
4. 自分の生活環境に関心を持ち、学習に結び付けて考えること

教科書	教科書は使用せずプリントを配布する。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	「日本史ノート」	著者等	石川晶康監修	出版社	旺文社
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への取り組み(60%)
期末にレポートを提出(40%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション 本教科の教育目的、教育内容、 授業方法について説明	1.学習内容の理解 2.学習方法の確認	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第2回	日本の近代 (15)産業革命 (16)社会運動・労働運動	殖産興業の発展と労働者の人 権の萌芽を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第3回	日本の近代 (17)近代文化	西欧式教育の導入課題を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	日本の近代 (18)大正政変 (19)第一次大戦	大戦の背景を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第5回	日本の近代 (20)大戦景気 (21)大正デモクラシー	戦争と景気の間係を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第6回	日本の近代 (22)政党内閣の成立 (23)市民生活と文化	日本初の政党内閣組織を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第7回	日本の近代 (24) ヴェルサイユ・ワシントン体制 (25)反復する恐慌	列強における経済恐慌の影響 と自然災害の影響を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第8回	日本の近代 (26)昭和恐慌 (27)満州事変	経済の衰退と戦争の間係を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第9回	日本の近代 (28)軍部の台頭と新興財閥 (29)ファシズムの進展	軍事強化と財閥との間係を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第10回	日本の近代 (30)日中戦争 (31)太平洋戦争	中国との全面戦争の背景を確 認する	
第11回	日本の近代 まとめ②		・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第12回	日本の現代 (1)占領と改革 (2)五大改革指令と民主化	アメリカによる占領下の日本の 事情を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第13回	日本の現代 (3)日本国憲法と政党政治の復活 (4)戦後経済と労働運動	民主国家形成への道のりを知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第14回	日本の現代 (5)冷戦とサンフランシスコ条約 (6)高度経済成長と現代の世界と日 本	現代の世界との間係を知る	”
第15回	日本の現代 まとめ レポート①		学んだことを振り返り、 実践してみる。

科目名(クラス)	日本事情ⅢA	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	田仲 正江	履修対象・条件	外国人留学生のみ履修可				

【授業の「概要」と「目的」】

日本の国土とその特徴を概観し、日本の経済の特質と国民の生活について考える。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式が基本であるが、必要に応じて演習や対話形式を採る。

【履修時の「留意点」と「心得」】

1. 日本語の学習に役立たせること
2. 謙虚な学習態度を持つこと
3. 必ずテキストの予習をすること
4. 自分の生活環境に関心を持ち、学習に結び付けて考えること

教科書	教科書は使用せずプリントを配布する。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	現代社会	著者等	真淵 勝	出版社	文英堂
参考文献	地理B	著者等	文英堂編集部	出版社	文英堂

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への取り組み(60%)
期末にレポートを提出(40%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション 本教科の教育目的、教育内容、 授業方法について説明	1.学習内容の理解 2.学習方法の確認	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第2回	地理 (1)日本の国土と自然	国土と自然の特徴を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第3回	地理 (2)日本の農牧業	第一次産業を概観する	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	地理 (3)日本の鉱工業	第二次産業を概観する	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第5回	地理 (4)日本の貿易	他国との関係を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第6回	地理 (5)日本の人口問題と都市問題	地方の過疎化と都市部の過密化の課題を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第7回	地理 まとめ		
第8回	日本経済の特質と国民生活 (1)戦後日本の経済の歩み	戦後の日本経済を概観する	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第9回	日本経済の特質と国民生活 (2)中小企業と農業	商店から会社への転身を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第10回	日本経済の特質と国民生活 (3)公害の防止と環境保全	経済発展に伴う負の側面を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第11回	日本経済の特質と国民生活 (4)消費者保護と契約	大量生産大量消費の課題を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第12回	日本経済の特質と国民生活 (5)雇用・労働問題	産業の変化と職業の変容を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第13回	日本経済の特質と国民生活 (6)社会保障と国民福祉	社会と国民生活の安定の条件を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第14回	日本経済の特質と国民生活 まとめ	〃	〃
第15回	レポート① まとめ		学んだことを振り返り、 実践してみる。

科目名(クラス)	日本事情ⅢB	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	田仲 正江	履修対象・条件	外国人留学生のみ履修可				

【授業の「概要」と「目的」】

現代社会と人間としての在り方や生き方を整理し、日本の現代の政治を概観する。
歴史を見ると、時代の変遷によって社会変化や人々の価値観の変化が伴っていることを理解し、自己形成への影響を考察することができる。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式が基本であるが、必要に応じて演習や対話形式を採る。

【履修時の「留意点」と「心得」】

1. 日本語の学習に役立たせること
2. 謙虚な学習態度を持つこと
3. 必ずテキストの予習をすること
4. 自分の生活環境に関心を持ち、学習に結び付けて考えること

教科書	教科書は使用せずプリントを配布する。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	現代社会	著者等	真淵 勝	出版社	文英堂
参考文献	地理B	著者等	文英堂編集部	出版社	文英堂

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への取り組み(60%)
期末にレポートを提出(40%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション 本教科の教育目的、教育内容、 授業方法について説明	1.学習内容の理解 2.学習方法の確認	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第2回	現代と青年 (1)青年期の特徴と発達課題	発達段階における一般的な青年の特徴を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第3回	現代と青年 (2)職業生活と社会参加	職業と社会との関係を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	現代と青年 (3)古代思想と三大世界宗教	自然に根差した古代思想と整理された宗教を確認する	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第5回	現代と青年 (4)ヨーロッパ哲学の諸思想	ヨーロッパに誕生した哲学を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第6回	現代と青年 (5)日本の思想	生活上にある思想と影響を見る	
第7回	現代と青年 まとめ		
第8回	現代の日本の政治 (1)民主政治の原理	民主主義の原理を確認する	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第9回	現代の日本の政治 (2)法の支配と基本的人権の尊重	基本的人権擁護のための政治の仕組みを確認する	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第10回	現代の日本の政治 (3)世界の主な政治体制	世界における政治の形態の違いを知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第11回	現代の日本の政治 (4)日本国憲法の成立	憲法を概観する	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第12回	現代の日本の政治 (5)日本国憲法と基本的人権	基本的人権の保障と憲法の役割	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第13回	現代の日本の政治 (6)人権の保障と公共の福祉	人権の実現と福祉の役割	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第14回	現代の日本の政治 (7)平和主義と日本の安全保障	国家間事情を知る	”
第15回	現代の日本の政治 まとめ レポート①		学んだことを振り返り、実践してみる。

科目名(クラス)	日本事情IVA	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	4
担当教員	田仲 正江	履修対象・条件	外国人留学生のみ履修可				

【授業の「概要」と「目的」】

これまでの日本の事情を踏まえて、国際社会とその動向、人類の課題を概観し、日本の外交と国際貢献から国際社会がどうあるべきかを考える。また、新聞などの資料を読み考えを纏める。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式が基本であるが、必要に応じて演習や対話形式を採る。

【履修時の「留意点」と「心得」】

1. 日本語の学習に役立たせること
2. 謙虚な学習態度を持つこと
3. 必ずテキストの予習をすること
4. 自分の生活環境に関心を持ち、学習に結び付けて考えること

教科書	教科書は使用せずプリントを配布する。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	現代社会	著者等	真淵 勝	出版社	文英堂
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への取り組み(60%)
 期末にレポートを提出(40%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション 本教科の教育目的、教育内容、 授業方法について説明	1.学習内容の理解 2.学習方法の確認	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第2回	国際政治の動向と国際協力 (1)国際社会と国際法	講義内容を理解する。	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第3回	国際政治の動向と国際協力 (2)集団安全保障と国際連合	〃	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	国際政治の動向と国際協力 (3)第二次世界大戦後の国際政治	講義内容を理解する。	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第5回	国際政治の動向と国際協力 (4)人種・民族問題と紛争	〃	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第6回	国際政治の動向と国際協力 (5)日本の外交と国際貢献	〃	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第7回	国際政治の動向と国際協力 まとめ	〃	
第8回	国際経済の動向 (1)国際経済の仕組み	〃	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第9回	国際経済の動向 (2)外国為替相場の仕組み	〃	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第10回	国際経済の動向 (3)国際貿易と国際通貨制度	〃	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第11回	国際経済の動向 (4)国際経済のグローバル化	〃	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第12回	国際経済の動向 (5)地域的経済統合	〃	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第13回	国際経済の動向 (6)発展途上国の諸問題	〃	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第14回	国際経済の動向 まとめ①	〃	〃
第15回	レポート① まとめ②		学んだことを振り返り、 実践してみる。

科目名(クラス)	日本事情IVB	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	4
担当教員	田仲 正江	履修対象・条件	外国人留学生のみ履修可				

【授業の「概要」と「目的」】

グローバル化する現代社会においては、地球規模での志向が求められる。今期は地球規模でのいくつかの諸問題とその対策について概観する。また、日本文化として継承される分野を見る。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式が基本であるが、必要に応じて演習や対話形式を採る。

【履修時の「留意点」と「心得」】

1. 日本語の学習に役立たせること
2. 謙虚な学習態度を持つこと
3. 必ずテキストの予習をすること
4. 自分の生活環境に関心を持ち、学習に結び付けて考えること

教科書	教科書は使用せずプリントを配布する。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	現代社会	著者等	真淵 勝	出版社	文英堂
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への取り組み(60%)
 期末に調査発表(40%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション 本教科の教育目的、教育内容、 授業方法について説明	1.学習内容の理解 2.学習方法の確認	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第2回	現代社会の諸問題 (1)地球環境問題	環境悪化の背景を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第3回	現代社会の諸問題 (2)資源・エネルギー問題	生活の利便性と資源の限界を 知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	現代社会の諸問題 (3)人口・食糧問題	地球の飽和状態の一つを捉える	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第5回	現代社会の諸問題 (4)高度情報社会	個から離れ拡散する情報の課題を知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第6回	現代社会の諸問題 (5)科学技術の発達と生命倫理	人口と自然の境界の曖昧さを知る	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第7回	現代社会の諸問題 まとめ	〃	〃
第8回	浮世絵と日本画と日本のアニメ	講義内容を理解する。	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第9回	民謡・演歌・J-POP	〃	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第10回	落語と漫才	〃	・テキストの読み ・単語意味調べ ・疑問点の設定
第11回	歌舞伎と日本舞踊と能・狂言	〃	〃
第12回	日本の武道と相撲	〃	〃
第13回	茶道と華道	〃	〃
第14回	日本の行事	〃	〃
第15回	調査発表		学んだことを振り返り、実践してみる。

科目名(クラス)	日本語1	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	一林 久美子	履修対象・条件	留学生のみ履修可				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・この授業では、実社会で使われている日本語の語彙や表現を学習していく。
- ・背景知識として日本の文化や商慣習なども考えながら、必要な語彙や表現を学習していく。
- ・日本の社会で使われている日本語が理解でき、更に使えるようになることが、この授業の目的である。

【授業の「方法」と「形式」】

- ・各单元ごとに、問題を解くことや文を作ることで定着を計る。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・積極的に授業に参加することを望む。
- ・それには予習をし、問題を解いて疑問点を明らかにしておくこと。
- ・授業の際には、日本語と母語の辞書を持参すること。

教科書	絵でわかる日本語使い分け辞典1000	著者等	萩原稚佳子	出版社	アルク
教科書		著者等		出版社	
参考文献	外来語言い換え手引き	著者等	国研「外来語」委員会	出版社	ぎょうせい
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・各単元の定着度(問題の理解) 40%
- ・学期末試験(日本語理解) 60%

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第1回	オリエンテーション		
第2回	4月の語彙	4月に起こる日本の行事などに関する理解を深める。	予習:章を読み理解する。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第3回	4月の擬声語・擬態語	4月に関する擬声語・擬態語を学ぶ。	予習:章を読み理解する。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第4回	5月の語彙	5月に起こる日本の行事などに関する理解を深める。	予習:章を読み理解する。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第5回	5月の擬声語・擬態語	5月に関する擬声語・擬態語を学ぶ。	予習:章を読み理解する。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第6回	4・5月の語彙の復習	語彙を確認し、使えるようにする。	できなかったところを復習する。
第7回	6月の語彙	6月に起こる日本の行事などに関する理解を深める。	予習:章を読み理解する。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第8回	6月の擬声語・擬態語	6月に関する擬声語・擬態語を学ぶ。	予習:章を読み理解する。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第9回	7月の語彙	7月に起こる日本の行事などに関する理解を深める。	予習:章を読み理解する。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第10回	7月の擬声語・擬態語	7月に関する擬声語・擬態語を学ぶ。	予習:章を読み理解する。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第11回	6・7月の復習	語彙を確認し、使えるようにする。	できなかったところを復習する。
第12回	8月の語彙	8月に起こる日本の行事などに関する理解を深める。	予習:章を読み理解する。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第13回	8月の擬声語・擬態語	9月に関する擬声語・擬態語を学ぶ。	予習:章を読み理解する。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第14回	9月の語彙	10月に起こる日本の行事などに関する理解を深める。	予習:章を読み理解する。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第15回	総括		

科目名(クラス)	日本語2	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	一林 久美子	履修対象・条件	留学生のみ履修可				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・この授業では、実社会で使われている日本語の語彙や表現を学習していく。
- ・背景知識として日本の文化や商慣習なども考えながら、必要な語彙や表現を学習していく。
- ・日本の社会で使われている日本語が理解でき、更に使えるようになることが、この授業の目的である。

【授業の「方法」と「形式」】

- ・各单元ごとに、問題を解くことや文を作ることで定着を計る。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・積極的に授業に参加することを望む。
- ・それには予習をし、問題を解いて疑問点を明らかにしておくこと。
- ・授業の際には、日本語と母語の辞書を持参すること。

教科書	絵でわかる日本語使い分け辞典1000	著者等	萩原稚佳子	出版社	アルク
教科書		著者等		出版社	
参考文献	外来語言い換え手引き	著者等	国研「外来語」委員会	出版社	ぎょうせい
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

(380文字以内)

- ・各単元の定着度(問題の理解) 40%
- ・学期末試験(日本語理解) 60%

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第1回	オリエンテーション		
第2回	9月の擬声語・擬態語	9月に関する擬声語・擬態語を学ぶ。	予習:章を読み理解する。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第3回	10月の語彙	10月に起こる日本の行事などに関する理解を深める。	予習:章を読み理解する。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第4回	10月の擬声語・擬態語	10月に関する擬声語・擬態語を学ぶ。	予習: 章を読み理解する。 復習: 練習問題で分からなかったことを学習する。
第5回	9・10月の語彙の復習	語彙を確認し、使えるようにする。	できなかったところを復習する。
第6回	11月の語彙	11月に起こる日本の行事などに関する理解を深める。	予習: 章を読み理解する。 復習: 練習問題で分からなかったことを学習する。
第7回	11月の擬声語・擬態語	11月に関する擬声語・擬態語を学ぶ。	予習: 章を読み理解する。 復習: 練習問題で分からなかったことを学習する。
第8回	12月の語彙	12月に起こる日本の行事などに関する理解を深める。	予習: 章を読み理解する。 復習: 練習問題で分からなかったことを学習する。
第9回	12月の擬声語・擬態語	12月に関する擬声語・擬態語を学ぶ。	予習: 章を読み理解する。 復習: 練習問題で分からなかったことを学習する。
第10回	11・12月の復習	語彙を確認し、使えるようにする。	できなかったところを復習する。
第11回	1月の語彙	1月に起こる日本の行事などに関する理解を深める。	予習: 章を読み理解する。 復習: 練習問題で分からなかったことを学習する。
第12回	1月の擬声語・擬態語	1月に関する擬声語・擬態語を学ぶ。	予習: 章を読み理解する。 復習: 練習問題で分からなかったことを学習する。
第13回	2月の語彙	2月に起こる日本の行事などに関する理解を深める。	予習: 章を読み理解する。 復習: 練習問題で分からなかったことを学習する。
第14回	2月の擬声語・擬態語	2月に関する擬声語・擬態語を学ぶ。	予習: 章を読み理解する。 復習: 練習問題で分からなかったことを学習する。
第15回	総括		学んだことを振り返り、実践してみる。

科目名(クラス)	日本語3	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	一林 久美子	履修対象・条件	留学生のみ履修可				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・この授業では、実社会で使われている日本語の語彙や表現を学習していく。
- ・背景知識として日本の文化や商慣習なども考えながら、必要な語彙や表現を学習していく。
- ・日本の社会で使われている日本語が理解でき、更に使えるようになることが、この授業の目的である。

【授業の「方法」と「形式」】

- ・各单元ごとに付属のCDを聞き、問題を解くことや文を作ることで定着を計る。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・積極的に授業に参加することを望む。
- ・それには予習をし、問題を解いて疑問点を明らかにしておくこと。
- ・授業の際には、日本語と母語の辞書を持参すること。

教科書	留学生のためのアカデミックジャパニーズ聴解[中]	著者等	東京外国語大学	出版社	スリーエーネットワーク
教科書		著者等		出版社	
参考文献	大学・大学院 留学生の日本語<1>論文編	著者等	アカデミック・ジャパニーズ	出版社	アルク
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・各単元の定着度(問題の理解) 40%
- ・学期末試験(日本語理解) 60%

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第1回	オリエンテーション		
第2回	第1課 掃除	知らないことばがあっても全体の把握ができる。	予習:内容を予想し調べてみる。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第3回	第1課 掃除	全体の構成を考えながら、話をまとめて伝えることができる。	書いた文章のまちがいを学習し、書き直しをする。

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第4回	第2課 本屋	具体的な話から話者の言いたいことを推測する。	予習: 内容を予想し調べてみる。 復習: 練習問題で分からなかったことを学習する。
第5回	第2課 本屋	全体の構成を考えながら、話をまとめて伝えることができる。	書いた文章のまちがいを学習し、書き直しをする。
第6回	第3課 新幹線のおでこ	聞き手に興味を持たれるような話し方を学ぶ。	予習: 内容を予想し調べてみる。 復習: 練習問題で分からなかったことを学習する。
第7回	第3課 新幹線のおでこ	全体の構成を考えながら、話をまとめて伝えることができる。	書いた文章のまちがいを学習し、書き直しをする。
第8回	第4課 体験プレゼント	話をまとめて理解するのに必要な概念を学ぶ。	予習: 内容を予想し調べてみる。 復習: 練習問題で分からなかったことを学習する。
第9回	第4課 体験プレゼント	全体の構成を考えながら、話をまとめて伝えることができる。	書いた文章のまちがいを学習し、書き直しをする。
第10回	第5課 そば屋ののれん	キーワードの説明ができるようになる。	予習: 内容を予想し調べてみる。 復習: 練習問題で分からなかったことを学習する。
第11回	第5課 そば屋ののれん	全体の構成を考えながら、話をまとめて伝えることができる。	書いた文章のまちがいを学習し、書き直しをする。
第12回	第6課 犬の肥満	定義の仕方ができるようになる。	予習: 内容を予想し調べてみる。 復習: 練習問題で分からなかったことを学習する。
第13回	第6課 犬の肥満	全体の構成を考えながら、話をまとめて伝えることができる。	書いた文章のまちがいを学習し、書き直しをする。
第14回	第7課 卵かけ御飯	キーワードとなることばに注目して話が聞けるようになる。	予習: 章を読み理解する。 復習: 練習問題で分からなかったことを学習する。
第15回	総括		学んだことを振り返り、実践してみる。

科目名(クラス)	日本語4	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	一林 久美子	履修対象・条件	留学生のみ履修可				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・この授業では、実社会で使われている日本語の語彙や表現を学習していく。
- ・実用日本語検定試験に出た問題から、背景にある日本の文化や商慣習なども考えながら、必要な語彙や表現を学習していく。
- ・日本の社会で使われている日本語が理解でき、更に使えるようになることが、この授業の目的である。

【授業の「方法」と「形式」】

- ・各单元ごとの講義と、問題を解くことや文を作ることで定着を計る。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・積極的に授業に参加することを望む。
- ・それには予習をし、問題を解いて疑問点を明らかにしておくこと。
- ・授業の際には、日本語と母語の辞書を持参すること。

教科書	留学生のためのアカデミックジャパニーズ聴解[中]	著者等	東京外国語大学	出版社	スリーエーネットワーク
教科書		著者等		出版社	
参考文献	大学・大学院 留学生の日本語<1>論文編	著者等	アカデミック・ジャパニーズ	出版社	アルク
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・各単元の定着度(問題の理解) 40%
- ・学期末試験(日本語理解) 60%

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第1回	オリエンテーション		
第2回	第8課 女性専用車両	要約の仕方を学ぶ。	予習:内容を予想し調べてみる。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第3回	第8課 女性専用車両	全体の構成を考えながら、話をまとめて書くことができる。	書いた文章のまちがいを学習し、書き直しをする。

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第4回	第9課 剣道	アウトラインに沿って話ができるようになる。	予習: 内容を予想し調べてみる。 復習: 練習問題で分からなかったことを学習する。
第5回	第9課 剣道	全体の構成を考えながら、話をまとめて書くことができる。	書いた文章のまちがいを学習し、書き直しをする。
第6回	第10課 落語	体言止めの書き方を学ぶ。	予習: 内容を予想し調べてみる。 復習: 練習問題で分からなかったことを学習する。
第7回	第10課 落語	全体の構成を考えながら、話をまとめて書くことができる。	書いた文章のまちがいを学習し、書き直しをする。
第8回	第11課 そばをすする音	話し言葉の縮約系と元の形の関係を知る。	予習: 内容を予想し調べてみる。 復習: 練習問題で分からなかったことを学習する。
第9回	第11課 そばをすする音	全体の構成を考えながら、話をまとめて書くことができる。	書いた文章のまちがいを学習し、書き直しをする。
第10回	第12課 将棋	鼻濁音、母音の無声化を聞き取れるようになる。	予習: 内容を予想し調べてみる。 復習: 練習問題で分からなかったことを学習する。
第11回	第12課 将棋	全体の構成を考えながら、話をまとめて書くことができる。	書いた文章のまちがいを学習し、書き直しをする。
第12回	第13課 南極	難しいことばを前後の流れから推測する。	予習: 内容を予想し調べてみる。 復習: 練習問題で分からなかったことを学習する。
第13回	第13課 南極	全体の構成を考えながら、話をまとめて書くことができる。	書いた文章のまちがいを学習し、書き直しをする。
第14回	第14課 明治神宮の森	次に続く文を予想できる接続詞が使えるようになる。	予習: 内容を予想し調べてみる。 復習: 練習問題で分からなかったことを学習する。
第15回	総括		学んだことを振り返り、実践してみる。

科目名(クラス)	日本語5	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	3
担当教員	一林 久美子	履修対象・条件	留学生のみ履修可				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・論理の展開を意識することを学び、話を聞きながら全体を把握することができるようにする。
- ・具体的な話を聞きながら、理由、結果、対策といった上位概念で内容がまとめられるようにする。
- ・整理ノート、構成表、要約が書け、それらを元に自分の経験や意見が述べられるようにする。

【授業の「方法」と「形式」】

- ・各单元ごとに付属のCDを聞き、問題を解くことや文を作ることで定着を計る。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・積極的に授業に参加することを望む。
- ・それには予習をし、問題を解いて疑問点を明らかにしておくこと。
- ・授業の際には、日本語と母語の辞書を持参すること。

教科書	国境を越えて	著者等	山本富美子	出版社	新曜社
教科書		著者等		出版社	
参考文献	演奏者のための初めてのアレクサンダーテクニ	著者等	山本ゆりこ	出版社	ヤマハミュージックメディア
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・各单元の定着度(問題の理解) 40%
- ・発表(課題の内容、発表の仕方) 30%
- ・学期末試験(日本語理解) 30%

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第1回	オリエンテーション		
第2回	第1課 文明の多様性と異質性	大学で行われる講演を聞きながら、内容をメモ書きできる。	予習:新出語彙を調べておく。 復習:授業で分からなかったことを学習する。
第3回	第1課 文明の多様性と異質性	発表内容のレジュメを見て、発表内容を予測できる。	予習:新出語彙を調べておく。 復習:授業で分からなかったことを学習する。

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第4回	第2課 人口動態	討論会での討論の内容を理解し、まとめが書ける。	予習:新出語彙を調べておく。 復習:授業で分からなかったことを学習する。
第5回	第2課 人口動態	発表を聞きながらメモをとり、まとめられる。	予習:新出語彙を調べておく。 復習:授業で分からなかったことを学習する。
第6回	第3課 戦後の社会構造の変容	大学で行われる講演を聞きながら、内容をメモ書きできる。	予習:新出語彙を調べておく。 復習:授業で分からなかったことを学習する。
第7回	第3課 戦後の社会構造の変容	2人の研究員の話聞きながら、メモをとり、まとめができる。	予習:新出語彙を調べておく。 復習:授業で分からなかったことを学習する。
第8回	第4課 戦後の経済構造の変容	グラフを参照しながら、小論文の内容を把握できる。	予習:新出語彙を調べておく。 復習:授業で分からなかったことを学習する。
第9回	第4課 戦後の経済構造の変容	研究員と経営者の話を聞いて、全体の内容を理解できる。	予習:新出語彙を調べておく。 復習:授業で分からなかったことを学習する。
第10回	第5課 開発の功罪	公開討論会での、それぞれの立場からの意見の違いを理解できる。	予習:新出語彙を調べておく。 復習:授業で分からなかったことを学習する。
第11回	第5課 開発の功罪	グラフを参照しながら、小論文の内容を把握できる。	予習:新出語彙を調べておく。 復習:授業で分からなかったことを学習する。
第12回	第6課 地球規模の環境問題と対策	日本人学生と留学生、専門家といった立場の異なる人の話を図にまとめられる。	予習:新出語彙を調べておく。 復習:授業で分からなかったことを学習する。
第13回	第6課 地球規模の環境問題と対策	大きな社会問題を語る場合の身近な具体例が見つけられる。	予習:新出語彙を調べておく。 復習:授業で分からなかったことを学習する。
第14回	発表	学習内容を踏まえて、課題を探し発表ができる。	発表内容レジュメ、又はPPT準備。
第15回	総括		学んだことを振り返り、実践してみる。

科目名(クラス)	日本語6	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	3
担当教員	一林 久美子	履修対象・条件	留学生のみ履修可				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・論理の展開を意識することを学び、話を聞きながら全体を把握することができるようにする。
- ・具体的な話を聞きながら、理由、結果、対策といった上位概念で内容がまとめられるようにする。
- ・整理ノート、構成表、要約が書け、それらを元に自分の経験や意見が述べられるようにする。

【授業の「方法」と「形式」】

- ・各单元ごとの講義と、問題を解くことや文を作ることで定着を計る。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・積極的に授業に参加することを望む。
- ・それには予習をし、問題を解いて疑問点を明らかにしておくこと。
- ・授業の際には、日本語と母語の辞書を持参すること。

教科書	国境を越えて	著者等	山本富美子	出版社	新曜社
教科書		著者等		出版社	
参考文献	演奏者のための初めてのアレクサンダーテクニ	著者等	山本ゆりこ	出版社	ヤマハミュージックメディア
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・各单元の定着度(問題の理解) 40%
- ・発表(課題の内容、発表の仕方) 30%
- ・学期末試験(日本語理解) 30%

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第1回	第7課 社会科学の方法	2人の話を聞きながら、調査と問題点について把握する。	予習:新出語彙を調べておく。 復習:授業で分からなかったことを学習する。
第2回	第7課 社会科学の方法	アンケート調査のやり方を理解する。	予習:新出語彙を調べておく。 復習:授業で分からなかったことを学習する。
第3回	第7課 社会科学の方法	簡単なアンケート調査をして、結果を発表する。	予習:新出語彙を調べておく。 復習:授業で分からなかったことを学習する。

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第4回	第8課 情報化時代	大学で行われる講演を聞きながら、内容をメモ書きできる。	予習:新出語彙を調べておく。 復習:授業で分からなかったことを学習する。
第5回	第8課 情報化時代	2人の学生の話聞きながら、メモをとり、まとめができる。	予習:新出語彙を調べておく。 復習:授業で分からなかったことを学習する。
第6回	第9課 グローバル化時代の課題	シンポジウムの話聞きながら、内容を把握する。	予習:新出語彙を調べておく。 復習:授業で分からなかったことを学習する。
第7回	第9課 グローバル化時代の課題	起業家とインタビュアーの話聞いて問題点を考える。	予習:新出語彙を調べておく。 復習:授業で分からなかったことを学習する。
第8回	第9課 グローバル化時代の課題	自国の課題について、分かりやすく発表ができる。	予習:新出語彙を調べておく。 復習:授業で分からなかったことを学習する。
第9回	第10課 日本国憲法の今日的意味	大学で行われる講演を聞きながら、内容をメモ書きできる。	予習:新出語彙を調べておく。 復習:授業で分からなかったことを学習する。
第10回	第10課 日本国憲法の今日的意味	留学生と日本人学生の話聞きながら、内容を理解できる。	予習:新出語彙を調べておく。 復習:授業で分からなかったことを学習する。
第11回	第10課 日本国憲法の今日的意味	小論文を読んで、内容を表にまとめることができる。	予習:新出語彙を調べておく。 復習:授業で分からなかったことを学習する。
第12回	第11課 企業の社会的役割	起業家と学生2人の話を聞いて、それぞれの考えを理解できる。	予習:新出語彙を調べておく。 復習:授業で分からなかったことを学習する。
第13回	第11課 企業の社会的役割	工場見学の中での話を聞きながら、内容を把握する。	予習:新出語彙を調べておく。 復習:授業で分からなかったことを学習する。
第14回	発表	学習内容を踏まえて、課題を探し発表ができる。	発表内容レジュメ、又はPPT準備。
第15回	総括		学んだことを振り返り、実践してみる。

科目名(クラス)	日本語7	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	4
担当教員	一林 久美子	履修対象・条件	留学生のみ履修可				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・日本語でビジネス活動が行えるように、実践的な会話を通してビジネス用語や立ち居ふるまいなどを習得する。
- ・実際にロールプレイを行いながら、戦略会話に沿ってスムーズに話せるようにしていく。

【授業の「方法」と「形式」】

- ・各单元ごとに付属のCDを聞き、問題を解くことや文を作ることで定着を計る。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・積極的に授業に参加することを望む。
- ・それには予習をし、問題を解いて疑問点を明らかにしておくこと。
- ・授業の際には、日本語と母語の辞書を持参すること。

教科書	人を動かす実践ビジネス日本語会話【上級】	著者等	宮崎道子	出版社	スリーエーネットワーク
教科書		著者等		出版社	
参考文献	外来語言い換え手引き	著者等	国研「外来語」委員会	出版社	ぎょうせい
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・各単元の定着度(問題の理解) 40%
- ・学期末試験(日本語理解) 60%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション		
第2回	第1課 アポイントメント	電話での丁寧な言葉遣いや前置き、相槌などが適切に使える。	予習:内容を予想し調べてみる。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第3回	第2課 業務引き継ぎ	仕事の引き継ぎをする際のポイントの把握、不明な点の聞き返し、指示の仰ぎ方などが言える。	予習:内容を予想し調べてみる。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	第3課 面会して交渉する	相手を立てながら意向を伺い、有利な方向に話を持っていく表現が使えるようになる。	予習:内容を予想し調べてみる。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第5回	第4課 個人客からの苦情	客の不満や苦情を聞いて、感情をなだめ、問題処理のための効果的な表現が使える。	予習:内容を予想し調べてみる。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第6回	第5課 個人客からの苦情(2)上司に引き継ぐ	会社の信用を損なわずに問題を解決し、上司に引き継ぐことができる。	予習:内容を予想し調べてみる。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第7回	第6課 トラブル処理(1)	取引が円滑に行われていない場合の問題点把握、処理解決ができる。	予習:内容を予想し調べてみる。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第8回	第7課 トラブル処理(2)上司への報告	上司への報告、連絡、相談など、問題処理過程でのやりとりができる。	予習:内容を予想し調べてみる。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第9回	第8課 謝罪する	取引を断りつつも良好な関係を保つため、誠意のある対応ができる。	予習:内容を予想し調べてみる。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第10回	第9課 インタビュー・取材	限られた時間内で相手から必要な情報を聞き出すことができる。	予習:内容を予想し調べてみる。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第11回	第10課 議論する	相手を尊重しながら自分の考えを述べ、議論ができる。	予習:内容を予想し調べてみる。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第12回	調査の仕方、グラフや表の書き方	適切な調査のやり方、結果のまとめができる。	予習:内容を予想し調べてみる。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第13回	第11課 プレゼンテーション	効果的で説得力のあるプレゼンが時間内にできる。	予習:内容を予想し調べてみる。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第14回	発表	声の出し方、表現の仕方などに気を配りながら、実際に発表をする。	予習:内容を予想し調べてみる。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第15回	総括		学んだことを振り返り、実践してみる。

科目名(クラス)	日本語8	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	4
担当教員	一林 久美子	履修対象・条件	留学生のみ履修可				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・この授業では、大学生が卒業論文を書く時に使う高度な日本語の表現を学習していく。
- ・論理的な文章に使われる語彙や表現が使えるようになることが目標である。
- ・論理的な展開で説得力のある文章作成を心がけるようにしたい。

【授業の「方法」と「形式」】

- ・各单元ごとの講義と、問題を解くことや文を作ることで定着を計る。
- ・その他、音楽に関する論文を読んでいきたい。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・積極的に授業に参加することを望む。
- ・予習をし、問題を解いて疑問点を明らかにしておくこと。
- ・授業の際には、日本語と母語の辞書を持参すること。

教科書	大学・大学院 留学生の日本語<4>論文作成	著者等	アカデミック・ジャパニーズ	出版社	アルク
教科書		著者等		出版社	
参考文献	外来語言い換え手引き	著者等	国研「外来語」委員会	出版社	ぎょうせい
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・各単元の定着度(問題の理解) 40%
- ・学期末試験(日本語作文) 60%

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第1回	第1課 作文の基本(1)	文字や記号の書き方 記号のはたらき	予習:章を読み理解する。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第2回	第2課 作文の基本(2)	文体 表現	予習:章を読み理解する。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第3回	第3課 課題の提示	論文の構成要素 序論の構成要素(1)	予習:章を読み理解する。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。

【授業計画・内容・到達目標・予習・復習】

回数	授業内容	到達目標	予習・復習
第4回	第4課 目的の表示	序論の構成要素(2)	予習:章を読み理解する。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第5回	第5課 定義と分類	本論の構成要素(1)	予習:章を読み理解する。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第6回	第6課 図表の提示	本論の構成要素(2)	予習:章を読み理解する。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第7回	第7課 変化の形容	本論の構成要素(3)	予習:章を読み理解する。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第8回	第8課 対比と比較	本論の構成要素(4)	予習:章を読み理解する。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第9回	第9課 原因の考察	本論の構成要素(5)	予習:章を読み理解する。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第10回	第10課 列挙	本論の構成要素(6)	予習:章を読み理解する。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第11回	第11課 引用	本論の構成要素(7)	予習:章を読み理解する。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第12回	第12課 同意と反論	本論の構成要素(8)	予習:章を読み理解する。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第13回	第13課 帰結	本論の構成要素(9)	予習:章を読み理解する。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第14回	第14課 結論の提示	結論の構成要素	予習:章を読み理解する。 復習:練習問題で分からなかったことを学習する。
第15回	総括		学んだことを振り返り、実践してみる。

科目名(クラス)	教職入門 A・B	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	粕谷 宏美 西田 康子	履修対象・条件	教職課程履修者及び教職特設コースのみ履修可。必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・生徒の立場であったこれまでの視点から、教師の立場から教育を考え、教職に対する理解を深めます。
- ・本授業では、教師の職務や教師の身分、また教師に求められる資質・力量について理解していきます。
- ・グループ討議やレタリング、発表をとおして積極的なディスカッションを行います。
- ・教職を選択することの可否について判断するための機会とします。

【授業の「方法」と形式】

- ・講義形式だけでなく、できるだけ参加型の授業となるようレタリング、グループ討議や発表を取り入れます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・遅刻、途中退出は原則として認めません。
- ・新聞や教育雑誌、インターネット等を活用し、日頃から教育問題についての理解を深めてください。
- ・積極的な発言や発表、授業参加を望みます。また、配布したプリントはポートフォリオとしてまとめておいてください。

教科書	中学校学習指導要領解説総則編	著者等		出版社	文部科学省
教科書		著者等		出版社	
参考文献	毎回、必要な資料を配付します。			出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・各テーマごとに行う小テスト及びプレゼンテーション(30%)
- ・学期末に行う筆記試験(30%)
- ・課題レポートの提出及び内容(30%)
- ・出席状況を含めた授業への取り組みの姿勢(10%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	自己PR、履修の動機	教職課程の科目を選択した目的について、簡潔に記述したり、発表できる。	目指す教師像をイメージし、きっかけや理由を発表できるようにしておくこと。
第2回	教職の理解①	・自らの考えをまとめ、暗記して堂々とスピーチすることができる。	テーマについては、小・中・高等学校等で出会った教師の姿を参考にしつつ、自らの考えをまとめておく。
第3回	教職の理解②	教育公務員である教師の立場や職務内容を理解する。	テーマについては、小・中・高等学校等で出会った教師の姿を参考にしつつ、自らの考えをまとめておく。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	教職の理解③	教育公務員である教師の立場や職務内容を理解する。	テーマについては、小・中・高等学校等で出会った教師の姿を参考にしつつ、自らの考えをまとめておく。
第5回	教職の理解④	教育公務員である教師の立場や職務内容を理解する。	テーマについては、文献や資料、インターネット等を活用し、必要な知識を得ておく。
第6回	教職の理解⑤	教育関連図書を選定し、課題レポートの作成をする。	図書館等で参考文献を検索し、購読する文献を決めておく。
第7回	ブックレポート提出及び発表(前半のまとめ)	教育関連図書の読書感想レポート提出及び発表をする。	自ら作成したブックレポートの概要を、全体の前で発表する。
第8回	教師の待遇と勤務条件①	教員公務員の待遇や勤務条件及び福利厚生について法令をもとに理解する。	テーマについては、文献や資料、インターネット等を活用し、必要な知識を得ておく。
第9回	教師の待遇と勤務条件②	教員公務員の待遇や勤務条件及び福利厚生について法令をもとに理解する。	テーマについては、文献や資料、インターネット等を活用し、必要な知識を得ておく。
第10回	教師の待遇と勤務条件③ ・小テスト	教員公務員の待遇や勤務条件及び福利厚生について法令をもとに理解する。	テーマについては、文献や資料、インターネット等を活用し、必要な知識を得ておく。
第11回	教員の研修①	学び続ける教師が叫ばれる中、研修の必要性を理解する。	テーマについては、文献や資料、インターネット等を活用し、必要な知識を得ておく。
第12回	今日の教育課題	変化の激しい時代、学校現場における様々な教育課題を理解する。	テーマについては、文献や資料、インターネット等を活用し、必要な知識を得ておく。
第13回	特別支援教育	特別支援教育の現状と課題を理解する。	テーマについては、文献や資料、インターネット等を活用し、必要な知識を得ておく。
第14回	障害者の理解	社会者への理解を深め、介護体験に向けて準備する。	テーマについては、文献や資料、インターネット等を活用し、必要な知識を得ておく。
第15回	本科目の総括(最終試験)	本科目の履修をふまえて、自らの教職への適否を考察する。	本授業で学んだ知識をまとめ、理解しておく。

科目名(クラス)	教育学概説一a・b	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	曾我部 延孝	履修対象・条件	教職課程履修者と教職特設コースおよび音楽療法専攻は必修				

【授業の「概要」と「目的」】

○「履修ガイド2016」に『教職課程は将来教育職に就くための、資格取得(教育職員免許)課程』と記されています。
 ○「教育学概説」は、入学したばかりの皆さんが、これから4年間にわたって履修する教職課程の入り口となる科目です。
 ○教育の目標・目的は一言でいえば「よりよく生きることの人間を育てる」ことです。
 ○これらのことを踏まえて、現在の学校教育、生涯学習社会において音楽専攻の私に何が出来るか。『生活の中の教育学』を交錯させながら、教育学の概要を探求していきます。

【授業の「方法」と「形式」】

・『一斉授業』を授業形態の基本としますが、感想、意見発表や資料の輪読も取り入れ、互いに学び合う形式も取り入れます

【履修時の「留意点」と「心得」】

○教職課程＝教える立場に立つ日に備えての履修科目です。私語は厳禁です。自らの姿勢を律して授業に臨むこと。
 ○ノート・授業記録、論文など言葉力をつける学習作業を重視します。特にノートは、世界にたった1冊しかない”私”用の教科書を作ることです。ノートのまとめ、整理を常に行っていくこと。
 ○言葉も音楽の大切な要素の一つです。”言葉の力”をつけていくために、毎回、授業記録に感想や意見を書いて提出します。

教科書	必携「教職六法」(2016年度版)	著者等		出版社	協同出版
教科書		著者等		出版社	
参考文献	教育史入門	著者等	森川・小玉編著	出版社	放送大学教育振興
参考文献	唱歌と国語	著者等	山東功	出版社	講談社

【成績評価の「方法」と「基準」】

- (1)定期試験 65% (授業内容の総括→①筆記問題 55% ②小論文 10%)
 (2)ノート・プリント資料の整理 20%(必ず、大学ノートを使用、プリント資料も貼付すること)
 (3)授業記録 15% (毎回提出)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	ガイダンス ・本科目を学ぶ目的 ・シラバス=授業計画について ・1時限の授業の流れ	・本科目の授業内容の概要が理解できる。 ・成績評価の「方法」と「基準」が理解できる。	予習:①授業ノート(大学ノート)を用意する。 ②教科書P741、用語の解説「教育学」の内容を読んでおく。
第2回	教育学の概説 ・教育の定義 ・無意図的教育と意図的教育	・教育の定義について理解できる。 ・無意図的教育と意図的教育の捉え方を理解できる。	予習:親から受けた躰などで、今も実行していることを発表できるようにしておく。 復習:ノートのまとめ、プリント資料の整理をしておくこと。
第3回	家庭教育 ・家庭教育とは ・家庭教育の性格 ・家庭の教育力	・プリント資料『子育て四訓』、『早寝早起き 朝ごはん』をとおして家庭教育の性格、家庭の教育力の大切さについて理解できる。	予習:小・中・高校時代の良き思い出を、次時に発表できるようにしておく。 復習:ノートのまとめ、プリント資料の整理をしておくこと。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	学校教育 ・学校教育とは ・学校教育の範囲、段階、内容等 ・学校教育でなぜ音楽が必要なのか	・学校教育は法令に基づいて行われていることが理解できる。 ・学校教育の定義、概要等について基礎知識を習得できる。	予習:居住地の社会教育施設名を調べておく。 復習:学校教育でなぜ音楽が必要なのか、認識できたことを授業記録にまとめる。
第5回	社会教育 ・社会教育→生涯学習とは ・生涯学習社会と音楽活動 ・介護予防と音楽療法	・「社会教育」の呼称が「生涯学習」に移行している経緯が理解できる。 ・生涯学習社会における音楽活動の重要性が認識できる。	予習:西洋教育史上の著名な教育者名を調べる。 復習:ノートのまとめ、プリント資料の整理をしておくこと。
第6回	西洋教育史概説(1) ・古代の教育 ・中世から初期近代の教育	・代表的な教育思想家の教育論を中心に教育学の基礎知識及びその時代の歴史的背景が理解できる。	予習:産業革命後の社会の変化について、ネットや書籍等で調べておく。 復習:ノートのまとめ、プリント資料の整理をしておくこと。
第7回	西洋教育史概説(2) ・産業革命と義務教育の成立 ・学校(義務教育)の誕生	・産業革命が義務教育制度を成立させ、学校が普及していく過程が理解できる。	予習:「通過儀礼」「寺子屋」の意味について調べておく。 復習:ノートのまとめ、プリント資料の整理をしておくこと。
第8回	日本の公教育の成立と学校(1) ・「通過儀礼」「切磋琢磨」 ・寺子屋の世紀～読み・書きの普及～	・農村中心の社会で子供がどのように育っていったのか理解できる。 ・急速に普及した寺子屋の存在が、近代以降の学校制度の礎となる過程が理解できる。	予習:教科書P934～「教育法制史(戦前)」によく目をとおしておく。 復習:ノートのまとめ、プリント資料の整理をしておくこと。
第9回	日本の公教育の成立と学校(2) ・小学校の普及と西洋式学校教育の導入 ・教育勅語と学校教育	・明治期の学校教育の概要、歴史過程が理解できる。	予習:教科書P934～「教育法制史(戦前)」によく目をとおしておく。 復習:ノートのまとめ、プリント資料の整理をしておくこと。
第10回	日本の公教育の成立と学校(3) ・唱歌と国語 ・明治時代から昭和初期の教師像 ・大正自由教育	・国語教育の中から唱歌(音楽)教育が誕生した経緯が理解できる。 ・大正自由主義教育について概要が把握できる。	予習:教科書P943～「教育法制史(戦後)」によく目をとおしておく。 復習:ノートのまとめ、プリント資料の整理をしておくこと。
第11回	戦後の教育改革 ・戦時下の学校と教育 ・教育基本法の制定 ・新学制の発足 ～6・3・3・4制～ ・教育課程改革	・占領教育政策の下行われた様々な教育改革の概要を習得できる。 ・本学の沿革について、戦後の推移が分かる。	予習:①教科書P943～「教育法制史(戦後)」によく目をとおしておく。 ②本学『三室戸学園沿革』を見ておく。 復習:ノートのまとめ、プリント資料の整理をしておくこと。
第12回	現代の教育(1) ・高度経済成長～せめて高校へ～ ・高等教育の大衆化と受験戦争	・戦後の復興→高度経済成長のもと、「豊かな社会」が築かれていく中で、教育に対する国民の意識が急速に変化していく過程が理解できる。	予習:教科書P943～「教育法制史(戦後)」によく目をとおしておく。 復習:ノートのまとめ、プリント資料の整理をしておくこと。
第13回	現代の教育(2) ・社会問題化する学校教育 ・「ゆとり教育」から「脱ゆとり」→生きる力の育成	・「生きる力」とはどのような力か理解できる。 ・「いじめ問題」「不登校」「校内暴力」等の諸課題を喫緊の課題として受けとめることができる。	予習:教科書P906～918「いじめの発生件数」等の統計資料によく目をとおしておく。 復習:ノートのまとめ、プリント資料の整理をしておくこと。
第14回	現代の教育(3) ・学校における人権教育 ・人権教育意識を高める音楽教育	・資料の輪読をとおして、人権感覚を養う大切さを認識できる。 ・「思いやりの心」を育む音楽教室にするためにはどうすればよいか考えることができる。	予習:次回の定期試験に向けてノートのまとめ、プリント資料の整理する。 復習:ノートのまとめ、プリント資料の整理をしておくこと。
第15回	本科目の総括 ・本科目で学んだ基礎知識 ・生活の中の教育学＝私の生きる道	・「よりよく生きることの人間を育てるにはどうすればいいのか」→このことを次年度の履修につなげていくことができる。	復習:筆記試験及び小論文をとおして本科目のまとめを行う。

科目名(クラス)	教育心理学a・b	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	中島実穂	履修対象・条件	教職課程履修者・教職特設コースは必修				

【授業の「概要」と「目的」】

教育心理学とは、学校教育や家庭、社会において人がどのように学んでいるかを、心理学的な知見から理解しようとする学問です。この授業では、教育心理学における基礎的な知見を紹介し、教育現場における方針のもととなっている心理学的な知識を身に付けて頂くことを目標としています。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

遅刻、途中退席は原則として禁止とさせていただきます。
積極的な授業への参加をお願い致します。

教科書	やさしい教育心理学	著者等	鎌原雅彦・ 竹網誠一郎	出版社	有斐閣
教科書		著者等		出版社	
参考文献	教育心理学ルックアラウンド －わかりたいあなたのための教育心理学－	著者等	山崎史郎	出版社	おうふう
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業態度 30%
学期末定期試験【筆記試験】70%

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション 教育心理学とは何か	教育心理学とはどのような学問領域であるかを理解する。	予習:教科書の該当箇所を読む。 復習:授業でとったノートをおさらいする。
第2回	発達Ⅰ 認知的発達段階	認知的に人がどのように発達していくと考えられているのかを理解する。	同上
第3回	発達Ⅱ 心理的発達段階	心理的に人がどのように発達していくと考えられているのかを理解する。	同上

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	発達Ⅲ 社会的発達段階	社会的に人がどのように発達していくと考えられているのかを理解する。	同上
第5回	学習Ⅰ 学習のメカニズム	学習のメカニズムの基礎理論である、古典的条件付けとオペラント条件付けを理解する。	同上
第6回	学習Ⅱ 記憶のメカニズム	記憶のメカニズムにおける基礎理論を理解する。	同上
第7回	学習Ⅲ 学習意欲と学習指導	学習を支える意欲や、指導法に関する基礎理論を理解する。	同上
第8回	パーソナリティⅠ 性格の捉え方	個人の性格はどのように分類されるのかを理解する。	同上
第9回	パーソナリティⅡ アイデンティティの確立	人がどのように自分を理解し、アイデンティティを確立していくのか、というプロセスを理解する。	同上
第10回	知能Ⅰ	心理学的に、人の知能がどのように評価されているのかを理解する。	同上
第11回	知能Ⅱ	教育を行った成果は、どのように評定されているのかを理解する。	同上
第12回	集団心理	人が集団を形成する際、また集団で活動を行う際の心理学的要因、背景を理解する。	同上
第13回	不適応的行動	青少年における不適応的行動に関して理解する。	同上
第14回	障害の理解、カウンセリング	子供の身体的、精神的障害、また学校カウンセリングのもととなっている心理学的理論について理解する。	同上
第15回	総括	本科目の学習内容を全体的に理解する。	同上

科目名(クラス)	教育方法ーa・b	開講学期	a前期 b後期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	曾我部 延孝	履修対象・条件	教職課程履修者と教職特設コースは必修				

【授業の「概要」と「目的」】

○教育とは、「よりよく生きることのできる人間を育てる行為」です。
 ○教育方法は、教える側＝教師が、日々の教育活動をおして学ぶ側＝児童生徒をいかにわくわくした学びの世界に導いていくか、その教授法を習得するために設けられている科目です。
 ○授業では、教育方法学の基礎知識、現在の教育課程の概要を中心に履修します。また、授業者にとって大切な心構えについて学び合い、来るべき日＝4年生になってからの教育実習→教員採用試験等の就活を経て、社会人として進むべき道筋に備えます。

【授業の「方法」と「形式」】

・『一斉授業』を授業形態の基本としますが、プレゼン(発表学習)や資料の輪読も取り入れ、互いに学び合う形式を設けます

【履修時の「留意点」と「心得」】

○私語は厳禁です。
 ○教職＝教える立場に立つ日に備えての履修科目です。自らの学ぶ姿勢が、児童生徒の手本になることを常に自覚して授業に臨むこと。○ノート・授業記録、レポート、論作文など言葉力をつける学習作業を重視します。特にノートは、世界にたった1冊しかない”私”用の教科書を作ることです。児童生徒の手本になるようなノートを作ってほしい。

教科書	必携「教職六法」(既に所有しているものでよい)	著者等		出版社	協同出版
教科書	「中学校学習指導要領解説 総則編」	著者等	文部科学省	出版社	
参考文献	「教育方法論」	著者等	田中智志・橋本	出版社	一藝社
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- (1)定期試験 60% (①授業内容 50% ②小論文 10%)
- (2)パフォーマンス評価 20% (①指導案分析レポート 10% ②プレゼンテーション 10%)
- (3)ノート・授業記録 20% (①ノート10% ※大学ノートを使用 ②授業記録 10% ※毎回提出)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	ガイダンス ・本校履修ガイド『学びにあたって』 ・シラバス=授業計画について ・教育とは何か	・本校の教育の目標・目的、教職課程履修者が目指す方向性が再認識できる。 ・教育の定義が理解できる、	予習: 授業ノート(大学ノート)を用意する。 復習: 「履修ガイド」P2の『学びにあたって』の内容を理解しておくこと。
第2回	教育方法の基礎知識～西洋教育史から学ぶ～ (1) ・古代ギリシアの教育 ・中世・近代・現代の教育方法学の基礎知識(I)	・学校制度が成立していなかった時代の教育の概要が理解できる。 ・近世以降の教育思想家の教育観を理解できる。	予習: 西洋教育史年表を入手し、著名な教育思想家を調べておく。 復習: ノートのまとめ、プリント資料の整理をしておくこと。
第3回	教育方法の基礎知識～西洋教育史から学ぶ～ (2) ・近代・現代の教育方法学の基礎知識(2)	・19～20世紀の代表的な教育思想家の教育実践を当時の社会、歴史的背景を踏まえて理解できる。	予習: 「寺子屋」、「日本の子供観」について調べておく。 復習: ノートのまとめ、プリント資料の整理をしておくこと。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	我が国の教育(1)～日本の子供観～ ・「通過儀礼」「切磋琢磨」 ・寺子屋 ・近代・現代の子供観	・現在、世界中から高く評価されている我が国の教育の基盤は昔からの“ムラ社会”の中で培われてきたことが理解できる。	予習:教科書「中学校学習指導要領」の「総則」をよく読んでおく。 復習:ノートのまとめ、プリント資料の整理をしておくこと。
第5回	我が国の教育(2)～学習指導要領～ ・「学習指導要領 総則」の概要 ・授業を展開するにあたっての配慮すべき事項 ・次期学習指導要領の改訂	・学習指導要領「教育課程編成の一般方針」の中で示す指導方法や工夫改善について理解できる。	予習:「私が描く理想の教師像」を発表できるようにまとめる。 復習:ノートのまとめ、プリン演習問題及び資料の整理をしておくこと。
第6回	教師としての心構え(1)～「いい先生」を目指して～ ・信頼される「いい先生」とは ・「生きる力」を育てる教育活動——音楽科教師の役割	・「教えるプロ」=3つの要件が理解できる。 ・音楽科教師の教育観から、心育む音楽教育の在り方が考察できる。	予習:「教材研究」はなぜ必要なのか考えて発表できるようにしておく。 復習:ノートのまとめ、資料の整理をしておくこと。
第7回	教師としての心構え(2)～授業に臨む姿勢～ ・授業とは ・広義・狭義の教材研究	・「授業の成立→そのために、やるべきことは何か理解できる。 ・広義、狭義の「教材研究」の概念について理解できる。	予習:「学校のグランドデザイン(例)」をネット等で調べておく。 復習:ノートのまとめ、資料の整理をしておくこと。
第8回	教師としての心構え(3)～授業のデザイン～ ・授業は、教育課程に基づいてデザインする ・学校のグランドデザイン ・学習指導案とは	・学習指導案とは、授業を行う前に授業の展開を一定の形式で書き表したシナリオであることが理解できる。	予習:教科書「中学校学習指導要領」の「総則」を再度よく読んでおく。 復習:ノートのまとめ、資料の整理をしておくこと。
第9回	教師としての心構え(4)～学習指導案～ ・中学校教諭の学習指導案(例)から学ぶプレゼンについて ・授業スタイル	・さまざまな授業スタイルの長所・短所が理解できる。 ・音楽授業において、指導計画に基づくより良い授業スタイルを考察できる。	予習:プレゼンテーションに向け、本時で配布した資料のレポート作成に取りかかる。 復習:ノートのまとめ、資料の整理をしておくこと。
第10回	教師としての心構え(5)～授業研究～ ・授業研究の基本 ・教師同士が学び合う『授業研究』	・授業研究は自らの資質向上に不可欠であることが理解できる。 ・授業研究で培われた“日本流”学習法が海外で評価されている現状を認識できる。	予習:「学校ICT」→この用語について調べ発表できるようにしておく。 復習:ノートのまとめ、資料の整理をしておくこと。
第11回	教師としての心構え(6)～教育の情報化～ ・ICTの教育利用 ・教育の情報化の3つのねらい	・情報機器の活用はこれからの社会では不可欠であることを認識し、学校の教育活動においても重要な課題であることが理解できる。	予習:通知票等の評価を振り返り、気づいたことを発表できるようにしておく。復習:ノートのまとめ、資料の整理をしておくこと。
第12回	教師の立場に立つて(1) ・教育評価 ・学校における評価・評定のありかた ・パフォーマンス評価について	・教育評価の意義・目的について理解できる。 ・学校における評価・評定について実際の「生徒指導要録」の様式をみて理解できる。	予習:5分間を目安とした発表時間にプレゼンが行われるよう事前に練習しておく。 復習:ノートのまとめ、プリント資料の整理をしておくこと。
第13回	教師の立場に立つて(2)～プレゼンテーション～ ・学習指導案(例)を分析した感想、考察、実践(次年度の教育実習で)	・各自の発表をとおして互いに学び合い、自分自身の学びに生かすことが出来る。	予習:「虫の目 魚の目 鳥の目」の意味することを調べておく。 復習:配布資料にプレゼン者から気づきメモしたことをノートにまとめる。
第14回	教師の立場に立つて(3)～学級経営～ ・学級とは ・学級経営とは ・学級経営の必要性	・児童生徒をわくわくした学びの世界に導いていくための場づくりは、学級経営の良し悪しに左右されることが理解できる。	予習:次回の定期試験に向けてノートのまとめ、プリント資料の整理する。 復習:ノートのまとめ、プリント資料の整理をしておくこと。
第15回	本科目の総括 ・本科目で学んだ基礎知識 ・本科目をとおして考えたこと ・教育実習に向けて	・教育方法学の基礎知識の習得及び教える立場に立つ者の心構えを自覚、次年度の教育実習に臨むことが出来る。	復習:筆記試験及び小論文をとおして本科目のまとめを行う。

科目名(クラス)	教育相談・進路指導a・b	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	石川亮太郎	履修対象・条件	教職課程履修者・教職特設コースは必修				

【授業の「概要」と「目的」】

【目的】 児童・生徒の教育相談・進路相談をする上で参考になる心理学的知識・技術を理解することです。
 【概要】 授業では、児童思春期の心理的葛藤、いじめ・不登校の問題、発達障害・精神疾患、コミュニケーション不安など、児童・生徒が抱えやすい問題をテーマに講義を展開していきます。さらに教育・進路相談を行う上での基礎理論・技術についても、臨床心理学の知見を参考に教育します。

【授業の「方法」と「形式」】

パワーポイントを用いた講義に加え、小テストやレポート課題などを行っていきます

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・遅刻、途中退出は原則として認めません。
- ・積極的な授業参加を望みます。

教科書	毎回、レジユメを配布します	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	「教師のための教育相談の基礎」	著者等	久芳美恵子	出版社	三省堂
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・各单元ごと的小テストおよびレポート課題(30%)
- ・学期末定期試験(筆記試験)(70%)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	ガイダンス、教育相談とは	当該授業の全体の流れとルールを把握すること。教育相談の意義について理解すること。	予習)教科書を熟読しておくこと 復習)授業のレジユメを振り返ること
第2回	人間の発達と発達課題	発達心理学の基礎知識を理すること。特に思春期の問題やアイデンティティに関する知識を持つこと。	予習)アイデンティティについて、事前に調べておくこと 復習)授業のレジユメを振り返ること
第3回	性格心理学	様々なタイプの性格があることを理解し、それぞれの長所と短所を理解できること	予習)教科書を熟読しておくこと 復習)授業のレジユメを振り返ること

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	児童・生徒の不安について	不安という感情がなぜ生じるのか、そのメカニズムを理解すること	予習)参考書の内容を理解しておくこと 復習)授業のレジュメを振り返ること
第5回	児童・生徒の抑うつについて	抑うつという感情がなぜ生じるのか、そのメカニズムを理解すること	予習)参考書の内容を理解しておくこと 復習)授業のレジュメを振り返ること
第6回	発達障害の対応	自閉症、ADHD、学習障害など、様々な発達しよう害の行動を理解し、適切な援助の仕方を学ぶこと	予習)教科書を熟読しておくこと 復習)授業のレジュメを振り返ること
第7回	コミュニケーションの心理学	児童・生徒を想定した場合の適切なコミュニケーションの取り方について、心理学的観点から考察できること	予習)教科書/参考書を熟読しておくこと 復習)授業のレジュメを振り返ること
第8回	コミュニケーション不安の教育相談	コミュニケーションが上手くとれない児童・生徒に対する適切な対応の仕方について学ぶこと	予習)参考書を熟読しておくこと 復習)授業のレジュメを振り返ること
第9回	いじめ	いじめの実態やそのメカニズムについて理解すること	予習)教科書を熟読しておくこと 復習)授業のレジュメを振り返ること
第10回	不登校	不登校の実態と、不登校の生徒に対する援助の仕方を学ぶこと	予習)教科書を熟読しておくこと 復習)授業のレジュメを振り返ること
第11回	少年非行	少年非行の心理・社会的要因を理解し、その予防策を考察できるようになること	予習)教科書を熟読しておくこと 復習)授業のレジュメを振り返ること
第12回	教育相談の理論と実技①	カウンセリングの基礎理論を理解し、日常生活で実践応用できるようになること	予習)教科書・参考書を熟読しておくこと 復習)授業のレジュメを振り返ること
第13回	教育相談の理論と実技②	様々な臨床心理学の知見を参考にし、相談の理論と技術を学習すること	予習)参考書を熟読しておくこと 復習)授業のレジュメを振り返ること
第14回	教育相談の理論と実技③	様々な臨床心理学の知見を参考にし、相談の理論と技術を学習すること	予習)参考書を熟読しておくこと 復習)授業のレジュメを振り返ること
第15回	まとめ	これまでの授業全体のまとめと振り返りを行う	予習)教科書を熟読しておくこと 復習)授業のレジュメを振り返ること

科目名(クラス)	音楽科教材研究A-a・b	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	金井良次	履修対象・条件	教職課程履修者で中学校免許状取得希望者のみ必修 教職特設コースは2単位必修				

【授業の「概要」と「目的」】

概要／学習指導要領の内容を改めて学び、2年次に培った知識や理解をより深めます。中・高校の音楽教科書に掲載されている楽曲等から各自が教材を選び、教材研究と模擬授業を行います。また、模擬授業を検証するため、グループワークや全体による研究協議会も積極的に実施します。なお、ピアノ弾き歌い発表や、邦楽器の実技演習等も含めます。

目的／現場の音楽教師は、専門の如何に関わらず音楽の全ての領域にわたって精通していることが求められます。この科目は、模擬授業やグループワークを通して、一人ひとりが音楽教師に必要な知識を深め、指導技術を磨き、実践的スキルを高め、総合的な指導力を向上させることを目的とし、延いては現場の即戦力となり得る人材の育成を目指しています。

【授業の「方法」と「形式」】

講義の他、主に模擬授業、グループワーク、研究協議会等を実施します。(模擬授業の目安は1回30～40分です)

【履修時の「留意点」と「心得」】

・模擬授業実施者は、準備段階から指導教員と打ち合わせを行い、綿密に計画を練ることが必要です。(実施日は、事前に希望調査を行い、調整しながら決定します)

・作成した指導案は模擬授業の際全員に配布してください。また、資料保存のため、フラットファイルを各自用意してください。

教科書	中学生の音楽1,同2・3上,同2・3下,中学生の器楽	著者等	小原光一 他	出版社	教育芸術社
教科書	2012年改訂版 中学校・高等学校教職課程「音楽科教育法」	著者等	石澤眞紀夫	出版社	教育芸術社
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

・以下の内容について総合的に判断し、評価します。

- ①模擬授業への取り組み状況(事前準備, 指導案の完成度, 実践状況, 事後レポートなど)
- ②レポート(前学期の模擬授業担当の有無に関わらず全員が指導案を作成して提出する)
- ③模擬授業の内容(実践的な技能を含む)※
- ④授業への参加意識, 思考, 発言状況など
- ⑤ピアノ弾き歌い実技テスト
- ⑥演習への取り組み状況(授業の冒頭などに行うピアノ伴奏コーナーや発声指導コーナーなどのワンポイント体験を含む)
- ⑦まとめ(学習指導要領に関する筆記テスト)

※模擬授業については実施者と未実施者が混在するため、内容に関する評価のみ後学期に反映されることになります。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	・諸確認(授業概要、日程、教科書、授業規律、禁止事項、模擬授業、シラバス等) ・自己紹介(プレゼン) ・教科目標、共通教材に関する復習	・授業の概要と目的を理解している ・中学校の共通教材の曲名、作詞者、作曲者を暗記している	・教育目標、及び発達段階における共通教材(7曲)について復習をしておく
第2回	・教科目標(中・高)の確認 ・今後の学習指針の確認 ・講義／生徒への接し方、授業心得、留意点、教師の仕事、教師の一日等の理解	・教科目標について理解している ・今後の学習指針や、学校の実情等について理解を深めている	・教育目標、及び発達段階における共通教材(7曲)の概要について更に復習をしておく
第3回	・学習指導要領に関する確認 ・学年の目標の確認 ・共通教材による演習の実施 ・共通教材に関する知識の深化	・学習指導要領のポイントを理解している ・学年目標や共通教材のポイントを理解している	・学習指導要領について復習、及び予習をしておく ・共通教材の弾き歌いをひととおり実施しておく

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校各学年の目標に関する確認 ・模擬授業希望調査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校各学年の目標についてポイントを理解している 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校各学年の目標について復習、及び予習をしておく
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の表現教材に関する確認 ・[共通事項]に関する確認 ・模擬授業の順番決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の表現教材や[共通事項]についてポイントを理解している 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の表現教材や[共通事項]について復習、及び予習をしておく
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の作成に関する学習 ・指導案の作成方法の確認① 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画作成の必要性を理解している ・指導案の作成や演習に積極的に取り組んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、指導案作成のためのプリント、評価基準に盛り込むべき事項のプリント等用意する
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の作成方法の確認② ・指導案における評価の書法について ・中教審答申による改善の方向の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の作成や演習に積極的に取り組んでいる ・中教審答申による改善の方向を理解している 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価について教科書の記述を復習しておく ・中央教育審議会答申について予習しておく
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業の実施① ・研究協議会の実施① 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践的技能を高める姿勢や、創意工夫が見られる ・研究協議や演習に積極的取り組んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者は内容を練り音取りや伴奏等の十分な準備をする(要資料)。また受講者は教材の持つ教材性を予習しておく
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業の実施② ・研究協議会の実施② 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践的技能を高める姿勢や、創意工夫が見られる ・研究協議や演習に積極的取り組んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者は内容を練り音取りや伴奏等の十分な準備をする(要資料)。また受講者は教材の持つ教材性を予習しておく
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業の実施③ ・研究協議会の実施③ ・指導案作成課題提示及び期末テストの連絡 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践的技能を高める姿勢や、創意工夫が見られる ・研究協議や演習に積極的取り組んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者は内容を練り音取りや伴奏等の十分な準備をする(要資料)。また受講者は教材の持つ教材性を予習しておく
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業の実施④ ・研究協議会の実施④ 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践的技能を高める姿勢や、創意工夫が見られる ・研究協議や演習に積極的取り組んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者は内容を練り音取りや伴奏等の十分な準備をする(要資料)。また受講者は教材の持つ教材性を予習しておく
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業の実施⑤ ・研究協議会の実施⑤ 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践的技能を高める姿勢や、創意工夫が見られる ・研究協議や演習に積極的取り組んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者は内容を練り音取りや伴奏等の十分な準備をする(要資料)。また受講者は教材の持つ教材性を予習しておく
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業の実施⑥ ・研究協議会の実施⑥ ・ピアノ弾き歌い発表(全員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践的技能を高める姿勢や、創意工夫が見られる ・研究協議や演習に積極的取り組んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者は内容を練り音取りや伴奏等の十分な準備をする(要資料)。また受講者は教材の持つ教材性を予習しておく
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ・邦楽器(箏)の実技講習 ・指導案課題、及び期末テストの再連絡 	<ul style="list-style-type: none"> ・箏の奏法について理解している ・簡単なフレーズを演奏できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器等の事前準備
第15回	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ(筆記テスト) ・指導案課題の提出 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領について復習しておく ・提出できるようレポート(指導案)を完成させておく

科目名(クラス)	音楽科教材研究B-a・b	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	金井良次	履修対象・条件	教職課程履修者で中学校免許状取得希望者のみ必修 教職特設コースは2単位必修				

【授業の「概要」と「目的」】

概要／学習指導要領の内容を改めて学び、2年次および3年次前期に培った知識や理解をより深めます。中・高校の音楽教科書に掲載されている楽曲等から各自が教材を選び、教材研究と模擬授業を行います。また、模擬授業を検証するため、グループワークや全体による研究協議会も積極的に実施します。なお、ピアノ弾き歌いテストも含めます。
目的／現場の音楽教師は、専門の如何に関わらず音楽の全ての領域にわたって精通していることが求められます。この科目は、模擬授業やグループワークを通して、一人ひとりが音楽教師に必要な知識を深め、指導技術を磨き、実践的スキルを高め、総合的な指導力を向上させることを目的とし、延いては現場の即戦力となり得る人材の育成を目指しています。

【授業の「方法」と「形式」】

講義の他、主に模擬授業、グループワーク、研究協議会等を実施します。(模擬授業の目安は1回30～40分です)

【履修時の「留意点」と「心得」】

・模擬授業実施者は、準備段階から指導教員と打ち合わせを行い、綿密に計画を練ることが必要です。(実施日は、事前に希望調査を行い、調整しながら決定します)
・作成した指導案は模擬授業の際全員に配布してください。また、資料保存のため、フラットファイルを各自用意してください。

教科書	中学生の音楽1,同2・3上,同2・3下,中学生の器楽	著者等	小原光一 他	出版社	教育芸術社
教科書	2012年改訂版 中学校・高等学校教職課程「音楽科教育法」	著者等	石澤眞紀夫	出版社	教育芸術社
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

・以下の内容について総合的に判断し、評価します。
①模擬授業への取り組み状況(事前準備, 指導案の完成度, 実践状況, 模擬授業, 事後レポートなど)
②レポート(後学期の模擬授業担当の有無に関わらず全員が指導案を作成して提出する)
③模擬授業の内容(実践的な技能を含む)
④授業への参加意識, 思考, 発言状況など
⑤ピアノ弾き歌い実技テスト
⑥演習への取り組み状況(授業の冒頭などに行うピアノ伴奏コーナーや発声指導コーナーなどのワンポイント体験を含む)
⑦教育現場参観の報告書
⑧まとめ(学習指導要領に関する筆記テスト)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	・ピアノ弾き歌いテスト(教科書より1曲を選定、1番のみ) ・講義／4年生の教育実習実践報告(まとめ)閲読	・演習に積極的に取り組んでいる	・ピアノ弾き歌いテストのための十分な準備をしておくこと
第2回	・模擬授業の実施⑦ ・研究協議会の実施⑦	・実践的スキルを高める姿勢や、創意工夫が見られる ・研究協議や演習に積極的取り組んでいる	・授業者は内容を練り音取りや伴奏等の十分な準備をする(要資料)。また受講者は教材の持つ教材性を予習しておく
第3回	・模擬授業の実施⑧ ・研究協議会の実施⑧	・実践的スキルを高める姿勢や、創意工夫が見られる ・研究協議や演習に積極的取り組んでいる	・授業者は内容を練り音取りや伴奏等の十分な準備をする(要資料)。また受講者は教材の持つ教材性を予習しておく

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容)	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業の実施⑨ ・研究協議会の実施⑨ ・現場授業参観等の希望調査実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践的技能を高める姿勢や、創意工夫が見られる ・研究協議や演習に積極的取り組んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者は内容を練り音取りや伴奏等の十分な準備をする(要資料)。また受講者は教材の持つ教材性を予習しておく
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業の実施⑩ ・研究協議会の実施⑩ ・現場授業参観等の事前注意確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践的技能を高める姿勢や、創意工夫が見られる ・研究協議や演習に積極的取り組んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者は内容を練り音取りや伴奏等の十分な準備をする(要資料)。また受講者は教材の持つ教材性を予習しておく
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・教育現場の音楽授業参観 ・教育現場の校内合唱コンクール参観 	<ul style="list-style-type: none"> ・参観のレポートを的確に作成している 	<ul style="list-style-type: none"> ・参観する学校等についてホームページなどで下調べしておく
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業の実施⑪ ・研究協議会の実施⑪ ・演習／現場授業等参観の総括 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践的技能を高める姿勢や、創意工夫が見られる ・研究協議や演習に積極的取り組んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者は内容を練り音取りや伴奏等の十分な準備をする(要資料)。また受講者は教材の持つ教材性を予習しておく
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業の実施⑫ ・研究協議会の実施⑫ 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践的技能を高める姿勢や、創意工夫が見られる ・研究協議や演習に積極的取り組んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者は内容を練り音取りや伴奏等の十分な準備をする(要資料)。また受講者は教材の持つ教材性を予習しておく
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業の実施⑬ ・研究協議会の実施⑬ 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践的技能を高める姿勢や、創意工夫が見られる ・研究協議や演習に積極的取り組んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者は内容を練り音取りや伴奏等の十分な準備をする(要資料)。また受講者は教材の持つ教材性を予習しておく
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業の実施⑭ ・研究協議会の実施⑭ ・ジグソー法と授業展開事例 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践的技能を高める姿勢や、創意工夫が見られる ・研究協議や演習に積極的取り組んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者は内容を練り音取りや伴奏等の十分な準備をする(要資料)。また受講者は教材の持つ教材性を予習しておく
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業の実施⑮ ・研究協議会の実施⑮ 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践的技能を高める姿勢や、創意工夫が見られる ・研究協議や演習に積極的取り組んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者は内容を練り音取りや伴奏等の十分な準備をする(要資料)。また受講者は教材の持つ教材性を予習しておく
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業の実施⑯ ・研究協議会の実施⑯ 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践的技能を高める姿勢や、創意工夫が見られる ・研究協議や演習に積極的取り組んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者は内容を練り音取りや伴奏等の十分な準備をする(要資料)。また受講者は教材の持つ教材性を予習しておく
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業の実施⑰ ・研究協議会の実施⑰ ・講義／新時代の音楽教育とリズム 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践的技能を高める姿勢や、創意工夫が見られる ・研究協議や演習に積極的取り組んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者は内容を練り音取りや伴奏等の十分な準備をする(要資料)。また受講者は教材の持つ教材性を予習しておく
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業の実施⑱ ・研究協議会の実施⑱ ・講義／「現場の先生方の取り組みに学ぶ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践的技能を高める姿勢や、創意工夫が見られる ・研究協議や演習に積極的取り組んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者は内容を練り音取りや伴奏等の十分な準備をする(要資料)。また受講者は教材の持つ教材性を予習しておく
第15回	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ(筆記テスト) ・指導案課題の提出 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領について復習しておく ・提出できるようレポート(指導案)を完成させておく

科目名(クラス)	教育行政-a・b	開講学期	a前期 b後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	曾我部 延孝	履修対象・条件	教職課程履修者と教職特設コースは必修				

【授業の「概要」と「目的」】

○『教育行政』とは、分かりやすく言うと、私たち(国民)のための教育条件を整備することです。すなわち、私たちが、生涯にわたって教育活動や余暇の生活を送ることができるように舞台を整える仕事のことです。
 ○文部科学省・教育委員会は、例えば、卒業後、文化センターや公民館などの生涯学習施設に、自分が身に付けた音楽のスキルを発揮できる舞台を提供してくれる必要な行政機関です。
 ○しかし、皆さんの年代では、それらの教育行政機関については、マスコミの報道などで形成されたイメージの範囲内でとどまっていることが多く、実際の仕組みや役割についてよく知られていません。
 ○そこで本科目では、教育行政に関する基本的な知識や概要を、現在の教育の現状と課題を踏まえながら授業を展開していきます。具体的には、様々な事例を取り上げながら、学校教育のみでなく、将来必ずや音楽専攻の皆さんの活躍の舞台となりうる生涯学習社会＝社会教育行政に関することに触れていきます。

【授業の「方法」と「形式」】

・『一斉授業』を授業形態の基本としますが、プレゼン(発表学習)や資料の輪読も取り入れ、互いに学び合う形式を設けます

【履修時の「留意点」と「心得」】

○教職課程＝教える立場に立つ日に備えての履修科目です。私語は厳禁です。自らの姿勢を律して授業に臨んでこそ、音楽教師としての基礎・基本が培われることを肝に銘じて学んでほしい。
 ○ノート・授業記録、レポート、論作文など言葉力をつける学習作業を重視します。特にノートは、世界にたった1冊しかない”私”用の教科書を作ることです。特に、授業では法令の条文、教育委員会などの行政のしくみが学びの基本となるので、知識習得のためにも板書事項や条文の記入など「書く」ことは必須です。

教科書	必携「教職六法」(既に所有しているものでよい)	著者等		出版社	協同出版
教科書		著者等		出版社	
参考文献	「教育の経営・制度」	著者等	田中智志・橋本	出版社	一藝社
参考文献	広報誌・図書館など公共施設の情報リーフレット	著者等	教育関係	出版社	各自治体発行

【成績評価の「方法」と「基準」】

- (1)定期試験 60% (授業内容の総括→①筆記問題 50% ②小論文 10%)
- (2)パフォーマンス評価 20% (①教育行政に関わる公共施設訪問レポート 10% ②プレゼンテーション 10%)
- (3)ノート・授業記録 20% (①ノート10% ※大学ノートを使用 ②授業記録 10% ※毎回提出)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	ガイダンス ・シラバス=授業計画について ・1時限の授業の流れ ・教科書『教職六法』の活用の仕方	・時々刻々と変化する社会の中で、教育行政の重要性について認識することが出来る。 ・音楽関係の仕事は教育行政機関との連携・関わりが大であることがわかる。	予習: 授業ノート(大学ノート)を用意する。 復習: 「履修ガイド」P33~34を読み、「教育行政」はなぜ、教員免許状を取得するために必要な単位なのかを理解する。
第2回	教育行政のあり方 ・教育行政とは何に基づいて、誰のために行われるのか ・日本国憲法と教育基本法	・『教育行政』の役割は、私たち(国民)のための教育条件を整備することが理解できる。 ・教育行政の基本的性質は、法に基づくことが理解できる。	予習: 憲法第26条及び教育基本法全文を読んでおく。 復習: ①演習プリントを仕上げ、ノートに貼付する。条文をノートに記入する。
第3回	教育行政を動かす組織～教育委員会・文部科学省(1)～ ・教育委員会とは ・教育委員会の組織、主な事務	・教育委員会制度、組織、事務局の職務内容の概要について、HP公開の「〇〇市教育委員会の今年度計画パネル」資料等をおとして理解できる。	予習: 教育委員会のイメージを発表できるようにしておく。 復習: 資料「教育委員会が担当する主な事務」内容をノートに記入する

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	教育行政を動かす組織～教育委員会・文部科学省(2)～ ・教育委員会制度に関する基礎知識 ・新教育委員会制度の概要	・教育委員会制度の趣旨が理解できる。 ・教育委員会制度のもと、これからの教育がどのように変化していくかを考察できる。	予習・復習:プリント資料をもとに、新教育制度の要旨をノートにまとめ、次時の授業に備える。 復習:ノートのまとめ、プリント資料の整理をしておくこと。
第5回	教育行政を動かす組織～教育委員会・文部科学省(3)～ ・生涯学習と社会教育行政	・広義の生涯学習の捉え方が理解できる。 ・本学が、社会人教育、地域との連携に積極的に取り組んでいることがわかる。	予習:本学の「リカレント教育」「大学エクステンションセンター」の様子を調べる。 復習:ノートのまとめ、プリント資料の整理をしておくこと。
第6回	教育行政を動かす組織～教育委員会・文部科学省(4)～ ・文部省の任務、組織 ・本学と文科省	・教育行政を担う中心は文科省であることが理解できる。 ・文科省の施策のもと本学の教育活動がなされていることが資料等から知ることが理解できる。	予習:行政機関訪問レポート作成・プレゼンに向け、訪問計画を立て取り組んで行く。 復習:ノートのまとめ、プリント資料の整理をしておくこと。
第7回	教育行政を動かす組織～教育委員会・文部科学省(5)～ ・教育財政とは ・文科省予算の用途	・教育財政に関する基礎知識を、文科省予算の概要から理解できる。 ・主な学校教育予算の内訳(用語)が理解できる。	予習:28年度文科省予算額を調べておく。 復習:ノートのまとめ、プリント資料の整理をしておくこと。
第8回	教育行政の責務～教育を受ける権利の保障～ ・教育の機会均等 ・就学前(5歳児)の教育→幼保一元化 ・「教育扶助」「就学援助」	・就学前の子供たちの学びの現状と今後の在り方について考察できる。 ・法令に基づく「教育の機会均等」について理解できる。	予習:幼保一元化の意味を調べておく。 復習:ノートのまとめ、プリント資料の整理をしておくこと。
第9回	教育課程行政(1) ・「カリキュラム」と「教育課程」 ・本学の教育課程、カリキュラム体系	・「カリキュラム」と「教育課程」の意味について理解できる ・学校の「教育課程」について、法的な流れに基づいて編成されることが理解できる。	予習:本学の履修ガイド2～6ページ及びwebサイトを開きカリキュラム体系を見ておく。 復習:ノートのまとめ、プリント資料の整理をしておくこと。
第10回	・レポート発表『私の教育行政機関訪問記』 教育課程行政(2) ・教科用図書と補助教材	・各自の発表をとおして互いに学び合うことができる。 ・小・中・高の教科書や補助教材の実物を確認して法的根拠の基礎知識を学ぶことができる。	予習:各自、5分間を目安とした発表時間にプレゼンが行われるよう事前に練習しておく。 復習:ノートのまとめ、プリント資料の整理をしておくこと。
第11回	教育課程行政(2) ・学習指導要領の変遷	・学習指導要領の変遷について概要が理解できる。 ・現在の学習指導要領の内容を理解できる。	予習:現在、全面改訂が進められている学習指導要領のポイントをネット等で調べる。 復習:ノートのまとめ、プリント資料の整理をしておくこと。
第12回	教職と学校(1) ・用語「先生・教師・教諭・教員」から教職の道について考える ・教員の研修	・「教員」という職業の性格について考察できる。 ・関連法令などをもとに「研修」の意義について理解できる。	予習:本学の履修ガイド30ページ『ウィーンアカデミー研修』を読んで『研修』の意義を把握する。 復習:ノートのまとめ、プリント資料の整理をしておくこと。
第13回	教職と学校(2) ・教職員の服務 ・服務の宣誓 ・服務義務違反	・服務に関する基本的な知識を身につけることができる。 ・職業に就くと、服務(就業規則)を遵守しなければならないことが自覚できる。	予習:マスコミ報道などから受ける教師のイメージを発表できるようにしておく。 復習:演習プリントを整理し、ノートに貼付する。
第14回	教職と学校(3) ・教育行政と学校経営 ・学校における指導組織と学級経営の基本	・学校にもなぜ「経営」という営みが求められるかを考察できる。 ・学校組織における様々な基本用語を習得できる。	予習:次回の定期試験に向けてノートのまとめ、プリント資料の整理する。 復習:ノートのまとめ、プリント資料の整理をしておくこと。
第15回	本科目の総括 ・本科目で学んだ基礎知識 ・本科目をとおして考えたこと	・教育行政＝教育委員会は教職の道の手立てとなるだけでなく、音楽活動を続けていく上で必要不可欠な存在であることが認識できる。	復習:筆記試験及び小論文をとおして本科目のまとめを行う。

科目名(クラス)	音楽科教育法A-a・b	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	西田 康子	履修対象・条件	教職課程履修者と教職特設コースは必修				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・生きる力の根幹である学習指導要領の基礎的理論(目標と内容)について学びます。
- ・中学校・高等学校の音楽科実践に向けた知識や技能を習得します。
- ・教職を目指す初期段階として、グループワークや模擬授業を通して、音楽教員としての資質向上を身につけます。

【授業の「方法」と「形式」】

- ・講義形式、グループワーク、模擬授業を通して互いに学び合う授業形式を行います。
- ・DVD・CD・自作教材を通じた視聴覚機器等も使用しながら進めます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・演習ではグループ活動、実技指導を積極的に取り入れます。
- ・学校現場での体験学習も行いますので積極的に参加してください。

教科書	中学性の音楽1、同2・3年の上下、 中学生の	著者等	小原光一 他	出版社	教育芸術社
教科書	中学校学習指導要領解説(音楽編)	著者等	文部科学省	出版社	教育芸術社
参考文献	必要に応じて配付します	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・以下の内容について総合的に判断し、評価します。
 - ①弾き歌い実技テスト
 - ②模擬授業の取り組み状況(事前準備、実践状況、事後レポートなど)
 - ③模擬授業実践に向けて、自分の考えをもって指導方法を考察してる
 - ④授業への主体的な学習態度(関心、意欲、態度)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の概要(弾き歌いテスト・模擬授業) ・教科書及び参考書の説明 ・授業規律 ・自己紹介(プレゼン) 	概要と目的を理解し授業計画を作成する。	・弾き歌いテストの準備
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽科授業について(模擬授業、教育実習校での授業風景から学ぶこと) ・教科書を通して(発達段階における共通教材曲を理解する) 	・視聴後グループワークでテーマに即した協議を行う。	・ポートフォリオ
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽科授業について(模擬授業、教育実習校での授業風景から学ぶこと) ・教科書を通して(発達段階における共通教材曲を理解する) 	・視聴後グループワークでテーマに即した協議を行う。	・次回の弾き歌いテスト準備(選曲を事前に知らせ十分な準備しておく)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	・弾き歌いテスト	・伴奏、発声、範唱する中で技能を高める。適度な声の出し方により創意工夫ができる。	プレゼン者は、選曲を事前に知らせ十分な準備をしておく
第5回	・弾き歌いテスト	・伴奏、発声、範唱する中で技能を高める。適度な声の出し方により創意工夫ができる。	・自己評価を振り返る(成果と課題)
第6回	・学校教育における音楽科の目標と内容 ・学習指導要領の発達段階における目標と内容	・資料に基づいた音楽科の目標と内容が理解できる。 ・学習指導要領の目標と内容が理解できる。	・資料に基づいた発達段階における重要な目標と内容を習得させる。
第7回	・学校教育における音楽科の目標と内容 ・音楽科の答申から示された改善の方向について	中央教育審議会から示された改善の内容を理解できる。 ・学習指導要領の目標と内容が理解できる。	学習指導要領に目を通す。
第8回	・学習指導案の作成と手順について理解する	・指導案の書き方(実例を通して理解できる) ・模擬授業計画を立てる。	学習指導案の作成資料でプレゼンを通して理解させる。
第9回	・学習指導案の様々な事例について研究	・指導案の書き方(実例を通して理解できる) ・模擬授業計画を立てる。	学習指導案の作成資料でプレゼンを通して理解させる。
第10回	授業見学準備	・学校種による授業見学をすることによって授業づくりの理解ができる。 ・学習の方法について理解できる。	・依頼する学校内の諸事情により参観日時が変更になることもあることを伝える。、
第11回	授業見学準備	・学校種による授業見学をすることによって授業づくりの理解ができる。 ・学習の方法について理解できる。	・依頼する学校内の諸事情により参観日時が変更になることもあることを伝える。、
第12回	授業見学準備	・学校種による授業見学をすることによって授業づくりの理解ができる。 ・学習の方法について理解できる。	・依頼する学校内の諸事情により参観日時が変更になることもあることを伝える。、
第13回	・和楽器の理解と演奏	・中学校・高等学校音楽授業で取り上げられる和楽器(箏)について学び、簡単な曲が演奏できる。	・我が国の伝統音楽についての知識、理解を深めておく。
第14回	・和楽器の理解と演奏	・中学校・高等学校音楽授業で取り上げられる和楽器(箏)について学び、簡単な曲が演奏できる。	・我が国の伝統音楽についての知識、理解を深めておく。
第15回	・歌唱指導による「10分導入授業」を行う ・学習指導案の作成と手順について理解する	・導入としての授業づくり実践を行い、模擬授業づくりの意識高揚に努める。	・2人組体制でグループ作りを準備しておく。(教科書から自由に選曲)

科目名(クラス)	音楽科教育法B-a・b	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	西田 康子	履修対象・条件	教職課程履修者と教職特設コースは必修				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・生きる力の根幹である学習指導要領の基礎的理論(目標と内容)について学びます。
- ・中学校・高等学校の音楽科実践に向けた知識や技能を習得します。
- ・教職を目指す初期段階として、グループワークや模擬授業を通して、音楽教員としての資質向上を身につけます。

【授業の「方法」と「形式」】

- ・講義形式、グループワーク、模擬授業を通して互いに学び合う授業形式を行います。
- ・DVD・CD・自作教材を通じた視聴覚機器等も使用しながら進めます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・演習ではグループ活動、実技指導を積極的に取り入れます。
- ・学校現場での体験学習も行いますので積極的に参加してください。

教科書	中学性の音楽1、同2・3年の上下、 中学生の	著者等	小原光一 他	出版社	教育芸術社
教科書	中学校学習指導要領解説(音楽編)	著者等	文部科学省	出版社	教育芸術社
参考文献	必要に応じて配付します	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・以下の内容について総合的に判断し、評価します。
 - ①弾き歌い実技テスト
 - ②模擬授業の取り組み状況(事前準備、実践状況、事後レポートなど)
 - ③模擬授業実践に向けて、自分の考えをもって指導方法を考察してる
 - ④授業への主体的な学習態度(関心、意欲、態度)

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	・歌唱指導による「10分導入授業」を行う ・学習指導案の作成と手順について理解する	・導入としての授業づくり実践を行い、模擬授業づくりの意識高揚に努める。	・2人組体制でグループ作りを準備しておく。(教科書から自由に選曲)
第2回	模擬授業及び検証①	・あらかじめ決定した計画に沿って、行っていく。 ・研究協議会を実施し、実践的な授業方法を学ぶ。	・研究協議を通して教師としての授業づくりのポイントを伝授する
第3回	模擬授業及び検証①	・あらかじめ決定した計画に沿って、行っていく。 ・研究協議会を実施し、実践的な授業方法を学ぶ。	・研究協議を通して教師としての授業づくりのポイントを伝授する

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	授業見学		
第5回	模擬授業及び検証①	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ決定した計画に沿って、行っていく。 ・研究協議会を実施し、実践的な授業方法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究協議を通して教師としての授業づくりのポイントを伝授する
第6回	模擬授業及び検証①	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ決定した計画に沿って、行っていく。 ・研究協議会を実施し、実践的な授業方法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究協議を通して教師としての授業づくりのポイントを伝授する
第7回	模擬授業及び検証①	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ決定した計画に沿って、行っていく。 ・研究協議会を実施し、実践的な授業方法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究協議を通して教師としての授業づくりのポイントを伝授する
第8回	模擬授業及び検証①	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ決定した計画に沿って、行っていく。 ・研究協議会を実施し、実践的な授業方法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究協議を通して教師としての授業づくりのポイントを伝授する
第9回	模擬授業及び検証①	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ決定した計画に沿って、行っていく。 ・研究協議会を実施し、実践的な授業方法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究協議を通して教師としての授業づくりのポイントを伝授する
第10回	模擬授業及び検証①	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ決定した計画に沿って、行っていく。 ・研究協議会を実施し、実践的な授業方法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究協議を通して教師としての授業づくりのポイントを伝授する
第11回	模擬授業及び検証①	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ決定した計画に沿って、行っていく。 ・研究協議会を実施し、実践的な授業方法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究協議を通して教師としての授業づくりのポイントを伝授する
第12回	模擬授業及び検証①	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ決定した計画に沿って、行っていく。 ・研究協議会を実施し、実践的な授業方法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究協議を通して教師としての授業づくりのポイントを伝授する
第13回	模擬授業及び検証①	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ決定した計画に沿って、行っていく。 ・研究協議会を実施し、実践的な授業方法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究協議を通して教師としての授業づくりのポイントを伝授する
第14回	模擬授業及び検証①	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ決定した計画に沿って、行っていく。 ・研究協議会を実施し、実践的な授業方法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究協議を通して教師としての授業づくりのポイントを伝授する
第15回	本科目の総括(最終試験)	本科目の履修を踏まえて、音楽科教師としての心構えや基本的、基礎的事項を身につけている。	本学習で学んだ学習指導要領の理解が身につけたか分析しておくこと。

科目名(クラス)	道徳教育の研究 a・b	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	五十嵐 由和	履修対象・条件	教職コースは必修。教職課程履修者で中学免許取得希望者は必修				

【授業の「概要」と「目的」】

道徳は、教科化され「特別な教科による道徳」(道徳科)となる。ますます、道徳教育は、教育基本法にも明示された人格の完成を目標とした我が国教育の根幹として、道徳の時間(道徳科)を要として学校教育活動全体を通じた道徳教育の充実した取り組みが求められている。

道徳教育は、人間が本来持っているよりよく生きたいという願いやよりよい生き方を求め実践する人間の育成を目指し、その基盤となる道徳性を養う教育活動である。

本講義では、道徳教育の中心的な役割を担う道徳の時間の特質や内容について理解を深めるとともに、自己を見つめ、道徳的価値に基づいた生き方の自覚を深める指導のあり方について理論と実践の両面から学んでいく。

中学校・高校の教師としての道徳教育、特に道徳の時間(道徳科)の理論と実践の両面から学び、専門的指導力の向上を図る。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式 ・各回の授業では、パワーポイントやプリントの資料等を使用します。教師として、アクティブラーニングによる授業を実践し分かる授業づくりができるようになることを目的に、講義では、グループ討議、全体での話し合い活動、発表、実際の授業の視聴、演習(学習指導案の作成)・レポートの作成、振り返り(自己評価)を行い、主体的に学ぶ授業を展開します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

道徳教育の内容は、生涯かけて追い求めていくもので、自らの生き方の課題として道徳教育を考えていくことが大切です。児童生徒とともに共に生き方を考える教師として誠意と自覚をもって積極的に受講してください。特に、アクティブラーニングによる授業を行うことのできる教師として、アクティブラーニングによる学びが実践できるように留意すること。

教科書	中学校学習指導要領解説・道徳編	著者等	文部科学省	出版社	日本文教出版
教科書		著者等		出版社	
参考文献	小学校学習指導要領解説・道徳編	著者等	文部科学省	出版社	東洋館出版
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

・学修態度・振り返り用紙(30%)、資料吟味・学習指導案(20%)、レポート・確認テスト(50%)によって総合的に評価する。

・道徳教育の内容は、自らの生き方の課題として考えるものであり、生徒とともに共に考える教師として誠意と自覚をもって、アクティブラーニングによる学修を実践し、積極的に受講していく姿勢を高く評価する。ただし、教師を養成する講座であるので、その資質や意欲のないものは評価しない。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	道徳教育の基礎(1) 授業ガイダンス、道徳の本質と学校における道徳教育	授業の学び方について、理解する。道徳教育の本質と学校における道徳教育の役割について理解し、説明ができる。	・中学校学習指導要領解説・道徳編P1～P5を事前事後に確認する。・振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第2回	道徳教育の基礎(2) 道徳教育の歴史 道徳教育の経緯と特徴、求められている課題	道徳教育の変遷の経緯と課題について理解し、論理的にまとめることができる。	中学校学習指導要領解説・道徳編P5～P14を事前事後に確認する。・振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第3回	道徳教育の基礎(3) 道徳教育の基本的なあり方 道徳の意義 道徳性の発達 生徒の取り巻く社会の変化と道徳教育	道徳教育の意義、道徳性について理解し、論理的に説明できる。	中学校学習指導要領解説・道徳編P14～P23を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	道徳教育の基礎(4) 道徳教育の構造と役割 道徳教育と道徳の時間	道徳教育の構造と役割について理解し、論理的に説明ができる。	中学校学習指導要領解説・道徳編P24～P35を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第5回	道徳教育の基礎(5) 道徳教育の目標及び内容項目	道徳教育の目標及び内容項目について具体的に理解できる。	中学校学習指導要領解説・道徳編P36～P63を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第6回	道徳教育の基礎(6) 道徳の指導計画 全体計画と道徳の時間の年間指導計画	道徳の時間の特質や諸計画について理解し、諸計画を自分なりに構想しようとする意欲をもつことができる。	中学校学習指導要領解説・道徳編P72～P81を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第7回	道徳の時間(道徳科)の指導の基本方針と進め方(1) 資料の活用と役割	道徳の時間(道徳科)の指導の実際の概要を理解できる。	中学校学習指導要領解説・道徳編P82～P84を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第8回	道徳の時間(道徳科)の進め方(2) 学習過程の基本	道徳の時間(道徳科)の指導の展開の概要を理解し、学習指導案づくりに意欲をもつことができる。	中学校学習指導要領解説・道徳編P82～P84を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第9回	資料吟味と学習指導案の作成1 演習1	道徳の時間(道徳科)の資料吟味と学習指導案の作成が概ね理解できる。	中学校学習指導要領解説・道徳編P85～P90を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第10回	学習指導案の作成1 演習2	道徳の時間(道徳科)の学習指導案の作成の仕方を理解し、書くことができる。	中学校学習指導要領解説・道徳編P89～P90を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第11回	発問構成と話し合い活動の実際	学習指導案をもとに、授業構成、発問構想を考え、生徒の学習活動を踏まえ、話し合い活動の展開を考えることができる。	資料吟味を完成させる。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第12回	資料吟味と楽手指導案の作成2 演習3	道徳の時間(道徳科)の資料吟味と学習指導案の作成方法が理解できる。	学習指導案を構想する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第13回	学習指導案の作成2 演習4	アクティブラーニングによる道徳の時間(道徳科)の学習指導案の作成ができる。	学習指導案を完成させる。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第14回	道徳授業の評価と改善	道徳教育の評価と評価方法について理解し、説明ができる。	中学校学習指導要領解説・道徳編P129～P134を確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第15回	道徳教育の基礎基本の理解及び学級担任として実践構想	道徳教育の基礎基本の理解し、学級担任として実践構想をすることができる。	授業で使用した確認プリントを整理し、確認する。

科目名(クラス)	特別活動の研究 a・b	開講学期	a前期 b後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	五十嵐 由和	履修対象・条件	教職コースと教職課程履修者は必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

現在の中学生・高校生の課題として、自分への自信の欠如や自らの将来の不安、好ましい人間関係を築けないなどの課題が指摘されており、課題解決のために、特別活動を通して、体験活動や話し合い活動、集団活動による教育活動の一層の充実が求められている。特別活動においては、望ましい集団活動を通して、一人ひとりの自主的・実践的な態度の育成などの生きて働く社会性を身につけ、人間形成を図る教育活動である。

本講座では、特別活動の基礎理論を学ぶとともに学級担任として特別活動において必要な学級活動、学校行事、生徒会活動などについて、理解を深めるとともに指導の在り方について、具体的な事例研究・演習等を通して、理論と実践の両面から授業を展開する。そのことを通して、「特別活動の基礎理論と学級経営の実際と工夫」を実践的に学ぶことを目的とする。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義形式 ・各回の授業では、パワーポイントやプリントの資料等を使用します。教師として、アクティブラーニングによる授業を実践し分かる授業づくりができるようになることを目的に、講義では、グループ討議、全体での話し合い活動、発表、事例による演習・レポートの作成、振り返り(自己評価)を行い、主体的に学ぶ授業を展開します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

日々接する学級担任は、生徒の人格形成に大きな影響を与えます。言葉だけでなく、はっきりと行動で示せる教師、背中で教えることのできる教師にならなければなりません。そうした教師の役割の大きさを自覚し、誠意をもって積極的に受講してください。特に、アクティブラーニングによる授業を行うことのできる教師として、アクティブラーニングによる学びが実践できるように留意すること。

教科書	中学校学習指導要領解説・特別活動編	著者等	文部科学省	出版社	ぎょうせい
教科書		著者等		出版社	
参考文献	小学校学習指導要領解説・特別活動編	著者等	文部科学省	出版社	東洋館出版
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

・毎回の授業での、学修態度・振り返り用紙(30%)、学級通信・3分間スピーチ(20%)、学期末定期試験(50%)によって総合的に評価する。

・教師として使命と責任を自覚し、アクティブラーニングによる学修を実践し、誠意をもって積極的に受講していく姿勢を高く評価する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	特別活動の基礎1 授業ガイダンス 現代の中高生の課題と特別活動の趣旨 特別活動とは何か。	授業の受け方や中学校学習指導要領解説特別活動編の使い方を理解し、特別活動の趣旨について説明ができる。	中学校学習指導要領解説・特別活動編P1～P6を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第2回	特別活動の基礎2 特別活動の目標・内容 学級活動 生徒会活動 学校行事	特別活動の目標・内容を学級活動・生徒会活動・学校行事を踏まえ、説明が出来る。	中学校学習指導要領解説・特別活動編P7～P12、P117～119を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第3回	特別活動の基礎3 特別活動の基本的な性格と教育的意義 人間形成と特別活動 特別活動と各教科、道徳、総合的な学習の時間等の関連	特別活動と各教科等との関連について理解し、特別活動の意義について説明ができる。	中学校学習指導要領解説・特別活動編P13～P24を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	特別活動の基礎4 学級担任の基本姿勢と先生と生徒の人間関係について	学級担任のあるべき基本的な姿勢について、説明ができる。	中学校学習指導要領解説・特別活動編P7～P11を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第5回	特別活動の基礎5 学級活動の目標と内容	学級活動の目標や内容について生徒の学習内容を踏まえ、具体的に説明できる。	中学校学習指導要領解説・特別活動編P25～P57を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第6回	学級経営の実際と工夫1 学級集団づくり 組織づくりと教室経営	学級集団づくりについて、組織づくりと教室経営の視点から説明することができる。	中学校学習指導要領解説・特別活動編P27～P30を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第7回	学級経営の実際と工夫2 学級の生活づくり 当番活動 係活動 集会活動	学級の生活づくりについて、当番活動や係活動、集会活動の視点から説明することができる。	中学校学習指導要領解説・特別活動編P51～P57を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第8回	学級経営の実際と工夫3 学級担任とキャリア教育	学級担任が行うキャリア教育が充実する必要性について説明できる。	中学校学習指導要領解説・特別活動編P39～P44を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第9回	特別活動の基礎6 生徒会活動の目標と内容	生徒会活動の目標や内容について生徒の学習内容を踏まえ、具体的に説明できる。	中学校学習指導要領解説・特別活動編P58～P73を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第10回	特別活動の基礎7 学校行事の目標と内容	学校行事の目標や内容について生徒の学習内容を踏まえ、具体的に説明できる。	中学校学習指導要領解説・特別活動編P74～P99を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第11回	学級経営の実際と工夫4 いじめに強い学級づくり	いじめに強い学級づくりについて、授業で学んだことを基に自分なりに構想できる。	中学校学習指導要領解説・特別活動編P12を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第12回	学級経営の実際と工夫5 学級担任として学級経営を構想する。 学級通信の書き方を学ぶ。	学級経営の構想を基に、学級通信を書くことができる。	小中高等学校の時の学級通信を振り返り、自分なりの通信を構想する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第13回	学級経営の実際と工夫6 学級通信を完成と評価。	学級通信を完成させ、学級通信の評価をすることができる。	学級通信を完成させるための、資料づくりをする。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第14回	特別活動における評価	評価の理論を理解し、事例をもとに評価の実際について考えることができる。	中学校学習指導要領解説・特別活動編P105を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第15回	まとめ 特別活動の意義と役割を踏まえた学級経営構想	特別活動の基礎、意義や役割を踏まえた学級経営構想について説明することができる。	授業で使用した確認プリントを整理し、確認する。

科目名(クラス)	生徒指導の研究 a・b	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	五十嵐 由和	履修対象・条件	教職コースは必修。教職課程履修者で中学免許取得希望者は必修				

【授業の「概要」と「目的」】

生徒に夢や希望をもって、充実した学校生活を過ごさせたい。教師の共通した願いである。しかし、近年、少年非行、暴力行為、いじめ、不登校問題、学級崩壊といわれる学級が機能しない状況が多く見受けられ、生徒指導の充実が求められている。生徒指導は学校教育においては一人ひとりの生徒の健全な成長を目指すものであり、究極的には自己指導能力を身に付けさせることを目指すものである。

本講座では、生徒指導の教育的意義や指導原理を踏まえ、基本的な生活習慣の定着、いじめ、不登校、暴力行為などの中学校・高等学校で生徒指導上の課題や問題を生徒指導の理論や考え方、実際の指導法、予防指導のあり方・方法など事例を基に授業を展開する。

「生徒指導の基礎を学ぶとともに生徒指導の実際と進め方」を実践的に学ぶことを目的とする。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式 ・各回の授業では、パワーポイントやプリントの資料等を使用します。教師として、アクティブラーニングによる授業を実践し分かる授業づくりができるようになることを目的に、講義では、グループ討議、全体での話し合い活動、発表、実際の授業の視聴、事例による演習・レポートの作成、振り返り(自己評価)を行い、主体的に学ぶ授業を展開します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

日々接する学級担任は、生徒の人格形成に大きな影響を与えます。言葉だけでなく、はっきりと行動で示せる教師、背中では教えることのできる教師にならなければなりません。そうした教師の役割の大きさを自覚し、誠意をもって積極的に受講してください。特に、アクティブラーニングによる授業を行うことのできる教師として、アクティブラーニングによる学びが実践できるように留意すること。

教科書	生徒指導提要	著者等	文部科学省	出版社	教育図書株式会社
教科書		著者等		出版社	
参考文献	中学校学習指導要領解説・特別活動編	著者等	文部科学省	出版社	東洋館出版
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

・毎回の授業での、学修態度・振り返り用紙(30%)、事例研究レポート(20%)、学期末定期試験(50%)によって総合的に評価する。

・教師として使命と責任を自覚し、アクティブラーニングによる学修を実践し、誠意をもって積極的に受講していく姿勢を高く評価する。ただし、教師を養成する講座であるので、その資質や意欲のないものは評価しない。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	生徒指導の基礎1 授業ガイダンス 生徒指導の意義と課題 教育課程における生徒指導	授業の受け方や生徒指導提要の使い方を理解し、生徒指導の意義と課題について説明ができ、機能としての生徒指導の役割を理解できる。	生徒指導提要P1～P8を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第2回	生徒指導の基礎2 児童生徒の心理と児童生徒理解 児童期の心理と発達 青年期の心理と発達(思春期・中1ギャップ)	児童期・青年期の心理を踏まえ、児童生徒の心理や児童生徒理解の、基本について説明ができる。	生徒指導提要P40～P65を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第3回	生徒指導の基礎3 生徒指導と教育課程 教育課程と生徒指導の相互作用 学習指導における生徒指導	教育課程と生徒指導の相互作用について説明ができる。	生徒指導提要P4～P8を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	生徒指導の基礎4 児童生徒の心理と発達障害 発達障害の定義 特性の理解 特性に応じた支援のあり方	発達障害について理解し、特性に応じた支援の必要性について説明ができる。	生徒指導提要P42～P53を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第5回	生徒指導の基礎5 学校における生徒指導体制 生徒指導体制の基本的な考え方 生徒指導の組織と生徒指導主事の役割	生徒指導体制、生徒指導の組織の重要性について、理解できる。	生徒指導提要P75～P91を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第6回	生徒指導の基礎6 教育相談 教育相談の意義と進め方 教育相談体制の構築とスクールカウンセラー 専門機関との連携	教育相談の意義を踏まえ、教育相談の進め方について具体的に説明できる。	生徒指導提要P92～P97、P112～P127を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第7回	生徒指導の実際と進め方1 学級担任が行う生徒指導	組織的対応や関係機関との連携の必要性について、説明できる。	生徒指導提要P96～P112を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第8回	生徒指導の実際と進め方1 学級担任が行う生徒指導 学級経営と生徒指導の進め方 基本的な生活習慣の確立 校内規律に関する指導 安全に関する指導	学級担任による生徒指導の基本を理解し、進め方について説明することができる。	生徒指導提要P138～P151を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第9回	生徒指導の実際と進め方3 授業における生徒指導 教師の効果的な指導 先生と生徒の信頼関係の醸成	授業における生徒指導の大切さを理解し、効果的な指導、先生と生徒の信頼関係の築き方について考えることができる。	生徒指導提要P152～P159を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第10回	生徒指導の実際と進め方4 いじめ問題の理解 事例の分析	いじめ問題の事例を通して、いじめ問題について理解できる。	生徒指導提要P173～P174を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第11回	生徒指導の実際と進め方5 少年非行、喫煙・飲酒・薬物乱用、暴力行為の対応、保護者、地域、関係機関との連携	少年非行の実態を理解し、解決の方策について考えることができる。	生徒指導提要P163～P172を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第12回	生徒指導の実際と進め方6 不登校生徒 定義と解消に向けた取り組み方法 校内で求められる生徒指導体制、命の教育	不登校生徒の定義を理解し、解消に向けた取り組みを考えることができる。	生徒指導提要P187～P189を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第13回	生徒指導の実際と進め方7 インターネット、スマホ、携帯電話等による諸課題と情報モラル教育	情報モラル教育の必要性について説明できる。	生徒指導提要P175～P177を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第14回	生徒指導の実際と進め方8 生徒指導に関する法制度 校則 懲戒と体罰 学校を中心とした家庭・地域・関係機関の連携	生徒指導に関する法制度を理解し、家庭・地域・関係機関のあり方について考えることができる。	生徒指導提要P192～P226を事前事後に確認する。振り返り用紙を記入し、学んだこと、疑問点・課題を確認し、まとめておくこと。
第15回	まとめ 学級担任と生徒指導の意義と役割	学級担任として、生徒指導の基盤について理解し、生徒指導の進め方や問題等に関する解決策を示すことができる。	授業で使用した確認プリントを整理し、確認する。

科目名(クラス)	教育総合科目(教職特設コース) I・IIA	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2・3
担当教員	粕谷 宏美 西田 康子 金井 良次	履修対象・条件	教職特設コースのみ履修可。必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・教育現場で音楽科の教員に求められる実践的指導力を身に付けることは、極めて重要です。
- ・授業では、音楽科の教員としての専門的資質力量を高めるため、各人の歌唱力や弾き歌いの力量を高めます。
- ・合唱Ⅲの授業と連携し、作品の分析・研究を行うとともに、演習をとおして指導法、指揮法を学びます。(Ⅱ)
- ・和楽器に対する知識や理解を深め、演奏力を高めます。
- ・教師として求められる企画力・実践力・プレゼンテーション力を高めます。

【授業の「方法」と「形式」】

・演習形式(レッスン形式も取り入れます。合唱指導と和楽器については、教育総合 I と II を合同で実施します。)

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・コンコーネ50番及び中学校共通教材をはじめ、学校現場で扱われる教材を把握し、練習しておいてください。
- ・音楽表現法で身に付けた様々な資質力量は常に向上させるよう努力してください。
- ・積極的な授業参加を望みます。

教科書	中学・高校の音楽教科書	著者等		出版社	文部科学省
教科書	コンコーネ50番(中声用)	著者等		出版社	全音楽譜出版
参考文献	必要に応じて配付します。	著者等		出版社	
参考文献	合唱Ⅲで扱う楽曲	著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

(380文字以内)

【教育総合科目Ⅰ A・B】

- ・コンコーネ50番より任意の曲を独唱
- ・中学・高校の教材の弾き歌い及び独唱
- ・箏曲独奏

【教育総合科目Ⅱ A・B】

- ・合唱・器楽作品分析と指導法研究
- ・指揮・指導力
- ・箏曲の独奏
- ・総合的演奏力
- 以上を総合的に評価する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	I 歌唱力向上(コンコーネ50番及び教材) II アンサンブル表現及び指導法研究	・歌うこと弾くことなど教材を表現する力量を身に付ける。(Ⅰ) ・アンサンブルとしての表現力や演奏力を身に付ける。(Ⅱ)	学校現場で取り上げられる作品について把握しておく
第2回	I 歌唱力向上(コンコーネ50番及び教材) II アンサンブル表現及び指導法研究	・歌うこと弾くことなど教材を表現する力量を身に付ける。(Ⅰ) ・アンサンブルとしての表現力や演奏力を身に付ける。(Ⅱ)	テーマについては、音取り及び作品に対する必要な知識を得ておき、よく練習しておくこと。
第3回	I 歌唱力向上(コンコーネ50番及び教材) II アンサンブル表現及び指導法研究	・歌うこと弾くことなど教材を表現する力量を身に付ける。(Ⅰ) ・アンサンブルとしての表現力や演奏力を身に付ける。(Ⅱ)	テーマについては、音取り及び作品に対する必要な知識を得ておき、よく練習しておくこと。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	I 歌唱力向上(コンコーネ50番及び教材) II アンサンブル表現及び指導法研究	・歌うこと弾くことなど教材を表現する力量を身に付ける。(I) ・アンサンブルとしての表現力や演奏力を身に付ける。(II)	テーマについては、音取り及び作品に対する必要な知識を得ておき、よく練習しておくこと。
第5回	I 歌唱力向上(コンコーネ50番及び教材) II アンサンブル表現及び指導法研究	・歌うこと弾くことなど教材を表現する力量を身に付ける。(I) ・アンサンブルとしての表現力や演奏力を身に付ける。(II)	テーマについては、音取り及び作品に対する必要な知識を得ておき、よく練習しておくこと。
第6回	I 歌唱力向上(コンコーネ50番及び教材) II アンサンブル表現及び指導法研究	・コンコーネ50番及び教材から任意の曲を選び独唱。(I) ・声楽曲・器楽曲より任意の曲をアンサンブル演奏(II)	・自信をもって発表できるよう十分な準備を行っておくこと。
第7回	合唱指導研究(I・II合同)①	・生徒の意欲を引き出す指導のあり方を研究し、演奏者・指揮者として資質力量を高める。	テーマについては、音取り及び作品に対する必要な知識を得ておく。
第8回	合唱指導研究(I・II合同)②	・生徒の意欲を引き出す指導のあり方を研究し、演奏者・指揮者として資質力量を高める。	テーマについては、音取り及び作品に対する必要な知識を得ておく。
第9回	合唱指導研究(I・II合同)③	・生徒の意欲を引き出す指導のあり方を研究し、演奏者・指揮者として資質力量を高める。	テーマについては、音取り及び作品に対する必要な知識を得ておく。
第10回	合唱指導研究(I・II合同)④	・生徒の意欲を引き出す指導のあり方を研究し、演奏者・指揮者として資質力量を高める。	テーマについては、音取り及び作品に対する必要な知識を得ておく。
第11回	合唱指導研究(I・II合同)⑤	・生徒の意欲を引き出す指導のあり方を研究し、演奏者・指揮者として資質力量を高める。	取り扱う作品については各自でよく練習しておくこと
第12回	合唱指導研究(I・II合同)⑥	・生徒の意欲を引き出す指導のあり方を研究し、演奏者・指揮者として資質力量を高める。	取り扱う作品については各自でよく練習しておくこと
第13回	合唱指導研究(I・II合同)⑦	・生徒の意欲を引き出す指導のあり方を研究し、演奏者・指揮者として資質力量を高める。	取り扱う作品については各自でよく練習しておくこと
第14回	合唱指導研究(I・II合同)⑧	・生徒の意欲を引き出す指導のあり方を研究し、演奏者・指揮者として資質力量を高める。	演奏する作品については各自でよく練習しておくこと
第15回	本科目の総括(実技試験)	・コンコーネ50番及び教材から任意の曲を選び独唱。(I) ・合唱曲の指揮・指導(II)	演奏する作品については各自でよく練習しておくこと

科目名(クラス)	教育総合科目(教職特設コース) I・II B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2・3
担当教員	粕谷 宏美 西田 康子 金井 良次	履修対象・条件	教職特設コースのみ履修可。必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・教育現場で音楽科の教員に求められる実践的指導力を身に付けることは、極めて重要です。
- ・授業では、音楽科の教員としての専門的資質力量を高めるため、各人の歌唱力や弾き歌いの力量を高めます。
- ・合唱Ⅲの授業と連携し、作品の分析・研究を行うとともに、演習をとおして指導法、指揮法を学びます。(Ⅱ)
- ・和楽器に対する知識や理解を深め、演奏力を高めます。
- ・教師として求められる企画力・実践力・プレゼンテーション力を高めます。

【授業の「方法」と「形式」】

- ・演習形式(レッスン形式も取り入れ、合唱指導研究と和楽器については、教育総合ⅠとⅡを合同で実施します。)

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・コンコーネ50番及び中学校共通教材をはじめ、学校現場で扱われる教材を把握し、練習しておいてください。
- ・音楽表現法で身に付けた様々な技術や力量は常に向上させるよう努力してください。
- ・積極的な授業参加を望みます。

教科書	コンコーネ50番(中声用)	著者等		出版社	全音楽譜出版
教科書	中学・高校の音楽教科書	著者等		出版社	
参考文献	必要に応じて配付します。	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

【教育総合科目Ⅰ A・B】

- ・コンコーネ50番より任意の曲を独唱(母音唱は自由)
- ・中学・高校の教材の弾き歌い及び独唱
- ・箏曲独奏

【教育総合科目Ⅱ A・B】

- ・アンサンブル表現(一人1パート)
 - ・指揮・指導力
 - ・箏曲の独奏
 - ・教育論文内容
- 以上を総合的に評価する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	伝統音楽 和楽器の理解と演奏(Ⅰ・Ⅱ合同)	中学校・高等学校の音楽の授業で取り上げられる和楽器(箏)について理解を深め、演奏力を高める。	・我が国の伝統音楽についての知識・理解を深めておく。 ・Ⅱの履修者はⅠの履修者に対して指導できるようにしておく。
第2回	伝統音楽 和楽器の理解と演奏(Ⅰ・Ⅱ合同)	中学校・高等学校の音楽の授業で取り上げられる和楽器(箏)について理解を深め、演奏力を高める。	・我が国の伝統音楽についての知識・理解を深めておく。 ・Ⅱの履修者はⅠの履修者に対して指導できるようにしておく。
第3回	伝統音楽 和楽器の理解と演奏(Ⅰ・Ⅱ合同)	中学校・高等学校の音楽の授業で取り上げられる和楽器(箏)について理解を深め、演奏力を高める。	・我が国の伝統音楽についての知識・理解を深めておく。 ・Ⅱの履修者はⅠの履修者に対して指導できるようにしておく。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	伝統音楽 和楽器の理解と演奏(Ⅰ・Ⅱ 合同)	中学校・高等学校の音楽の授業で取り上げられる和楽器(箏)について理解を深め、演奏力を高める。	・我が国の伝統音楽についての知識・理解を深めておく。 ・Ⅱの履修者はⅠの履修者に対して指導できるようにしておく。
第5回	伝統音楽 和楽器の理解と演奏(Ⅰ・Ⅱ 合同)	中学校・高等学校の音楽の授業で取り上げられる和楽器(箏)について理解を深め、演奏力を高める。	・我が国の伝統音楽についての知識・理解を深めておく。 ・Ⅱの履修者はⅠの履修者に対して指導できるようにしておく。
第6回	Ⅰ 歌唱力(コンコーネ51番及び教材曲より) Ⅱ 我が国の伝統音楽 歌唱研究	・歌うこと弾くことなど教材を表現する力量を身に付ける。(Ⅰ) ・我が国の伝統音楽の歌唱について研究する。(Ⅱ)	・事前に楽譜に目を通し、演奏できるように十分な練習をしておくこと。(Ⅰ) ・文献資料やDVD等を活用し、研究しておく。(Ⅱ)
第7回	Ⅰ 歌唱力(コンコーネ50番及び教材曲より) Ⅱ 我が国の伝統音楽 歌唱研究	・歌うこと弾くことなど教材を表現する力量を身に付ける。(Ⅰ) ・我が国の伝統音楽の歌唱について研究する。(Ⅱ)	・事前に楽譜に目を通し、演奏できるように十分な練習をしておくこと。(Ⅰ) ・文献資料やDVD等を活用し、研究しておく。(Ⅱ)
第8回	Ⅰ 歌唱力(コンコーネ50番及び教材曲より) Ⅱ 我が国の伝統音楽 歌唱研究	・歌うこと弾くことなど教材を表現する力量を身に付ける。(Ⅰ) ・我が国の伝統音楽の歌唱について研究する。(Ⅱ)	・事前に楽譜に目を通し、演奏できるように十分な練習をしておくこと。(Ⅰ) ・文献資料やDVD等を活用し、研究しておく。(Ⅱ)
第9回	Ⅰ 歌唱力(コンコーネ50番及び教材曲より) Ⅱ 我が国の伝統音楽 歌唱研究	・歌うこと弾くことなど教材を表現する力量を身に付ける。(Ⅰ) ・我が国の伝統音楽の歌唱について研究する。(Ⅱ)	・事前に楽譜に目を通し、演奏できるように十分な練習をしておくこと。(Ⅰ) ・文献資料やDVD等を活用し、研究しておく。(Ⅱ)
第10回	Ⅰ 歌唱力(コンコーネ50番及び教材曲より) Ⅱ 我が国の伝統音楽 歌唱研究	・歌うこと弾くことなど教材を表現する力量を身に付ける。(Ⅰ) ・我が国の伝統音楽の歌唱について研究する。(Ⅱ)	・事前に楽譜に目を通し、演奏できるように十分な練習をしておくこと。(Ⅰ) ・文献資料やDVD等を活用し、研究しておく。(Ⅱ)
第11回	Ⅰ 歌唱力(コンコーネ50番及び教材曲より) Ⅱ 教員採用試験実技試験の研究	・歌うこと弾くことなど教材を表現する力量を身に付ける。(Ⅰ) ・各人が受験する自治体の実技課題の力量を高める。(Ⅱ)	・事前に楽譜に目を通し、研究・分析をしてよりよい演奏ができるように十分な練習をしておくこと。(Ⅰ・Ⅱ)
第12回	Ⅰ 歌唱力(コンコーネ50番及び教材曲より) Ⅱ 教員採用試験実技試験の研究	・歌うこと弾くことなど教材を表現する力量を身に付ける。(Ⅰ) ・各人が受験する自治体の実技課題の力量を高める。(Ⅱ)	・事前に楽譜に目を通し、研究・分析をしてよりよい演奏ができるように十分な練習をしておくこと。(Ⅰ・Ⅱ)
第13回	Ⅰ 歌唱力(コンコーネ50番及び教材曲より) Ⅱ 教員採用試験実技試験の研究	・歌うこと弾くことなど教材を表現する力量を身に付ける。(Ⅰ) ・各人が受験する自治体の実技課題の力量を高める。(Ⅱ)	・事前に楽譜に目を通し、研究・分析をしてよりよい演奏ができるように十分な練習をしておくこと。(Ⅰ・Ⅱ)
第14回	Ⅰ 最終実技試験	・歌うこと弾くことなど教材を表現する力量を身に付ける。(Ⅰ) ・各人が受験する自治体の実技課題の力量を高める。(Ⅱ)	発表のための準備を十分に行っておくこと。
第15回	本科目の総括(発表と評価)	・インターンシップの報告プレゼンテーション(Ⅰ、Ⅱ)	・発表はひとり一人個別に行うこと。

科目名(クラス)	教職実践演習(中・高)	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	4
担当教員	粕谷 宏美 西田 康子 金井 良次	履修対象・条件	教職課程履修者のみ履修可。必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式。各グループで決めた課題研究を行い、アクティブラーニングを取り入れた授業を企画、運営する。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・日頃より教育に関する文献やニュースに関心をもち、批評的に捉え、議論に参加すること。
- ・音楽の授業や学校行事を振り返り、問題点や指導の方法について考察すること。
- ・教育実習や演習を通して自己の課題に気づき、その克服の努力をすること。
- ・主体的な学習態度を身に付けること。

教科書	中学校学習指導要領解説総則編	著者等		出版社	文部科学省
教科書		著者等		出版社	
参考文献	必要に応じて資料を配付します。	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- レポートや観察に基づいて、以下の点を総合的に評価します。
- ・発表や議論のため、教材研究や準備を十分行っている。
 - ・自らの考えをもって、討論や発表に積極的に参加している。
 - ・自己の課題を明らかにし、実践に取り組んでいる。
 - ・学習意欲等の取り組みの姿勢(出席状況を参考とする)。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	授業概要の説明 研究テーマの決定 グループ分け 教育実習を振り返る	教育実習を振り返り自己の課題を明らかにする。	教育実習で体験した教科指導、生徒指導等の校務についてまとめておくこと。
第2回	生徒指導(いじめ問題)の研修事例提示	教育課題であるいじめ問題の職員研修の進め方について理解する。	日頃から教育関係の文献等で教育問題への意識を高めておくこと。
第3回	企画書提出及びグループでの事前打ち合わせ	各グループのテーマに基づいてスムーズな授業運営ができるよう準備する。	各グループ内での役割分担を明確にし、協働して運営するための工夫をすること。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	校外授業見学①	地域の中学校・高等学校現場において授業見学を行い、自己の課題について理解する。	見学した後に報告書の提出があります。
第5回	校外授業見学②	地域の中学校の校内合唱コンクールを教師としての立場で参観し、考察する。	見学した後に報告書の提出があります。
第6回	校内合唱コンクールの意義	学校行事における音楽科の教員としての役割と指導について論議し、理解する。	校外見学や教育実習を振り返り、問題点を整理しておくこと。
第7回	教科指導のあり方	代表者による模擬授業をとおして、教科の指導力について論議し、理解する。	校外授業見学や代表者による授業を参観して自己の課題を自覚すること。
第8回	校内合唱コンクールの指導	学年合唱で取り上げられる合唱曲に指揮、伴奏をし、指導力を身に付ける。	校外見学を参考にして、日頃から自覚し、よく練習しておくこと。
第9回	生徒を取り巻く状況	生徒指導のあり方など、教育課題について論議し、理解する。	日頃から教育関係の文献等で教育問題への意識を高めておくこと。
第10回	教員に求められる社会性	教員として、社会人として求められる人間性や対人関係能力について論議し、理解する。	日頃から教育関係の文献等で教育問題への意識を高めておくこと。
第11回	教員に求められる資質能力	専門教科外で求められる資質能力や指導力とは何かについて論議し、理解する。	日頃から教育関係の文献等で教育問題への意識を高めておくこと。
第12回	教科指導力	音楽授業の実践例を取り上げ、指導法について論議し、考察する。	日頃から教育関係の文献等で教育問題への意識を高めておくこと。
第13回	音楽の社会的役割	音楽の社会的役割について論議し、外部講師を招き、客観的な視点で考察する。	日頃から教育関係の文献等で教育問題への意識を高めておくこと。
第14回	教職課程総括	外部講師を招き、教職とは何かについて、客観的な視点で考察する。	日頃から教育関係の文献等で教育問題への意識を高めておくこと。
第15回	本科目の総括	教師としての自らの課題を把握し、今後の改善行動に生かす。	日頃から教育関係の文献等で教育問題への意識を高めておくこと。

科目名(クラス)	教育実習指導a・b・c	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	4
担当教員	粕谷 宏美 西田 康子 金井 良次	履修対象・条件	教職課程履修者のみ履修可。必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・「教育実習指導」は教職課程の総仕上げであり、心身ともに全力で打ち込む必要があります。
- ・どんなことでも自分の成長につなげるという主体的、積極的な気持ちで実習に臨むために必要な心構えを習得します。
- ・受け入れていただいた実習校に感謝しつつ、自ら満足できる教育実習にするための具体的な準備を行います。
- ・教育実習で求められる学習指導案の書き方、教材の弾き歌いについては本授業で最終確認をします。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式及び演習形式。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・欠席は認めません。
- ・教育実習は、中学校・高等学校の貴重な時間、そして大切な生徒を預かって行われます。気を引き締めて受講してください。

教科書	教育実習の手引き	著者等		出版社	東邦音楽大学
教科書	中学・高校の学習指導要領解説	著者等	文部科学省	出版社	教育芸術社
参考文献	必要に応じて配付します。	著者等		出版社	
参考文献	教育実習録	著者等		出版社	東邦音楽大学

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・提出された学習指導案
 - ・教育実習論文の内容
 - ・教材弾き歌い
 - ・体験の発表内容
- 以上を総合的に評価します。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	教育実習への心構え	教育実習の目的を理解し、主体的に取り組む姿勢を身に付ける。	教育実習校へのあいさつなどをしておくこと。
第2回	学習指導案提出と個別指導	従業のねらいがはっきりとして、指導と評価の関連性をもたせた指導案を作成できる。	事前に学習指導案を作成しておくこと。
第3回	教育実習の内容と方法	実習期間中に経験する内容を理解する。	事前に考察しておき、自らの考えを発表できるようにする。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	教員の勤務と服務	教育公務員としての教師について、法的側面から理解する。	事前に考察しておき、自らの考えを発表できるようにする。
第5回	教材伴奏・学習指導案	弾き歌いや学習指導案の書き方など、音楽科教員としての資質力量を身に付けている。	事前によく練習しておくこと。
第6回	実習録の記入方法と活用	実習の手引きを参考にして実習力の記入の仕方を身に付ける。	事前によく確認しておくこと。
第7回	【事後指導】 ・教育実習事後論文の提出及び発表①	適切な表現で論文や発表ができる。	実習終了後に自らを振り返り、課題と成果をまとめておく。
第8回	・教育実習事後論文の提出及び発表②	適切な表現で論文や発表ができる。	実習終了後に自らを振り返り、課題と成果をまとめておく。
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

科目名 教育実習

【授業計画の概要】

- ・4年間の教職課程及び教育実習事前指導で学んだ教育の理論を、学校現場で実証的に研究する。
- ・生徒理解を深めるとともに、実践指導を通してその方法を習得し、教師としての資質を高める。
- ・学校現場においてすべての教育活動を観察し、教師として必要な自己研修に資するとともに教師としてのあり方を学ぶ。
- ・学校現場に空ける指導上の問題点を把握し、後期に設定されている教職実践演習での研究・演習に役立てる。

【授業計画の内容】

月	内容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習事前指導において、心構えについてよく理解する。(4月) ・教育実習に向けて、学習指導案の書き方及び教材の弾き歌いの資質力量を高めておく。 ・実習校との事前打ち合わせに出席し、授業や校務分掌との職務について十分に把握する。 ・実習中は社会人としてのマナーはもとより、法令等を遵守して全力で取り組む。 ・教育実習終了後に事後指導を実施する。(7月予定) ・実習校の都合によっては秋に教育実習を行う場合がある。
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
1	
2	
3	

【成績評価の方法】

- ・教育実習ノート
- ・教育実習校からの評価
- ・事前、事後指導への取り組み状況等によって総合的に評価する。

科目名(クラス)	インターンシップ(教職特設コース)Ⅰ・Ⅱ	開講学期	前	単位数	2	配当年次	2・3
担当教員	粕谷 宏美 西田 康子 金井 良次	履修対象・条件	教職特設コースのみ履修可。必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・将来教員を目指す者にとって、早い時期から教育現場の実態を知り、課題を把握することが大切です。
- ・授業は、原則として小・中・高等学校等の教育現場での教職体験研修が中心となります。
- ・インターンシップは音楽や道徳等の授業見学をはじめ、教育活動全般にわたって研修します。
- ・研修後は速やかに報告書を作成・提出し、最終授業では報告プレゼンテーションを行います。
- ・Ⅱ(3年次生)は、インターンシップでの体験や調査結果を教育論作文に反映できるよう、問題意識をもって取り組んでください。

【授業の「方法」と形式】

- ・体験研修。ⅠとⅡは原則として別々にインターンシップを行います。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・インターンシップの受け入れ校については、原則として授業担当者より紹介しますが、母校など個人的に依頼して研修が可能であれば申し出てください。
- ・体験報告や最終プレゼンテーションができるよう目的意識をもって主体的に研修に参加してください。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	必要に応じて資料を配付します。	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・インターンシップへの取り組みの姿勢
 - ・実施校の生徒・教職員との信頼関係の構築
 - ・報告レポートの内容
 - ・最終報告会でのプレゼンテーション力
- 以上を総合的に評価します。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	インターンシップの概要と目的	概要と目的を理解し、研修計画書を作成する。	インターンシップ受け入れ校及び内容について検討しておく
第2回	体験研修	研修体験校との事前打ち合わせに基づいて、真摯な態度で研修体験を行う。	研修後はレポートを作成し、提出する。
第3回	体験研修	研修体験校との事前打ち合わせに基づいて、真摯な態度で研修体験を行う。	研修後はレポートを作成し、提出する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	体験研修	研修体験校との事前打ち合わせに基づいて、真摯な態度で研修体験を行う。	研修後はレポートを作成し、提出する。
第5回	体験研修	研修体験校との事前打ち合わせに基づいて、真摯な態度で研修体験を行う。	研修後はレポートを作成し、提出する。
第6回	体験研修	研修体験校との事前打ち合わせに基づいて、真摯な態度で研修体験を行う。	研修後はレポートを作成し、提出する。
第7回	体験研修	研修体験校との事前打ち合わせに基づいて、真摯な態度で研修体験を行う。	研修後はレポートを作成し、提出する。
第8回	体験研修	研修体験校との事前打ち合わせに基づいて、真摯な態度で研修体験を行う。	研修後はレポートを作成し、提出する。
第9回	体験研修	研修体験校との事前打ち合わせに基づいて、真摯な態度で研修体験を行う。	研修後はレポートを作成し、提出する。
第10回	体験研修	研修体験校との事前打ち合わせに基づいて、真摯な態度で研修体験を行う。	研修後はレポートを作成し、提出する。
第11回	体験研修	研修体験校との事前打ち合わせに基づいて、真摯な態度で研修体験を行う。	研修後はレポートを作成し、提出する。
第12回	体験研修	研修体験校との事前打ち合わせに基づいて、真摯な態度で研修体験を行う。	研修後はレポートを作成し、提出する。
第13回	体験研修	研修体験校との事前打ち合わせに基づいて、真摯な態度で研修体験を行う。	研修後はレポートを作成し、提出する。
第14回	体験研修	研修体験校との事前打ち合わせに基づいて、真摯な態度で研修体験を行う。	研修後はレポートを作成し、提出する。
第15回	中間報告会	教員研修会の講師をイメージして、分かりやすい説明ができる。	内容のあるプレゼンテーションができるよう準備する。

科目名(クラス)	インターンシップ(教職特設コース)Ⅰ・Ⅱ	開講学期	後	単位数	2	配当年次	2・3
担当教員	粕谷 宏美 西田 康子 金井 良次	履修対象・条件	教職特設コースのみ履修可。必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・将来教員を目指す者にとって、早い時期から教育現場の実態を知り、課題を把握することが大切です。
- ・授業は、基本的に小・中・高等学校等の教育現場での教職体験研修が中心となります。
- ・インターンシップは音楽や道徳等の授業見学をはじめ、教育活動全般にわたって研修します。
- ・研修後は報告書を作成・提出し、最終授業では報告プレゼンテーションを行います。
- ・インターンシップの内容を教育論文に反映できるよう教育課題に精通し、問題意識をもって研修を行います。

【授業の「方法」と形式】

- ・体験研修。教育課題論文作成。

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・インターンシップの受け入れ校については、原則として授業担当者より紹介しますが、母校など個人的に依頼して研修が可能であれば申し出てください。
- ・教育論文の作成や最終プレゼンテーションができるよう目的意識をもって主体的に研修してください。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	必要に応じて資料を配付します。	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・インターンシップへの取り組みの姿勢
 - ・実施校の生徒・教職員との信頼関係の構築
 - ・教育論文の内容(Ⅱ)
 - ・最終プレゼンテーションの内容と説明力
- 以上を総合的に評価します。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	体験研修	研修体験校との事前打ち合わせに基づいて、真摯な態度で研修体験を行う。	研修後はレポートを作成し、提出する。
第2回	体験研修	研修体験校との事前打ち合わせに基づいて、真摯な態度で研修体験を行う。	研修後はレポートを作成し、提出する。
第3回	体験研修	研修体験校との事前打ち合わせに基づいて、真摯な態度で研修体験を行う。	研修後はレポートを作成し、提出する。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	体験研修	研修体験校との事前打ち合わせに基づいて、真摯な態度で研修体験を行う。	研修後はレポートを作成し、提出する。
第5回	体験研修	研修体験校との事前打ち合わせに基づいて、真摯な態度で研修体験を行う。	研修後はレポートを作成し、提出する。
第6回	体験研修	研修体験校との事前打ち合わせに基づいて、真摯な態度で研修体験を行う。	研修後はレポートを作成し、提出する。
第7回	体験研修	研修体験校との事前打ち合わせに基づいて、真摯な態度で研修体験を行う。	研修後はレポートを作成し、提出する。
第8回	体験研修	研修体験校との事前打ち合わせに基づいて、真摯な態度で研修体験を行う。	研修後はレポートを作成し、提出する。
第9回	体験研修	研修体験校との事前打ち合わせに基づいて、真摯な態度で研修体験を行う。	研修後はレポートを作成し、提出する。
第10回	体験研修	研修体験校との事前打ち合わせに基づいて、真摯な態度で研修体験を行う。	研修後はレポートを作成し、提出する。
第11回	体験研修(Ⅰ) 教育論作文作成(Ⅱ)	・研修体験校との事前打ち合わせに基づいて、真摯な態度で研修体験を行う。(Ⅰ) ・論作文作成作業(Ⅱ)	研修後はレポートを作成し、提出する。(Ⅰ) 教育総合科目とリンクして行う(Ⅱ)
第12回	体験研修(Ⅰ) 教育論作文作成(Ⅱ)	・研修体験校との事前打ち合わせに基づいて、真摯な態度で研修体験を行う。(Ⅰ) ・論作文作成作業(Ⅱ)	研修後はレポートを作成し、提出する。(Ⅰ) 教育総合科目とリンクして行う(Ⅱ)
第13回	体験研修(Ⅰ) 教育論作文作成(Ⅱ)	・研修体験校との事前打ち合わせに基づいて、真摯な態度で研修体験を行う。(Ⅰ) ・論作文作成作業(Ⅱ)	研修後はレポートを作成し、提出する。(Ⅰ) 教育総合科目とリンクして行う(Ⅱ)
第14回	最終プレゼンテーションへの準備(Ⅰ・Ⅱ)	事前のリハーサルを実施し、確実に行えるよう準備する。	パソコン等の機器に慣れておく。
第15回	まとめ 報告プレゼンテーション(公開)	教員研修会の講師をイメージして、分かりやすい説明ができる。	3年生は、卒業作品を発表するつもりで、十分な準備をしておくこと。

科目名(クラス)	楽器の特性と機能(教職特設コース)	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	岩間 丈正	履修対象・条件	教職特設コースのみ履修可				

【授業の「概要」と「目的」】

自らが専門的に関わってきた楽器だけではなく、全ての楽器についての知識を持っている事は音楽教員を目指す者にとって極めて重要である。
本授業は、各楽器の様々な「歴史」「変遷」「機能」、その楽器の特徴・特性を發揮する楽曲などの知識を習得する事を目標とする。将来音楽教員として必要な、オーケストラや吹奏楽指導指導法、移調楽器を含む楽器の知識、スコアの読み方等を身につける。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式。毎週専門の講師による、演奏を交えた楽器解説。各回の授業ではDVD・CD等視聴覚教材を使用する事がある。

【履修時の「留意点」と「心得」】

テキストは使用しないが授業時に配布された資料は大切に保管しておく事。言葉や紙面上の説明だけでなく、実際の楽器による生(なま)の音を聴くので、MP3等に録音する事が望ましい。各楽器の解説は専門の講師に依頼するため、必ずしもこのシラバスの順序で授業が進むとは限らない。また、楽器によっては1時限に2つの楽器を解説する事がある。

教科書	教員側で準備する	著者等		出版社	
教科書	教員側で準備する	著者等		出版社	
参考文献	教員側で準備する	著者等		出版社	
参考文献	教員側で準備する	著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

期末に、授業で取り上げた全ての楽器について、授業内容を反映させたレポートを提出。【レポート100%】
レポート提出方法についてはオリエンテーション時及び最後の授業時に説明する。掲示も参照する事。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容 (105文字以内)	到達目標 (70文字以内)	準備学習(予習・復習)(70文字以内)
第1回	木管楽器概説	実際の演奏、板書等、必ずメモを取りレポートに反映する。	授業が終了したら、必ずノートの整理をする事。
第2回	木管楽器概説 ・リコーダーの基礎知識 ・フルートの基礎知識 ・オーボエの基礎知識	実際の演奏、板書等、必ずメモを取りレポートに反映する。	授業が終了したら、必ずノートの整理をする事。
第3回	・クラリネットの基礎知識 ・ファゴットの基礎知識 ・サクソフォンの基礎知識		

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容（105文字以内）	到達目標（70文字以内）	準備学習(予習・復習)(70文字以内)
第4回	打楽器概説 ・打楽器の基礎知識 ・鍵盤打楽器の基礎知識 ・小物の基礎知識	実際の演奏、板書等、必ずメモを取りレポートに反映する。	授業が終了したら、必ずノートの整理をする事。
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回	ピアノ概説	実際の演奏、板書等、必ずメモを取りレポートに反映する。	授業が終了したら、必ずノートの整理をする事。
第10回	チェンバロ概説	実際の演奏、板書等、必ずメモを取りレポートに反映する。	授業が終了したら、必ずノートの整理をする事。
第11回	金管楽器概説 ・トランペットの基礎知識 ・ホルンの基礎知識 ・トロンボーンの基礎知識 ・ユーフォニアムの基礎知識 ・チューバの基礎知識	実際の演奏、板書等、必ずメモを取りレポートに反映する。	授業が終了したら、必ずノートの整理をする事。
第12回			
第13回	弦楽器概説 ・ヴァイオリンの基礎知識 ・ヴィオラの基礎知識 ・チェロの基礎知識 ・コントラバスの基礎知識	実際の演奏、板書等、必ずメモを取りレポートに反映する。	授業が終了したら、必ずノートの整理をする事。
第14回			
第15回	まとめ。レポート提出についての諸注意。	授業で取り扱った全ての楽器について理解を深める。	期日までにレポートを提出する。

科目名(クラス)	教職特講(教職特設コース) I・II・III	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1～3
担当教員	粕谷 宏美 西田 康子 五十嵐	履修対象・条件	教職特設コースのみ履修可。必修。				

【授業の「概要」と「目的」】

- ・教員を目指す者として教育課題を理解し、教員に求められる資質能力を高めることは極めて重要です。
- ・授業ではI・II・IIIを通して教員に求められる資質能力を高め、教育論作文や面接に反映できるように指導します。
- ・教職教養や教育法規を含めて各自治体の教員採用試験に多く出題される問題を演習します。
- ・授業計画の内容、実施回数は大まかな予定であり、学年や受験自治体等によって内容が変わることがあります。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式及び演習形式。(レタリングやプレゼンテーション、グループ討議を積極的に取り入れます。)

【履修時の「留意点」と「心得」】

- ・教育課題に精通するため、日頃から教育雑誌や過去問題、新聞やインターネット等で情報を把握してください。
- ・演習では個人指導や学年別指導、グループ討議、面接練習等を多く行います。
- ・日頃から教育問題に関して、自分の意見や考えを論理的に説明できるよう資質を高めてください。

教科書	中学校学習指導要領解説総則編	著者等		出版社	文部科学省
教科書		著者等		出版社	
参考文献	必要に応じて配付、紹介します。	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【成績評価の「方法」と「基準」】

- ・教育課題の把握状況
- ・教育法規、教職教養の理解
- ・教育論作文作成
- ・面接対応

以上、学年に応じて筆記試験問題が異なる場合があります。また、論文提出や面接口頭試験を行います。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第1回	求められる教師像	各自治体が求める教員像を把握、理解すること。	教育雑誌や過去問題、新聞、インターネット等で常に教育情報を取得すること。
第2回	教員の資質能力	いつの時代にも求められる資質力量、これからの時代に求められる資質能力を理解すること。	教育雑誌や過去問題、新聞、インターネット等で常に教育情報を取得すること。
第3回	教職教養①	教員採用試験で出題される教職教養について理解する。	教育雑誌や過去問題、新聞、インターネット等で常に教育情報を取得すること。

【授業計画・内容・到達目標・準備学習】

回数	授業内容	到達目標	準備学習(予習・復習)
第4回	教職教養②	教員採用試験で出題される教職教養について理解する。	教育雑誌や過去問題、新聞、インターネット等で常に教育情報を取得すること。
第5回	教職教養③	教員採用試験で出題される教育法規について理解する。	教育雑誌や過去問題、新聞、インターネット等で常に教育情報を取得すること。
第6回	教職教養④	教員採用試験で出題される教育法規について理解する。	教育雑誌や過去問題、新聞、インターネット等で常に教育情報を取得すること。
第7回	論作文の書き方	論作文作成の基礎・基本を身に付ける。	教育雑誌や過去問題、新聞、インターネット等で常に教育情報を取得すること。
第8回	志願書の書き方	志願書の書き方のポイントを理解し、文章表現できること。	教育雑誌や過去問題、新聞、インターネット等で常に教育情報を取得すること。
第9回	教育論文作成①	序論・本論・結論の流れで論理的に文章表現する能力を身に付ける。	教育雑誌や過去問題、新聞、インターネット等で常に教育情報を取得すること。
第10回	教育論文作成②	序論・本論・結論の流れで論理的に文章表現する能力を身に付ける。	教育雑誌や過去問題、新聞、インターネット等で常に教育情報を取得すること。
第11回	面接対応の基本	教員採用試験で求められる面接対応のあり方を身に付ける。	教育雑誌や過去問題、新聞、インターネット等で常に教育情報を取得すること。
第12回	個人面接	教員採用試験で求められる面接対応のあり方を身に付ける。	教育雑誌や過去問題、新聞、インターネット等で常に教育情報を取得すること。
第13回	集団面接	教員採用試験で求められる面接対応のあり方を身に付ける。	日頃から教育課題への意識を高めておくこと。
第14回	グループ討議	教員採用試験で出題される場面指導等への対応力を身に付ける。	日頃から教育課題への意識を高めておくこと。
第15回	最終試験	面接、教育論作文	日頃から教育課題への意識を高めておくこと。